

千歳市

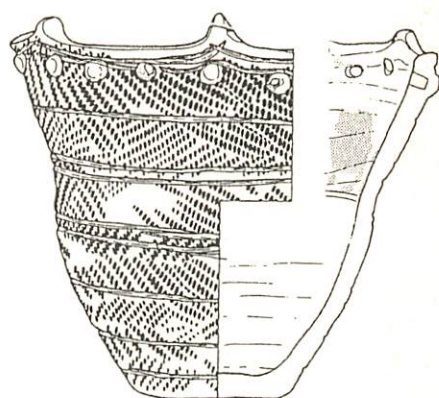
キウス4遺跡（7）

Q地区

—北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1分冊

本文編



平成12年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

キウス4遺跡（7）

Q 地区

—北海道横断自動車道（千歳～夕張）埋蔵文化財発掘調査報告書—

第 1 分冊

本文編

平成 12 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 遺跡全景空中写真(W→E)



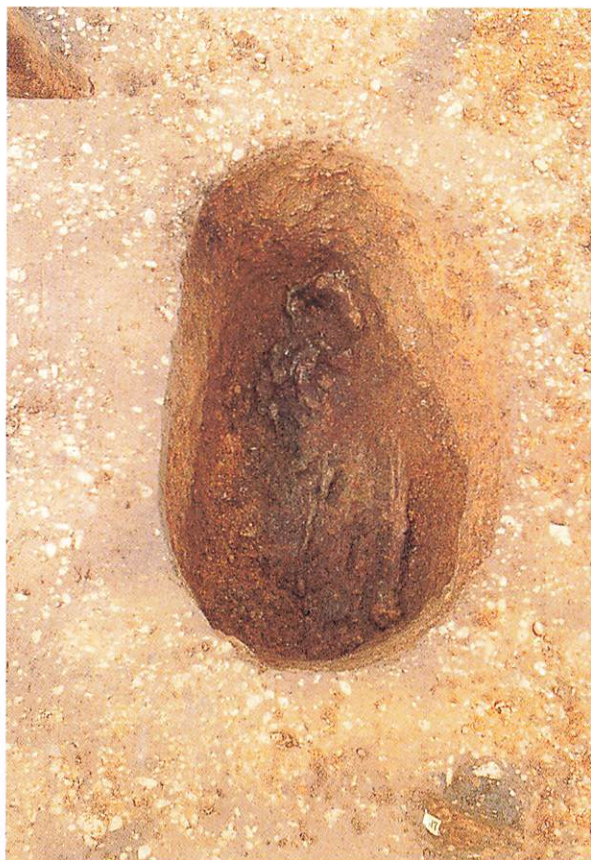
1 遺跡完掘空中写真



1 調査状況 (NE→SW)



2 調査状況 (SW→NE)



1 P-32遺体出土状況 (SE→NW)



2 P-32遺体出土状況アップ (SE→NW)



3 P-61検出 (SE→NW)



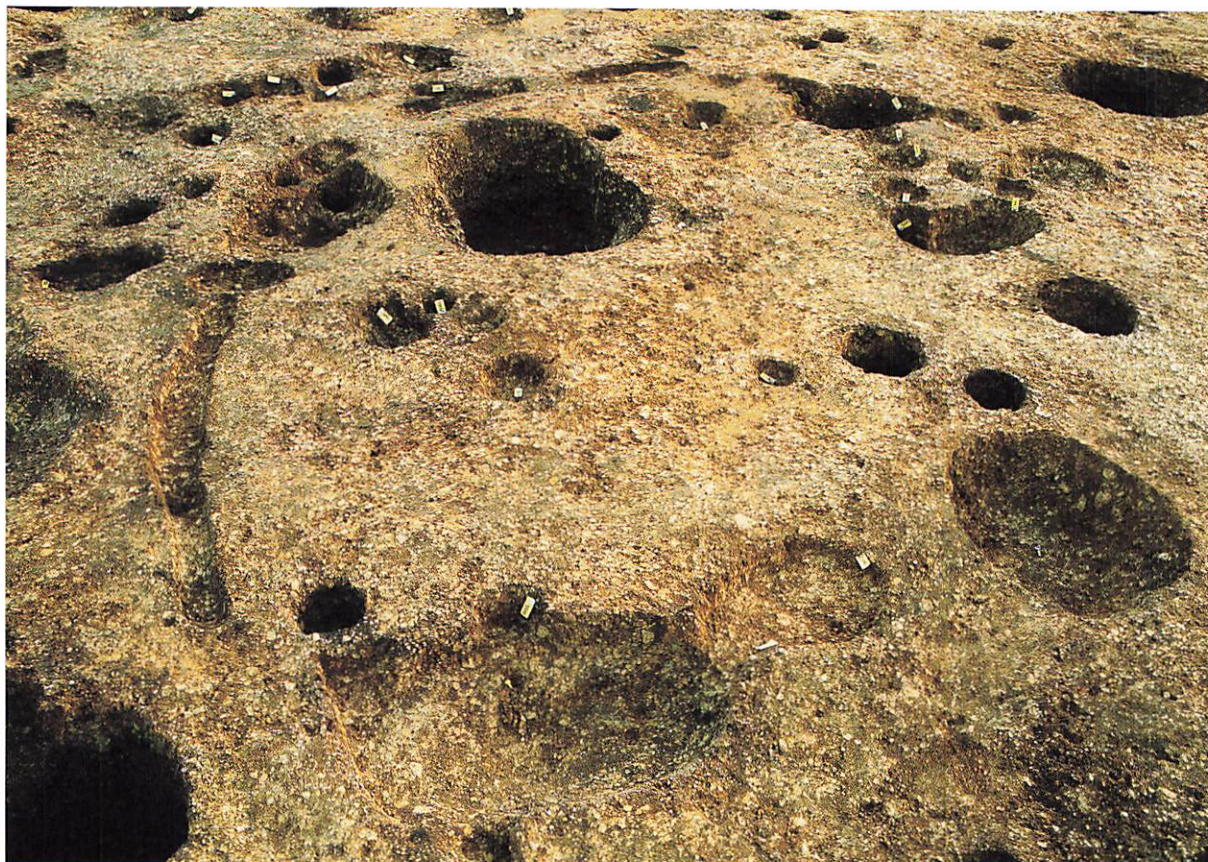
4 P-158墳底アップ (N→S)



1 5H-1検出 (E→W)



2 建物27柱穴配列状況 (NE→SW)



1 H-33完掘 (N→S)



2 S P-4136 ドングリ出土状況 (NW→SE)



3 S P-4133出土のドングリ



1 盛土遺構出土の土器



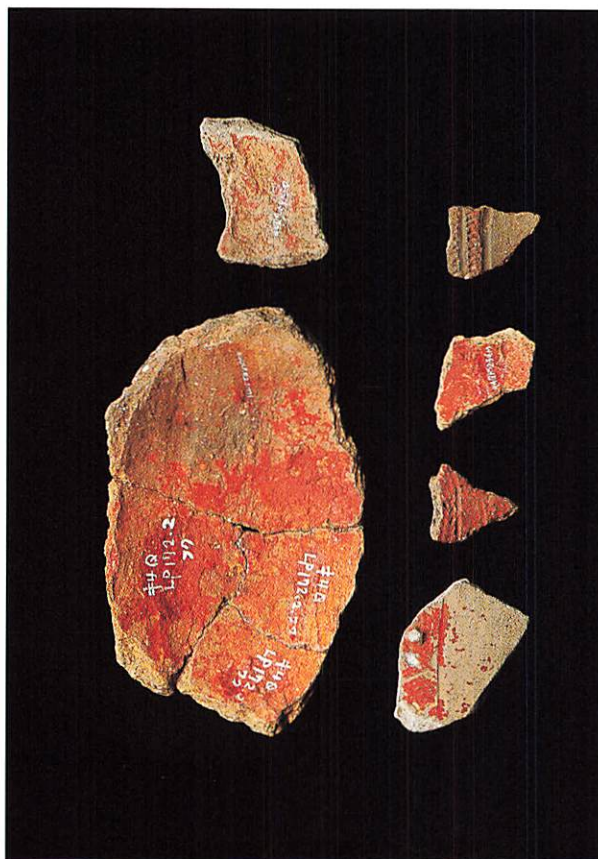
2 南側低湿部出土の土器



1 P-86出土の土器



2 動物形土製品 (上: キウス4遺跡K地区出土)



3 S P-1056内面赤彩土器 (図V-219-2)



4 赤彩土器片

例 言

1. 本書は北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成10年度に実施した千歳市キウス4遺跡Q地区の調査報告書である。キウス4遺跡の調査報告書としては、7冊目に当たる。
2. 本書の編集は、熊谷仁志が主となって行なった。執筆は第Ⅶ章を除いて、熊谷仁志、谷島由貴、笠原興、柳瀬由佳、石井淳平が担当し、各項目の文末に括弧で文責を示してある。
3. 遺構については、現地調査においては調査員各自が実測し、二次整理においても各自が素図作成・事実記載を行ない、谷島由貴、柳瀬由佳がこれを総括した。
4. 遺物については一次整理を鎌田望が行い、二次整理において土器を柳瀬由佳、石器を笠原興が担当した。
5. 調査写真について調査員各自で撮影し、二次整理の撮影は、笠原興と第2調査部第1調査課菊池慈人が担当した。
6. 各種同定、分析などは下記に依頼した。
放射性炭素年代測定：株式会社 地球科学研究所
植物遺体の同定：札幌国際大学 吉崎昌一、北海道大学埋蔵文化財調査室 椿坂恭代
黒曜石の産地同定・黒曜石水和層による年代測定：京都大学原子炉実験所 藁科哲夫
動物遺存体の同定：千歳サケのふるさと館 高橋 理氏
残存脂肪酸分析：㈱スゴーシャ
7. 遺物・記録類は整理及び報告書作成後、北海道教育委員会が保管する。
8. 調査に当たっては下記の諸機関、各氏から御指導、御協力をいただいた。
北海道大学：林 謙作・椿坂恭代、東京大学：熊木俊郎、札幌国際大学：吉崎昌一
国立歴史民族博物館：西本豊弘・辻誠一郎、東京都立大学：山田昌久、道都大学：山田正章
北海道開拓の村：野村 崇、北海道開拓記念館：平川善祥・山田悟郎・右代啓視
千歳市埋蔵文化財調査センター：大谷敏三・田村俊行・豊田宏良・松田淳子・遠藤昭浩
千歳サケのふるさと館：高橋 理
恵庭市教育委員会：上屋真一・松谷純一・森 秀之・佐藤幾子
苫小牧市埋蔵文化財調査センター：佐藤一夫・宮夫靖夫・工藤 肇・兵藤千秋・赤石慎三
苫小牧市：渡辺俊一・二階堂啓也・大泉博嗣・鈴木耕栄
札幌市教育委員会：加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・秋山洋司
石狩市教育委員会：石橋孝夫・工藤義衛、北広島市教育委員会：遠藤龍畝
江別市教育委員会：高橋正勝・直井孝一・野中一宏・稲垣和幸
函館市教育委員会：佐藤智雄、富良野市教育委員会：杉浦重信・沢田 健
釧路市埋蔵文化財調査センター：石川 朗、伊達市教育委員会：大島直行
平取町教育委員会：森岡健治、常呂町教育委員会：武田 修
青森県立郷土館：三宅徹也・鈴木克彦・大湯卓二、八戸市立博物館：村木 淳・小笠原善範
青森県埋蔵文化財調査センター：福田友之・小田川哲彦

凡 例

1 遺構

1) 遺構図の付図・挿図の縮尺は、原則的に以下の通りであり。

遺構の全体図（付図）：1/150 遺構割図（付図）：1/50

遺構実測図：1/40 遺物出土状況：1/20

なお、建物には大形のものがあり一部1/50で図示しているものもある。

2) 遺構の表現

上場：実線の太線 中場：実線の中線 下場：実線の細線

なお、オーバーハングはそれぞれの2点鎖線、推定線はそれぞれの破線で示している。また、切り合い関係が不明の場合についても破線で示している。

3) 遺構図中の方位は真北を、レベルの標高（単位m）を示す。

4) 遺構の計測値と計測方法

： 竪穴式住居跡・墓壇・フラスコ状ピット・用途不明の土坑・柱穴・ロームピット

長軸上場/長軸下場×短軸上場/短軸下場×深さ

： 柱穴状ピット 長軸上場×短軸上場×深さ

： 焼土 長軸×短軸×層厚

： 建物については、規模・外周の計測値を示している。

規模：東西・南北の柱穴間の規模。4ヵ所の支柱穴の外形を結び、東側の支柱穴間距離を二等分、東西に直行する線と西側支柱穴間の外形までの計測値（ほぼ東西の計測値）、そして、この線を二等分し、南北に直行する線の外形までの計測値（ほぼ南北の計測値）を示している。

ほぼ東西の計測値×ほぼ南北の計測値

外周：東西・南北の壁柱穴間の規模。周囲に壁柱穴が巡るもののみ計測している。なお、張り出す出入口部分をもつ場合は、外周の想定線部分の出入口部分の距離を二等分し、直行する線を引き、直交部分から外周の想定線までの計測値（ほぼ東西の計測値）と、この東西の軸に直交する南北の外周の推定線まで距離（ほぼ南北の計測値）を示している。出入口が認められないものは規模の計測軸を延長し、その長さをおのおの計測値とした。

なお、建物一覧には支柱穴について東側下の支柱穴をAとし、反時計回りにB・C・Dと仮称し、各々の柱穴間距離を示している。

ほぼ東西の計測値×ほぼ南北の計測値

2 遺物

： 遺物の縮尺 復原土器、拓影：1/3 剥片石器、石斧、土・石製品：1/2

礫石器（石斧を除く）：1/3

： 遺物の記号 土器：○（出土状況等はP） 石器及び礫：□（出土状況等はS）

骨片：△ 炭化物：◇

焼土・ベンガラ・炭化物等が平面的に分布する場合、スクリーントーンでその範囲を示している。

3 火山灰名については以下の略称を用いた。

樽前 a 降下軽石層：Ta-a 樽前 c 降下軽石層：Ta-c

白頭山-苦小牧火山灰層：B-Tm 恵庭 a 風化ローム層：En-aL

恵庭 a 降下軽石層：En-aP

総目次

第1分冊 本文編

口 絵

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1-1 遺跡全景空中写真 (W→E) | 6-1 H-33完掘 (N→S) |
| 2-1 遺跡完掘空中写真 | 6-2 SP-4136ドングリ出土状況(NW→SW) |
| 3-1 調査状況 (NE→SW) | 6-3 SP-4133出土のドングリ |
| 3-2 調査状況 (SW→NE) | 7-1 盛土遺構出土の土器 |
| 4-1 P-32遺体出土状況 (SE→NW) | 7-2 南側低湿部出土の土器 |
| 4-2 P-32遺体出土状況アップ (SE→NW) | 8-1 P-86出土の土器 |
| 4-3 P-61検出 (SE→NW) | 8-2 動物形土製品 |
| 4-4 P-158墳底アップ (N→S) | 8-3 SP-1056内面赤彩土器 (図V-219-2) |
| 5-1 5H-1検出 (E→W) | 8-4 赤彩土器片 |
| 5-2 建物27柱穴配列状況 (NE→SW) | |

例言

凡例

総目次

第1分冊 挿図目次

第2分冊 挿図目次

第2分冊 表目次

第3分冊 図版目次

第I章 調査の概要

- | | |
|----------------|----|
| 1 調査要項 | 1 |
| 2 調査体制 | 1 |
| 3 調査の経緯 | 1 |
| 4 調査の方法 | 4 |
| (1) 調査区の設定 | 4 |
| (2) 基本土層 | 5 |
| (3) 発掘調査の方法 | 7 |
| (4) 整理の方法 | 7 |
| 5 遺構・遺物の分類 | 8 |
| (1) 遺構の分類 | 8 |
| (2) 遺物の分類 | 9 |
| 土器 | 9 |
| 石器 | 10 |
| 6 調査の概要 | 13 |
| (1) これまでの調査の概要 | 13 |
| (2) Q地区の調査の概要 | 15 |

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

遺跡周辺の環境と周辺の遺跡	19
---------------------	----

第Ⅲ章 遺構の調査

概要	21
1 竪穴式住居跡	24
2 建物	28
3 墓塚	130
4 フラスコ状ピット	136
5 土坑	142
(1) 用途不明の土坑	143
(2) 柱穴	152
(3) ロームピット	175
6 焼土	179
7 杭列	189
8 溝状遺構	189
9 柱穴状ピット	190

第Ⅳ章 盛土遺構・整地層および包含層の調査と出土遺物

概要	207
1 盛土遺構部分の調査と出土遺物	208
(1) 盛土遺構部分の調査	210
(2) IV層出土の遺物	212
1) 土器	212
(3) V層出土の遺物	212
1) 土器	212
2) 石器	212
(4) 盛土層出土の遺物	213
1) 土器	213
2) 石器	214
(5) V b層出土の遺物	214
1) 土器	214
2) 石器	215
2 遺物集中L I - 1の調査と出土遺物	215
(1) 遺物集中L I - 1の調査	215
(2) 遺物集中L I - 1の出土遺物	215
1) 土器	215
2) 石器	216
3) 石製品	216
3 南側低湿部の調査と出土遺物	216
(1) 南側低湿部の調査	216
(2) 南側低湿部の出土遺物	217

1) 土器	217
2) 石器	219
4 整地層等および包含層の調査と出土遺物	220
(1) 包含層調査	220
(2) 包含層の出土遺物	220
1) 石斧素材集中	220
2) 土器	220
3) 石器	224
4) 土製品など	225
5) 石製品	226
遺構一覧	
遺物一覧	

第2分冊 挿図・自然科学的分析・まとめ編

目次

記号等の説明

挿図目次

表目次

第V章 遺構と遺構出土の遺物

1 竪穴式住居跡	1
2 建物	7
3 墓壇	193
4 フラスコ状ピット	197
5 土坑	209
(1) 用途不明の土坑	209
(2) 柱穴	209
(3) ロームピット	209
6 焼土	237
7 杭列	245
8 溝状遺構	246
9 柱穴状ピット	247

第VI章 盛土遺構・整地層および包含層出土の遺物

1 盛土遺構部分の調査と出土遺物	263
2 遺物集中L I-1の調査と出土遺物	295
3 南側低湿部の調査と出土遺物	298
(1) 土器	298
(2) 石器	303
4 整地層等および包含層の出土遺物	304
(1) 土器	304

(2) 石器	313
第七章 自然科学的分析	
1 キウス4遺跡Q地区出土の黒曜石製石器の原材産地分析	319
2 キウス4遺跡Q地区から出土の土壌に残存する脂肪の分析	333
3 キウス4遺跡Q地区放射性炭素年代測定結果報告書	343
4 キウス4遺跡Q地区から出土した縄文時代の植物種子	347
5 千歳市キウス4遺跡Q地区出土動物遺存体	353
第八章 まとめ	
1 遺構	359
2 遺物	374
(1) 土器	374
(2) 石器	378
3 柱穴から出土した「ドングリ」	379
引用参考文献	381
報告書抄録	385

第3分冊 図版編

図版目次

図版	1
----------	---

第 1 分 冊 挿 図 目 次

図 I - 1 遺跡の位置	2	図 III - 3 竪穴式住居跡配置	24
図 I - 2 調査区の設定と各調査地区の位置	3	図 III - 4 建物配置	28
図 I - 3 基本層序	5	図 III - 5 墓壙配置	130
図 I - 4 南北土層断面	6	図 III - 6 フラスコ状ピット配置	136
図 I - 5 キウス 4 遺跡の主な遺構	14	図 III - 7 用途不明の土坑配置	142
図 I - 6 遺構配置	16	図 III - 8 柱穴 (Pのみ) 配置	154
図 I - 7 最終面地形	17	図 III - 9 ロームピット配置	176
図 II - 1 周辺の遺跡と地形	20	図 III - 10 焼土配置	180
図 III - 1 遺構と地形	22	図 IV - 1 盛土遺構・整地の範囲	208
図 III - 2 建物と盛土・整地	23	図 IV - 2 盛土遺構の土層	209
		図 IV - 3 南側低湿部の土層	211

第 2 分 冊 挿 図 目 次

図 V - 1 竪穴式住居跡配置	1	図 V - 34 建物15 (2)	41
図 V - 2 H-23 (1)	2	図 V - 35 建物16 (1)	42
図 V - 3 H-23 (2)	3	図 V - 36 建物16 (2)	43
図 V - 4 H-25 (1)	4	図 V - 37 建物17 (1)	45
図 V - 5 H-25 (2)	5	図 V - 38 建物17 (2)	47
図 V - 6 H-33	6	図 V - 39 建物17 (3)	48
図 V - 7 建物配置	7	図 V - 40 建物18 (1)	49
図 V - 8 建物配置 (重複部分)	8	図 V - 41 建物18 (2)	51
図 V - 9 建物 1 (1)	9	図 V - 42 建物19 (1)	52
図 V - 10 建物 1 (2)	11	図 V - 43 建物19 (2)	53
図 V - 11 建物 2 (1)	12	図 V - 44 建物20	55
図 V - 12 建物 2 (2)	13	図 V - 45 建物21	57
図 V - 13 建物 3 (1)	15	図 V - 46 建物22・建物21の遺物	59
図 V - 14 建物 3 (2)	16	図 V - 47 建物23 (1)	61
図 V - 15 建物 4	17	図 V - 48 建物23 (2)	63
図 V - 16 建物 5 (1)	18	図 V - 49 建物24 (1)	64
図 V - 17 建物 5 (2)	19	図 V - 50 建物42 (2)	65
図 V - 18 建物 6	20	図 V - 51 建物25	67
図 V - 19 建物 7	21	図 V - 52 建物26	68
図 V - 20 建物 8	22	図 V - 53 建物27 (1)	69
図 V - 21 建物 9	23	図 V - 54 建物27 (2)	70
図 V - 22 建物10 (1)	24	図 V - 55 建物28 (1)	71
図 V - 23 建物10 (2)	25	図 V - 56 建物28 (2)	72
図 V - 24 建物10 (3)	27	図 V - 57 建物29 (1)	73
図 V - 25 建物10 (4)	28	図 V - 58 建物29 (2)	74
図 V - 26 建物11	29	図 V - 59 建物30 (1)	75
図 V - 27 建物12 (1)	31	図 V - 60 建物30 (2)	76
図 V - 28 建物12 (2)	33	図 V - 61 建物31	77
図 V - 29 建物13	34	図 V - 62 建物32	78
図 V - 30 建物14 (1)	35	図 V - 63 建物33 (1)	79
図 V - 31 建物14 (2)	37	図 V - 64 建物33 (2)	81
図 V - 32 建物14 (3)	38	図 V - 65 建物34	82
図 V - 33 建物15 (1)	39	図 V - 66 建物35	83

図V-67	建物36	84	図V-117	建物79 (1)	151
図V-68	建物37	85	図V-118	建物79 (2)	153
図V-69	建物38	86	図V-119	建物80 (1)	154
図V-70	建物39	87	図V-120	建物80 (2)	155
図V-71	建物40	89	図V-121	建物81	157
図V-72	建物41 (1)	91	図V-122	建物82	159
図V-73	建物41 (2)	93	図V-123	建物83	161
図V-74	建物42	94	図V-124	建物84 (1)	163
図V-75	建物43	95	図V-125	建物84 (2)	165
図V-76	建物44	97	図V-126	建物85	166
図V-77	建物45	99	図V-127	建物86 (1)	167
図V-78	建物46	101	図V-128	建物86 (2)	168
図V-79	建物47	102	図V-129	建物87	169
図V-80	建物48	103	図V-130	建物88	170
図V-81	建物49	104	図V-131	建物89	171
図V-82	建物50	105	図V-132	建物90	172
図V-83	建物51 (1)	107	図V-133	建物91 (1)	173
図V-84	建物51 (2)	109	図V-134	建物91 (2)	174
図V-85	建物51 (3)	110	図V-135	建物92	175
図V-86	建物52	111	図V-136	建物93 (1)	176
図V-87	建物53	113	図V-137	建物93 (2)	177
図V-88	建物54 (1)	115	図V-138	建物94	178
図V-89	建物54 (2)	117	図V-139	建物95	179
図V-90	建物55	118	図V-140	建物96 (1)	180
図V-91	建物56・建物57	119	図V-141	建物96 (2)	181
図V-92	建物58	120	図V-142	建物97	182
図V-93	建物59	121	図V-143	建物98	183
図V-94	建物60	122	図V-144	建物99	184
図V-95	建物61	123	図V-145	建物100 (1)	185
図V-96	建物62	125	図V-146	建物100 (2)	186
図V-97	建物63 (1)	127	図V-147	建物101	187
図V-98	建物63 (2)	129	図V-148	建物102	188
図V-99	建物62の遺物・建物64の遺物	130	図V-149	建物103	189
図V-100	建物64	131	図V-150	建物104・建物105	190
図V-101	建物65	133	図V-151	建物106・建物107	191
図V-102	建物66	135	図V-152	建物108・建物109・建物110	192
図V-103	建物67 (1)	137	図V-153	墓壇配置	193
図V-104	建物67 (2)	138	図V-154	P-5・P-32・P-159	194
図V-105	建物68 (1)	139	図V-155	P-111・P-158	195
図V-106	建物86 (2)	140	図V-156	P-190・P-61・P-199	196
図V-107	建物68 (3)	141	図V-157	フラスコ状ピット配置	197
図V-108	建物69	142	図V-158	P-1 (1)	198
図V-109	建物70	143	図V-159	P-1 (2)	199
図V-110	建物71	144	図V-160	P-1 (3)	200
図V-111	建物72	145	図V-161	P-1 (4)	201
図V-112	建物73	146	図V-162	P-1 (5)	202
図V-113	建物74	147	図V-163	P-1・P-49遺物出土分布	203
図V-114	建物75	148	図V-164	P-11	204
図V-115	建物76・建物77	149	図V-165	P-49 (1)	205
図V-116	建物78	150	図V-166	P-49 (2)	206

図V-167	P-49 (3)	207	図V-203	F-62・F-63・F-64・F-65・ F-69・F-70・F-71・F-72	243
図V-168	P-49 (4)	208	図V-204	F-74・F-75・F-76・F-77・ F-78・F-81・F-82・F-83・ F-85	244
図V-169	用途不明の土坑配置	209	図V-205	杭列	245
図V-170	P-85 (1)	210	図V-206	溝状遺構	246
図V-171	P-85 (2)	211	図V-207	柱穴状ピット (1)	247
図V-172	P-19・P-84	212	図V-208	柱穴状ピット (2)	248
図V-173	P-10・P-188・P-278	213	図V-209	柱穴状ピット (3)	249
図V-174	P-12・P-16・P-17・P-23	214	図V-210	柱穴状ピット (4)	250
図V-175	P-2・P-3・P-4・P-6・ P-9	215	図V-211	柱穴状ピット (5)	251
図V-176	P-18・P-20・P-29・P-50・ P-86・P-88	216	図V-212	柱穴状ピット (6)	252
図V-177	P-89・P-147・P-148	217	図V-213	柱穴状ピット (7)	253
図V-178	柱穴 (Pのみ) 配置	218	図V-214	柱穴状ピット (8)	254
図V-179	P-185・P-276・P-13・P-14	219	図V-215	柱穴状ピット (9)	255
図V-180	P-15・P-24・P-30・P-33・ P-38	220	図V-216	柱穴状ピット (10)	256
図V-181	P-40・P-47・P-52・P-56	221	図V-217	柱穴状ピット (11)	257
図V-182	P-57・P-60・P-68・P-77	222	図V-218	柱穴状ピット (12)	258
図V-183	P-94・P-95・P-96・P-99	223	図V-219	柱穴状ピット (13)	259
図V-184	P-106・P-119・P-120・P-126	224	図V-220	柱穴状ピット (14)	260
図V-185	P-133・P-141・P-144・P-145・ P-152	225	図V-221	柱穴状ピット (15)	261
図V-186	P-155・P-157・P-160・P-161・ P-167	226	図VI-1	包含層出土土器・石器の分布	263
図V-187	P-182	227	図VI-2	包含層出土土器の分布	264
図V-188	P-183・P-184・P-191・P-192・ P-193・P-197	228	図VI-3	包含層出土復原土器の出土位置	265
図V-189	P-198・P-202・P-211・P-213	229	図VI-4	盛土遺構部分出土土器の分布(1)	266
図V-190	P-212・P-218・P-219	230	図VI-5	盛土遺構部分出土土器の分布(2)	267
図V-191	P-220・P-222・P-223・P-244	231	図VI-6	盛土遺構部分出土土器の分布(3)	268
図V-192	P-248・P-249・P-250・P-261・ P-269	232	図VI-7	盛土遺構部分出土土器の分布(4)	269
図V-193	P-271・P-275・P-279・P-280	233	図VI-8	盛土遺構部分出土石器の分布(1)	270
図V-194	ロームピット配置	234	図VI-9	盛土遺構部分出土石器の分布(2)	271
図V-195	P-270・P-284・P-285・P-286・ P-287	235	図VI-10	盛土遺構部分出土石器の分布(3)	272
図V-196	P-288・P-289・P-290・P-291	236	図VI-11	盛土遺構部分出土石器の分布(4)	273
図V-197	焼土配置	237	図VI-12	盛土遺構部分出土石器の分布(5)	274
図V-198	F-3・F-4・F-6・F-8・ F-9	238	図VI-13	盛土遺構部分出土石器の分布(6)	275
図V-199	F-7・F-10・F-15・F-16・ F-17・F-18・F-23・F-24・ F-25・F-37	239	図VI-14	盛土遺構部分出土復原土器の 出土位置	276
図V-200	F-26・F-29・F-31・F-35・ F-38・F-40	240	図VI-15	盛土遺構部分出土の遺物(1) IV層・V層(1)	277
図V-201	F-39・F-41・F-43・F-44・ F-47・F-48・F-49	241	図VI-16	盛土遺構部分出土の遺物(2) V層(2)・盛土層(1)	278
図V-202	F-52・F-53・F-54・F-55・ F-57・F-58・F-59・F-61	242	図VI-17	盛土遺構部分出土の遺物(3) 盛土層(2)	279
			図VI-18	盛土遺構部分出土の遺物(4) 盛土層(3)	280
			図VI-19	盛土遺構部分出土の遺物(5) 盛土層(4)	281
			図VI-20	盛土遺構部分出土の遺物(6) V b層	282

図VI-21	57ライン以東の包含層出土土器の分布(1) ……………	283	図VI-48	包含層出土の土器(7) ……………	310
図VI-22	57ライン以東の包含層出土土器の分布(2) ……………	284	図VI-49	包含層出土の土器(8) ……………	311
図VI-23	57ライン以東の包含層出土土器の分布(3) ……………	285	図VI-50	包含層出土の土器(9) ……………	312
図VI-24	57ライン以東の包含層出土土器の分布(4) ……………	286	図VI-51	包含層出土の石器(1) 石斧素材集中 ……………	313
図VI-25	57ライン以東の包含層出土土器の分布(1) ……………	287	図VI-52	包含層出土の石器(2) ……………	314
図VI-26	57ライン以東の包含層出土土器の分布(2) ……………	288	図VI-53	包含層出土の石器(3) ……………	315
図VI-27	57ライン以東の包含層出土土器の分布(3) ……………	289	図VI-54	包含層出土の石器(4) ……………	316
図VI-28	57ライン以東の包含層出土土器の分布(4) ……………	290	図VI-55	包含層出土の石器(5) ……………	317
図VI-29	57ライン以東の包含層出土土器の分布(5) ……………	291	図VI-56	包含層出土の石器(6) ……………	318
図VI-30	57ライン以東の包含層出土土器の分布(6) ……………	292	図VII-1	図1 黒曜石原産地 ……………	323
図VI-31	57ライン以東の包含層出土土器の分布(7) ……………	293	図VII-2	図1 試料採取地点 ……………	340
図VI-32	57ライン以東の包含層出土土器の分布(8) ……………	294	図2	試料中に残存する脂肪の 脂肪酸組成 ……………	341
図VI-33	L I の遺物出土状況 ……………	295	図3	試料中に残存する脂肪の ステロール組成 ……………	341
図VI-34	L I 出土の遺物(1) ……………	296	図4	試料中に残存する脂肪の 脂肪酸組成樹状遺構図 ……	342
図VI-35	L I 出土の遺物(2) ……………	297	図5	試料中に残存する脂肪の 脂肪酸組成による種特異 性相関 ……………	342
図VI-36	南側低湿部出土の遺物(1) ……	298	図VII-3	¹¹ C年代測定試料 ……………	345
図VI-37	南側低湿部出土の遺物(2) ……	299	図VII-4	図版1 コナラ亜属子葉 ……	351
図VI-38	南側低湿部出土の遺物(3) ……	300	図版2	コナラ亜属子葉 ……	352
図VI-39	南側低湿部出土の遺物(4) ……	301	図VIII-1	大形柱穴(LP)をもつ建物 ……	360
図VI-40	南側低湿部出土の遺物(5) ……	302	図VIII-2	小形柱穴(LPを含まない)の 建物 ……………	361
図VI-41	南側低湿部出土の遺物(6) ……	303	図VIII-3	長軸が5m以上の建物 ……	362
図VI-42	包含層出土の土器(1) ……………	304	図VIII-4	長軸が4m以上～5m未満の 建物 ……………	364
図VI-43	包含層出土の土器(2) ……………	305	図VIII-5	長軸が3m前後の建物 ……	366
図VI-44	包含層出土の土器(3) ……………	306	図VIII-6	長軸が2m前後の建物 ……	367
図VI-45	包含層出土の土器(4) ……………	307	図VIII-7	建物規模別分布 ……………	368
図VI-46	包含層出土の土器(5) ……………	308	図VIII-8	建物の規模と重複建物 ……	369
図VI-47	包含層出土の土器(6) ……………	309	図VIII-9	建物の方位と重複建物 ……	370
			図VIII-10	重複建物 ……………	371
			図VIII-11	Q・K地区出土の土製品 ……	376

表 目 次

遺構規模一覧	S P 規模一覧 (35)	275
表 1 建物一覧 (1)	S P 規模一覧 (36)	276
建物一覧 (2)	S P 規模一覧 (37)	277
建物一覧 (3)	S P 規模一覧 (38)	278
建物一覧 (4)	S P 規模一覧 (39)	279
建物一覧 (5)	S P 規模一覧 (40)	280
建物一覧 (6)	S P 規模一覧 (41)	281
建物一覧 (7)	S P 規模一覧 (42)	282
建物一覧 (8)	S P 規模一覧 (43)	283
表 2 HP 規模一覧 (1)	S P 規模一覧 (44)	284
HP 規模一覧 (2)	S P 規模一覧 (45)	285
表 3 ピット規模一覧 (1)	S P 規模一覧 (46)	286
ピット規模一覧 (2)	S P 規模一覧 (47)	287
表 4 焼土規模一覧	S P 規模一覧 (48)	288
表 5 S P 規模一覧 (1)	S P 規模一覧 (49)	289
S P 規模一覧 (2)	S P 規模一覧 (50)	290
S P 規模一覧 (3)	S P 規模一覧 (51)	291
S P 規模一覧 (4)	S P 規模一覧 (52)	292
S P 規模一覧 (5)	S P 規模一覧 (53)	293
S P 規模一覧 (6)	S P 規模一覧 (54)	294
S P 規模一覧 (7)	S P 規模一覧 (55)	295
S P 規模一覧 (8)	S P 規模一覧 (56)	296
S P 規模一覧 (9)	S P 規模一覧 (57)	297
S P 規模一覧 (10)	S P 規模一覧 (58)	298
S P 規模一覧 (11)	S P 規模一覧 (59)	299
S P 規模一覧 (12)	S P 規模一覧 (60)	300
S P 規模一覧 (13)	S P 規模一覧 (61)	301
S P 規模一覧 (14)	S P 規模一覧 (62)	302
S P 規模一覧 (15)	S P 規模一覧 (63)	303
S P 規模一覧 (16)	S P 規模一覧 (64)	304
S P 規模一覧 (17)		
S P 規模一覧 (18)	遺物一覧	
S P 規模一覧 (19)	表 6 出土遺物一覧	305
S P 規模一覧 (20)	表 7 住居跡遺物一覧	306
S P 規模一覧 (21)	表 8 土坑等出土遺物一覧	312
S P 規模一覧 (22)	表 9 焼土出土遺物一覧	328
S P 規模一覧 (23)	表 10 溝状遺構出土遺物一覧	330
S P 規模一覧 (24)	表 11 盛土部分出土遺物一覧	331
S P 規模一覧 (25)	表 12 L I - 1 出土遺物一覧	337
S P 規模一覧 (26)	表 13 南側低湿部出土遺物一覧	337
S P 規模一覧 (27)	表 14 包含層出土遺物一覧	338
S P 規模一覧 (28)	表 15 表採等出土遺物一覧	358
S P 規模一覧 (29)	表 16 フローテーションによる出土遺物 一覧	359
S P 規模一覧 (30)	表 17 遺構出土掲載土器一覧	360
S P 規模一覧 (31)	表 18 盛土遺構出土掲載土器一覧	366
S P 規模一覧 (32)	表 19 L I - 1 出土掲載土器一覧	367
S P 規模一覧 (33)	表 20 南側低湿部出土掲載土器一覧	367
S P 規模一覧 (34)	表 21 包含層出土掲載土器一覧	368

表22	遺構出土掲載石器一覧	371
表23	盛土遺構出土掲載石器一覧	372
表24	L I - 1 出土掲載石器一覧	372
表25	南側低湿部出土掲載石器一覧	372
表26	石斧素材集中	372
表27	包含層出土掲載石器一覧	373

VII - 1

表 1	各黒曜石の原産地における原石群の 元素比の平均値と標準偏差値	324
表 2	千歳市キウス 4 遺跡 Q 地区出土黒曜石製 石器・剥片の元素比分析結果	329
表 3	千歳市キウス 4 遺跡 Q 地区出土黒曜石製 石器・剥片の原産地推定結果	330
表 4	千歳市キウス 4 遺跡 A 2 地区出土縄 文時代前期の黒曜石製石鏃原石産地 推定結果及び水和層測定結果	331

VII - 2

表 1	土壌試料の残存脂肪抽出量	341
表 2	試料中に分布するコレステロールと シトステロールの割合	341

VII - 4

表 1	コナラ属子葉計測表 (半割)	350
表 2	キウス 4 遺跡 Q 地区出土 炭化植物遺体表	350

VII - 5

表 1	千歳市キウス 4 遺跡 Q 地区出土 動物遺存体一覧	355
-----	-------------------------------	-----

第 I 章 調査の概要

1 調査要項

事業名：北海道横断自動車道埋蔵文化財発掘調査

委託者：日本道路公団北海道支社

受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

所在地：千歳市中央1048-1ほか

調査面積：6,150㎡

調査期間：平成10年5月6日～平成13年3月30日

2 調査体制

平成10年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター 第2調査部第4調査課

理事長	伊藤 一夫	第4調査課長	熊谷 仁志 (発掘担当者)
	(平成10年5月31日まで)	主査	谷島 由貴 (発掘担当者)
	大澤 満	主任	鎌田 望
	(平成10年6月8日から)	主任	笠原 興
専務理事	佐藤 哲人	文化財保護主事	柳瀬 由佳 (発掘担当者)
常務理事	柴田 忠昭		
常務理事	木村 尚俊		
第1調査部長	畑 宏明		
第2調査部長	鬼柳 彰		

平成11年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター 第2調査部第5調査課

理事長	大澤 満	第5調査課長	熊谷 仁志 (発掘担当者)
専務理事	佐藤 哲人(6月まで)	主査	谷島 由貴 (発掘担当者)
専務理事	宮崎 勝(8月から)	主任	笠原 興
常務理事	柴田 忠昭(6月まで)	文化財保護主事	広田 良成
常務理事	木村 尚俊	文化財保護主事	柳瀬 由佳 (発掘担当者)
	(8月から第1調査部長兼務)		
第2調査部長	鬼柳 彰		

3 調査の経緯

昭和62年に日本道路公団札幌建設局（現在は道路公団北海道支社）から北海道教育委員会（以下道教委と称す）に北海道横断自動車道（千歳～夕張）建設について、埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。これを受けた道教委は昭和63年4～5月に千歳～夕張の全線を対象として所在確認調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地について範囲確認調査が必要との回答した。

その後、平成3年に道路公団が用地を決定したのに伴い、道教委は範囲確認調査を実施し、工事計画の変更が不可能であることから調査を必要とする埋蔵文化財包蔵地は千歳市11ヵ所、恵庭市4ヵ所、

3 調査の経緯

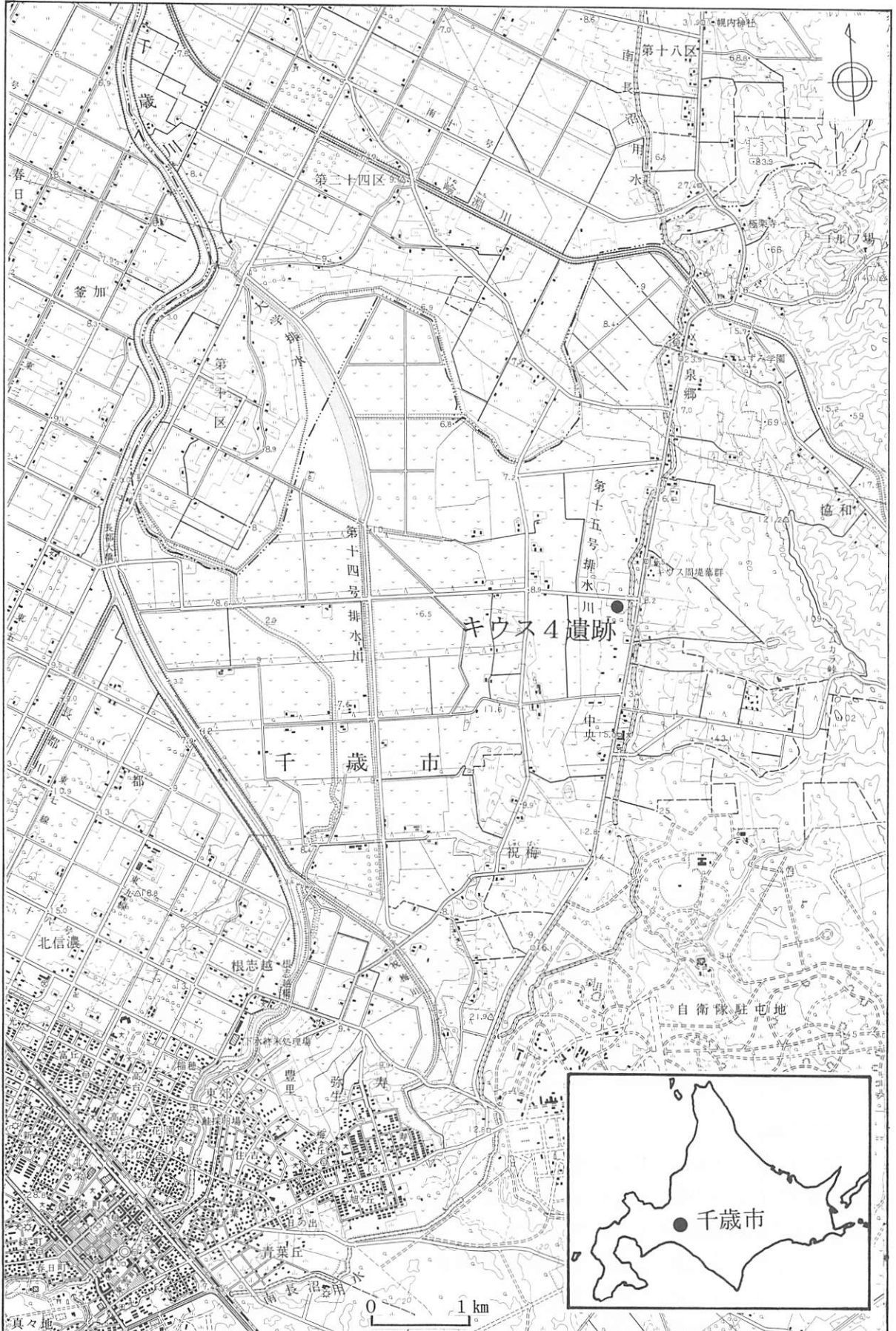


図 I - 1 遺跡の位置 (この図は国土地理院発行 1/50000「千歳」「恵庭」を使用した)

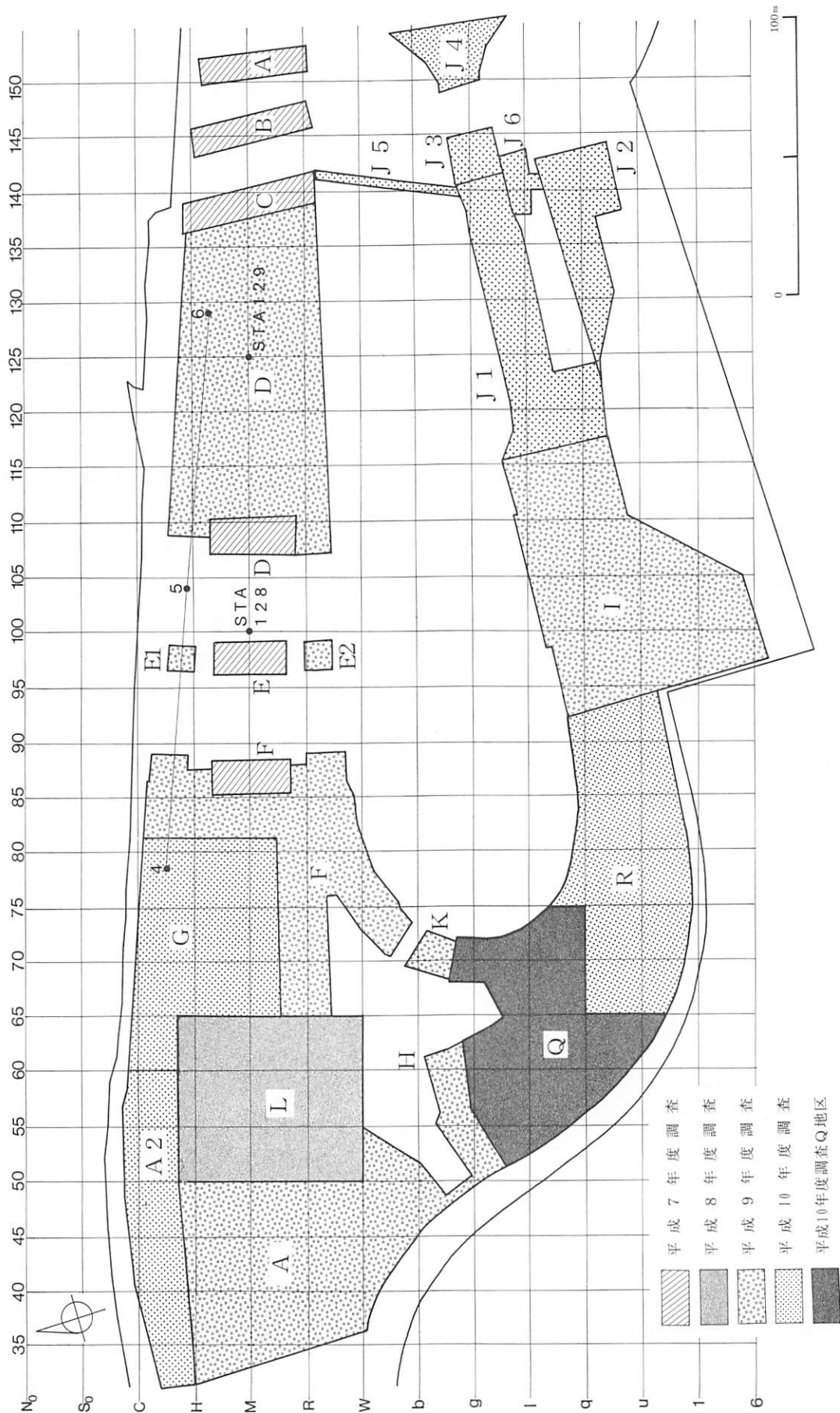


図 I-2 調査区の設定と各調査地区の位置

4 調査の方法

由仁町2カ所、夕張市3カ所が明らかになった。発掘調査は工事の優先順位にしたがって、平成5年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターによって千歳市オサットー1遺跡・同オサツ2遺跡・同キウス7遺跡の調査が開始された。その後、当センターによって平成6年度に千歳市キウス5・7遺跡・同ケネフチ8遺跡、平成8年度にキウス4・5・7遺跡・千歳市ユカンボシC15遺跡・恵庭市ユカンボシE10遺跡、平成9年度にキウス4・5・7遺跡・ユカンボシC15遺跡・ユカンボシE7・10遺跡の調査を実施した。平成10年度には、キウス4・5・7遺跡及びユカンボシC15遺跡の調査が継続して実施され、現地調査を終了した。平成11年度には、平成10年度に採集したのキウス4遺跡R地区の南側盛土遺構の十万袋にも及ぶ土壌水洗を実施した。

キウス4遺跡については道教委によって平成3年度～8年度にかけて範囲確認調査、平成5年7・10月に遺跡全体の詳細試掘調査（トレンチ調査による分布調査）が実施された。その結果、周堤墓13基・盛土遺構2カ所・竪穴住居跡・土壙等が確認され、縄文時代後期後葉の大規模な遺跡であることが判明した。A地区・A2地区についても平成8年度にⅢ層～Ⅴ層下位まで達するトレンチ調査が40ライン西側で実施されている。

平成7年度から当センターによるキウス4遺跡の本格的な調査が開始され、平成7年度には橋脚部分の2,429㎡、平成8年度は本線西側インターボックス部分3,930㎡、平成9年度は本線部分・インターチェンジ部分の8地区（A・D・E1・E2・F・H・I・K地区）20,970㎡の調査が実施され、平成9年度のD地区調査において新たに周堤墓5基と道跡が、A地区において後期後葉の水場遺構や縄文時代早期後葉～前期初頭の住居跡・土壙や木製品等が西側低地部分で検出された。

最終年度にあたる平成10年度は本線部分・インターチェンジ部分の9地区（A2地区・G地区・J1地区～J6地区・Q地区・R地区）18,940㎡の調査を実施した。その結果、A2地区ではアイヌ文化期・縄文時代前期初頭の木製品、縄文時代前期初頭の土器・石器、G地区からは北側盛土遺構の一部、墓壙、柱穴、タブコプ式の頃と考えられる竪穴状遺構等の遺構、土偶、動物形土製品、ヒスイ製の玉が出土している。J1地区・J6地区にまたがる新たな周堤墓を検出し、R地区からは、I地区から続く南側盛土遺構が検出され、縄文時代後期の鮎澗式から堂林式期の土器・石器をはじめに朱塗り飾り弓・腕の一部や土偶、スタンプ状土製品、垂飾、ヒスイの玉等の多量の遺物、南西部の低湿から容器、石斧の柄、槌状木製出土している。遺構はQ地区から続く建物跡・柱穴状ピット等が検出されている。

4 調査の方法

(1) 調査区の設定

調査区の設定に当たっては、北海道横断自動車道（千歳～夕張）工事予定図（1000分の1）図を使用した。工事予定中央線のSTA128とSTA129を通る線を基軸のMラインとし、Mラインから北側に4m毎に平行する線をLライン、Kライン、Jライン…、南側も同様にNライン、Oライン、Pライン…として南北を画した（図I-2）。東西を画する基準はSTA128で、基軸のMラインに直行する線を100ラインとした。これを基準とし、4m毎に西側に平行する線を251ライン、252ライン、253ライン…とし、東西を画するグリッドラインとした。それぞれのグリッド交点上に杭を打ち、グリッドラインに区画された方形の北西側にあたる杭をアルファベットと数字の組合わせで呼称し、4m四方の方形の呼称とした。STA128の南東側の区画は「M-100」、南西側は「M-99」、北東側は「L-100」、北西側は「L-99」と呼称される。

基準杭の各座標値は平面直角座標系第Ⅺ系中で以下の通りである。

STA 128 (調査区杭名 M-100) X=-124317.2305 Y=-43659.0574

STA 129 (調査区杭名 M-125) X=-124346.6038 Y=-43563.4703

平成5年7月に実施された北海道教育委員会による範囲確認調査における調査区の設定は、インターチェンジ北側の進入路中央線の4・5・6を基準とし、4をG-24、5をG-34、6をG-44と呼称して、前述の区画と同様に画している(北埋調報 第119集)。

(2) 基本層序

基本層序は、これまでのキウス4遺跡や北海道横断自動車道(千歳～夕張)工事予定地内で調査が行われた周辺の遺跡(キウス5・7)遺跡の調査例に準じた。

土層層序

I層: 表土。軽石混じりの黒色粘土質腐植土。耕作土。調査区の約半分は、深度耕作が行われている。

II層: 樽前山起源の降下軽石堆積物(Ta-a)。1739年の樽前山噴火が起源。

III層: 黒色粘質腐植土。白頭山起源の薄層(B-Tm)が斑状に挟在する。

縄文時代晩期～アイヌ文化期の包含層。

B-Tm: 灰黄褐色シルト質火山灰。

IV層: 樽前山起源の降下軽石・岩片堆積物(Ta-c)。

縄文時代晩期の樽前山噴火が起源。茶褐色～黒色スコリア。

V層: 黒褐色腐植土。縄文時代早期～晩期の遺物包含層。

部分的に盛土遺構を挟在する。ここでは盛土遺構より上位をVa層、下位をVb層とした。

盛土層: 暗茶褐色土。En-aパミスを多く含む。盛土遺構。

Va層: 黒褐色粘質土。

Vb層: 暗褐色粘質土。

VI層: 漸移層。褐色粘質土。

整地層により消失した部分がある。

VII層: 黄褐色土。ローム層。本層直下のEn-aのパミスを含む。

整地層により消失した部分がある。

VIII層: 恵庭岳起源の降下軽石堆積物(En-a)。

約15000年前の恵庭岳起源のパミス。

本書で報告する遺構覆土に本層起源のパミスを含む層が多い。土層註記では(En-aPを含む)等の記載を行なった。

*盛土遺構: V層に挟在する盛土層はQ地区で2カ所から検出されている。これらはH地区の盛土遺構に隣接するもので、キウス4遺跡全体で見ると北側盛土遺構に含まれるものと考えられる。

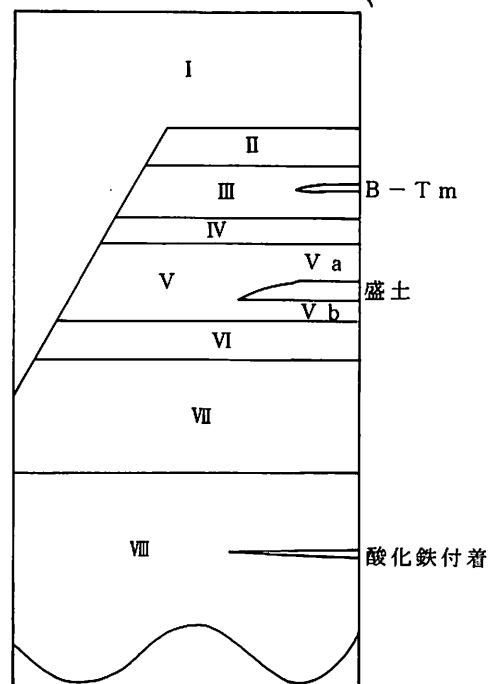


図 I - 3 基本層序

4 調査の方法

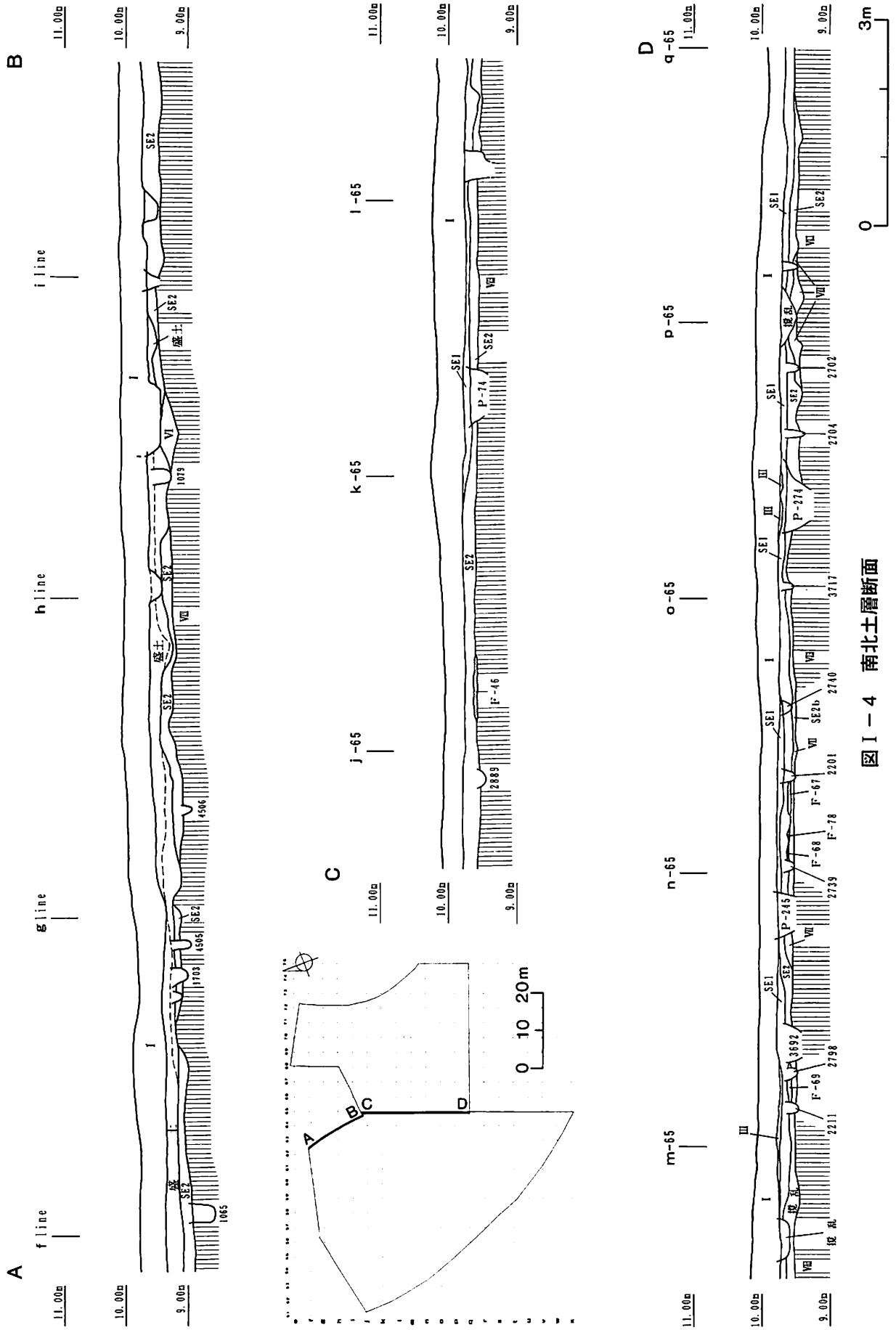


図 I - 4 南北土層断面

***整地層**：人為的な削平・攪乱によると考えられる土層。V層から掘込まれ、VI層・VII層に達する。主体となる土層成分により2層に分けた。縄文時代後期後葉の遺構が本層を掘り込んでいる場合と上位にみられる場合があることから、縄文時代後期後葉の所産と考えられる。

整地1層：V層（黒褐色土層）とVII層（En-aP層）の混合。

土層註記では（SE1）と記載した。

整地2層：VII層（En-aP層）を主体とし、V層（黒褐色土層）を僅かに含む。

土層註記では（SE2）と記載した。

（3）発掘調査の方法

調査範囲内の包含層の状態や土層の堆積状況、遺構・遺物の出土分布を確認するため25%調査を行った。基本的にI層（表土）とII層（Ta-a）は重機により除去した。しかし、25%調査で耕作が包含層におよび遺物がI層から多く出土することが明らかになった部分については、I層の上面から人力による掘開及び重機でグリッド単位に集めた土から遺物を抽出する作業を行った。

北から南方向に深土耕作が深く入っていた部分のうちi-66とq-69を結ぶ線の東側は、東端を除き耕作によりVII層までTa-aが混じりの平行した帯が畝状になっており、そのため耕作の及んでいる部分まで重機による除去を行った。j-58を中心とした直径約30mの範囲はVIII層まで畑の耕作が及び、I層を除去後、柱穴跡など遺構が確認された。

遺物はトータルステーションで位置を記録して取り上げることを基本としたが、層位毎に4×4mの方形を単位として取り上げた遺物もある。遺構平面や遺物出土状況などは手書きによる実測とトータルステーションでの機械測量を併用した。

（谷島由貴）

（4）整理の方法

遺物は出土状況に応じ、機械測量や実測によって位置や出土層位を記録してから、遺構・小グリッド、出土層毎に取り上げた。集中的に出土した土器片については記録してから取り上げた。また、フレイク・チップの集中や焼土中の炭化物集中・骨片集中個所等の微細な遺物についても、機械測量や実測によって範囲・層厚を記録した後、土壌と共に取り上げ、フローテーション選別、ウォーター・セパレーション、篩による選別等を実施し、収集に努めた。

現地では土器・石器については水洗後、大分類を行い遺物台帳を作成し、注記作業を行った。注記は遺跡名のキウス4遺跡Q地区を「キ4Q」と略記した後、グリッド名・遺物番号・出土層位の順に簡略化して記入した。現地での一次整理終了後、札幌へ搬送して本格的な整理作業を開始した。

札幌の整理作業では、台帳と遺物を照合した後、土器は遺構・調査区別に、石器は器種毎に一覧表を作成し、個別に分類の再検討、細分類を行った。土器の接合・復原作業では、遺構間及び遺構と包含層との接合関係を把握することに努めるとともに、個体識別を行ない、掲載遺物は、その同一個体の出土地点・出土層位・出土点数を一覧表に明記してある。破片資料については、器形・文様構成が想定できるものを中心に拓影図を作成した。石器についても接合作業を実施した。石器類の実測は、遺構出土の石器を優先し、包含層出土の資料は出土層位が明確で、完形ないし形態が分かるものを中心に行なった。石材については当センターの第1調査部第1調査課花岡正光の指導を受け、笠原興が表面観察によって同定した。

（谷島由貴）

5 遺構・遺物の分類

5 遺構・遺物の分類

(1) 遺構

25%調査・包含層調査時に住居跡・土坑等が推定できたときは、その平面形の長軸と短軸方向に土層観察用の土手を設定し掘り下げた。遺物は出土状況を詳細に記録化してから取り上げた。

現地調査において遺構の表記は以下の記号を用いた。

H : 住居跡:

P : 土坑

F : 焼土

HP : 住居跡に伴う土壌

SP : 穴状ピット

SP : 柱穴状ピット

FC : フレイク集中

Z : 溝状遺構

I : 遺物集中

しかし、整理の段階で、現場で確認することができなかつた住居跡(H)、土坑(LP)、焼土(F)、柱穴状ピット(SP)の組み合わせによる建物跡が数多く確認された。したがって、現地での遺構表記を報告においてそのまま用いることができなくなった。

そこで、住居跡(H)、土坑(LP)の意味を下記の様に見直すとともに新たに「建物」を設定して表記した。

H : 住居跡は竪穴を伴うもの

建物 : 建物は遺構の複合体で、現地において「H:住居跡」とみなされたものも含み、竪穴が確認されず出入口ピット、支柱穴、壁柱穴、焼土等の組み合わせや配列が確認されたもの。この中には出入口ピットのみのも、支柱穴のみのもも含んでいる。

建物としたものは、本来、竪穴をもつものと考えられるが削平によって失われたものと思われる。

なお、遺構番号については、新に設定した建物を除き、現地での遺構番号を踏襲した。建物跡については新に番号を付け(例 建物1、建物2……)、組み合わせが認められた遺構については、現地での遺構番号を踏襲して用いた。そして、その組み合わせについては建物一覧に記載してあるが、個別の遺構の計測値等については、それぞれの遺構別の一覧表に記載するにとどめ、建物としては掲載していない。遺構図・遺物挿図・写真図版についても、個別の遺構番号を記載してある。

土坑(P)については、墓壙と思われるもの、フラスコ状ピット、柱穴と思われるもの、用途不明なもの、ロームピットなどに分けて記載した。

なお、現地においてキウス4遺跡のこれまでの呼称を踏襲し、IV層(Ta-c)を境に、III層に掘り込み面をもつもの、III層中から検出されたものについては、Upper(上位)の「U」を、V層に掘り込み面をもつもの、V層中から検出されたものについては、Lower(下位)の「L」を遺構名の前に附して検出層位を区別した。遺構は原則的に検出順に番号を付けた。なお、本報告においてはすべてIV層(Ta-c)下位の遺構であることから「U」「L」を省略した。

また、平成5年度の調査範囲から検出した土坑(P-2・P-3)について、平成10年度に検出した土坑と4本一組の配列が認められたため、再掲載した。平成10年度に検出した土坑と区別するために遺構番号の前に平成5年度の「5」を付けて、5P-2・5P-3として区別して表記した。

また、付図として遺構配置図を添付した。遺構配置図についてはトータル・ステーションによる出図面を原図として使用し、本文中の図版を参考に形状に修正を加えたものを素図としてトレースした。素図作成の段階で、遺構配置図と本文中の図版と整合性をもたせるため修正を加えたが遺構数が膨大であることから、本文中の図版と形状がやや異なるものもある。遺構配置図と本文中の遺構図との形状がやや異なるものについては本文中の形状が優先する。

(熊谷 仁志)

(2) 遺物の分類

土器

分類基準は、過年度に当センターが行った千歳市周辺の発掘調査に基づき、また、『キウス4遺跡(2)』（北埋調報124集）に準じている。

I 群 縄文時代早期に属する土器群

- a 類 貝殻腹縁文・条痕文の施されている土器群。今回の調査では出土していない。
- b 類 縄文・撚糸文・絡条体圧痕文・組紐圧痕文・貼付文などが施された土器群。
 - b-1 類 東釧路Ⅱ式・東釧路Ⅲ式に相当するもの。
 - b-2 類 コッタロ式に相当するもの。
 - b-3 類 中茶路式に相当するもの。
 - b-4 類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

II 群 縄文時代前期に属する土器群

- a 類 花積下層式・網文式・静内中野式に相当するもの。
 - a-1 花積下層式・網文式に相当するもの。
 - a-2 静内中野式に相当するもの。
- b 類 円筒土器下層式・大麻Ⅴ式・植苗式に相当するもの。

III 群 縄文時代中期に属する土器群

- a 類 円筒土器上層式・萩ヶ岡1式・萩ヶ岡2式に相当するもの。
- b 類 円筒土器上層式に後続するもの。
 - b-1 類 天神山式に相当するもの。
 - b-2 類 柏木川式に相当するもの。
 - b-3 類 北筒式（トコロ6類）・ノダップⅡ式・煉瓦台式に相当するもの。

IV 群 縄文時代後期に属する土器群。

- a 類 余市式・タプコプ式・入江式に相当するもの。
- b 類 ウサクマイC式・手稲式・鮎澗式・エリモB式に相当するもの。
 - b-1 類 ウサクマイC式に相当するもの。今回の調査では出土していない。
 - b-2 類 手稲式に相当するもの。
 - b-3 類 鮎澗式に相当するもの。今回の調査では、明瞭なものは出土していない。
 - b-4 類 鮎澗式の新しい部分およびエリモB式に相当するもの。
- c 類 堂林式・三ッ谷式・御殿山式に相当するもの。本遺跡の主体をなす。
 - c-1 類 堂林式に相当するもの。本地区出土の大部分が該当する。
 - c-2 類 三ッ谷式に相当するもの。今回の調査では、明瞭なものは出土していない。
 - c-3 類 御殿山式に相当するもの。今回の調査では、明瞭なものは出土していない。

V 群 縄文時代晩期に属する土器群。

- a 類 大洞B式・BC式に相当するもの。

5 遺構・遺物の分類

b類 大洞C1・C2式に相当するもの。

c類 大洞A・A'式・タンネトウL式に相当するもの。

VI群 続縄文時代に属する土器群。今回の調査では出土していない。

VII群 擦文時代に属する土器群。今回の調査では出土していない。

当遺跡の主体はIV群b-4類～IV群c-1類であるが、この境界は現状では不明瞭である。そのため整理では、便宜的に明確な刻み列をもつものをb-4類とし、これ以外のb-4類～c-1類に該当するものについては、すべて一括してIV群c類として扱った。

(柳瀬由佳)

石器等

石器等の分類、遺物の名称については、過年度に当センターが行ったキウス遺跡群の分類基準にならっている。

剥片石器類

石鏃

- 1 無茎のもの
 - a 三角形のもの (1) 平基 (2) 凹基 (3) 凸基
 - b 柳葉形のもの
 - c 菱形のもの
 - d 五角形のもの
 - e 木葉形のもの
 - f 上記に該当しないもの
- 2 有茎のもの
 - a 平基のもの
 - b 凹基のもの
 - c 凸基のもの
 - d 茎が明瞭でないもの
 - e 上記に該当しないもの
- 8 細分の困難な破片、未成品など

石槍またはナイフ

- 1 有茎のもの
- 2 無茎のもの
 - a 木葉形のもの
 - b 柳葉形のもの
- 8 細分の困難な破片、未成品など

ドリル

- 1 剥片の一部に機能部を作出したもの
- 2 つまみ部を作出したもの

- 3 棒状のもの
- 4 薄手・幅広の機能部をもつもの
- 5 他石器からの転用品
- 6 周縁加工のもの
- 8 細分の困難な破片、未成品など

つまみ付ナイフ

- 1 縦形のもの
 - a 片面全面加工のもの
 - b 両面加工のもの
 - c 周縁加工のもの
 - d 剥片をあまり加工しない、粗雑なつくりのもの
- 2 横形のもの
- 3 上記に該当しないもの
- 8 細分の困難な破片、未成品など

スクレイパー

- 1 縦形のもの
 - a 側縁に刃部をもつもの
 - b 端部に刃部をもつもの
 - c 尖頭部を作出するもの
 - d 石べらと称されるもの
- 2 横形のもの
 - a 側縁に刃部をもつもの
 - b 端部に刃部をもつもの
 - c 尖頭部を作出するもの
- 3 ラウンドスクレイパー
- 4 上記に該当しないもの
- 8 細分の困難な破片、未成品など

両面加工石器

楔形石器

R フレイク

U フレイク

石核

剥片

礫石器類

- 石斧
- 1 擦り切り手法によって製作されたもの
 - 2 粗割、敲打によって製作されたもの
 - 3 部分的に磨かれているもの
 - 4 全面磨製のもの
 - 5 擦り切り残片

5 遺構・遺物の分類

8 細分の困難な破片、未成品など

たたき石

- 1 棒状礫を素材としたもの
- 2 扁平礫を素材としたもの
- 3 円礫を素材としたもの
- 4 くぼみ石と称されるもの
- 8 細分の困難な破片、未成品など

すり石

- 1 断面三角形の礫を素材とし、稜に使用痕が見られるもの
- 2 扁平礫や円礫などを素材とし、側縁や平坦面に使用痕がみられるもの
- 3 北海道式石冠と称されるもの
- 4 上記に該当しないもの
- 8 細分の困難な破片、未成品など

砥石

石錘

石皿・台石

礫器

加工痕のある礫

礫・礫片

土・石製品

機能の特定し難い加工、成形加工が施された遺物について土・石製品として扱ったものがある。

自然遺物

明瞭な加工の見られない生物遺体を自然遺物とした。動物遺体、植物遺体が見られる。

遺物実測図中で、たたき痕はV-V、すり痕・使用痕・摩耗痕は←→で範囲を示した。また器体に付着物等が見られる場合にはスクリーントーンで範囲を表した。

(笠原 興)

6 調査の概要

(1) これまでの調査の概要

キウス4遺跡の各地区の調査の概要は、未報告部分もあるが各地区の調査の概要は次のようにまとめられる。

A 地区 (A 1 地区) 早期後半および前期前半の住居跡17軒、土壙60基をはじめ縄文時代後期後半の土壙4基からなる水場遺構も検出されている。遺物では、縄文早期後葉～前期初頭・後期の良好な資料が出土し、同期の木製品も報告されている(北埋調報124集)。

A 2 地区 縄文早期後葉～前期初頭の住居跡5軒、土壙25基、柱穴状ピット114カ所、焼土65カ所等が検出された。遺物は、縄文時代早期後半～前期初頭の土器・石器が主体で、北海道において最古に位置付けられる前期初頭の加工痕のある木製品や旧石器時代の搔器、アイヌ文化期の木製品も出土している(北埋調報135集)。

D・E 1・E 2 地区 縄文時代後期後葉の周堤墓9基(確認のみ2基)、単独墓壙9基、土壙7基、直線状盛土2条、道跡1条等が検出されている。遺物は縄文時代後期後葉を主体に、縄文時代早期末葉・続縄文時代・擦文期のものがある(北埋調報144集)。

F 地区 北側盛土遺構が検出され、多量の縄文時代後期後葉の遺物が出土している。未報告である。

G 地区 縄文時代後期後葉の盛土遺構(北側盛土遺構)の調査が実施され、多量の遺物が出土した。

H 地区 Q地区北側に隣接する。縄文時代後期後葉の北側盛土遺構を含む3カ所の盛土遺構と多量の柱穴状ピット、土壙、焼土が検出され、柱穴状ピットから5軒の竪穴住居跡(Q地区の建物に相当する)、4本一組の大形の柱穴列(Q地区の建物に相当する)1カ所が報告されている。これらはQ地区の建物群・柱穴状ピット群に続くもので、建物群・柱穴状ピット群の北側の範囲を示しているものと思われる。遺物は縄文時代後期後葉の堂林式が主体である(北埋調報134集)。

I 地区 南側盛土遺構の一部を含む盛土遺構2カ所、土壙29基、多くの焼土が報告されている(北埋調報134集)。

J 1～J 6 地区 周堤墓1基・焼土33カ所が検出され、周堤墓内の5基の土壙内からヒスイ製の垂飾・石製の玉類・石斧・石鏃等が出土している(北埋調報144集)。

K 地区 Q地区の北側に隣接する。H地区と同様に多量の柱穴状ピット、土壙を検出し、大形の柱穴列や住居跡(1軒)が報告されている(北埋調報134集)。南側のF地区やQ地区の建物跡群・柱穴状ピット群に続くものである。

L 地区 A 2地区に連続するアイヌ文化期の河道跡から木製品が出土し、V層の調査では北側盛土の一部が検出され、竪穴住居跡1軒、焼土5カ所等が検出されている(北埋調報124集)。

Q 地区 縄文時代後期前葉竪穴住居跡、同後期後葉の大集落(本書報告分)。

R 地区 縄文時代後期後葉の盛土遺構(南側盛土遺構)、住居跡2軒、土壙2基、柱穴状ピット1930カ所、焼土248カ所、流水跡11カ所、柱穴状ピットの配置から推定された建物127軒が検出された。また、Q地区から続く多くの建物跡や縄文時代早期後葉の住居跡が検出されている。縄文時代後期中葉から後葉の多量の土器・石器とともに木製品・漆製品が出土している。そして、南側盛土遺構・盛土出土遺物及び木製品を除く遺構については平成11年度報告(北埋調報150集)、それ以外については平成13年度に報告する予定である。

二次整理・報告書刊行については各地区毎に平成13年度まで実施され、今後、漸時刊行される予定である。

(熊谷仁志)

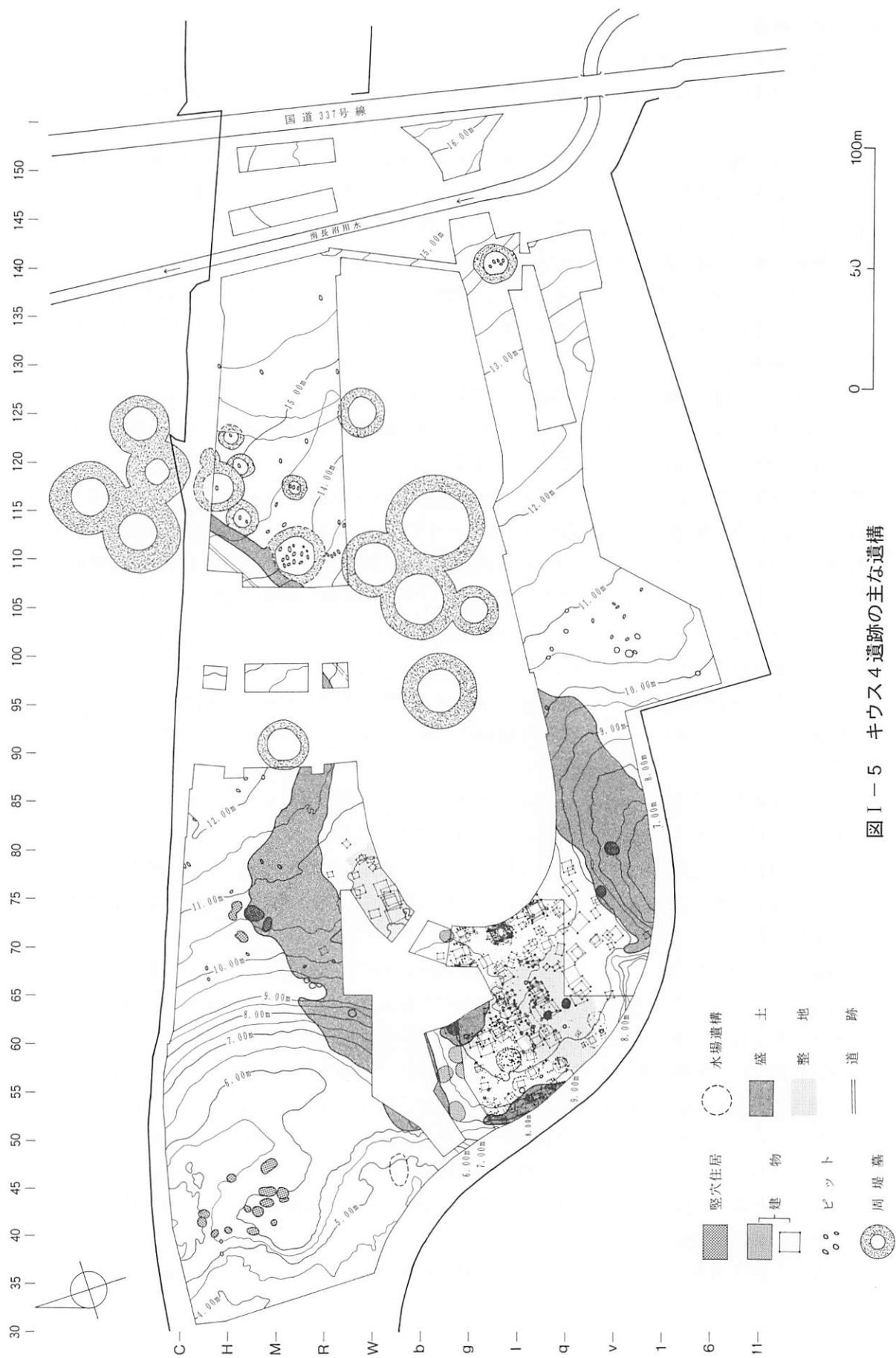


図1-5 キウス4遺跡の主な遺構

(2) Q地区の調査の概要

調査区は、キウス4遺跡西側に位置する。調査区は北東から緩やかに傾斜しながら南西に張り出す舌状台地の根元部分で、北西側と南東側が落ち込む地形である。Q地区の北側は平成9年度に調査を実施した縄文時代後期後葉の堂林式期の住居跡や同期の柱穴状ピット・盛土遺構等が検出されたH・K地区に隣接している。南東側は今年度調査範囲で、縄文時代後期後葉の堂林式の頃の盛土遺構や多くの土坑・柱穴状ピットが検出されたR地区に隣接する。

調査区中央部は、耕作・削平による攪乱がV層中位まで及び、部分的にはⅧ層まで達していた。調査区北側にはH地区から延びる盛土が、調査区南西側にはR地区から延びる南側盛土遺構がV層中に分布していた。また、Ⅵ層（漸移層）が欠落し、V層下位にはV層起源の黒色土と恵庭a降下軽石が混じりあった縄文時代後期後葉の頃の整地の痕跡と考えられる土層（整地層）が認められた。

しかしながら、盛土層・整地層については先述したように耕作・削平が調査区全体におよび、H地区から延びる盛土層やF地区で確認されていた整地層が続くと予想されていたQ地区北側の耕作・削平による攪乱がⅧ層まで達し、基本層をはじめとし、盛土層や整地層は、分断されたり、欠落する層が認められたり、薄層として出現する程度で明確に認識することができなかった。このため調査開始当初、基本層や盛土層・整地層の認識に混乱を生じ、各層の分布を平面的に把握することが困難であった。そして、盛土層や整地層の分布は、夥しい土坑・柱穴・柱穴状ピットの集中と重なりさらにその把握を困難なものにした。この様な状況から図Ⅲ-1・2に示した盛土層や整地層の範囲は、残存する比較的良好な部分を大まかな範囲を示しているに過ぎず、本来の分布とは異なる。そして、今回検出した調査区北側と西側の段丘崖部分の盛土は、H地区から延びる盛土に連続するものと考えられる。そして、Q地区北側の削平部分にも分布していたものと考えられる。整地層についてもQ地区全体に分布し、整地によって排出された土によって盛土が形成したものと考えられる。

遺構は現地調査で住居跡34軒、土壇289基、柱穴状ピット約4,728基、溝状遺構1条、焼土84ヵ所が検出された。しかし、現場で確認ができなかった住居跡、土壇、焼土、柱穴状ピット等の組み合わせによる建物が確認された。

最終的な遺構数は、竪穴式住居跡3軒、建物110軒、墓壇8基、大形のフラスコ状ピット3基、用途不明の土坑26基、大形柱穴63基、ロームピット33基、柱穴状ピット3,764ヵ所、溝状遺構1条、杭列1列、焼土52ヵ所である。

竪穴式住居跡には中期中葉の柏木川式期のもの（2軒）、耕作・削平によって壁や床面を消失し、壁際の周囲に廻る周溝のみが確認された時期不明もの（1軒）がある。

建物は110軒確認された。ほとんどは耕作・削平によって壁や床面を消失し、住居跡・出入口ピット・焼土・支柱穴・壁柱穴等の組み合わせ・配列によって確認した。建物は調査区全面から検出され、一部削平によって不明な点もあるが、調査区西側の段丘崖に沿って複数の立て替えが認められる建物の集中範囲が帯状に2条確認された。建物の規模は、壁柱穴等の配列においては長軸の長さが8m前後のものが多く、なかには10mを越えるものもあり、4本一組の支柱穴の配列が確認されたものには一辺の長さが5m以上のもの、5～4m前後のもの、3～2m前後のものが認められた。出入口ピットの認められた建物の出入口は、多少の軸の振れが認められるがほぼ東側から検出された。4本一組の支柱穴は、土坑の口径の長軸が1m以上の大きな土坑から構成されるもの、坑口の径が60cm未満の柱穴状ピットから構成されるものが認められた。配置には方形、長方形、台形の配列があり、長辺が西・東側に配置される傾向が認められた。支柱穴間の距離は2.5～6mである。また、建て替えを想像させる柱穴の重複や幾重にもめぐる柱穴列も認められた。このほかに柱穴の覆土から多量の遺物が出土し

6 調査の概要

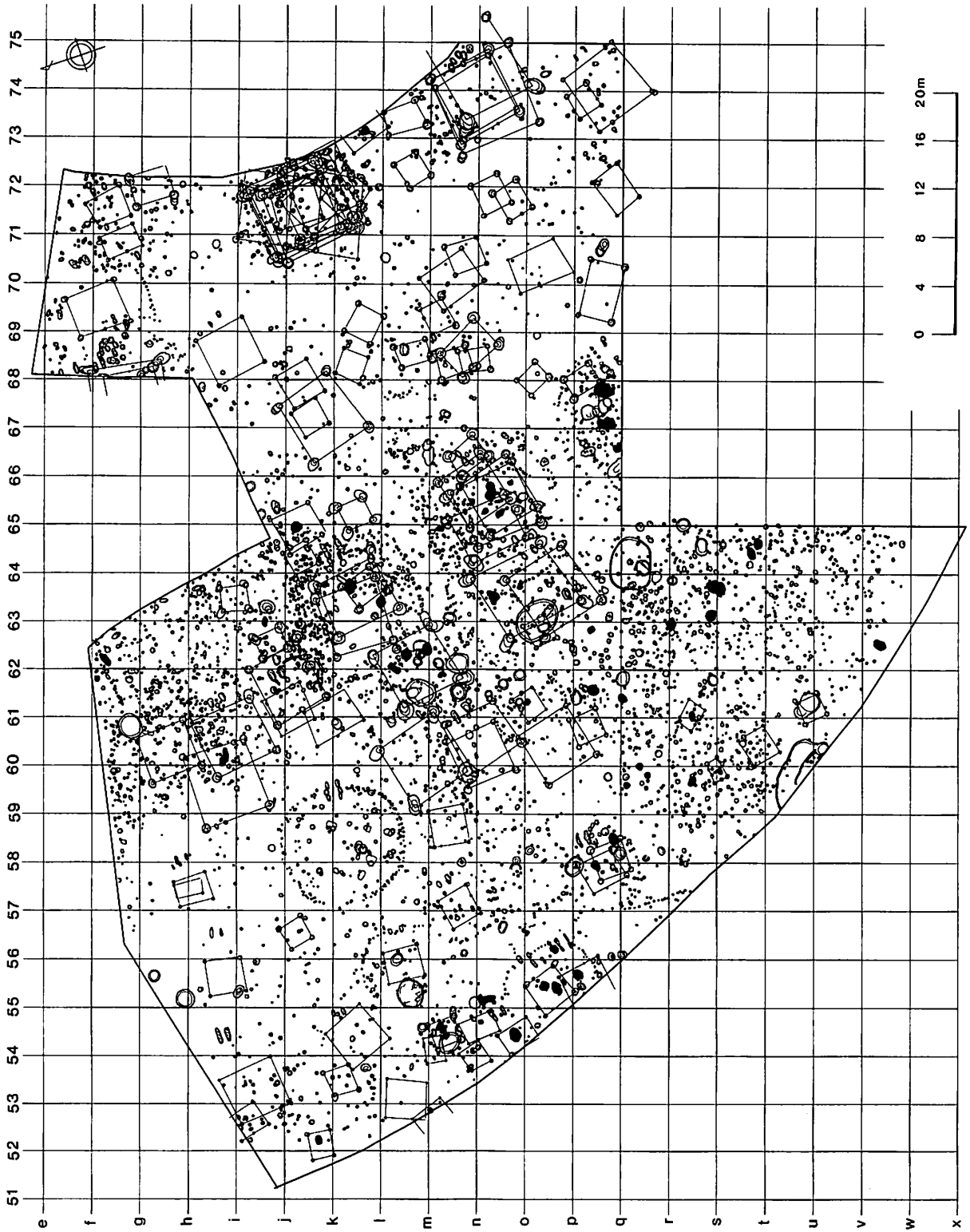
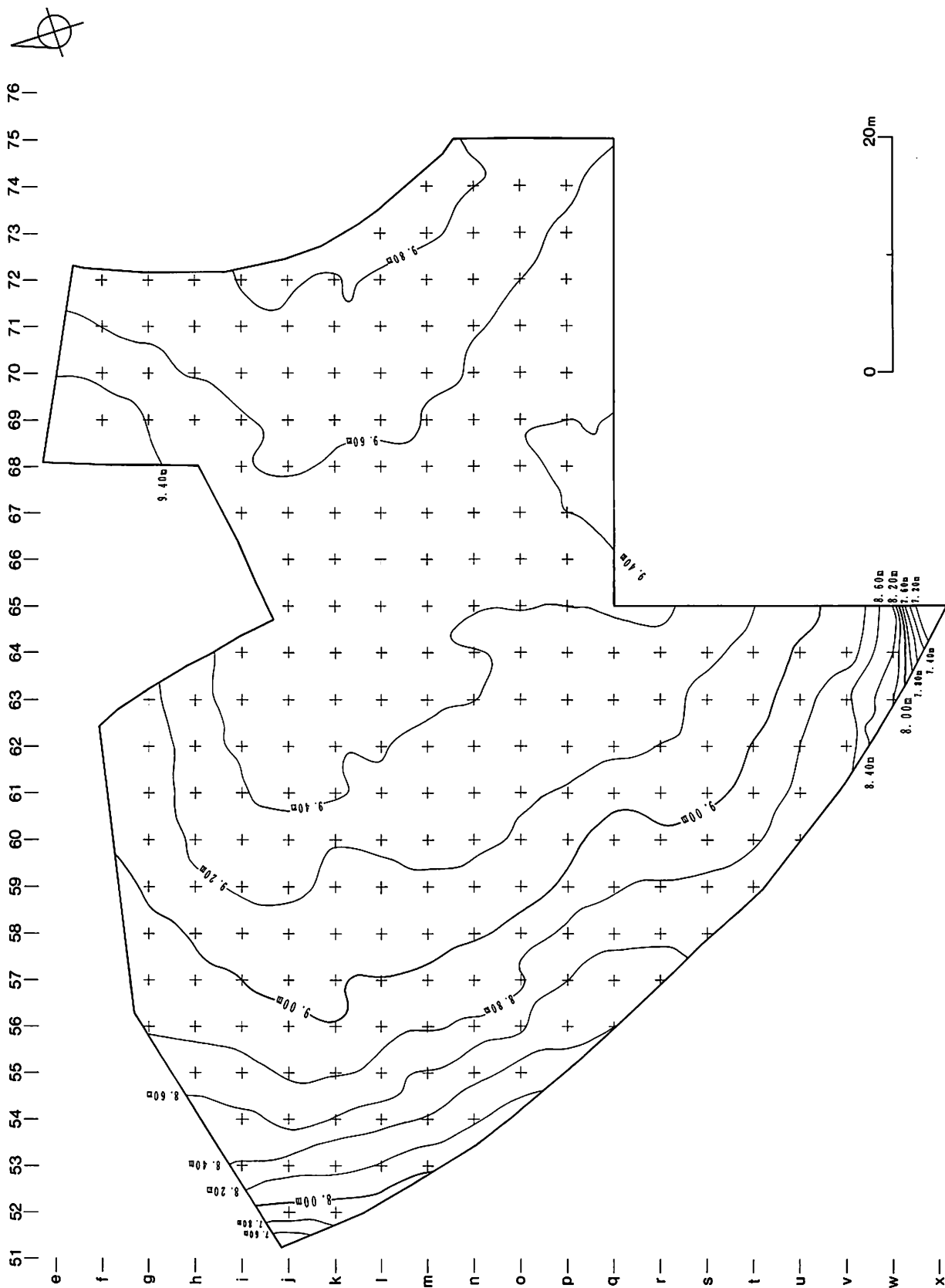


図 I-6 遺構配置



図I-7 最終面地形

6 調査の概要

たもの、4本一組の配列が認められ、いずれの柱穴からも多量の炭化したドングリが出土したものがあつた。

この他に、墓壙、大形のフラスコ状ピット、浅い皿状ピット、大形の柱穴と思われるもの等がある。墓壙は、平面形が円形、隅丸長方形、楕円形のものがある。壙底に赤色顔料や炭化物が認められるものや、人骨の残存状況が比較的良好で埋葬姿勢がわかるものもあつた。いずれの墓壙も副葬品を伴わず、構築時期は不明であるが、おそらく後期後葉の堂林式の頃のものと思われる。大形のフラスコ状ピットであるP-1・P-49からは堂林式土器の復原個体が得られている。P-85の浅い皿状ピットからは、入江式とタブコブ式が相伴して出土している。この入江式とタブコブ式の相伴は、道南・道央部の土器編年を考える上で貴重な資料と言えよう。

遺物は、縄文時代のものが約13万点出土した。遺物は盛土・整地層から多く出土した。R地区から続く南側斜面からは、廃棄されたとされる後期後葉の堂林式が多量に出土している。

盛土・整地層は本来、遺構調査として取り扱われべきものである。しかし、盛土遺構については57ライン以西を除き先述したように分布範囲や層自体の認識が困難であつたため包含層調査と同様に調査区を平面的に調査せざるを得なかつた。この調査の結果から、盛土については、57ライン以西に限定し、盛土遺構として扱った。それ以外については、盛土・整地1・2層のいずれも部分的な検出であること、層厚も薄く分層できず包含層出土遺物と一括して扱わざるを得なかつた。

土器は縄文時代早期～晩期初頭のもので出土し、主体は後期後葉の堂林式である。このほかに縄文時代早期の東鉋路Ⅲ式・コッタロ式・中茶路式・東鉋路Ⅳ式、前期前半の網文式・静内中野式、後期前半の入江式・タブコブ式、後期中葉から後葉の純濶式・エリモB式等がある。盛土地区からは堂林式(Ⅳ群c類)の比較的新しい頃のもので、南側低湿部のVD層からは堂林式(Ⅳ群c類)の比較的古手のものでまとまって出土している。また、胎土に小さな木葉痕が認められるものも出土している。なお、今回、土器片に付着した炭化物による¹⁴C年代測定を実施している(第Ⅶ章-3節参照)。

石器は縄文時代のものであると思われるものが各種出土している。石鏃・つまみ付きナイフ・ドリル・すり石、たたき石等については、その形態的特徴から縄文時代後期中葉から後葉の土器群に伴うと思われるものが多い。

土製品には、動物(クマ?)の型を模倣したと思われるもの(口絵8-2)、突起が加えられた耳栓が、石製品には異形石器・玉類がある。玉類は比較的小さい範囲の包含層からまとまって出土している。自然遺物には、獣骨片、炭化種子、炭化材があり、獣骨片・炭化種子については同定分析を加えている(第Ⅶ章-4・5節参照)。

(熊谷仁志)

第II章 遺跡の位置と環境

北海道の中央部に「石狩低地帯」または「札幌苫小牧低地帯」と呼ばれる標高25m以下の低地帯がある。この低地帯は古くから太平洋と日本海を結ぶルートとなっていた。また、縄文時代を通じて道東・道北と道南の文化圏が重なる地帯でもあった。この低地帯の南東縁に馬追丘陵がある。長沼町、由仁町、千歳市、追分町、早北町にまたがるこの丘陵は、南北方向に約30kmと細長く、標高は150m前後で、丘陵の最高点は北側に位置する馬追山の標高は273mである。馬追丘陵の西側は広大な湿原地帯で中央部を千歳川が蛇行して流れ、江別市で石狩川に合流して日本海に流れ下っている。

キウス4遺跡は千歳市街地から北東へ約8km離れた、馬追丘陵の西裾に位置する。キウス4遺跡の東側に千歳市と長沼町を通る国道337号線が走り、道路に沿って南長沼用水が流れている。

かつて、馬追丘陵と千歳川の間には長都沼（オサツトー）、馬追沼（マオイトー）の沼地が形成され、丘陵から流れてきた小河川が沼に流入し、沼から千歳川に通じていた。昭和26～44年に長都沼の干拓事業に付随する灌漑排水事業により長都沼、馬追沼の埋立て及び河川の切り替えが行われ、丘陵の西側は農耕地となり様相を一変させている。

キウスの名の由来について、永田方正著「北海道蝦夷語地名解」は「キウシ 鬼茅多キ處 川ノ名」と記載している。松浦武四郎著「丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌 丁巳第十五巻由宇発利日誌巻の二」では「キユウシ 小川、巾三間計。」とある。

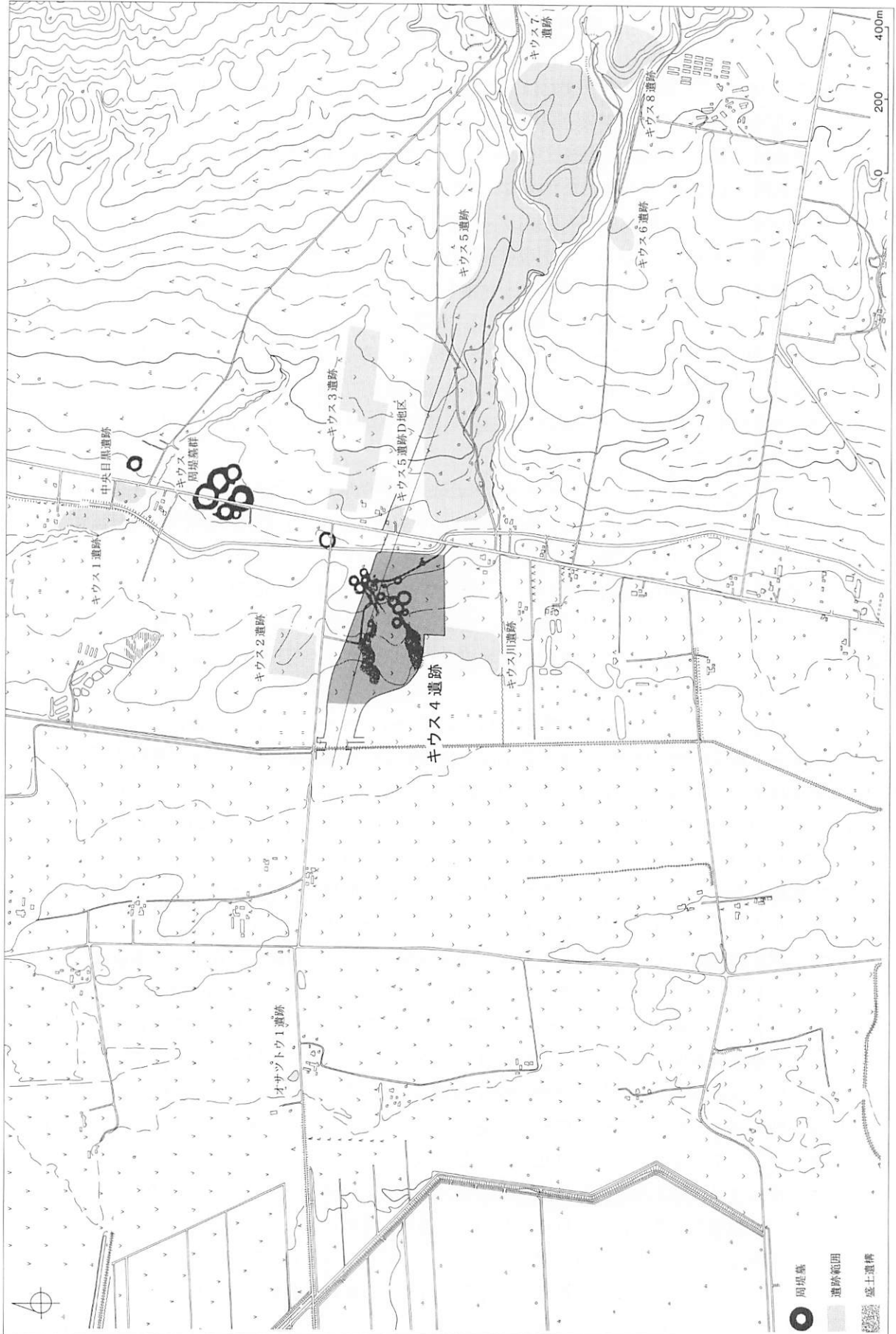
地形は国道から東側が丘陵西裾の緩斜面で、国道から西側のキウス4遺跡にあたる場所は扇状地地形となっている。Q地区は扇状地の先端部に位置し、西側は湿地に面している。調査前には遺跡周辺の緩斜面は畑地に、西側の平坦な低湿地は水田にも利用されていた。また、畑地の間には広葉樹の林が所々に残っている。

花粉分析（山田1997）や珪藻遺骸群集の分析（志賀1997、1998）で、環境の復原がなされている。それによると、縄文時代より前には水流の少ない池沼からやや湿原化していったとされる。Ta-c降灰以前の縄文時代について、ヤナギ類を主とした灌木の河畔林が分布する陸域で幾分湿った環境とされ、水草などの育つ水域が近くにあったと推定されている。また、時々近くの河川の氾濫を被ることがあったと推察している。Ta-c降灰以後は流れのない池沼から弱い流れのある湿原となり泥炭が形成されていった過程が明らかにされている。キウス4遺跡の西側に広がる低地は水没状態から徐々に湿地化し遺跡の立地する緩斜面は乾燥して利用しやすくなっていったと考えられる。

キウス4遺跡周辺は、中央目黒遺跡、キウス周堤墓群、キウス1遺跡からキウス8遺跡までと、キウス川遺跡、北側に約2km離れてイカベツ2遺跡が、南側に約1.5km離れて丸子山遺跡が、西側に約1km離れてオサツトー1遺跡がある。この中で、既に調査が部分的にも行われている遺跡はキウス周堤墓群の一部（縄文後期末葉）、キウス4遺跡（本遺跡、旧石器、縄文早期～晩期、続縄文、擦文、アイヌ文化期）、キウス5遺跡（縄文早期～晩期、続縄文、擦文）、キウス7遺跡（旧石器、縄文早期・中～晩期、続縄文）、丸子山遺跡（旧石器、縄文早期から晩期前半、続縄文、擦文）、オサツトウ1遺跡（縄文早期・中～晩期、アイヌ文化期）などである。

キウス4遺跡では、縄文時代後期末葉が主体で、遺構は住居跡の一部をなす柱穴状ピットが多数のほか、貯蔵穴、周堤墓、墓壙、北と南の2列の盛土遺構、多数の焼土などが調査されている。

縄文時代後期は遺跡数が増え、遺跡間の距離がさらに近くなり1kmの範囲に数カ所づつ纏まりで捉えられるようになる。また、後期末葉には周堤墓と言われる独特な墓域が造られ、キウス4遺跡の北東側に位置する国指定史跡キウス周堤墓群で多数みられる。（谷島由貴）



図II-1 周辺の遺跡と地形

第三章 遺構の調査

概要

調査区は、キウス4遺跡の南西部に位置している。北西側は平成9年度に調査を実施したH・K地区、南東側は南側盛土遺構や柱穴状ピットが検出されたR地区に隣接する。南西側に向かって緩やかに傾斜し、先端は急斜面の段丘崖になっている。遺構はこの段丘崖に沿って検出された。

遺構は現地調査で竪穴式住居跡34軒、土坑289基、柱穴状ピット4,728基、溝状遺構1基、焼土84カ所・杭列が検出された。

そして、整理作業において竪穴式住居跡、土坑、柱穴状ピット、焼土等に組み合わせが認められるもの（建物）があり、建物を設定した。

竪穴式住居跡は、3軒検出した。縄文時代中期中葉のもの2軒、時期不明のもの1軒である。時期不明としたものは周溝のみを検出したものである。

建物は、110軒検出した。ほとんどは耕作・削平によって壁や床面を消失しているが、出入口状ピット・焼土・支柱穴・壁柱穴等の配列によって確認した。建物は、柱穴間の長軸が5m以上の大形のもの、長軸が5～4m前後の中形もの、3～2m前後の小形ものがあり、支柱穴も長軸60cm～1mを越える大きなもの、60cm以下の小形ものが認められる。大形の建物は、ほぼ同一地点で複数の重複が認められながら段丘崖に沿って2～3列確認され、小形の建物は、段丘崖の縁辺部及び大形の建物列の間から多く検出されている。そして、列をなす大形の建物と小形の建物の切り合い関係は、大形の建物同士の切り合いに比べ少ない傾向が認められている。出入口施設のほとんどは、建物の東側から検出された。また、4本一組の柱穴のいずれからも多量の炭化したドングリが検出されたものもあった。

墓壇は、8基検出した。分布にはまとまりが認められなかった。平面形は円形、隅丸長方形、楕円形のものがある。人骨の残存状況が比較的良好で埋葬姿勢がわかるもの、壇底に赤色顔料や炭化物が認められたもの等がある。いずれも副葬品が出土しなかった。

フラスコ状ピットは、3基検出した。覆土中に多量の焼土が認められ、焼土中から焼けていない人骨と思われる小骨片が検出されたもの、堂林式土器がまとまって出土したもの等がある。

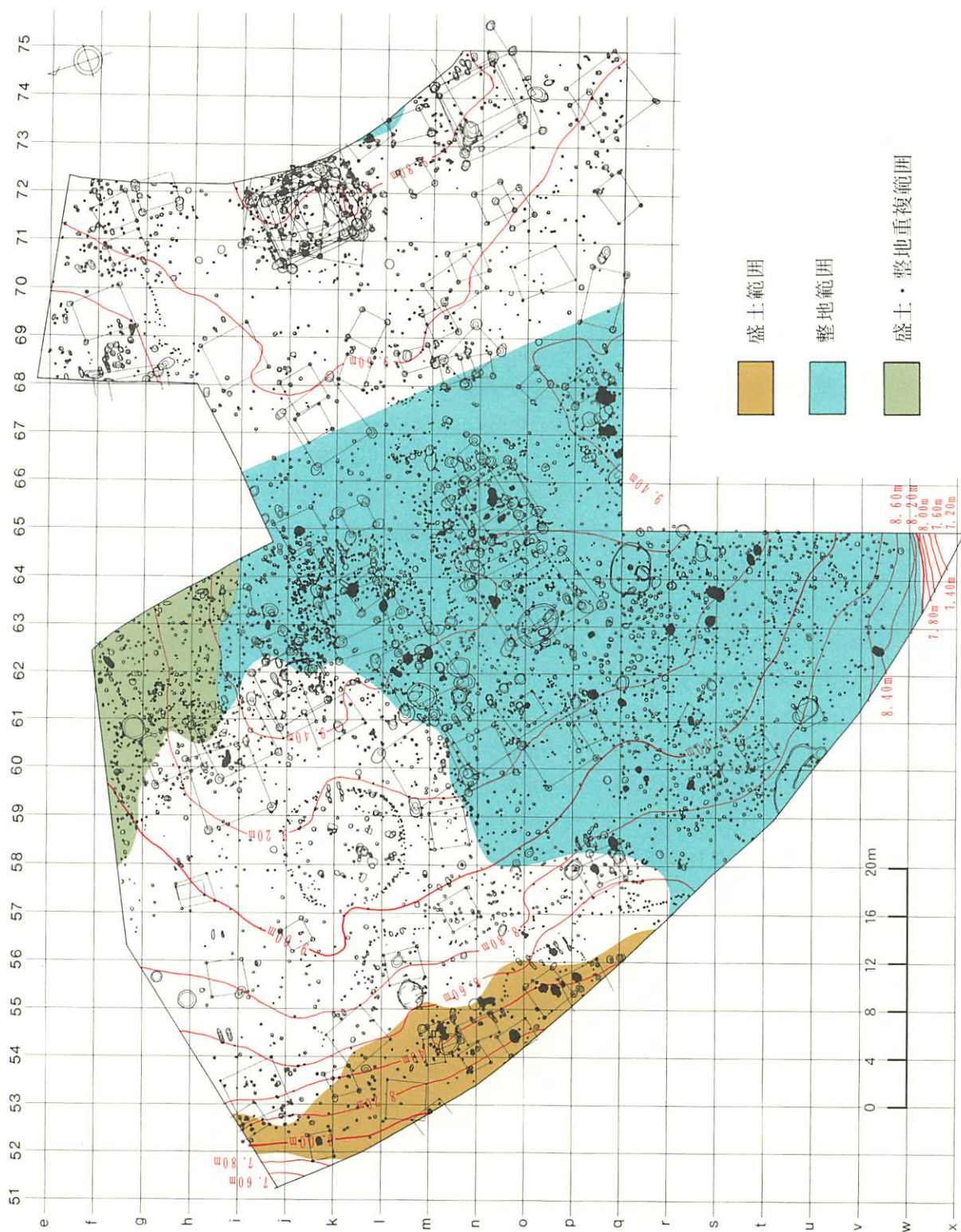
土坑には、用途不明の土坑・大型の柱穴・ロームピットがある。用途不明の土坑は、26基検出され、断面形が浅い皿状のもの、矩形のもの等がある。浅い皿状ピットには2個体の入江式とタップコプ式が共伴して出土したものが認められている。この入江式とタップコプ式の共伴は、道南・道央部の土器編年を考える上で貴重な資料といえる。大型の柱穴は60基である。現場段階で土坑289基検出され、その後、規模・形状・覆土の状態から柱穴跡と判断されたが、建物としての組み合わせが認められなかったものである。その規模や形状はさまざまである。ロームピットは33基（土坑：9、柱穴状ピット：24基）検出したが、9基のみを調査した。いずれもTa-d層を掘り込み、覆土は、ほとんど汚れのないロームである。

柱穴状ピットは、4,728カ所検出された。うち964カ所が組み合わせが認めれ建物として扱われ、先述したロームピットの24カ所を除き、所属不明の柱穴状ピットは3,764カ所である。柱穴状ピットには支柱穴と支柱穴がある。攪乱がVI～Ⅷ層まで及んでいるため一概にいけないが、分布が段丘崖に沿って検出された建物列の部分から多く認められたこと、支柱穴・焼土等の遺構を伴わないが円形ないし楕円に配列が認められることから、これらの柱穴状ピットのほとんどは、建物との帰属関係が判別できなかった壁柱穴と考えられる。

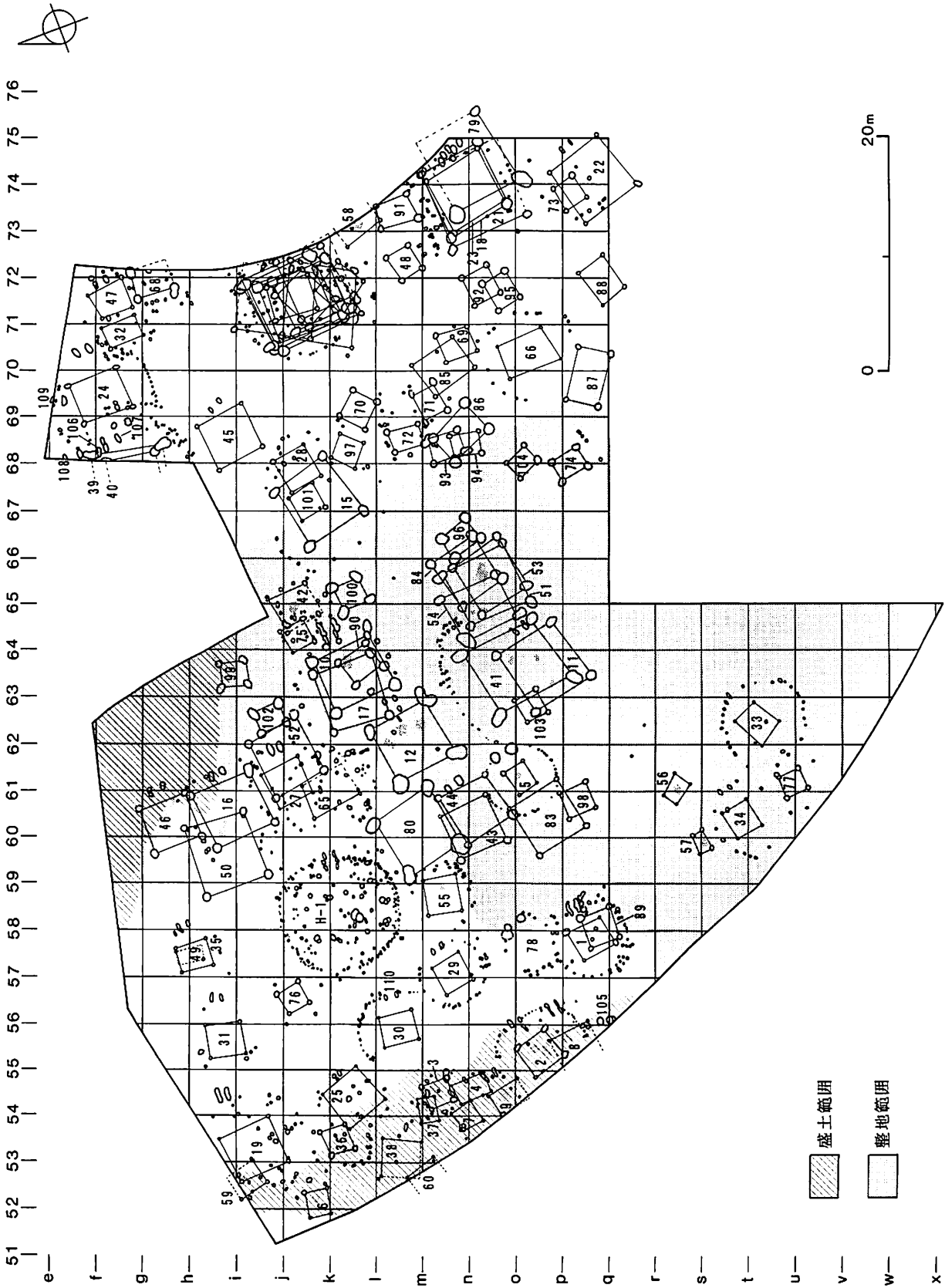
焼土は84カ所検出され、うち31カ所は建物に伴い、53カ所については帰属不明である。

このほかに溝状遺構1基、杭列が検出されている。

1 豎穴式住居跡

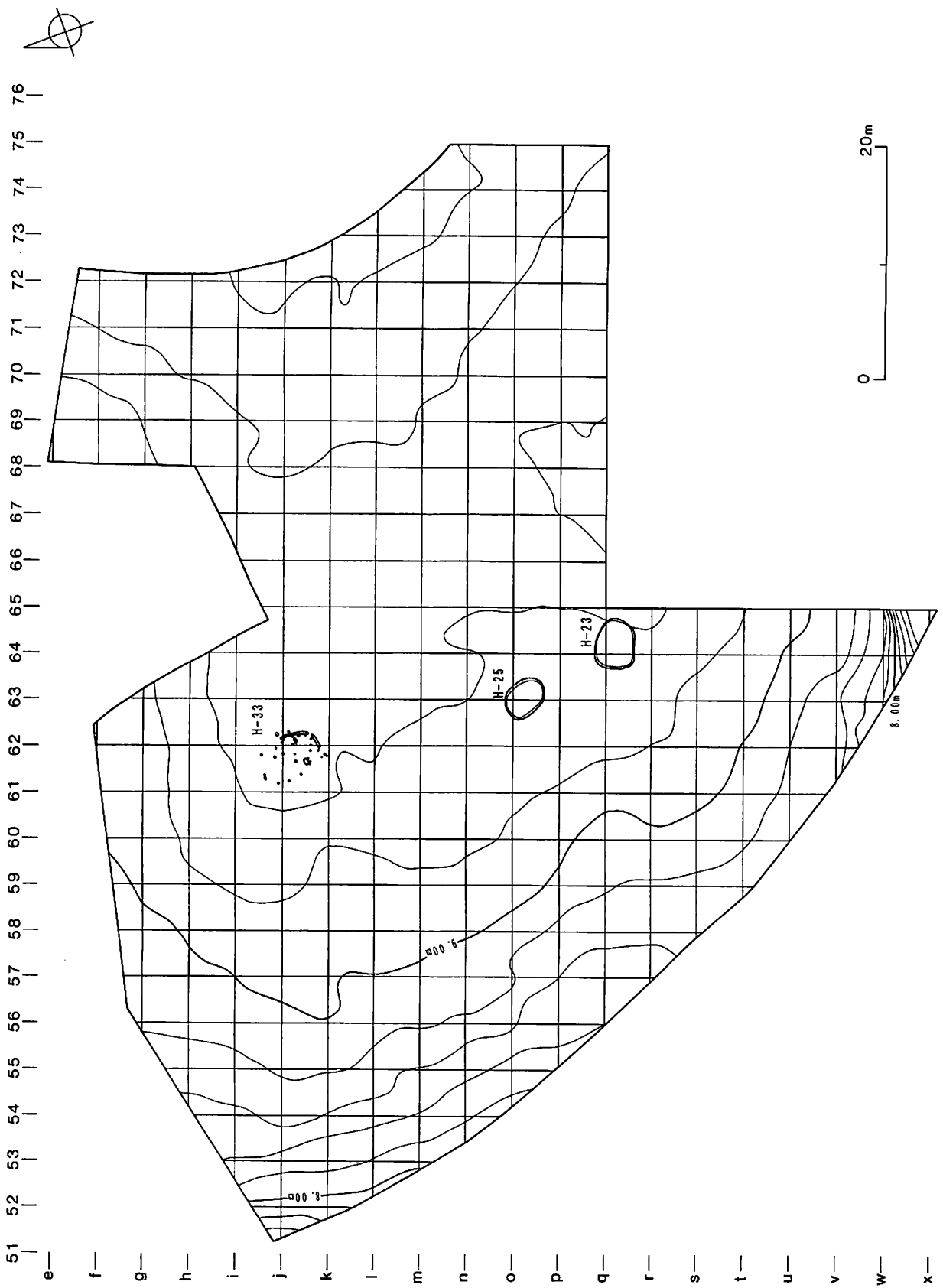


図Ⅲ-1 遺構と地形



図III-2 建物と盛土・整地

1 豎穴式住居跡



图III-3 豎穴式住居跡配置

1 竪穴式住居跡 (図V-2~6 図版7~10・図版75)

竪穴式住居跡は、縄文時代中期後半2軒(H-23・25)、時期不明のもの1軒(H-33)が検出された。いずれも標高9.4m前後に分布する。中期中葉のものは、明瞭な掘り込みが確認され、床面・床面直上等からⅡ群b-2類の土器が出土し、ほぼ同時期と考えられる。時期不明としたものは、掘り込みは確認されず、南西側に浅い周溝の一部が検出された。

LH-23 (図V-2・3 図版7~8-2・図版75-1)

位置 p・q-63・64

規模 4.26/3.84×3.40/3.22×0.18

特徴 不整形円形であるがやや隅丸方形に近い竪穴式住居である。床面直上の数カ所からややまとまった量の炭化材や炭化物が広い範囲で見つかった。このことから焼失家屋を想定して調査を行った。この遺構の上面は整地によって削平されており、上部は欠失している。

LP-23・211と重複し、これより古い。重複するLP-23とLP-211の調査後に、Ⅷ層上面で円形に広がる暗褐色土の落ち込みを確認した。大きさから住居跡の可能性があるととして土層観察用のベルトを残して調査を行った。覆土は粘性のやや高い暗褐色土で、東側の覆土上半には黒褐色の腐植土が一部含まれる。この覆土を約18~19cm掘り下げたところから床面を検出した。Ⅷ層を掘り込んだ床面にはやや凸凹があり、そこから壁は緩やかに立ち上がる。床面のほぼ中央からは約5cm程掘り込んだ炉跡を確認した。これに伴う石組み等はない。また、床面の調査後、柱穴と思われるものを12基調査した。いずれも浅く不確定なものが多いが、このうちHP-4は深さ約23cmでもっとも深い。

焼土 HF-1を長軸中央部で確認する。Ⅷ層中に構築された床面を浅く掘り込んでいる。

土層 H-23 覆土1層：灰褐色土、しまり弱く粘性やや強い。覆土2層：黒褐色土、しまり弱く粘性強い。覆土3層：暗灰褐色土、しまり強く粘性強い。下位に炭化材を含む。

H-23HP-1・2・8・9・12 覆土1層：赤褐色土、しまり弱く粘性弱い。

H-23HP-3 覆土1層：暗褐色土、しまりやや弱く粘性弱い。

H-23HP-4・6・7・10・11 覆土1層：黒褐色土、しまり弱く粘性強い。

H-23HP-5 覆土1層：暗褐色土、しまりやや強く粘性強い。

HF-1 覆土1層：暗赤褐色焼土、炭化物少量含む。

遺物 遺物は44点出土した(炭化材を除く)。土器は25点で、Ⅰ群b類が覆土中から3点、床面直上から1点、Ⅲ群b類が覆土中から6点、床面直上から5点、Ⅵ群c類が覆土中9点、床面直上から1点である。石器類は19点出土した。このうち剥片が覆土から9点、床面直上7点、石皿片が覆土から2点、礫・礫片が覆土から1点出土した。

土器 1・2ともに覆土から出土した口縁部の破片で、Ⅲ群b-2類土器である。1は口唇に竹管状工具による斜め方向からの刺突が施され、並行する4本の沈線が引かれている。2の器面には細い棒状工具による斜めからの刺突が施される。

石器 3は覆土中から出土した接合資料で、砂岩の石皿片である。扁平な素材の両面を使用し、中央部がやや薄くなっている。

時期 縄文時代中期後半柏木川式土器の時期のものと考えられる。

なお床面直上から採取した炭化材の一部を放射性炭素年代測定を依頼した結果、以下の値が得られた(第Ⅶ章3節参照)。

補正¹⁴C年代 4200±50BP

(笠原 興)

1 竪穴式住居跡

H-25 (図V-4・5 図版8-3~10-2・図版75-2)

位置 n・o-62・63

規模 3.90/3.56×2.84/2.49×0.26

特徴 P-277、SP-997~999・2398・3688・3707・3782・3814・3832~3835と重複しており、これらより古い。また、P-278と重複しており、これより新しい。

整地層除去後のⅦ層上面で、黒色~黒褐色土および暗灰褐色土の落ち込みとして確認した。当初、複数の切り合う土坑を想定し、最も新しいと思われた楕円形の黒色の落ち込みを半截したところ、3基(P-997~999)の柱穴状ピットを確認した。この際、SP-997の壁面においてⅦ層が被熱した焼土と、それを覆う暗灰褐色の土層を確認したことから、黒色系覆土の土坑・柱穴状ピットに切られる竪穴の存在を想定し、再度平面形を確認した後、土層観察用のベルトを残し掘り下げを行った。前述のとおり、竪穴を切る土坑・柱穴状ピットも同時に検出したが、作業工程上本遺構の調査を先行した。

平面形はほぼ楕円形である。床面は、大部分はⅦ層上面に、一部Ⅶ層を若干掘り込んで、ほぼ平坦に構築される。壁は緩やかに立ち上がる。

炉は、ほぼ長軸上のやや南寄りに、地床炉がある。柱穴状ピットは床面で9基検出され、いずれも直径は10cm前後、深さはややばらつきがあるが10cm前後が多い。覆土の土色・土質は竪穴自体の覆土と類似する。これらの分布は竪穴の北側に偏っているように見えるが、南側はSP-997~999で大きく壊されているため、失われている可能性がある。

竪穴の西壁際の床面直上から炭化材の細片が集中して出土しており、住居跡に伴う木材の可能性を考え、樹種同定と¹⁴C年代測定を行った(第Ⅶ章3・4節参照)。

焼土 HF-1を長軸上のやや南寄りの床面に確認する。

土層 H-25 覆土1層:黒褐色土、しまり・粘性あり。ごく少量のEn-aPを含む。下位では炭化物を含む。(ほぼ整地2層に相当)。覆土2層:暗黄褐色土、しまり・粘性あり。やや多量のEn-aPを含む。覆土3層:暗灰褐色土、しまりあり・粘性あり。ごく少量のEn-aPを含む。南側ではやや多量の炭化材を含む。覆土4層:橙色焼土、HF-1である。わずかにⅦ層が混入するⅦ層が被熱。

HP-1 覆土1層:灰黄褐色土、しまり・粘性あり。

HP-2・3・4・5 覆土1層:灰黄褐色土、まり弱い。En-aPを含む。

HP-6・9 覆土1層:灰褐色土、しまりやや弱い。

HP-7 覆土1層:灰褐色土、しまりやや弱い。炭化物を含む。

HP-8 覆土1層:暗灰褐色土、しまり弱い。En-aPを含む。

なお、住居跡の層位と遺物の取り上げの際の層位は異なり、遺物の取り上げ層位の覆土1層は上記の覆土1・2層に、遺物取り上げ層位の覆土2層は上記の覆土3層に該当する。

遺物 取り上げ覆土1層から、Ⅳ群c類(6)、剥片(8)、台石・石皿(3)、取り上げ覆土2層から、Ⅲ群b類(1)、Ⅳ群c類(1)、砥石(2)、床面直上からⅢ群b類20)、剥片(1)、石斧(2)、軽石(1)、計46点出土している。

取り上げ覆土1・2層からは砥石や石皿(図V-5-4・5・6)が出土しているが、いずれも本遺構に伴うものではない。床面直上から出土した遺物のうち、石斧2点(図V-5-2・3)は、いずれも床面からはやや浮いており、かつ2は炉の上位から出土していることから、厳密には本遺構には伴わないものと思われる。竪穴東側の壁近くから出土したⅢ群b-2類土器(図V-5-1)は本遺構に伴うものである。また、図示していないが、床面直上から灰色を呈する硬質のこぶし大の軽石が出土しているが、En-aPに由来するものではなく、持ち込まれたものと思われる。

土器 1は、床面直上から出土したⅢ群b-2類土器である。口縁部付近から底部近くまでが本遺構から出土したもの、底部は付近のo-65の整地2層から出土したものである。接合はしていないが、同一個体と判断した。口縁を欠失するが、筒型の深鉢土器である。器形は、口縁が外反し、胴部下半で膨らみをもち、底部は張り出す。口縁付近には現存で3条の平行沈線が巡り、胴部～底部にはR Lの斜行縄文が施されるのみである。器壁は厚手で胎土に砂粒を含む。焼成はやや悪い。器表は主に橙色で口縁付近のみ黒褐色、内面は黒褐色を呈する。内面調整は横方向であるが、雑で、特に下半部で凹凸が残る。

石器 2・3はともに床面直上から出土した緑色泥岩製の石斧4類である。2は基部を欠損する。粗割・すりによる調整が認められる。ばち形を呈すると思われる。3は刃部を欠損する。同じくばち形のように、粗割・すりによる調整が認められる。断面はカマボコ状を呈する。4・5はともに覆土2層から出土した砂岩製の砥石である。4は表裏ともに使用されている。5には、浅い溝状のすり痕や、敲打痕が部分的に見られる。6は覆土1層から出土した砂岩製の石皿である。上面および両側面に凹状の使用痕が認められる。稜線部分には、整形のためと思われる剥離が加えられている。

時期 床面直上出土の土器から、縄文時代中期後葉、Ⅲ群b-2類土器の時期である。

また、床面直上出土の炭化材の¹⁴C年代測定の結果、以下の値が得られている（第Ⅶ章3節参照）。

補正¹⁴C年代 4250±50BP

これは、上記の年代と矛盾しない。

（柳瀬由佳）

H-33（図V-6 図版10-3）

位置 i・j-61・62

規模 -/-X-/-X-

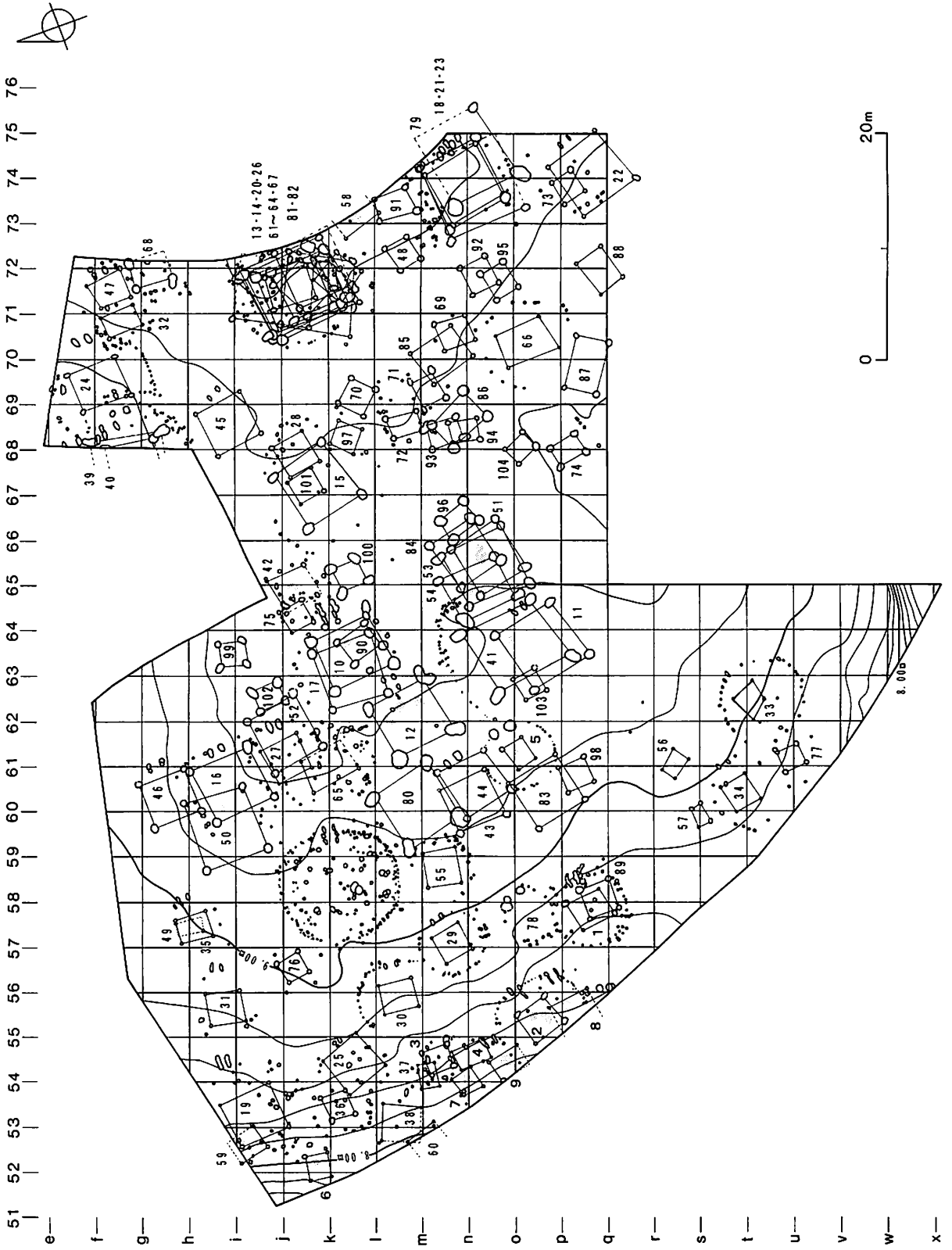
特徴 Ⅶ層の調査中に断続的に続く2本の溝状の暗黄褐色土の落ち込みを確認した。建物27・52と重複している。平面形は「逆く」字状、長さは2.40mと1.35m、深さ4～6cmほどである。この溝状ピットは、竪穴式住居跡の壁内側を巡る周溝と考えられる。この溝状ピットが伴ったと考えられる竪穴式住居跡の平面形は、長軸を南-北にもつ、長円形と推定される。そして長軸は約4.00m、短軸約3.50m程になるものと考えられる。

柱穴状ピット 周辺から多くの柱穴状ピットが確認された。いずれも深さ10～20cmと浅いものが多く、明瞭に帰属関係を特定できなかったが、SP-1048・1054・1093・3461～3465・3467・3468・3470・3472～3474・3476・3477・3479～3484・3488・3489・3514～3516・3521～3526・3532・3533・4521・4524・4541・4542・4544からなる。主柱穴を特定することができなかったが、全体形として長円形に配置される傾向が窺える。そのうち西側から検出された3514ないし3415・1903・1053・3488・1048・3479については約1m間隔に配置されている。

土層 H-33（a-a'・b-b'） 覆土1層：明褐色土、En-aL主体。わずかに黒みを帯びる。

遺物 H-33からは遺物が出土していない。柱穴状ピットの1093の覆土からⅣ群c類（1）、3472の覆土からⅣ群c類（1）が出土している。

時期 時期を示す遺物がないため不明であるが、竪穴式住居跡内の壁際に溝が巡ること、平面形が長円形であることから縄文時代中期後半から後期前半の可能性はある。（熊谷仁志）



図III-4 建物配置

2 建物 (図V-9~152 図版11~47-3・図版76~103-6)

建物は110軒確認した。現地で確認した一部のものを除き、ほとんどのものは耕作・削平によって壁や床面を消失し、出入口ピット・支柱穴・焼土・壁柱穴等の配列・組み合わせによって図面上で確認したものである。

建物は、大形の支柱穴の組み合わせからなるもの、細く小形の支柱穴の組み合わせからなるものに分けられる。規模は、長軸柱穴間の距離が5m以上の大形のもの、5~4m前後中形のもの、3~2m前後の小形のものがある。建物には調査区全域から検出されているが、同一地点で複数の重複が集中する地点が数箇所認められ、その分布は、標高9.4m前後と標高9.8m前後の所に大形支柱穴をもつ建物の重複が集中する地点がほぼ20mの間隔をもちながら段丘崖に沿って2列確認され、小形・中形の支柱穴の建物は、大形の支柱穴の建物列の間に1列、調査区西側の段丘崖に縁に沿って2列、計3列認められる。出入口は、建物の東側にもつものがほとんどで、調査区西側の段丘崖を背にして、弧状に分布するような傾向が認められている。この他に炭化した柱根が確認されたもの。4本一組のいずれの柱穴からも多量の炭化したドングリが検出されたもの等もあった。

そして、土坑の柱穴や柱穴状ピットは、建物としての組み合わせが認められなかったものがある。したがって、建物の軒数はもっと多いものと考えられる。

建物1 (図V-9・10 図版11・図版76-1)

位置 o-57・58、p-56・57・58、q-57・58

規模 3.16×2.70 外周 6.77×6.56

特徴 H-12として調査した支柱穴・出入口・壁柱穴と、これに伴うF-5からなり、現場で確認した。I層除去後のV層最下部付近で、q-58の杭を中心に、F-4~7を検出した。周辺を精査したが、竪穴等の痕跡は認められなかった。F-5にかかるベルトを設定し、周囲をVI層上面付近まで掘り下げたところ、円形にめぐる壁柱穴などを検出し、F-5を伴う建物であることを確認した。

HP-3がP-188と重複し、これを切っていることから、本遺構はP-188より新しい。また、P-2・4と重複するが、新旧は不明である。

支柱穴間の距離が3mほどの中形の建物である。4基一組の支柱穴、2基一対の出入口、炉と思われる焼土、ほぼ円形に巡る壁柱穴からなる。HP-8・9・56・66・77・78・79・82は、現場段階ではH-12として調査したが、位置的には本来本建物に伴うものではなかったと思われる。また、HP-57・58は、その位置から壁柱穴として扱ったが、他の壁柱穴と比較して深いことから、本遺構には伴わない可能性がある。

床面は、炉であるF-5を検出したVI層上面付近と思われる。検出面の直上まで耕作による攪乱を受けていたため、竪穴の有無は不明である。

支柱穴 H-12HP-3・4・5・6からなる。長径3.2mほどで、長軸方向が建物の軸方向と一致する長方形ぎみに並ぶ。坑底はⅧ層を掘り込んで構築される。

H-12HP-3 平面形はほぼ円形。坑底は平坦で、壁は垂直に近い。

H-12HP-4 平面形は楕円形。坑底は平坦で、緩やかに立ち上がり、壁は垂直に近い。

H-12HP-5 平面形はほぼ円形。坑底は丸みがあり、壁は垂直に近い。

H-12HP-6 平面形はほぼ円形。坑底は平坦で、壁は垂直に近い。

出入口 H-12HP-1・2で構成される。検出面はVI層である。東側がやや開く。

H-12HP-1 ほぼ長楕円形で、中央付近が膨らむ。坑底はⅦ・Ⅷ層に構築される2段構造にて、

2 建物

いずれも平坦。

H-12HP-2 ほぼ長楕円形で、中央付近が膨らみ、「く」の字にやや屈曲する。坑底はⅦ・Ⅷ層に構築される2段構造で、概して平坦だが、南側の上段は丸みがある。

焼土 支柱穴・出入口ピットおよび壁柱穴の軸上に位置することから、F-5が本遺構の炉であると判断した。検出面はⅥ層上面である。建物の軸上、やや出入口よりに位置する。SP-4636に切られる。肉眼で骨片が確認できたためフローテーションを行った結果、多数の骨片を検出した。これらの同定を依頼したところ、いずれも被熱しており、哺乳綱のもの、およびサケ科・イヌ科と同定された（第Ⅶ章5節参照）。

壁柱穴 直径6.7mほどの円形に巡る。北半部では一重であるが、南半部では、放射状に2～4カ所の壁柱穴が並び、多重に巡っているように見える。壁柱穴の立て替えの可能性がある。規模は、直径15～20cm前後、深さ20～25cm前後のものが多い。坑底はⅦ層～Ⅷ層に構築されており、丸みのあるものと平坦なものがあるが、後者の方が多い。覆土は暗褐色土や暗灰褐色土の単層のものが多い（表10参照）。

土 層

H-12HP-3 覆土1層：暗灰褐色土、しまりあり。覆土2層：暗褐色土、しまり弱く、ぼそぼそ。

H-12HP-4 覆土1層：暗褐色土。

H-12HP-5 覆土1層：暗褐色土。覆土2層：黒褐色土。覆土3層：暗黄褐色土。

H-12HP-6 覆土1層：暗灰褐色土、下半はしまり弱い。

H-12HP-1 覆土1層：暗褐色土。

H-12HP-2 覆土1層：灰褐色土。

F-5 覆土1層：明赤褐色焼土、よく焼けており、骨片が多く混じる。

遺物 全般に少数の散発的な出土である。HP-1は覆土からⅣ群c類（2）、計2点、HP-2は覆土からⅣ群c類（2）、計2点、HP-5は覆土から、Ⅳ群b-4類（1）、Ⅳ群c類（7）、剥片（1）、計9点出土している。このほかH-12からは、各柱穴から出土したものを合わせて、Ⅳ群c類（57）などのほか、HP-25・26・78からたたき石が各（1）、HP-53から石皿・台石（1）など、計84点出土している。F-5は焼土からⅢ群b類（2）、Ⅳ群c類（1）、剥片（2）、原石（1）、計6点出土している。

土器 すべて柱穴状ピットの覆土からの出土である。9はⅠ群b類。短縄文・組紐圧痕文が施される。3はⅣ群a類、入江式。1・10はⅣ群b-4類。1は口縁部破片。2段の刻み列と、突瘤が施される。厚手で、口唇断面は角形である。10は注口の破片で、くびれに2列の刻み列が施され、胴部には木葉文が施される。2・5・7・8・11はⅣ群c類。2・7は胴部、5・8は口縁部の破片。11はHP-58の覆土の上位から、単独で出土した。壺形土器あるいは注口土器の、口縁部から肩部の破片である。口縁は小波状を呈し、口唇断面は肥厚する切出形である。胴部上半には4～5本一組の沈線による文様が施される。

石器 4は橄欖岩製のたたき石で、側縁部の全周にたたき痕が認められる。6は安山岩製のたたき石で側縁の一部が欠損する。12は石鏃で2a類。

時期 遺構の形態・構成と出土遺物から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類堂林式の時期である。

（柳瀬由佳）

建物2 (図V-11・12 図版12・図版76-2)

位置 n・o-54・55・56、p-55・56

規模 2.98×2.90 外周(現存5.89・想定7.14)×8.03

特徴 H-5として調査した、主柱穴のうちの3本、および出入口・壁柱穴は現場段階で確認した。SP-543が主柱穴を構成すること、F-1・2が伴うことは図上で確認した。

I層除去後、o-55でF-1～3・9を検出した。この付近は、盛土遺構の南端部にあたり、この段階ですでに盛土遺構が露出していた。このため、焼土の検出面は盛土遺構上面あるいは盛土遺構中ではあるが、どちらかは不明である。H-5として調査した、主柱穴・出入口・壁柱穴は、盛土遺構およびVb層の調査終了後、VI～VII層で検出した。焼土検出面の直上まで耕作による攪乱を受けていたため、竪穴の有無は不明である。

主柱穴間の距離が3mほどの中形の建物である。4基一組の主柱穴と、2基一対の出入口、炉と思われる焼土、壁柱穴からなる。床面は、焼土の検出面である盛土遺構上面あるいは盛土遺構中と思われる。焼土検出面の直上まで耕作が及んでいたため、掘り込みの有無は不明である。建物8と重複しており、直接の切り合い関係は認められないが、建物8に伴うF-22が盛土遺構の下位から検出されていることから、本遺構は建物8よりも新しい。

壁柱穴は、一部が調査区外にあるため、規模・形態は明確ではないが、調査区内の形態からは、長軸が北西-南東方向の隅丸長方形で、長径は8.03m、短径は7.1mほどになるとと思われる。

なお、H-5として調査した柱穴状ピットのうち、HP-34・39は、その位置から建物8に伴う可能性が強いと考え、建物8として扱った。また、HP-5はその規模から、本来は本建物には伴わない可能性が強い。

主柱穴 H-5 HP-3、SP-543、HP-6・45、HP-4からなる。3mほどの方形に並ぶ。HP-3・4は、開口部が楕円形で、坑底は円形で偏り、いわゆる片流れ状を呈する。

H-5 HP-3 平面形は、開口部で楕円形、坑底では円形。坑底は丸みがあり、壁は概して垂直に近いが、南側では開く。

SP-543 平面形はほぼ円形。坑底は凸状で、壁は垂直に近い。

H-5 HP-6 平面形は不正な円形。坑底は平坦で、壁は開く。HP-45と重複するが、新旧は確認できなかった。

H-5 HP-45 HP-6と大部分が重複するため、開口部の形状は不明である。坑底はほぼ円形。残存部では壁はやや開く。

H-5 HP-4 平面形は、開口部で楕円形、坑底では円形。壁は概して垂直に近いが、南側では段をもち、大きく開く。

出入口 H-5 HP-1・2からなる。形態はやや異なるが、位置と覆土の類似から出入口と判断した。ほぼ平行に並ぶが、東に向かってやや開く。

H-5 HP-1 開口部・坑底ともに楕円形で、坑底は平坦、壁は概して垂直に近い。

H-5 HP-2 開口部は楕円形、坑底はほぼ円形で、西へ傾斜する。立ち上がりは急で、壁はやや垂直に近いが、東側では中程で屈曲して大きく開く。

焼土 主柱穴・出入口・壁柱穴の軸上で、やや出入口よりに位置することから、F-1が本建物の炉であると判断した。また、近接するF-2についても、他の建物に付属しておらず、かつ主柱穴の内側に位置していることから、本遺構に伴う可能性が高いと判断した。ともに非常によく焼けており、F-2では、焼土上の褐色土および焼土中に骨片が観察できたため、フローテーションを行ったところ、

2 建物

多数の骨片を検出した。これについて同定を依頼したところ、すべて被熱しており、哺乳綱のもの、およびサケ科椎骨、ニホンジカと同定された（第七章5節参照）。

壁柱穴 4分の1ほどが調査区域外にかかっているが、調査区内の形態から隅丸長方形であるものと考えられる。検出面はVI～VII層である。規模は、直径10～14cmほど、深さはばらつきが大きい、20cm前後のものが比較的多い。覆土は暗灰褐色土でEn-aPを含まないものが多数を占める（表9参照）。

土層

HP-3 覆土1層：暗褐色土、粘性・しまりあり。少量のEn-aPを含む。覆土2層：灰黄褐色土、粘性・しまりあり。覆土3層：暗黄色土、粘性・しまりあり。En-aPを含む。覆土4層：褐色土、粘性あり。しまり弱い。En-aPを含む。覆土5層：暗褐色土、粘性あり。しまり弱い。En-aPを含む。覆土6層：黒色土、粘性あり。

SP-543 覆土1層：暗黄褐色ローム質土。

H-5 HP-6 覆土1層：褐色土、やや多量の、～1cmほどのEn-aPを含む。覆土2層：暗灰褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土3層：灰褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

H-5 HP-45 覆土1層：灰黄褐色土。覆土2層：暗褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土3層：暗黄褐色土、En-aPを含む。覆土4層：黒褐色土。

H-5 HP-4 覆土1層：褐色土。覆土2層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土3層：灰黄褐色土、しまり弱い。覆土4層：暗黄褐色土、En-aPを含む。覆土5層：暗褐色土、しまりやや弱い。

H-5 HP-1 覆土1層：暗灰褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：灰黄褐色土、～2cmほどのEn-aP主体。覆土3層：暗褐色土。

H-5 HP-2 覆土1層：暗褐色土、やや多量のEn-aPを含む。ごく少量の骨片・炭化物を含む。

F-1 覆土1層：橙色焼土、よく焼ける。覆土2層：暗橙色焼土、焼けは弱い。

F-2 覆土1層：褐色土、多量の骨片を含む。覆土2層：暗橙色焼土。覆土3層：橙色焼土、よく焼ける。覆土4層：暗橙褐色焼土、焼けは弱い。

遺物 全般に少数の散発的な出土である。HP-3は覆土から、IV群c類（8）、Rフレイク（1）計9点、SP-543は覆土から、IV群c類（2）、計2点、HP-6は覆土から、I群b類（1）、IV群c類（11）、剥片（2）、礫・礫片（1）、土製品（1）、計16点、HP-45は覆土から、IV群c類（5）、計5点、HP-4は覆土から、IV群c類（11）、石鏃（1）、剥片（1）、たたき石（1）礫・礫片（1）、計15点、HP-1は覆土から、IV群c類（7）、計7点、HP-2は覆土から、IV群c類（13）、Rフレイク（1）、剥片（1）、計15点、それぞれ出土している。このほかH-5の各柱穴から合わせて、IV群c類（33）などのほか、HP-10から石鏃（1）、HP-30からすり石（2）など、計48点出土している。F-1は焼土から、IV群b-4類（1）、IV群c類（26）、剥片（2）礫・礫片（1）、計30点、F-2は焼土などから、IV群c類（10）、礫・礫片（1）、計11点、それぞれ出土している。

土器 1はF-1から出土したIV群b-4類。深鉢のくびれから無文帯にかけての破片で、刻み列をもつ。4はH-5 HP-6の覆土から出土した紐状の焼成粘土塊である。

石器 2・3は石鏃。3は基部とかえしを欠損する。5は橄欖岩製で、たたき痕もあるが、すり石として扱った。側縁部のほぼ全周に使用痕が認められる。

時期 遺構の形態・構成と出土遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類堂林式の時期である。

（柳瀬由佳）

建物3 (図V-13・14 図版13・図版76-3)

位置 1-54、m-53・54・55

規模 2.22×2.08 外周 3.60×3.80

特徴 盛土遺構の下で確認した。支柱穴以外は図面上で確認した。入口側の広い台形に配列された4基一組の支柱穴をもつ。東側に一对の入口を有する。出入口の対面に二重の弧状を呈する壁柱穴がある。

支柱穴 H-3HP-1・2・3・4で構成される。

H-3HP-1 Vb層で確認した。平面形は楕円形、断面形は坑底が平らで北西側の下半がオーバーハングし上半は開き気味である。上部の北側はP-19を切る。また、上部の東側は建物7の入口にあたるH-15HP-1と重複するが前後関係は判らない。

H-3HP-2 Vb層で確認した。平面形は円形、断面形は坑底に丸みをもちほぼ垂直に立ち上がり、上半は開き気味である。上部の南側はP-19を切る。

H-3HP-3 Vb層で確認した。平面形は円形、断面形は坑底が平らで開き気味に立ち上がる。P-18を切って構築されている。

H-3HP-4 Vb層で確認した。平面形は円形、断面形は坑底が平らで、北西側の下半がオーバーハングし、上半は開き気味である。H-6HP-1を切っている。

出入口 入口はSP-527・571の対で構成される。

SP-527の平面形は楕円形を呈し、断面形は長軸の両端が深いU字の溝状である。SP-527・3988・3989をそれぞれ単独の柱穴として調査を始めたが、入口に多い楕円形等の形態になることから1カ所とした。

SP-571の平面形は円形で、坑底は丸くやや開いて立ち上がる。

焼土 支柱穴に囲まれた台形の入口よりにF-13は位置する。平面形は東西に長い不整形で断面形は中央部が薄く東側と西側が深くまで焼けている。特に東側の出入口に近い部分は焼土に骨を含み掘り込まれた痕跡があり深さは13cm程である。SP-574・4640を覆っている。

壁柱穴 西側に二重の弧状を呈する壁柱穴がみられる。西側の支柱穴間中央の外側で検出された572は楕円形を呈するものである。南東側の支柱の外側に528・529が検出されている。506と565の深さは20cm程であるが、他の深さは10cm程である。508と3980は重複しているが、大きさ・形態などでみると508が他の柱穴に近似することから、508はこの建物に伴うが3980は関係の無いものと判断される。

土層

H-3HP-1 覆土1：黒褐色土、En-aPを多く含む。覆土2：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。覆土3：暗茶褐色土、En-aPを含む。

H-3HP-2 覆土1：黒褐色土、En-aPを多く含む。覆土2：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

H-3HP-3 覆土1：暗茶褐色土、En-aPを含む。

H-3HP-4 覆土1：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2：暗茶褐色土、En-aPを含む。

SP-527 覆土1：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

SP-571 覆土1：暗茶褐色土、En-aPを含む。

F-13 覆土1：茶褐色土、骨片とEn-aPを含む。覆土2：暗燈色土。覆土3：赤燈色土、骨片とEn-aPを含む。

2 建物

遺物 H-3HP-1は覆土1からIV群c類(1)、覆土2からI群b類(2)、IV群c類(4)、計7点が出土した。H-3HP-2は覆土1からIV群c類(1)が出土した。H-3HP-3は覆土2からIV群c類(2)が出土した。F-13は焼土からIV群c類(1)が出土した。

土器 いずれも覆土から出土している。1はI群b-4類である。短縄文と撚糸文が施される。2・3はIV群c類である。3は突起をもつ口縁部破片で、口唇断面は切出形である。

時期 出土している遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物4 (図V-15)

位置 m・n-54 Q地区の西側に位置する。

規模 2.90×1.80 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の主柱穴をもつ。主柱穴を結ぶ長方形の中に焼土と東側に出入口をもち、2ヵ所の壁柱穴を確認した。土層断面の観察に残したnライン(東西)のセクションベルトに建物の床および壁の立ち上がりを確認した。盛土遺構の下から15cm程掘り込まれ、床面はVb層を掘りぬきVI層から一部VII層まで達する。床面は凹凸がある。中央部に盛土遺構下の攪乱があり床を壊している。西側は建物7と重なる。

主柱穴 SP-523・532・533・568で構成される。

SP-523 平面形は円形、坑底は丸く立ち上がる。

SP-532 平面形は円形、坑底は丸く立ち上がる。

SP-533 平面形は円形、坑底は平らでほぼ垂直に立ち上がり、南側の壁は中程から斜めに開く。西側はH-14HP-1に切られている。

SP-568の平面形は円形、坑底は丸く立ち上がる。

出入口 SP-566・3987で構成される。主柱穴を結ぶ長方形の東側の線に566は中程までかかる。

SP-566 平面形は西側の広い溝状、坑底は半円筒状で中央部東よりに円形の一段低い部分がある。

SP-3987 平面形は円形、坑底は丸く上部が開くボール状である。

焼土 F-14が主柱穴を結ぶ長方形の中央部やや東よりに位置する。平面形は円形、7cm程赤く変色している。

壁柱穴 SP-534・4396の2ヵ所の壁柱穴が確認された。534が4396を切っている。どちらがこの建物に伴うか確認できなかった。

土層

建物 覆土1層：灰黒褐色土、En-aPを多量に含む。

SP-523 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

SP-532 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-533 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

SP-568 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

SP-566 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色ローム質土。覆土3層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-3987 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

F-14 覆土1層：暗燈色土

遺物 F-14は焼土からIV群c類(2)が出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物5 (図V-16・17 図版14-1~4・図版77-1)

位置 n-60・61・62、o-60・61

規模 2.26×1.92 外周 5.91×6.30

特徴 図上で判断した。主柱穴間の距離が2mほどの小形の建物である。4基一組の主柱穴と、出入口、炉と思われる焼土、壁柱穴からなる。検出層位は、Ⅷ層もしくはその直上の整地2層である。炉と判断したF-34の検出層位の整地2層下位が、本遺構の床面に相当すると思われる。

主柱穴 SP-2309・968・879・882からなる。長軸2.2mほどで、長軸方向が建物の軸方向と一致する、ほぼ長方形であるが、出入口方向に向かって若干開く。SP-2308は、その位置から2309との立て替え関係にある可能性があると思われる。

SP-2309 平面形は円形。坑底は丸みがあり、壁はやや開く。

SP-2308 平面形は円形。坑底は丸みがあり、壁は垂直に近い。

SP-968 平面形はほぼ円形。坑底は平坦で、壁はやや開く。

SP-879 平面形は楕円形に近い。坑底は丸みがあり、壁は開く。

SP-882 平面形は円形。坑底は尖り気味で、壁は開く。

出入口 P-149・142の円形の土坑からなる。検出面がほぼ同一で、規模・形態が非常に類似していることから、対になるものと判断した。

P-149 整地2層で検出した。整地2層を切ると思われる。SP-5003に切られる。平面形はほぼ円形である。坑底はⅧ層を掘り込んで構築され、平坦である。5003によって一部壊されている。立ち上がりは急で、壁は若干開く。

P-142 Ⅷ層上面で検出した。P-149とほぼ同時に検出している。坑底はⅧ層を掘り込んで構築され、平坦である。立ち上がりはやや緩やかで、壁は垂直に近い。

焼土 F-34が、主柱穴・出入口・壁柱穴の軸上に位置することから、F-34が本建物の炉であると判断した。軸上のやや出入口よりに位置する。検出層位は整地2層の下位である。

壁柱穴 楕円形に巡っており、軸と直交する方向にやや長い。30ヵ所ほどの柱穴状ピットで構成される。ほとんどがⅧ層で検出されている。規模は、直径15cmほど、深さ10cmほどのものが多い。坑底は丸みのあるものが多い。覆土は、灰褐色土や暗灰褐色土で、En-aPをあまり含まないものが多い(表14~77参照)。

土層

SP-2309 覆土1層：灰褐色土、しまりない。少量のEn-aP・骨片を含む。

SP-2308 覆土1層：灰褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：灰褐色土、しまりなく、ポロポロ。多量のEn-aPを含む。

SP-968 覆土1層：暗黄褐色度：多量のEn-aPを含む。

SP-879 覆土1層：灰褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

SP-882 覆土1層：灰褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。

P-149 覆土1層：褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、しまりない。

P-142 覆土1層：暗褐色土、しまりあり。少量のEn-aP・炭化物を含む。覆土2層：暗黄褐色

2 建物

土、～3cmのEn-aP主体。しまりなく、ボロボロ。覆土3層：暗黄褐色土、しまりあり。少量のEn-aPを含む。覆土4層：黒色土、しまり弱い。少量のEn-aPを含む。覆土5層：黒褐色土、しまりやや弱い。大量のEn-aPを含む。覆土6層：黒色土、しまりあり。少量のEn-aPを含む。

F-34 覆土1層：暗橙褐色土、黒色土と暗赤褐色焼土の混合土。覆土2層：暗赤褐色焼土、En-aPを含む。

遺物 SP-2309・2308・879、P-142からは遺物は出土していない。968は覆土から、IV群c類(3)、剥片(1)、計4点、882は覆土から、IV群c類(3)、計3点、P-149は覆土から、IV群c類(9)、剥片(9)、計18点、F-34は焼土から、IV群c類(1)、計1点が出土している。

土器 いずれも出入口であるP-149の覆土から出土したIV群c類である。1は平行沈線の施される胴部破片。2は突瘤のめぐる口縁部破片で、口唇は丸く整形され、口唇直下の内外面に粘土がかぶっている。

時期 遺構の形態・構成と出土遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。

(柳瀬由佳)

建物6 (図V-18)

位置 j-51・52、k-51 Q地区の西端に位置する。

規模 2.22×1.84 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の支柱穴をもつ。長方形の中に焼土と東側に出入口の片側をもち、2カ所の壁柱穴を確認した。

支柱穴 SP-448・449・451・452で構成される。

SP-448 平面形は円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。

SP-449 平面形は楕円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。北東側の壁はやや斜めに開く。

SP-451 平面形は円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。南西側の壁はやや斜めに開く。

SP-452 平面形は円形、坑底は尖り気味で開いて立ち上がる。

出入口 SP-455は出入口の片側と考えられる。対の反対側は検出されなかった。平面形は円形、坑底は丸く上部が開くボール状である。

焼土 F-20が支柱穴を結ぶ長方形の中央部やや東よりに位置する。平面形は楕円形、約10cm程赤く変色している。上半に骨片を含む。

壁柱穴 SP-450・453の2カ所の壁柱穴が確認された。これらは東側の2基の支柱穴の外側に各1カ所確認した。

SP-450 平面形は円形で坑底は丸みをもつ。深さは14cmである。

SP-453 平面形は楕円形で坑底は丸みをもつ。深さは25cmである。

土層

SP-448 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-449 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-451 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-452 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

SP-455 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

F-20 覆土1層：茶褐色土、骨片を含む。覆土2層：暗褐色土。

遺物 SP-448は覆土からIV群c類(13)。455は覆土からIV群c類(1)、剥片(11)、計12点が

出土した。F-20は焼土からIV群c類(2)、石核(1)、剥片(1)、計4点が出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に築されたと考えられる。
(谷島由貴)

建物7 (図V-19)

位置 m・n-53・54 Q地区の西側に位置する。

規模 1.92×1.88 **外周** -×-

特徴 図面上で確認した。東側の広い台形に配列された4基一組の主柱穴をもつ。主柱穴を結ぶ台形の中に焼土と東側に出入口の片側をもち、2ヵ所の壁柱穴を確認した。東側は建物4と重なる。

主柱穴 SP-530・550・562・564で構成される。

SP-530 平面形は楕円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。

SP-550 平面形は円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。

SP-562 平面形は楕円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。東側の壁はやや斜めに開く。

SP-564 平面形は円形、坑底は尖り気味で開いて立ち上がる。

出入口 H-15HP-1は出入口の片側と考えられる。対の反対側は検出されなかった。平面形は楕円形、坑底は西側が深く段を有する。

焼土 F-28が主柱穴を結ぶ台形の中央部やや東よりに位置する。平面形は東西に長い不整形、10cm程赤く変色している。

壁柱穴 西側主柱のSP-562の傍にSP-511と3983の2ヵ所の壁柱穴が確認された。両者共、平面形は円形で坑底は丸みをもつ。

土層

SP-530 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-550 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-562 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-564 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

H-15HP-1 覆土1層：暗褐色土。覆土2層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物8 (図V-20 図版14-5・6・図版77-2)

位置 o-54・55・56、p-55・56

規模 -×3.72 **外周** -×-

特徴 図上で確認した。4基一組になると思われる主柱穴のうち2基と、2基一組で4基一対の出入口、炉と思われる焼土、壁柱穴からなる。西側は調査区域外にかかっており、規模等の詳細は不明である。本遺構周辺には盛土遺構が分布しているが、焼土の検出面であるVI層が、本遺構の床面に相当するものと考えられることから、本遺構は周辺の盛土遺構以前に構築されたものであると考えられる。竪穴は検出されていない。

主柱穴 H-5HP-34、SP-36からなる。SP-35・37は、その位置と規模から、36との立て替え関係がある可能性がある。本来は4基一組のものと思われるが、調査区域外にかかっているため詳細は

2 建物

不明である。検出した支柱穴間距離は3.7mほどである。検出層位はⅦ層で、いずれも坑底はⅧ層を掘り込んでいる。

H-5 HP-34 平面形は楕円形である。坑底は平坦で、立ち上がりは急、壁は垂直である。

S P-36 平面形はほぼ円形である。坑底は平坦で、立ち上がりは緩やか、壁は垂直である。

S P-35 平面形はほぼ円形である。坑底は平坦で、立ち上がりはやや緩やか、壁は垂直である。

S P-37 平面形はほぼ円形である。坑底は丸く、立ち上がりは緩やか、壁は垂直だが上半で開く。

出入口 溝状の土坑H-24HP-1・2・3・4の4基からなる。検出面はⅦ層であるが、HP-1・2は、平成5年度に行われた事前発掘調査のトレンチの底部で検出した。HP-1・2、HP-3・4でそれぞれ対になり、これがほぼ平行に並ぶことで一組の出入口を構成する。東側に位置するHP-2・4は、それぞれ東端部が一段低くなる2段構造をもつ。覆土は4基とも類似している。いずれも、坑底はⅧ層上面付近に構築される。

H-24HP-1 平面形は長楕円形である。坑底はほぼ平坦であるが南側へ傾斜する。立ち上がりはやや緩やか、壁は垂直に近い。

H-24HP-2 平面形は長楕円形である。東側が一段低くなる2段構造である。坑底はほぼ平坦で、下段の坑底は西側へ傾斜する。立ち上がりはやや緩やか、壁はやや開く。

H-24HP-3 平面形は長楕円形である。坑底はやや丸みを帯び、北側へ傾斜する。中央部で杭状の小ピットが検出された。立ち上がりはやや急、壁は垂直に近い。

H-24HP-4 平面形は長楕円形である。東側が一段低くなる2段構造である。坑底はほぼ平坦で、立ち上がりはやや急、壁は垂直に近い。

焼土 出入口の軸上に位置することから、F-22がを本建物の炉であると判断した。検出面はⅥ層上面である。骨片が確認されたので、フローテーション処理を行ったところ、多数の骨片が検出された。同定を依頼したところ、すべて被熱しており、哺乳綱のもの、およびサケ科の椎骨が同定された（第Ⅶ章5節参照）。

壁柱穴 位置関係から、本遺構の壁柱穴が想定されそうで、かつ、他の建物に属さないものを、不明確であるが本遺構の壁柱穴とした扱った。詳細は不明である。

土層

H-5 HP-34 覆土1層：暗褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、ボソボソ。ごく少量のEn-aPを含む。

S P-36 覆土1層：暗灰褐色土、En-aPを含む。

S P-35 覆土1層：暗灰褐色土、En-aPを含む。覆土2層：灰黄褐色土、En-aPを含む。覆土3層：灰褐色土、少量のEn-aPを含む。

S P-37 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、しまりない。

H-24HP-1 覆土1層：暗灰褐色土。

H-24HP-2 覆土1層：暗灰褐色土。ごく少量のローム粒・En-aPを含む。

H-24HP-3 覆土1層：暗灰褐色土。

H-24HP-4 覆土1層：暗黄褐色土。覆土2層：灰褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土3層：暗灰褐色土、少量のEn-aPを含む。

F-22 覆土1層：暗茶褐色土、骨片含む。覆土2層：橙褐色土。

遺物 H-5 HP-34でやや多く出土しているほかは、ごく少数の散発的な出土である。

H-5 HP-34は覆土から、Ⅳ群a類（1）、Ⅳ群b-4類（2）、Ⅳ群c類（6）、剥片（3）、た

たき石（1）、計13点、SP-37は覆土から、剥片（1）、礫（2）、計3点、H-24HP-1は覆土から、IV群c類（1）、剥片（1）、計2点、HP-3は覆土から、IV群c類（1）、計1点、F-22は、焼土からIV群c類（6）、計6点出土している。SP-36・35からは遺物は出土していない。

土器 1はF-22から出土したIV群c類の口縁部破片。突瘤が施される。

時期 遺構の形態・構成と出土遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。

（柳瀬由佳）

建物9（図V-21 図版14-7・図版77-3）

位置 n-54・55、o-54 調査区の西側隅に位置する。

規模 3.02×- 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。調査区外にかかり支柱穴は3基確認されたのみであるが長正方形に配列された4基一組の支柱穴をもつと思われる。東側に出入口をもち、北半に壁柱穴をもつ。

支柱穴 H-14HP-3・4・5で構成される。

H-14HP-3 平面形は円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。

H-14HP-4 平面形は円形、坑底は尖り気味で開いて立ち上がる。

H-14HP-5 平面形は円形、坑底は尖り気味で開いて立ち上がる。

出入口 H-14HP-1・2で構成される。東側の拡がる「ハ」字状である。

H-29HP-1 平面形は楕円形、坑底は中央部が低い。東側は533を切っている。

H-29HP-2 平面形は東側のやや広い楕円形、坑底は東側半分が一段低い。

焼土 F-19が中央部やや東よりに位置する。平面形は楕円に近い。厚さ15cm程変色している。上半に骨片を含む。

壁柱穴 3ヵ所の壁柱穴が確認された。これらは北側の2基の支柱穴外側と出入口の南側に各1ヵ所確認した。平面形はほぼ円形で坑底は丸みをもつ。深さは10~14cmである。

土層

H-14HP-3 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

H-14HP-4 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

H-14HP-5 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

H-29HP-1 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

H-29HP-2 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

F-19 覆土1層：暗赤褐色土、骨片を含む。覆土2層：赤燈色土。

遺物 H-14HP-1は覆土からI群b類（2）、IV群c類（8）、覆土1からIV群c類（1）、剥片（1）、計12点出土した。H-14HP-1・2は覆土から剥片（1）が出土した。

土器 1は出入口であるH-14HP-1の覆土から出土したIV群c類の口縁部破片。縄文はやや太く、切出形の口唇端部にも施される。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。

（谷島由貴）

2 建物

建物10 (図V-22~25 図版15~16-4・図版77-4・78-1)

位置 j・k-62・63・64、1-63

規模 5.58×5.14 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。建物17・90と重複し、建物17を壊して構築している。建物ほぼ方形に配列された4基一組の大形の主柱穴をもつ。東側には2基一対の出入口、柱穴列の中央よりやや東側に焼土が認められる。周辺に多くの柱穴状ピットが認めらるが建物17・19との重複関係から明確に伴うものを特定することができなかつた。

主柱穴 P-34・75・76・113・115で構成される。

P-34 整地層の調査で確認された。当初、長軸片側が大きく傾斜する断面形を想定することができず、切り合いを想定し北側部分をP-156として調査、その後、同じ様なの形態をもつ土坑が多く検出されたことから、類似したものと判断した。3443よって壊されている。平面形は北側が尖る楕円である。長軸はほぼ北-南である。断面形は北側に段をもち、壁は平坦な坑底から開き気味に立ち上がる。覆土6層上面で焼土層・炭化物層を確認する。覆土3層下位から割れた石皿・たたき石等の礫石器がまとまって出土した。

P-75 P-76を壊して構築されている。整地層の調査で、P-76と共に確認された。平面形は楕円である。P-75・P-76ともに長軸はほぼ北西-南東である。北西側中位に段をもち、南東側は、中位に小さな段をもちながらもやや開き気味に立ち上がる。坑底は南東側寄りに構築され、平坦である。

P-76は、3401を壊して構築され、北西側がP-75によって壊されている。平面形は楕円で、坑底は、中央部が最も深く丸味をもつ。壁は坑底からオーバー・ハング気味に立上り、中位に張り出しをもつ。

P-113 整地層の調査で確認された。平面形は円形気味で、北側がやや張りだす。長軸はほぼ北-南である。坑底は平坦である。壁は北側が大きく開き、南側は比較的垂直に立ち上がる。北側覆土5層上面で焼土層・炭化物層を確認する。

P-115 整地層の調査で確認された。平面形は円形で、東側がやや張りだす。長軸はほぼ北西-南東である。坑底は北西側が張りがす円形で、やや東側寄りにある。壁は南西側がやや片流れ気味で、他は開き気味に立ち上がる。覆土は、中央部にぼそぼそで少量の炭化物を含む暗赤褐色土(覆土4層)の堆積が認められ、柱痕の可能性はある。

出入口 H-26HP-1・2から構成される。

いずれも整地層の調査で確認された。長軸はほぼW-Eで、HP-1・2とも深さの違う東西2つのピットからなり、いずれも深さは西側約70cm、東側約10~20cm程度と浅い。

H-26HP-1 H-34HP-2 (建物17の出入口)を壊して構築している。HP-1の西側は、北東側が下がり気味の坑底から、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

H-26HP-2 HP-1に比べやや細く、坑底は尖り気味である。

焼土 LF-45は、整地層の調査中に確認した。最大層厚は約20cmである。焼土中には炭化物・小骨片等が混る。焼土についてフローテーションを実施したが、炭化種子は認められず、小骨片については微細なため同定できなかつた。

壁柱穴 本建物は、ほぼ南北に延びる建物集中に位置し、建物17・90と重複しているため、周辺に多くの柱穴状ピットが認められる。したがって、明確に伴うものを特定することができなかつた。

土層

P-75 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aP(径約1cm)、多量の炭化物が混じる。しまり良い。

覆土2層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、少量のEn-aP（径約1～3cm）、多量の炭化物が混じる。覆土3層：褐色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。しまり良い。覆土4層：暗黄褐色土、多量のEn-aPと砂粒を含む。ぼそぼそ。覆土5層：黄褐色土、En-aLからなり、砂粒を含まない。比較的しまりが良い。

P-76 覆土1層：暗黄褐色土、多量のEn-aP、しまりが良い。覆土2層：En-aP層、En-aPからなり、僅かに黒味をおびる。覆土3層：暗褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aP・En-aLが混じる。覆土4層：En-aP層、En-aPからなり、砂粒が混じる（崩落土）。覆土5層：暗褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPとEn-aPの砂粒が混じる。

P-115 覆土1層：暗黄褐色土、En-aP・炭化物が少量混じる。しまり良い。覆土2層：暗黄褐色土、覆土4層に類似、僅かに黄色味が強い。ぼそぼそ、En-aP（径約1cm程）を含む。覆土3層：黄褐色砂質土、ぼそぼそ、En-aPを主体、ブロック状の黒色土～褐色土が混入する。覆土4層：暗赤褐色土、ぼそぼそ、少量の炭化物・En-aPを含む。柱根の可能性はある。

P-34 覆土1層：黒褐色土、炭化物を含む。覆土2層：茶褐色土、焼土粒を含む。覆土3層：暗茶褐色土。覆土4層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土が混じる。覆土5層：暗黄褐色土。覆土6層：暗黄褐色土、覆土4層に類似、細粒。

P-113 覆土1層：暗黄褐色土、しまり良い。多量のEn-aP、少量の炭化物を含む。覆土2層：暗黄褐色土、しまり良い。少量のEn-aPを含む。やや黒味が強い。炭化粒・炭化材を含む。覆土3層：暗黄褐色土、覆土1層に類似するが、En-aPの量が少ない。覆土4層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、径1～3cmのEn-aPを含む。覆土5層：暗黄褐色土、上面から炭化材・焼土層が確認されている。これらはその検出状況から投げ込まれた物と考えられる。覆土4層に類似、やや黄色味が強く、砂粒が多い。覆土5層：褐色土、しまり良い。炭化材を含む。

H-26HP-1 覆土1層：暗黄褐色土、しまり良い。多量のEn-aP、少量の炭化材を含む。覆土2層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPを含む。覆土3層：En-aP層、少量の褐色土が混じる。

H-26HP-2 覆土1層：暗黄褐色土、しまり良い。多量のEn-aP、少量の炭化材を含む。覆土2層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPを含む。

LF-49 覆土1層：赤褐色土、焼土層で、炭化物・小骨片を含む。

遺物 P-75は覆土からIV群c類（28）、剥片（5）、石斧（1）、礫・礫片（2）計36点、P-76は覆土から剥片（1）、P-113は覆土から剥片（18）、石皿（6）、礫・礫片（6）計30点、P-115は覆土からIV群b-4類（1）、IV群c類（86）、剥片（17）、原石（1）計111点、P-34は覆土からIV群c類（84）、石斧（1）、たたき石（2）、石皿片（15）、礫・礫片（1）、剥片（8）計105点、H-26P-1の覆土からIV群c類（1）、剥片（5）計6点、H-26P-2の覆土から剥片（2）が出土している。

土器 主に、出入口および支柱穴の覆土から出土したもので、整地層と接合したものもある。すべてIV群c類である。1は平行沈線が施される口縁部破片。2・3はともにP-75から出土した注口の胴部破片で、同一個体と思われる。沈線の一部分に赤色顔料が残る。4～9はP-113から出土。口唇断面は切出形のものが多い。4・5は鋸歯状・弧状の沈線が施される。6～8は平行沈線が施され、突瘤をもつ口縁部破片。11～16はP-115から出土したもの。11・12は弧状の沈線が施される。12は坑底付近の破片である。13～16は突瘤をもつ口縁部破片。15・16は同一個体。縄文が非常に細かい。17～25はP-34から出土。17はP-34から出土した上半部の大破片とP-182から出土した下半部の大破片などが接合し、復原されたものである。P-34・182出土の破片が主体で、ほかにP-77・90（建物12）出土の破片および1-62の整地2層から出土した破片が接合している。大形で、くびれをもつ深鉢であ

2 建物

る。底部ぎわまで残存するが、底部は欠損する。上半部はやや不規則な羽状縄文、下半部はLRの斜行縄文が施される。口唇断面は角形で、口縁部には突瘤がめぐる。19・20は直線による文様が施される。25は曲線主体の文様が施される。注口の可能性がある。

石器 10は砂岩製の石皿で二つの面に使用痕が認められる。26は橄欖岩製のたたき石。側縁のほぼ全周にたたき痕が認められる。27は石斧の未成品。28は接合資料で砂岩製の台石である。表面の一部が剥離する。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期

(熊谷仁志)

建物11 (図V-26 図版16-5～図版17・図版79～図版80-1)

位置 n・o-63・64, n・o・p-62・63・64, p-63

規模 5.74×5.60 外周 -×-

特徴 図上で確認した。主柱穴間の距離が5.7mほどの、大形の建物である。4基一組の主柱穴、2基一組で一对の出入口、炉と思われる焼土からなる。焼土の検出層位である整地2層が、本遺構の床面に相当するものと思われる。竪穴は検出されていない。P-277がH-25を切っていることから、本建物はH-25よりも新しい。

主柱穴 P-169・242・277・97からなる。一辺5.70mほどのほぼ正方形に並ぶが、東側がやや短い。

P-169 平面形は不整な楕円形。坑底はほぼ円形で平坦である。立ち上がりは急で、壁は垂直に近いが、上半では南北方向に開く。

P-242 平面形はやや不整な楕円形。坑底は開口部とは軸を異にする楕円形で、平坦立ち上がりは急で、壁は垂直に近いが、北西側では屈曲して開く。

P-277 検出面はⅧ層である。調査工程上、重複するH-25を先行して調査したが、本来はH-25を壊して構築されている。また、SP-2398・3809と重複し、これらより新しい。平面形は隅丸長方形に近い。坑底はやや丸みがあり、立ち上がりは急。壁は坑底近くでやや張り出し、その後開いて開口する。

P-97 検出面は整地層である。平面形はほぼ円形。坑底はⅧ層を深く掘りこんで構築され、若干丸みを帯びる。立ち上がりは概して緩やかで、壁は垂直だが、上半で開く。

出入口 SP-2711・2712・2715・2716からなり、2711・2712、2715・2716でそれぞれ一对で、これらがほぼ平行に並ぶことによって出入口を形成する。

SP-2711 平面形は楕円形。底は丸く、椀状に緩やかに立ち上がる。

SP-2712 平面形は円形と思われる。底は2711へ向かって下がり、立ち上がりは緩やか。

SP-2715 平面形は楕円形。坑底は平坦で、立ち上がりはやや緩やか、壁は開く。

SP-2716 平面形はほぼ円形。坑底は平坦で、緩やかにたちあがる。

焼土 出入口および主柱穴の軸上に位置することから、F-36および42が本遺構の炉であると判断した。

土層

P-169 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：黒色土、少量のEn-aPを含む。覆土3層：黒褐色土～暗褐色土、しまりはやや弱い。やや多めのEn-aPを含む。覆土4層：暗褐色土～褐色土、En-aP主体。覆土5層：黒褐色土、しまりはやや弱い。少量のEn-aPを含む。覆土6層：暗褐色土、しまりは弱い。覆土7層：黒褐色土、やや粘性あり。

P-242 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、ごく少量の骨片と、1よ

りやや多めのEn-aPを含む。覆土3層：黒褐色土、しまりはやや強い。少量のEn-aPを含む。

P-277 覆土1層：暗褐色土、しまり・粘性あり。ごく少量の炭化物・骨片と、少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、暗灰褐色土にローム粒が多量に混入している。しまりなく、ボロボロ。多量のEn-aPを含む。

P-97 覆土1層：暗黄褐色土、しまりはやや弱い。少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、しまりなく、ボロボロ。ローム粒を含む覆土4層：黄褐色土、粘性あり、しまりは弱い。

S P-2711 覆土1層：黒色土、やや多量のEn-aPを含む。

S P-2712 覆土1層：暗褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

S P-2716 覆土1層：暗褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

F-36 覆土1層：暗黄褐色土、焼土粒を含む。覆土2層：暗橙褐色焼土、焼けは弱い

F-42 覆土1層：暗赤褐色焼土、焼けは弱い。

遺物 P-169は覆土から、IV群c類(4)、剥片(3)、原石(1)、礫・礫片(1)、計9点、P-242は覆土から、IV群c類(36)、剥片(3)、原石(2)、礫・礫片(2)、計43点、P-277は覆土から、II群a類(1)、IV群b-4類(1)、IV群c類(109)、ドリル(1)、剥片(19)、礫・礫片(3)計134点、P-97は覆土から、II群a類(1)、IV群c類(75)、剥片(11)、原石(4)、石斧(2)、石皿・台石(2)、礫・礫片(2)、計97点、S P-2711は覆土から、IV群c類(1)、計1点、S P-2715は覆土から、IV群c類(10)、剥片(2)、計12点がそれぞれ出土している。

S P-2712・2716、F-36・42からは遺物は出土していない。

土器 支柱穴や出入口の覆土から出土したものである。13はII群a類。胎土には砂粒が多く混入し、器表面は摩耗している。14はIV群b-4類。注口の肩の破片で、屈曲部に2列の刻み列がめぐる。1～7、9～12、15～17、19はIV群c類。口唇断面は角形あるいは切出形のものが多い。1～3・16は鋸歯状・弧状の沈線が施される。6は鉢形の口縁部破片。7は頂部に透かしのある「香炉形」の注口の破片と思われる。

石器 8は石斧の4類で、基部が欠損する。18はドリルで、つまみ部には礫皮面を残す。

時期 遺構の形態・構成と出土遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。

(柳瀬由佳)

建物12 (図V-27・28 図版17-5～19-1・図版80-2・81-1)

位置 k-62、l-60・61・62・63、m-61・62・63

規模 5.38×5.08 外周 -×-

特徴 支柱穴と出入口は、現場段階で各土坑の調査後に確認した。焼土については図上で確認した。支柱穴間の距離が5.3mほどの、大形の建物跡である。4基一組で菱形に並ぶ支柱穴、出入口、炉と思われる焼土からなる。支柱穴間の距離が5.3mほどある大形の建物である。焼土の検出面である整地1層付近が本遺構の床面に相当すると思われる。竪穴は確認されなかった。炉と思われるF-33がP-89・148を覆っていることから、本建物はこれらより新しい。

支柱穴 P-150あるいは187・90・93・98からなる。菱形に並ぶ。検出面はほとんどがⅧ層である。すべて片側の壁が開く。

P-150・187 検出当初、1基の土坑を想定して調査を進めていたが、完掘した段階で、坑底部分を共

2 建物

有するような形で2基重複していることを確認した。P-150が新しいものと思われるが、坑底を共有しておりまた断面にも明確な切り合い関係が表れていないことから、柱の立て替えが行われた可能性がある。P-150は、平面形は楕円形。坑底は楕円形で、平坦でやや北側に傾く。概して、立ち上がりは急で、壁は垂直に近い。南西側のみ緩やかに立ち上がり、壁は屈曲しながら、開く。P-187は、平面形はくびれのある楕円形。坑底はP-150と共有している。立ち上がりは急で壁は垂直に近いが、東側のみ途中で大きく屈曲し、開く。

P-90 平面形は楕円形。坑底は平坦で、立ち上がりは急で壁は垂直に近いが、西側のみ途中で屈曲し、開く。

P-93 平面形は卵形に近い。坑底はほぼ円形で平坦。東半では、立ち上がりは急で壁は垂直に近く、一部で段をもつ。西側は、ごく緩く立ち上がり、屈曲して開く。

P-98 P-84と重複し、これより新しい。誤ってP-84を先行して調査したが、P-98がP-84をわずかに壊して構築されている。平面形は楕円形。坑底は隅丸台形に近く、平坦でやや北へ傾斜する。立ち上がりは概して緩やかで、壁は垂直に近く、上部で若干開く。南側のみ壁はやや開き、上部で屈曲し急に開く。覆土上層から、異形石器が出土している。

出入口 2基の楕円形の土坑、H-31HP-1・2からなる。いずれも、覆土の状態から、西側の壁に沿って、木柱などの何らかの施設を有し、それをEn-aP主体の層で埋めて固定していた可能性がある。

H-31HP-1 平面形は楕円形。坑底は楕円形で、やや丸みがあり、立ち上がりはやや急。壁は概して垂直に近いが、東側はやや開く。

H-31HP-2 平面形は楕円形。坑底は小さい楕円形で、平坦。概して、立ち上がりは急で、壁は開く。東側はごく緩やかに立ち上がり、壁は開く。

焼土 主柱穴および出入口の軸上に位置していることから、F-32が本遺構の炉であると判断した。また、F-30・33は、F-32とほぼ同一層で検出されており、かつ主柱穴の内側に位置していることから、本遺構に属する可能性が高いものと考え、ここで扱った。いずれも検出面は整地1層である。

F-30 平面形が円形に近い不正形を呈する、よく焼けた焼土である。P-89・148を覆っている。

F-32 平面形が不正形を呈する、よく焼けた焼土である。

F-33 平面形が長方形に近い、よく焼けた焼土である。

土層

P-150・187 (a-a') 覆土1層：暗灰褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPを含む。覆土3層：灰褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土4層：暗灰褐色土、しまりやや弱い。多量のローム粒・En-aPを含む。覆土5層：暗灰黄褐色土、しまり弱い。多量のEn-aPを含む。覆土6層：暗灰黄褐色土、しまりあり。少量のEn-aPを含む。覆土7層：黒褐色土、しまりあり。少量のEn-aPを含む。覆土8層：黄褐色ローム：灰褐色土がまだらに混入する。少量のEn-aPを含む。覆土9層：黄褐色土、～3cmのEn-aP主体。しまりなく、ボロボロ。覆土10層：黄褐色ローム：灰褐色土が層状に混入する。少量のEn-aPを含む。覆土11層：黄褐色土、砂質(En-aPの細粒?)。しまりなく、ボロボロ。覆土12層：暗黄褐色土、～3cmのEn-aP主体。縮まりなく、ボロボロ。覆土13層：P-187 (d-d')の覆土1層に対応すると思われる。

P-187 (d-d') 覆土1層：明褐色土、堅くしまる。多量のEn-aPを含む。

P-90 覆土1層：暗黄褐色土、しまりあり。大量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、しまりあり。やや多量のEn-aPを含む。覆土3層：褐色土、しまりやや弱い。多量の、～1cmほどの細粒のEn-aPを含む。覆土4層：褐色土、En-aP主体。しまりなく、ボロボロ。大量のEn-aPを含む。覆土5層：

褐色土、しまりやや弱い。大量（褐色土と同程度）の、～0.5cmほどの細粒のEn-aPを含む。覆土6層：暗褐色土、En-aP主体で、しまりなく、ボロボロ。覆土7層：黄褐色パミス：En-aP主体で、土壌はほとんど混入しない。

P-93 覆土1層：暗褐色土、しまりあり。大量のEn-aPを含む。少量の炭化物・焼土ブロックを含む。覆土2層：暗褐色土、少量のEn-aP・炭化物を含む。覆土3層：暗褐色土、しまりあり。少量のEn-aP・大量のローム粒を含む。覆土4層：褐色土、しまりあり。～2cmの大量のEn-aPを含む。覆土5層：暗黄褐色土、細粒のEn-aPと灰黄褐色土の混合土。しまりあり。覆土6層：暗褐色土、黒褐色土と暗褐色土のまだらな混合層。きめ細かく、粘性強い粘土。覆土7層：灰褐色土、～3cmのEn-aP主体。しまりなく、ボロボロ。覆土8層：暗灰褐色土、～3cmのEn-aP主体。しまりなく、ボロボロ。覆土9層：黒褐色土、粘性あり。

P-98 覆土1層：暗褐色土、しまりあり。大量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、しまりなく、ボロボロ。大量のEn-aPを含む。覆土3層：黒褐色土、しまりあり。暗黄褐色土が層状に混入。En-aPを含む。覆土4層：暗黄褐色土、大量（土壌と同量）のEn-aPを含む。覆土5層：暗褐色土。：しまりなく、ボロボロ。大量（土壌と同量）のEn-aP・多量のローム粒を含む。覆土6層：黄褐色パミス：1～2cmのEn-aP主体。覆土7層：黒褐色土、しまり弱い。

H-31HP-1 覆土1層：灰褐色土、しまりあり。多量のEn-aPと少量の炭化物を含む。覆土2層：暗灰褐色土、しまりあり。少量のEn-aPを含む。覆土3層：暗灰褐色土、しまりあり。やや多量のEn-aPを含む。覆土4層：黄褐色パミス：～2cmのEn-aP主体。0.5cm以下の細粒も多い。しまりなく、ボロボロ。

H-31HP-2 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・少量の炭化物を含む。覆土2層：暗褐色土、しまり弱く、ボソボソ。少量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、しまりなく、ボロボロ。やや多量のEn-aP・多量のローム粒を含む。覆土4層：黄褐色パミス：0.5cm以下の細粒のEn-aP主体。しまりなく、ボロボロ。

F-30 覆土1層：赤褐色焼土、よく焼ける。覆土2層：暗赤褐色焼土、焼けは弱い。

F-32 覆土1層：明赤褐色焼土、よく焼きしまる。骨片を含む。覆土2層：暗赤褐色焼土、焼けはごく弱い。

F-33 覆土1層：暗褐色土、焼土粒が混入。骨片を含む。覆土2層：明赤褐色焼土、よく焼ける。覆土3層：暗赤褐色焼土、焼けは弱い。

遺物 やや数量は多いが、散発的な出土である。

P-150は覆土から、IV群c類(11)、石核(1)、剥片(3)、礫・礫片(1)、計16点、P-90は覆土から、IV群c類(17)、剥片(6)、原石(1)、礫・礫片(6)、計30点、P-93は覆土から、IV群c類(28)、石鏃(1)、剥片(7)、石斧(1)、礫・礫片(5)、計42点、P-98は覆土から、III群b類(2)、IV群c類(22)、剥片(11)、石斧(2)、礫・礫片(4)、石製品(異形石器)(1)、計42点、F-32は焼土から、IV群c類(4)、剥片(3)、礫・礫片(10)、計17点、F-30は焼土から、IV群c類(3)、計3点、F-33は焼土から、IV群c類(63)、石皿・台石(1)、礫・礫片(1)、計65点が、それぞれ出土している。H-31HP-1・2からは遺物は出土していない。P-187は、上述のような調査経過のため、遺物は出土していない。

土器 主柱穴の覆土と、焼土中から出土している。11はIII群b類の口縁部破片。胎土には繊維を含む。口唇の調整は比較的雑で、丸形ぎみである。1～9、12～14、17～24はIV群c類。3は注口の肩の破片。弧状の沈線が施される。9は底部付近の破片。20は無文の口縁部破片で、口唇断面は尖りぎ

2 建物

みである。21は口唇断面が切出形で、口唇端部にも縄文が施される。22は、クランク状もしくはタガ状の沈線が施されるものと思われる。また、P-90の覆土から出土した破片が、P-34（建物10）・77・182の覆土から出土した破片および1-62の整地2層から出土した破片と接合し、復原されており、建物10で掲載している（図V-24-17参照）。

石器 10は石鏃で2c類。15は黒曜石製で異形石器と称されるもの。16は石斧で基部を欠損する。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉IV群c類の時期である。（柳瀬由佳）

建物13（図V-29）

位置 j・k-71・72 Q地区東側に位置する。

規模 3.20×2.88 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。台形に配列された4基一組の支柱穴と壁柱穴をもつ。周辺は建物が密集して構築された処で、建物14・20・26・61・62・63・64・67・81・82と重複する。

支柱穴 P-135、SP-2029・2031・2050で構成される。

P-135 平面形は楕円形、坑底は斜めで北東側が深い。立ち上がりは緩やかで、北側の壁はほぼ垂直、他は斜めに広がる。他の支柱穴に比し大きい古い柱穴跡の影響も考えられる。南東側はP-69に切られ、北・西・南側はP-70・136・128を切っている。

SP-2029 平面形は楕円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がる。東側はSP-2118に切られている。

SP-2031 平面形は円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がり、壁も若干斜めに開く。

SP-2050 平面形は楕円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。東側の壁はやや斜めに開く型はほぼ垂直である。

出入口 SP-4488・4491で構成される。平面形は円形、坑底はほぼ平らで、緩やかに立ち上がる。

焼土 F-80が支柱穴を結ぶ線の内側東よりに位置する。平面形は楕円形、中心部の厚いレンズ状にEn-aPが赤変している。

土層

P-135 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土。覆土3層：灰黄褐色パミス。

SP-2029 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-2031 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

SP-2050 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

遺物 SP-2029は覆土からIV群c類（3）、すり石（7）、計10点が出土した。SP-2050は覆土からIV群c類（1）が出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。（谷島由貴）

建物14（図V-30～32 図版19-2・3・図版80-3）

位置 i・j・k-70・71・72 Q地区東側に位置する。

規模 5.86×5.86 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の支柱穴・出入口・焼土・壁柱穴をもつ。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・20・26・61・62・63・64・67・81・82と重複する。

主柱穴 P-70・108・121・129で構成される。

P-70 平面形は円形、坑底はやや丸く開いて立ち上がり、壁は斜めに開く。北側は3011を切り、南側はP-135・136に切られている。

P-108 平面形は楕円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。北側の壁は下部から斜めに開く。南側はP-122・127を切っている。

P-121 平面形は楕円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。北側の壁は下部に段を有し斜めに開く。北側はP-104・173・SP-4592を切っている。

P-129 平面形は楕円形、坑底はほぼ平らで、丸く緩やかに立ち上がる。南西の壁は中程に段を有し斜めに開く。北東側はSP-4648・4649を、南側はP-137・SP-2115を切っている。

焼土 F-79は主柱を結ぶ方形の内側東よりで確認した。北側はSP-2013に壊されている。P-138とSP-5005の上にあり両者の上部を掘り込んで使用されている。

土層

P-70 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土。覆土3層：灰黄褐色パミス：En-aPが汚れ細粒状。覆土4層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土5層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-108 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。覆土3層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-121 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：灰黄褐色パミス：En-aPが汚れ細粒状。

P-129 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：灰黄褐色パミス：En-aPが汚れ細粒状。覆土4層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

F-79 覆土1層：赤燈色土。

遺物 P-70は覆土からIV群c類(83)、剥片(5)、原石(1)、たたき石(1)、石皿・台石(1)、礫・礫片(1)、計92点が出土した。P-108は覆土からIV群c類(10)、礫・礫片(1)、計11点が出土した。P-121は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(49)、剥片(5)、原石(1)石斧(1)、礫・礫片(2)、覆土1からIV群c類(22)、剥片(5)、計86点が出土した。P-129は覆土から石斧(1)が出土した。F-79は覆土からIV群c類(6)、剥片(2)、礫・礫片(1)、計9点が出土した。

土器 すべて主柱穴の覆土から出土したIV群c類である。口唇断面が切出形のものが多い。1・2は同一個体。突瘤は、施文後に左右につまみが加えられている。5は小波状口縁のもの。8は底部付近の破片で、胴部にはすり消しが施される。13は胴部に曲線とすり消しによる文様が施される。部分的に転々と赤色顔料が残る。

石器 15は石斧の未成品として扱った。材質は緑色泥岩で、両端と平坦部にたたき痕が認められる。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物15 (図V-33・34 図版19-4~20-2・図版82-1)

位置 i-66・67・68、j・k-65・66・67・68、l-66・67 Q地区中央部東よりに位置する。

規模 5.65×5.16 外周 7.5×8.00

特徴 図面上で確認した。ほぼ正方形に配列された4基一組の主柱穴と東側に一对の出入口をもち、

2 建物

主柱穴を結ぶ方形の外側に壁柱穴が確認された。建物28・101と重複する。

主柱穴 P-53・79・170・178で構成される。

P-53 平面形は楕円形、坑底はやや丸みをもち立ち上がる。東側の壁は斜めに開き、他はやや開き気味に直立する。

P-79 平面形は楕円形、坑底は丸みをもち緩やかに立ち上がる。北西側の壁は下部に段を有し、全体に壁は開く。また上部は斜めに開く。

P-170 平面形は楕円形、坑底はやや丸みをもち緩やかに開いて立ち上がる。壁は斜めに開く。西側の壁は特に傾斜が緩い。

P-178 平面形は楕円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。壁は開き気味で、東側の壁は斜めに開く。

出入口 S P-2150・2151で構成される。

S P-2150 平面形は楕円形、坑底は平らでやや丸みをもって立ち上がる。壁は開き気味である。

S P-2151 平面形は円形、坑底は平らでやや開き気味に立ち上がる。壁は若干開く。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ方形の外側に不等間隔で円形に配列される。間隔は北側が密で、他は間隔が広く疎らである。平面形は円形が多く、坑底も丸みをもつものが多い。

土 層

P-53 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

P-79 覆土1層：褐色土、締め良い：多量の炭化物・炭化材を含む：En-aPを多く含む。覆土2層：En-aP崩落土。覆土3層：褐色土、締め良い：En-aPを少量含む：少量の炭化物を含む。覆土4層：褐色土、ぼそぼそしている：En-aPを多く含む。

P-170 覆土1層：黒褐色土、En-aPをやや多く含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：暗褐色土、En-aPを多量に含む。覆土4層：褐色～黄褐色土、柔らかく粘質。覆土5層：暗褐色土、やや堅く粘質。覆土6層：褐色土、やや柔らかい。

P-178 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。

S P-2150 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

S P-2151 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

遺 物 P-53は覆土からIV群c類(22)、剥片(1)、計23点が出土した。P-79は覆土からIV群a類(1)、IV群c類(39)、剥片(3)、石斧(1)、たたき石(2)、石皿・台石(1)、礫・礫片(2)、計49点が出土した。P-170は覆土からIV群a類(2)、IV群c類(27)、石鏃(1)、剥片(1)、石皿・台石(2)、礫・礫片(2)、計35点が出土した。P-178は覆土からIV群c類(17)剥片(2)、計19点が出土した。S P-2150は覆土からIV群c類(6)、剥片(1)、計7点が出土した。S P-2151は覆土からIV群c類(5)、剥片(2)、計7点出土した。

土 器 いずれも主柱穴の覆土から出土したIV群c類である。平行沈線が施されるもの、口唇断面が角形ぎみのものが多い。1・4・5は胴部破片で、4は深鉢のくびれ部分である。2・6・11は突瘤をもたない口縁部破片。11は突起の端部に十字形の刻みが施される。3・7・8・9は突瘤をもつ口縁部破片で、いずれも平行沈線が施される。

石 器 10は安山岩製のたたき石。12は石鏃で2c類である。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物16 (図V-35・36 図版20-3~21-8・図版82-2)

位置 g-60、61、h・i-59・60・61、j-60

規模 4.27×4.27 外周 5.36×5.02

特徴 図面上で確認した。建物50と重複しているがその先後関係は不明である。方形に配列された4基一組の支柱穴をもつ。東側には2基で一對の出入口をもつ。壁柱穴は散在的に検出された。

支柱穴 P-27・28・41・42で構成される。

P-27 VIII層の調査で確認された。平面形はほぼ円形である。坑底の深さは40~30cmである。坑底は南西側に傾斜して落ち込む。壁は開き気味に立ち上がる。

P-28 VIII層の調査で確認した。SP-3505を壊して構築されている。平面形は円形である。坑底はやや丸味をもつ。壁は開き気味に立ち上がる。

P-41 盛土層下位の調査で確認された。SP-4515・4516・4517を壊して構築されている。平面形はほぼ円形である。坑底はやや丸味をもつ。壁は開き気味に立ち上がる。

P-42 VIII層の調査で確認された。平面形は楕円形である。坑底は平坦である。西側の壁中位で段をもち、東側は傾斜して立ち上がる。

出入口 H-32HP-1・2で構成される。

H-32HP-1・2は整地層の調査で確認された。平面形は溝状である。長軸の坑底は平坦で、短軸側は「U」字状である。

壁柱穴 SP-289~292・300・337・338・1163・1164・1177・1189・1862・1863・3492・3501・3502・3530・4061・4502~4504から構成される。配列が不明のものも含むが1177と3530、4061と1862ないし1863、3492と337ないし338、292と3501が出入口に対しほぼ対象の位置に認められる。全体の配列は、出入口と考えられるH-32HP-1・2がある東側が比較的直線的であるのに対し、西側は、丸味を帯びた配列である。

土層

P-27 覆土1層：暗黄褐色土、多量のEn-aPを含む。しまり良い。

P-28 覆土1層：暗褐色土、En-aP・炭化物が少量混じる。しまり良い。覆土2層：暗黄褐色土、多量のEn-aP、少量の炭化物が混じる。

P-41 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。覆土2層：暗黄褐色土、1と同質、やや黒味が強い。炭化物を含む。

P-42 覆土1層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、粘性強い。En-aPを含み1より黄色味が強い。覆土3層：暗黄褐色土、多量のEn-aP(径1~3cm)を含む。覆土4層：暗黄褐色土、覆土1層に類似、しまり悪い。覆土5層：暗黄褐色土、粘性強い。少量のEn-aP・炭化物を含む。覆土6層：暗黄褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土7層：暗黄褐色土、粘性・黒味が強い。多量のEn-aPを含む。

H-32HP-1 覆土1層：褐色土、少量のEn-aPと炭化物を含む。覆土2層：褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土3層：褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土4層：褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土5層：褐色土、覆土4層に類似するが、En-aPを多く含んでいる。

H-32HP-2 覆土1層：褐色土、多量のEn-aPと炭化物を含む。覆土2層：褐色土、多量のEn-aPを含む。ぼそぼそ。覆土3層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。しまり良い。覆土4層：褐色土、多量のEn-aPを含む。ぼそぼそ。覆土5層：褐色土、En-aPを多く含む。

遺物 P-27は覆土からIV群c類(7)、剥片(1)、計8点、P-28は覆土からIV群c類(7)、

2 建物

P-41は覆土からIV群c類(10)、剥片(2)、計12点、P-42は覆土からIV群c類(2)、剥片(2)計4点、H-32HP-1は覆土からIV群c類(9)、剥片(2)、計11点が出土している。H-32HP-2からは遺物は出土していない。

土器 ともに支柱穴であるP-41の覆土から出土したIV群c類である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式土器の頃 (熊谷仁志)

建物17 (図V-37~39 図版22-1~23-5・図版83・84-1)

位置 J・k-61・62・63・64、1-62・63・64

規模 5.50×5.00 外周 10.00×8.50

特徴 図面上で確認した。建物10・90と重複し、建物10によって壊されている。建物12に隣接する。5.00m~5.50mのほぼ方形に配列された4基一組の支柱穴をもつ。東側に出入口をもつ。壁柱穴は散在的に検出された。

支柱穴 P-46・73・114・181で構成される。出入口側のP-73・114はやや開き気味に配置されている。

P-46 整地層の調査で確認された。平面形はほぼ円形である。坑底の深さは40~30cmである。坑底はやや丸味をもつ。壁は僅かに開き気味に立ち上がる。

P-73 整地層の調査で確認した。平面形は円形である。坑底はやや丸味をもつ。壁は開き気味に立ち上がる。

P-114 整地層の調査で確認された。平面形はほぼ円形である。坑底はやや丸味をもつ。壁東側は中位から開き気味に立ち上がる。

P-73 整地層の調査で確認された。平面形は円形である。坑底は平坦である。壁は、坑口では開き気味であるが、ほぼ垂直に立ち上がる。

P-181 整地層の調査で確認された。平面形は円形である。坑底は円形で、平坦である。壁は、坑口では開き気味であるが、ややオーバー・ハング気味に立ち上がる。

出入口 H-34HP-1・2の溝状のものと円形のP-292・SP-2878の2対の土坑で構成される。本建物の出入口としてH-34HP-1・2が想定され、P-292・SP-2878はV層下位の調査で検出した。他の建物に付属する可能性がある。

H-34HP-1・2 整地層の調査で、建物16の出入口とともに確認された。

H-34HP-2 H-26HP-2によって壊されている。HP-1は平面形は溝状で、坑底の両端は僅かな落ち込みをもつ。HP-2は東西2つのピットからなる。

P-29 平面形・坑底は円形である。坑底は平坦である。壁は、坑口では開き気味であるが、ほぼ垂直に立ち上がる。

SP-2878 平面形は円形である。断面形は中位に段を持ち、坑底はやや尖がり気味である。

壁柱穴 SP-943~945・1061・1062・1919・2813・2931・2952・2963・2966・3000・3455・3865・3869・3870・3880・3890・3891・4718から構成される。これらを結んだ平面形の長軸はE-Wである。配列が不明のものも含むが2813と2952、1919と2966、3000と4718、1061と3870、3880と1062ないし3471は出入口中央を通る軸に対しほぼ対象の位置に、3890は出入口の延長線上に位置している。

土層

P-46 覆土1層：暗黄褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色ローム、多量のEn-aLが主体。

P-114 覆土1層：暗褐色土、En-aP・炭化物・焼土が少量混じる。覆土2層：暗黄褐色土、覆土1層より黄色味が強い。多量のEn-aP、少量の炭化物が混じる。覆土3層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aP（径1～3cm）が混じる。覆土4層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aP（径1～3cm）砂粒が混じる。

P-73 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aPを含む。多量の炭化物・骨片が混じる。覆土2層：暗黄褐色土、少量のEn-aPを含む。多量の炭化物と少量の骨片が混じる。覆土3層と同質。覆土3層：暗黄褐色土、覆土2層に類似するがやや黄色味が強い。少量の焼土が混じる。覆土4層：暗黄褐色土、多量のEn-aPや砂粒を含む。覆土5層：暗黄褐色土、多量のEn-aPや砂粒を含む。覆土6層：En-aP層、En-aP層の崩落土。覆土7層：暗黄褐色土、En-aP（径1cmほど）が混じるが、粘性強い。少量の炭化物が混じる。覆土8層：暗黄褐色土、少量のEn-aP（径1cmほど）を含む。粘性強い。少量の炭化物が混じる。

P-181 覆土1層：暗褐色土、しまりよい。径1cmほどのEn-aPを多量に含む。炭化物・骨片が混じる。覆土2層：褐色土、しまりよい。径1～2cmほどのEn-aPを多量に含む。炭化物・骨片が混じる。覆土3層：暗褐色土、しまり悪い。径1cmほどのEn-aPを多量に含む。炭化物・骨片が混じる。覆土4層：暗黄褐色土、しまり悪くぼろぼろ。径1～2cmほどのEn-aPを非常に多く含む。覆土5層：褐色土、しまり悪くぼろぼろ。径1～2cmほどのEn-aPを非常に多く含む。覆土6層：暗褐色土、径1～2cmほどのEn-aPを非常に多く含む。A層：暗褐色土、径1～2cmほどのEn-aPを多く含む。B層：褐色土、径1～2cmほどのEn-aPを多く含む。なお、A・B層・覆土1～3層は整地2層相当か。

H-34HP-1 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。

H-34HP-2 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。

P-292 覆土1層：黒色土、多量のEn-aPと少量の炭化物を含む。覆土2層：暗黄褐色土、径1～3cmのEn-aPを含む。覆土3層：黒色土、覆土1層と同質、径1cmほどのEn-aPを含む。覆土4層：暗黄褐色土、少量のEn-aP・炭化物を含む。

S P-2878 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aPと炭化物を含む。

遺物 P-46は覆土からIV群c類(48)、剥片(8)、礫(1)計57点出土した。P-114は覆土からIV群c類(48)、石鏃(3)、Uフレイク(1)、フレイク(20)、礫・礫片(7)計79点出土している。P-73は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(101)、剥片(23)、原石(3)、石斧(1)石皿・台石(1)、礫・礫片(7)計137点出土した。P-181は覆土からIV群c類(75)、石槍(1)剥片(35)、たたき石(1)、礫・礫片(1)計113点出土している。H-34HP-1は覆土からIV群c類が8点、H-34HP-2は覆土からスクレイパー1点が出土した。P-292は覆土から剥片が8点、S P-2878の覆土からIV群c類(11)、フレイク(1)計12点出土した。

土器 主に出入口や支柱穴の覆土から出土したもので、一部盛土層・整地層から出土したのも同一個体として扱った。口唇断面は切出形のものが多い。1は波頂部の突起に上方からの刺突が加えられる。5は径が小さく、注口の口縁の可能性がある。8は「ハ」の字状の刻み列をもつものである。2・9・15・20は同一個体と思われる。くびれのある深鉢で、胴部に無文帯をもつ。無文帯から上位には、沈線と充填縄文によるクランク状と思われる文様帯をもつようである。口唇断面は肥厚する切出形で、口縁直下には2本の沈線と突瘤が施され、突瘤は施文後左右につぶされている。2・9・15はそれぞれ支柱穴であるP-14・114・181から出土している。20は、g-62・63、h-63の盛土層、1-61の整地1層、f-62、g-62のI層から出土したものである。これらと同一個体と思われる破片が、f～iラインの61～63付近の盛土層を中心に計25点出土しており、建物の柱穴の埋土と盛土層に何ら

2 建物

かの関係がある可能性がある。

石器 12・13は石鏃。12は2 a類、13は2 c類。21はたたき石として扱った。すり石としての機能を合わせ持つものである。橄欖岩製で、周縁部の全周にたたき痕が認められる。

時期 縄文時代後期後葉のIV群c類の堂林式の時期に構築されたものと考えられる。(熊谷仁志)

建物18 (図V-40・41 図版21-1~3・図版81-2)

位置 l-71・m-72・73・74、n-73・74

規模 5.90×5.60 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。ほぼ正方形に配列された4基一組の主柱穴と東側に出入口をもつ。西側を除き壁柱穴が検出された。建物21・23・79と重複する。

主柱穴 P-131・201・265・283で構成される。

P-131 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。北東側は3182を切っている。

P-201 平面形は円形、坑底はやや丸味をもち開いて立ち上がる。東側はP-203を切っている。

P-265 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに開いて立ち上がる。西側はSP-3191・4411を切っている。P-283 P-282に上半を壊され坑底部のみ残存する。残存する坑底部の平面形は楕円形で、坑底はほぼ平らで垂直に立ち上がるようである。

出入口 H-29HP-1・H-29HP-2で構成される。東側の拡がる「ハ」字状である。

H-29HP-1 平面形は北西側の膨らむ変形した楕円形、坑底は西側がやや低い。

H-29HP-2 平面形は楕円形、坑底は東側半分が一段低い。

壁柱穴 15ヵ所の壁柱穴が確認された。これらは主柱穴を結ぶ方形の線上に1ヵ所、他はその方形の外側近くに位置する。SP-3032を除き、平面形はほぼ円形で坑底はやや丸みをもつ。SP-3013・3014とSP-3017・3019・3020は重複しているがこのうち建物に伴う壁柱穴は特定できない。

土層

P-131 覆土1層：褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土4層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-201 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-265 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土3層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。覆土4層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-283 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

H-28HP-1 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

H-28HP-2 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

遺物

P-131は覆土からIV群c類(21)、剥片(7)、計28点出土した。P-201は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(17)、剥片(4)、たたき石(2)、礫・礫片(4)、計28点出土した。P-265は覆土からIV群c類(2)、つまみ付きナイフ(1)、礫・礫片(1)、覆土1からIV群c類(1)、計5点出土した。H-28HP-1は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(6)、計7点出土した。H-28HP-2は覆土からRフレイク(1)、剥片(2)、計3点出土した。

土器 すべて主柱穴であるP-201の覆土から出土したものである。1はIV群b-4類。口唇直下に2列の刻み列と突瘤がめぐる。口唇断面は丸みのある切出形。2~4はIV群c類である。2は、2組の平行沈線の間、左右に斜行する沈線による文様が施される。

時期 遺構の形態や出土遺物から縄文時代後期後葉 IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物19 (図V-42・43 図版24-4・5・図版85-1)

位置 h-53・54、i-52・53・54 Q地区の北東側に位置し、一部H地区にかかる。

規模 4.54×4.20 外周 9.60×-

特徴 図面上で確認した。ほぼ正方形に配列された4基一組の支柱穴と東側に出入口をもつ。西側は建物59と重複する。

支柱穴 SP-402・410・444・460で構成される。

SP-402 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。

SP-410 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。

SP-444 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。

SP-460 平面形は楕円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がり、東側の壁は斜めに開く。

出入口 H-7HP-1・2で構成され、東西方向に平行する。

両者共、平面形は楕円形、坑底は両端が深くなる。

壁柱穴 支柱穴を結ぶ方形の外側に30カ所の壁柱穴を確認した。配列は密な部分と疎らな部分があり、構造は読み取れない。H地区から4カ所がこの建物に伴う壁柱穴であることを確認した。また、支柱穴を結ぶ方形の中に6カ所確認した。

土層

SP-402 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

SP-410 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-444 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-460 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

H-7HP-1 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

H-7HP-2 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。

覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 SP-402は覆土1層からIV群c類(3)、剥片(1)、計4点出土した。H-7HP-1は覆土からIV群c類(7)、剥片(1)、計8点出土した。H-7HP-2は覆土からIV群c類(12)、剥片(1)、計13点出土した。壁柱穴SP-415の覆土からIV群c類(26)、覆土1層からIV群c類(4)計30点出土した。覆土の中程に土器の内面を上に向け、重なって検出した。

土器 すべて、壁柱穴であるSP-415の覆土から出土したIV群c類である。4・5は415からまとめて出土した同一個体。復原したが、残存部は非常に少ない。検出面で確認されたものであり、この付近がⅧ層までの攪乱を受けていたことから、本来は一個体がそのまま廃棄されていた可能性がある。くびれをもつ小形の深鉢である。くびれ部に無文帯をもち、無文帯の上端は沈線で区画されるが、下端は区画されていない。口唇断面は切出形で、斜行縄文地に突瘤がめぐる。5は底部付近の破片で、接合しないが同一個体である。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

2 建物

建物20 (図V-44 図版25-1・2・図版85-2)

位置 i-71・72、j・k-70・71・72 Q地区東側に位置する。

規模 4.16×4.86 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。ほぼ正方形に配列された4基一組の主柱穴と東側に出入口をもつ。周辺から壁柱穴が検出されている。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・26・61・62・63・64・67・81・82と重複する。

主柱穴 P-69・107・130・138で構成される。

P-69 平面形は楕円形、坑底は丸みもち開き気味に立ち上がる。北西側の壁は上部に段をもち斜めに拡がる。西側はP-128・135を切っている。

P-107 平面形は楕円形、坑底はやや丸みもち開いて立ち上がる。東側はP-126を切り、SP-2021に切られている。西側はSP-2142を切り、P-106に切られている。

P-130 平面形は円形、坑底は平らでほぼ垂直に立ち上がる。P-140の上に掘り込まれ坑底部を除き壊している。北東側は2094・2115を、南西側は4486を切っている。

P-138 平面形は円形で、坑底はやや丸みもち開き気味に立ち上がる。南東側の上部は2013・F-79に壊されている。周囲はSP-2051・4588・4590・5005を切っている。

出入口 SP-4468・4469で構成される。

SP-4468 平面形は楕円形、坑底は西側が低く段を有する。

SP-4469 平面形は楕円形、坑底は丸みをもつ。

壁柱穴 12カ所の壁柱穴が確認された。これらは主柱穴を結ぶ方形の北と南の外側に並行した配列がみられる。直径20cm以下で深さ5~20cmのことが多い。

土層

P-69 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。

P-107 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

P-130 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。覆土4層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-138 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：灰黄褐色パミス：En-aPが汚れ細粒状。

SP-4468 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

SP-4469 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 P-69は覆土からI群b類(1)、IV群b-4類(2)、IV群c類(36)、剥片(3)、覆土1から石鏃(1)、剥片(1)、原石(1)、計45点出土した。P-107は覆土から石斧(1)。P-130は覆土1からIV群c類(2)、剥片(1)、計3点出土した。P-138は覆土1からIV群c類(36)、剥片(7)、原石(1)、礫・礫片(3)、計47点出土した。SP-4468は覆土からIV群c類(5)が出土した。SP-4468は覆土からIV群c類(1)が出土した。

土器 いずれも主柱穴であるP-69の覆土から出土したものである。1はIV群c類。2列の刻み列と突瘤がめぐる。口唇断面は角形である。2~8はIV群c類。6・7は突起に刻みや刺突が加えられるものである。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物21 (図V-45 図版86-1)

位置 1-73・74、m・n-72・73・74、o-73

規模 6.98×6.94 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。ほぼ正方形に配列された4基一組の主柱穴と東側に出入口をもち、東側を除き壁柱穴をもつ。建物18・23・79と重複する。

主柱穴 P-131・263・264・282で構成される。

P-131の平面形は楕円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がる。北西側の壁は上部に段をもち広がる。

P-263の平面形は円形、坑底はやや丸味をもち開いて立ち上がる。

P-264の平面形は楕円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。南東側の壁は上部に段をもち広がる。

P-282の平面形は楕円形で、坑底はほぼ平らで開き気味に立ち上がる。東側の壁の上部は開いている。P-283の上半を壊している。

出入口 H-30HP-1・2で構成される。東側の広がる「ハ」字状である。

H-30HP-1の平面形は東側の膨らむ変形した楕円形、坑底は西側がやや低い。

H-30HP-2の平面形は東側の膨らむ変形した楕円形、坑底は丸みをもつ。北西側は3187に切られている。

壁柱穴 17ヵ所の壁柱穴が確認された。これらは主柱穴を結ぶ方形外側に並行した配列がみられる。SP-3007と3179の平面形は楕円形。その他はほぼ円形である。深さは5～10cmのものが多い。重複した壁柱穴があるが、建物に伴うものは特定できない。

土層

P-131 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

P-263 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

P-264 覆土1層：褐色土、En-aPを多く含む。

P-282 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

H-30HP-1 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

H-30HP-2 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

遺物 P-131は覆土からⅢ群b類(1)、Ⅳ群c類(10)、剥片(4)、礫・礫片(1)、計16点出土した。P-263は覆土からⅣ群c類(4)、原石(1)、計5点出土した。P-264は覆土からⅣ群c類(9)が出土した。P-282は整地1層からⅣ群c類(14)、剥片(1)、礫・礫片(1)、覆土からⅣ群b-4類(3)、Ⅳ群c類(9)、剥片(6)、たたき石(2)、礫・礫片(2)、計38点出土した。H-30HP-1は覆土からⅣ群c類(3)、石鏃(1)、剥片(1)、計5点出土した。H-30HP-2は覆土からⅣ群c類(5)、剥片(1)、すり石(1)、計7点出土した。

土器 いずれも出入口あるいは主柱穴の覆土から出土したものである。1はⅣ群c類。小形の鉢の口縁部で、突起をもつ。3はⅣ群a類、タブコブ式と思われる。深鉢の口縁部破片で、胎土には砂粒や小礫が非常に多く混入し、器厚は厚い。文様は斜行縄文のみで、角形の口唇端部や、摩耗が激しいが内面にも施される。4はⅣ群b-4類。口唇は丸形気味で肥厚し、口唇直下には1列の刻み列と突瘤がめぐる。5・6はⅣ群c類。5はP-282の覆土から出土した破片と、60mほど離れたP-112(建物46)の覆土から出土した破片が接合した。遺構間の何らかの関係がある可能性がある。鉢の口縁部

2 建物

破片である。縄文地が沈線で数段に区切られ、その間に山形をなす斜行沈線が施される。6は注口の肩の破片である。

石器 2は石鏃の2a類。

時期 遺構の形態や出土遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物22 (図V-46)

位置 o-73・74、p-73・74・75 Q地区南東端に位置し、一部R地区にかかる。

規模 5.34×5.34 **外周** -×-

特徴 図面上で確認した。ほぼ正方形に配列された4基一組の支柱穴と東側に出入口をもち、壁柱穴をもつ。支柱穴の規模に比し支柱穴を結ぶ方形は大きい。北側は建物73と重複する。

支柱穴 SP-4420・4430・4447、RSP-124で構成される。

SP-4420 平面形は円形、坑底はやや丸味をもち開いて立ち上がる。壁はほぼ垂直である。

SP-4430 平面形は円形、坑底はやや丸味をもち開いて立ち上がる。壁はほぼ垂直で南東側は若干斜めに開く。R地区との境界上に位置する。

SP-4447 平面形は円形、坑底は平らでやや丸味をもって立ち上がる。壁はやや開く。

RSP-124 平面形は楕円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。壁の北東側は斜めに開く。R地区に位置する。

出入口 SP-4422・4423で構成される。

SP-4422と4423の平面形は楕円形、坑底はほぼ平坦で溝状。両者は平行する。

焼土 検出されていない。

壁柱穴 北側で4ヵ所の壁柱穴が確認された。これらは支柱穴を結ぶ方形の外側にある。これらの平面形は円形、坑底は丸い。4448と4449は重複しているが、どちらが建物に伴うものは特定できない。

土層

SP-4420 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

SP-4430 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-4447 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-4422 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-4423 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

遺物 SP-4420は覆土からIV群c類(1)が出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物23 (図V-47・48 図版25-3～5 図版86-2)

位置 m-72・73・74、n-73・74 Q地区の東端に位置する。

規模 5.14×4.90 **外周** 7.40×6.90

特徴 図面上で確認した。それぞれⅧ層で検出した。ほぼ方形に配列された4基一組の支柱穴をもち、東側に出入口をもつ。

支柱穴 P-203・281、SP-3182・3191で構成される。

P-203の平面形は、東側はP-202に、西側をP-204に切られているため明確ではないが、円形を呈すると思われる。坑底は平らで開き気味に立ち上がる。

P-281平面形は楕円、坑底は平らで丸みをもって立ち上がる。北側はSP-4599を切っている。

SP-3182の平面形は南西側半分をP-134に切られているため明確ではないが、円形を呈すると思われる。坑底は斜めで西側が高くほぼ垂直に立ち上がる。

SP-3191の平面形は東側はP-265に切られているため明確ではないが、円形を呈すると思われる。坑底は平らで開き気味に立ち上がる。

出入口 H-28HP-1・H-28HP-2で構成される。

両者共、平面形は楕円形、坑底はやや丸みをもつ。

壁柱穴 14カ所の壁柱穴が確認された。これらは主柱穴を結ぶ方形の線上に1カ所、他はその方形の外側近くに位置する。全体に平面形はほぼ円形で、坑底はやや丸みをもつ。SP-3022が30cmと深い但他は5～15cm程である。

土 層

P-203 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

P-281 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-3182 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-3191 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

H-28HP-1 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

H-28HP-2 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

遺 物 P-203は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(5)、計6点出土した。P-281は覆土からIV群c類(3)が出土した。H-28HP-1は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(6)、計7点出土した。H-28HP-2は覆土からRフレイク(1)、剥片(2)、計3点出土した。

土 器 いずれも、出入口あるいは主柱穴の覆土から出土したものである。2は胎土と文様構成からIV群b-4類とした。重複するP-202覆土出土の破片と接合した。胎土には砂粒は少ない。すり消しによるクローバー形のような文様構成をもつと思われる。1・3・4はIV群c類。3は無文。4は角形の口唇端部にも縄文が施される。

時 期 出土した遺物や遺構の形態などから縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物24 (図V-49・50 図版86-3)

位 置 e-68・69・70、f-69・70 Q地区の北東側に位置する。

規 模 4.30×3.58 外 周 8.90×8.86

特 徴 VIII層で一对の出入口と半円状に並ぶ壁柱穴を確認し、H-22として調査した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴と北側の壁柱穴は図面上で確認した。

主柱穴 SP-1413・1428・1444・1502で構成される。

SP-1413 平面形は円形、坑底は平らで若干開き気味に立ち上がる。北側はSP-1506を切る。

SP-1428 平面形は楕円形、坑底は平らでほぼ垂直に立ち上がるが、北東側の壁は斜めに開く。

SP-1444 平面形は楕円形、坑底は平らで丸みをもち立ち上がるが、北側の壁は斜めに開く。

SP-1502 平面形は楕円形、坑底はやや尖り気味で開いてもち立ち上がる。南側の壁は斜めに開く。

2 建物

出入口 H-22HP-1・H-22HP-2の対で構成される。

H-22HP-1・2 平面形は楕円形、坑底は短軸方向に丸みを持ち東側半分が一段深くなる。

焼土 検出されていない。

壁柱穴 34ヵ所の円形に配列される壁柱穴を確認にした。南側は半円形に密に確認しているが北側は疎らである。ほぼ円形で直径12~20cm、坑底は平らなもの、丸いもの、尖るものなど一定しない。深さ6~17cmである。南側は小さな壁柱穴が多いが北側は1432のように大きなものがある。

土層

SP-1413 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

SP-1428 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

SP-1444 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土。覆土3層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

SP-1502 覆土1層：明黄褐色ローム質土、En-aPを含む。

H-22HP-1 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPを多く含む。覆土3層：黒茶褐色土、En-aPを少量含む。

H-22HP-2 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPを多く含む。覆土3層：黒茶褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 SP-1413は覆土1からIV群c類(3)、SP-1428は覆土からIV群c類(1)が出土した。SP-1502は覆土からIV群c類(1)、剥片(1)、礫・礫片(1)、計3点出土した。H-22HP-1は覆土からIV群c類(12)、礫・礫片(1)、計13点出土した。H-22HP-2は覆土からIV群c類(8)、剥片(1)、礫・礫片(1)、計10点出土した。

土器 いずれも、出入口あるいは主柱穴の覆土から出土したIV群c類である。2は小形の台付の鉢の台部分。

時期 出土している遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物25 (図V-51)

位置 j-54、k-53・54・55、l-53・54 Q地区の西側に位置する。

規模 3.95×3.76 外周 5.76×5.50

特徴 図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴と東側に出入口と壁柱穴を確認した。SP-482を除き、すべてⅧ層で確認した。主柱穴の規模に比べ、主柱穴を結ぶ方形は大きい。西側は建物36と重なる。

主柱穴 SP-503・3963・3966・3969で構成される。

SP-503 平面形は円形、坑底は平らで若干開き気味に立ち上がる。

SP-3963 平面形は円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。

SP-3966 平面形は円形、坑底は平らで丸みをもって立ち上がる。

SP-3969 平面形は円形、坑底は丸く開いても立ち上がる。

出入口 SP-479・480の組み合わせと481の対で構成される。

SP-479 平面形は楕円形、坑底は平らでほぼ垂直に立ち上がり東側の壁は斜めに開く。

SP-480 平面形は円形、坑底は尖り気味である。

SP-481 平面形は楕円形、坑底は短軸方向に丸みを持ち西側半分が一段深くなる。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ方形の外側に9ヵ所の壁柱穴を確認にした。また、内側に5ヵ所の柱穴を確認した。これらの平面形は円形が多く直径12~25cm、坑底は平らなものや丸いものがあり、深さ7~22cmある。

土 層

- S P-503 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。
- S P-3963 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。
- S P-3966 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。
- S P-3969 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。
- S P-479 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。
- S P-480 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。
- S P-481 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

遺 物 S P-479は覆土からIV群c類(1)が出土した。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物26 (図V-52 図版86-4)

位 置 i・j-71・72 Q地区東側に位置する。

規 模 3.70×2.98 外 周 5.18×4.90

特 徴 図面上で確認した。ほぼ長方形に配列された4基一組の主柱穴と東側に出入口のうちの1ヵ所と壁柱穴が確認された。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・20・61・62・63・64・67・81・82と重複する。

主柱穴 S P-2014・2065・2103・2126で構成される。

S P-2014 平面形は円形、坑底はやや丸く、壁は斜めに開いて立ち上がる。

S P-2065 平面形は楕円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がり、北壁は中程から斜めに開く。

S P-2103 平面形は楕円形、坑底はほぼ平らで開き気味に立ち上がり、北壁は中程から斜めに開く。

S P-2126 平面形は円形、坑底は丸く、壁は斜めに開いて立ち上がる。

出入口 S P-4467は2ヵ所で対になる出入口のうちの片側と考えられる。平面形は円形で坑底は丸い。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ方形の外側に8ヵ所の壁柱穴を確認にした。平面形は楕円のものも多く、坑底は丸い。2069は円形で深く他の壁柱穴と異なる。

土 層

S P-2014 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

S P-2065 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

S P-2103 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

S P-2126 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

S P-4467 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

遺 物 S P-2014は覆土からIV群c類(6)、剥片(1)、覆土1からIV群c類(1)、計8点出土した。S P-2065は覆土からIV群c類(19)、剥片(6)、計25点出土した。S P-2103は覆土からIV群c類(10)、剥片(3)、計13点出土した。S P-2126は覆土からIV群c類(2)が出土した。

2 建物

土器 いずれも、壁柱穴のSP-2016の覆土から出土したもの。1はI群b-1類。口唇断面は外側へ張り出し、口唇端部にも縄文が施される。2はIV群c類である。内面の口唇直下に沈線がめぐる。
時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物27 (図V-53・54 図版25-6・7・図版87-1)

位置 i・j-60・61・62

規模 3.50×3.50 外周 6.30×6.00

特徴 図面上で確認した。建物52・65と重複し、建物16に隣接する。東側がやや開き気味の台形に配列された4本一組の主柱穴、東側に出入り口をもつ。壁柱穴は、明確に伴うものを特定出来ないがほぼ1m間隔に検出されている。

主柱穴 SP-370、1861、1906、1052で構成される。

SP-1861 VIII層の調査で確認された。平面形は径18cm程の円形である。坑底は平坦である。深さは約30cmである。

SP-370 VIII層の調査で確認された。平面形は径18cm程の円形である。坑底は尖り、深さは約23cmである。

SP-1906 VIII層の調査で確認された。平面形は東西に長軸をもつ楕円形、長軸25cm、短軸は20cmである。坑底は丸味をもち、ほぼ垂直に立ち上がる。

SP-1052 VIII層の調査で確認された。平面形は径25cmの円形、坑底は平坦である。やや開き気味に立ち上がる。

出入口 H-17HP-1・2で構成される。いずれもVIII層の調査で確認された。

H-17HP-1 東側をF-60によって覆われ、SP-3522・3523・3524によって壊されている。平面形は、ほぼ東西に長軸をもつ楕円形で、長軸1.05m、短軸0.50m、深さ0.21mである。断面形は、西側よりに最大深をもち、西側は比較的急角度に、東側は東に向かって緩やかに立ち上がる形状である。東側床面・壁の立上り部分からIV群c類土器の大形破片・礫等が出土している。

H-17HP-2 平面形は、ほぼ東西に長軸をもつ楕円形で、長軸1.03m、短軸0.50m、深さ0.18mである。断面形は、ほぼ中央部に最大深をもち、西側は比較的急角度に、東側に向かって緩やかに立ち上がる形状である。形状はHP-1に類似するがやや細目でくである。

壁柱穴 壁柱穴はSP-1045～1047・1060・1857・1858・1864・3464・3466・3476・3477・3480・3481・3494・3505～3507・3511・3525・3526からなる。深さは比較的浅く10cm前後のものが多い。東西に長軸をもつ、楕円形に配列されている。3525・3526と3464、1864と3466、1857と3480・3481、1858と3477・3476、1060と1045・1046、3505と3493は出入口中央部を通る軸に対象の位置に検出されている。

土層

SP-1861 覆土1層：明黄褐色土、En-aPが多量に混じる。

SP-370 覆土1層：褐色土、少量のEn-aPが混じる。

SP-1906 覆土1層：褐色土、少量のEn-aPが混じる。

SP-1052 覆土1層：褐色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。

H-17HP-1 覆土1層：暗黄褐色土、ブロック状のEn-aPが混じる。

H-17HP-2 覆土1層：暗黄褐色土、ブロック状のEn-aPが混じる。

遺物 SP-1861・370・H-17HP-2は遺物が出土していない。1906は覆土からIV群c類(3)、フレイク(1)、礫・礫片(1)計5点出土した。1052は覆土からIV群c類(9)出土している。H-17HP-1は、坑底からIV群c類(12)、礫・礫片(1)、覆土からIV群c類(4)、ドリル(1)剥片(1)計19点、出土した。

土器 1は出入口であるH-17HP-1の坑底から出土したIV群c類の口縁部破片である。大形の深鉢で、口唇断面は切出形である。口唇直下に突瘤がめぐる。内面には炭化物が付着している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式頃。 (熊谷仁志)

建物28 (図V-55・56 図版87-2)

位置 i・j・k-67・68 Q地区西側に位置する。

規模 3.10×2.94 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の支柱穴と東側に出入口および壁柱穴を確認した。すべてⅧ層で確認した。西側は建物14と重なる。

支柱穴 SP-585・2152・2154・2158で構成される。

SP-585 平面形は円形、坑底は丸みを持ち若干開き気味に立ち上がる。

SP-2152 平面形は円形、坑底は平らで若干開いて立ち上がる。

SP-2154 平面形は円形、坑底は丸みを持ち若干開き気味に立ち上がる。

SP-2158 平面形は円形、坑底は丸く開いてもち立ち上がる。

出入口 SP-4772・4773の組み合わせと2146の対で構成される。

SP-4772 平面形は楕円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。

SP-4773 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。

SP-2145 平面形は円形、坑底は平らで若干開いて立ち上がる。

焼土 検出されていない。

壁柱穴 支柱穴を結ぶ方形の外側にSP-584・2145・2153の3カ所の壁柱穴を確認にした。これらの平面形は円形で、直径は584・2145が18cm、2153はやや大きく26cmである。坑底は584・2153が平らで、2145は丸い。深さは584が10cm、他は20cm程である。

土層

SP-585 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-2152 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-2154 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

SP-2158 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-2146 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 SP-585は覆土から剥片(1)が出土した。SP-2146は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(5)、計6点出土した。SP-2154は覆土からIV群c類(8)が出土した。SP-2158は覆土からIV群c類(2)、剥片(1)、計3点出土した。SP-2159は覆土からIV群b-4類(2)、IV群c類(13)、計15点出土した。

土器 いずれも出入口および壁柱穴の覆土から出土したものである。1・3・4はIV群b-4類。3・4は同一個体の可能性がある。くびれのある深鉢で、口唇直下とくびれに1列の刻み列がめぐる。2・5・6はIV群c類である。2は、突瘤施文後、左右に若干つぶされる。6はほぼ全面に縄文が施される底部破片。

2 建物

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物29 (図V-57・58 図版88-1)

位置 1・m・n-56・57

規模 2.68×2.66 外周5.40×5.94

特徴 現場段階で、出入口および一部の壁柱穴については、H-4として調査した。主柱穴および壁柱穴の大部分は図上でこれに伴うものとして確認した。この中には、現場段階で別の建物を想定し、H-1およびH-2として調査した柱穴状ピットも含まれている。主柱穴間の距離が2.7mほどの小形の建物跡である。方形に並ぶ4基一組の主柱穴、2基一組の出入口、楕円形に巡る壁柱穴からなる。検出面はI層除去後のⅧ層である。本遺構周辺は、耕作による攪乱がⅧ層にまで及んでいたため、伴う焼土や、竪穴の有無は不明である。

主柱穴 SP-66あるいは65・84・26・2あるいは4からなる。一辺が2.7mほどの方形に並ぶ。65・4は、その位置と規模から、それぞれ66・2の立て替えの可能性はある。

SP-66 平面形はほぼ円形。坑底は尖り気味で、壁はやや開く。

SP-65 平面形は楕円形。坑底は尖り気味で、概して垂直で、一部開く。

SP-84 平面形はほぼ円形。坑底は丸く、壁は垂直に近い。

SP-26 平面形はほぼ円形。坑底は丸く、壁は垂直に近い。

SP-2 平面形はほぼ円形。坑底は丸く、壁は垂直に近い。

SP-4 平面形は楕円形。坑底は狭いが平坦で、壁はやや開く。

出入口 楕円形の土坑、H-4HP-1・2からなる。

H-4HP-1 平面形はやや長い楕円形。坑底は平坦だが西へ傾斜し、立ち上がりはごく緩やか。壁は開き、西側では大きく開く。

H-4HP-2 平面形は楕円形。坑底は円形に近く、丸みがある。立ち上がりは緩やかで、壁は開く。

壁柱穴 建物の軸と直交する方向にやや長い楕円形に巡る。35カ所ほどの柱穴状ピットで構成される。規模は、ばらつきがあるが、直径15~20cm、深さ10~15cmほどのものが多く、坑底は丸みを帯びるものと、平坦なものがある。覆土は黒褐色や暗褐色が多い。また、H-4HP-10・11・12・13・16、特に11・12はその規模から、ここには含めたが、本建物には伴わない可能性が大きい。

土層

SP-66 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

SP-65 覆土1層：灰褐色土、En-aP・少量の骨片を含む。

SP-84 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。

SP-26 覆土1層：少量のEn-aP・骨片を含む。

SP-2 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

SP-4 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

H-4HP-1 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、しまりない。En-aPを含む。

H-4HP-2 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、En-aPを含む。

遺物 いずれも少数で、散発的な出土である。SP-65は覆土から、剥片(1)、計1点、SP-26

は覆土から、IV群c類(2)、計2点、H-4 HP-1は覆土から、石斧(1)、計1点、HP-2は覆土から、IV群c類(1)、剥片(1)、計2点が、それぞれ出土している。SP-66・84・2・4からは遺物は出土していない。

土器 いずれも主柱穴および壁柱穴の覆土から出土したIV群c類である。2・3は同一個体。4は波状口縁を呈し、くびれをもつ、ごく小形の深鉢になるものと思われる。口縁直下には平行沈線とイナズマ状沈線が施される。

石器 1は石斧で基部と刃部の一部が欠損する。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉 IV群c類の時期である。 (柳瀬由佳)

建物30 (図V-59・60 図版88-2)

位置 k・1-55・56

規模 3.10×2.64 外周 現存 (5.24) × (5.90)

特徴 現場段階で、出入口および一部の壁柱穴をH-1として調査した。主柱穴および壁柱穴の一部は、図上でこれに伴うことを確認した。当初、本建物の出入口H-1 HP-1・2、および建物110の出入口H-2 HP-23・24と同時に多くの柱穴状ピットを検出したことから、2軒の建物が重複しているものと判断し、2組の出入口の覆土の色調を基に、それぞれH-1、H-2として柱穴状ピットを分離することを試みた。しかしながら、図上で検討の結果、出入口との位置関係から、H-2として調査したものの多くがH-1とした出入口に付属するものであることと、また、H-1・2としたものの一部は、H-4として調査した建物29に付属するものであることを確認した。

主柱穴間の距離が3.0mほどの小形の建物跡である。長方形に並ぶ4基一組の主柱穴、2基一組の出入口、楕円形に巡る壁柱穴からなる。検出面はI層除去後のⅧ層である。本遺構周辺は、耕作による攪乱がⅧ層にまで及んでいたため、付属する焼土や、竪穴の有無は不明である。また、西側から南側で壁柱穴が検出できなかったが、これも耕作によって失われたためと思われる。

主柱穴 H-2 HP-8・1、SP-67・86からなる。建物の軸に直交する方向にやや長い長方形に並ぶ。

H-2 HP-8 平面形は隅丸方形。坑底は楕円形で、平坦。立ち上がりはやや緩く、壁は垂直に近い。

H-2 HP-1 平面形はほぼ円形。坑底は丸みをおび、立ち上がりは急で、壁はやや開く。

SP-67 平面形はほぼ円形。坑底は丸く、壁はやや開く。

SP-86 平面形はほぼ円形。坑底は小さな楕円形で、平坦。立ち上がりは概して急で、壁はやや開く。

出入口 H-1 HP-1・2からなる。楕円形の2基一組の出入口であるが、やや形態が異なる。

H-1 HP-1 平面形は楕円形だが、一部くびれている。坑底は楕円形で丸く、立ち上がりは緩やか。壁は概して垂直に近いが西側では開く。

H-1 HP-2 平面形は楕円形。坑底は小さな円形に近く、平坦。ごく緩やかに立ち上がるが、下半で内側へ大きく屈曲し、そこからやや内傾して開口する。

壁柱穴 東側から北側でのみ検出した。長軸が建物の軸方向と直行する、長径6.0mほど、短径7.1mほどの楕円形に巡るものと思われる。25ヵ所ほどの柱穴状ピットで構成される。直径は15cm前後、検出面からの深さはほとんどが10cm以下であるが、検出面まで削平を受けていたことから、検出できたのは坑底付近のみで、本来はこれより深かったものと思われる。坑底は丸いものが多い。覆土は黒褐

2 建物

色や暗褐色土がほとんどである。

土 層

H-2 HP-8 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。覆土2層：褐色土、En-aPを含む。

H-2 HP-1 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

SP-67 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

SP-86 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

H-1 HP-1 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

H-1 HP-2 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

遺 物 ごく少数の散発的な出土である。H-2 HP-1は覆土から、I群b類(1)、計1点、SP-67は覆土から、IV群c類(1)、計1点、H-1 HP-2は覆土から、IV群c類(1)、計1点、がそれぞれ出土している。H-2 HP-8、SP-86、H-1 HP-1からは遺物は出土していない。

土 器 1は壁柱穴の内側に位置するH-2 HP-22の覆土から出土したIV群c類である。

時 期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉 IV群c類の時期である。

(柳瀬由佳)

建物31 (図V-61)

位 置 h-55、i-55・56

規 模 2.85×3.00 外 周 -×-

特 徴 耕作による攪乱がⅧ層(En-aP層)中まで及んでいたため、重機による表土除去中にH-8 HP-1・2を確認し、Ⅷ層の精査中に一部支柱穴及び壁柱穴を確認した。ほぼ東西に長軸をもつ2基一組の溝状の出入口が東側に認められた。支柱穴は4本一組、ほぼ一辺3mの方形に配列されている。壁柱穴の配列には、明確な規則性は認められなかった。

支柱穴 SP-220・222・223・241で構成される。

SP-220 平面形は径25cm程の円形である。坑底は丸味をもつ。深さは21cmである。

SP-222 北東-南西に長軸をもつ楕円形で、長軸32cm、短軸30cmである。坑底は南西に寄り、先端部は尖る。深さは22cmである。

SP-223 平面形は東西に長軸をもつ楕円形、長軸27cm、短軸は24cmである。坑底は丸味をもち、ほぼ垂直に立ち上がる。深さは13cmである。

SP-241 平面形は北西-南東に長軸をもつ楕円形、長軸25cm、短軸は21cmである。坑底は尖り気味である。深さは19cmである。

出入口 H-8 HP-1・2で構成される。H-8 HP-2は坑底面を検出したのみで、現地では汚れたⅧ層(En-aP層)がシミ状に検出された。

H-8 HP-1 坑底付近を検出した。平面形は、ほぼ東西に長軸をもつ溝状で、長軸0.60m、短軸0.20m、深さ0.04mである。断面形は、西側壁付近に最大深をもち、西側は比較的急角度に、東側は東に向かって緩やかに立ち上がる。

H-8 HP-2 坑底面を検出した。平面形は、ほぼ東西に長軸をもつ溝状で、長軸0.88m、短軸0.26mである。

焼 土 検出されていない。

壁柱穴 壁柱穴はSP-218・219・221・224・225・242からなる。いずれも深さは比較的浅く10cm前後のものである。全体は東西に長軸をもつ、楕円形に配置されているが、壁柱穴毎の対応関係は不明である。

土 層

- S P-220 覆土1層：黒色土、En-aPが多量に混じる。
- S P-222 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・少量の炭化物が混じる。
- S P-223 覆土1層：黒色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。
- S P-241 覆土1層：黒色土、多量のEn-aP・少量の炭化物が混じる。
- H-8 HP-1 覆土1層：黒色土、多量のEn-aP・少量の炭化物が混じる。

遺 物 S P-220・223・241は遺物が出土していない。S P-222は覆土から石斧が1点出している。
壁柱穴S P-221の覆土からはIV群c類(4)が出土している。

時 期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃 (熊谷仁志)

建物32 (図V-62)

位 置 f・g-70・71 Q地区北東側に位置する。

規 模 2.91×2.39 外 周 4.50×3.50

特 徴 図面上で確認した。南北に長い長方形に配列された4基一組の主柱穴と東側に一对の出入口および壁柱穴をもつ。壁柱穴は主柱穴を結ぶ長方形に平行するように外側に配列されている。すべてVII層で確認した。

主柱穴 S P-1484・1553・1583・4667で構成される。

- S P-1484 平面形は楕円形、坑底は丸く、立ち上がりは緩やかである。
- S P-1553 平面形は円形、坑底は丸く、立ち上がりは緩やかである。壁はほぼ直立する。
- S P-1583 平面形は楕円形、坑底は丸く、立ち上がりは緩やかである。
- S P-4667 平面形は楕円形、坑底は丸く、立ち上がりは緩やかである。南西側はS P-1538に切られている。

出入口 S P-1518・1519の一对で構成される。

- S P-1518 平面形は細長い溝状、坑底は長軸の両端が深く、短軸方向はU字形である。
- S P-1519 平面形は楕円形、坑底は長軸の両端がやや深く、短軸方向はU字形である。

壁柱穴 平面形は円形と楕円形がほぼ半々で、坑底は丸く浅い。北側から西側は平行する二重に配列されたとも考えられる。

土 層

- S P-1484 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。
- S P-1553 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。
- S P-1583 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。
- S P-4667 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。
- S P-1518 覆土1層：暗黄褐色ローム質土。覆土2層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。
- S P-1519 覆土1層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

遺 物 出土していない。

時 期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物33 (図V-63・64 図版88-3)

位 置 s-62・63、t-62

2 建物

規模 2.91×2.39 外周 3.75×3.55

特徴 図面上で確認した。4基一組の主柱穴と思われるものが、ほぼ方形に配列され、東側に出入口がある。周辺にも多くの柱穴状ピットが検出されているため、明確に伴うものを特定することが困難である。また、焼土等はない。

主柱穴 SP-654・611・605・669で構成される。

SP-654 整地層下位の調査で確認された。平面形は円形で、坑底は丸みをもち、開きぎみに立ち上がる。

SP-611 整地層下位の調査で確認された。平面形は円形で、坑底は丸みをもち、654よりさらに開きぎみに立ち上がる。

SP-605 整地層下位の調査で確認された。平面形は円形で、坑底はやや尖り、開きぎみに立ち上がる。

SP-669 整地層下位の調査で確認された。平面形は円形で、坑底は丸みをもち、比較的垂直に立ち上がる。

出入口 SP-662・666で構成される。

いずれも整地層下位の調査で確認した。ともに坑底には凸凹があり、そこからやや開きぎみに立ち上がる。

壁柱穴 該当する24基は楕円形状に配置される。ただし、周辺にも多くの柱穴状ピットがあるため、明確なものを特定するのは困難である。

土層

SP-654 覆土1層：灰褐色土、少量のEn-aPを含む。

SP-611 覆土1層：褐灰色土、少量のEn-aPを含む。

SP-605 覆土1層：灰褐色土、少量のEn-aPを含む。

SP-669 覆土1層：黒褐色土、やや粘性が強い。

SP-662 覆土1層：褐灰色土、少量のEn-aPを含み、やや粘性が強い。

SP-666 覆土1層：褐灰色土、少量のEn-aPを含み、やや粘性が強い。

遺物 SP-669は覆土中から剥片が1点出土した。SP-662は覆土中から礫が1点出土した。

土器 1・2は壁柱穴の覆土から出土したIV群c類である。2は波状口縁の波頂部の破片であるが、波頂部が剥落している。3本の平行する沈線が描かれる。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の時期と思われる。

(笠原 興)

建物34 (図V-65 図版88-4)

位置 s・t-59・60・61

規模 2.20×2.04 外周 6.40×5.64

特徴 整地層除去後のⅧ層上面で検出し、図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴があるが、周辺にも多量の柱穴状ピットが認められる為、明確に伴うものを特定することが困難であった。東側には2基一組で一對の出入口がある。

主柱穴 SP-767・2506・2593・750で構成される。また、784は規模から主柱穴の可能性のあるものとして扱った。

SP-767 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、底面は北東側よりにあり、壁は南西側が傾斜する。

SP-2506 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底はやや丸みを持ち、壁はやや開きぎみに立ち上がる。深さは約50cmを計る。

SP-2593 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底はやや丸く、壁は開きぎみに立ち上がり、南東側の壁には浅い段がある。

SP-750 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、坑底は丸みを持ち、壁はやや開きぎみに立ち上がる。

SP-784 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、坑底は丸みを持ち、壁はやや開きぎみに立ち上がる。深さは約50cmを計る。

出入口 SP-693・694で構成される。

いずれもⅧ層上面の調査で確認した。SP-693・694とで対になるものと思われる。ともに平面形は楕円形で、坑底は丸みを持つ。

焼土 検出されていない。

壁柱穴 該当すると思われる10基の柱穴状ピットは楕円形状に配置される。

土層

SP-767 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

SP-2506 覆土1層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。

SP-2593 覆土1層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。

SP-750 覆土1層：黒褐色土、やや粘性が強く少量のEn-aPを含む。

SP-784 覆土1層：黒褐色土、やや粘性が強く少量のEn-aPを含む。

遺物 SP-767は覆土からⅣ群c類1点。784は覆土からⅢ群b類(1)、Ⅳ群c類(5)計6点。2506は覆土からⅣ群c類(1)、石鏃(1)計2点。750は覆土からⅣ群c類が1点出土した。

土器 ともに支柱穴であるSP-784の覆土から出土したⅣ群c類である。1は口縁に沿って突瘤が施され、3本一組の平行する沈線が2組描かれる。突瘤は施文後、若干左右につぶされている。2はやや上げ底になる底部破片。

石器 3は2c類の石鏃で腹面に周縁加工が加えられている。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期と思われる。(笠原 興)

建物35 (図V-66 図版26-1~3・図版88-5)

位置 g-57・58、h-57

規模 2.85×3.00 外周 -×-

特徴 H-10HP-1・2は耕作による攪乱がⅧ層(En-aP層)中まで及んでいたため、重機による表土除去中に、建物49の出入口であるH-9HP-1・2と共に確認した。そして、支柱穴及び壁柱穴はⅧ層の精査中に確認した。H-10HP-2は、H-9HP-1によって壊されている。出入口であるH-10HP-1・2は東側から検出され、ほぼ東西に長軸をもつ溝状である。支柱穴は4本一組で、出入口に近い東側が2.70m、西側が2.80m、東西間の距離は約2.50mと扁平な方形に配列されている。壁柱穴の配列には、明確な規則性は認められなかった。出入口部分の切り合い関係から建物35は、建物49より古く位置付けられる。

支柱穴 SP-253・254・256・258で構成される。

SP-253 北東-南西に長軸をもつ楕円形で、長軸25cm、短軸22cmである。坑底は北東に寄り、先端部は尖る。深さは10cmである。

2 建物

S P-254 北西-南東に長軸をもつ楕円形で、長軸23cm、短軸20cmである。坑底は南東に寄り、先端部は尖る。深さは19cmである。

S P-256 平面形はほぼ南北に長軸をもつ楕円形、長軸25cm、短軸は20cmである。坑底の先端部は尖る。深さは22cmである。

S P-258 北西-南東に長軸をもつ楕円形で、長軸23cm、短軸は18cmである。坑底は尖り気味である。深さは27cmである。

出入口 H-10HP-1・2で構成される。

H-10HP-1 平面形は、ほぼ東西に長軸をもつ溝状で、長軸0.53m、短軸0.25m、深さ約0.28mである。断面形は、あたかも先端が尖る2基の小ピットが連結したような2カ所の凹みからなる。

H-10HP-2 平面形は、ほぼ東西に長軸をもつ溝状で、長軸0.66m、短軸0.21m、深さ約0.26mである。断面形は、あたかも先端が尖る2基の小ピットが連結した2カ所の凹みからなる。2本の杭が埋設されていたものと考えられる。

焼土 検出されていない。

壁柱穴 壁柱穴はS P-251・280・257からなる。いずれも深さは比較的浅く10cm前後のものである。全体は東西に長軸をもつ、楕円形に配置されているが、壁柱穴毎の対応関係は不明である。

土層

S P-253 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・少量の炭化物混じる。

S P-254 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・炭化物が混じる。

S P-256 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・炭化物が混じる。

S P-258 覆土1層：明黄褐色土、多量のEn-aP・少量の炭化物が混じる。

H-10HP-1 覆土1層：黒色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。

H-10HP-2 覆土1層：黒色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。

遺物 S P-256・258と壁柱穴からは遺物が出土していない。S P-253は覆土からドリル（1）出土している。254は覆土からIV群c類（2）、剥片（1）、原石（1）、たたき石（1）計5点出土している。

土器 とともに支柱穴および出入口の覆土から出土したIV群c類である。1は突瘤施文後、左右につぶされている。2は形態からIV群b-4類の可能性が有る。波状口縁の波頂部の破片である。波頂部には垂直方向の稜をもち、肥厚する。波頂部の内面には沈線が施される。

石器 3はドリルで2類。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃

(熊谷仁志)

建物36 (図V-67)

位置 j-52・53、k-52・53・54 Q地区の西側に位置する。

規模 2.16×2.14 外周 4.50×5.00

特徴 図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の支柱穴をもつ。東側に対の出入口のうち、片側を確認した。支柱穴を結ぶ方形を囲む、円形に並ぶ壁柱穴を確認した。すべてⅧ層で確認された。東端は建物25と重なる。

支柱穴 S P-471・474・475・476で構成される。

S P-471 平面形は円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。

S P-474 平面形は楕円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がる。西側の壁は坑底から10cm程のと

ころで段を有し斜めに開く。

S P-475 平面形は円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がる。

S P-476 平面形は円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。

出入口 S P-485は出入口の片側と思われる。平面形は円形、坑底は平らでやや開き気味に立ち上がる。

壁柱穴 主柱穴を取り囲むように丸く17ヵ所配列されている。平面形は円形で、断面は杭状のものや坑底の平らなものが入り混じっている。深さは10cm程度のものが多い。

土 層

S P-471 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

S P-474 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-475 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-476 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

S P-485 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺 物 S P-471は覆土1からIV群c類が1点出土した。S P-475は覆土1からIV群c類(7)、剥片(1)計8点出土した。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物37 (図V-68)

位 置 1・m-53・54 Q地区の西側に位置する。

規 模 2.14×1.52 外 周 -×-

特 徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の主柱穴と東側に一對の出入口と壁柱穴を確認した。南東側は建物3と重なる。

主柱穴 S P-509・520・3978・4640で構成される。

S P-509 平面形は円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。

S P-520 平面形は円形、坑底は尖り気味で開いて立ち上がる。

S P-3978 平面形は円形、坑底は丸くやや開き気味に立ち上がる。

S P-4640 平面形は円形、坑底は丸く立ち上がる。確認面上、約20cmにF-13がある。

出入口 H-16HP-1とS P-504の対で構成される。

H-16HP-1 平面形は楕円形、坑底は長軸の両端がやや深い。

S P-504 平面形は円形、坑底は丸い。

焼 土 検出されなかった。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ長方形の外側に3ヵ所の壁柱穴を確認にした。499の平面形は円形、坑底は丸く、深さ15cmである。574の平面形は円形、坑底は丸く、深さ10cmである。V層から掘り込まれたようにその上にF-13がある。3975の平面形は楕円形、坑底は丸く、深さ10cmである。

土 層

S P-509 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

S P-520 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

S P-3978 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

S P-4640 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

2 建物

H-16HP-1 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

S P-504 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 H-16HP-1は覆土からI群b類(2)が出土した。S P-504は覆土からIV群c類(1)が出土した。

時期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物38 (図V-69)

位置 1-52・53 Q地区の西側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。方形に配列された4基一組の主柱穴をもつものと考えられるが南西側の主柱穴は調査区域外にかかるため確認できない。東側に出入口の片側をもち、2ヵ所の壁柱穴を確認した。南西側は建物60と重なる。

主柱穴 S P-495・496・516で構成される。

S P-495 平面形は円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。

S P-496 平面形は円形、坑底は丸い。

S P-516 平面形は円形、坑底は丸く立ち上がる。

出入口 H-13HP-1は出入口の片側と考えられる。対の反対側は検出されなかった。平面形は楕円形、坑底は丸みをもつ。

壁柱穴 西側主柱穴のS P-495の傍に494と、主柱穴を結ぶ線と出入口の間に517の2ヵ所の壁柱穴が確認された。また、主柱穴を結ぶ方形の中央部に519がある。これらの平面形は円形で坑底は丸みをもつ。

土層

S P-495 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

S P-496 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

S P-516 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

H-13HP-1 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

遺物 出土していない。

時期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物39 (図V-70 図版26-4・図版89-1)

位置 e-68、f・g-68・69、h-68 Q地区北東側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。方形に配列された4基一組の主柱穴をもつものと考えられ、そのうち2基を確認したが、西側の主柱穴は調査区域外にあると思われるが確認できない。東側に2基一組で一对の出入口をもち、半円状に壁柱穴を確認した。南西側は建物40と重なる。

主柱穴 P-54・59で構成される。

P-54 平面形は楕円形、坑底はやや傾斜し若干開き気味に立ち上がる。壁の南側は中程から斜めに広がる。北側はP-55とS P-4691を切っている。

P-59 平面形は楕円形、坑底はほぼ平らで若干開き気味に立ち上がる。壁の北側は中程から斜めに広がる。南側はH-19HP-2に切られている。

出入口 SP-1411・1412・1504・4697で2基一組の出入口を構成する。

SP-1411 平面形は楕円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。

SP-1412 平面形は楕円形、坑底はほぼ平らで緩やかに立ち上がる。

SP-1504 平面形は楕円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。南西側の壁は中程に段を有し広がる。

SP-4697 平面形は円形、坑底はほぼ平らで緩やかに立ち上がる。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ線の東側に12ヵ所の柱穴が半円状に配列されていることが認められる。東側の中央部分となるところは出入口付近でつながるものと考えられる。

土 層

P-54 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土4層：褐色土、En-aPを多く含む。

P-59 覆土1層：茶褐色土、En-aPを含む。

SP-1411 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

SP-1412 覆土1層：灰黄褐色パミス、En-aPが汚れ細粒状。

SP-1504 覆土1層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 P-54は覆土からIV群c類(41)、剥片(18)、計59点出土した。P-59は覆土からIV群c類(9)、剥片(4)、礫・礫片(2)、計15点出土した。

土器 すべて、主柱穴の覆土から出土したIV群c類である。口唇断面は切出形のものが多い。1は肥厚する切出形の口唇端部に縄文を施し、さらに小さな刺突を加えている。4は「ハ」の字状の刻みをもつ注口の破片。5はミニチュア土器。つくりは雑である。浅鉢形で、台が付くようである。縦の弧状の沈線と、乱れた「ハ」の字状の刻みが施され、突瘤と貼瘤をあわせもつ。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物40 (図V-71 図版26-5・図版89-2)

位置 e-68、f・g-68・69、h-68 Q地区北東側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。方形に配列された4基一組の主柱穴をもつものと考えられ、そのうち2基を確認したが、西側の主柱穴は調査区域外にあると思われる。東側に出入口をもち、半円状に壁柱穴を確認した。南西側は建物39と重なる。

主柱穴 P-55・58で構成される。

P-55 平面形は円形、坑底はやや丸みをもち若干開き気味に立ち上がる。南側はP-54に切れ、北側のP-56と東側のSP-4691を切っている。

P-58 西側が調査区域外にかかり半分程度しか調査していないため、平面形は不明。坑底はほぼ平らであるが中央部に丸く窪みをもつ。壁は開き気味に立ち上がる。覆土北側には入れ子になりSP-1401がある。

出入口 SP-1409・1420で一对の出入口を構成する。

2 建物

S P-1409 平面形は楕円形、坑底はやや丸く、ほぼ垂直に立ち上がる。西側の壁は中程から斜めに開く。

S P-1420 平面形は楕円形、坑底はほぼ平らで、壁は開き気味に立ち上がる。東側の壁は緩く傾斜する。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ線の東側に半円状に配列が認められる。北半は疎らで、南半は密に確認されている。南半の壁柱穴には他の建物の壁柱穴列が含まれている可能性もある。

土 層

P-55 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

P-58 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-1409 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

S P-1420 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

遺 物 P-55は覆土からIV群c類(41)、剥片(10)、礫・礫片(1)、計52点出土した。P-58は覆土からIV群c類(8)、剥片(1)、計9点出土した。S P-1409は覆土からIV群c類(2)、剥片(2)、計4点出土した。S P-1420は覆土からIV群c類(27)、剥片(8)、礫・礫片(3)、計38点出土した。

土 器 すべて主柱穴および出入口の覆土から出土したものである。口唇断面はすべて切出形である。

1は、縦の沈線と、刻みに近い斜めの刺突が組み合わされる。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物41 (図V-72・73 図版27・図版89-3～図版90)

位 置 m-62・63、n-62・63・64、o-63

規 模 6.78×5.86 **外 周** -×-

特 徴 図上で確認した。4基一組の主柱穴・炉と思われる焼土・壁柱穴からなる。主柱穴間の距離が、最大で6.8mほどにもなる大形の建物である。焼土が主柱穴の東西方向の中心線上のやや東よりに位置することから、東側が出入口に相当するものと思われる。検出面はほとんどがⅧ層である。

主柱穴 P-194・92・146・100からなる。平行四辺形に並び、南北方向にやや長い。いずれも、基本は柱穴状で、部分的に段がついたり、開いてゆく、いわゆる片流れ状の土坑である。張り出し部は建物の外側に向かう傾向が見られる。

P-194 平面形は楕円形である。坑底は円形に近く、平坦。立ち上がりは急で、壁は垂直に近く、南東側では屈曲して開く。

P-92 西側の上部が試掘溝と思われる攪乱によって壊されているが、平面形は楕円形になると思われる。坑底は丸く、立ち上がりは緩やかである。壁は、中位で膨らみオーバーハングするか、垂直に近いが、北側では途中で段をもち、開く。

P-146 平面形は楕円形である。坑底はほぼ円形で、やや丸みをおびる。立ち上がりは比較的急で、壁は垂直に近いが、北西側ではやや開き、上位で大きく屈曲して張り出すように開口する。

P-100 平面形は楕円形である。坑底はほぼ円形で、平坦。立ち上がりは急で、壁は概して垂直に近いが、南西側では外側へ大きく屈曲し、段を作って開口する。

焼 土 主柱穴の中心線上に位置することから、F-66が本遺構に伴うものと判断した。主柱穴の東西

方向の中心線上、中央よりもやや東よりに位置する。

壁柱穴 確認できたのは北側付近の、全周の約3分の1に相当する部分のみである。隅丸形状に巡るようである。40ヵ所ほどの柱穴状ピットで構成される。壁柱穴の現存部分と建物の軸から想定すると、北東-南西方向が11.9mほど、北西-南東方向が13.0mほどになるものと思われる。

土 層

P-194 覆土1層：黒褐色土。覆土2層：黒褐色～暗褐色土、やや多量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土4層：黒褐色土、しまりややソフト。少量のEn-aPを含む。覆土5層：黄褐色土、純粋なEn-aP主体。覆土6層：黒褐色土、しまりソフト。少量のEn-aPを含む。覆土1～4層は抜き取り、覆土5・6層は掘方。

P-92 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗灰褐色土、しまりあり。多量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、しまりあり。En-aPを含む。覆土4層：暗黄褐色土、暗灰褐色土にローム粒が多く混入する。しまりやや弱い。ごく少量のEn-aPを含む。覆土5層：暗褐色土、しまりやや弱い。粘性強い。ごく少量のEn-aPを含む。覆土6層：暗灰褐色土、しまりあり。多量のEn-aPを含む。覆土7層：暗黄褐色土、ごく大量のEn-aP主体。しまりなく、ポロポロ。ロームブロックを含む。覆土8層：灰褐色土、En-aP主体で。粘性の強い土壌を少量含む。覆土9層：黄褐色土、En-aP主体。しまりなく、ポロポロ。

P-146 覆土1層：褐色土、多量のEn-aP・ごく少量の炭化物および骨片を含む。覆土2層：暗灰褐色土、しまり弱い。多量のEn-aPおよびローム粒を含む。覆土3層：暗灰褐色土、しまり弱い。ごく多量のEn-aPを含む。覆土4層：暗黄褐色土、しまり弱い。多量の細粒のEn-aPを含む。覆土5層：暗黄褐色土、しまりあり。多量の細粒のEn-aPを含む。覆土6層：黄褐色土、粘性強く、しまり弱い。少量のEn-aPを含む。覆土7層：暗黄褐色土、褐色土・ローム粒・En-aPがまだらに混合する。覆土8層：暗黄褐色土、しまりなく、ポロポロ。粒子粗い。少量のEn-aPを含む。覆土9層：暗黄褐色土、しまりあり。大量のEn-aPを含む。覆土10層：黄褐色パミス、1cmほどのEn-aP主体。しまりあり。覆土11層：暗黄褐色パミス：0.5cmほどの細粒のEn-aP主体。しまりなく、ポロポロ。ごく少量の褐色土・黒褐色粘土ブロックを含む。覆土12層：暗灰褐色粘土、少量のEn-aPを含む。覆土13層：暗灰褐色粘土、少量のEn-aPを含む。覆土14層：灰黄褐色土、En-aP主体。しまりなく、ポロポロ。土層A：表面が黒色化したEn-aP。土層B：表面が赤褐色化したEn-aP。

P-100 覆土1層：暗褐色土、しまりあり。多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含むブロック状の焼土を含む。覆土2層：褐色土、しまりやや弱い。多量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、しまりなく、ポロポロ。多量のEn-aPを含む。覆土4層：暗灰褐色土しまり弱く、ポロポロ。表面が黒色化したEn-aP主体。覆土5層：黄褐色土、しまりあり。

F-66 覆土1層：暗赤褐色焼土、焼けは弱い。

遺 物 数量的にはやや多いが、概して散発的な出土である。覆土の上層から多く出土する傾向がある。P-194は覆土から、IV群c類(61)、剥片(18)、原石(3)、石皿・台石(1)、礫・礫片(1)計84点、P-92は覆土から、IV群c類(81)、剥片(13)、石斧(1)礫・礫片(1)、計96点、P-146は覆土から、IV群b-4類(7)、IV群c類(88)、剥片(13)、原石(1)、石斧(1)、石皿・台石(1)、礫・礫編(1)、計112点、P-100は覆土から、III群b類(1)、IV群c類(64)、剥片(9)、たたき石(1)、砥石(1)、礫・礫編(3)、計79点、F-66は焼土から、IV群c類(9)、石鏃(1)剥片(1)、礫・礫片(1)、計12点、がそれぞれ出土している。

土 器 主に支柱穴の覆土から出土したものである。8はIII群b-2類、18はIV群b-4類、ほかは

2 建物

すべてIV群c類である。8はⅢ群b-2類の口縁部破片。外反し、横環する貼付帯と垂下する貼付帯が施される。18はIV群b-4類の口縁部破片。口唇直下に1列の刻み列と突瘤がめぐる。2・7・9・15・19・25・27・30はIV群c類。口縁部破片の口唇断面はすべて切出形である。27は支柱穴P-194の破片と、隣接するP-247(建物51)の覆土、o-65の整地2層および排土から出土した破片が接合したものである。注口と思われる。底はわずかに上げ底。斜行縄文地の胴部を、横環する沈線で3段ほどに区画し、それぞれに波状の沈線とすり消しが加えられる。すり消しは工具を使用したと思われ、痕跡が明瞭に残る。器表は内外とも、橙色から褐色を呈する。胎土には砂粒が多く、白色の小礫も少量混入する。2・6は幅広の無文部の上下に平行沈線が施される。25は2と同一個体の胴部の可能性がある。4・5・10・28・29は弧状の沈線による文様が、9・20は鋸歯状や山形の沈線による文様が施される。10は、口唇端部に放射状の刻みが加えられる。11は浅鉢。15はミニチュア土器である。つくりは丁寧で、注口あるいは壺形になるとと思われる。波状・弧状の沈線と、すり消しによる文様が施される。

石器 1は石鏃で2c類。茎部を欠損する。16はたたき石として扱った。石質は不明。すり痕も認められ、表面の一部が平坦である。17は砥石で片面に研磨面を持つ。石質は砂岩である。26は台石と思われる。表面にはたたき痕が認められ、わずかに凹みがある。石質は流紋岩である。31は石皿で、両主面と片側縁にU字状のすり面がある。また主面の一部には敲打痕も認められる。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉 IV群c類の時期である。

(柳瀬由佳)

建物42 (図V-74)

位置 i-65、j・k-64・65

規模 3.24×3.03 外周 5.40×4.90

特徴 各柱穴は、整地層の調査中に確認し、配列は図面状で確認した。建物75と重複する。出入口は、ほぼ東西に長軸をもつ一対の柱穴ピットからなる。支柱穴は4本一組になるものと思われるが南側の柱穴が確認できず、3本のみを確認した。出入口には近い東側の柱穴間が3.40m、西側は東側に比べやや狭くなるものと思われ、支柱穴は、東側が広い台形になるものと考えられる。支柱穴に囲まれ、やや出入口寄りに焼土(F-46)が検出された。壁柱穴の配列には、明確な規則性は認められなかった。

支柱穴 SP-4538・3743・3748と検出できなかった1カ所の4本一組で構成される。

SP-4538 北東-南西に長軸をもつ。平面形は不整形円で、南西側に長軸45cm、短軸39cmで、南西側に坑底が平坦な深さは31cmの凹みがある。

SP-3743 北西-南東に長軸をもつ楕円形で、長軸45cm、短軸39cmである。坑底は西に寄り、先端部は尖る。深さは60cmである。

SP-3748 平面形はほぼ南北に長軸をもつ楕円形、長軸30cm、短軸は23cmである。坑底は、南に寄り、先端部は尖る。深さは42cmである。

出入口 出入口部分の施設として柱穴状ピットで構成されるものである。SP-3744・3747が該当するものと考えられる。出入口に近い東側の柱穴間を三等分する位置にある。

SP-3744は、北西-南東に長軸をもつ楕円形で、長軸30cm、短軸は27cmである。坑底は平坦で、ほぼ中央にある。深さは24cmである。

SP-3747は、西-東に長軸をもつ楕円形で、長軸30cm、短軸は27cmである。坑底は丸味をもち、ほぼ中央にある。深さは43cmである。

焼土 整地層の調査でF-46を検出した。VI層(En-aL)に被熱による赤色変化が認められた。平面形は、南北を長軸とする不整形である。焼土の発達も良好で、焼土中には少量の炭化物・骨片が含まれている(第七章5節参照)。

壁柱穴 壁柱穴はSP-2852・2860・2861・2868・2874・2889・2890・2899・2905・2913・2914・3737~3739・3742・3749からなる。2852・3738・3739を除き、いずれも深さは比較的浅く10~15cm前後のものである。全体は東西に長軸をもつ。SP-3742・3738・2852・2874・3749がほぼ1.00~1.10m間隔でほぼ円形に配置される。壁柱穴毎の対応関係は不明な点も多いが、3742と3749、2852と2914が対応関係が認められるように思える。

土層

SP-3748 覆土1層:黒褐色土、多量のEn-aPが混じる。

SP-3743 覆土1層:黒色土、多量のEn-aPが混じる。覆土2層:黒褐色土、多量のEn-aPが混じる。覆土3層:暗褐色土、多量のEn-aPが混じる。

SP-4538 覆土1層:黒褐色土、多量のEn-aP・炭化物が混じる。

SP-3747 覆土1層:黒褐色土、多量のEn-aPが混じる。

SP-3744 覆土1層:黒褐色土、多量のEn-aPが混じる。

F-46 覆土1層:暗赤褐色土、覆土2層:黄橙色土。

遺物 SP-3744・3747・3748・4538からは遺物が出土していない。SP-3743は覆土からたたき石(1)が出土している。2913は覆土からIV群c類(1)出土している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃

(熊谷仁志)

建物43 (図V-75 図版28-1~5・図版91-1)

位置 m-59・60・61、n-59・60

規模 4.38×4.36 外周 -×-

特徴 図上で確認した。4基一組の支柱穴と、出入口からなる。ただし、支柱穴・出入口それぞれの軸方向と軸の位置はややずれているが、位置関係からこれらが伴う可能性が高いと考え、不明確ながらここで扱った。支柱穴間の距離が4.3mほどになる中形の建物跡である。これに伴う焼土・竪穴は検出されなかった。

支柱穴 SP-886・898・180・2222からなる。ほぼ方形に並ぶ。西側の180・2222が、東側の898・886に比べて太い。

SP-886 平面形はほぼ円形。坑底は丸みがあり、立ち上がりは緩やか。壁はやや開く。

SP-898 平面形はほぼ円形。坑底は丸みがあり、立ち上がりは緩やか。壁はやや開く。

SP-180 平面形はほぼ円形。坑底は平坦で、立ち上がりは急、壁は垂直に近く、上半で開いて開口する。

SP-2222 平面形は隅丸方形に近い。坑底は円形で、丸い。立ち上がりはごく緩やかで、壁は垂直である。SP-2221と重複し、これを切る。注口土器と思われる1個体の土器が出土している(図V-75-12)。

出入口 P-189・186からなる。楕円形あるいは隅丸長方形の土坑が2基、西側にやや開いて並ぶ。

P-189 平面形は隅丸方形。坑底はやや楕円形で、丸みを帯びる。立ち上がりは緩やかで、壁はやや開く。

P-186 P-185と重複し、これに切られる。SP-2227と重複するが、新旧は不明である。平面形は

2 建物

楕円形になるものと思われる。坑底は若干凹凸がある。立ち上がりは緩やかで、壁は垂直に近い。よく似た球形のすり石が出土している（土層断面S、図V-75-7・8）。

土層

S P-886 覆土1層：暗灰褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土。

S P-898 覆土1層：暗灰褐色土、多量のEn-aPを含む。

S P-180 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土2層：暗黄褐色土。覆土3層：褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土4層：灰褐色土、3cmほどのEn-aPを含む。

S P-2222 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。

P-189 覆土1層：暗灰褐色土、しまりあり。多量のEn-aPを含む。ごく少量の炭化物を含む。覆土2層：暗灰褐色土、しまりなく、ポロポロ。ごく大量のEn-aPを含む。覆土3層：黒褐色土、しまり弱い。ごく少量のEn-aPを含む。覆土4層：灰褐色土、En-aP主体。しまりなく、ポロポロ。ごく少量の炭化物を含む。覆土5層：黒褐色土、しまり弱い。ごく少量のEn-aPを含む。

P-186 覆土1層：明褐色土、ごく多量のEn-aPを含む。

遺物 S P-886は覆土から、IV群c類(13)、剥片(4)、計17点、S P-898は覆土から、IV群a類(1)、IV群c類(1)、計2点、S P-180は覆土から、IV群c類(44)、剥片(4)、石斧(1)、計49点、S P-2222は覆土から、IV群c類(32)、剥片(4)、礫・礫片(1)、計17点、P-189は覆土から、IV群c類(1)、計1点、P-186は覆土から、III群b類(5)、IV群c類(24)、石鏃(2)、剥片(7)、すり石(2)、計40点が、それぞれ出土している。

土器 すべて出入口および支柱穴の覆土から出土したIV群c類である。口縁部破片の口唇断面は、ほとんどが切出形である。12は、2222の覆土からまとまって出土した。注口と思われる。肩部分がやや張り出し、4本一組の平行沈線がめぐる。4単位になると思われる、刺突が加えられた突起をもつ。内面調整は粗雑で、凹凸が残る。底はわずかに上げ底である。主に淡黄色を呈する。11は弧状の沈線とすり消しが施され、口唇端部から内面にかけて、炭化物が厚く付着する。13は土層断面に表れている、深鉢の口縁部破片である。14は突起部に縦の刻みが施される。15は胴部破片で、付加条縄文が施される。

石器 5・6は石鏃で2c類。5は先端部と基部を欠損する。6の背面には礫皮面を残す。7・8はすり石で、石質は橄欖岩である。

時期 遺構の形態・構成と出土遺物から、縄文時代後期後葉のIV群c類の時代である。

(柳瀬由佳)

建物44 (図V-76 図版28-6~29-4・図版92-1)

位置 m-59・60、n-59・60・61、o-60

規模 4.68×4.50 外周 -×-

特徴 図上で確認した。4本一組の支柱穴と、出入口からなる。支柱穴間の距離が4.5mほどの、中形の建物である。出入口については、他の建物と比較すると、支柱穴との距離が近く、やや北よりに位置しているが、軸方向が一致することから、本建物に付属する可能性があるものとして掲載した。

P-189・186についての詳細は、建物43の項目でのべている。

支柱穴 P-143・87・82・83からなる。

P-143 P-144・145と重複し、これらより新しい。平面形は円形。坑底は平坦だが傾く。立ち上が

りは緩やかで、壁はやや開く。

P-87 P-86と重複し、これより新しい。平面形は、円形に近くなるものと思われる。坑底は平坦で、北へ傾斜する。立ち上がりは急で、壁はやや開く。

P-82 P-51の大きな落ち込みを1基の大形土坑を想定して半截した段階で、土層断面および坑底付近を検出したことにより、確認した。P-51に切られる。そのため、上場の大部分は壊されており、平面形の正確な形状は不明である。図の太点線はP-51の壁面において確認できた形状である。平面形は円形もしくは楕円形になるものと思われる。坑底は丸みがあり、残存部の立ち上がりはやや緩やか、壁は垂直に近い。

P-83 SP-2251・2249と重複するが、新旧関係は不明である。平面形はほぼ円形。坑底は小さな楕円形で、ごく緩やかに立ち上がり、椀状になる。

出入口 軸が同一方向であることから、P-189・186が出入口である可能性がある。しかし、前述のとおり本建物には伴わない可能性も大きい。

土 層

P-143 覆土1層：暗褐色土、ごく少量のEn-aP・炭化物を含む。

P-87 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土2層：黄褐色土、しまりない。En-aP主体で土壌が混入する。覆土3層：暗黄褐色土、En-aPを含む。覆土4層：暗褐色土、土壌と同程度のEn-aPを含む。覆土5層：黒褐色土。

P-82 覆土1層：暗褐色土、しまりやや悪い。大量のEn-aPを含む。覆土2層：明褐色土。覆土3層：黒褐色土、粘性強い。En-aPを含む。

P-83 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土2層：褐色土、土壌と同程度のEn-aPを含む。覆土3層：黒褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。

遺 物 P-87は覆土から、IV群c類(4)、剥片(5)、計9点、P-83は覆土から、IV群a類(3)IV群b-4類(2)、IV群c類(54)、石鏃(1)、剥片(7)、計67点、それぞれ出土した。P-143・82からは遺物は出土していない。

土 器 主柱穴であるP-83の覆土から出土したものである。1はIV群b-4類。波状口縁で、口唇直下に1段の刻み列がめぐる。口唇断面は切出形である。2・3はIV群c類。いずれも口唇断面は切出形で、突瘤がめぐる。

時 期 出土遺物等から縄文時代後期後葉 IV群c類の時期と思われる。

(柳瀬由佳)

建物45 (図V-77 図版92-2)

位 置 h-67・68・69、i-68・69

規 模 4.32×4.22 外 周 -×-

特 徴 図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴をもつ。東側に出入口を有する。主柱穴の大きさに比較して主柱穴間の距離が長い。

主柱穴 SP-592・595・599・2149で構成される。

SP-592 Ⅷ層で確認された。平面形は円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。

SP-595 Ⅷ層で確認された。平面形は円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がる。

SP-599 Ⅷ層で確認された。平面形は円形、坑底は平らでやや開き気味に立ち上がる。

SP-2149 Ⅷ層で確認された。平面形は円形、坑底は丸みをもちで開き気味に立ち上がる。

出入口 SP-596・597で構成される。長軸方向に前後してずれているが対を成すものと考えられる。

2 建物

いずれもⅧ層で確認された。溝状を呈する。

土 層

S P-592 覆土1：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-595 覆土1：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-599 覆土1：暗茶褐色土、En-aPを含む。

S P-2149 覆土1：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

S P-596・597 覆土1：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺 物 S P-592は覆土からⅣ群c類(6)、スクレイパー(1)、剥片(1)、計8点出土した。

S P-595は覆土からⅣ群c類(1)、剥片(1)、石皿・台石(1)、計3点出土した。S P-596は覆土からⅣ群c類(1)が出土した。S P-599は覆土から剥片(2)が出土した。

土 器 いずれも支柱穴であるS P-592から出土したⅣ群c類である。口唇断面は切出形である。

石 器 3はスクレイパーで、側縁部に内湾する刃部を持つ。

時 期 遺構の形態や出土遺物から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期と考えられる。(谷島由貴)

建物46 (図V-78 図版29-5~7・図版92-3)

位 置 f-60・61、g-59・60・61、h-59・60

規 模 4.26×4.06 外 周 -×-

特 徴 各柱穴は、整地層及びⅧ層の調査中に確認し、配列は図面上で確認した。建物50と重複し、建物16に隣接する。出入口は、ほぼ東西に長軸をもつ2基一組で一对の柱穴ピットからなる。支柱穴は4本一組である。出入口には近い東側の柱穴間がほぼ4m、西側は東側に比べやや広く、支柱穴は西側が僅かに広い台形になる。

支柱穴 P-31・112、S P-1165・4170で構成される。

P-31 S P-335に壊されている。Ⅷ層の調査中に確認した。ほぼ東西に長軸をもつ。平面形は楕円形である。断面形は西側に段をもち、北側の壁は坑底から開き気味に立ち上がる。北東側に凹みをもち、坑底はやや傾斜している。

P-112 Ⅷ層の調査中に確認した。東西に長軸をもつ楕円形で、長軸の断面形は丸味をもつ坑底からオーバー・ハングして開き気味に立ち上がる。短軸側はほぼ垂直に立ち上がる。坑底はやや東側による。

S P-1165 整地層の調査中に確認した。平面形はほぼ南北に長軸をもつ楕円形、長軸57cm、短軸は50cmである。坑底は丸味をもち、ほぼ中央にある。深さは71cmである。

S P-4170 整地層の調査中に確認した。北東部分でP-49と一部重複しているが先後関係は不明である。そして、形状も不明である。

出入口 2基一組で一对の柱穴状ピットで構成されるものである。S P-4068・4069と4132・4073が対になる。整地層の調査中に確認した。出入口に近い東側の柱穴間を三等分する位置にある。

S P-4068 4069を壊して構築している。東西に長軸をもつ楕円形で、長軸19cm、短軸は15cmである。坑底は尖る。深さは29cmである。

S P-4069 4068に壊されている。ほぼ東西に長軸をもつ楕円形で、長軸36cm、短軸は14cmである。坑底は平坦で、ほぼ中央にある。深さは41cmである。

S P-4132 4073を壊して構築している。平面形は楕円形で、東西に長軸をもつ。長軸34cm、短軸30cmである。坑底は尖る。深さは50cmである。

S P-4073 4132に壊されている。ほぼ南西-北東に長軸をもつ楕円形で、長軸43cm、短軸は40cmである。坑底は南西寄り、先端部は尖る。深さは52cmである。

焼土 検出されていない。

壁柱穴 周辺に多くの柱穴状ピットが確認されているが、明瞭な配置が認められなかったため記載していない。

土層

P-31 覆土1層：暗黄褐色土、径1～3cmのEn-aPや少量の炭化物が混じる。しまりよい。覆土2層：暗褐色土、ぼそぼそ粒子細かいEn-aPや少量の炭化物が混じる。覆土3層：暗褐色土、ぼそぼそ、径1cm未満の粒子の細かい多量のEn-aPが混じる。

P-112 覆土1層：褐色土、径1～2cmの多量のEn-aPを含む。しまりよい。多量の炭化物が混じる。

S P-1165 覆土1層：暗黄褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。覆土2層：暗褐色土、ぼそぼそ。多量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。

S P-4170 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPが混じる。

S P-4068 覆土1層：明黄褐色土、少量のEn-aPが混じる。

S P-4069 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPが混じる。

S P-4132 覆土1層：明褐色土、多量のEn-aPが混じる。覆土2層：明褐色土、ぼそぼそ。多量のEn-aPが混じる。

S P-4073 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPが混じる。覆土2層：明褐色土、多量のEn-aPが混じる。

遺物 P-31の坑底からIV群b-4類(1)、IV群c類(1)、剥片(3)、覆土からはIV群c類(19)、剥片(11)、礫・礫片(1)計36点出土している。P-112からはIV群c類(4)、剥片(4)計8点出土している。S P-1165の覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(9)、剥片(2)計12点出土している。S P-4170の覆土からIV群c類(8)、石斧(1)計9点出土している。S P-4068の覆土からIV群c類(10)、剥片(2)計12点出土している。S P-4069の覆土からIV群c類(3)、剥片(1)計4点出土している。S P-4073の覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(17)、ドリル(1)、剥片(25)計44点出土している。S P-4132の覆土から剥片(4)、礫・礫片(1)計5点出土している。

土器 いずれも主柱穴や出入口の覆土から出土したIV群c類である。口唇断面は角形もしくは切出形である。1は、突起に上方からの刺突が加えられる。3は注口の胴部破片。5は不規則な縄文が施された底部付近の破片である。

石器 6はドリル。石質は頁岩である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

建物47 (図V-79)

位置 e-71、f-71・72 Q地区の建物の中で最も北東端に位置する。

規模 3.00×2.46 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。台形に配列された4基一組の主柱穴をもつ。東側に2基一組で一對の出入口を有する。

主柱穴 S P-1528・1533・1552・4679で構成される。

2 建物

S P-1528 Ⅷ層で確認された。平面形は楕円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。東側の壁は中程から斜めに開く。

S P-1533 Ⅷ層で確認された。平面形は楕円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。

S P-1552 Ⅷ層で確認された。平面形は隅丸方形に近い円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。

S P-4679 Ⅷ層で確認された。平面形は円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がる。

出入口 S P-1454・1455と1523・1524の2基一組で一对で構成される。いずれもⅧ層で確認された。S P-1454と1455は10cm、S P-1523と1524は20cmの間隔を開ける。

S P-1454 不整形円形、坑底は丸い。

S P-1455 円形、坑底は平らである。西側の1499を切っている。

S P-1523 円形、坑底は丸い。

S P-1524 楕円形、坑底は平らである。

壁柱穴 1ヵ所確認した。S P-1534は位置や土層堆積から、建物を構成する柱穴ではない可能性もある。

土 層

S P-1528 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-1533 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

S P-1552 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

S P-4679 覆土1層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む

S P-1454 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-1455 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-1523 覆土1層：褐色土、En-aPを多く含む。

S P-1524 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 S P-1552は覆土からIV群c類(1)が出土した。S P-1523は覆土からIV群c類(1)が出土した。

時期 遺構の形態や出土遺物から縄文時代後期後葉 IV群c類の時期と考えられる。(谷島由貴)

建物48 (図V-80)

位置 1-71・72、m-72

規模 2.34×2.00 外周 -×-

特徴 Ⅷ層の調査で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴をもち、南側に2基一組で一对の出入口を有する。南側に出入口をもつ建物は本調査区の範囲内でこの1軒だけである。

主柱穴 P-209・210・266・267で構成される。

P-209の平面形は円形、坑底は若干丸みをもち開き気味に立ち上がる。3012を切っている。

P-210の平面形は円形、坑底は若干丸みをもち斜めに開いて立ち上がる。

P-266の平面形は円形、坑底は丸みをもち開き気味に立ち上がる。

P-267の平面形は円形、坑底は平らでやや開き気味に立ち上がる。

出入口 S P-3042・3043・3044・3045で構成される。主柱配列の南側に位置する。

S P-3042・3043とS P-3044・3045の組み合わせで対になる。平面形は円形で組み合わせ同士互いに重複する。坑底はやや丸みをもち緩やかに立ち上がる。

土 層

- P-209 覆土1：黒茶褐色土、En-aPを含む。
- P-210 覆土1：黒褐色土、En-aPを少量含む。
- P-266 覆土1：黒茶褐色土、En-aPを含む。
- P-267 覆土1：黒茶褐色土、En-aPを含む。
- S P-3042 覆土1：褐色土、En-aPを多く含む。
- S P-3043 覆土1：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。
- S P-3044 覆土1：褐色土、En-aPを多く含む。
- S P-3045 覆土1：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

遺物 P-209は覆土から剥片(10)、礫・礫片(1)、計11点出土した。P-210は覆土からIV群c類(3)、剥片(1)、計4点出土した。P-266は覆土からIV群c類(3)が出土した。P-267は覆土からIV群b-4類(2)、IV群c類(3)、剥片(1)、計6点出土した。S P-3045は覆土から礫・礫片(1)が出土した。

時期 遺構の形態や出土遺物から縄文時代後期後葉 IV群c類の時期と考えられる。(谷島由貴)

建物49 (図V-81 図版30-1)

位置 g-57・58、h-57

規模 -×- 外周 -×-

特徴 H-9HP-1・2は耕作による攪乱がVI層(En-aP層)中まで及んでいたため、重機による表土除去中に、建物35の出入口であるH-10HP-1・2と共に確認した。H-9HP-1は、H-10HP-2を壊して構築している。出入口であるH-9HP-1・2は東側から検出され、ほぼ東西に長軸をもつ一对の溝状のピットからなる。支柱穴は4基一組と思われるが2カ所しか確認されなかった。壁柱穴と思われる柱穴状ピットは周辺から検出されているが、配列には明確な規則性は認められなかった。出入口部分の切り合い関係から建物49は、建物35より新しく位置付けられる。

支柱穴 S P-252・255で構成される。いずれも浅く、坑底付近を検出したものと思われる。

S P-252 円形で、径18cmである。坑底は僅かに北東に寄り、丸味をもつ。深さは5cmである。

S P-255 ほぼ円形で、径15~16cmである。坑底は僅かに南東に寄り、丸味をもつ。深さは5cmである。

出入口 H-9HP-1・2で構成される。いずれも坑底付近を検出したものと思われる。

H-9HP-1 H-10HP-2を壊して構築している。平面形は、ほぼ東西に長軸をもつ溝状である。長軸0.42m、短軸、0.20m、深さ約0.12mである。断面形は、平坦な坑底から緩やかに立ち上がる。

H-9HP-2 平面形は、ほぼ東西に長軸をもつ溝状である。長軸0.41m、短軸、0.14m、深さ約0.10mである。断面形は、平坦な坑底から緩やかに立ち上がる。

壁柱穴 本建物に伴う明瞭な壁柱穴は確認されなかった。

焼土 検出されていない。

土 層

S P-252 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP、少量の炭化物混じる。

S P-255 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。

H-9HP-1 覆土1層：黒色土、多量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。

H-9HP-2 覆土1層：黒色土、多量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。

2 建物

遺物 SP-252・255、H-9HP-1・2からは遺物が出土していない。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

建物50 (図V-82 図版30-2・3・図版92-4)

位置 g-60、h-58・59・60、i-59・60

規模 5.90×5.46 外周 -×-

特徴 図面上で4基一組の支柱穴の配列を確認した。建物16・46と重複する。長軸は東西になるものと考えられる。支柱穴は東西に長い長方形に配置され、東側の支柱穴間(SP-339・347)は5.20m、西側の支柱間(P-21・26)5.50m、東側と西側の約5.70mである。東側の支柱穴間内側の南寄りに焼土(F-27)が確認された。

支柱穴 SP-339・347、P-21・26で構成される。いずれもV層下位の調査で確認した。

SP-339 SP-4058を壊して構築されている。平面形は北西-南東に長軸をもつ楕円形で、長軸0.53m、短軸0.51mである。断面形は平坦な坑底から開き気味に立ち上がる。坑底は僅かに南西に寄り、深さは0.60mである。

SP-347 平面形は西北西-東南東に長軸をもつ楕円形で、長軸(0.70)m、短軸0.54mである。坑底はほぼ中央にあり、丸味をもつ。深さは0.71mである。

P-21 平面形は、ほぼ西北西-東南東に長軸をもつ楕円形である。坑底は平坦である。壁は、長軸方向西側ではほぼ垂直に、東側ではやや開き気味に立ち上がる。覆土上部から土器片・剥片が多く出土している。

P-26 SP-3500を壊して構築している。平面形は西北西-東南東に長軸をもつ楕円形である。坑底はやや東側が高く丸味をもつ。壁は、長軸方向西側ではほぼ垂直に、東側ではやや丸味をもって立ち上がる。

焼土 V層下位の調査でF-27を検出した。平面形はくびれのある不整形である。下位からSP-4047~4049が検出された。

壁柱穴 本建物に伴う明瞭な壁柱穴は確認されなかった。

土層

SP-339 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。

SP-347 覆土1層：明黄褐色土、少量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。覆土2層：暗褐色土、多量のEn-aP・炭化物が混じる。

P-21 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPが混じる。覆土2層：黒色土、少量の径1~2cmのEn-aPが混じる。覆土3層：黒色土、ぼそぼそ、少量のEn-aPが混じる。覆土4層：黒色土、しまりよい、極めて少量のEn-aPが混じる。覆土5層：黄褐色粘質土、En-aLが主体、僅かに黒色土が混じる。

P-26 覆土1層：黄褐色土、粘性強い。En-aPが混じる。覆土2層：黄褐色土、粘性弱くぼそぼそ。多量のEn-aPが混じる。覆土3層：黄褐色土、やや粘性強い。しまりよい。En-aPが混じる。

F-27 覆土1層：赤褐色土(焼土)、僅かに落ち込みが確認された。炭化物・小骨片を含む。

遺物 SP-339の覆土からIV群c類(12)、石鏃(1)、剥片(9)、石斧(1)計23点出土した。SP-347の覆土からIV群c類(15)、剥片(8)、礫・礫片(1)計24点出土した。P-21の覆土からIV群c類(64)、剥片(58)計122点出土した。P-26の覆土からIV群c類(103)、石核(1)、剥片(71)、石斧(1)計176点出土した。

土器 いずれも支柱穴の覆土から出土したIV群c類である。口唇断面は切出形。1は口唇端部に縄

文が施される。

石器 3は石鏃で2c類。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

建物51 (図V-83~85 図版30-4~31-2・図版93-1)

位置 m-64・65、n-64・65・66、o-64・65

規模 5.66×5.20 外周 -×-

特徴 現場で確認した。主柱穴は4基一組で、ほぼ正方形に配列される。柱穴の平面形、規模、深さがともに似ていること、埋土がどの柱穴もV~VI層起源のパミスを含む黒褐色~暗褐色土を主体としていることから、同一の建物の主柱穴と認定した。主柱穴は直径・深さとも大きめのものが多い。

主柱穴 P-241・P-247・P-214・P-165で構成される。

P-241 VIII層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、上端が北西に広く、浅く広がる。坑底は平らで、やや開き気味に立ち上がる。P-249を切る。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-247 楕円形で、上端がわずかに西に広がる。坑底は平らで、開き気味に立ち上がる。柱穴掘方の約2/3の深さで、自然礫を検出した。まとまって出土しているため、偶然混入したものではないと考えるが、用途は不明である。出土量から考えて、柱の根固めの目的で入れたものとも思えない。断面が、トレンチによって破壊されているため、柱痕、抜き取り痕は確認できないが、土層1が抜き取り痕である可能性が高い。

P-214 VIII層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底は丸い。ほぼ垂直に立ち上がり、坑口付近でやや開き気味になる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-165 VIII層上面の調査で検出した。平面形はひょうたん形で、2つの土坑が切り合っているように見える。北側に上端が浅く広がる。坑底はほぼ平らで、開き気味に立ち上がる。土層1は抜き取り痕で、切り合っているように見える北側のプランが抜き取りの際の攪乱である。

出入口 検出していない。

焼土 F-73 VIII層の調査で検出した。平面形は不整形の楕円形で約20cmの厚さがあり、長期間にわたって使用されたものと考えられる。建物53に属する可能性もあるため、図面では両方の建物の焼土として掲載した。F-73は他の焼土より、規模が大きく、建物51、53両方の炉跡の可能性もある。

壁柱穴 検出していない。

土層

P-241 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒褐色土、ややソフト。En-aPを少量含む。覆土3層：黒褐色~暗褐色土、ソフト。En-aP主体で、暗褐色土を多く含む。

P-247 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む、炭化物を極少量含む。覆土2層：黒褐色土、ソフト。En-aPを少量含む。

P-214 覆土1層：黒色土、粒子細かい、粘性高い、腐植土。覆土2層：黒色土、しまりやや強い。粘性やや高い。覆土3層：黒褐色土、しまりやや強い、径5~10mmのパミス多い。

P-165 覆土1層：黒褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：黒褐色土、ソフト。粘質。覆土3層：黒褐色土、ソフト。粘質。覆土4層：黒褐色土、ソフト。En-aLを少量含む。

F-73 覆土1層：赤色焼土。覆土2層：明褐色土。

遺物 P-241は覆土からIV群c類(69)、剥片(17)、原石(2)、たたき石(1)、礫・礫片(1)計90点、P-247は覆土からIII群a類(1)、IV群c類(116)、石鏃(1)、スクレイパー

2 建物

(1)、剥片(8)、石斧(4)、たたき石(1)、礫・礫片(2)計134点、P-214は覆土からIV群c類(14)、剥片(4)、原石(5)、礫・礫片(1)計24点、P-165は覆土からIV群c類(44)、石鏃(1)、剥片(16)、たたき石(1)、礫・礫片(1)計63点出土した。

土器 支柱穴の覆土や、焼土から出土したIV群c類である。口唇断面は肥厚する切出形が多い。2～5の突瘤は施文後につぶされている。4は弧状の沈線が施される。5は小波状口縁である。なお、P-247の覆土から出土した破片が、隣接するP-194(建物41)などの破片と接合し、注口土器が復原されており、建物41に掲載している(図V-73-27)。

石器 7は石鏃の2c類で、腹面には剥離面が残る。8はスクレイパー。9は石斧の未成品である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(石井淳平)

建物52(図V-86 図版31-3~32-3・図版93-2)

位置 i-60・61・62、j-61・62

規模 5.24×4.20 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。建物27・102と重複し、建物65に隣接している。ほぼ長方形に配列された4基一組の大形の支柱穴をもつ。東側の柱穴列(P-48・274)の中央のやや西側1m程の所に焼土(F-60)が認められた。周辺に多くの柱穴状ピットが認められるが本遺構に伴うものを特定することができなかった。

支柱穴 P-44・45・48・274で構成される。

P-44 VII層の調査で確認された。平面形はほぼ円形である。坑底は平坦で、西寄りに構築されている。断面形は、西側は坑底からオーバー・ハング気味に、他は開き気味に立ち上がる。

P-45 VII層の調査で、平面形は楕円である。長軸はほぼ北西-南東である。坑底に炭化物・骨片が混じる焼土が検出されている。坑底は丸味をもち、壁中位が頸れ、壁は坑底から中位までオーバー・ハング気味に立ち上り、その後、開き気味に立ち上がる。坑底は南東寄りに構築されている。

P-48 整地層の調査で確認した。平面形は円形である。坑底は、平坦で、やや南寄りに構築されている。壁は南側がほぼ直立し、北側はやや開き気味に立ち上がる。

P-113 P-40、SP-2994・4552によって壊されている。整地層の調査で確認された。平面形は不明である。坑底の長軸はほぼ南-北である。坑底は南西側に向かって傾斜し、南西寄りに構築されている。壁は南西側は直立し、北東側は緩やかに開きながら立ち上がる。

出入口 確認されていない。

焼土 F-60 整地層を調査中に確認した。検出位置が柱穴列(P-48・274)中央の西側1m程の所にあることから図面上で建物52に伴うものと判断した。平面形は不整形で、最大層厚は約6cmである。

焼土中には炭化材が混る。

壁柱穴 周辺に多くの柱穴状ピットが認められるが、明確に伴うものを特定することができなかった。

土層

P-44 覆土1層：黄褐色土、粘性強く、En-aLが主体、En-aPが混じる。覆土2層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、砂粒多い。多量のEn-aPが混じる。覆土3層：暗褐色土、粘性強い。少量のEn-aPが混じる。覆土4層：暗黄褐色土、多量のEn-aPと砂粒を含む。ぼそぼそ。覆土5層：暗褐色土、覆土3層に類似、少量のEn-aPと砂粒を含む。覆土6層：暗黄褐色土、覆土4層に類似、砂粒を含む。ぼそぼそ。覆土7層：黄褐色土、粘性強く、En-aLに類似、径1～3cmのEn-aPが混じる。

P-45 覆土1層：En-aP層。覆土2層：暗褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPを含む。覆土3層：En-

aP層。覆土4層：暗褐色粘質土、少量のEn-aPと炭化物を含む。粘性強い。覆土5層：黄褐色粘質土、En-aLが主体、少量の炭化物が混じる。

P-48 覆土1層：明黄褐色土、En-aPに少量のEn-aLが混じる。覆土2層：明黄褐色土、しまりよい、径1～3cmのEn-aPが少量混じる。覆土3層：暗黄褐色En-aP層、少量の暗黄褐色土が混じる。覆土4層：暗黄褐色土、少量のEn-aP・砂粒が混じる。覆土5層：En-aP層、径1～3cmのEn-aP層。

P-274 覆土1層：黄褐色土、ローム質（En-aL?）多量のEn-aPを含む。覆土2層：En-aP層。覆土3層：暗褐色土、粘性強く、しまりよい。径1～3cmのEn-aPが多量に混じる。覆土4層：暗褐色土、粘性強く、しまりよい。少量のEn-aPが混じる。覆土5層：暗褐色土、砂質、多量のEn-aPが混じる。覆土6層：褐色土、粘性強い。少量のEn-aPが混じる。

F-60 覆土1層：赤褐色土、焼土層で、炭化材を含む。

遺物 P-44・45・48は遺物が出土しなかった。P-274の覆土からIV群c類（19）が出土している。

土器 主柱穴であるP-274の覆土から出土したIV群c類である。2は、斜行するような沈線が施される底部付近の破片。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

（熊谷仁志）

建物53（図V-87 図版32-4～33-4・図版93-3）

位置 m-65、n-64・65・66、o-65

規模 4.96×4.76 外周 -×-

特徴 現場で確認した。主柱穴は4基一組で、ほぼ正方形に配列される。主柱穴の平面形、規模、深さにばらつきがあるが全体的に規模の小さいものが多い。この柱穴の組み合わせが最も妥当と判断したが、付近は主柱穴となり得る大形の柱穴が密集しており、他の柱穴を用いた主柱穴の組み合わせが成立する余地も十分にある。主柱穴の一つであるP-168が、建物45の主柱穴の一つであるP-164に切られることから、建物45より新しい。

主柱穴 P-196・P-151・P-215・P-168

P-196 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底はやや丸味をもつ。開き気味に立ち上がる。建物47を構成する他の主柱穴よりも目立って浅い。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-151 Ⅷ層上面の調査で検出した。南北方向に長軸をもつ楕円形で、下端は南側に広がり、オーバーハングする。坑底は丸味をもち、開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-215 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底は丸味をもつ。開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-168 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は卵形で、坑底はやや丸味をもつ。覆土5層はP-168に切られる別の柱穴である。P-164に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入口 検出していない。

焼土 F-73（建物51で記載済み）

壁柱穴 検出していない。

土層

P-196 覆土1層：暗褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土3層：暗褐色～褐色土、ややソフト。En-aL主体でEn-aPをやや多く含む。覆土4層：黒褐色土、ややソフト。粘質。En-aPを少量含む。覆土5層：黒褐色土、En-aPを少量含む、炭化物を少量含む。覆土6層：褐色土、En-aL主体。

2 建物

P-151 覆土1層：黒褐色土、しまり強く、粘性も強い。径3～50mmのパミス多い。覆土2層：黒褐色土、しまり強く、粘性も強い。粒子粗い。覆土3層：黒色土、しまりやや弱い。粘性も強い。粒子粗い。 P-215 覆土1層：黒褐色土、En-aP径1～20mm少ない。覆土2層：暗赤褐色土、En-aP径5～30mm多い。

P-168 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒褐色土、焼土を少量含む。覆土3層：黒褐色～暗褐色土、ややハード。En-aPを少量含む。覆土4層：黒褐色土、粒状の焼骨を多量に含む。覆土5層：黒褐色土、ややソフト。En-aPを少量含む。

焼土 F-73（建物51で記載済み）。

遺物 P-196は覆土からIV群c類（11）、剥片（2）計13点、P-151は覆土からⅢ群b類（8）、IV群c類（56）剥片（14）、石皿・台石（1）、礫・礫片（2）計81点、P-215は覆土からIV群c類（7）、剥片（6）、石皿・台石（1）、礫・礫片（1）計15点、P-168は覆土からⅢ類b類（1）、IV群c類（6）、礫・礫片（2）計9点出土した。

土器 いずれも支柱穴の覆土から出土したものである。1はⅢ群b-2類。P-151の覆土から出土した破片が、35mほど離れたP-104（建物62）覆土出土の破片と接合した。遺構間に何らかの関係がある可能性がある。2～6はIV群c類である。口唇断面は切出形が多い。5は突起部の破片で、内面に縦の刻みが施される。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

（石井淳平）

建物54（図V-88・89 図版33-5～34-4・図版94・95-1）

位置 m-64・65・66、n-65・66

規模 5.00×4.17 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。支柱穴は4基一組で、南北方向に長軸をもつ長方形に配列される。柱穴の平面形、規模、深さがともに似ていることから、同一の建物の支柱穴と認定した。支柱穴は深いものが多く、さらに深さと比較して、直径が小さいものが多い。F-67、68が4本の支柱穴のほぼ中央に位置するため、これらを炉跡と考えた。支柱穴の一つであるP-153が建物84の支柱穴の一つである、P-154に切られることから、建物84より古い。

支柱穴 P-243・P-195・P-153・P-246で構成される。

P-243 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形はほぼ円形で、坑底はほぼ平らである。壁は開き気味に立ち上がる。P-249を切る。当初はP-249との切り合いに気づかず半截を始めたが、半分近く掘り下げたところで2つの遺構が切り合っていることに気づき、最初に半截した方向と直交する方向で半截し直した。二度目の半截で、覆土の中位から炭化材を検出した。丸太を輪切りにしたような状態で、木口面が上方を向いている。炭化した柱材かとも考えたが、断面では上方、下方ともに柱の痕跡を確認できなかった。また、検出面が覆土の中位であるため、炭化した柱材の底面が残存したものとも考えにくく、この炭化材が、柱材である可能性は低いと考える。同様の炭化材は1997年度のキウス4遺跡F地区の調査でも検出されており、同じく柱穴の覆土の中位で検出されている。

P-195 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底は平らである。ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。P-248を切る。

P-153 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底は丸い。ほぼ垂直に立ち上がり、坑口付近で開き気味になる。P-154に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-246 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形はひょうたん形で、二つの遺構が切り合っているよう

に見えるが、北側の広がり是非常に浅く、別の柱穴やP-246の抜き取り痕ではない。坑底はやや丸みを持ち、ほぼ垂直に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入口 検出していない。

焼土 F-67、68は整地2層の調査で検出した。F-67、68は互いに近接していること、検出レベルもほぼ同じであることから、同時期の一連の活動がその成因と判断し、どちらも建物54の炉跡とした。

壁柱穴 検出していない。

土層

P-243 (e-e') 覆土1層：暗褐色土、ソフト。En-aPをやや多く含む。覆土2層：褐色土、ややハード。粘質。En-aPを少量含む。(f-f') 覆土1層：黒褐色土、En-aPをやや多く含み、焼土粒を少量含む。覆土2層：暗褐色土、ソフト。覆土3層：暗褐色土、ややソフト。En-aP、炭化物を少量含む。覆土4層：暗褐色～褐色土、ソフト。En-aPを少量含む。

P-195 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土3層：黒褐色土、ややソフト。En-aPを少量含む。覆土4層：黒褐色土、ソフト。En-aPをやや多く含む。

P-153 覆土1層：黒褐色土、粒子細かい。粘性強い。覆土2層：にぶい赤褐色：粒子粗い。炭化物少量含む。径3～10mmのEn-aP多い。覆土3層：黒褐色土、粒子粗い。覆土4層：赤黒色土、粒子粗い。径1～10mmのEn-aP多い。覆土5層：にぶい赤褐色土、粒子非常に粗い。Ⅷ層相当崩落土。

P-246 覆土1層：黒褐色～暗褐色土、En-aP、炭化物を少量含む。覆土2層：黄褐色土、ややハード。En-aP主体。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：暗褐色土、ややソフト。覆土5層：暗褐色土、ソフト。En-aPをやや多く含む。

F-67 覆土1層：赤褐色焼土、En-aP・骨片がわずかに混ざる。覆土2層：暗赤褐色焼土、焼けが非常に弱い。

F-68 覆土1層：暗褐色土、焼土粒が多く混ざる。

遺物 P-243は覆土からⅣ群c(166)、石鏃(1)、剥片(33)、原石(1)、石斧(1)計202点、P-195は覆土からⅣ群c(38)、石鏃(1)、剥片(3)、原石(1)、たたき石(2)、礫・礫片(6)計51点、P-153は覆土からⅣ群c(54)、石鏃(3)、剥片(15)、石斧(1)、礫・礫片(4)計77点、P-246は覆土からⅣ群c(12)、石鏃(1)、剥片(17)、原石(1)、礫・礫片(1)計32点出土した。

土器 すべて支柱穴の覆土から出土したⅣ群c類である。口唇断面は切出形が多い。10は小波状口縁で、突瘤は施文後に左右につぶされる。12は小形の土器の口縁部破片で、断面円形の工具による、4あるいは5個単位の刺突が施される。13は小形の深鉢の口縁部で、小波状を呈し、突瘤は施文後に左右につぶされている。14は鉢の胴部破片。弧状やクランク状の、沈線に区切られた刺突列による文様構成をもつ。刺突は、竹管状工具による斜めの刺突で、2～3列施される。器表は内外ともに橙色である。刺突の加えられた貼瘤が施される。15・16は注口の肩から胴部の破片。15は弧状の沈線とすり消しによる文様が施される。18は小波状を呈する小形の鉢の口縁部である。

石器 2・6・17・19は石鏃で2c類。17・19は先端部を欠損する。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期である。 (石井淳平)

建物55 (図V-90 図版34-5・図版95-2)

位置 l-59、m-57・58・59

規模 3.04×2.92 外周 -×-

2 建物

特 徴 現場段階で確認した。4基一組の主柱穴、炉と思われる焼土からなる。周辺は耕作によりⅧ層まで攪乱を受けており、遺構の検出面はⅠ層除去直後のⅧ層である。焼土の西半部は、重機によるⅠ層除去の際に誤って削平してしまった。主柱穴間の距離が3mほどの、小形の建物である。焼土がやや東よりに位置していることから、東側が出入り口に相当するものと思われる。

主柱穴 H-11HP-1・2・3・4からなる。ほぼ方形に並ぶ。

H-11HP-1 平面形は楕円形。坑底は円形で平坦、立ち上がりはやや急で、壁は垂直に近い。

H-11HP-2 他の主柱穴と比較して太い。平面形は楕円形。坑底は平坦で、立ち上がりはやや急、壁は垂直に近く、一部でオーバーハングする。

H-11HP-3 平面形は円形。坑底は平坦で、立ち上がりは急、壁はやや開く。

H-11HP-4 平面形は円形。坑底は丸く、立ち上がりは急、壁は開く。

焼 土 H-11HF-1が、主柱穴の軸上、中央よりやや東寄りに位置することから、本建物の炉であると判断した。残存しているのはⅧ層のEn-aPが被熱している部分のみであるが、前述のとおり上部は削平されているため、本来はもっと厚みがあったものと思われる。

土 層

H-11HP-1 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。

H-11HP-2 覆土1層：暗灰褐色土、En-aPを含む。

H-11HP-3 覆土1層：灰褐色土、少量のEn-aPを含む。

H-11HP-4 覆土1層：暗灰褐色土、En-aPを含む。

H-11HF-1 覆土1層：明赤褐色焼土、Ⅷ層が被熱する

遺 物 H-11HP-2は覆土から、Ⅳ群c類(8)、石鏃(1)、計9点、HP-3は覆土から、Ⅳ群c類(3)、石鏃(2)、剥片(1)、計6点、HP-4は覆土から、Ⅳ群c類(2)、剥片(4)計6点、がそれぞれ出土している。HP-1・HF-1からは遺物は出土していない。

土 器 1は主柱穴のH-11HP-2の覆土から出土したⅣ群c類である。

石 器 2～4は石鏃で2c類。4は先端部が欠損する。

時 期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期である。

(柳瀬由佳)

建物56 (図V-91 図版35-1・図版95-3)

位 置 r-60・61

規 模 2.13×1.50 外 周 -×-

特 徴 整地層除去後のⅧ層上面で検出し、図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の主柱穴をもつ。柱穴列の中央より南西側に焼土のF-50が認められた。付属する他の遺構は特定できなかった。

主柱穴 SP-2532・1211・1360・1364で構成される。

SP-2532 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、底面はやや尖る、壁は開きぎみである。上位は欠失していると思われる。

SP-1211 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、坑底は杭状で、壁は開きぎみに立ち上がる。

SP-1360 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底は丸みをもつ。上位は決失していると思われる。

SP-1364 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底はやや丸みをもち、壁は開

きぎみに立ち上がる。上位は欠失していると思われる。

焼土 F-50は整地層の掘り下げ後、Ⅷ層上面で赤色土の広がりとして確認した。柱穴列の中央より南西側に位置する。層厚は約5cmで薄く広がる。

土層

- SP-2532 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。
- SP-1211 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。
- SP-1360 覆土1層：暗赤灰色土、少量のEn-aPを含む。
- SP-1364 覆土1層：黒褐色土、やや粘性が高く少量のEn-aPを含む。
- F-50 覆土1層：赤色焼土、粒子やや粗く、粘性低い。

遺物 F-50は覆土からⅣ群c類が2点出土した。

土器 1は波状口縁の破片で、平行する沈線と弧線文で文様を構成している。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期と思われる。(笠原 興)

建物57 (図V-91 図版95-4)

位置 r・s-59・60

規模 1.76×1.11 外周 -×-

特徴 整地層除去後のⅧ層上面で検出し、図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の主柱穴をもつ。柱穴列の中央より南西側に焼土が認められた。付属する他の遺構は特定できなかった。

主柱穴 SP-1230・1226・797・799で構成される。

SP-1230 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、底面はやや尖り、壁は開きぎみで、上位は浅い自然地形と考えられる凹みと重複する。

SP-1226 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、坑底はやや丸みをもち、壁の上位に段をもち、そこから開きぎみに立ち上がる。深さは約60cmを計る。

SP-797 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、坑底は平坦である。壁は開きぎみに立ち上がる。

SP-799 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、坑底は丸みをもち、壁は開きぎみに立ち上がる。深さは約50cmを計る。

焼土 F-51は整地層の掘り下げ後、Ⅷ層上面で暗赤褐色の広がりとして確認した。柱穴列の中央より南西側に位置する。層厚は約20cmである。

土層

- SP-1230 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。
- SP-1226 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。
- SP-797 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。
- SP-799 覆土1層：黒褐色土、やや粘性が高く少量のEn-aPを含む。
- F-51 覆土1層：暗赤褐色焼土、粒子やや粗く、粘性低い。覆土2層：明褐色焼土。

遺物 SP-784は覆土からⅢ群b類(1)、Ⅳ群c類が(5)計6点、SP-693は覆土からⅣ群c類(2)、剥片(1)計3点出土した。

石器 2は石鏃で2a類。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期と思われる。(笠原 興)

2 建物

建物58 (図V-92)

位置 k-72・73、l-73 Q地区西端に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。柱穴2基と焼土1ヵ所からなり、調査範囲外にあると思われる柱穴を含め主柱穴4基一組で方形の配列をもつ建物と推定した。また、焼土は主柱穴を結ぶ方形の中央部に位置すると思われる。南側は建物91と重なる。

主柱穴 SP-2019・3174で構成される。

SP-2019 平面形は円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。

SP-3174 平面形は円形、坑底は平らでやや開き気味に立ち上がる。

焼土 F-84の東側は調査範囲外で確認していない。整地2層を掘り込んで形成される。

土層

SP-2019 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-3174 覆土1層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

F-84 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：茶褐色焼土。覆土3層：黄橙色パミス(En-aPが焼けたもの)。

遺物 SP-2019は覆土からIV群c類(3)が出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物59 (図V-93 図版95-5)

位置 h-52、i-52・53、j-52 Q地区西側に位置しH地区にかかる。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。Q地区の主柱穴2基とH地区の主柱穴1基および焼土2ヵ所・壁柱穴からなる。確認されていない柱穴を含め主柱穴4基一組で方形の配列をもつ建物と推定した。また、焼土は主柱穴を結ぶ方形の内側に位置すると思われる。東側は建物19と重なる。

主柱穴 SP-431・439とHLP-461で構成される。

SP-431 平面形は円形、坑底は丸く壁は若干開き気味である。南西側は447を切る。

SP-439 平面形は円形、坑底は丸く壁は開き気味である。

HLP-461 平面形は楕円形、坑底はほぼ平らで壁は丸みをもって立上りほぼ直立する。

焼土 F-11は西側のくぼむハート形を呈し層厚7cm程焼けて変色している。掘り込みは認められない。F-12の平面形は楕円形、層厚7cm程焼けて変色している。掘り込みは認められない。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ線上に2ヵ所、外側に5ヵ所確認された。外側の2ヵ所はH地区で検出されている。

土層

SP-431 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

SP-439 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

F-11 覆土1層：茶褐色焼土、En-aPを含む。

F-12 覆土1層：茶褐色焼土、En-aPを含む。

遺物 SP-439は覆土からIV群c類(2)、F-12は覆土から剥片(2)、礫・礫片(1)、計3点出土した。

土器 1は支柱穴の覆土から出土したIV群c類である。無文で、器表には炭化物が薄く付着する。
時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
 (谷島由貴)

建物60 (図V-94)

位置 1-52、m-53、Q地区の西側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 図上で支柱穴2基と焼土・柱穴を確認した。調査区外に対応する柱穴があり、4基一組の支柱で方形を呈するものと推定される。

支柱穴 P-515・518で構成される。2基とも確認はVII層である。

P-515 平面形は円形、坑底はやや丸みをもつ。

P-518 平面形は円形、坑底は尖り杭状である。

焼土 F-21は支柱穴を結ぶ線の中央西側で確認した。7cmほど焼けている。西側は調査区外にかかる。

壁柱穴 各支柱穴の内側に1ヵ所の柱穴を確認した。平面形は円形、杭状である。

土層

P-515 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

P-518 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

F-21 覆土1層：暗赤褐色土。

遺物 出土していない。

時期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物61 (図V-95)

位置 i-70、j・k-70・71・72、l-70・71 Q地区東側に位置する。

規模 6.54×5.90 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。台形に配列された4基一組の支柱穴と壁柱穴をもつ。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・20・26・62・63・64・67・81・82と重複する。

支柱穴 P-139・SP-2048・2130・2198で構成される。

P-139 平面形は楕円形、坑底はやや丸く緩やかに立ち上がる。壁は若干開き気味で、東側の壁は上部が斜めに開く。南側はSP-2064を切っている。

SP-2048 平面形は楕円形、坑底は斜めで開き気味に立ち上がる。壁は若干開き気味で、北東側の壁は中程に段を有し斜めに開く。

SP-2130 平面形は楕円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。壁は若干開き気味で、東側の壁は斜めに開く。東側はSP-4465・4494を切っている。

SP-2198 平面形は楕円形、坑底はやや丸く開き気味に立ち上がる。

壁柱穴 支柱穴を結ぶ台形の南側に壁柱穴が7ヵ所配列されている。平面形はやや楕円形で坑底は丸く10cm程の浅いものが多い。SP-3004は36cmと深い。

土層

P-139 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

2 建物

S P-2048 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。覆土2層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

S P-2130 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-2198 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

遺物 P-139は覆土から石皿・台石（1）が出土した。S P-2130は覆土からIV群c類（2）、覆土1からIV群c類（8）、覆土下から剥片（8）、石斧（1）、礫・礫片（3）、計22点出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物62 (図V-96・99 図版96-1)

位置 h-71・72、i・j・k-70・71・72 Q地区東側に位置する。

規模 6.46×5.68 外周 9.80×-

特徴 図面上で確認した。方形に配列された4基一組の主柱穴と壁柱穴をもつ。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・20・26・61・63・64・67・81・82と重複する。

主柱穴 P-104・127・136・137で構成される。

P-104 南側はP-121・173に壊され平面形は不明。坑底はやや丸みをもち、垂直に立ち上がる。残存する北半の壁は2段になり上部は斜めに広がる。

P-127 東側はP-108・122に南西側はP-109に壊され平面形は不明。坑底はやや丸みをもち北側の壁は斜めに開き南側の壁は緩やかに立ち上がりほぼ垂直である。

P-136 上半をP-69・70・128・135に壊され約1/3残存する。坑底は丸みをもち開き気味に立ち上がる。

P-137 平面形は楕円形、坑底は平らで南東側の壁は斜めに開き北西側の壁は緩やかに立ち上がりほぼ垂直である。東側はP-129に壊されている。北側と南側はS P-2030・4472・2115を切っている。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ方形の外側にほぼ平行するように壁柱穴が配列されている。北側と南側はそれぞれ2列の平行した配列が認められる。この配列は北側8カ所、南側9カ所、東側3カ所、西側4カ所、計24カ所確認されている。

土層

P-104 覆土1層：灰黒褐色土、En-aPを含む。覆土2層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：褐色土、En-aPを多く含む。覆土5層：黄褐色ローム質土。

P-127 覆土1層：暗灰褐色土、En-aPを含み、堅く締まる。覆土2層：灰黄褐色パミス。覆土3層：灰黄褐色パミス：En-aPが汚れ細粒状。覆土4層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-136 覆土1層：暗黄褐色ローム質土。覆土2層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。覆土3層：茶褐色焼土。覆土4層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土5層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-137 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 P-104は覆土からⅢ群b類（4）、IV群b-4類（1）、IV群c類（36）、剥片（9）、石斧（2）、礫・礫片（2）、覆土1からIV群c類（9）、石鏃（1）、剥片（8）、覆土3からIV群c類（1）、計73点出土した。P-127は覆土からIV群c類（25）、剥片（4）、計29点出土した。P-136は覆土からIV群c類（8）、石鏃（2）、剥片（1）、原石（1）、計12点出土した。P-137は覆

土からIV群c類(25)、石槍(1)、剥片(12)、計38点出土した。

土器 主に、支柱穴の覆土から出土したものである。1・2はⅢ群b-2類。1はP-104の覆土から出土した破片と、35mほど離れたo-65の整地2層から出土した破片が接合した。外反する波状口縁を呈する径の小さい深鉢である。波頂部には縦の貼付が施され、口縁部には3本一組の平行沈線がめぐる。胎土には砂粒を含む。口唇断面は不規則な丸形で、口唇端部には、爪によると思われる細かい刻みをもつ部分がある。表面は橙色、内面は黒褐色で炭化物が付着する。内面調整は横方向で、やや凹凸が残る。また、同じくP-104の覆土から出土したⅢ群b-2類の破片が、o-65に位置するP-151(建物53)出土の破片と接合している(図V-87-1)。このことから、本遺構とo-65あるいは建物53との間には何らかの関係がある可能性がある。3~6・9はIV群c類である。5は上下の沈線によって、貼付帯のような形状になっている。内面が剥落していることもあり形態や部位ははっきりしないが、注口の一部の可能性もある。6は底部破片。9は注口の肩から胴部の破片。直線的な沈線とすり消しにより文様が施される。

石器 7は石鏃で2a類。8は1a(2)類で、背面の加工が腹面に先行する。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物63 (図V-97・98 図版96-2)

位置 i・j・k-70・71・72 Q地区東側に位置する。

規模 6.38×5.74 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の支柱穴・出入口・壁柱穴をもつ。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・20・26・61・62・64・67・81・82と重複する。

支柱穴 P-109・110・128・140で構成される。

P-109 平面形は楕円形、坑底は平らで緩やかに立ち上がる。壁はやや開いている。北東側はP-127を切っている。

P-110 平面形は円形、坑底は平らで緩やかに立ち上がる。壁はやや開き気味である。北から東にかけてSP-4593・4586・4587をそれぞれ切っている。

P-128 東側をP-69・135に壊され平面形は不明である。坑底は平らで緩やかに立ち上がる。壁は斜めに開いている。北側はP-136を切っている。

P-140 上半はP-130が同じ位置でやや広めに構築されたため、坑底部のみ残っていた。残存する平面形は円形、坑底は平らで垂直に立ち上がる。

出入口 SP-2053は対になる出入口の片側と考えられる。平面形は楕円形で、坑底はやや凹凸が見られるがおおよそ船底形である。

壁柱穴 支柱穴を結ぶ方形の外側にはほぼ平行するように壁柱穴が配列されている。この配列は北側4カ所、南側3カ所、西側7カ所、計14カ所確認され、東側では検出されていない。

土層

P-109 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。覆土3層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土4層：暗黄褐色土、En-aPを多く含む。

P-110 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色ローム質土。覆土3層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-128 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：灰黄褐色パミス：En-aPが汚れ細粒状。

2 建物

覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-140 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

S P-2053 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 P-109は覆土からIV群c類(5)が出土した。P-110は覆土からIV群c類(7)、剥片(1)覆土1から剥片(1)、計9点出土した。P-128は覆土からIV群c類(74)、ドリル(1)、剥片(7)礫・礫片(4)、計86点出土した。S P-2053は覆土からIV群c類(8)、石鏃(1)、剥片(3)、礫・礫片(1)、計13点出土した。

土器 すべて支柱穴の覆土から出土したIV群c類である。1はP-109から出土したものである。波状口縁を呈する。突瘤施文後に、内面の口縁付近を調整している。内面には炭化物が厚く付着しており、¹⁴C年代測定を行ったところ、以下の値が得られている(第VII章3節参照)。

補正¹⁴C年代 3520±40BP

この年代は、土器や、これが出土した遺構から予想される年代より若干古いものだが、大きく矛盾するものではないと思われる。2は、注口の穿孔部の破片である。5は貼瘤をもつ鉢の破片である。

石器 6はドリルで2類。刺突部先端を欠損する。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物64(図V-99・100 図版97-1)

位置 i・j-70・71・72、k-71・72 Q地区東側に位置する。

規模 7.69×6.38 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。台形に配列された4基一組の支柱穴と壁柱穴をもつ。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・20・26・61・62・63・67・81・82と重複する。

支柱穴 P-122・124・173・180で構成される。

P-122 平面形は円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。壁は斜めで上部に拡がる。覆土下部から北側の大半をP-108に壊され、西側はP-127を切っている。

P-124 平面形は円形、坑底はほぼ平らでやや丸味をもって立ち上がり、壁は若干斜めに開く。北東側はS P-2027に壊され、南側はS P-4384・4385を切っている。

P-173 平面形は楕円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。壁は中程に段をもち拡がる。西側をP-121に壊され、P-104を切っている。東側はS P-2095を切っている。

P-180 平面形は楕円形で、坑底は丸みをもち開き気味に立ち上がる。壁は斜めに開いている。東側はS P-4560を壊している。

壁柱穴 7ヵ所の壁柱穴が確認された。これらは支柱穴を結ぶ方形外側に並行した配列がみられる。

土層

P-122 覆土1層：褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：暗灰褐色土、En-aPを多く含む。覆土3層：暗黄褐色土、En-aPを多く含む。覆土4層：暗灰褐色土、En-aPを含み、堅く締まる。覆土5層：灰黄褐色パミス：En-aPが汚れ細粒状。

P-124 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

P-173 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-180 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 P-122は覆土からIV群c類(14)が出土した。P-122は覆土からIV群a類(1)、IV群c類

(28)、剥片(6)、石皿・台石(3)、覆土1からIV群c類(1)、石斧(1)、計40点出土した。P-180は覆土からIV群c類(8)、礫・礫片(1)、計9点が出土した。

土器 いずれも主柱穴の覆土から出土したIV群c類である。2は山形の沈線とすり消しによる文様が施される。

石器 13は石斧の未成品として扱った。両面と側縁部には敲打痕が認められる。材質は緑色泥岩である。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物65 (図V-101 図版97-2)

位置 i-60、j・k-60・61、l-61

規模 -×- 外周 8.00×7.00

特徴 図面上で確認した。建物27と切り合い、建物52に隣接している。ほぼ南北に長軸をもち、東側に出入口(S P-3478・3485)をもつ。主柱穴は4基一組になると思われるが、出入口側の南側を除く3本検出したのみである。配列は、短辺が出入口側にある台形になるものと思われる。周辺に多くの柱穴状ピットが円形に認められ、出入口の中央を通る軸に対し対応関係が認められたものもある。

主柱穴 S P-950・1051・1063で構成される。

S P-950 Ⅷ層の調査で確認された。平面形はほぼ円形である。ほぼ垂直に掘り込まれ、坑底は尖り、先端部はほぼ中央部にある。

S P-1051 Ⅷ層の調査で確認された。S P-1050に隣接する。平面形はほぼ円形である。ほぼ垂直に掘り込まれ、坑底は尖り、先端部はほぼ中央部にある。

S P-1063 Ⅷ層の調査で確認された。平面形は楕円形である。長軸はほぼ南北である。坑底は尖る。ほぼ垂直に掘り込まれているが、先端部は南寄りに認められる。

なお、S P-940・1050は、西側の主柱穴(950・1063)と深さが異なることから本建物の主柱穴としなかったが、出入口を通る軸に対し対称の位置にあり、本建物の主柱穴の可能性がある。

出入口 S P-3478・3485からなる。いずれも長軸を東西にもつ。

S P-3478 Ⅷ層の調査で確認した。平面形は東側が尖る長円形で、長軸65cm、短軸44cmである。断面形は西側に段をもつが、平坦な坑底から東西とも緩やかに立ち上がり、深さは26cmである。

S P-3485 Ⅷ層の調査で確認した。S P-3487によって壊されている。平面形は長円形で、長軸59cm、短軸33cmである。断面形は西側に段をもつが、平坦な坑底から東西とも緩やかに立ち上がり、深さは16cmである。

焼土 焼土は検出されなかった。

土層

S P-950 覆土1層：褐色土、細粒状のEn-aPが混じる。

S P-1051 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPと炭化物を含む。

S P-1063 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。

S P-3478 覆土1層：明黄褐色土、En-aPに少量のEn-aLが混じる。覆土2層：明黄褐色土、多量のEn-aPが少量混じる。

S P-3485 覆土1層：明黄褐色土、En-aPに少量のEn-aLが混じる。覆土2層：明黄褐色土、多量のEn-aPが少量混じる。

2 建物

壁柱穴 SP-366・367・369・923～934・936・937・938～948・951・991・1049・1050・3471・3489・3492・3494～3497からなる。配置は南北に長軸をもつ長円形である。940と1050、367と947、948と3497、991と3495ないし3496は、出入口を通る軸に対し対称の位置にある。

遺物 SP-3485からは遺物が出土しなかった。SP-950の覆土からIV群b-4類(1)が、SP-1063・3478の覆土からそれぞれIV群c類(1)が出土している。壁柱穴の938～941・943・944・951・991・1049・1050の覆土から遺物が出土している。

土器 1は、壁柱穴のSP-941の覆土から出土したIV群c類である。小形の鉢の口縁部。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期 (熊谷仁志)

建物66 (図V-102)

位置 n・o-69・70・71、p-70 Q地区の中央部から南東よりに位置する。

規模 4.44×3.08 外周 7.80×7.32

特徴 図面上で確認した。東側が狭い台形に配列された4基一組の主柱穴と、南西側を欠くが円形に巡る壁柱穴をもつ。主柱穴の大きさに比し全体の規模が大きい。

主柱穴 SP-3108・3116・3138・3147で構成される。

SP-3108 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。壁はやや開き気味である。

SP-3116 平面形は円形、坑底はやや丸く緩やかに立ち上がる。

SP-3138 平面形は円形、坑底は平らで広がり気味に立ち上がる。壁の上部はほぼ垂直である。

SP-3147 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。壁の上部はほぼ垂直である。

壁柱穴 南西側を欠くがほぼ円形に配列されると考えられる壁柱穴が15ヵ所確認された。平面形は円形で直径15～20cm前後、深さ5～15cm前後である。3121はやや深く36cmあり出入口の片側の可能性もある。

土層

SP-3108 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

SP-3116 覆土1層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

SP-3138 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

SP-3147 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 SP-3138は覆土からIV群c類(4)、剥片(1)、たたき石(1)、覆土1IV群c類(2)剥片(1)、計9点出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。 (谷島由貴)

建物67 (図V-103・104 図版97-3)

位置 i-71、j-70・71・72、k-71 Q地区東側に位置する。

規模 3.84×3.20 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の主柱穴と壁柱穴をもつ。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・20・26・61・62・63・64・81・82と重複する。

主柱穴 P-105・172、SP-2106・44717で構成される。

P-105 平面形はやや楕円形気味、坑底は平らで緩やかに開いて立ち上がる。北側の壁は中程に段を有し丸く広がる。

P-172 平面形は円形、坑底は平らで東側はオーバーハングして立ち上がる。壁の中程に段を有し斜めに広がる。

S P-2106 平面形は楕円形、坑底は丸くやや開き気味に立ち上がる。壁は中程に段を有し斜めに広がる。

S P-4471 平面形は楕円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。

壁柱穴 支柱穴を結ぶ線の西の外側で S P-2127・2128の2ヵ所確認された。2127の平面形は円形、2128は楕円形、坑底は丸く開いて立ち上がる。

土 層

P-105 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-172 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

S P-2106 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-4471 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺 物 P-105は覆土からIV群b-4類(3)、IV群c類(15)、礫・礫片(3)、計21点出土した。

P-172は覆土からIV群c類(9)、剥片(3)、覆土1からIV群c類(1)、計13点出土した。S P-2106は覆土からIV群c類(24)、剥片(1)、計25点出土した。

土 器 いずれも支柱穴の覆土から出土したIV群c類である。2は注口の下半部の破片。波頭や三叉文のような形の、沈線とすり消しの組み合わせによる文様が施される。刻みの加えられた貼瘤が施される。内面から割れ面にかけて、赤色顔料が厚く付着している(口絵8-4)。器表面には、沈線などにごくわずかに付着しているのみである。赤色顔料の付着の様子から、土器の破損後に、パレットのような用途に使われた可能性が考えられる。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物68 (図V-105~107 図版97-4)

位 置 f・g-71・72、調査区の北東側に位置する。

規 模 -×- 外 周 -×-

特 徴 楕円形と円形の3基の支柱穴をVII層で確認した。3基の支柱穴は平面形の短径や坑底の大きさ、深さおよび覆土の状態が似ている。この3基の配置から調査区外に対応する柱穴があり、4基一組の支柱をもつ長正方形を呈するものと推定される。

支柱穴 P-101・102・103で構成される。3基とも確認はVII層である。

P-101 平面形は東西に長い楕円形で、東側が深い。坑底はやや丸みをもつ。壁は南北方向と東側がほぼ垂直で西側は中程から斜めに開く。

P-102 平面形は東西に長い楕円形で、東側が深い。坑底はやや丸みをもつ。壁は南北方向と東側がほぼ垂直で西側は中程から斜めに開く。

P-103 平面形は円形で、坑底は平坦で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁柱穴 支柱穴の外側をめぐる壁柱穴はS P-1525・1526・1527・1547・1548・1557・1558・1559・1560・1561・1563・1570・1571・1572・1573の15ヵ所検出され、支柱のすぐ外側を直線状に並ぶものとさらに外側を巡るものがある。支柱穴間の内側に1550・1551・1564・1565・1567・1568の6ヵ所の柱穴が検出されているが配列は認められない。

2 建物

土 層

P-101 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、En-aPを多く含む。
覆土3層：暗茶褐色土、En-aPを少量含む。

P-102 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、En-aPを多く含む。
覆土3層：暗茶褐色土、En-aPを少量含む。

P-103 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、En-aPを多く含む。
覆土3層：暗茶褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：灰黄褐色パミス。

遺物 P-101は覆土からIV群c類(2)、剥片(4)、石斧(1)、礫(2)計9点、P-102は覆土からIV群b-4類(2)、IV群c類(12)、坑底からIV群c類(9)、計23点、P-103は覆土からIV群c類(13)、剥片(3)、計16点出土した。

土器 いずれも支柱穴の覆土から出土したものである。2・4はIV群b-4類。口唇断面はいずれも切出形である。2の刻み列は径の太い工具により、切るように施文される。4は口唇直下に2列の刻み列と突瘤がめぐる。内面の口唇直下に沈線が施される。1・3・5はIV群c類。5は不規則な羽状縄文が施される底部破片。上げ底である。内面に炭化物が薄く付着している。

時期 支柱穴から出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものである。

(谷島由貴)

建物69 (図V-108 図版98-1)

位置 m・n-70 Q地区の東側に位置する。

規模 2.80×2.43 外周 -×-

特徴 楕円形と円形からなるやや長方形に配列された4基一組の支柱穴をⅧ層で確認した。北東側は建物85と重なる。

支柱穴 P-231・232・233・234で構成される。

P-231 平面形は円形で、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がる。

P-232 平面形は東西に長い楕円形、坑底は平らで開いて立ち上がる。西側は斜めに開く。

P-233 平面形は円形で、坑底は平坦で、丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

P-234 平面形は円形、坑底は北が深く傾斜し丸みをもちやや開き気味に立ち上がる。

壁柱穴 北側と南側に円形の壁柱穴が確認された。また、東側にも円形の壁柱穴様のものが確認されているが出入口の片方にあたる可能性もある。

土 層

P-231 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

P-232 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

P-233 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

P-234 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。

遺物 P-233は覆土からIV群a類(1)、剥片(2)、計3点出土した。

土器 1は支柱穴P-233の覆土から出土したIV群a類、入江式である。特徴的なZ字形の沈線が施される。胎土には砂粒と赤色の小礫を多く含む。

時期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の時期と思われる。

(谷島由貴)

建物70 (図V-109 図版35-2~4・図版98-2)

位置 k・1-68・69、1-69

規模 2.58×2.36 外周 -×-

特徴 VII層で確認した。方形に配列された4基一組の支柱穴と6ヵ所の壁柱穴をもつ。

支柱穴 P-174・175・176・177で構成される。

P-174 平面形は円形、坑底は平らでやや開き気味に立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

P-175 平面形は円形、坑底は平らで丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

P-176 平面形は円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がる。

P-177 平面形は円形、坑底は平らでほぼ垂直に立ち上がる。北西側は2175に切られている。

土層

P-174 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-175 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

P-176 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

P-177 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

壁柱穴 6ヵ所の壁柱穴の平面形はほぼ円形で、坑底は丸みをもつ。確認面の直径は15~20cm、深さは10cm前後である。P-174・176・177の傍に各2ヵ所、配されている。

遺物 P-174は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(9)、剥片(2)、計12点出土した。P-175は覆土からIV群c類(4)、剥片(1)、計5点出土した。P-176は覆土からIV群c類(3)、剥片(1)、原石(1)、計5点出土した。P-177は覆土からIV群c類(6)が出土した。

土器 1は支柱穴P-175の覆土から出土したIV群c類である。小波状を呈するものと思われる。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物71 (図V-110 図版98-3)

位置 1-69、m-68・69、調査区の中央東よりに位置する。

規模 2.38×2.08 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の支柱穴と、支柱穴の長方形外側に壁柱穴がみられる。支柱穴は東側に配された一対は、外側にあたる東側が片流れ状に斜めに掘り込まれ、西側に配された一対は西側が斜めに掘り込まれている。土層堆積や形態から、支柱穴は建物廃棄後それぞれ外側に引き倒されたものと思われる。周囲は建物が多くやや密集している。

支柱穴 P-239・256、SP-3060・3094で構成される。

P-239 VII層で確認された。平面形は楕円形で、坑底は平らで東側を除きほぼ垂直に立ち上がる。東側は開き気味に立ち上がり中程から斜めに広がっている。

P-256 VII層で確認された。平面形は楕円形で、坑底は東側によりやや丸みをもつ。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、西側は中程に緩やかな段を有し上半は斜めに広がっている。

SP-3060 VII層で確認された。平面形は楕円形で、坑底は平らで壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。東側は壁の中程から斜めに広がっている。

SP-3094 VII層で確認された。平面形は楕円形で、坑底は丸みをもちほぼ垂直に立ち上がる。西側は壁の中程から斜めに広がっている。

壁柱穴 6ヵ所の壁柱穴が支柱穴を結ぶ長方形の外側で確認された。これらの平面形は円形、坑底は丸い。

2 建物

土 層

P-239 覆土1：黒茶褐色土、En-aPを含む。

P-256 覆土1：明黄褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2：暗黄褐色ローム質土。

S P-3060 覆土1：黒茶褐色土、En-aPを含む。

S P-3094 覆土1：暗茶褐色土、En-aPを含む。

壁柱穴 北側の主柱穴2基の外側にそれぞれ2ヵ所の壁柱穴がみられる。また、東西の主柱穴間の中央外側に各1ヵ所の壁柱穴が配されている。壁柱穴の深さは8～18cmである。

遺物 P-239は覆土からIV群b類(1)、IV群c類(7)、剥片(1)、計9点出土した。3060は覆土から石皿・台石(1)が出土した。3094は覆土から礫・礫片(1)が出土した。

土器 いずれも主柱穴P-239の覆土から出土したものである。口唇断面は切出形である。1はIV群b-4類。2段の刻み列と突瘤がめぐる。2は口唇端部に縄文が施される。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物72 (図V-111 図版98-4)

位置 1-68・69、m-68 Q地区の中央東よりに位置する。

規模 2.67×1.84 外周 5.10×4.40

特徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の主柱穴と、壁柱穴をもつ。これらはVII層で確認された。

主柱穴 P-63・179・240・251で構成される。

P-63 平面形は円形、坑底は平らで開き気味に立ち上がり、壁は斜めに広がる。東側はP-125・S P-3077・3078を切っている。

P-179 平面形は楕円形で、坑底はやや丸みを持ち緩やかに立ち上り、壁は斜めに広がる。南側はS P-2184を切っている。

P-240 平面形は円形で、坑底はやや丸みを持ち、壁はやや広がる。

P-251 平面形は円形で、坑底はやや丸みを持ち、やや広がり気味に立ち上がる。

壁柱穴 14ヵ所の壁柱穴が主柱穴を結ぶ長方形の外側で確認された。これらの平面形は円形、坑底は丸く浅い。

土 層

P-63 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

P-179 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-240 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

P-251 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 P-63は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(26)、剥片(3)、礫・礫片(1)、計31点出土した。

土器 いずれも主柱穴P-63の覆土から出土したIV群c類である。2は台付土器の底部。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物73 (図V-112 図版98-5)

位置 o-73、p-73・74 Q地区の南東側に位置する。

規模 2.20×2.06 外周 4.64×4.40

特徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の主柱穴と、壁柱穴をもつ。これらはⅦ層で確認された。

主柱穴 SP-4419・4437・4444・4456で構成される。

SP-4419 平面形は円形、坑底はやや丸みをもち開き気味に立ち上がり、壁は斜めに広がる。

SP-4437 平面形は楕円形で、坑底は丸く緩やかに立ち上り、壁は斜めに広がる。

SP-4444 平面形は円形で、坑底は西側が深くやや丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

SP-4456 平面形は円形で、坑底はやや丸く緩やかに立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

壁柱穴 9ヵ所の壁柱穴が主柱穴を結ぶ長方形の外側で確認された。これらの平面形は楕円形気味で、坑底は丸く、4445を除きいずれも浅い。4454と4455は切り合っているがどちらがこの建物に伴うかは不明。

土層

SP-4419 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

SP-4437 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

SP-4444 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-4456 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 SP-4419は覆土の中程から石斧(1)が出土した。SP-4456は覆土からⅣ群c類(1)、剥片(1)、礫・礫片(1)、計3点出土した。

石器 1は石斧で、胴部から基部を欠損する。残存する部位のほぼ全面に研磨が施されている。材質は緑色泥岩。

時期 遺構の形態から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物74 (図V-113 図版36-5・6 図版98-6)

位置 o・p-67・68

規模 2.50×1.92 外周 -×-

特徴 整地層除去後のⅧ層上面で検出し、図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴をもつ。付属する他の遺構は特定できなかった。

主柱穴 P-268、SP-3353・4205・3326で構成される。

P-268 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形、底面は平坦で、壁は開きぎみに立ち上がる。

SP-3353 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形、坑底は平坦で、壁は開きぎみに立ち上がる。

SP-4205 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形、坑底は丸みがある。南側の壁がやや傾斜する。

SP-3326 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形、坑底はほぼ平坦であるがやや凸凹がある。壁は開きぎみに立ち上がる。

壁柱穴 該当すると思われる5基の柱穴状ピットは、北東～南西方向に配列される。

2 建物

土 層

P-268 覆土1層：暗赤褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：黒色土、多量のEn-aPを含む。

S P-3353 覆土1層：黒褐色土。覆土2層：暗赤褐色土、少量のEn-aPを含む。

S P-4205 覆土1層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：黒色土、多量のEn-aPを含む。覆土3層：極暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

S P-3326 覆土1層：黒色土、やや粘性強く多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗赤褐色土。

遺 物 P-268は覆土からIV群c類(61)、石鏃(1)、剥片(15)、石斧(2)、原石(2)、計81点。S P-3353は覆土からIV群c類1点。4205は覆土からIV群c類6点。3326はⅢ群b類(1)、IV群c類(5)、計6点出土した。

土 器 1は支柱穴P-268の覆土から出土したIV群c類である。ごく小形の土器の底部破片である。

石 器 2は石鏃で2a類。3は石斧で、敲打と研磨により形成されている。材質は緑色泥岩。

時 期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の時期と思われる。(笠原 興)

建物75 (図V-114 図版37-1・2 図版98-7)

位 置 i・j-63・64

規 模 2.20×2.18 外 周 4.20×3.80

特 徴 整地層の調査中に検出された。建物42と重複する。支柱穴は、長辺が東側にある台形に配置され、長辺は約2.20m、短辺約2.10mで、側縁は約2.20mである。周辺には柱穴状ピットが認められ、東側がやや扁平に巡る。東側には浅い柱穴状ピットの集中が認められ、特定できなかったが出入口の可能性はある。各支柱穴の覆土から炭化したドングリが多量に出土している(口絵6-2・3・第七章4節参照)。また、4133出土の炭化したドングリを用い、¹⁴C年代測定を実施している(第七章3節参照)。

支柱穴 S P-4133・4134・4135・4136で構成される。

S P-4133 平面形はほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸0.36m、短軸0.31m、深さ0.34mである。坑底は丸味をもち、やや北東寄りに構築されている。壁は、坑底から開き気味に立ち上がる。なお、断面の剥ぎ取りを実施した。同資料については当センターの第1調査部第1調査課において保存処理後、併設されている北海道立北海道埋蔵文化財センターの展示室に展示してある。

S P-4134 平面形は北北東-南南西に長軸をもつ長円形で、長軸0.50m、短軸0.36m、深さ0.40mである。坑底は丸味をもち、南南西寄りに構築されている。壁は、坑底から開き気味に立ち上がる。

S P-4135 平面形はほぼ東-西に長軸をもつ長円形で、長軸0.45m、短軸0.34m、深さ0.36mである。坑底は丸味をもち、ほぼ中央に構築されている。壁は、坑底から中位までほぼ垂直に立上り、坑口部から開き気味に立ち上がる。

S P-4136 確認面で炭化したドングリが集中して出土した(口絵6-2・3)。東側を覆土を残し、トレンチ調査を実施した。側面観を、撮影・実測図作成後、周辺の土ごと切り取りを実施した。切り取りとった資料については、現在、当センターの第1調査部第1調査課において保存処理中である。保存処理中の観察では、ドングリの集中が坑底付近まで筒状に認められるという所見が得られている。

出入口 S P-2893~2896と2887・2888が可能性がある。

焼 土 検出されなかった。

壁柱穴 S P-2863~2866・2880・2882・2884・2931・2943・3565からなる。2863~2866と3565が入口中央を通る軸に対しほぼ対象の位置に、2931は出入口の延長線上に位置している。

土 層

S P-4133 覆土1層：黒色土、径1 cmほどのEn-aPが少量混じる。多量のドングリ・炭化材が混じる。多くの土器片が出土している。覆土2層：暗黄褐色土、径1～3 cmほどのEn-aPが混じる。多量のドングリ・炭化材が混じる。

S P-4134 覆土1層：黒色土、径1 cmほどのEn-aPが少量混じる。多量のドングリ・炭化材が混じる。覆土2層：暗黄褐色土、径1～3 cmほどのEn-aPが混じる。多量のドングリ・炭化材が混じる。

S P-4135 覆土1層：黒色土、径1 cmほどのEn-aPが少量混じる。多量のドングリ・炭化材が混じる。大形土器片が出土している。覆土2層：暗黄褐色土、径1～3 cmほどのEn-aPが混じる。多量のドングリ・炭化材が混じる。

S P-4136 切取りのため不明であるが、他のものと同様と思われる。

遺 物 S P-4133の覆土からはIV群c類(2)、S P-4134の覆土からはIV群b-4類(1)、IV群c類(12)、礫・礫片(3)、計16点出土した。S P-4135の覆土からはIV群c類(6)、礫・礫片(1)、計7点出土した。P-39の覆土からはIV群c類(29)、剥片(5)、計34点出土した。P-43の覆土からはIV群c類(9)、剥片(2)、計11点出土した。

土 器 すべて主柱穴の覆土から出土したものである。2はIV群b-4類。2段の刻み列と突瘤がめぐる。1・3～5はIV群c類である。3は上げ底になる底部破片。

時 期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(熊谷仁志)

建物76 (図V-115)

位 置 i-56、j-55・56

規 模 2.30×2.00 外 周 -×-

特 徴 VIII層中まで攪乱されていたため、VIII層の精査中に検出した。H-1に隣接している。主柱穴の配置は、長辺がほぼ南北、短辺は東西にある台形で、4基一組の主柱穴である。周辺からは柱穴状ピットが検出されている。

主柱穴 S P-226・231・232・235で構成される。

S P-226 平面形は、ほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸0.36m、短軸0.35m、深さ0.29mである。坑底はほぼ丸味をもち、ほぼ中央に構築され、壁は、坑底から開き気味に立ち上がる。

S P-231 平面形は、北西-南東に長軸をもつ長円形で、長軸0.40m、短軸0.35m、深さ0.32mである。坑底は丸味をもち、ほぼ中央に構築されている。壁は、坑底から開き気味に立ち上がる。

S P-232 平面形は、北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸0.34m、短軸0.30m、深さ0.37mである。坑底は丸味をもち、ほぼ中央に構築されている。壁は坑底から開き気味に立ち上がる。

S P-235 平面形は、北-南に長軸をもつ長円形で、長軸0.49m、短軸0.42m、深さ0.36mである。坑底は平坦で、ほぼ中央に構築されている。壁は開き気味に立ち上がる。

出入口 検出されなかった。

焼 土 検出されなかった。

壁柱穴 S P-208・211・227・236が周辺で検出されているが明確な配列は確認されなかった。

土 層

S P-226 覆土1層：黒色土、多量のEn-aPと多量の炭化物が混じる。

S P-231 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPと多量の炭化物が混じる。

S P-232 覆土1層：黒色土、多量のEn-aPと多量の炭化物が混じる。

2 建物

S P-235 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPが混じる。

遺物 S P-231及び壁柱穴からは遺物は出土していない。S P-226の覆土からは石鏃（1）、232の覆土からは礫・礫片（1）、235の覆土からはIV群c類（1）が出土している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類堂林式の可能性がある。（熊谷仁志）

建物跡77（図V-115）

位置 t・u-60・61

規模 -×- 外周 -×-

特徴 整地層除去後のⅧ層上面で検出し、図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴と、付属する柱穴状ピットから構成される。これに伴う出入口や焼土は検出していない。

主柱穴 S P-744・731・732・743・737で構成される。

S P-744 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、P-11に切られる。残存する壁はやや開きぎみに立ち上がる。

S P-731 整地層下位のⅧ層上面で確認された。東側をS P-732に切られる。平面形は円形で、坑底はやや尖り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

S P-732 整地層下位のⅧ層上面で確認された。西側のS P-731を切る。平面形は円形で、坑底はやや丸く、壁はやや開きぎみに立ち上がる。

S P-743 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は楕円形で、坑底は丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

S P-737 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底は尖りぎみで、壁はやや開きぎみに立ち上がる。

壁柱穴 該当すると思われる5基の柱穴状ピットは楕円状に配置される。

土層

S P-741 覆土1層：褐灰色土、少量のEn-aPを含む。

S P-736 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

S P-729 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

S P-754 覆土1層：黒褐色土、やや粘性が強い少量のEn-aPを含む。

S P-4281 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPを含む。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の時期と思われる。（笠原 興）

建物78（図V-116 図版37-3～38-2）

位置 n・o-57・58

規模 -×- 外周 5.00×4.70

特徴 図上で確認した。2基一組の出入口および壁柱穴からなる。主柱穴は確認できなかった。本建物付近から西側は耕作による攪乱がⅧ層近くまで及んでいた。P-7・8付近は耕作がⅥ層までは及んでおらず、Ⅵ層上面付近で検出したが、これより西側の柱穴状ピットは、ほとんどをⅧ層で検出した。

出入口 円形に近い2基の土坑、P-7・8からなる。

P-7 平面形は楕円形。坑底は平坦。立ち上がりは緩やかで、壁が開き、椀状である。

P-8 平面形はほぼ円形。坑底は丸く、立ち上がりはごく緩やかで、壁が開き、椀状である。

壁柱穴 出入口の軸方向にやや長い、楕円形に巡る。14ヵ所ほどの柱穴状ピットからなる。出入口と同じ軸方向のまとまりが認められたことから、付属する壁柱穴と判断した。しかし他の建物と比較すると、壁柱穴の軸の方向が異なること、壁柱穴の規模にばらつきが大きいことから、本建物に付属するものとは断言できない。

土 層

P-7 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。覆土2層：明褐色土、En-aPを含む。

土層A：暗褐色土。 土層B：暗黄褐色土、En-aPを含む（整地2層に相当？）。

P-8 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。覆土2層：明褐色土、En-aPを含む。

遺 物 P-7は覆土から、IV群c類（10）、剥片（3）、礫・礫片（1）、計14点、P-8は覆土から、IV群b-4（1）、IV群c類（3）、剥片（6）、石斧（1）、計11点、それぞれ出土している。

時 期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉IV群c類の時期である。 (柳瀬由佳)

建物79 (図V-117・118 図版38-3・図版99-1)

位 置 m・n-72・73、o-73・74 Q地区東側に位置し、一部R地区にかかる。

規 模 -×- 外 周 -×-

特 徴 図面上で3基を確認した。長方形に配列された4基一組の支柱穴からなる建物になるものと推定される。支柱穴のうち1基はR地区で確認した。これらは、いずれもVII層で確認した。

支柱穴 P-201・221、RP-45で構成される。

P-201 平面形は楕円形、坑底は平らで、やや開き気味に立ち上がる。西側の壁は中程から段を有し斜めに開く。西側はP-202を切っている。

P-221 平面形は楕円形、坑底は平らで、やや開き気味に立ち上がる。南西側の壁は中程から段を有し斜めに開く。

RP-45 R地区で確認された。北側はRP-44に壊され平面形は不明。坑底は若干丸みをもち、やや開き気味に立ち上がる。

壁柱穴 特定できなかった。

土 層

P-201 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。覆土4層：暗褐色土。覆土5層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

P-221 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。覆土2層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土3層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土4層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。覆土5層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺 物 P-201は覆土からIV群b類（4）、IV群c類（85）、剥片（8）、たたき石（1）、計98点出土した。P-201は覆土からIV群c類（60）、剥片（2）、石皿・台石（1）、礫・礫片（1）、計64点出土した。

土 器 いずれも支柱穴の覆土から出土したものである。1はIV群b-2類。平行沈線と縦位の弧状の沈線が施される。2・6はIV群b-4類。2はくびれのある深鉢で、くびれに2列の刻み列をもつ。6は口唇直下に1列の刻み列がめぐる。口唇断面は切出形。4は注口の肩部の破片。内面には凹凸が残る。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えら

2 建物

れる。

(谷島由貴)

建物80 (図V-119・120 図版38-4~7・図版99-2)

位置 k-60、l-58・59・60・61、m-59・60・61、n-59

規模 5.74×5.40 外周 -×-

特徴 図上で確認した。4基一組の主柱穴からなる。主柱穴間の距離が5.5mほどになる大形の建物である。なお、5P-2および5P-3の2基は、平成5年度に行った事前発掘調査の際に検出・調査され、平成8年度に報告されたものであるが、今年度の調査の結果、建物を構成する主柱穴であることを確認したため、再掲載した(北埋調報119集)。

主柱穴 P-91、5P-2・3、P-51からなる。ほぼ正方形に並ぶ。いずれも、基本的には柱穴状で、一方向に張り出し部がつく大形の土坑である。

P-91 平面形は不正な卵形。坑底は開口部とは軸を異にする楕円形で、丸みを帯び、立ち上がりは緩やか。壁は垂直に近いが、西側のみ開いて開口し、片流れ状をなす。

5P-2 SP-922と重複するが、新旧は不明である。平面形は楕円形。坑底は円形で、やや丸みを帯びる。立ち上がりは急で、北西側のみ段をなして開く。

5P-3 平面形は不正な楕円形。坑底は円形に近く、平坦。立ち上がりは概して急で、壁は垂直に近いが、東側でのみ大きく開く。

P-51 P-82・95と重複し、これらを切る。SP-176・992・2263と重複するが、新旧は不明である。平面形は不正な円形。坑底は円形で、やや丸みを帯びる。立ち上がりは急で、壁は中程までは垂直に近く、以後開いて開口する。特に南西部で明瞭な段をもつ。遺物が比較的多く出土しており、IV群c類土器が1個体復原された。

土層

P-91 覆土1層：暗褐色土、しまりあり。多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土2層：暗灰褐色土、En-aP主体で、土壌が混入する。しまりなく、ボロボロ。覆土3層：暗黄褐色土、よくしまる。大量のEn-aP・少量のローム粒・ごく少量の炭化物を含む。

5P-2 覆土1層：黒褐色土(V>VII>VIII)硬くしまる。覆土2層：暗褐色土(VII>V>>VII)もろい。覆土3層：暗黄褐色土(VII>>V>>VII)もろい。覆土4層：黒褐色土(V>VII>VIII)覆土5層：黒色土(V>>VIII)木根による攪乱。

5P-3 覆土1層：黒褐色土(V>VII>VIII)硬くしまる。覆土2層：暗褐色土(VII>V>VII)もろい。覆土3層：暗黄褐色土(VII>>V>>VII)覆土4層：黒褐色土(V>>VIII)もろい。覆土5層：黒色土(V>VII>VIII) (5P-2・3については北埋調報119集参照)。

P-51 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土2層：明褐色土、多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土3層：暗黄褐色土、しまり弱い。大量のEn-aPを含む。覆土4層：暗褐色土、大量のEn-aPを含む。覆土5層：黒褐色土、粘性強い。大量のEn-aPを含む。覆土6層：暗褐色土、土壌と同量のEn-aPを含む。覆土7層：暗褐色土、土壌と同量のEn-aPを含む。覆土8層：暗褐色土、粘性強い。ローム粒を含む。

遺物 数量はやや多いが、P-51でIV群c類土器が1個体復原されたほかは、散発的な出土である。

P-91は覆土から、III群b類(2)、IV群c類(30)、剥片(8)、礫・礫片(1)、計41点、P-51は覆土から、I群b類(4)、IV群c類(110)、石鏃(2)、剥片(20)、石皿・台石(10)、礫・礫片(3)、計149点、それぞれ出土している。なお、報告によると、5P-3は覆土からIV群c

類が1点出土している。5P-2からは遺物は出土していない。

土器 主に支柱穴の覆土から出土したものである。10はⅢ群b類である。底部付近の破片で、胎土には砂粒、特に白色の砂粒を多く含む。1～7・11・12はⅣ群c類である。1はP-51の覆土から出土した破片と、27mほど離れたg-62の盛土層から出土した破片が接合した。くびれない深鉢である。上面観はいびつで楕円形に近いようである。口縁は内湾する。やや不規則な羽状縄文が施される。口唇断面は縄文施文後に調整され、角形である。胎土には砂粒をを多く含む。内面調整は丁寧。橙色や黒褐色を呈する。7は注口部の破片である。11は斜行縄文地に、同じ方向の斜行沈線が施される。

石器 8は石鏃で2c類。9は石皿で片面にすり面を持つ。材質は安山岩。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期である。 (柳瀬由佳)

建物81 (図V-121 図版100-1)

位置 h-70、i・j-70・71・72 Q地区東側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。方形に配列された4基一組の支柱穴のうちの3基と推定される。残る1基は調査区域外にあると思われる。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・20・26・61・62・63・64・67・82と重複する。

支柱穴 SP-2030・2084・2132で構成される。

SP-2030 平面形は楕円形、坑底は西側が深くやや傾斜する。ほぼ垂直に立ち上がり壁の上部は開く、特に東側は中程から斜めに開いている。東側はP-137に切られ、SP-4472を切っている。

SP-2084 平面形は楕円形、坑底は南側が深く傾斜する。緩やかに立ち上がり壁は開き気味で、特に北側は斜めに開いている。

SP-2132 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。壁はやや開き気味である。

土層

SP-2030 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-2084 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

SP-2132 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 SP-2030は覆土からⅣ群c類(14)、剥片(6)、計20点出土した。SP-2084は覆土からⅣ群c類(6)、剥片(2)、礫・礫片(1)、計9点出土した。SP-2132は覆土からⅣ群c類(3)が出土した。

土器 とともに支柱穴SP-2030の覆土から出土したⅣ群c類の注口の破片。同一個体と思われる。1は口縁部破片。小波状を呈し、波頂部に縦の刻みが施される。2は肩の屈曲部の破片。同心円状に近い弧状の沈線とすり消しによる文様が施される。同じ部位の破片が、ほかにも1点出土している。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期に構築されたものと考えられる。 (谷島由貴)

建物82 (図V-122 図版100-3)

位置 i-72、j-70・71・72、k-71 Q地区東側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。方形に配列された4基一組の支柱穴のうちの3基と推定される。残る1基は調査区域外にあると思われる。周辺は建物が密集して構築された処で、建物13・14・20・26・61・

2 建物

62・63・64・67・81と重複する。

主柱穴 P-123・171、SP-2102で構成される。

P-123 平面形は楕円形、坑底はやや丸く、緩やかに立ち上がる。西側の壁は斜めに開き、他はほぼ垂直である。

P-171 平面形は円形、坑底はやや丸く、開き気味に立ち上がる。壁はやや斜めに開く。

SP-2102 南西側がSP-2052・2053・2101に壊され、平面形は不明。坑底部は残存し、やや丸みを持ち斜めに立上り、壁は上部ほど直立する。

土層

P-123 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-171 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-2102 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土2層：灰黄褐色パミス：En-aPが汚れた細粒状。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 P-123は覆土からI群c類(1)、IV群c類(32)、剥片(4)、計37点出土した。P-171は覆土からIV群c類(4)が出土した。SP-2102は覆土からIV群c類(18)、スクレイパー(1)、剥片(3)、石皿・台石(1)、礫・礫片(4)、計27点出土した。

土器 いずれも主柱穴の覆土から出土したものである。1はIV群a類、入江式である。崩れているが、Z字状の沈線が施される。2～6はIV群c類。口唇断面は切出形が多い。2は小形の鉢の破片。平行沈線と鋸歯状沈線による文様が施される。3は口唇端部に縄文が施される。6は上面観が円形の突起が貼付される。

石器 7はスクレイパーで1c類。背面の加工は丁寧で、尖頭部を作出する。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物83 (図V-123 図版100-2)

位置 n-60、o-59・60・61、p-59・60

規模 4.78×4.74 外周 -×-

特徴 図上で確認した。4基一組の主柱穴からなる。主柱穴間の距離が4.7mほどになる中形の建物である。他の建物と比較して、主柱穴の規模の割に、主柱穴間の距離が大きい。

主柱穴 SP-962・2250・817・870からなる。ほぼ方形に並ぶ。

SP-962 平面形は楕円形。坑底は平坦で、立ち上がりはやや緩やか、壁は垂直に近く、南東側のみ中程で段をもつ。

SP-2250 平面形は円形。坑底はやや丸みを帯び、立ち上がりは緩やかで、壁は垂直に近い。

SP-817 SP-4644と重複し、これより新しい。平面形は円形に近い。坑底は丸く、立ち上がりは緩やかで、壁は開く。

SP-870 平面形は卵形。坑底は平坦で、立ち上がりはやや緩やか、壁はほぼ垂直に近く、中程で段をもつ。

土層

SP-962 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。

SP-2250 覆土1層：暗褐色土、やや多量のEn-aPとごく少量の炭化物を含む。

SP-817 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。

S P-870 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 概して、少数の散発的な出土である。

S P-962は覆土からIV群c類(3)、剥片(1)、計4点、S P-2250は覆土からIV群c類(1)、計1点、S P-817は覆土からIV群c類(4)、計4点、S P-870は覆土からIV群c類(13)、剥片(1)、計14点、それぞれ出土している。

土器 1は主柱穴S P-962の覆土から出土したIV群c類である。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉IV群c類の時期である。

(柳瀬由佳)

建物84 (図V-124・125 図版39-1~4・図版100-4・101-1)

位置 m-64・65・66、n-65・66

規模 4.60×4.28 外周 -×-

特徴 現場で確認した。主柱穴は4本一組で、ほぼ正方形に配列される。柱穴の規模が小さいものが多い。P-217が若干浅いが、柱穴の平面形、規模、深さがともに似ていること、埋土がどの柱穴もV~VI層起源のパミスを含む黒褐色~暗褐色土を主体としていることから、同一の建物の主柱穴と認定した。建物84の主柱穴のP-217が、建物96の主柱穴のP-216に切られること、同じく建物84の主柱穴のP-154が、建物54の主柱穴のP-153を切る。したがって建物84は、建物96より古く、建物54より新しい。

主柱穴 P-245・P-154・P-217・P-166で構成される。

P-245 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は上端が南東側に広がる、いびつな楕円形である。坑底は平らで、開き気味に立ち上がる。土層の4~6が柱穴掘方、1~3が抜き取り痕である。平面形のゆがみは、柱の抜き取りに伴う攪乱であると考えられる。

P-154 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、坑底は尖る。標高9.1m付近に段をもち、開き気味に立ち上がる。P-153を切る。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-217 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、坑底は丸い。開き気味に立ち上がる。P-216に切られる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-166 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形はほぼ円形で、坑底は平らである。開き気味に立ち上がる。抜き取り痕、柱痕ともに確認できない。

出入口 検出していない。

焼土 検出していない。

壁柱穴 検出していない。

土層

P-245 覆土1層：黒褐色土、粒の細かいEn-aPをやや多く含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPをやや多く含む。覆土3層：暗褐色土、En-aL主体で、En-aPを少量含む、炭化物を極少量含む。覆土4層：黒褐色土、ややソフト。粘質。En-aPを少量含む。覆土5層：褐色土、ややソフト。En-aP主体。覆土6層：褐色土、ソフト。En-aP主体、5よりEn-aPが少ない。

P-154 覆土1層：黒褐色土、粒子細かい、径3~20mmのパミス多い。覆土2層：暗赤褐色。覆土3層：黒色土、粒子細かい、En-aP含まない。覆土4層：黒褐色土、粒子粗い。径1~5mmのEn-aP少ない。

P-217 覆土1層：暗褐色土、En-aP少ない。粘性高い。覆土2層：黒褐色土、径5~50mmのEn-aP多い。覆土3層：黒色土、En-aPを少量含む。

2 建物

P-166 覆土1層：黒褐色土、En-aPをやや多く含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPをやや多く含む。覆土3層：黒褐色土、En-aPをやや多く含む。覆土4層：褐色土、En-aPの純層。覆土5層：暗褐色土、やや粘質。En-aPをやや多く含む。

遺物 P-245は覆土からIV群b-4類(2)、IV群c類(4)、礫・礫片(2)計8点、P-154は覆土からIII群a類(1)、IV群c類(22)、石鏃(1)、剥片(11)、礫・礫片(2)計37点、P-217は覆土からIV群b-4類(3)、IV群c類(43)、剥片(1)、礫・礫片(3)計50点、P-166は覆土からIV群c類(12)、ドリル(1)、剥片(5)、礫・礫片(2)計20点出土した。

土器 いずれも支柱穴の覆土から出土したものである。7・9はIV群b-4類。7は口唇直下に2列の刻み列がめぐる。9は無文で、内面～口唇～外面にかけて連続的に、ケズリ調整が顕著に見られる。1・2・4・5・8はIV群c類である。1・2は口唇断面が丸形気味で、内面から口唇へかけて連続して顕著なケズリ調整が見られる。1の突瘤は施文後、上下につぶされている。内面の口唇直下にはとぎれとぎれの沈線が施される。2は波状口縁を呈すると思われる。胎土中に植物の葉の痕跡が見られる。

石器 3は石鏃で2c類。両面に礫皮面が残る。6はドリル。両面からの加工で、器体の整形と機能部が作出されている。

時期 縄文時代後期後半IV群c類の堂林式の時期。

(石井淳平)

建物85 (図V-126 図版101-2)

位置 1-70、m-69・70、n-70 Q地区の東側に位置する。

規模 4.26×3.33 外周 -×-

特徴 長方形に配列された4基1組の支柱穴をⅧ層で確認した。北東側は建物69と重なる。

支柱穴 P-235・236・237・238で構成される。

P-235 平面形は円形、壙底はやや丸みをややもち、開き気味に立ち上がる。

P-236 平面形は円形、壙底はやや尖りぎみで、斜めに開いて立ち上がる。

P-237 平面形は円形、壙底は平坦で、丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

P-238 平面形は円形、壙底は平坦で、丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

壁柱穴 支柱穴を結ぶ長方形の外側に5カ所の壁柱穴を確認した。そのうち、SP-3053は出入口の片側にあたる可能性がある。長方形の内側にも2カ所の柱穴を確認した。

土層

P-235 覆土1：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2：茶褐色粘質土。覆土3：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。覆土4：黄褐色ローム質土。

P-236 覆土1：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-237 覆土1：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。覆土3：茶褐色粘質土。

P-238 覆土1：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 P-235は覆土からIV群c類(1)、剥片(1)、計2点出土した。P-237は覆土からIV群c類(7)、剥片(1)、計8点出土した。

土器 ともに支柱穴の覆土から出土したIV群c類である。2は不規則な羽状縄文が施される口縁部破片。口唇断面は角形である。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後半IV群c類の堂林式の時期に構築されたもの

と考えられる。

(谷島由貴)

建物86 (図V-127・128 図版39-5・6 図版101-3)

位置 m-67・68・69、n-68 Q地区中央やや東側に位置する。

規模 4.11×2.92 外周 -×-

特徴 主柱穴のやや多い部分のため調査後に図面で、長方形に配列された4基一組の主柱穴をもつ。これらはⅧ層で確認した。東側は建物93・94と重なり、この2軒の建物の主柱をそれぞれ切っている。主柱穴 P-62・65・66・67で構成される。

P-62 平面形は円形、坑底は平らで、壁は開き気味に立ち上がる。西側はSP-3088に切られ、北側はP-125を切る。

P-65 平面形は楕円形、坑底は丸みをもち、壁はやや開き気味に立ち上がる。東側の壁は中程から斜めに開く。東側はSP-2012を切る。

P-66 平面形は楕円形、坑底は平らで、壁は丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ垂直である。西側の壁は斜めに開く。

P-67 平面形は円形、坑底は平坦で、壁は丸みをもって立ち上がり、壁は中程から開く。

土層

P-62 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-65 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：暗黄褐色土、En-aPを多く含む。

P-66 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-67 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。

遺物 P-62は覆土からIV群c類(11)、石鏃(1)、剥片(3)、礫・礫片(1)、計16点出土した。P-65は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(10)、剥片(2)、石斧(1)、礫・礫片(2)、計16点出土した。P-66は覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(13)、石鏃(1)、剥片(3)、礫・礫片(1)、計19点出土した。P-67は覆土からIV群c類(20)、剥片(3)、計23点出土した。

土器 ともに主柱穴P-65の覆土から出土したものである。1はIV群b-4類。口唇断面は切出形で、口唇直下に1列の刻み列がめぐる。2はIV群c類である。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物87 (図V-129 図版101-4)

位置 p-69・70 Q地区南東側に位置し、一部R地区にかかる。

規模 4.84×3.08 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の主柱穴からなる。主柱穴のうち1基(RSP-144)はR地区で確認した。これらはⅧ層で確認した。

主柱穴 P-260・262、SP-3149、RSP-144で構成される。

P-260 平面形は円形、坑底は平らで、開いて立ち上がる。

P-262 平面形は円形、坑底は丸く、やや開き気味に立ち上がる。

SP-3149 平面形は楕円形、坑底は丸く、やや開き気味に立ち上がり、壁の上部は開く。

2 建物

R S P-144 R地区で確認された。平面形は円形、坑底は若干丸みを持ち、やや開き気味に立ち上がる。周りはR S P-145に入れ子になり、南東側はR S P-141・143に切られている。

土 層

P-260 覆土1層：黒褐色土、En-aPを多量に含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

P-262 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを多量に含む。

S P-3149 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

遺 物 P-260は覆土から剥片(1)が出土した。P-262は覆土1からIV群c類(1)が出土した。S P-3149は覆土からIV群c類(2)、礫・礫片(1)、覆土1からIV群c類(1)、計4点出土した。

土 器 1は支柱穴S P-3149の覆土から出土したIV群c類。波頂部の破片で、口唇断面は切出形。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類堂林式の時期に構築されたものと考えられる。
(谷島由貴)

建物88 (図V-130)

位 置 p-71・72 Q地区南東側に位置し、一部R地区にかかる。

規 模 3.26×2.36 外 周 -×-

特 徴 図面上で確認した。長方形に配列された4基一組の支柱穴からなる。支柱穴のうち1基(R S P-42)はR地区で確認した。これらはVII層で確認した。

支柱穴 S P-3141・3157・3161、R S P-42で構成される。

S P-3141 平面形は円形、坑底は丸く、やや開き気味に立ち上がる。

S P-3157 平面形は円形、坑底はほぼ平らで、やや開き気味に立ち上がる。南側はP-223に、北側は3157に切られている。

S P-3161 平面形は円形、坑底は丸く、やや開き気味に立ち上がり、壁の上部は開く。

R S P-42 R地区で確認された。平面形は円形、坑底は若干丸みを持ち、やや開き気味に立ち上がる。

土 層

S P-3141 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

S P-3157 覆土1層：褐色土、En-aPを多く含む。

S P-3161 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

壁柱穴 S P-3162は支柱穴S P-3161の南東傍に位置する。平面形は円形、坑底は丸く浅い。

遺 物 S P-3157は覆土から剥片(1)が出土した。S P-3161は覆土からIV群c類(1)、覆土1からIV群c類(1)、計2点出土した。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後半に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物89 (図V-131 図版40-1~4・図版101-5)

位 置 p・q-57・58

規 模 2.66×2.60 外 周 -×-

特 徴 現場段階で確認した。4基一組の支柱穴からなる。支柱穴間の距離が2.7mほどの小形の建物である。建物1と重複するが、検出層位が同一で、直接の切り合い関係が認められないため、新旧関

係は断言できない。しかし、建物1の炉であるF-5と同一面で検出したF-6に覆われることから、建物1よりも古い可能性がある。

主柱穴 SP-28・29・30・31からなる。ほぼ方形に並ぶ。検出面はいずれもⅧ層上面である。

SP-28 平面形はほぼ円形。坑底は平坦で、立ち上がりはやや緩やか、壁は垂直に近く、上部で大きく開く。

SP-29 平面形はやや楕円形。坑底は軸を異にする楕円形で、ほぼ平坦、立ち上がりは緩やかで、壁は垂直に近いがあるいはわずかにオーバーハングするが、北側は上部で屈曲し、開く。

SP-30 平面形は円形。坑底は円形で平坦、立ち上がりは急で、壁はほぼ垂直。

SP-31 平面形は円形に近い。坑底は楕円形で平坦、立ち上がりは急で、壁は概して垂直に近いが、南側ではやや開く。F-6に覆われる。

土層

SP-28 覆土1層：暗灰褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土2層：灰褐色土、ごく少量のEn-aP・多量のローム粒を含む。覆土3層：暗褐色土、しまり弱い。ごく少量のEn-aPおよび炭化物・多量のローム粒を含む。覆土4層：灰黄褐色土、多量のEn-aP・ローム粒を含む。覆土5層：灰黄褐色土、しまりない。多量のEn-aP・ローム粒を含む。覆土6層：暗褐色土、しまりなく、ポロポロ。ごく少量のEn-aP・多量のローム粒を含む。覆土7層：暗黄褐色土、しまり弱い。ローム粒と灰褐色土の混合層。少量のEn-aPを含む。

SP-29 覆土1層：暗褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、多量のEn-aP・ローム粒を含む。覆土3層：暗褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土4層：灰褐色土、粘性強く、しまりない。ごく少量のEn-aP・多量のローム粒を含む。覆土5層：灰黄褐色土、ローム粒と灰褐色土の混合層。粘性強く、しまりない。少量のEn-aPを含む。覆土6層：灰黄褐色土、ローム粒と灰褐色土の混合層。粘性強く、堅くしまる。やや多量のEn-aPを含む。

SP-30 覆土1層：暗褐色土、よくしまる。覆土2層：暗黄褐色土、En-aP主体。しまりない。覆土3層：暗灰褐色土、しまり弱い。多量のEn-aPおよびローム粒を含む。覆土4層：暗褐色土、しまり弱い。大量のローム粒・ごく少量のEn-aPおよび炭化物を含む。覆土5層：暗黄褐色土、細粒のEn-aPと灰褐色土の混合層。覆土6層：暗灰褐色土、しまりなく、ポロポロ。En-aPをごく大量（土壌より多い）に含む。

SP-31 覆土1層：暗灰褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：灰黄褐色土、しまり弱い。多量のローム粒を含む。覆土3層：暗褐色土、しまり弱い。ローム粒・ごく少量のEn-aPを含む。覆土4層：暗褐色土、しまりあり。ローム粒・ごく少量のEn-aPおよび炭化物を含む。覆土5層：暗褐色土、しまり弱い。ローム粒・ごく少量のEn-aPを含む。覆土6層：暗黄褐色土、ロームと灰褐色土の混合層。しまりない。En-aPを含む。

遺物 概して散発的な出土である。SP-28は覆土から、Ⅲ群b類（2）、Ⅳ群c類（14）、剥片（5）、礫・礫片（1）、計2点、SP-29は覆土から、Ⅳ群a類（1）、Ⅳ群c類（1）、計22点、P-31は覆土から、Ⅳ群c類（3）、剥片（1）、礫・礫片（1）、計5点がそれぞれ出土している。SP-30からは遺物は出土していない。

土器 いずれも、主柱穴の覆土から出土したⅣ群c類である。4は注口の破片である。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期である。（柳瀬由佳）

建物90（図V-132 図版40-5～41-4・図版101-6）

2 建物

位置 k-63・64、l-63

規模 2.80×2.48 外周 -×-

特徴 整地層の調査中に確認した。4基一組の大形の支柱穴で、建物10・17と重複している。支柱穴の配置は、長軸が東西にある長方形である。建物10・17との新旧関係は不明である。

支柱穴 P-71・80・116・272で構成される。

P-71 平面形は、ほぼ南北に長軸をもつ長円形で、長軸0.79m、短軸0.57m、深さ0.56mである。坑底は平坦で、ほぼ中央に構築されている。北側の壁は、坑底から中位までオーバーハング気味に、中位からは開き気味に立ち上がる。南側の壁はほぼ垂直に立ち上がる。

S P-80 S P-2811を壊して構築されている。平面形は、北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸0.70m、短軸0.57m、深さ0.68mである。坑底はほぼ平坦で、北東寄りに構築され、ほぼ東西に長軸をもつ。壁はいずれも緩やかにオーバーハング気味に立ち上がるが、南西側は中位から大きく開く。

P-116 S P-3912・3913を壊して構築されている。平面形は円形で、長軸0.82m、短軸0.72m、深さ0.92mである。坑底は北東寄りに構築され、北東側に深さ22cmほどのくぼみをもつ。北側の壁はほぼ垂直に掘り込まれているが、南側には中位に段をもちながら立ち上がる。覆土中位から焼土が確認されている。

P-272 S P-1986によって壊され、伴う建物が不明であるが出入口の施設と考えられるS P-1987を壊して構築している。平面形は、北西-南東に長軸をもつ長円形で、長軸0.68m、短軸0.51m、深さ0.67mである。坑底はほぼ平坦で、南東寄りに構築され、ほぼ北西-南東に長軸をもつ。北西の壁は中位まではオーバーハング気味に、中位から大きく開く。南東側はほぼ垂直に立ち上がる。

出入口 検出されなかった。

焼土 検出されなかった。

壁柱穴 周辺に多くの柱穴状ピットが認められる。しかしながら、建物10・17と重複関係が認められ、明確に伴うものを特定することができなかった。先述したようにこの地点は、ほぼ南北に延びる建物集中地点である。

土層

P-71 覆土1層：暗黄褐色土、径1～3cmのEn-aPが混じる。少量の炭化物を含む。覆土2層：暗黄褐色土、径1cmのEn-aPが混じる。覆土3層：褐色土、覆土1層より黄色味が強い。En-aLが主体が主体で、しまりよい。径1cmのEn-aPが少量混じる。覆土4層：褐色土、覆土3層と同質。En-aLが主体が主体で、しまりよい。少量の炭化物を含む。覆土5層：褐色土、覆土4層と同質。やや黄色味が強い。覆土6層：暗黄褐色土、粘性強い。少量の径1～3cmほどのEn-aPと炭化物を含む。覆土7層：暗黄褐色土、多量のEn-aPを含み、ぼそぼそ。覆土8層：暗黄褐色土、En-aLが主体が主体で、しまりよい。少量のEn-aPを含む。

P-80 覆土1層：暗黄褐色土、しまり良いが多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPを含む。覆土3層：褐色土、ほとんどEn-aPを含まない。少量の炭化物を含む。覆土4層：En-aP層、崩落土？。覆土5層：褐色土、ぼそぼそ、ほとんどEn-aPを含まない。覆土6層：褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPを含む。覆土7層：暗褐色土、En-aPを含む。しまりよい。

P-116 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aL・En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、多量のEn-aPを含む。S Pの可能性あり。覆土3層：暗黄褐色土、En-aLが主体で、多量のEn-aPが混じる。しまりよい。覆土4層：褐色土、粘性強い。しまりよい。少量のEn-aPを含む。覆土5層：暗黄褐色土、少量のEn-aPと炭化物を含む。覆土6層：褐色土、粘性強い。少量のEn-aPと炭化物を含む。覆土7層：

赤褐色土、焼土層。覆土8層：暗褐色土、ぼそぼそ、En-aP主体、少量の褐色土が混じる。覆土9層：En-aP層、わずかに黒味をおびる。ぼそぼそ。覆土10層：En-aP層、ぼそぼそ、掘り過ぎの可能性がある。

P-272 覆土1層：暗黄褐色土、粘性強い。少量の径1～3cmほどのEn-aPと炭化物を含む。覆土2層：暗黄褐色土、径1cmのEn-aPが少量混じる。ぼそぼそ。覆土3層：暗黄褐色土、覆土1層に類似、径1～2cmのEn-aPが少量混じる。覆土4層：暗黄褐色土、覆土2層に類似、ぼそぼそ。覆土5層：黄褐色土、En-aPが主体、ぼろぼろ。

遺物 P-71の覆土からはIV群c類(10)、剥片(2)、礫・礫片(1)、計13点出土した。P-80の覆土からはIV群b-4類(1)、IV群c類(2)、石皿・台石(1)、計4点出土した。P-116の覆土からはIV群b-4類(1)、IV群c類(6)、計7点出土した。

土器 いずれも、支柱穴の覆土から出土したIV群b-4類である。口唇断面は切出形である。2は口唇直下に2列の刻み列と突瘤、4は1列の刻み列と突瘤がめぐる。3はくびれのある深鉢の破片。現存で1列の刻み列がめぐる。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(熊谷仁志)

建物91 (図V-133・134 図版101-7)

位置 k・1-73 Q地区東側に位置する。

規模 3.04×2.14 外周 -×-

特徴 VII層で確認した。東側の狭い台形に配列された4基一組の支柱穴である。北東側のP-205の土層断面の観察から次のことが判明した。掘り込み面は耕作により不明であるが、V層と整地2層を掘り抜き、VII層中に掘り込まれている。この周辺は僅かであるが整地されている。北側は建物58と重なる。

支柱穴 P-205・206・207・208で構成される。

P-205 平面形は円形、坑底はほぼ平らで、やや開き気味に立ち上がる。

P-206 平面形は楕円形、坑底は若干丸みを持ち、やや開き気味に立ち上がる。東側の上部は斜めに開く。西側のSP-3176を切っている。

P-207 平面形はほぼ円形、坑底はやや丸みを持ち、開き気味に立ち上がる。東側のSP-3008と南側のSP-3007を切っている。

P-208 平面形は楕円形、坑底は丸みを持ち、壁は開き気味に立ち上がる。南側のSP-4391を切っている。

土層

P-205 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

P-206 覆土1層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-207 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

P-208 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 P-205は覆土からIV群c類(2)、P-206は覆土からIV群c類(2)、剥片(2)、計4点出土した。P-207は覆土からIV群c類(13)、剥片(3)、覆土1からIV群c類(5)、礫・礫片(1)、計22点出土した。P-208は覆土からIV群c類(1)、剥片(1)、計2点出土した。

土器 いずれも支柱穴の覆土から出土したIV群c類である。1は横走ぎみの斜行縄文が施される。

2 建物

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物92 (図V-135 図版41-5~42-3・図版102-1)

位置 m・n-71・72

規模 2.68×244 外周 -×-

特徴 ほぼ正方形を呈する4基一組の主柱穴を確認した。周囲は、深度耕作が入っていたためⅧ層まで重機により除去している部分から確認された。そのため出入口・壁柱穴・炉は検出されていない。

主柱穴 P-224・225・226・227で構成される。4基とも確認面はⅧ層である。

P-224 平面形はほぼ円形で、坑底は西側が若干低いが平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

P-225 平面形はほぼ円形で、坑底は丸い。

P-226 平面形は南北に長い楕円形で、坑底はやや丸みをもつ。壁は東西方向がほぼ垂直で、南北方向は開いて立ち上がる。

P-227 平面形は円形で、坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

土層

P-224 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

P-225 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

P-226 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

P-227 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

遺物 P-224は覆土からIV群c類(1)、礫・礫片(1)、計2点出土した。P-225は覆土からIV群c類(1)、剥片(1)、覆土1からすり石(1)、計3点出土した。P-226は覆土からIV群c類(8)、礫・礫片(2)、計10点出土した。

土器 いずれも、主柱穴P-226の覆土から出土したIV群c類。1は縦走ぎみの細い縄文が浅く施される。2は底部付近の破片である。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物93 (図V-136・137 図版102-2)

位置 m-68・69、n-68

規模 2.70×2.10 外周 -×-

特徴 図面上で東側の狭い台形を呈する4基一組の主柱穴を確認した。大半が建物86・94と重なる。建物72と建物86により主柱穴のうちP-125の大半は壊されている。

主柱穴 P-64・125・252・255で構成される。4基とも確認面はⅧ層である。

P-64 平面形は楕円形、坑底は北側が低くほぼ平らで、丸みをもって垂直に立ち上がる。壁の南側は中程に段を有し開く。

P-125 北側をP-63に、南側をP-62に切られているため、平面形は不明である。坑底はやや丸みを持ち若干開き気味に立ち上がる。

P-252 平面形は円形、坑底はほぼ平らで、丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

P-255 平面形は円形、坑底はほぼ平らで、丸みをもって立ち上がり、壁は若干開き気味である。

土層

P-64 覆土1層：暗褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土3層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。

P-125 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

P-252 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

P-255 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

遺物 P-64は覆土からⅢ群b類(1)、Ⅳ群c類(15)、剥片(2)、計18点出土した。P-125は覆土からⅣ群c類(10)、覆土1から剥片(4)、計14点出土した。P-252は覆土からⅣ群b-4類(1)、Ⅳ群c類(12)、剥片(1)、計14点出土した。P-255は覆土からⅣ群c類(14)、石鏃(2)、剥片(3)、計19点出土した。

土器 いずれも、支柱穴の覆土から出土したものである。1はⅢ群b-2類。口唇直下に、縦の縄圧痕が加えられた貼付帯が施される。2～6はⅣ群c類である。口唇断面は切出形が多い。

石器 7は石鏃で2a類。先端部を欠損する。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期と考えられる。(谷島由貴)

建物94 (図V-138)

位置 m・n-68 Q地区中央のやや東側に位置する。

規模 2.42×1.94 外周 -×-

特徴 支柱穴のやや多い部分のため調査後に図面上で、長方形に配列された4基一組の支柱穴を確認した。大半が建物86・93と重なる。建物86の支柱穴を壊して構築されている。

支柱穴 P-253・254・259、SP-2012で構成される。4基とも確認面はⅧ層である。

P-253 平面形は円形、坑底はやや丸みを持ち垂直に立ち上がるが、南東側はやや開き気味である。

P-254 平面形は平ら、坑底はほぼ垂直に立ち上がる。

P-259 平面形は円形、坑底は丸みを持ち、立ち上がりはほぼ垂直である。

SP-2012 西側をP-65に切られているため、平面形は不明である。平面形は円形、坑底はほぼ平らで立ち上がりはほぼ垂直である。

土層

P-253 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-254 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

P-259 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-2012 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 P-253は覆土からⅣ群c類(13)、剥片(1)、計14点出土した。P-254は覆土から礫・礫片(1)が出土した。P-259は覆土からⅣ群b-4類(1)、Ⅳ群c類(5)、剥片(2)、計8点出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期と考えられる。

(谷島由貴)

建物95 (図V-139 図版42-4～6)

位置 n-71・72、o-71

規模 2.62×2.24 外周 -×-

特徴 ほぼ正方形を呈する4基一組の支柱穴を確認した。周囲は、深度耕作が入っていたためⅧ層

2 建物

まで重機により除去している部分から確認された。

主柱穴 P-132・228・229・230で構成される。4基とも確認面はⅧ層である。

P-132 平面形はほぼ円形で、坑底は東側が若干低い平坦で、壁は垂直に立ち上がる。東側の壁は途中から膨らむ。

P-228 平面形は円形で、坑底はやや丸味をもち、壁は開き気味に立ち上がる。

P-229 平面形は円形で、坑底はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

P-230 平面形は円形で、坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

土層

P-132 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

P-228 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、細粒状のEn-aPを多量に含む。覆土4層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土7層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

P-229 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。

P-230 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。覆土3層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 P-132は覆土からⅣ群c類(3)、剥片(1)、計4点出土した。P-228は覆土から剥片(2)が出土した。P-229は覆土からⅢ群a類(4)、Ⅲ群b類(2)、Ⅳ群c類(1)、計7点出土した。P-230は覆土からⅣ群c類(5)、覆土1から剥片(1)、計6点出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

建物96 (図V-140・141 図版43-1~44-1・図版102-3)

位置 m-65・66、n-66

規模 2.80×2.12 **外周** -×-

特徴 現場で確認した。主柱穴は4基一組で、南北方向に長い長方形に配列される。柱穴は深さと比較して直径が大きいものが多い。P-162が他の柱穴より約20cm深い以外は、柱穴の平面形、規模、深さがともに似ていること、埋土がどの柱穴もⅤ~Ⅶ層起源のパミスを含む黒褐色~暗褐色土を主体としていることから、同一の建物跡の主柱穴と認定した。主柱穴の一つであるP-216が、建物84の主柱穴の一つであるP-217を切って掘り込まれていること、同じく主柱穴の一つであるP-164が、建物53の主柱穴の一つであるP-168を切って掘り込まれていることから、建物跡53、84より新しい。

主柱穴 P-164・P-216・P-162・P-163で構成される。

P-164 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、坑底は平らである。壁は開き気味に立ち上がる。土層5、6が柱穴掘方埋土、1~4が抜き取り痕である。

P-216 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底は丸味をもつ。壁は開き気味に立ち上がる。P-217を切る。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

P-162 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底はやや丸味をもつ。壁は開き気味に立ち上がる。土層5、6は別の柱穴の掘方か、P-162自身の柱痕である。底面が平らではないため、抜き取り痕である可能性が高い。

P-163 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は南側の上端が広がった、いびつな楕円形で、坑底は平らである。壁は開き気味に立ち上がる。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

出入口 検出していない。

焼土 検出していない。

壁柱穴 検出していない。

土層

P-164 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを多く含む。覆土3層：黒褐色土、ややソフト。En-aPやや多く含む。覆土4層：黒褐色土、やや粘質。En-aPを少量含む。覆土5層：褐色土、ハード。En-aP主体で、暗褐色土をやや多く含む。覆土6層：黄褐色土、En-aPの純層。

P-216 覆土1層：黒褐色土。覆土2層：黒色土、径5～50mmのパミス多い。覆土3層：赤黒色土。

P-162 覆土1層：黒褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：黒褐色土、細かいEn-aPをやや多く含む。覆土3層：黒褐色土、やや粘質。En-aPをほとんど含まない。覆土4層：黒褐色土、やや粘質。En-aPをほとんど含まない。覆土5層：褐色土、En-aP主体。

P-163 覆土1層：黒褐色土、パミスをやや多く含む。覆土2層：黒褐色土、パミスを少量含む。

覆土3層：黒褐色～暗褐色土、やや粘質。パミスを少量含む。覆土4層：黒褐色土、ややソフト。パミスを少量含む。覆土5層：黒～黒褐色土、やや粘質。En-aLを少量含む。覆土6層：褐色土、En-aL主体で、黒褐色土をローム状に含む。

遺物 P-164は覆土からIV群a類(2)、IV群b-4類(2)、IV群c類(34)、石鏃(1)、スクレイパー(1)、剥片(3)、原石(2)、たたき石(1)、計46点、P-216は覆土からIV群b-4類(2)、IV群c類(14)、剥片(4)、砥石(1)、礫・礫片(2)、計23点、P-162は覆土からIV群a類(1)、IV群c類(12)、剥片(4)、礫・礫片(1)、計18点、P-163は覆土からIV群c類(18)、剥片(1)、石斧(2)、礫・礫片(2)、計23点出土した。

土器 いずれも、主柱穴の覆土から出土したものである。4はIV群a類のタブコブ式である。内面にも縄文が施され、内外ともに縄文施文後になでつけられる。口唇は比較的丁寧な角形に整形される。表面は黒色、内面は褐色を呈する。3・5はIV群b-4類。5はくびれのある深鉢の破片。現存で1列の刻み列がめぐる。5は注口の肩部の破片。2列の刻み列がめぐる。1・2・6はIV群c類。2は注口の破片。充填縄文により木葉形の文様が施される。

石器 7は石鏃で2a類。腹面には剥離面が残る。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。 (石井淳平)

建物97 (図V-142)

位置 j-68、k-67・68 Q地区中央部東よりに位置する。

規模 2.28×2.21 外周 -×-

特徴 図面上で確認した。方形に配列された4基一組の主柱穴をもち、Ⅷ層で確認した。

主柱穴 SP-2163・2170・2173・2179で構成される。

SP-2163 平面形は円形、坑底は丸く壁はやや開き気味に立ち上がる。

SP-2170 平面形は楕円形、坑底はやや傾斜し若干丸みをもって立ち上がる。南東側の壁は斜めに開き北西側はほぼ直立する。

SP-2173 平面形は楕円形、坑底は丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ直立する。

2 建物

S P-2179 平面形は円形、坑底は丸みをもって立ち上がり、壁はほぼ直立する。

土 層 主柱穴は4基とも単層で同じ土が検出された。覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。

遺 物 S P-2163は覆土からIV群c類(2)が出土した。

時 期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期に構築されたものと考えられる。

(谷島由貴)

建物98 (図V-143 図版102-4)

位 置 o-60、p-60・61

規 模 2.44×2.38 外 周 -×-

特 徴 図上で確認した。4基一組の主柱穴からなる。主柱穴間の距離が2.4mほどになる、小形の建物である。

主柱穴 S P-966・875・874・865からなる。

S P-966 平面形はほぼ円形。坑底は丸く、立ち上がりはごく緩やかで、壁は開く。

S P-875 平面形はほぼ円形。坑底は小さいが平坦、立ち上がりはやや緩やかで、壁はやや開く。

S P-874 平面形はほぼ円形。坑底は丸く、立ち上がりはごく緩やかで、壁は開く。

S P-865 平面形はやや卵形。坑底は円形で丸く、立ち上がりはごく緩やかで、垂直に近いが、上部で屈曲し、開く。

土 層

S P-966 覆土1層：暗褐色土、En-aP・ごく少量の炭化物を含む。

S P-875 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。

S P-874 覆土1層：暗褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。

S P-865 覆土1層：暗灰褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。

覆土3層：暗灰褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺 物 S P-966は覆土から、IV群c類(6)、剥片(5)、礫・礫片(1)、計12点、S P-875は覆土から、IV群b-4類(2)、IV群c類(8)、剥片(1)、計11点、S P-874は覆土から、I群b類(1)、IV群b-4類(1)、IV群c類(4)、計6点、S P-865は覆土から、IV群c類(4)、剥片(2)、石皿・台石(1)、計7点、それぞれ出土している。

土 器 いずれも、主柱穴の覆土から出土したものである。3はIV群b-4類。台付土器の底部で、刻み列が1段めぐり。1・2はIV群c類である。1は充填による文様が施され、部分的に沈線に沿って刺突が加えられる。

時 期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式時期である。

(柳瀬由佳)

建物99 (図V-144 図版44-2・図版102-5)

位 置 h・i-63

規 模 2.20×2.00 外 周 -×-

特 徴 整地層の調査中に、建物10・17・90が検出された建物集中地点からやや北東側に外れた地点から検出された。主柱穴の配置は、長軸がほぼ南北にある長方形で、4基一組の大形の主柱穴からなる。出入口が想定される短軸の軸方向は、建物集中地点のものとは異なりわずかに東西側に振れ、ほぼ東-西である。

主柱穴 P-72・273、S P-1880・1888で構成される。

P-72 平面形は、ほぼ北西-南東に長軸をもつ長円形で、長軸0.93m、短軸0.57m、深さ0.47mである。坑底は丸味をもち、南東寄りに構築されている。南東側の壁は、坑底から大きく開き気味に立ち上がる。北西側は中位までほぼ垂直に、中位からは開き気味に立ち上がる。

P-273 平面形は、北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸0.81m、短軸0.43m、深さ0.40mである。坑底は平坦で、南西寄りに構築され、長軸は北西-南東である。北東側の壁は中位で段をもち、坑底から中位までほぼ垂直に、中位からは大きく開き気味に立ち上がる。南西側は坑底からほぼ垂直に立ち上がる。

SP-1880 SP-3581・3582を壊して構築されている。平面形はほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸0.55m、短軸0.52m、深さ0.46mである。坑底はほぼ平坦で、南東寄りに構築され、ほぼ北東-南西に長軸をもつ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

SP-1888 平面形は、北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸0.78m、短軸0.54m、深さ0.46mである。坑底は平坦で、南西寄りに構築されている。北東側の壁は中位で段をもち、坑底から中位までほぼ垂直に、中位からは大きく開き気味に立ち上がる。南西側は坑底からほぼ垂直に立ち上がる。

出入口 検出されなかった。

焼土 検出されなかった。

壁柱穴 周辺に多くの柱穴状ピットが認められる。しかしながら、明確に伴うものを特定することができなかった。

土層

P-72 覆土1層：褐色土、しまりよく、少量のEn-aP・炭化物を含む。覆土2層：褐色土、少量の径1～3cmほどのEn-aPが混じる。覆土3層：暗黄褐色砂質土、ぼそぼそ、多量のEn-aPを含む。

P-273 覆土1層：暗黄褐色土、しまり良い。径1cmほどのEn-aPが混じる。覆土2層：褐色土、しまりよく、少量のEn-aP・炭化物を含む。覆土3層：暗褐色土、径1～3cmほどのEn-aPが混じる。

SP-1880 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：明黄褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物を含む。覆土3層：明黄褐色土、少量のEn-aPと炭化物を含む。覆土4層：明黄褐色土、多量のEn-aPを含む。

SP-1888 覆土1層：明黄褐色土、少量のEn-aPと多量の炭化物を含む。覆土2層：明黄褐色土、覆土1層に類似、やや黄色味が強い。覆土3層：明黄褐色土、多量のEn-aPと炭化物を含む。覆土4層：明黄褐色土、覆土3層に類似、わずかにEn-aPが多い。

遺物 P-72の覆土からはIV群c類(6)、剥片(6)、礫・礫片(1)、計13点出土した。P-273の覆土からはIV群c類(1)、ドリル(1)、計2点出土した。SP-1880の覆土からはIV群b-4類(1)、IV群c類(12)、剥片(1)、礫・礫片(1)、計15点出土した。SP-1888の覆土からはIV群c類(3)、剥片(1)、礫・礫片(1)、計5点出土した。

土器 ともに支柱穴の覆土から出土したものである。2はIV群b-4類。台としたが、注口の口縁の可能性もある。現存で刻み列が1列めぐる。3はIV群c類。小波状を呈する。

石器 1はドリルで3類。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(熊谷仁志)

建物100 (図V-145・146 図版44-3～45-3・図版102-7・103-1)

位置 j-64、k-64・65

規模 2.30×2.20 外周 -×-

2 建物

特徴 整地層の調査中に、建物10・17・90が検出された建物集中地点からやや東側に外れた地点から検出された。主柱穴の配置は、長軸がほぼ南北にある長方形で、4基一組の大型の主柱穴からなる。
主柱穴 P-74・78・117・118で構成される。

P-74 SP-2848によって壊されている。平面形は、ほぼ北西-南東に長軸をもつ長円形で、長軸1.16m、短軸0.87m、深さ0.87mである。坑底は平坦で、南東寄りに構築されている。北西側の壁は、坑底から大きく開き気味に立ち上がる。南東側はほぼ垂直に立ち上がる。坑底付近の覆土2層中から遺物がまとまって出土している。

P-78 平面形は、北-南に長軸をもつ長円形で、長軸1.06m、短軸0.81m、深さ0.90mである。坑底は平坦で、北寄りに構築され、長軸は北-南である。北側の壁は坑底からほぼ垂直に、南側は坑底からやや開き気味に立ち上がる。

P-117 SP-3734を壊して構築されている。平面形はほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸1.16m、短軸0.83m、深さ0.92mである。坑底はほぼ平坦で、南西寄りに構築され、ほぼ北東-南西に長軸をもつ。南西側の壁は坑底からほぼ垂直に、北東側は坑底から開き気味に立ち上がる。

P-118 平面形は、北-南に長軸をもつ長円形で、長軸1.16m、短軸0.83m、深さ0.92mである。坑底は丸味をもち、南寄りに構築されている。南側の壁はほぼ垂直に立ち上がる。北側は大きく開き気味に立ち上がる。

出入口 検出されなかった。

焼土 検出されなかった。

壁柱穴 周辺に多くの柱穴状ピットが認められる。しかしながら、明確に伴うものを特定することができなかった。

土層

P-74 覆土1層：暗黄褐色土、径1～3cmほどのEn-aP、少量の炭化物を含む。しまりよい。覆土2層：暗黄褐色土、多量のEn-aPが混じる。しまり悪くぼそぼそ。

P-78 覆土1層：暗黄褐色土、径1～3cmほどのEn-aP、少量の炭化物を含む。しまりよい。覆土2層：暗黄褐色土、径1～3cmほどのEn-aP、少量の炭化物を含む。しまり悪い。覆土3層：暗黄褐色土、覆土2層に類似、やや黒味が強く、粘性強い。

P-117 覆土1層：黒褐色土、粘性強くしまり良い。少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、粘性強くしまり良い。径1～2cm程度のEn-aPを含む。覆土3層：暗黄褐色土、しまり悪くぼそぼそ。径1～3cm程度のEn-aPと少量の炭化物を含む。覆土3'層：暗黄褐色土、覆土2層に類似、わずかに砂粒が混じる。覆土4層：暗黄褐色土、粘性強くしまり良い。わずかに黒味が強く、砂粒が多い。

P-118 覆土1層：暗黄褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物を含む。覆土2層：暗黄褐色土、覆土1層に類似、やや黄色味が強い。覆土3層：暗黄褐色土、多量のEn-aPと炭化物を含む。覆土4層：明黄褐色土、覆土3層に類似、わずかにEn-aPが多い。覆土5層：褐色土、きわめて少量のEn-aPが混じる。粘性が強いがぼそぼそ。炭化物（柱痕片?）が混じる。覆土6層：暗褐色砂質土、En-aPが主体。少量の褐色土が混じる。

遺物 P-74の覆土からはⅡ群b類（1）、Ⅳ群b-4類（1）、Ⅳ群c類（21）、剥片（4）、石皿・台石（6）、礫・礫片（1）、計34点出土した。P-78の覆土からはⅣ群c類（22）、Uフレイク（1）、原石（2）、石斧（2）、石皿・台石（1）、礫・礫片（10）、計32点出土した。P-117の覆土からはⅣ群c類（45）、石鏃（2）、剥片（1）、礫・礫片（11）、計59点出土した。P-118の覆土からはⅢ群b類（1）、Ⅳ群a類（1）、Ⅳ群c類（33）、剥片（3）、石斧（2）、礫・礫片

(3)、計43点出土した。

土 器 すべて主柱穴の覆土から出土したものである。11はⅢ群b-2類の底部である。外側に張り出す。胎土には白色を中心とした砂粒を多く含む。1はⅣ群b-4類。口唇直下に2列の刻み列と突瘤がめぐる。口唇断面は切出形である。2・4～10・12～16はⅣ群c類である。2の口唇断面は薄い切出形である。5は平縁で、縦の刻みが加えられる突起をもつ。10は注口の胴部破片で、放射状の刻みが加えられたドーナツ状の貼付が施される。13は内面一面に炭化物が厚く付着している。16は縄文のみのごく緩やかな波状口縁で、波頂部に刻みの加えられる突起をもつ。

石 器 3は接合資料で石皿として扱った。各破片の側縁部には、擦り痕が認められ、石鋸に転用されたと思われる。材質は砂岩である。

時 期 縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期。 (熊谷仁志)

建物101 (図V-147 図版102-6)

位 置 j-66・67 Q地区中央部東よりに位置する。

規 模 2.35×2.32 外周 -×-

特 徴 図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴からなる。すべてⅧ層で確認した。建物14と重なる。

主柱穴 SP-588・2157・2160・3764で構成される。

SP-588 平面形は円形、坑底は平らで緩やかに立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

SP-2157 平面形は円形、坑底は平らで緩やかに立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

SP-2160 平面形は円形、坑底は平らで急角度に立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

SP-3764 平面形は円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がり、壁はほぼ垂直である。

壁柱穴 主柱穴を結ぶ方形の内側、SP-2160の北側にSP-2161を確認した。平面形は円形、坑底は丸い。

土 層

SP-588 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。

SP-2157 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

SP-2160 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

SP-3764 覆土1層：黒褐色土、En-aPを多量に含む。

遺 物 SP-588は覆土から剥片(1)、覆土1からⅣ群c類(2)、計3点出土した。SP-2160は覆土から剥片(1)が出土した。SP-3764は覆土からⅣ群c類(2)が出土した。

土 器 1は主柱穴SP-588の覆土から出土したⅣ群c類である。突瘤は施文後左右につぶされる。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類堂林式の時期に構築されたものと考えられる。 (谷島由貴)

建物102 (図V-148 図版45-4～46-3・図版103-2)

位 置 i・j-62・63

規 模 2.30×2.00 外周 -×-

特 徴 整地層の調査中に検出された。建物52と重複する。主柱穴の配置は、長軸がほぼ南北にある長方形で、4基一組の小形の主柱穴からなる。建物52との新旧関係は不明である。

主柱穴 P-25・37・39・43で構成される。

2 建物

P-25 SP-1064によって壊されている。平面形は、ほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形で、長軸1.12m、短軸0.68m、深さ0.71mである。坑底はほぼ平坦で、北東寄りに構築されている。南西側の壁は、坑底から中位までほぼ垂直に立上り、中位から大きく開き気味に立ち上がる。北東側はわずかに中位で段をもつがほぼ垂直に立ち上がる。

P-37 SP-373によって壊されている。平面形は、北東-南西に長軸をもつ長円形、長軸0.74m、短軸0.70m、深さ0.83mである。坑底は平坦で、ほぼ中央に構築されている。いずれの壁も、坑底から中位まではオーバーハング気味に立上り、中位からはほぼ垂直に立ち上がる。

P-39 SP-5000によって壊されている。平面形はほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形、長軸0.96m、短軸0.85m、深さ0.85mである。坑底はほぼ平坦で、北寄りに構築されている。東側の壁は坑底からほぼ垂直に立上り、開口部でわずかに開く。西側は坑底から中位まではオーバー・ハング気味に立上り、中位からは大きく開き気味に立ち上がる。

SP-43 平面形はSP-375・376によって壊されている。東-西に長軸をもつ長円形で、長軸1.16m、短軸0.83m、深さ0.92mである。坑底は北東に向かって傾斜するが、ほぼ中央に構築されている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

出入口 検出されなかった。

焼土 検出されなかった。

壁柱穴 周辺に多くの柱穴状ピットが認められる。しかしながら、明確に伴うものを特定することができなかった。

土層

P-25 覆土1層：暗黄褐色土、径1～3cmほどのEn-aPが主体。覆土2層：暗黄褐色土、少量のEn-aPとブロック状の炭化物が混じる。しまりよい。覆土3層：暗黄褐色土、径1～3cmほどのEn-aPが主体。ぼそぼそ。覆土4層：暗黄褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。しまりよい。覆土5層：褐色土、粘性強く、少量の炭化物を含む。En-aPをほとんど含まない。覆土6層：暗黄褐色土、覆土3層に類似、En-aPが主体。と少量の炭化物が混じる。しまりよい。覆土7層：暗黄褐色土、粘性強く、少量のEn-aPを含む。覆土8層：黄褐色土、En-aLに類似、粘性強い。

P-37 覆土1層：暗黄褐色土、少量のEn-aPを含む。粘性強い。覆土2層：暗黄褐色土、径1～3cm程度のEn-aPや少量の炭化物を含む。覆土3層：暗黄褐色土、覆土2層に類似、ぼそぼそ、En-aP起源と考えられる砂粒を多く含む。覆土4層：暗黄褐色土、径1～3cm程度のEn-aP主体。ぼそぼそ。

P-39 覆土1層：黒色土、粘性強くしまり良い。少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、覆土1層に類似、少量のEn-aPを含む。わずかに赤味を帯びる。粘性強くしまり良い。覆土3層：暗黄褐色土、径1～3cm程度のEn-aPを含む。覆土4層：黒色土、覆土3層に類似、径1～3cm程度のEn-aPを含む。

SP-43 覆土1層：暗黄褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、覆土1層に類似、わずかに黒味が強い。径1～3cmほどのEn-aPを多量に含む。覆土3層：暗黄褐色土、覆土1層に類似、やや黒味が強い。En-aPを多量に含むが粘性強い。

遺物 P-25の覆土からはIV群c類(15)、剥片(1)、石斧(1)、礫・礫片(2)、計19点出土した。P-37の覆土からはIV群c類(28)、剥片(10)、礫・礫片(1)、計39点出土した。P-39の覆土からはIV群c類(29)、剥片(5)、計34点出土した。P-43の覆土からはIV群c類(9)、剥片(2)、計11点出土した。

土器 いずれも、支柱穴の覆土から出土したIV群c類である。口唇断面は切出形あるいは角形であ

る。1の突瘤は、施文後に上下につぶされる。破片の左側には、文様施文後に口縁部から下へなでつけられてできた粘土塊が見られる。5・6は同一個体。小波状口縁で、口縁に沿った並行沈線が施され、突瘤も口縁の形状を意識して施されるようである。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(熊谷仁志)

建物103 (図V-149 図版46-4・図版103-3・4)

位置 n-62、o-62・63

規模 2.18×2.02 外周 -×-

特徴 図上で確認した。4基一組の主柱穴からなる。主柱穴間の距離が2.1mほどの、小形の建物である。竪穴式住居跡H-25と重複しており、SP-997・3832がこれを切っていることから、これより新しい。

主柱穴 SP-997・3832・3811・3807からなる。

SP-997 H-25調査時に検出した。SP-998と重複し、これより古い。また、H-25と重複し、H-25の床面および炉を一部壊して構築されることから、これより新しい。平面形はほぼ円形になると思われる。坑底は丸く、立ち上がりは緩やかで、壁は垂直に近いが上部でやや開く。

SP-3832 H-25と重複し、これより新しい。調査工程上、H-25を先行して調査したため、3832の平面図および断面図はH-25の床面で作成した。平面形は円形。坑底は平坦で、立ち上がりは急で、壁はほぼ垂直である。

SP-3811 平面形は楕円形。坑底は楕円形で丸みがあり、立ち上がりは急で、壁はやや開く。

SP-3807 平面形は不整な楕円形。坑底は楕円形で丸みがあり、立ち上がりは急で、壁はやや開く。

土層

SP-997 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：黄褐色パミス：1cmほどのEn-aPが主体。覆土3層：黒褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

SP-3832 覆土1層：灰褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

SP-3811 覆土1層：暗灰褐色土、やや多量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

SP-3807 覆土1層：暗褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

遺物 少量の散発的な出土である。

SP-997は覆土から、Ⅲ群a類(1)、Ⅳ群a類(1)、Ⅳ群c類(21)、剥片(4)、石斧(2) 礫・礫片(1)、計30点、SP-3811は覆土から、Ⅳ群c類(1)、剥片(1)、計2点、SP-3807は覆土から、Ⅳ群c類(9)、剥片(3)、たたき石(1)、礫・礫片(1)、計14点、それぞれ出土している。SP-3832からは遺物は出土していない。

土器 1は主柱穴SP-997の覆土から出土したⅣ群c類である。口唇直下に2本一組の平行沈線と突瘤がめぐる。

石器 2はたたき石として扱った。すり石と複合する。材質は砂岩。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。

(柳瀬由佳)

建物跡104 (図V-150)

位置 n・o-67・68

2 建物

規模 2.18×1.71 外周 -×-

特徴 整地層除去後のⅧ層上面で検出し、図面上で確認した。ほぼ方形に配列された4基一組の主柱穴と思われる。関連する付属施設などは確認できなかった。

主柱穴 P-258・SP-4242・3314・3324で構成される。

P-258 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底は比較的平らである。壁はやや開きぎみに立ち上がる。

SP-4242 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底は丸みを持ち、開きぎみに立ち上がる。

SP-3314 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底はやや平坦で、壁は坑底からオーバーハングぎみに立ち上がる。

SP-3324 整地層下位のⅧ層上面で確認された。平面形は円形で、坑底はほぼ平坦であるが西側がやや浅く、壁はやや開きぎみに立ち上がる。

土層

P-258 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

SP-4242 覆土1層：黒色土。覆土2層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

SP-3314 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土。

SP-3324 覆土1層：黒褐色土、やや粘性が強い。覆土2層：明赤褐色土、砂質。覆土3層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 SP-3314は覆土中からIV群c類(3)、剥片(1)、石皿片(1)、計5点出土した。

SP-3324は覆土中からIV群c類(22)、剥片(1)、礫・礫片が(2)、計25点出土した。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

建物105 (図V-150 図版46-5~47-3)

位置 p-55・56、q-56

規模 -×- 外周 -×-

特徴 現場段階で確認した。2基一組の出入口のみである。検出面は盛土遺構調査後のⅥ層上面である。調査区の西端に位置していることから、これに付属する主柱穴等は、これより西側の調査区域外に分布しているものと思われる。

出入口 P-35・36あるいはP-81からなる。P-81はP-36の調査後に検出したが、長軸方向、長径、深さなどがP-36と共通することから、出入口施設の作り替えに伴うものと判断した。

P-35 平面形は楕円形。坑底はやや丸みがあり、立ち上がりは概して緩やか、壁は開く。西側では、下半でややオーバーハングする。坑底が小さく、すり鉢状をなす。

P-36 P-81と重複し、これより新しい。平面形は楕円形。坑底は丸みがあり、立ち上がりは緩やか、壁は概して開く。

P-81 P-36に切られる。P-81を完掘した際に壁面に現れた断面により検出したが、平面形からは、覆土がⅥ層と類似していたために、検出し難かった。SP-4638と重複し、これより新しいと思われる。平面形は楕円形になるものと思われる。半分以上がP-36によって壊されているため詳細は不明であるが、残存部では、立ち上がりはやや急で、壁は開く。

土層

P-35 覆土1層：暗褐色土、En-aP・ごく少量の骨片および炭化物を含む。覆土2層：明暗褐色土、

ごく少量の炭化物を含む。

P-36 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黄褐色土。覆土3層：明褐色土、En-aP・少量の骨片を含む。

P-81 覆土1層：灰褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗灰褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土3層：灰褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土4層：暗黄褐色土。覆土5層：暗灰褐色土。

遺物 少数の散発的な出土である。

P-35は覆土から、IV群c類(2)、剥片(1)、計3点、P-36は覆土から、IV群c類(8)、剥片(3)、計11点、P-81は覆土から、剥片(1)、計1点がそれぞれ出土している。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

建物106 (図V-151 図版103-5)

位置 e・f-68 Q地区北東側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 東側の狭まる一対の出入口を確認した。西側は調査範囲外にあたり、これに伴う支柱穴等は検出されていない。

出入口 H-19HP-1・2で一対を構成する。

H-19HP-1 平面形は楕円形、坑底は東側が深い溝状である。東端はH-18HP-2に切られている。

H-19HP-2 西側は調査範囲外で全形は不明である。調査した部分の平面形は楕円形、坑底は丸く、中央部がやや深い。西側はP-59を切っている。

土層

H-19HP-1 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。

H-19HP-2 覆土1層：暗灰褐色土、En-aPを多く含む。

遺物 H-19HP-1は覆土からIV群c類(8)、剥片(8)、礫・礫片(2)、計18点出土した。

H-19HP-2は覆土からI群b類(1)、IV群c類(2)、計3点出土した。

土器 ともに出入口の覆土から出土したIV群c類である。1の突瘤は比較的細い工具で施される。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

建物107 (図V-151 図版103-6)

位置 f-68 Q地区北東側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 平行する一対の出入口を確認した。西側は調査範囲外にあたり、これに伴う支柱穴等は検出されていない。

出入口 H-18HP-1・2で一対を構成する。

H-18HP-1 平面形は楕円形、坑底は丸く、中央部が深い、両端は丸みをもって立ち上がる。

H-18HP-2 平面形は楕円形、坑底は丸く、中央部は楕円形に深くなる。東側はP-60を、西側はH-19HP-1を切っている。

土層

H-18HP-1 覆土1層：茶褐色土、En-aPを含む。

2 建物

H-18HP-2 覆土1層：茶褐色土、En-aPを多量に含む。

遺物 H-18HP-1は覆土からIV群c類(8)、つまみ付ナイフ(1)、剥片(1)、礫・礫片(1)、計11点出土した。H-18HP-2は覆土からIV群c類(8)、礫・礫片(1)、計9点出土した。

土器 ともに出入口の覆土から出土したIV群c類である。4は小形の口縁部破片。5は、平行沈線部分には縄文が施されるが、摩耗が激しい。突瘤は施文後に左右にしっかりつぶされる。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

建物108 (図V-152)

位置 e-68 Q地区北東側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 平行する一対の出入口を確認した。西側は調査範囲外にあたり、これに伴う主柱穴等は検出されていない。

出入口 H-20HP-1・2で一対を構成する。

H-20HP-1 平面形は楕円形、坑底は丸く、中央部がやや高い。

H-20HP-2 西側は調査範囲外で全形は不明である。調査した部分の平面形は楕円形、坑底は丸く、中央部がやや深い。

土層

H-20HP-1 覆土1層：茶褐色土、En-aPを含む。

H-20HP-2 覆土1層：茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

建物109 (図V-152)

位置 e-69 Q地区北東側に位置する。

規模 -×- 外周 -×-

特徴 東側の狭まる一対の出入口を確認した。これに伴う主柱穴等は検出されていない。

出入口 H-21HP-1・2で一対を構成する。

H-21HP-1 平面形は楕円形、坑底は丸く、中央部に丸い窪みをもつ。西側は斜めに立ち上がるが他は丸く立ち上がる。

H-21HP-2 平面形は楕円形、坑底は丸く立ち上がる。深度耕作で確認面が下がり、遺構の深さの違いのためか、1より浅く小さい。

土層

H-21HP-1 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

H-21HP-2 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 H-21HP-1は覆土から剥片(1)出土した。

時期 遺構の形態から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

建物110 (図V-152)

位置 k・1-56

規模 -×- 外周 -×-

特徴 現場段階で確認した。一対の出入口のみである。この周辺は、耕作によりⅧ層まで攪乱を受けており、この出入口も上部の大部分が削平されてしまい、坑底付近のみが残存していたものと思われる。これ隣接して建物30が位置しており、検出当初、付近の柱穴状ピットについて、本出入口に付属するものと考えH-2として調査を進めたが、検討の結果、この出入口に付属するものはないと判断した。すべて削平され、消失しまったものと思われる。

主柱穴 検出されなかった。

出入口 H-2 HP-24・23からなる。ともに大部分が耕作により消失しているため、詳細は不明である。

H-2 HP-24 残存部からは、平面形は楕円形～長楕円形になるものと思われる。坑底は平坦で、緩やかに立ち上がるようである。

H-2 HP-23 平面形は楕円形になるものと思われる。坑底は小さく平坦で、緩やかに立ち上がるようである。

土層

H-2 HP-24 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

H-2 HP-23 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

遺物 H-2 HP-24・23ともに遺物は出土していない。

時期 形態から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。

(柳瀬由佳)

3 墓壙

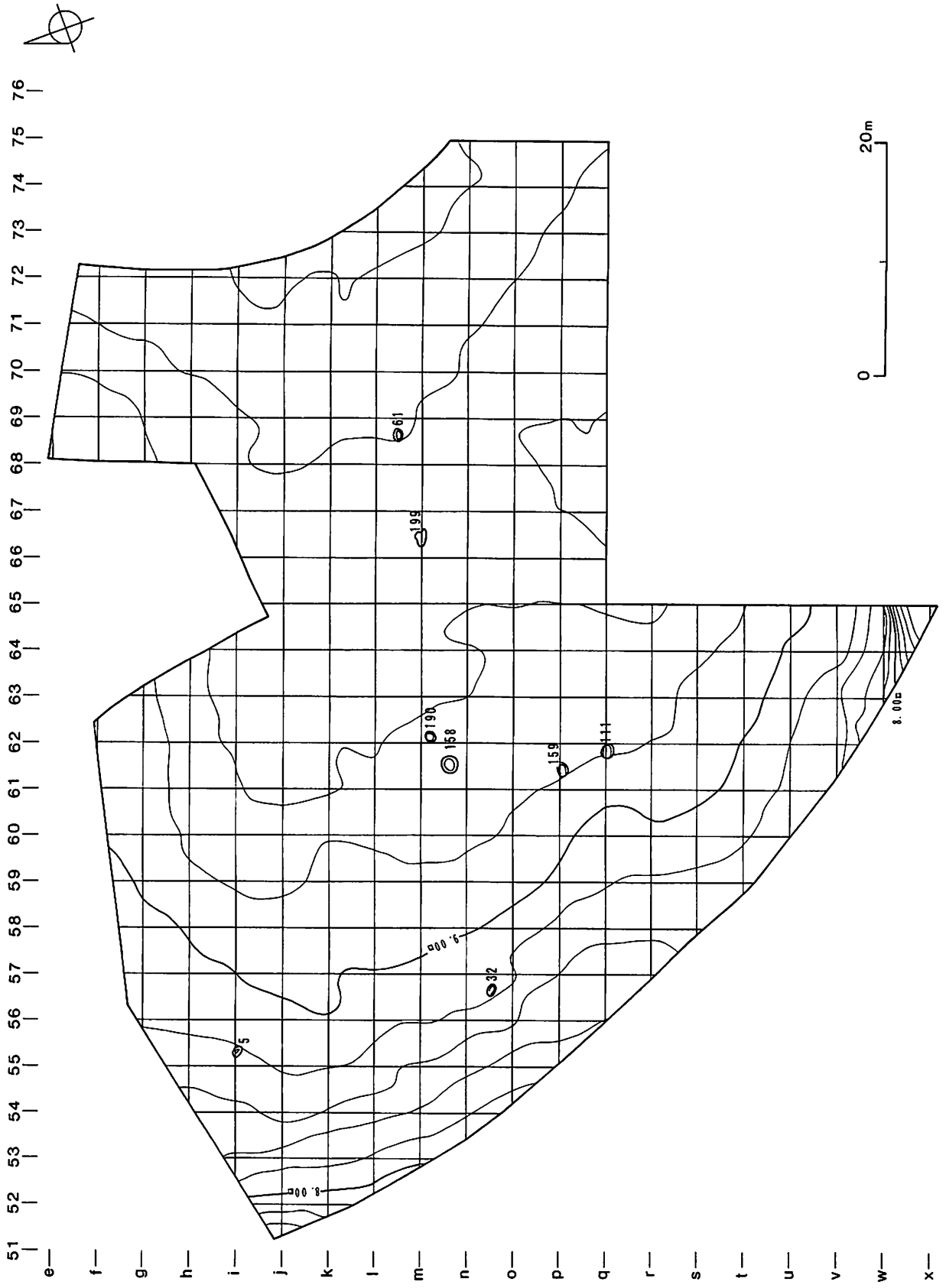


图 III-5 墓壙配置

3 墓墳 (図V-154~156 図版47-4~図版50・図版104-1)

墓墳は、8基 (P-5・32・61・111・158・159・190・199) 検出された。平面形は、隅丸長方形、楕円形、卵形のものがある。分布は、調査区全体から散在的に検出され、東側寄りにややまとまりが認められる程度である。人骨の残存状況が比較的良好で埋葬姿勢がわかるもの (P-32) も認められたが、ほとんどは、墳底に赤色顔料 (ベンガラ) や遺体層が認められたにすぎない。

いずれも副葬品が認められず、遺物は、P-111を除き、覆土から少量の土器片、剥片、礫・礫片が少量出土している程度で、明確な時期を特定できなかった。

P-5 (図V-154 図版47-4)

位置 h・i-55 長軸方向 N-136° - E

規模 1.08/0.62×0.68/(0.35)×0.91

特徴 攪乱がⅧ層まで及んでいたため、表土除去後の清掃中に、ローム質土を含む暗黄褐色土の落ち込みをⅧ層中で確認した。長軸方向にセクションを設定し、南西側を半截した。墳底付近に黒色土を含む暗赤褐色パミス、その下位に暗黄褐色土、黒色土を含まない暗赤褐色パミスの堆積が認められた。その後、隣接した部分を層位確認のために深掘りを実施した結果、Ⅷ層中 (En-aP中) にP-5で認められた黒色土を含まない暗赤褐色土の堆積が同じレベルに認められ、このような層が広く分布することが確認された。したがって、南西側が掘り過ぎであることが判明し、墳底はその上位の暗黄褐色粘質土であることが判った。平面形は北西-南東に長軸をもつ、隅丸長方形である。墳底は南西側が掘り過ぎのため不明であるが、長円形になるものと考えられる。墳底直上に黒色土を含む暗赤褐色パミスが認められ、同層について脂肪酸分析を実施した (第Ⅷ章3節参照)。壁は平坦な墳底から開き気味に立ち上がる。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPにEn-aLが混じる。覆土2層：En-aP層、En-aPにブロック状の黒色土が混じる。覆土3層：黒色土、径1~3cmのEn-aPを多量に含む。覆土4層：En-aP層、覆土2層に類似。En-aPにブロック状の黒色土が混じる。覆土5層：黒色土、En-aPを少量含む。覆土6層：En-aP層、En-aPにブロック状の黒色土が混じる。覆土7層：暗褐色土、径1~2cmのEn-aPを含む。覆土8層：赤褐色パミス層、覆土9層に類似。地下水による酸化したEn-aPが主体。少量の黒色土を含み、粘性強い。覆土9層：赤褐色パミス層、覆土8層に類似。地下水による酸化したEn-aPが主体。黒色土を含まない。覆土10層：黄褐色粘質土、En-aLに類似。覆土11層：赤褐色パミス層、覆土8層に類似。地下水による酸化したEn-aP層。掘り過ぎ。

遺物 覆土からⅣ群c類 (4)、フレイク (4)、計8点出土した。

時期 縄文時代後期後葉と思われる。

(熊谷仁志)

P-32 (図V-154 図版47-5~図版48)

位置 n-56 長軸方向 N-136° - E

規模 0.96/0.76×0.56/0.45×0.63

特徴 Ⅶ層からⅧ層で検出した。平面形が楕円形を呈する墓墳である。

Ⅶ層下位~Ⅷ層で、En-aPを多く含む暗褐色土のまとまりとして確認した。覆土の上半はEn-aPを多く含む灰褐色系土、下半はEn-aP主体層である。墳底付近で、遺体層と思われる灰褐色のべっとりした土層と、人骨と思われる、ねっとりした白色の物質を検出したことから、墓墳と判断した。

墳底はほぼ平坦で、立ち上がりは概して緩やかである。壁は垂直に近いが、東側では中程までオー

3 墓壙

バーハングする。

壙底で遺体層および人骨を検出した。人骨の残存状況は比較的良好で、特に頭骨部分と下肢部分が比較的明瞭に認識でき、頭位は北西、埋葬姿勢は屈葬であることを確認した。頭骨部分は、検出できた部分では、頭骸冠の球形の形状を保っているようであった。下肢部分は、大腿骨、脛骨などと思われる骨が並列して認められた。また、頭骨からやや離れた位置で、調査中に歯を検出したが、エナメル質が膜状に残存していたのみで非常にもろく、同定・分析することはできなかった。顔の向きは明確ではないが、歯が頭骨の左寄りから検出されていることから、南側を向いていた可能性がある。副葬品は出土しておらず、覆土からも遺物は出土していない。また、遺体層の上面で数片の炭化物を検出したため、¹⁴C年代測定を行った（第VII章3節参照）。

遺体層および人骨を検出した段階で、伊達市教育委員会の大島直行氏、札幌医科大学の乗安整而氏に実見していただいたところ、北西側が頭部、南西側は下肢の部分であろうこと、下肢部分では、北・南の両端に位置している残存状況のよいものが大腿骨、これに平行するように位置している部分が脛骨および腓骨であるだろうこと、南東端部に骨盤が位置していたであろうこと、などの所見をいただいた。またこの時点で、頭骨がさらに遺体層中に残存し、球状の頭蓋冠の形を保っている可能性が指摘された。そこで、頭部を検出状況を保ったまま発泡ウレタンで保護して切り取りを行い、乗安整而氏のもとで検出および分析を依頼することとした。しかしながら、その結果、調査時に検出した以上の人骨は検出されなかった。

土 層 覆土1層：暗灰褐色土、しまりあり。やや粘性あり。多量のEn-aPを含む。覆土2層：灰褐色土、En-aP主体で、灰褐色土が多く混入。しまり悪い。覆土3層：暗黄褐色土、しまりなく、ポロポロ。En-aP主体で、ごく少量の暗黄褐色土が混入。覆土4層：灰褐色土、遺体層。

遺 物 覆土混入、副葬品ともに出土していない。

時 期 形態・長軸方向などの本遺跡内の他の墓壙との比較から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。また、¹⁴C年代測定の結果、以下の値が得られた（第VII章3節参照）。

補正¹⁴C年代3770±40BP

これは、形態等から予想される年代よりはやや古いが、大きくは矛盾しないといえる。（第VII章3節参照）
（柳瀬由佳）

P-159（図V-154 図版49-1・2）

位 置 o・p-61 長軸方向 N-98° - E

規 模 1.14/0.92×0.80/0.69×0.74

特 徴 整地層調査後のⅧ層上面で検出した。平面形は楕円形である。SP-2291・2292と重複し、これらより古い。またSP-2390と重複するが、新旧は不明である。

整地層調査後のⅧ層上面で、En-aPを多く含む灰褐色系土のまとまりとして確認した。半截して調査したところ、壙底から赤色顔料および遺体層と思われる灰褐色土が検出されたことから、土壙と判断した。平面形は楕円形である。壙底はやや丸みがあり、立ち上がりは緩やかで、壁はほぼ垂直である。北東側が2291・2292によって壊されるが、壙底までは至っていない。

壙底から、ベンガラと遺体層と思われる灰褐色土を検出した。人骨は検出されていない。遺体層はごく薄く、壙底の西半に偏っている。覆土は灰褐色系土にEn-aPが混入する土層で、全般にしまりは弱い。他の土壙と比較して、土壌主体でEn-aPが少ない。ベンガラと遺体層の分布状況から、頭位は南西であった可能性がある。

土層 覆土1層：暗灰褐色土、しまりあり。多量のEn-aPを含む。覆土2層：灰黄褐色土、しまりやや弱い。多量のEn-aPを含む。覆土3層：暗灰褐色土、しまりやや弱い。多量のEn-aPを含む。覆土4層：暗灰褐色土～黒褐色土、しまり弱く、ぼそぼそ。En-aPを含む。覆土5層：灰黄褐色土、しまりなく、ポロポロ。En-aP・ブロック状の暗褐色土を含む。覆土6層：灰褐色土、しまり弱い。En-aPを含む。覆土7層：灰褐色土、しまりなく、ぼそぼそ。En-aPを含む。覆土8層：暗褐色土、しまりなく、ぼそぼそ。En-aPを含む。覆土9層：暗灰褐色土、しまり弱い。少量のEn-aPを含む(遺体層?)。覆土10層：灰褐色土、ベンガラが少量混入し、赤みがかかる。遺体層。

遺物 覆土への混入・副葬品ともに出土していない。

時期 平面形・覆土の状況から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期、あるいはそれよりやや古いものと思われる。(柳瀬由佳)

P-111 (図V-155 図版49-3・4・図版104-1)

位置 g-62・63 長軸方向 N-117° - E

規模 1.32/1.16×1.16/0.78×0.96

特徴 平面が楕円形を呈する土壇である。Ⅷ層の上面で黒褐色土の落ち込みを確認し調査を行った。覆土は黒褐色または暗褐色のEn-aPを主体とする上位の土壌と、黒褐色の腐植土が主体となる下位の土壌とに大きく別れる。堆積の状況から埋め戻しの可能性が高い。壁はほぼ垂直に立上り、壇底はほぼ平坦であるが、南東側の底面には段がある。壇底の中央部にはマウンド状に黒色土が堆積し、その西側には赤色化したEn-aPの広がりがある。マウンド状の黒色土から炭化物等は検出されなかった。また、壇底面の2ヵ所の土の残存脂肪酸分析を行った(第七章2節参照)。

土層 覆土1層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗赤褐色土、Ⅷ層相当の埋め戻し。覆土3層：黒褐色土、Ⅷ層相当の埋め戻し。覆土4層：暗褐色土、Ⅷ層相当の埋め戻し。覆土5層：褐色土、Ⅷ層相当の埋め戻し。覆土6層：灰褐色土、Ⅷ層相当の埋め戻し。覆土7層：にぶい赤褐色土、Ⅷ層相当の埋め戻し。覆土8層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土9層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土10層：褐色土、腐植土、粘性高くしまり弱い。覆土11層：黒褐色土、腐植土、粘性高い。

遺物 覆土上位の黒褐色土からI群b類(2)、IV群c類(3)、剥片(4)、石斧(2)、覆土中位からIV群c類(2)、剥片(2)、壇底から剥片(2)、計17点出土した。

土器 1～4は取り上げ覆土1層から、5は取り上げ覆土2層から出土したものである。1・2はI群b類。1は短縄文と組紐圧痕文が施される胴部破片。2は張り出す底部で、短縄文が施される。3～5はIV群c類。4の突瘤部は、施文後におしつぶされる。

石器 6は石斧で、覆土1層から出土した。剥離による粗割の後、敲打を加えて形成される。材質は緑色泥岩。

時期 覆土中の遺物と確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。

(笠原 興)

P-158 (図V-155 図版49-5～7)

位置 m-61 長軸方向 N-78° - E

規模 1.29/1.50×1.11/1.34×1.03

特徴 整地層調査後のⅧ層で検出した。フラスコ状の土壇である。

SP-3801・3804・3805・3911と重複し、これらよりも古い。また、SP-3910と重複し、これより

3 墓壙

も古いものと思われる。

整地層調査後のⅧ層で検出した。壙底から遺体層と思われる暗灰褐色土～黒色土層と、ベンガラと思われる暗赤褐色土を検出したことから、覆土の状態も合わせて、墓壙と判断した。

開口部は卵形であるが、壙底付近は円形でオーバーハングするフラスコ状の土壙である。壙底は丸みをおび、ごく緩やかに立ち上がり、壁は底部から40cmほどで大きく内側へ屈曲して内傾する。開口部付近では一部で再び開く。

壙底から、遺体層と思われる暗灰褐色土～黒色土層と、ベンガラと思われる暗赤褐色土を検出した。ともに非常に薄く、遺体層は壙底のほぼ全面に広がっている。頭位は、比較的ベンガラが多く分布している東から南の可能性もあるが、不明である。

土層 覆土1層：暗灰褐色土～褐色土、しまりやや弱い。En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、しまりあり。ごく大量（土壌とほぼ同量）のEn-aPを含む。覆土3層：黒色土、しまり弱い、粘性あり。覆土4層：黄褐色土、しまりやや弱い。ごく大量（土壌とほぼ同量）のEn-aPを含む。覆土5層：暗灰褐色土、しまり・粘性あり。多量のEn-aPを含む。覆土6層：黒色土、しまり弱い。粘性あり。覆土7層：黄褐色土、しまり弱い。ごく大量（土壌とほぼ同量）のEn-aPを含む。覆土8層：灰黄褐色土、En-aP主体。しまり弱い。覆土9層：明黄褐色パミス：～1cmほどの細粒のEn-aP主体。しまりない。覆土10層：暗灰褐色土、しまりなく、ボソボソ。大量の細粒のEn-aPを含む。覆土11層：暗赤褐色土、ベンガラと思われる。覆土12層：暗灰褐色～黒色土、粘性あり。遺体層。

遺物 出土していない。

時期 検出層位・形態などから、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期、あるいはやや古い可能性がある。（柳瀬由佳）

P-190（図V-156 図版50-1・2）

位置 m-62 長軸方向 N-70°-E

規模 0.93/0.87×0.70/0.73×0.98

特徴 整地層調査後のⅧ層で検出した。楕円形で、壙底近くが膨らむフラスコ状の土壙である。SP-3802・3803と重複し、これらより古い。

整地層調査後のⅧ層で、灰褐色土のまとまりとして検出した。壙底で遺体層と思われる暗灰褐色土～黒色土およびベンガラを検出したことから、覆土の状態と合わせて、墓壙と判断した。

平面形は楕円形である。壙底は平坦で、立ち上がりはやや緩やか。壁は壙底付近で膨らみ、内傾して開口する。覆土は、上半はしまりのある土壌主体層、下半はしまりのないパミス主体層である。頭位は、ベンガラが比較的厚く分布している北東の可能性はあるが、不明である。

土層 覆土1層：灰褐色土～暗灰褐色土、しまり・粘性あり。大量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、しまりなく、ボロボロ。多量のEn-aPを含む。覆土3層：黄褐色～灰黄褐色パミス：しまりなく、ボロボロ。少量の黄褐色土～灰黄褐色土が混入する。

遺物 覆土から、IV群a類（1）、IV群c類（5）、剥片（6）、礫・礫片（4）、計16点が出土しているが、いずれも埋め戻しの際に土に混入した細片と思われる。副葬品は出土していない。

時期 検出層位・形態などから、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期よりもやや古いものと思われる。（柳瀬由佳）

P-61 (図V-156 図版50-3・4)

位置 1-68 長軸方向 N-110° - E

規模 1.01/0.76×0.72/0.38×0.10

特徴 深度耕作がⅦ層に達していたためこれより上を重機で除去した。確認はⅦ層中、検出面からの深さ10cm程度である。平面形は楕円形、壙底は平坦で丸みをもって緩やかに開いて立ち上がる。壙底にベンガラと思われる赤色物質が敷き詰められその上はローム質の覆土である。このような覆土のあり方は墓壙にみられることから本遺構も同様に墓壙の壙底部と考えられる。

土層 覆土1層：暗黄褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色粘質土、En-aPを含む。覆土3層：赤紅色土、En-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 遺構の形態から縄文時代後期と考えられる。 (谷島由貴)

P-199 (図V-156 図版50-5)

位置 1・m-66 長軸方向 N-103.6° - E

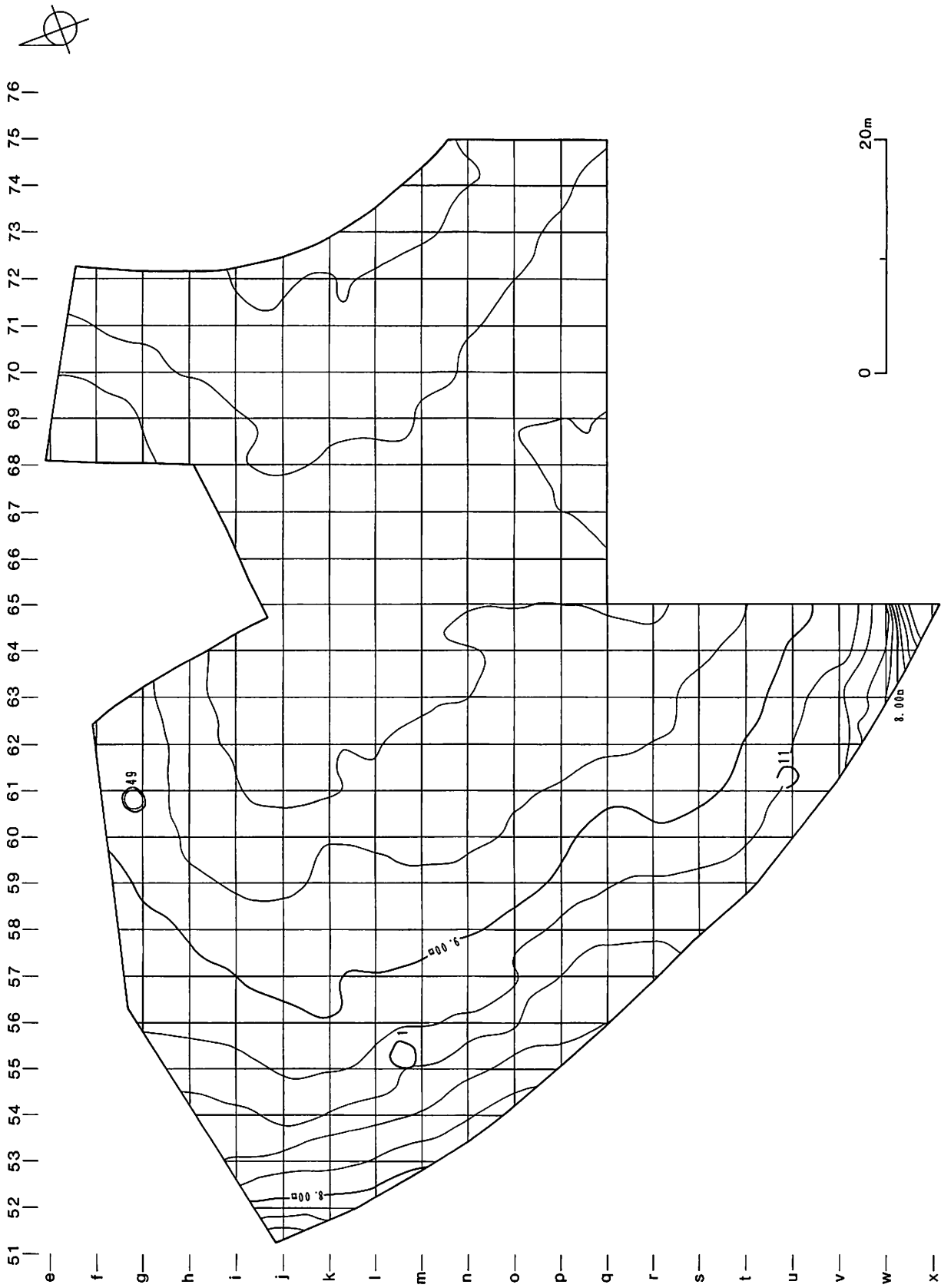
規模 (1.30)/(1.09)×0.93/0.46×0.14

特徴 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は不整形で、断面は浅い皿形である。P-167に切られる。検出面からの深さは10cm程度で、削平された部分を考慮しても、掘り込み面からの深さは30cm程度であろう。埋土は暗い赤褐色土で、最初は土壌ではなく焼土かと考えたが、掘り込みが明確なこと、埋土が明らかに埋め戻し土であることから、焼土またはベンガラを埋納したものと判断した(分析依頼中である)。

土層 覆土1層：極暗赤褐色～暗赤褐色土、粘質の赤色鉱物主体で、En-aPを少量含む。

遺物 出土していない。

時期 不明。 (柳瀬由佳)



図III-6 フラスコ状ピット配置

4 フラスコ状ピット (図V-158~168 図版51~図版53-3・図版104-2~図版111)

フラスコ状ピットは、3基 (P-1・11・49) 検出された。分布は、調査区全体から散在的に検出され、しいていえば段丘崖に沿って検出されている。平面形は円形~楕円形で、規模は2m前後である。遺物は、いずれも坑底付近の10~20cm程の覆土下位は少なく、覆土中位から上位かけてまとまって出土し、土器の共伴関係を知る多くの復原土器が得られている。また、P-1の覆土中の焼土層からは、多くの獣骨・魚骨の焼骨と共に焼けていない人骨と思われる小骨片が検出されている。

P-1 (図V-158~163 図版51-1~5・図版104-2~108-1)

位置 1-54・55 長軸方向 N-88° -E

規模 2.50/2.23×2.10/2.10×1.11

特徴 この周辺は、耕作によりⅧ層まで攪乱されていたため、検出面は、I層除去直後のⅧ層である。平面形が円形を呈するフラスコ状ピットである。

I層除去後のⅧ層で、暗褐色土の大きなまとまりとして確認した。平面形はほぼ円形で、東側で一部舌状の張り出しをもつ。坑底はほぼ平坦で、立ち上がりは緩やか、坑底付近~中程に最大幅をもち、そこから内傾し、開口部で若干開く。

覆土は、盛土遺構に類似する上位の土層と、それより下位の埋め戻しの層に分かれる。盛土遺構に類似するのは土層断面の覆土1・2層で、土色と遺物量から、盛土遺構の一部、あるいは盛土遺構構築時埋め戻しである可能性もあるが、盛土遺構との接点がないため明確ではない。埋め戻しの層は土層断面の覆土3層以下で、大きく、以下の4つに分かれる。(1) 暗褐色土~黄褐色土で、En-aPを大量に含む。本地区の他の遺構の覆土に類似する。遺物は少ない(土層断面の覆土3、5・6、9層、取り上げ層位の覆土2、4層)。(2) 黒褐色土~暗褐色土で、En-aPはごく少量しか含まない。焼土や炭化物層を含む。遺物を多量に含む(土層断面の覆土4、7・8・10・11、13・14・15、取り上げ層位の覆土3、5、7層)。(3) 焼土層。周囲の土層との区別が明瞭で、凹凸が激しい部分があることから、他の場所で焼成されたものが、本土坑中に廃棄されたものと思われる。遺物は多い(土層断面覆土12層、取り上げ層位覆土6層)。(4) 坑底を覆う、En-aP主体層。遺物はほとんど含まない(土層断面覆土16~20層、取り上げ層位覆土8層)。このうち(1)~(3)で互層をなす。(1)は、他の遺構の掘り上げ土の可能性もある。

遺物は、2,152点出土しているが、前述のとおり、盛土遺構に類似の覆土の上層と、En-aPをあまり含まない中層の(2)の土層に集中する傾向にある。坑底を覆う(4)の土層からは、ごく少量しか出土していない。各層位に共通して土器が8割程度を占める。土器では、IV群b-4類およびIV群c類がほとんどで、他の時期のものは埋め戻しの際の混入であろう。土器は多くは比較的小さい破片であるが、復原できるものや、ややまとまって出土した大破片になるものもあった。しかし、これらも広範囲に散在して出土するものが多かった。石器は大部分が剥片および礫・礫片で、成品は非常に少ない。

覆土の各層から骨片が出土しており、肉眼で確認できたものを取り上げた。また、覆土4層中の焼土はフローテーション処理を行い、骨片を検出した。これらについて同定を依頼したところ、ほとんど全点が被熱しており、哺乳綱のものおよびニホンジカと同定された。しかし、唯一被熱していないとされた、取り上げ覆土6層(土層断面12層)から出土した骨は人骨である可能性が高いと同定され、本遺構は墓の可能性があると指摘を受けている(第七章5節参照)。

土層 覆土1層:暗褐色土、En-aPを含む。覆土2層:褐色土、En-aPおよび赤褐色のパミスを含む。

4 フラスコ状ピット

ともに0.1cmほどのごく細粒。ごく少量の炭化物を含む。覆土3層：暗褐色土、土壌と同量のEn-aPを含む。覆土4層：暗褐色土、En-aPを含む。層状の焼土がまばらに混入。廃棄されたものと思われる。覆土5層：暗黄褐色土～褐色土、En-aP主体で、暗黄褐色土が混入する。ごく少量の炭化物を含む。覆土6層：暗黄褐色土、土壌と同量のEn-aPを含む。覆土7層：黒褐色土、少量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土8層：暗褐色土、En-aPを含む。炭化物が層状に混入する。覆土9層：暗黄褐色土、土壌と同量のEn-aPを含む。覆土10層：黄褐色土、En-aPを含む。覆土11層：暗褐色土、En-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土12層：赤褐色～暗赤褐色焼土、よく焼けている。炭化物を少量含む。平面・断面の境界が明瞭で、他の場所で被熱した焼土が廃棄されたものと思われる。覆土13層：黒褐色土、少量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土14層：明黄褐色土、En-aPと、Ⅶ層起源のローム層がほぼ同量で混合する。覆土15層：黒褐色土。覆土16層：暗灰褐色土、土壌と同量のEn-aPを含む。覆土17層：黄褐色ロームブロック：少量のEn-aPを含む。覆土18層：暗黄褐色土、En-aP主体で、少量の暗黄褐色土が混入する。上面に部分的に層状の炭化物が混入。覆土19層：暗赤褐色土、赤みがかったEn-aP主体で、少量の暗赤褐色土が混入する。覆土20層：暗灰褐色土、En-aP主体で、少量の暗灰褐色土が混入する。

なお、遺物の取り上げ層位と断面図の土層との対応は、おおよそ以下のとおりである。取り上げ覆土1層：断面図覆土1・2層、取り上げ覆土2層：断面図覆土3層、取り上げ覆土3層：断面図覆土4層、取り上げ覆土4層：断面図覆土5・6層、取り上げ覆土5層断面図覆土7・8・10・11層、取り上げ覆土6層：断面図覆土12層、取り上げ覆土7層：断面図覆土13・14・15層、取り上げ覆土8層：断面図覆土16～20層。

遺物 覆土の各層位合計で、Ⅰ群b類(2)、Ⅱ群a類(1)、Ⅲ群b類(8)、Ⅳ群a類(3)、Ⅳ群b-4類(66)、Ⅳ群c類(1,721)、石鏃(5)、ドリル(3)、スクレイパー(2)、Rフレイク(1)、石核(1)、剥片(184)、石斧(3)、たたき石(1)、石皿・台石(19)、礫・礫片(128)、土製品(3)、石製品(異形石器)(1)、計2,148点が出土している。坑底付近からは出土していない。

土器 6～23はⅣ群b-4類。口唇断面はほとんどが切出形である。6～12は口唇直下に刻み列がめぐり、突瘤が施されないもの。6はくびれのある深鉢と思われる。12は緩やかな波状を呈し、3列の刻み列がめぐり、内面から口唇端部にかけてのケズリ調整が顕著である。13・14は口唇直下に刻み列と突瘤がめぐり、15はくびれのある小形の鉢と思われる。無文部を挟んで、刻み列が多段に施される。16は口縁部に2本の並行沈線がめぐり、その間に断面円形状の工具による刺突列が加えられる。胎土には小礫が非常に多く含まれる。17・18は刻み列が施されたくびれのある深鉢。17は胴部に弧状の沈線とすり消しによる文様が施される。19・20は刻み列が施される注口の破片。19は刻み列上に貼瘤が施される。20は刻み列によって文様を構成するようである。21～23は文様・胎土などからⅣ群b-4類とした。いずれも鉢あるいは深鉢の胴部破片である。21は帯縄文が施される。胎土には砂粒は少ない。22は連続する木葉形の文様が施される。胎土に混入する砂粒は少ない。23は大形の深鉢の破片である。連続する木葉形の文様が施される。縄文は主に充填されている。胎土には砂粒を含む。

1～4および24～62はⅣ群c類。1～4はいずれも、主に覆土から出土した破片が接合・復原されたものである。1は主に覆土中層から出土した破片が接合した。くびれのある大形の深鉢である。口縁を欠損する。底部際まで残存するが、底はない。体部にはやや不規則な羽状縄文のみが施される。内外ともに淡黄色を呈する。2は覆土上層から出土した破片が接合したものである。くびれのある大形の深鉢で、底部は欠損する。口唇断面はほぼ角形であるが、口唇端部に縄文が施されたために変形

している。地文には斜行縄文が施される。口縁部には平行沈線と突瘤が巡り、突瘤は施文後につぶされる。くびれには、上下を2本一組の平行沈線で区画された無文帯をもつ。内面の上半には炭化物が厚く付着する。内外ともに褐色から暗褐色である。3は覆土中層から出土した破片9点が接合した。底部は一部を残して欠損するが、完形に近い。5単位の波状口縁を呈する小形の鉢である。下半部は筒型で、上半が大きく開く器形である。口唇断面は切出形。器表には斜行縄文のみが施される。内面は丁寧に調整されるが、器表には輪積の痕が凹凸として残る。内外ともに橙色や黒褐色を呈する。4は覆土中層から出土した破片14点が接合した、無文の浅鉢である。口唇断面は切出形。底面に、尖頭状の工具による不規則な沈線が認められる。意図的なものではない可能性もある。内外ともに褐色である。5は覆土上層から出土した破片とm-55のV b層から出土した破片が接合した、小さな無文の浅鉢である。内外ともに褐色を呈する。

24~62の口唇断面は、主に切出形あるいは角形である。24~29は弧状や鋸歯状の沈線が施されるもの。24は浅鉢で、充填縄文により、入組状の帯縄文が施される。26も浅鉢で、細い沈線がコンパス文風に施される。内面全面に炭化物が薄く付着する。口唇断面は外傾する角形。27・28はイナズマ状の沈線が施されるもの。29は山形沈線が施される底部付近の破片。30・31は平行沈線が施されるもの。31は胴部には斜行する沈線が施される。32~41は縄文地に突瘤のみが施される口縁部破片。36の縄文はまばらである。39・40は同一個体。40の突瘤は施文後に上下につぶされている。42は無文地に突瘤のみが施されるもの。43は小さな鉢と思われる、無文地に突瘤が巡り、沈線による文様が施される。波頂部は縦に深い刻みが加えられる。44~51はほぼ縄文のみが施される口縁部破片。44は平縁に一条の波状沈線がめぐる。49は緩やかな波状口縁を呈するようで、波頂部の口唇段端部には縄文が施される。50は表面全体に炭化物が薄く付着する。51は無文の口縁部破片。53~55は胴部破片。55は内面にも縄文が施される。56~59は注口の破片。56は6単位の貼瘤が施されるようである。すり消しによる木葉形の文様が施される。58は内面調整が粗雑で、指の痕や指紋が明瞭に残る。59は注口の剥落痕が認められる。60は注口と思われるが、斜位の刻み列や灰色で混入物を含まない胎土、丁寧に光沢のある表面調整などから、東北地方からの搬入品の可能性が高い。縄文はみられない。61・62は底部。61は底面まで縄文が施される。63はスタンプ形土製品。軸のみで、版面は欠損している。貫通孔が開けられている。64は焼成粘土塊。背面には指でこねた痕跡のような指紋が残り、腹面には棒状工具の圧痕のような痕跡が認められる。

石器 65~68は石鏃。65・66は2 a類で、66の茎部は欠損する。67・68は2 c類。69は異形石器と称されるもの。70は石斧の原材と思われるもの。側縁部に擦り切り痕が認められる。

時期 出土遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の時期である。(柳瀬由佳)

P-11 (図V-164 図版51-6~52-3・図版108-2)

位置 t・u-61 長軸方向 N-160°-E

規模 1.69/1.74×1.62/1.68×0.56

特徴 平面が円形を呈するフラスコ状の土坑である。Ⅷ層の上面で楕円形に広がる黒褐色土の落ち込みを確認した。東西と南北方向に土層観察用のベルトを設定し、調査を行った。その結果、北側に重複するもう一つの土坑を検出し、これをP-12とした。覆土は黒褐色または暗褐色のEn-aPを主体とする土壌で構成され、堆積状況から11が12を壊して構築していることがわかった。覆土は埋め戻しの可能性が高い。壁は坑底付近からオーバーハングし、坑口付近で開きながら広がる。坑底はほぼ平坦であるが、北側にはやや凸凹がある。また、覆土の上位から採取した炭化材に対して放射性炭素年代

4 フラスコ状ピット

測定を依頼し、以下の結果を得た（第VII章3節参照）。

補正¹⁴C年代 3290±40BP

土層 覆土1層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土3層：暗赤褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土4層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土5層：黒色土、少量のEn-aPを含む。覆土6層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土7層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 覆土上位からⅡ群a類（1）、Ⅲ群b類（1）、Ⅳ群b-4類（11）、Ⅳ群c類（134）、石鏃（1）、Rフレイク（1）、石斧（1）、たたき石（1）、覆土中位よりⅣ群c類（11）、坑底付近からⅠ群b類（1）、Ⅱ群a類（1）、Ⅳ群c類（11）計175点出土した。

土器 1はⅡ群a-1類で床面から出土した。条のなかの節がすり消されている。2～4はⅣ群b-4類で覆土1層から出土した。2は口縁部の破片で、平縁に二つの突起をもち、縦位の刻みと突瘤の間には沈線がめぐる。地文は羽状縄文である。3は口縁の破片。口唇断面は切出形で、2本の沈線を横環させ、沈線で区画された中には縦位の刻みが施される。器面・口唇・内面は平滑である。胎土にはわずかに小礫を含む。4はわずかに残る刻みと直線的なイナズマ状の沈線が描かれる。5はⅣ群c類で床面から出土した。羽状縄文に直線的な沈線がみられる。胎土にはわずかに小礫を含む。6～11は覆土1層から出土した。6は接合資料である。口唇部は切出形で口縁に沿う沈線と突瘤があり、曲線的文様で構成される。中央部に木葉状沈線が描かれる。内面には横ナデ調整痕が明瞭である。7～10は口縁部の破片で、7は突瘤と数本の並行する沈線が描かれる。8・9は縄文地に突瘤が施される。10は突起をもち、内面の横ナデ調整痕が明瞭である。11は浅鉢の接合資料で、胎土には砂粒を多く含む。

時期 覆土中の遺物と確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。

（笠原 興）

P-49（図V-165～168 図版52-4～53-3・図版108-3～図版111）

位置 f・g-60・61 長軸方向 N-157° - E

規模 1.99/2.32×1.83/2.25×0.74

特徴 盛土層の精査中に褐色土の落ち込みを確認する。SP-4117・4118・4066・4153・4156と建物46の支柱穴であるSP-4170と重複が認められるが、前後関係は不明である。北西-南東にセクションを設定し、南西側を掘り下げた。遺物は、覆土1層から覆土6層から出土し、覆土6層下位（覆土7層上面）からは大形破片がまとまって出土した。覆土7層は厚い堆積層をもつが、遺物はほとんど認められなかった。平面形は円形である。坑底は平坦で、壁は壁上半部で、オーバーハングして立ち上がるフラスコ状である。坑底直上から下方に延びた袋状のピットが2カ所確認された。封土はぼそぼその黒色土が認められた。キツネなど少動物の巣穴と考えられ、覆土中から明確な掘り込みが認められなかったこと、壁に認められる坑口部が狭く袋状であることから、本土坑が埋まる前からあったものと考えられる。

土層 覆土1層：褐色土、径1cmほどのEn-aPを少量含む。しまり良い。覆土2層：明黄褐色土、En-aP層（崩落土）。覆土3層：褐色土、覆土1層と同質。覆土3層：暗黄褐色土、径1～2cmほどのEn-aPを多量に含む。覆土4層：褐色土、少量のEn-aP・炭化物が混じる。多量の遺物が出土している。覆土5層：褐色土、少量のEn-aP、多量の炭化物が混じる。覆土6層：褐色土、少量のEn-aPが混じる。粘性が強くしまり良い。多量の遺物が出土している。覆土7層：暗黄褐色土、砂粒・径1～3cmほど

のEn-aPを多量に含む。ぼそぼそ。

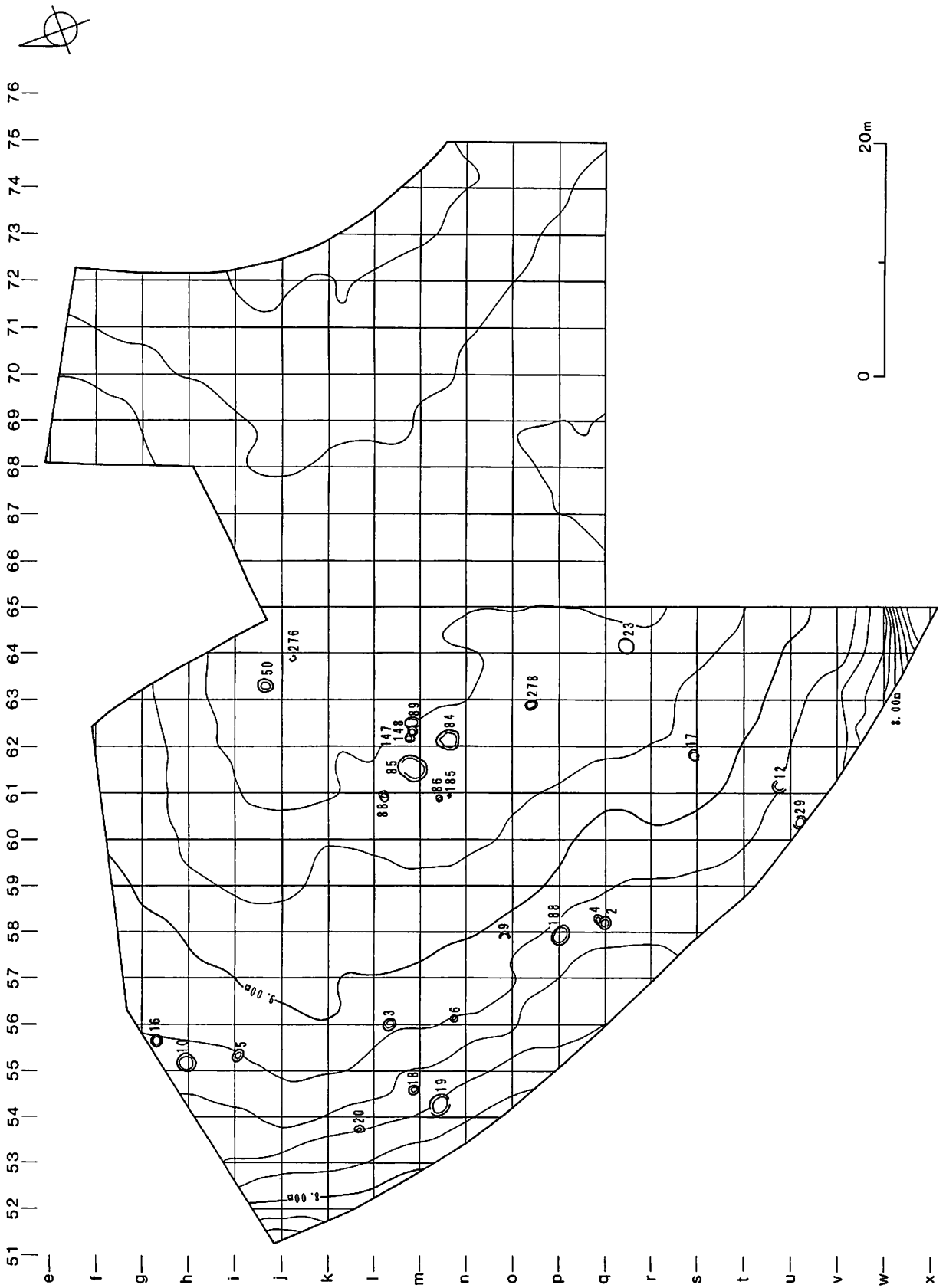
遺物 覆土からI群(2)、IV群a類(9)、IV群b-4類(33)、IV群c類(709)、不明(1)石鏃(1)、ドリル(1)、剥片(85)、石斧(5)、たたき石(5)、砥石(2)、礫・礫片(27)土製品(1)計880点出土した。遺物は覆土2層・覆土6層から多量に出土した。覆土2層の土器片は小破片が多く、覆土6層は大形破片の状態を面をもった状況で出土し、あたかも短時間に廃棄したように思われる。

土器 6～8はIV群a類。6はタブコブ式。胎土には砂粒や小礫を多く含む。6は口縁部付近の破片と思われる。幅広で無文の貼付帯をもち、その下位から縄文が施される。内面にも縄文が施され、ともに、施文後になでつけられている。7は口縁部破片で、内面は剥落している。角形の口唇端部と、表面に縄文が施される。8は内面が剥落している。現存で3段の刺突列が施される。P-84から、これに類似した口縁部破片が出土している(図V-172-7)。

1・2・3・6・14・15・27・36・42・44・47は、覆土の中層から、比較的まとまって出土したものである(図V-163・165)。9～21はIV群b-4類。口縁部破片の口唇断面はいずれも切出形である。9はIV群b-2類の可能性もあるが、切出形の口唇断面から、IV群b-4類とした。口唇端部から器表面にかけての横位のケズリ調整が顕著である。10・11は口唇直下に刻み列がめぐり、突瘤をもたないもの。12～14は口唇直下に刻み列と突瘤がめぐるもの。14は内面に炭化物が厚く付着する。15～23は刻み列が施される胴部破片。15～17はくびれのある深鉢。18は注口の肩の破片。19～20はミニチュアの注口で、同一個体。弧状あるいは木葉形の沈線とすり消しが施される。

1～5、22～47はIV群c類。1～5はいずれも覆土から出土した破片が接合し、復原された。1は主に覆土1層から出土した破片が接合した。くびれのある深鉢である。口唇断面は丸みのある切出形。口縁には沈線と突瘤がめぐる。地文は羽状縄文である。上下を沈線で区画された無文帯をもつ。内外とも炭化物が付着する。器表は橙色から黄褐色、内面は黒褐色土を呈する。2は覆土6層からまとまって出土した。くびれない深鉢である。底部を欠損する。口唇断面は切出形で、比較的整った羽状縄文地に突瘤がめぐる。部分的に摩耗が激しい。内外ともに橙色を呈する。3は主に覆土6から出土した破片が接合した。1/5ほどが欠損するが、完形に近い。くびれない鉢である。口唇断面は切出形。底部はわずかに丸みを帯びる。整った羽状縄文地に突瘤がめぐる。器表面の口縁部付近と内面の広範囲に炭化物が薄く付着する。器表面は灰黄色、内面は黒色を呈する。4は覆土から出土した破片が接合した浅鉢である。底部際まで残存し、底は欠損する。口唇断面は丸形。斜行縄文地で、口縁に沈線が1条めぐる。器表は主に黒色、内面は淡黄色を呈する。5は覆土2層から出土した小さな無文の浅鉢である。つくりは丁寧。口唇断面は角形で、口縁は波状になる可能性もあるが、残存部からは明瞭ではない。底はわずかに上げ底である。内外ともに黄褐色を呈する。

22～47は、口縁部の口唇断面は切出形のものが多い。22は木葉文が施された底部付近の破片である。縄文は主に充填される。23～31は突瘤がめぐる口縁部破片。口唇断面はほとんどが切出形である。23～25は平行沈線が施されるもの。26～31は縄文地に突瘤のみが施されるもの。26の突瘤は施文後に上下につぶされる。29は口唇端部にも縄文が施される。31は小形の鉢の口縁部破片で、遺物集中L Iから出土した復原個体(図VI-34-2)と同一個体である。口縁の内面に部分的にとぎれる沈線がめぐる。32～38は突瘤が施されない口縁部破片。35は口縁部が縄文のみが施される波頂部の破片である。器表は大きく剥落しているが羽状縄文が施される。39はくびれのある深鉢。40は内面にも部分的に縄文が施される。41は焼成後に穿孔され、同心円状の擦痕が残る。43は注口の胴部で、横位の刻みが増えられた貼瘤が施される。胎土には白色などの砂粒を多く含む。44は注口部。46・47は底部で、46は



図三-7 用途不明の土坑配置

やや上げ底、47は平底である。48は焼成粘土塊である。破損しているが、本来は中央に空間のあり、筒形を呈していたものと思われる。表面には細長い葉のようなものの圧痕や、棒状の草の茎のようなものの圧痕が認められる。

なお、覆土の中層からまとまって出土した1および14について、内面に付着した炭化物を採取して¹⁴C年代測定を行い、以下の結果を得た（第VII章3節参照）。

図V-166-1 (IV群c類同) 補正¹⁴C年代 3260±40BP

図V-167-14 (IV群b-4類) 補正¹⁴C年代 3720±50BP

これらは、土器自体から予想される年代と比較して、14はやや古いと思われるが、1の値は妥当であるといえる。しかし、これらがほぼ共伴していた出土状況から、実際に2点の土器の間にこれほどの差があるとは考えにくい。

石器 49は石斧で、基部を欠損する。50はたたき石で2類。両面に斑状のたたき痕が認められる。材質は片麻岩。51は砥石で、表裏と側縁にすり面を持つ。材質は砂岩。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期 (熊谷仁志)

5 土坑 (図V-170~179 図版53-4~67-8・図版112~196)

土坑としたものには、用途不明の土坑、柱穴、ロームピットなどがある。

(1) 用途不明の土坑 (図V-170~179 図版53-4~58-5・図版112~116-1)

用途不明の土坑は、26基検出された。分布は、調査区西側の段丘崖に沿って検出されたものと、縄文時代中期後半の2軒(H-23・25)の竪穴式住居跡周辺から検出されたものとの、大きく2つに分けられる。平面形は円形・長円形・不整形円形等があり、規模も2.5m~0.50mと様々である。時期は不明なものも多いが、縄文時代中期後半・後期前葉~後葉のものがあり、P-85の皿状ピットからは入江式とタブコブ式が共伴し、道南・道央部の土器編年を考える上で貴重な資料といえる。

P-85 (図V-170・171 図版53-4~7・図版112~113-1)

位置 1・m-61 **長軸方向** N-58°-E

規模 2.46/2.00×2.11/1.64×0.32

特徴 楕円形の浅い、竪穴状の土坑である。当初、整地2層で、整地1層相当の黒色系土の3mほどのまとまりを確認した。同時に検出したP-93との重複関係を確認するため、ベルトを残して黒色系土を若干掘り下げたところ、P-93と重複していないこと、遺構は当初検出したまとまりより小さいことを確認した。

S P-2360~2365・2348・2359と重複する。新旧関係は確認できなかったが、これら柱穴状ピットの覆土は整地1層に類似する黒褐色土であることから、本遺構はこれらより古いものと思われる。

平面形は楕円形である。坑底はⅧ層を掘り込んで構築され、中央部が凹み、やや凹凸がある。ごく緩やかに皿状に立ち上がる。北側では、壁から坑底にかけて楕円形を呈する焼土が検出された。上面および周縁からはIV群a類土器が3個体分まとまって出土した。土器は、焼土中央部のものはつぶれたような状態で3個体分が重なりあって、焼土縁辺部のものはやや立ち気味の状態で検出されており、土器片囲炉であると思われる。焼土の下部は、壁から坑底にかけてが楕円形に掘り込まれている。焼土中で骨片が確認できたことから、焼土層をフローテーション処理したところ、炭化物と20点ほどの

5 土坑

骨片が検出された。骨片の同定を依頼したところ、すべて被熱しており、哺乳綱および鳥綱のものと同定された。また、炭化物については¹⁴C年代測定を行った（第Ⅶ章5・3節参照）。

土層は、大きく覆土1層の黒褐色土と、それより下層の褐色系土に分かれる。覆土1層は、色調と、遺構外に広がっていることから整地1層に相当するもので、遺構本来の覆土は覆土2～5層と考えられる。これらから、本遺構は覆土2～5層が堆積した段階で、周囲のⅤ層～Ⅶ層とともに検出面付近まで削平され、その後整地1層に覆われたものと考えられる。よって、掘り込み面がⅤ層中だとすると、構築時の深さは、残存している深さよりも15～20cmほどは深かったものと思われる。

焼土上面で出土したⅣ群a類土器は、3個体のうち2個体が入江式、1個体がタプコブ式である。入江式の1個体とタプコブ式は残存部位が多く、復原されている。

土層 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。整地1層相当。覆土2層：黒褐色土、～1cmほどの多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土3層：暗褐色土、～1cmほどの多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土4層：褐色土、～1cmほどの多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土5層：暗黄褐色土、粘性強い。～1cmほどの多量のEn-aPを含む。

なお、遺物の取り上げ覆土1層は土層断面覆土1層、取り上げ覆土4層は焼土上面（土層断面覆土4層付近）に対応する。

遺物 覆土および覆土1層からⅢ群b類（18）、Ⅳ群a類（19）、Ⅳ群c類（33）、剥片（8）、礫・礫片（17）、計95点、また覆土4層および焼土から、Ⅳ群a類（184）、剥片（2）、礫・礫片（3）、計189点、合計で284点出土している。このうち、覆土4層および焼土から出土した遺物が本遺構に伴うものである。覆土1層のⅢ群b類は、整地層への混入と思われる。

土器 1～3は覆土4層（焼土上面）から共伴して出土したⅣ群a類である（図Ⅴ-170参照）。1はタプコブ式、2・3は入江式である。1は覆土4層から出土した破片が接合した。波状口縁を呈する筒形の深鉢である。波頂部はわずかに欠け、底部は欠損する。口唇断面は角形で、口唇端部に縄文が施される。体部には太い原体による羽状縄文が施され、施文後になでつけられているようである。波頂部には縦の貼付帯が施され、縄端の圧痕が加えられた後、それを隠すように左右から粘土がよせられる。内面は、上部には縄文が施され、下位は横位に比較的丁寧に調整される。胎土には砂粒や小礫を多く含んでおり、縦位の層状の構造が見られる。2は主に覆土4層から出土した破片が接合し、さらに1-61の整地2層、m-53の盛土層から出土した破片が接合した。m-53とは32mほど離れており、本遺構付近の土壌が盛土遺構部分へ運ばれている可能性がある。筒形で、口縁部が「く」の字状にくびれる深鉢である。底部は欠損する。口唇断面は角形気味であるが、調整は粗雑で、器表面にも粘土がかぶる部分がある。全面に斜行から横走ぎみの縄文が施され、文様は、浅くやや細い数条の並行沈線を挟む2本一組の太い並行沈線によって構成される。口縁部には、2本一組の沈線と、連続する短い「逆N字」状の沈線がめぐる。胴部にはいずれも2本一組の沈線で、渦巻状の文様と、その下にカニのハサミ状の文様が施される。胴部下位には2本一組の沈線が横環するが、一部では、細い並行沈線が加えられず、縄文の残っている部分がある。器表面は部分的に剥落が激しい。内面調整は、口縁付近は横位で、胴部は縦位である。特に縦位の調整はケズリ痕が顕著である。器厚は厚めで、胎土には砂粒を多く含む。内面には部分的に炭化物が厚く付着する。色調は、割れ目を境に明瞭に異なる部分があり、検出面の焼土と関係するのかもしれない。内外とも淡黄色や黒色である。3は覆土4層から出土した破片が接合し、さらにm-61の整地2層から出土した破片が接合したものである。残存部が少なく、復原されなかった。口縁部に「く」字状のくびれをもつ深鉢である。口唇断面は角形で、粘土が表面にかぶる部分がある。斜行縄文地で、胴部上半には横環する沈線とクランク状の沈線が施され

る。ともに沈線は太い。底部付近は無文で、縦位に調整される。内面調整は、口縁付近は横位、胴部以下は縦位で、ケズリ痕が顕著である。器厚は厚めで、胎土には砂粒や小礫を多く含む。色調は、表面は黄褐色、内面は黄褐色や黒色である。内面には部分的に厚く炭化物が付着する。4は、整地層の流れ込みと思われる覆土1層から出土したIV群c類である。

なお、共伴して出土した2および3について、内面に付着した炭化物を採取して¹⁴C年代測定を行った(第七章第3節参照)。

時期 覆土および焼土出土の土器から、縄文時代後期前葉のIV群a類の時期である。また、焼土から出土した炭化物と、共伴して出土した土器2および3について、内面に付着した炭化物を採取して¹⁴C年代測定を行ったところ、以下の値が得られている。

焼土出土の炭化物	補正 ¹⁴ C年代	3630±50BP
土器 図V-171-2	補正 ¹⁴ C年代	4150±50BP
図V-171-3	補正 ¹⁴ C年代	4140±50BP

これらの値は、土器自体から予想される年代よりも、焼土出土の炭化物ではやや新しく、土器付着の炭化物ではやや古いものである。ともに、単独では大きくは矛盾しない値といえるが、同じ遺構に伴う炭化物の年代が、実際にこれほど差があるとは考えにくい。(柳瀬由佳)

P-19 (図V-172 図版53-8~54-1・図版113-2)

位置 m-54 長軸方向 N-110° - E

規模 1.92/1.56×1.60/1.18×0.20

特徴 VI層上面で確認した。平面形は楕円形、坑底はほぼ平らで立ち上がりは若干丸みをもち緩やかである。北側はH-3 P-2に、南側はH-3 P-1に切られている。

土層 覆土1層：黒色土、En-aPを少量含む。覆土2層：褐色土、En-aPを含む。

遺物 覆土から剥片(2)、礫・礫片(1)、覆土1からI群b類(1)、III群b類(12)、剥片(1)、礫・礫片(4)、覆土2からI群b類(2)、III群b類(30)、剥片(1)計54点出土した。

土器 ともに覆土から出土したIII群b-2類である。胎土には白色などの砂粒と繊維を含む。1は口縁部破片で、半截竹管状工具による斜めの刺突と綾絡文がめぐる。2は外反する頸部の破片で、縄文地に沈線と綾絡文が施される。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代中期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

P-84 (図V-172 図版54-2・3・図版113-3)

位置 m-61・62 長軸方向 N-27° - E

規模 1.84/1.41×1.62/1.24×0.23

特徴 竪穴状の土坑である。P-98と重複し、これより古い。また、SP-4705と重複するが新旧は不明である。整地2層付近で暗褐色土のまとまりとして検出した。平面形は隅丸五角形である。坑底は凹凸があり、立ち上がりは緩やかで、皿状を呈する。覆土は単層で、整地1層に類似する暗褐色土である。周囲にこれに非常に類似した木根によると思われる土層が線状に分布していたため、南側の一部をあやまって掘り過ぎてしまった。遺物はIV群a類とIV群c類がともに覆土から出土しており、IV群a類ではP-84から出土した土器の同一個体と思われる破片がみられる。

土層 覆土1層：暗褐色土、En-aP・少量の炭化物を含む。

A層：暗褐色土、覆土1層と類似しており、En-aPをやや多く含む。

5 土坑

遺物 覆土から、IV群a類(10)、IV群c類(18)、剥片(16)、礫・礫片(7)、計51点出土している。

土器 すべて覆土から出土した。3～7はIV群a類。3～6はタプコプ式である。3は口唇断面が丸形気味の口縁部破片。口縁部には一条の縄線がめぐる。2は口唇断面が角形の口縁部破片。口唇端部および内面にも縄文が施される。内面の縄文は横走ぎみである。表面の縄文は、摩耗が激しく判然としないが、同じく横走ぎみのようである。ともに胎土に小礫を多く含む。5・6は同一個体。近接するP-85から出土したタプコプ式の復原個体(図V-171-1)と同一個体と思われる。内面には縦走ぎみの縄文が施される。縄文は内外とも、施文後になでつけられる。6は波頂部の破片である。口唇断面は角形で、端部にも縄文が施される。波頂部には縦の貼付帯が施され、縄端による圧痕が加えられる。7は小礫を含む胎土や角形の口唇断面からIV群a類とした。口唇端部には縄文が施される。口縁直下には断面円形の工具で、現存で2段の刺突列が施される。同様の破片が、P-49および包含層からも出土している(図V-167-8、図VI-43-28・29)。8はIV群c類である。深鉢の口縁部破片である。

時期 覆土出土の遺物などから、縄文時代後期前葉のIV群a類あるいは後葉のIV群c類である。

(柳瀬由佳)

P-10 (図V-173 図版54-8~55-2・図版114-1)

位置 g・h-54・55 **長軸方向** N-16° - E

規模 1.55/1.16×1.51/1.15×0.51

特徴 P-16に隣接してⅧ層中で確認した。削平がⅧ層中まで及んでいたため上部は削られている。黒色土・En-aP及びEn-aLがリング状に落ち込んでいた。平面形は円形である。坑底は平坦である。壁は坑底から丸味をもってほぼ垂直に立ち上がる。

土層 覆土1層：黒色土、Ⅴ層に少量のEn-aPが混じる。覆土2層：暗黄褐色土、多量のEn-aPとEn-aLと少量の黒色土が混じる。覆土3層：暗黄褐色土、覆土2層と同質。En-aPが多くやや明るい。覆土4層：暗黄褐色土、En-aLに少量の黒色土・En-aPが混じる。覆土5層：En-aP層、覆土6層：暗黄褐色土、黒色土に少量のEn-aPとEn-aLが混じる。覆土7層：黒色土に少量のEn-aPが混じる。大形土器片がまとまって出土している。覆土8層：暗黄褐色土、黒色土にEn-aPとEn-aLが混じる。

遺物 覆土7層からIV群c類(27)が出土している。

土器 1・2は同一個体で覆土7から出土したIV群c類である。他にも同一個体の破片が出土しているが、接合しなかった。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃

(熊谷仁志)

P-188 (図V-173 図版54-4・5)

位置 o・p-57・58 **長軸方向** N-149° - E

規模 1.70m/1.42m×1.33m/1.05m×0.17m

特徴 浅い皿状の土坑である。H-12(建物1)と重複しており、これより古い。Ⅶ層で検出した。平面形は楕円形である。坑底はⅧ層を若干掘り込んで構築されており、平坦。立ち上がりは緩やかで、壁は開く。覆土は灰褐色系土で、粒子が細かく均質であり、縄文時代後期に属する遺構とは異なる特徴をもつ。時期を示す遺物は出土していない。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、しまりやや弱い。ごく少量のEn-aP・炭化物を含む。粒子細かく、均

質。覆土2層：暗灰褐色土、しまりやや弱い。少量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。粒子細かく、均質。

遺物 覆土から剥片が1点出土している。

時期 時期を示す遺物は出土していないが、建物1に切られること、覆土が縄文時代後期に属する遺構のものとはやや異なること、周囲の包含層からI群b類土器が少数であるが出土していることから、確証はないが、縄文時代早期後半のI群b類の頃の可能性がある。(柳瀬由佳)

P-278 (図V-173 図版54-6・7)

位置 o-62 長軸方向 N-177° - E

規模 1.01/0.82×0.69/0.53×0.11

特徴 現存では皿状の土坑である。H-25のトレンチ調査中に検出し、H-25に切られることを確認した。H-25の床面で平面形を確認し、調査を行った。

平面形は隅丸長方形である。坑底はⅧ層を掘り込んで構築され、平坦。立ち上がりは緩やかで、壁はやや開くようである。上部はH-25によって壊されており、掘り込み面をⅤ層中と仮定すると、構築時はこれより20~30cmほどは深かったものと思われる。覆土は粒子が細かく均質な灰褐色系土で、P-188と類似している。時期を示す遺物は出土していない。

土層 覆土1層：黄褐色土、ごく大量のEn-aPを含む。覆土2層：灰褐色土、En-aPを少量含む。粒子細かく、均質。

遺物 覆土からRフレイクが1点出土している。

時期 時期を示す遺物は出土していないが、縄文時代中期の遺構であるH-25に切られること、覆土の状態がP-188に類似することから、確証はないが、縄文時代早期の遺構の可能性がある。(柳瀬由佳)

P-12 (図V-174 図版51-6~52-1)

位置 t-60・61 長軸方向 N-64° - E

規模 1.24/0.98×(1.03)/(0.87)×0.48

特徴 P-11と重複しており、これより古い土坑である。P-11の調査中に重複するもう一つの土坑を検出し、これをP-12とした。覆土は黒褐色または暗褐色のEn-aPを主体とする土壌で構成され、堆積状況からP-11がP-12を壊して構築していることがわかった。残存する壁は坑底付近からやや開きながら広がり、坑底はほぼ平坦である。坑底の東側隅から焼土を検出した。

土層 覆土1層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土3層：灰褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土4層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土5層：褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土6層：黒色土、腐植土で粘性高い。

遺物 覆土1層からIV群c類が1点出土した。

時期 覆土中の遺物と確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。

(笠原 興)

P-16 (図V-174 図版55-3・4)

位置 g-55 長軸方向 N-89° - E

規模 0.95/0.86×0.95/0.86×0.40

5 土坑

特 徴 Ⅷ層中で確認した。削平がⅧ層中まで及んでいたため上部は削られている。黒色土が落ち込んでいた。P-10に隣接して検出した。平面形は円形である。坑底は平坦である。壁は坑底からわずかにオーバーハング気味に立ち上がる。

土 層 覆土1層：黒色土、Ⅴ層に少量のEn-aPが混じる。しまりよい。覆土2層：暗黄褐色土、Ⅵ層に類似、少量のEn-aPが混じる。覆土3層：黒色土、覆土1層に類似。多量のEn-aPが多い。覆土4層：暗黄褐色土、径1～3cmのEn-aPが混じる。覆土5層：暗黄褐色土、径1cmほどのEn-aPが混じる。覆土6層：暗黄褐色土、径1～3cmのEn-aPが多量に混じる。

遺 物 坑底から剥片が2点出土している。

時 期 時期の分かる遺物が出土していないが、隣接するP-10やQ地区の遺構の主体が縄文時代後期後葉であることからⅣ群c類の頃の可能性が高い。(熊谷仁志)

P-17 (図V-174 図版55-5・6・図版114-2)

位 置 r・S-62 **長軸方向** N-63° - E

規 模 0.97/0.84×0.89/0.79×0.87

特 徴 整地層調査後のⅧ層上面で検出した。SP-1373と重複し、これより新しい。平面形は楕円形で坑底は丸みを帯び、壁はほぼ垂直に立ち上る。開口部付近ではやや外側に開く。覆土は埋め戻し状態で、主に腐植土の混じるⅧ層で構成される。

土 層 覆土1層：黒褐色土、しまりやや弱い。En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、しまりやや強い。En-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、しまり強い。En-aPを多量に含む。覆土4層：極暗褐色土、しまり強い。En-aPを多量に含む。覆土5層：黒褐色土、しまり強い。En-aPを少量含む。覆土6層：黒色土、粒子粗く、しまりやや強い。

遺 物 覆土からⅢ群b類(1)、Ⅳ群b-4類(1)、Ⅳ群c類(8)、石鏃(1)、Rフレイク(2)、剥片(5)計18点出土した。

土 器 いずれも覆土から出土したもの。1はⅣ群b-4類。口唇断面は切出形。口唇直下に2列の刻み列と突瘤がめぐり、突起部ではさらに刻み列が1段加えられる。2はⅣ群c類。口唇断面は切出形で、口縁に沿った平行沈線が施される。

石 器 3は石鏃で2a類。

時 期 覆土中の遺物と確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の時期と思われる。(笠原 興)

P-23 (図V-174 図版55-7・8・図版114-3)

位 置 s-64 **長軸方向** N-76° - E

規 模 1.22/1.13×1.19/0.82×0.97

特 徴 s-64の調査中にⅧ層の上面で黒色腐植土の落ち込みを確認した。H-23と重複しており、これより新しい土坑である。覆土はEn-aPが混入する腐植土を主体とし、堆積状況から流れ込みによる埋没と思われる。壁は坑底からほぼ垂直に近い状態で立ち上がるが、南東側の壁面が内側に張出している。坑底はやや東側が高く、En-aPが一部赤黒色に染まっている。

土 層 覆土1層：黒色土、腐植土。覆土2層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土4層：黒色土、腐植土、少量のEn-aPを含む。覆土5層：黒褐色土、腐植土。覆土6層：赤黒色土、腐植土、少量のEn-aPを含む。覆土7層：黒褐色土、腐植土、少量のEn-aPを含む。覆土8層：褐色土、Ⅷ層相当の崩落土。覆土9層：褐色土、Ⅷ層相当の崩落土。覆土10層：

赤黒色土。

遺物 覆土1層からⅢ群b類(3)、礫・礫片(1)、覆土2層からⅡ群a類(1)、Ⅲ群b類(1)、Ⅳ群c類(3)、剥片(1)計10点出土した。

土器 4は覆土1層から出土した。Ⅲ群b-2類で、底端部が張り出す平底である。

時期 覆土中の遺物とH-23との新旧関係から縄文時代中期以降の時期と思われる。(笠原 興)

P-2 (図V-175 図版56-1・図版114-4)

位置 p・q-58 長軸方向 N-147° - E

規模 1.06/0.69×0.96/0.71×0.19

特徴 皿状の土坑である。I層除去後のVI層で検出した。上部は耕作により削平されてしまっているため、不明である。P-4と重複しており、これより新しい。また、H-12HP-55(建物1)と重複するが、新旧は不明である。平面形はほぼ円形である。坑底はVI層中に構築されており、凹凸がある。緩やかに立ち上がり、壁は開くようである。

土層 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土から、I群b類(6)、Ⅳ群c類(82)、Rフレイク(1)、剥片(8)、石皿・台石(1)、礫・礫片(1)、計99点出土している。

土器 いずれも覆土から出土したⅣ群c類である。1は口唇端部が肥厚し縄文が施される。3は底部の破片。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(柳瀬由佳)

P-3 (図V-175 図版56-2)

位置 1-55・56 長軸方向 N-152° - E

規模 1.13/0.84×0.86/0.60×0.14

特徴 残存部では皿状の土坑である。I層除去後のⅧ層で検出した。上部は耕作により削平されているため、詳細は不明である。平面形は楕円形である。坑底はⅧ層中に構築され、平坦だが西へ傾斜する。立ち上がりは緩やかで、壁は開くようである。

土層 覆土1層：褐色土、En-aP・ごく少量の骨片を含む。

遺物 覆土から、Ⅳ群c類(9)、剥片(2)、礫・礫片(1)、計12点出土している。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後半Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(柳瀬由佳)

P-4 (図V-175 図版56-3・図版115-1)

位置 p・q-58 長軸方向 N-52° - E

規模 -/-×0.67/0.48×0.13

特徴 残存部が皿状の土坑である。I層除去後のVI層で検出した。上部は耕作により削平されてしまっているため、不明である。P-2と重複しており、これより古い。また、H-12HP-6(建物1)と重複するが、新旧は不明である。平面形は楕円形になると思われるが、南西側がP-2に壊されているため、不明である。坑底はVI層中に構築されており、凹凸がある。緩やかに立ち上がり、壁は開くようである。性格は不明である。

土層 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土から、Ⅳ群c類(10)、剥片(1)石皿・台石(1)、計12点出土している。

5 土坑

石器 4は石皿片。すり石痕と敲打痕が認められる。材質は砂岩。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(柳瀬由佳)

P-6 (図V-175 図版56-4・5)

位置 m-56 長軸方向 N-141° - E

規模 0.55/0.41×0.50/0.32×0.13

特徴 残存部が皿状の土坑である。I層除去後のⅧ層で検出した。上部は耕作により削平されてしまっているため、不明である。平面形は楕円形である。坑底はⅧ層中に構築されており、やや丸みがある。緩やかに立ち上がり、壁はやや開くようである。性格は不明である。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 覆土の状況から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃の可能性があるが、不明である。(柳瀬由佳)

P-9 (図V-175 図版56-6・図版115-2)

位置 n-57 長軸方向 -

規模 -/-×-/-×0.14

特徴 皿状の土坑と思われる。この周辺は、耕作によりⅧ層まで攪乱されている部分の境界付近であり、I層除去の際に誤ってⅦ～Ⅷ層まで削平してしまっていたため、西側は失われてしまった。P-8(建物78)と重複し、これより古い。また、SP-875と重複するが、新旧は不明である。平面形は円形に近いと思われる。坑底はⅧ層上面に構築され、平坦。立ち上がりはやや急で、壁は若干開く。性格は不明である。

土層 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPを含む。

遺物 覆土からIV群c類が1点出土している。

土器 5は覆土から出土したIV群c類である。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後半IV群c類の堂林式の頃と思われる。(柳瀬由佳)

P-18 (図V-176 図版115-3)

位置 l-54 長軸方向 N-130° - E

規模 (0.85)/(0.56)×0.72/0.44×0.14

特徴 VI層上面で確認した。平面形は楕円形、坑底は若干丸みをもち緩やかに立ち上がる。南側はH-3HP-3に切られている。

土層 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 覆土からIV群b-4類(2)出土した。

土器 1は覆土から出土したIV群b-4類。口唇断面は切出形で、口唇直下に2列の刻み列が施される。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期に構築されたものと考えられる。(谷島由貴)

P-20 (図V-176)

位置 k-53 長軸方向 N-30° - E

規模 0.86/0.44×0.62/0.25×0.24

特徴 VI層上面で確認した。平面形は不整な楕円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。

土層 覆土1層：黒褐色土En-aPを少量含む。覆土2層：暗褐色粘質土、En-aPを含む。

遺物 覆土1から石斧(14)、礫・礫片(1)、計15点出土した。

時期 遺構の形態や検出層位などから縄文時代中期頃と考えられる。(谷島由貴)

P-29 (図V-176 図版56-7・8・図版115-4)

位置 u-60 長軸方向 N-148° -E

規模 1.21/0.88×0.93/0.68×0.13

特徴 LZ-1 (溝状遺構)の調査中に、南東端で黒色腐植土の落ち込みが重複している事を確認した。調査の結果、LZ-1より新しい土坑であることがわかった。覆土は粘性の強い腐植土で、En-aPをわずかに含む。掘り込みの浅い皿状の土坑で、南東端が調査区域外にかかる。

土層 覆土1層：黒色土、腐植土、粘性強くEn-aPを多く含む。

遺物 覆土中からIV群c類(4)、礫・礫片(1)計5点出土した。

土器 2は覆土中から出土した。IV群c類の口縁部片で口唇部は切出形である。

時期 覆土中の遺物とLZ-1との新旧関係から縄文時代後期後葉IV群c類の時期と思われる。

(笠原 興)

P-50 (図V-176 図版57-1・2・図版115-5)

位置 i-63 長軸方向 N-113° -W

規模 1.30/0.83×1.08/0.62×0.21

特徴 整地層の調査中に、暗黄褐色土の落ち込みを確認した。P-279を壊して構築されている。

S P-3553~3555・3557に関しては、切り合いは不明である。平面形は南南西が尖る卵形である。断面形は皿状で、坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。なお、西側壁付近からP-279が検出されており、P-279の上部の可能性はある。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、径1~3cmのEn-aPがブロック状に混じる。覆土2層：暗黄褐色土、多量のEn-aPに、暗黄褐色土が混じる。覆土3層：暗褐色土、しまりよい。少量のEn-aPが混じる。覆土4層：黒褐色土、しまりよい。径1~3cmのEn-aPが少量混じる。覆土5層：暗黄褐色土、しまりよい。径1~3cmほどのEn-aPが多量に混じる。

遺物 覆土からはIV群a類(1)、IV群b類(1)、IV群c類(18)、剥片(8)、たたき石(1)計29点が出土した。

土器 3・4は覆土から出土したIV群a類、入江式である。いずれも胎土に黒色などの砂粒や白色・赤色の小礫を非常に多く含む。3は胴部破片で、太い沈線が施される。4は底部の破片。器表面では縦位の調整が顕著である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

P-86 (図V-176 図版57-6・7)

位置 m-60 長軸方向 N-140° -E

規模 0.49/0.22×0.44/0.17×0.18

特徴 小形の土坑である。整地2層で検出した。P-87と重複しており、これより新しい。平面形は

5 土坑

ほぼ円形である。坑底はⅧ層中に構築され、丸みをおびる。立ち上がりは緩やかで概して椀状を呈するが、北側の壁は垂直に近くなる。性格は不明である。

土層 覆土1層：褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土からⅣ群c類が2点出土している。

時期 検出面、覆土出土の遺物などから、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類と思われる。（柳瀬由佳）

P-88 (図V-176 図版57-8~58-1)

位置 1-60・61 長軸方向 N-48° - E

規模 0.78/0.52×0.65/0.38×0.33

特徴 小形の椀状の土坑である。SP-989と重複し、これより新しい。Ⅷ層上面で検出した。開口部は隅丸長方形である。坑底は開口部と軸の異なる楕円形で、Ⅷ層中に構築され、丸みを帯びる。立ち上がりは緩やかで、壁はやや開く。性格は不明である。

土層 覆土1層：暗褐色土、しまりやや弱い。多量のEn-aP・少量のローム粒を含む。覆土2層：暗褐色土、En-aP・少量の焼土粒およびローム粒を含む。覆土3層：暗褐色土、En-aP・褐色土粒を含む。

遺物 出土していない。

時期 検出面や覆土の状況から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類と思われる。（柳瀬由佳）

P-89 (図V-177 図版57-3~5・図版115-6~116-1)

位置 1-62 長軸方向 N-13° - E

規模 1.22/0.86×0.80/0.66×0.11

特徴 ごく浅い土坑である。F-33 (建物12)・P-148と重複し、これらより古い。また、SP-3857・3858と重複するが、新旧は不明である。

整地層調査後のⅧ層で、Ⅳ群b-4類土器およびⅣ群c類土器がまとまって出土し、同時にその周囲1mほどに分布する黒褐色土のまとまりを検出した。遺構を想定し、土器を取り上げた後に半截して掘り下げたが、掘り込みはごく浅いものであった。検出面でⅣ群b-4類が出土していることと、検出面が整地層の下位であったことから、本遺構は整地層形成以前に構築され、整地層形成時の削平の際に上部を失ったものであろうと考えられる。

平面形は卵形である。坑底は楕円形で、やや丸みを帯びる。立ち上がりは東西方向では緩やかだが、南北方向では不明瞭である。

検出面から出土した炭化物について、¹⁴C年代測定を行ない、以下の結果を得た（第Ⅶ章3節参）。

補正¹⁴C年代 3410±50BP

これは、出土土器から予想される年代にほぼ一致するものである。（第Ⅶ章3節参照）。

土層 覆土1層：暗褐色土、大量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土3層：暗黄褐色土。

遺物 検出面から、Ⅳ群b-4類（9）、Ⅳ群c類（92）、剥片（1）、計102点、覆土からⅢ群b類（1）、Ⅳ群b-4類（2）、Ⅳ群c類（24）、礫・礫片（3）、計30点、合計132点出土している。

土器 すべて遺構検出面で同時に出土したものである。図示したものの他に、底部など、2~3の別個体の破片が出土している。1はⅣ群b-4類。くびれのある深鉢の口縁部破片である。口唇断面は切出形で、口唇直下とくびれ部にそれぞれ2列の刻み列がめぐる。刻み・沈線ともに太めの工具が

使われている。胴部には規則的な羽状縄文のみが施される。内面調整は横位で丁寧。器表にわずかに炭化物が付着している。2～4はIV群c類である。2・3は同一個体。口唇断面は切出形で、口縁には突瘤が巡り、体部には羽状縄文が施される。4は注口の胴部破片である。

時期 検出面の遺物から、縄文時代後期中葉IV群b-4類～後葉IV群c類の堂林式の頃である。

(柳瀬由佳)

P-147 (図V-177 図版58-2)

位置 1-62 長軸方向 N-26° -E

規模 0.76/0.51×0.66/0.39×0.14

特徴 小形の土坑である。整地層の調査後に、P-89・148とともに検出した。P-148と重複し、これより新しい。平面形はほぼ円形である。坑底は平坦で、緩やかに立ち上がり、皿状を呈する。P-89同様、上部を整地層形成の際に削平されている可能性がある。

土層 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 検出面および重複関係から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。

(柳瀬由佳)

P-148 (図V-177 版58-3・4)

位置 1-62 長軸方向 N-189° -E

規模 0.85/0.55×0.76/0.53×0.16

特徴 小形の浅い土坑である。整地層の調査後に、P-89・147とともに検出した。F-33 (建物12)、P-147と重複し、これらより古く、P-89・SP-3873・3874と重複し、これらより新しい。また、SP-3934と重複するが、新旧は不明である。平面形はほぼ円形である。坑底は平坦で、緩やかに立ち上がり、皿状を呈する。P-89同様、上部を整地層形成の際に削平されている可能性がある。

土層 覆土1層：黒褐色土、En-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 検出面および重複関係から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。

(柳瀬由佳)

P-185 (図V-179 図版58-5)

位置 m-60 長軸方向 N-94° -E

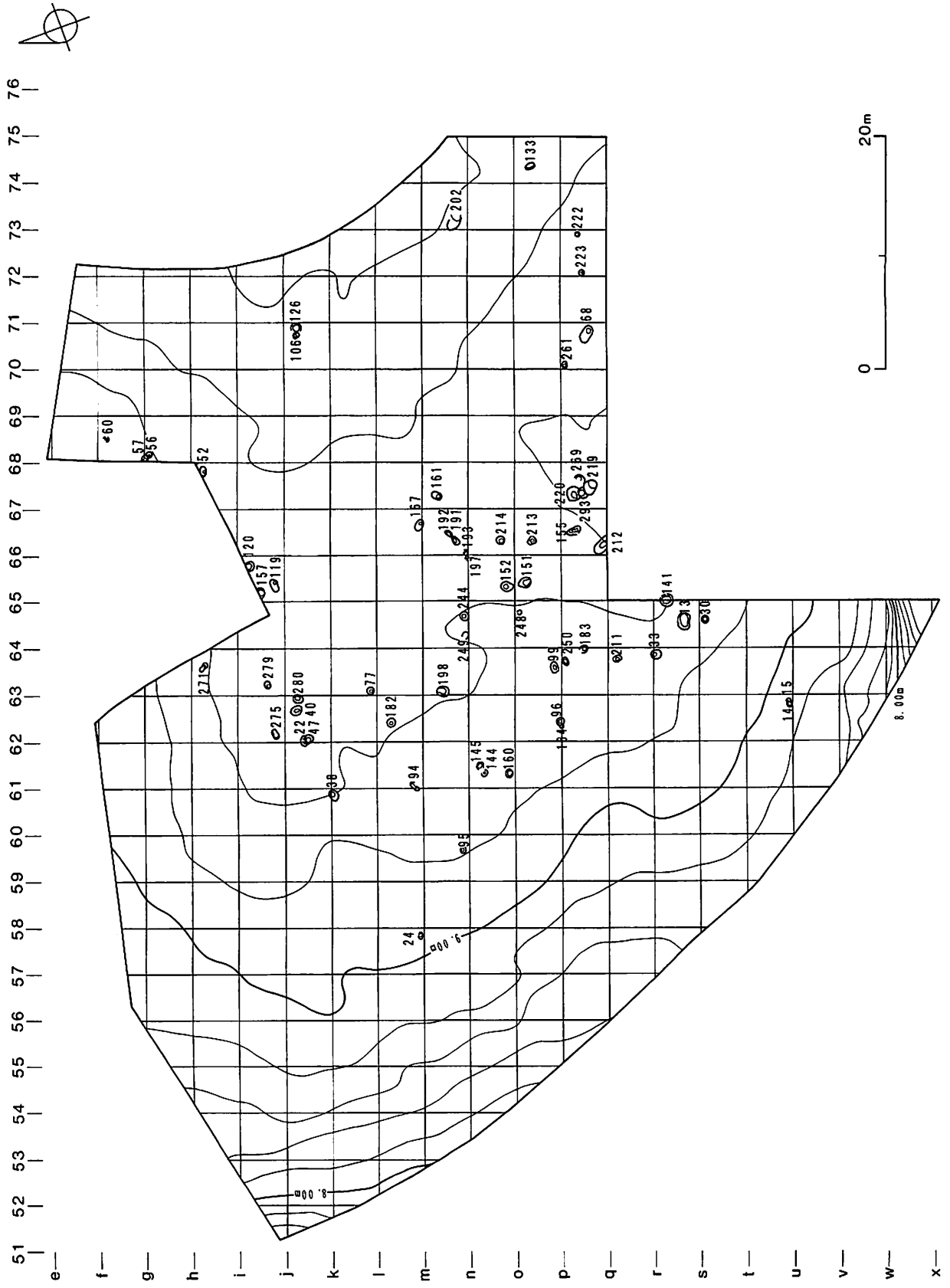
規模 0.46/0.15×0.32/0.20×0.29

特徴 P-186 (建物43) と重複し、これより新しい。SP-2226と重複するが、新旧は不明である。平面形は楕円形である。坑底は丸みがあり、立ち上がりは緩やかで、壁は垂直に近い。柱穴の可能性もあるが、性格は不明である。

土層 覆土1層：明褐色土、大量のEn-aPを含む。

遺物 IV群c類が4点出土している。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(柳瀬由佳)



図Ⅲ-8 柱穴 (Pのみ) 配置

P-276 (図V-179)

位置 j-63 長軸方向 N-155° - E

規模 0.47/0.33×0.43/0.33×0.40

特徴 整地層の調査中に、暗黄褐色土の落ち込みを確認した。SP-4028~4136によって東側が壊されている。平面形は長円形である。断面形は皿状で、平坦な坑底から丸味をもちながら立ち上がる。覆土からドングリが出土していることから、建物75との関連が想定される。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、しまりよい。径2~3cmのEn-aPが混じる。大きな炭化物が混じり、ドングリも出土している。

遺物 覆土からはIV群c類(1)が出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。 (熊谷仁志)

(2) 柱穴 (図V-179~193 図版58-6~66-7・図版116-2~120-5)

柱穴は、63基検出された。主に建物としての組み合わせが確認できなかった建物の大形の支柱穴及び出入口である。分布は、調査区中央部を南北に延びる大形柱穴をもつ建物列にほぼ重なる。平面形は円形・長円形・不整円形等があり、規模も1.2m~0.50mと様々である。時期は、縄文時代後期中葉~後葉のものがほとんどである。

P-13 (図V-179 図版58-6・7・図版116-2)

位置 r-64 長軸方向 N-109° - E

規模 1.30/1.09×1.00/0.83×0.52

特徴 r-64の整地層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認した。平面形は楕円形を呈する。整地層の中位から掘りこまれており、坑底はⅧ層を掘り込んでいる。覆土は粘性の強い腐植土と、Ⅷ層相当の崩落土で構成される。坑底の中央部がやや高く、西側が低くなる。壁の立ち上がりは明瞭で、東から北側はほぼ垂直に、西から南側は緩やかに立ち上がる。性格は柱穴に相当するものと考えられ、R地区の建物跡73の支柱穴として報告されている(北埋調報第148集参照)。

土層 覆土1層：黒褐色土、腐植土、粘性強くEn-aPを含む。覆土2層：褐灰色土、粘性弱くEn-aP主体。

遺物 覆土中からⅢ群b類(3)、IV群b-4類(1)、IV群c類(31)、剥片(9)、礫・礫片(6)計50点出土した。

土器 いずれも覆土から出土したもの。2はⅢ群b-2類の口縁部破片。3・4はIV群c類。3は木葉形の沈線紋が施される。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-14 (図V-179 図版59-1・図版114-1)

位置 t-62 長軸方向 N-73° - E

規模 0.43/0.39×0.38/0.33×0.48

特徴 t-62の整地層調査後にⅧ層の上面で重複する2つの黒色土の落ち込みを確認した。東側の落ち込みをP-15とした。調査の結果P-14が15を壊して構築していることがわかった。覆土は黒色腐植土とEn-aPの混じる黒褐色土で構成される。坑底は西側が深く東側が浅い。壁はほぼ垂直に立ち上が

5 土坑

る。性格は柱穴と思われる。

土層 覆土1層：黒色土、腐植土。粘性強い。覆土2層：黒褐色土、粘性弱くEn-aP多量。

遺物 覆土中からⅢ群b類(3)、Ⅳ群b-4類(1)、Ⅳ群c類(31)、剥片(9)、礫・礫片(6)計35点出土した。

土器 1は覆土から出土したⅣ群c類である。くびれのある深鉢の破片で、くびれ部に1列の刻み列が巡る。無文帯をはさみ、上下に縄文が施される。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期中葉Ⅳ群b-4類の時期と思われる。(笠原 興)

P-15 (図V-180 図版116-3)

位置 t-62 長軸方向 N-73° - E

規模 0.43/0.39×0.38/0.33×0.48

特徴 t-62の整地層調査後にⅧ層の上面で重複する2つの黒色土の落ち込みを確認した。西側の落ち込みをP-14、東側をP-15とした。調査の結果P-14に東側を壊されていることがわかった。覆土は上位の黒色土とEn-aPの混じる下位の黒色土で構成される。坑底は尖がり杭状で、残存する壁はやや開きながら立ち上がる。

土層 覆土1層：黒色土、腐植土。粘性強い。覆土2層：黒色土、粘性弱くEn-aP少量。

遺物 覆土の上面から台石が1点出土した。

石器 1は台石で、片面にすり面を持つ。重量は8.4kgを計る。材質は安山岩。

時期 重複するP-14に壊されていることから縄文時代後期中葉Ⅳ群b-4類の時期か、それ以前のものと思われる。(笠原 興)

P-24 (図V-180 図版59-2・3)

位置 1-57 長軸方向 N-103° - E

規模 0.59/0.49×0.35/0.26×0.17

特徴 小形の土坑である。I層除去後のⅧ層で確認した。この周辺は、耕作による削平がⅧ層にまでおよんでいたため、上部の状況は不明である。平面形は楕円形である。坑底はほぼ平坦で東へ傾斜し、立ち上がりはやや急で、壁は垂直に近い。覆土は埋め戻しと思われる。性格は、規模や形態、長軸方向から建物の出入口の可能性が考えられるが、単独での検出であり、不明である。

土層 覆土1層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土3層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 覆土の状態から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の可能性があるが、不明である。

(柳瀬由佳)

P-30 (図V-180 図版59-4・5)

位置 S-64 長軸方向 N-16° - E

規模 0.57/0.49×0.53/0.43×0.27

特徴 整地層調査後にⅧ層の上面で円形の黒色土の落ち込みを確認した。覆土はEn-aPの混じる黒色土である。坑底は平坦で、壁は開きぎみに立ち上がる。R地区の建物75跡の主柱穴として報告されている(北埋調報第148集参照)。

土 層 覆土1層：黒色土、腐植土。粘性強く、En-aP多量。

遺 物 覆土中からIV群b-4類(1)、IV群c類(2)計3点出土した。

時 期 覆土中の遺物から縄文時代後期中葉IV群b-4類～後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-33 (図V-180 図版59-6・7)

位 置 q・r-63 長軸方向 N-22° - E

規 模 0.81/0.53×0.72/0.51×0.45

特 徴 整地層調査後にⅧ層の上面で黒色土の落ち込みを確認した。覆土は上位の黒色土とEn-aP主体の黒褐色土で構成される。坑底は丸みをもち、南東側の壁には段がある。性格は柱穴に相当するものと考えられ、R地区の建物75跡の主柱穴として報告されている(北埋調報第148集参照)。

土 層 覆土1層：黒色土、腐植土。粘性強い。覆土2層：黒褐色土、En-aP多量。

遺 物 覆土中からIV群c類(5)、Rフレイク(1)計6点出土した。

時 期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-38 (図V-180 図版60-1・2)

位 置 j・k-60 長軸方向 N-75° - E

規 模 0.91/0.43×0.74/0.44×0.46

特 徴 Ⅷ層の清掃中に暗黄褐色土の落ち込みを確認した。削平がⅧ層中まで及んでいたため上部は削られている。平面形は不整形で、長軸は北東東-西西南である。坑底は円形、平坦で、ほぼ東側寄りに構築されている。東側の壁は垂直気味に、西側は坑底から開き気味に立ち上がる。

土 層 覆土1層：暗黄褐色土、しまりよい。多量のEn-aP、少量の炭化物が混じる。覆土2層：暗黄褐色土、覆土1層に類似、ぼそぼそ、少量の炭化物が混じる。

遺 物 覆土からはIV群c類(1)、剥片(1)計2点が出土した。

時 期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

P-40 (図V-181 図版60-3・4・図版116-4)

位 置 j-62 長軸方向 N-18° - E

規 模 0.93/0.66×0.88/0.51×0.41

特 徴 整地層の調査中に暗黄褐色土の落ち込みを確認した。SP-2994・4552に壊され、P-274・SP-3415・4523を壊して構築している。平面形は南東側がやや広がる長円形で、長軸は東北-南西である。坑底は北北東-南南西に長軸をもち、南南西に傾斜する。坑底は北北東寄りに長円形に作り出されている。北北東側の壁は坑底から垂直に、南南西側は中位まで開き気味立ち上がり、中位に段をもち大きく開く。

土 層 覆土1層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPが混じる。覆土2層：暗黄褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物を含む。覆土3層：暗黄褐色土、粘性強く、En-aPとEn-aLが混じる。覆土4層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPを含む。覆土5層：暗黄褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物を含む。

遺 物 覆土からはIV群c類(21)、剥片(5)計26点が出土した。

土 器 とともに覆土から出土したIV群c類である。

5 土坑

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

P-47 (図V-181 図版60-5・図版116-5)

位置 j-61・62 長軸方向 N-178° - E

規模 1.09/0.43×0.71/0.40×0.56

特徴 整地層の調査中に暗黄褐色土の落ち込みを確認した。SP-374に壊され、SP-4525を壊して構築している。平面形は北側が広がる長円形で、長軸を北-南にもつ。坑底は平坦で、南寄りに円形に作り出されている。南側の壁は坑底から丸味をもって立ち上がり、北側は丸味をもって立ち上がるが、中位で段をもち、大きく開く。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、しまりよい。少量のEn-aPが混じる。覆土2層：暗黄褐色土、しまりよい。多量のEn-aPが混じる。

遺物 覆土からはIV群b-4類(1)、IV群c類(48)、剥片(8)、たたき石(1)計57点が出土した。

土器 ともに覆土から出土したものである。3はIV群b-4類。くびれのある深鉢の破片で、現存で1列の刻み列が巡る。胴部にはすり消しによる文様が施される。4はIV群c類の胴部破片である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

P-52 (図V-181 図版60-6・図版117-1)

位置 h-67 長軸方向 N-115° - E

規模 0.78/0.53×0.51/0.34×0.45

特徴 VII層で確認した。平面形は楕円形、坑底は丸く東側は斜めに上がる。立ち上がりは緩やかで、壁は開き気味である。北側は調査範囲外で、そこに主体部のある建物の一部になるものと推定される。

土層 覆土1層：暗褐色土、En-aPを多く含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 覆土からIV群c類(4)、剥片(1)、計5点出土した。

土器 5は覆土から出土したIV群c類である。口唇断面は角形で、平行沈線が施される。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-56 (図V-181)

位置 g-68 長軸方向 N-160° - E

規模 0.55/0.22×0.53/0.25×0.53

特徴 VII層で確認した。平面形は楕円形、坑底は丸く、開いて立ち上がる。壁の上部は斜めに開く。西側は調査範囲外で、そこに主体部のある建物の一部になるものと推定される。北側はP-57に、南側はP-55に切られている。

土層 覆土1層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、細粒状のEn-aPを含む。覆土3層：黒茶褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 覆土1からIV群c類(10)、剥片(1)、石皿・台石(1)、礫・礫片(1)、計13点出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-57 (図V-182 図版60-7・図版117-2)

位置 f・g-68 長軸方向 N-108° - E

規模 0.60/0.31×0.53/0.23×0.71

特徴 VII層で確認した。平面形は円形、坑底は丸く、壁は開いて立ち上がる。西側は調査範囲外になり、そこに主体部のある建物の一部になるものと推定される。南側はP-56を切っている。

土層 覆土1層：茶褐色粘質土。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：褐色土、細粒状のEn-aPを含む。覆土4層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。

遺物 覆土からIV群c類(1)、剥片(1)、覆土1からIV群c類(1)、Rフレイク(1)、計4点出土した。

土器 1は覆土から出土したIV群c類である。斜行する沈線による文様が施される。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-60 (図V-182 図版117-3)

位置 f-68 長軸方向 N-88° - E

規模 0.47/0.17×-/0.19×0.45

特徴 VII層で確認した。平面形は円形、坑底は丸く、開いて立ち上がる。西側は1.8m離れて調査範囲外である。北側はH-19HP-2に切られ、東側はSP-1404を切っている。

土層 覆土層：茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 覆土からIV群c類(11)、剥片(6)、たたき石(1)、礫・礫片(1)、計19点出土した。

土器 いずれも覆土から出土したIV群c類。2は小波状を呈する口縁部破片。口唇断面は薄い切出形である。突瘤は施文後に上下につぶされる。地文は整った羽状縄文である。3はすり消しによる文様をもつ底部付近の破片。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-68 (図V-182 図版117-4)

位置 p-70 長軸方向 N-85° - E

規模 1.53/0.58×0.77/0.38×1.15

特徴 VII層で確認した。平面形は楕円形、坑底は平らでほぼ垂直に立ち上がる。北西側の壁は下部に丸みをもって広がり中位に段を持つ。段から上部は平坦に掘り込まれて広がる。北西以外の壁はやや開く。

土層 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：茶褐色パミス：堅く締まったEn-aPを含む。

遺物 覆土からIII群b類(2)、IV群c類(2)、剥片(1)、礫・礫片(1)、覆土2からIV群c類(6)、剥片(3)、石斧(1)、礫・礫片(1)、計17点出土した。

土器 いずれも覆土から出土したIV群c類である。4は口唇断面が角形で、山形の沈線が施される。6は矢羽状の縄文が施される。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

5 土坑

P-77 (図V-182 図版60-8)

位置 k-63 長軸方向 N-110° - E

規模 0.60/0.26×0.55/0.19×0.59

特徴 整地層の調査中に炭化物を含むやや黒味があった黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は北西-南東に長軸をもつ隅丸気味の長円形である。坑底は2段からなり、西側にくぼみをもち、その先端は尖る。西側の壁はほぼ垂直に、東側の壁は中位まで垂直に、中位に段をもち、中位から開き気味に立ち上がる。

土層 覆土1層：黄褐色土、径1~2cmのEn-aPが混じる。少量の炭化物を含む。

遺物 覆土からはIV群c類(1)出土し、P-34(建物10)・90(建物12)・182および1-62の整地2層の破片と接合し、大形の深鉢土器が復原されている(図V-24-17)。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

P-94 (図V-183 図版60-9~図版61-1・図版117-5・6)

位置 1-60・61 長軸方向 N-64° - E

規模 0.84/0.64×0.40/0.23×0.13

特徴 整地層の調査後に検出した。長楕円形の浅い土坑である。坑底は凹凸がある。立ち上がりは緩やかで、壁は開くようである。覆土は埋め戻しと思われる。性格は、規模や形態、長軸方向から建物の出入口の可能性が考えられるが、単独での検出であり、不明である。

土層 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土から、I群b類(1)、III群b類(1)、IV群a類(1)、IV群c類(41)、剥片(4)、石斧(1)、石皿・台石(1)、礫・礫片(3)、計53点出土している。

土器 いずれも覆土から出土したIV群c類である。1は円形モチーフの文様が施された胴部破片。4は口唇断面が角形の波頂部の破片。5はm-61の整地2層から出土した破片と接合した。深鉢の破片で、口唇部から内面全面に炭化物が薄く付着する。

時期 覆土出土の土器から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。

(柳瀬由佳)

P-95 (図V-183)

位置 m-59 長軸方向 (N-101° - E)

規模 (0.44)/0.34×-/0.30×0.36

特徴 P-51調査終了時に、P-51の壁面に現れた断面によって検出した。P-51よりも古いものと思われる。開口部から坑底近くにかけての大部分はP-51によって壊され、西側の壁から坑底にかけてが残存しているのみであるため、平面形などの詳細は不明である。坑底は楕円形に近く、立ち上がりはやや急で、壁は垂直に近いようである。覆土は埋め戻しであろう。性格は、形態・規模が類似し、近接しているP-82が建物44を構成する柱穴であることから、本遺構も柱穴であると考えられる。建物44との関連が想定できる。

土層 暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 重複する遺構との関係から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。

(柳瀬由佳)

P-96 (図V-183 図版61-2・3・図版117-7)

位置 o・p-62 長軸方向 N-65° - E

規模 0.60/0.38×0.58/0.36×0.74

特徴 ほぼ円形の柱穴状の土坑である。整地層の調査終了後、暗褐色土のまとまりとして検出した。P-184と重複し、これより新しい。平面形はほぼ円形である。坑底は丸く、立ち上がりは緩やか。壁は中程まで内傾し、そこから屈曲して開く。形態から、直立する柱穴と思われる。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、Ⅶ層起源のローム。覆土2層：暗褐色土、しまりなく、ボソボソ。ローム粒を含む。覆土3層：暗褐色土、しまりあり。En-aPを含む。覆土4層：暗灰褐色土、ブロック状の暗黄褐色土が多く混入する。少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土からⅣ群b-4類(2)、Ⅳ群c類(9)、剥片(5)、石皿・台石(1)、礫・礫片(1)、計18点出土している。

土器 いずれも覆土から出土したⅣ群b-4類である。6の口唇断面は著しく肥厚して三角形に近くなり、突起でより顕著になる。7は口唇断面が切出形で、口唇直下に2列の刻み列と突瘤が巡る。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の頃である。(柳瀬由佳)

P-99 (図V-183 図版61-4・5・図版117-8)

位置 o-63 長軸方向 N-70° - E

規模 0.81/0.48×0.61/0.25×0.62

特徴 楕円形で深い土坑である。整地層調査後に検出した。坑底は丸みを帯び、立ち上がりは急、壁は垂直に近いが中程で屈曲し、開く。形態と長軸方向から建物の出入口の可能性はあるが、単独での検出であり、不明である。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、En-aPを含む。覆土2層：明褐色土、多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土3層：暗褐色土、多量のEn-aP・ごく少量の炭化物を含む。覆土4層：黄褐色土、～4cmほどのEn-aP主体。覆土5層：灰褐色土、しまりよい。覆土6層：黒褐色土、しまりよい。

遺物 覆土から、Ⅳ群a類(1)、Ⅳ群c類(25)、石鏃(2)、剥片(5)、礫・礫片(2)、計35点出土している。

土器 いずれも覆土から出土したものである。8はⅣ群a類、タブコブ式。器表面には結束のある羽状縄文が、内面には縦走ぎみの縄文が施される。9はⅣ群c類。胴部破片で、区切りのない無文帯を挟み、上下に斜行縄文が施される。

石器 10は石鏃で2a類。先端部は欠損する。11は石鏃の2e類。先端部は欠損する。腹面には剥離面が残る。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

P-106 (図V-184 図版118-1)

位置 j-70 長軸方向 N-110° - E

規模 0.52/0.27×0.47/0.25×0.58

特徴 Ⅶ層で確認した。平面形は円形、坑底は北東側に深く傾斜し開き気味に立ち上がる。壁は上部に開く。東側はP-107を、南側はSP-2142を切っている。

土層 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

土器 いずれも覆土から出土したⅣ群c類。3は注口部である。

5 土坑

遺物 覆土からIV群c類(22)、原石(1)、覆土1からIV群c類(5)、剥片(1)、計29点出土した。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(谷島由貴)

P-119 (図V-184 図版61-6・7・図版118-2)

位置 i-65 長軸方向 N-85° - E

規模 1.15/0.34×0.66/0.60×0.60

特徴 整地層の調査中に黄褐色土の落ち込みを確認した。平面形は西-東に長軸をもち、東側が広がる長円形である。坑底は2段からなり、東側にくぼみをもつ。東側の壁は中位までほぼ垂直に立ち上がり、中位から開き気味に立ち上がる。西側の壁は中位まで開き気味に、坑口付近で段をもち、緩やかに立ち上がる。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、径1~3cmの多量のEn-aPが混じる。少量の炭化物を含む。覆土2層：黒色土、ぼそぼそ、少量のEn-aPが混じる。炭化物を含む。柱根痕か。覆土3層：褐色土、径1~2cmのEn-aPが混じる。

遺物 覆土からはIV群b-4類(1)、IV群c類(37)、剥片(21)、礫・礫片(1)、計60点出土した。

土器 いずれも覆土から出土したものである。5はIV群b-4類。口唇断面は切出形で、口唇直下に2列の刻み列と突瘤が巡る。6はIV群c類。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

P-120 (図V-184 図版62-1・2・図版118-3)

位置 i-65 長軸方向 N-179° - E

規模 0.88/0.66×0.76/0.60×1.08

特徴 整地層の調査中に黄褐色土の落ち込みを確認した。北側が調査区外に接している。平面形は西-東に長軸をもつ長円形で、南東側が尖る。坑底は中央に構築され、長円形で、長軸を北東-南西にもつ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、しまりよい。En-aP・炭化物を含む。覆土2層：黒色土、ぼそぼそ、覆土1層に類似する。覆土3層：En-aP層、崩落土。覆土4層：暗褐色土、ぼそぼそ、炭化物を含む。覆土5層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、多量のEn-aPが混じる。覆土6層：暗黄褐色土、しまりよい。

遺物 覆土からはI群b類(1)、IV群c類(12)、石斧(1)、礫・礫片(1)、計15点出土した。**土器** いずれも覆土から出土したIV群c類である。8は、口唇直下に斜行縄文が施され、これより下位には、施文後になでつけられた横走る縄文が施される。口唇は縄文施文後に鋭角に調整される。口縁部には突瘤が巡る。9はくびれのある深鉢の、くびれ直下の破片。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

P-126 (図V-184 図版118-4)

位置 j-70・76 長軸方向 N-31° - E

規模 0.73/0.48×-/-×0.62

特徴 VII層で確認した。平面形は西半部をP-107に壊され半円形に残存する。坑底は西側がやや深く若干傾斜し開き気味に立ち上がる。壁は上部に開く。西側はP-107に切られ、その壁の上部にかか

って入れ子にSP-2021がある。

土層 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。

覆土3層：黒茶褐色土、En-aPを含む。

遺物 覆土からIV群c類(23)出土した。

土器 4は覆土から出土したIV群c類の注口の肩の破片。弧状の沈線による文様が施され、貼瘤をもつ。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-133 (図V-185)

位置 o-74 長軸方向 N-5° - E

規模 0.80/0.75×0.50/0.38×0.71

特徴 VII層で確認した。平面形は楕円形、坑底はほぼ平坦で垂直に立ち上がる。壁は直立するが西側が若干開く。南側の壁の上部はSP-3183に切られている。支柱穴になるものと思われるが建物は確認できなかった。

土層 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：黒茶褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗茶褐色土、En-aPを多量に含む。

遺物 覆土からIV群c類(1)出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-141 (図V-185 図版62-3・4・図版118-5)

位置 r-64・65 長軸方向 N-10° - E

規模 1.12/1.00×0.98/0.96×0.72

特徴 整地層調査後にVIII層の上面で楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。覆土はEn-aPを多く含む上位の土層と下位のVIII層で構成される。坑底は北側がやや高く、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、南側だけがオーバーハングぎみに立ち上がる。R地区の建物74跡の支柱穴として報告されている(北埋調報第148集参照)。

土層 覆土1層：黒褐色土、腐植土、しまり強くEn-aP多量。覆土2層：黒色土、腐植土、En-aP多量。覆土3層：極暗褐色土、En-aP少量。覆土4層：褐色土、En-aP多量。覆土5層：黒褐色土、En-aP多量。

遺物 覆土中からIV群b-4類(2)、IV群c類(78)、剥片(5)、礫・礫片(6)計91点出土した。

土器 いずれも覆土から出土したものである。1はIV群b-4類。口唇断面は丸みのある切出形で、口唇直下に2列の刻み列と、それよりやや下がった位置で突瘤がめぐる。2~4はIV群c類。3は斜行縄文と突瘤が施されるが、摩滅が激しく、縄文は判然としない。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期中葉IV群b-4類~後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。

(笠原 興)

5 土坑

P-144 (図V-185)

位置 n-61 長軸方向 N-152° - E

規模 (0.56) / (0.26) × (0.46) / 0.22 × 0.25

特徴 整地層調査後のⅧ層でP-143・145とともに検出した。P-143 (建物44) およびSP-1000と重複し、これらより古い。重複しないP-145とは覆土の状況が異なることから、P-145と同時併存はしていないと考えられる。平面形は、P-143およびSP-1000で一部壊されているが、楕円形であると思われる。坑底は平坦で立ち上がりはやや緩やか、壁はやや開く。ほぼ同一の形態・規模をもち、重複するP-143が建物44を構成する柱穴であることから、本遺構も同様の柱穴であると考えられる。

土層 覆土1層：暗灰褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗灰黄褐色土、En-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、堅くしまる。

遺物 出土していない。

時期 覆土の状況や重複する遺構との関係から、縄文時代後期後葉IV群c類の頃と思われる。

(柳瀬由佳)

P-145 (図V-185 図版62-5・6)

位置 n-61 長軸方向 N-153° - E

規模 0.62 / 0.40 × 0.59 / 0.32 × 0.32

特徴 整地層調査後のⅧ層でP-143・144とともに検出した。P-143 (建物44) と重複し、これより古い。覆土の状況から、重複しないP-144とも同時併存はしていないと考えられる。平面形は、P-143で一部壊されているが、ほぼ円形であると思われる。坑底はやや丸みがあり、立ち上がりはやや緩やか、壁は垂直に近い。覆土は埋め戻しと思われる。ほぼ同一の形態・規模で重複するP-143が建物44を構成する柱穴であることから、本遺構も同様の柱穴であると考えられる。

土層 覆土1層：暗褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、大量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、堅くしまる。土壌と同量のEn-aPを含む。覆土4層：黒褐色土。

遺物 覆土から、IV群c類が1点出土している。

時期 覆土出土の遺物や、重複する遺構との関係から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。

(柳瀬由佳)

P-152 (図V-185 図版60-6・図版117-1)

位置 n-65 長軸方向 N-19° - E

規模 1.08 / 0.56 × 0.81 / 0.53 × 0.74

特徴 整地層調査後にⅧ層の上面で不整円形の黒色土の落ち込みを確認した。覆土は腐植土主体の上位と下位のⅧ層で構成される。坑底はやや丸みを持ち、壁はほぼ垂直に立ち上がり、開口部で外側に大きく開く。

土層 覆土1層：黒褐色土、腐植土、しまり弱い。覆土2層：褐色土、腐植土、粘性強い。

覆土3層：赤褐色土、粘性強い。覆土4層：黒褐色土、En-aP少量。覆土5層：暗赤褐色土、En-aP多量。覆土6層：黒褐色土、粘性強く、En-aP少量。覆土7層：黒褐色土、粘性強く、En-aP多量。

覆土8層：黒色土、粘性強く、En-aP多量。

遺物 覆土中からⅢ群b類(1)、IV群c類(5)、剥片(4)、計10点出土した。

土器 5は覆土から出土した、波状口縁を呈するIV群c類。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-155 (図V-186 図版62-8~図版63-1・図版118-7)

位置 p-66 長軸方向 N-7°-E

規模 1.25/0.86×0.71/0.43×0.68

特徴 整地層調査後にⅦ層の上面で不整形の黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は腐植土主体で、下位にはEn-aPの混じる暗褐色土で構成される。坑底の最深部は南側で、壁は北に向かって浅くなりながら立ち上がる。

土層 覆土1層：黒褐色土、腐植土、しまりやや弱い。覆土2層：暗褐色土、En-aP少量。

遺物 覆土中からIV群c類(13)、石槍(1)、剥片(12)、たたき石(1)、原石(1)、礫・礫片(1)計29点出土した。

土器 いずれも覆土から出土したものである。1はIV群b-4類。口唇断面は切出形で、口唇直下に3列の刻み列がめぐる。緩い波状口縁を呈すると思われる。波頂部には突起が剥落した痕跡がある。

2~4はIV群c類。3は器表に炭化物が付着する。4は波状口縁で、波頂部を欠損する。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉、IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-157 (図V-186 図版63-2)

位置 i-65 長軸方向 N-150°-E

規模 -/-×0.71/0.58×0.98

特徴 整地層の調査中に黄褐色土の落ち込みを確認した。北側が調査区外に接している。平面形は北西側が調査区外に接しているため不明であるが北西-南東に長軸をもつ長円形になるものと思われる。坑底は南東寄りに構築され、平面形は長円形で平坦である。南東側の壁はほぼ垂直に立ち上がる。北西側の壁は不明である。規模・位置からP-120と組み合わせられ、調査区外に想定される2カ所の柱穴状ピットと共に建物になる可能性がある。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、しまりよい。径1~3cmのEn-aPが多量に含む。覆土2層：褐色土、ぼそぼそ、径1cmほどのEn-aPを含む。覆土3層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、覆土2層より赤味が強く、径1~3cmのEn-aPが多量に含む。覆土4層：褐色土、ぼそぼそ、覆土2層に類似。覆土5層：En-aP層、崩落土。覆土6層：暗褐色土、ぼそぼそ、少量の炭化物を含む。覆土7層：暗黄褐色土、ぼそぼそ、径3cmほどのEn-aPを含む。覆土8層：褐色土、しまりよい。覆土9層：黄褐色土、しまりよい。En-aPを含む。

遺物 覆土からはIV群c類(2)出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

P-160 (図V-186 図版63-3・4)

位置 n-61 長軸方向 N-151°-E

規模 0.57/0.44×0.54/0.42×0.49

特徴 円形の柱穴状の土坑である。SP-967と重複しこれより新しく、ともに整地層に相当する覆土1層に覆われている。坑底はやや丸みを帯びる。立ち上がりは急で、壁は垂直に近い。形態から、直立する柱穴である。

土層 覆土1層：暗灰褐色土、やや多量のEn-aPを含む。覆土2層：褐色土、多量のEn-aPを含む。

5 土坑

覆土3層：褐色土、しまり弱く、ボソボソ。多量のEn-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 検出面や重複する遺構との関係から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。
(柳瀬由佳)

P-167 (図V-186 図版63-7・8)

位置 1・m-66 長軸方向 N-142.1° - E

規模 0.94/0.28×0.57/0.31×0.53

特徴 VIII層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、坑底は平らである。南東側が大きく開きながら立ち上がる。P-199を切る。SP-1980と切り合い関係にあるが、新旧は不明である。遺構の性格は土坑の下端が円形であること、En-aPを含む黒褐色～暗褐色土主体の覆土が埋め戻し土と考えられることから、柱穴と判断した。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

土層 覆土1層：暗褐色土、En-aPをやや多く含む。覆土2層：黒褐色土、やや粘質。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：暗褐色土、En-aP主体で、黒褐色土を多く含む。覆土5層：褐色～黄褐色土、En-aL主体。

遺物 覆土からIV群c類(2)計2点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。
(柳瀬由佳)

P-182 (図V-187 図版64-1・2・図版119-1)

位置 1-62 長軸方向 N-0° - E

規模 0.70/0.30×0.72/0.29×0.40

特徴 ほぼ円形の土坑である。下部で段をもっており、片流れ状に近い形態を呈する。検出面は整地層調査後のVIII層である。平面形はほぼ円形である。坑底は楕円形で、ほぼ平坦。立ち上がりは急で、壁は坑底近くでは垂直に近いが、下部で屈曲し、そこから湾曲しながら開く。覆土はEn-aPの混入量が異なるが、褐色土単層に近い。やや小形であるが、片流れ状に近い形状から、柱穴と思われる。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、大量のEn-aPを含む。覆土4層：暗褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土5層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

土層A：暗褐色土、大量のEn-aPを含む。

遺物 坑底近くから、IV群c類の胴部～底部付近の大破片が出土した。接合作業の結果、P-34(建物10)から出土した口縁部の大破片、P-77・90(建物12)および1-62の整地2層の破片と接合し、大形の深鉢土器が復原された。

覆土から、IV群c類(38)、礫・礫片(4)、計42点出土している。

土器 とともにIV群c類である。1は、覆土から出土した下半部の大破片が、P-34(建物10)の覆土から出土した上半部の大破片、P-77・90(建物12)の覆土出土の破片、および1-62の整地2層から出土した破片と接合、復原されたものである。くびれをもつ大形の深鉢である。詳細は建物10で記述している(図V-24-17)。2は覆土から出土した口縁部破片。

時期 覆土出土の遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。
(柳瀬由佳)

P-183 (図V-188 図版64-3・4)

位置 p-63・64 長軸方向 N-138° - E

規模 0.71/0.37×0.59/0.32×0.34

特徴 小形の、いわゆる片流れ状の土坑である。整地層調査後に検出した。開口部の平面形は楕円形である。坑底は円形で平坦、立ち上がりは概して急である。壁は垂直に近いが、北側では屈曲しながら開き、片流れ状を呈する。形態から、柱穴である。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 覆土から、IV群c類(10)、剥片(7)、原石(1)、石斧(2)、計20点出土している。

時期 覆土出土の遺物などから、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

P-184 (図V-188 図版64-5・6)

位置 o・p-62 長軸方向 N-94° - E

規模 (0.28)/(0.21)×0.37/0.21×0.34

特徴 整地層の調査後に検出した。P-96と重複し、これより古い。東側をP-96に壊されているが、平面形は楕円形になるものと思われる。坑底は平坦で南に傾斜する。立ち上がりは概して緩やかで、壁はやや開く。形態から、柱穴の可能性はある。

土層 覆土1層：褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、しまりやや弱い。やや多量のEn-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 覆土の状態や重複する遺構との関係から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式のと思われる。

(柳瀬由佳)

P-191 (図V-188 図版119-2)

位置 m-66 長軸方向 N-69.1° - E

規模 0.82/0.45×0.45/0.27×0.47

特徴 VIII層上面の調査で検出した。平面形は細長い楕円形で、坑底は平らである。坑底の東側がやや高い。断面図を取り忘れたため、土層の堆積状態は不明であるが、平面形が細長い楕円形であること、深さが浅いことから、出入り口を構成する柱穴の可能性が高い。

土層 図面なし。

遺物 覆土からIII群b類(1)、IV群c類(20)、石鏃(1)、剥片(11)、礫・礫片(3)計36点出土した。

土器 とともに覆土から出土したIV群c類である。2は、口唇断面を鋭角に整形した後に縄文が施される。

石器 3は石鏃で2a類。側縁がやや内湾する。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(柳瀬由佳)

P-192 (図V-188)

位置 m-66 長軸方向 N-68.1° - E

規模 0.65/0.50×0.50/0.34×0.15

特徴 VIII層上面の調査で検出した。平面形は細長い楕円形で、坑底は平らである。断面図を取り忘れたため、土層の堆積状態は不明であるが、P-191と同様に、平面形が細長い楕円形であること、深

5 土坑

さが浅いことから、出入り口を構成する柱穴の可能性が高い。

土層 図面なし。

遺物 出土していない。

時期 不明。

(柳瀬由佳)

P-193 (図V-188 図版64-7)

位置 m-66 長軸方向 N-98.1° - E

規模 (0.78)/0.32×(0.50)/0.20×0.74

特徴 VIII層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、坑底はやや丸味をもつ。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、坑口付近で大きく開く。P-197を切る。遺構の性格は土坑の下端が円形であること、En-aPを含む黒褐色～暗褐色土主体の覆土が埋め戻し土と考えられることから、柱穴と判断した。土層2～4が柱穴掘方、土層1が抜き取り痕である。

土層 覆土1層：黒褐色～暗褐色土、En-aP多く含み、炭化物、焼土粒を極少量含む。覆土2層：黒褐色～暗褐色土、ややソフト。En-aPを少量含む。覆土3層：暗褐色～褐色土、ややソフト。保水性なし。En-aPを少量含む。覆土4層：暗褐色土、ややハード：En-aPを多く含む。

遺物 出土していない。

時期 不明。

(柳瀬由佳)

P-197 (図V-188 図版119-3)

位置 m-65 長軸方向 N-104.1° - E

規模 (0.35)/0.18×(0.27)/0.15×0.57

特徴 VIII層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、坑底はやや丸味をもつ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。P-193に切られる。遺構の性格は土坑の下端が円形であること、En-aPを含む黒褐色～暗褐色土主体の覆土が埋め戻し土と考えられることから、柱穴と判断した。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

土層 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒褐色～暗褐色土、ややソフト。保水性なし。En-aPを少量含む。覆土3層：黒褐色～暗褐色土、En-aLを少量含む。

遺物 覆土からIV群c類(1)、剥片(7)計8点出土した。

土器 1は覆土から出土したIV群c類の胴部破片である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(柳瀬由佳)

P-198 (図V-189 図版64-8～図版65-1)

位置 m-62・63 長軸方向 N-36.1° - E

規模 1.08/0.80×0.85/0.51×0.52

特徴 VIII層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、坑底はやや丸味をもつ。開き気味に立ち上がる。SP-3494を切り、SP-3651に切られる。遺構の性格は形状が楕円形であること、En-aPを含む黒褐色～暗褐色土主体の覆土が埋め戻し土と考えられることから、墓壇もしくは柱穴の可能性が高い。

土層 覆土1層：褐色土、ややハード。En-aPを多く含む。覆土2層：暗褐色～褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：黄褐色土、純粋なEn-aP主体。

遺物 出土していない。

時期 不明。

(柳瀬由佳)

P-202 (図V-189 図版119-4)

位置 m-73 長軸方向 -

規模 (0.75) / (0.16) × 0.92 / 0.73 × 0.85

特徴 VII層で確認した。平面形は東半部を坑底までP-201に壊され半円形に残存する。坑底はほぼ平らで開き気味に緩やかに立ち上がる。壁は開き気味で上部は斜めに開く。北西側の壁上部は段を有し平坦に広がる。南東側はP-201に切られ、北西側はP-203を切っている。支柱穴になるものと思われるが伴う建物は確認できなかった。

土層 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、En-aPに暗褐色土を含む。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 覆土からIV群b-4類(1)、IV群c類(65)、剥片(2)、原石(1)、礫・礫片(1)、計70点出土した。

土器 いずれも覆土から出土したIV群c類である。1は、胎土中に細長い葉の痕跡が認められる。2は波状口縁を呈し、波頂部の上面観円形の突起に上からの刺突が加えられる。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-211 (図V-189)

位置 q-63 長軸方向 N-176° - E

規模 0.71 / 0.42 × 0.53 / 0.23 × 0.51

特徴 整地層調査後にVIII層の上面で楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。覆土は腐植土と、VIII層主体の褐色土で構成される。坑底は南側がやや深く、北側が浅い。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、北側の開口部が外側に開く。土層の断面から埋め戻した後に再構築されたものと思われる。

土層 覆土1層：黒色土、腐植土、しまりやや弱い。覆土2層：褐色土、En-aP多量。

遺物 覆土中からIV群c類が1点出土した。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-213 (図V-189 図版65-3・4・図版119-5)

位置 o-66 長軸方向 N-158° - E

規模 0.73 / 0.35 × 0.61 / 0.25 × 0.68

特徴 整地層調査後にVIII層の上面で不整円形の黒色土の落ち込みを確認した。覆土は上位の腐植土と、下位のVIII層主体の黒褐色土で構成される。坑底は北側が深く杭状で、南側は平坦で浅い。壁は南側がほぼ垂直に立上るのに対して、北側はやや開きぎみに立ち上がる。調査の結果、再構築された柱穴であると思われる。

土層 覆土1層：黒色土、腐植土、粘性強い。覆土2層：黒褐色土、En-aP多量。覆土3層：褐色土、En-aP多量。

遺物 覆土中からIV群c類が(1)、剥片(1)、計2点出土した。

土器 4は覆土から出土したIV群c類。無文の口縁部で、口唇の調整が器表面にかぶさり、貼付帯のように見えている。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

5 土坑

P-212 (図V-190 図版65-2・図版119-6)

位置 o-66 長軸方向 N-160° - E

規模 1.38/1.19×1.02/0.61×0.74

特徴 整地層調査後にⅧ層の上面で長円形の黒色土の落ち込みを確認した。南側はR地区にかかる。R地区との境に土層観察用のベルトを設定して調査を行った。覆土は上位の腐植土と、下位のⅧ層主体の褐色土で構成される。坑底は南側に向かって深く、北側が浅い。壁は緩やかに立上り、開口部が外側に開く。南側はR地区のP-27に切られている。性格は柱穴に相当するものと考えられ、R地区の建物跡71の主柱穴として報告されている(北埋調報第148集参照)。

土層 覆土1層：黒色土、腐植土、しまりやや弱い。覆土2層：褐色土、En-aP多量。

遺物 覆土中からIV群c類が(38)、剥片(5)、石斧(1)計44点出土した。

土器 ともに覆土から出土したIV群c類である。1は小波状を呈し、口唇断面は薄い切出形である。充填縄文による文様が施される。2も同じく小波状を呈し、口唇断面は切出形である。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-218 (図V-190 図版65-5・6・図版119-7)

位置 p-67 長軸方向 N-77° - E

規模 0.91/0.44×(0.84)/(0.36)×1.18

特徴 整地層調査後にⅧ層の上面で南北方向に広がる赤黒色土の落ち込みを確認した。複数の遺構の切り合いが想定されたため、南北方向にトレンチを設定して調査を行った。その結果、4基の土坑(P-218~220, 293)が重複していることがわかった。うち、P-219が最も新しい。北側のP-220より新しく、南側の293より古い。覆土は主に赤黒色土と、その下位のにぶい赤褐色土で構成される。土層の堆積は埋め戻しの可能性が高い。坑底は深く、Ⅷ層中に認められる酸化鉄の盤層の影響によって堅くしまる部位まで達している。P-220を掘り込んだ壁はオーバーハングぎみに立ち上がる。

R地区の建物跡70、または71の主柱穴として報告されている(北埋調報第148集参照)。

土層 覆土1層：赤黒色土、腐植土、粘性強い。覆土2層：にぶい赤褐色土、En-aP多量。覆土3層：赤黒色土、En-aP多量。

遺物 覆土中からIV群c類が(23)、剥片(5)、礫・礫片(7)、計35点出土した。

土器 3~5は覆土から、4は坑底から出土したIV群c類である。3は波状口縁を呈する。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-219 (図V-190 図版119-8)

位置 p-67 長軸方向 N-81° - E

規模 0.84/0.47×0.66/0.36×0.98

特徴 Ⅷ層上面で広範囲の落ち込みを確認した。複数の遺構の切り合いが想定されたため、南北方向にトレンチを設定して調査を行った。その結果、4基の土坑(P-218~220, 293)が重複していることがわかった。4基の土坑中最も新しいものである。覆土は主に、Ⅷ層が主体で、埋め戻しによるものと思われる。坑底部は、酸化鉄の盤層の影響によって堅くしまる部位まで達している。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、全体がやや南側に傾斜している。R地区の建物跡68の主柱穴として報告されている(北埋調報第148集参照)。

土層 覆土1層：黒色土、腐植土、粘性強い。覆土2層：赤黒色土、En-aP多量。覆土3層：黒褐色土、En-aP多量。

遺物 覆土中からIV群c類が(18)、石鏃(1)、剥片(9)、礫・礫片(3)、計31点出土した。

土器 とともに覆土から出土したIV群c類である。7は注口の肩部の破片。現存で2段の貼瘤をもち、沈線で区切られた縄文帯による、鋸歯状の文様が施される。器厚は薄く、内面調整は比較的丁寧である。

石器 8は石鏃で2c類。床面直上から出土した。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-220 (図V-191)

位置 p-67 長軸方向 N-51° - E

規模 1.23/0.49×1.13/0.49×0.73

特徴 VIII層上面で広範囲の落ち込みを確認した。複数の遺構の切り合いが想定されたため、南北方向にトレンチを設定して調査を行った。その結果、4基の土坑(P-218~220, 293)が重複していることがわかった。4基の土坑中最も古い土坑である。覆土は主に腐植土と、VIII層で構成されている。堆積は埋め戻しの可能性が高い。坑底部は、酸化鉄の盤層の影響によって堅くしまる部位まで達している。壁は北東側に傾斜し、なだらかに立ち上がる。

土層 覆土1層：黒褐色土、腐植土、粘性高い。覆土2層：黒色土、En-aP多量。覆土3層：黒褐色土、En-aP多量。

遺物 覆土中からIV群c類が(7)、スクレイパー(1)、剥片(8)、礫・礫片(1)計17点出土した。

時期 覆土中の遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

P-222 (図V-191)

位置 p-72 長軸方向 N-155° - E

規模 0.49/0.22×0.41/0.19×0.58

特徴 VII層で確認した。平面形は楕円形、坑底は丸く開き気味に立ち上がる。西側の壁は下半が斜めに開き東側は上半が開く。主柱穴と思われるが建物は確認できなかった。

土層 覆土1層：暗茶褐色土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色土。

遺物 覆土からIV群c類(1)、覆土1からIV群c類(6)、剥片(1)、礫・礫片(1)、計9点出土した。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-223 (図V-191 図版120-1)

位置 p-72 長軸方向 N-30° - E

規模 0.42/0.29×0.40/0.38×0.67

特徴 VII層で確認した。平面形は楕円形、坑底はほぼ平らでやや開き気味に立ち上がる。南西側の壁は斜めに開くが他は直立する。北東側はS P-3157を切っている。主柱穴と思われるが建物は確認できなかった。

5 土坑

土 層 覆土1層：暗褐色ローム質土、En-aPを含む。覆土2層：暗褐色ローム質土、En-aPを少量含む。

遺 物 覆土からIV群c類(2)、覆土1からIV群c類(1)、計3点出土した。

土 器 1は覆土から出土したIV群c類である。波状口縁を呈する。

時 期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-244 (図V-191 図版65-7・図版120-2)

位 置 m・n-64 長軸方向 N-108° -E

規 模 0.71/0.39×0.64/0.38×0.65

特 徴 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底は平らである。坑底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、上部へ行くほど開き気味なる。遺構の性格は形状が円形であること、En-aPを含む黒褐色～暗褐色土主体の覆土が埋め戻し土と考えられることから、柱穴と判断した。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

土 層 覆土1層：黒褐色土、やや粘質。En-aPをやや多く含む。覆土2層：暗褐色土、En-aL主体でEn-aPを少量含む。覆土3層：黒～黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：暗褐色土、En-aL主体でEn-aPを少量含む。覆土5層：黒褐色土、やや粘質。覆土6層：にぶい黄褐色土、ややハード。En-aP主体で、En-aLを多く含む。覆土7層：褐色土、ハード。En-aL主体。

遺 物 覆土からIV群c類(13)、石斧(1)、礫・礫片(1)、計15点出土した。

石 器 2は石斧で剥離による形成が認められる。

時 期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(柳瀬由佳)

P-248 (図V-192)

位 置 n・o-64 長軸方向 N-169.1° -E

規 模 (0.75)/(0.39)×0.73/0.40×0.96

特 徴 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は上端が南側に広がる楕円形で、坑底は平らである。坑底付近ではほぼ垂直に立ち上がり、検出面から2/3ほどの深さから上の南側では凹形のラインを描いて立ち上がる。P-195に切られる。遺構の性格は土坑の下端が円形であること、En-aPを含む黒褐色～暗褐色土主体の覆土が埋め戻し土と考えられることから、柱穴と判断した。土層4が柱穴掘方、土層1～3が抜き取り痕である。

土 層 覆土1層：黒褐色土、ややハード。細かいEn-aPをやや多く含む。覆土2層：褐色～黄褐色土、ややソフト。純粋なEn-aP主体。覆土3層：黒褐色～暗褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：黒褐色土、ソフト。保水性なし。En-aPを多く含む。

遺 物 出土していない。

時 期 不明。

(柳瀬由佳)

P-249 (図V-192)

位 置 m・n-64 長軸方向 N-57° -E

規 模 0.83/0.53×(0.42)/(0.34)×1.10

特 徴 Ⅷ層上面の調査で検出した。平面形は円形で、坑底はやや丸味をもつ。開き気味に立ち上が

る。P-243に切られる。遺構の性格は形状が円形であること、En-aPを含む黒褐色～暗褐色土主体の覆土が埋め戻し土と考えられることから、柱穴と判断した。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

土層 覆土1層：黒褐色～暗褐色土、ソフト。En-aPをやや多く含む。覆土2層：黒褐色～暗褐色土、En-aPをやや多く含む。覆土3層：黄褐色土、ややソフト。En-aP主体で黒褐色の砂粒を少量含む。覆土4層：暗褐色土、ややソフト。En-aP、炭化物を少量含む。

遺物 出土していない。

時期 不明。

(柳瀬由佳)

P-250 (図V-192 図版66-1・2)

位置 P-63 長軸方向 N-85.6° - E

規模 0.68/0.45×0.47/0.27×0.46

特徴 VIII層上面の調査で検出した。平面形は楕円形で、坑底はほぼ平らである。開き気味に立ち上がる。遺構の性格は土坑の下端が円形であること、En-aPを含む黒褐色～暗褐色土主体の覆土が埋め戻し土と考えられることから、柱穴と判断した。柱痕、抜き取り痕は確認できない。

土層 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黒褐色～暗褐色土、En-aPを多く含み、炭化物を少量含む。覆土3層：黒褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：黒褐色～暗褐色土、やや粘質。En-aPをやや多く含む。覆土5層：褐色土、ややハード。En-aP主体で、En-aPをやや多く含む。

遺物 覆土からIV群c類(2)計2点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。

(柳瀬由佳)

P-261 (図V-192 図版120-4)

位置 P-70 長軸方向 -

規模 0.50/0.31×0.46/0.30×0.34

特徴 VII層で確認した。平面形は円形、坑底はほぼ平らでやや開き気味に緩やかに立ち上がる。壁は直立する。

土層 覆土1層：黒褐色土、En-aPを少量含む。

遺物 覆土からIV群c類(6)、剥片(3)、覆土1からIV群c類(4)、計13点出土した。

土器 とともに覆土から出土したIV群c類で、同一個体である。口唇の調整が外側へ張り出し、口唇断面が丸みのある角形になる。

時期 遺構の形態や出土した遺物から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。

(谷島由貴)

P-269 (図V-192 図版66-3・図版120-3)

位置 P-67 長軸方向 N-120° - E

規模 0.83/0.54×0.81/0.48×0.61

特徴 整地層調査後のVIII層上面で検出した。平面形は円形で、坑底は丸みを帯び、壁は開きぎみに立ち上がる。開口部付近ではさらに外側を開く。覆土は埋め戻し状で、腐植土の多く混じるVIII層で構成される。

土層 覆土1層：黒褐色土、しまりやや弱い。En-aPを多く含む。覆土2層：暗赤褐色土、しまり強い。En-aPを多く含む。

5 土坑

遺物 覆土からIV群c類(13)、剥片(2)、石斧(1)計16点出土した。

土器 3は覆土から出土したIV群c類の口縁部破片である。

時期 覆土中の遺物と確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。

(笠原 興)

P-271 (図V-193 図版66-4・5・図版120-5)

位置 h-63 長軸方向 N-150° - E

規模 0.88/0.26×0.46/0.24×0.60

特徴 整地層の調査中に明黄褐色土の落ち込みを確認した。SP-4528・4529を壊して構築している。平面形は北西-南東に長軸をもつヒョウタン形である。坑底は南東寄り構築され、平坦で、平面形は北西-南東に長軸をもつ長円形である。北西側の壁は中位まで直立気味に、中位から大きく開き気味に立ち上がる。南東側は開き気味に立ち上がる。

土層 覆土1層：明黄褐色土、ぼそぼそ、径1~2cmほどのEn-aPを多量に含む。

遺物 覆土からはIV群c類(15)、剥片(5)計20点出土した。

土器 ともに覆土から出土したIV群c類。2はくびれのある深鉢の破片である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

P-275 (図V-193 図版66-6)

位置 i-62 長軸方向 N-78° - E

規模 0.80/0.72×0.50/0.36×0.58

特徴 整地層の調査中に暗黄褐色土の落ち込みを確認した。SP-3533・5002によって壊されている。平面形は西-東に長軸をもつヒョウタン形である。坑底は西寄り構築され、両側がわずかにくぼむ。平面形は西-東に長軸をもつ長円形である。壁は坑底から丸味をもちながらわずかにオーバーハング気味に立ち上がる。形状から建物の出入口の可能性はある。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、径1~3cmのEn-aPが多量に含む。覆土2層：暗黄褐色土、径1cmほどのEn-aPを多量に含む。覆土3層：暗黄褐色土、En-aPが多量に混じる。

遺物 覆土からはIV群c類(11)、剥片(1)計12点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

P-279 (図V-193 図版66-7)

位置 i-63 長軸方向 N-186° - E

規模 0.56/0.36×0.49/0.31×0.93

特徴 P-50の西側壁部分から確認された。P-50によって上部が壊されている。平面形はほぼ西-東に長軸をもつ長円形である。壁は西側に向かって斜位に掘り込まれている。坑底の平面形は西-東に長軸をもつ長円形である。両側がわずかにくぼむ。P-50を上部構造とする柱穴状ピットの可能性がある。

土層 覆土1層：暗赤褐色土パミス層、やや赤味を帯びたEn-aPが主体、少量の黒色土を含む。

遺物 遺物は出土しなかった。

時期 遺物は出土しなかったが縄文時代後期後葉IV群c類堂林式の頃の可能性が高い。(熊谷仁志)

P-280 (図V-193 図版66-8)

位置 j-62・63 長軸方向 N-56° - E

規模 0.86/0.42×0.68/0.42×0.15

特徴 VII層の調査中に暗黄褐色土の落ち込みを確認した。SP-1901・2998・2999によって壊されている。平面形は北東-南西に長軸をもつ長円形である。坑底は平坦で、わずかに北東寄りに構築されている。平面形は北東-南西に長軸をもつ不整形である。壁は坑底からわずかに開き気味に立ち上がる。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、黒色土に多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土パミス層、En-aPが主体、少量の黒色土を含む。

遺物 遺物は出土しなかった。

時期 遺物は出土しなかったが縄文時代後期後葉IV群c類堂林式の頃の可能性が高い。(熊谷仁志)

(3) ロームピット (図V-195~196 図版67)

ロームピットは、32ヵ所検出された。分布は、調査区全体から散在的に検出されている。性格については、まだ不明な点が多く、柱穴とする考え、古い時期の木立枯れとする考えがある。同様なものはキウス4遺跡の他地区からも検出され、周辺のキウス5遺跡・キウス7遺跡からも検出され、キウス7遺跡では早期末葉のコッタロ式・中茶路式の住居跡によって壊されていることが確認されている。なお、今回の調査では、検出したもののうち9基を調査し、その多くは検出地点・検出面の規模を記録するとどめた。平面形は円形・長円形・不整形円形等があり、規模も様々である。覆土はEn-aLやEn-aPが主体である。調査を実施したロームピットのいずれからも遺物は出土していない。

P-270 (図V-195 図版67-1)

位置 n・o-65 長軸方向 N-30° - E

規模 0.72/0.25×0.61/0.24×1.21

特徴 VIII層の上面で橙色のローム質土の落ち込みを確認した。形状は円筒形で、覆土は堅くしまる。周囲のVIII層に乱れはない。遺物などは出土していない。

土層 覆土1層：橙色土、粘性強い。覆土2層：橙色土、En-aP多量。

時期 不明。(笠原 興)

P-284 (図V-195 図版67-2)

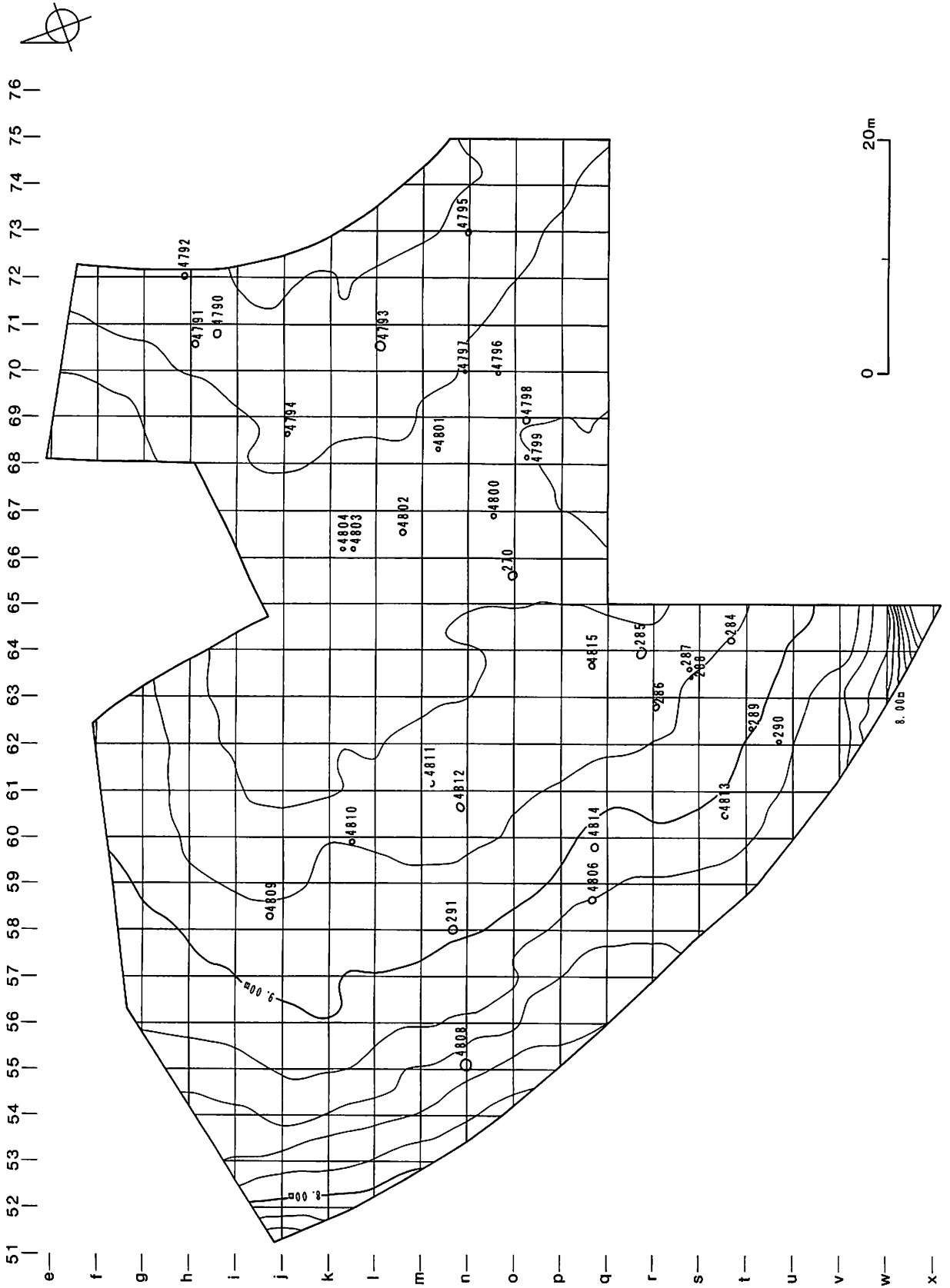
位置 s-64 長軸方向 N-108° - E

規模 0.72/0.42×0.69/0.31×1.06

特徴 VIII層の上面で明赤褐色のローム質土の落ち込みを確認した。形状は円筒形で、覆土は堅くしまる。周囲のVIII層に乱れはない。遺物などは出土していない。SP-4303に切られる。

土層 覆土1層：鈍い赤褐色土、粘性強い。覆土2層：明赤褐色土、粘性強い。覆土3層：明赤褐色土、En-aP多量。覆土4層：橙色土、粘性強い。覆土5層：黒色土、堅く、帯状に堆積する。覆土6層：明褐色土、粘性強い。En-aP多量。

時期 不明。(笠原 興)



図III-9 ロームピット配置

P-285 (図V-195 図版67-3)

位置 q-63・64 長軸方向 N-146° - E

規模 0.94/0.32×0.82/0.32×1.16

特徴 Ⅷ層の上面で円形の橙色土のローム質土の落ち込みを確認した。形状は円筒形で、覆土は堅くしまる。周囲のⅧ層に乱れはない。遺物などは出土していない。

土層 覆土1層：橙色土、粘性強い。覆土2層：橙色土、粘性強い。覆土3層：黒色土、堅く、帯状に堆積する。覆土4層：橙色土、粘性強い。

時期 不明。 (笠原 興)

P-286 (図V-195 図版67-4)

位置 r-62 長軸方向 N-148° - E

規模 0.52/0.18×0.39/0.17×0.94

特徴 Ⅷ層の上面で円形の橙色土のローム質土の落ち込みを確認した。形状は円筒形で、覆土は堅くしまる。周囲のⅧ層に乱れはない。遺物などは出土していない。

土層 覆土1層：橙色土、粘性強い。覆土2層：橙色土、軟質。覆土3層：黒色土、堅く、帯状に堆積する。覆土4層：橙色土、粘性強い。

時期 不明。 (笠原 興)

P-287 (図V-195 図版67-5)

位置 r-63 長軸方向 N-130° - E

規模 0.48/0.13×0.42/0.12×1.13

特徴 Ⅷ層の上面で円形の明褐色土のローム質土の落ち込みを確認した。形状は円筒形で、覆土は堅くしまる。周囲のⅧ層に乱れはない。遺物などは出土していない。

土層 覆土1層：明褐色土、粘性強い。覆土2層：黒色土、堅く、帯状に堆積する。覆土3層：明褐色土、粘性強い。覆土4層：橙色土、粘性強い。

時期 不明。 (笠原 興)

P-288 (図V-196 図版67-6)

位置 r-63 長軸方向 N-60° - E

規模 0.32/0.08×0.28/0.07×1.04

特徴 Ⅷ層の上面で円形の明褐色土のローム質土の落ち込みを確認した。形状は円筒形で、覆土は堅く締る。周囲のⅧ層に乱れはない。遺物などは出土していない。

土層 覆土1層：明褐色土、粘性強い。En-aP多量。覆土2層：橙色土、En-aP多量。覆土3層：堅く、帯状に堆積する。

時期 不明。 (笠原 興)

P-289 (図V-196 図版67-7)

位置 t-62 長軸方向 N-139° - E

規模 0.35/0.10×0.33/0.10×1.23

特徴 Ⅷ層の上面で円形の明赤褐色土のローム質土の落ち込みを確認した。形状は杭状で、Ⅸ層の

5 土坑

上面まで達している。覆土は堅くしまり、周囲のⅧ層に乱れない。遺物などは出土していない。

土層 覆土1層：明赤褐色土、粘性強い。En-aP多量。覆土2層：黒色土、堅く、帯状に堆積する。
覆土3層：褐灰色土、水分を多く含む。

時期 不明。

(笠原 興)

P-290 (図V-196 図版67-8)

位置 t-62 長軸方向 N-137° - E

規模 0.36/0.12×0.33/0.11×1.08

特徴 Ⅷ層の上面で円形の明褐色土のローム質土の落ち込みを確認した。形状は杭状に近い。覆土は堅くしまり、周囲のⅧ層に乱れない。遺物などは出土していない。

土層 覆土1層：明褐色土、粘性強い。En-aP多量。覆土2層：橙色土、En-aP多量。覆土3層：黒色土、堅く、帯状に堆積する。覆土4層：暗赤褐色土。酸化する。

時期 不明。

(笠原 興)

P-291 (図V-196)

位置 m-57・58 長軸方向 N-95° - E

規模 0.73/0.35×0.72/0.23×0.92

特徴 平面形は楕円形、坑底は丸く緩やかに立ち上がる。覆土の堆積状況は人為的な趣がない。

土層 覆土1層：黄褐色パミス。覆土2層：灰黒色パミス。覆土3層：黒褐色パミス。

時期 不明。

(谷島由貴)

6 焼土 (図V-198~204 図版120-6~121-7)

焼土は52ヵ所検出された。ここで扱うのは、主に建物としての組み合わせが確認できなかった焼土である。分布は、調査区東側には認められず、調査区中央部を南北に延びる大形の柱穴をもつ建物列とその以西の小・中の柱穴からなる建物列の分布との重なりが認められている。検出面はV層中、盛土遺構中、整地層中、VI層上面等である。平面形は楕円形・不整形円形・不整形等があり、規模も様々である。焼土中からは多くの獣骨・魚骨の焼骨が得られている(第VII章5節参照)。時期は、一部縄文時代早期I群b類の可能性が否定できないものもあるが、そのほとんどは、縄文時代後期後葉IV群c類堂林式の時期のものと考えられる。

F-3 (図V-198 図版120-6)

位置 o-55 長軸方向 N-82° -E

規模 0.50×0.32×0.05

特徴 平面形が不整形を呈する、小規模の焼土である。本遺構は盛土遺構の周縁部にあたり、V層~盛土遺構にまで耕作による攪乱がおよんでいた。そのため検出面については、盛土遺構上面あるいは盛土遺構中のどちらかではあるが、断定はできない。F-1・2(ともに建物2)・9とともに検出した。

土層 覆土1層: 橙色焼土、よく焼ける。覆土2層: 暗橙色焼土。

遺物 焼土層から、IV群a類(2)、IV群c類(1)、剥片(3)、計6点出土している。

土器 1はIV群a類、タプコプ式である。口唇断面は角形で、器表および内面・口唇端部にも縄文が施される。口唇直下に縄端による圧痕が加えられる。胎土に砂粒・小礫を非常に多く含む。検出面である盛土遺構に由来するものである。

時期 検出面から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

F-4 (図V-198 図版68-1・2)

位置 p-57 長軸方向 N-68° -E

規模 0.41×0.23×0.05

特徴 平面形が不整形を呈する、小規模の焼土である。この周辺は、V層下位~VI層にまで耕作による攪乱を受けており、焼土の検出面はI層除去後のVI層上面付近である。F-5(建物1)・6とともに検出した。SP-1と重複し、これより新しい。

土層 覆土1層: 暗橙色焼土、焼けは弱い。

遺物 出土していない。

時期 IV群c類が出土しているSP-1を覆っていることと、周辺の遺物出土状況から、SP-1よりはわずかに新しい縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。(柳瀬由佳)

F-6 (図V-198 図版68-3・4・図版120-7)

位置 p-58 長軸方向 N-95° -E

規模 1.14×0.78×0.11

特徴 平面形が楕円形を呈する、よく焼けた焼土である。SP-31(建物89)、H-12HP-74・80と重複し、これらより新しい。この周辺は、V層下位~VI層まで耕作による攪乱を受けており、焼土の検出面はI層除去後のV層最下位である。F-4・5(建物1)とともに検出した。調査中に骨片が多

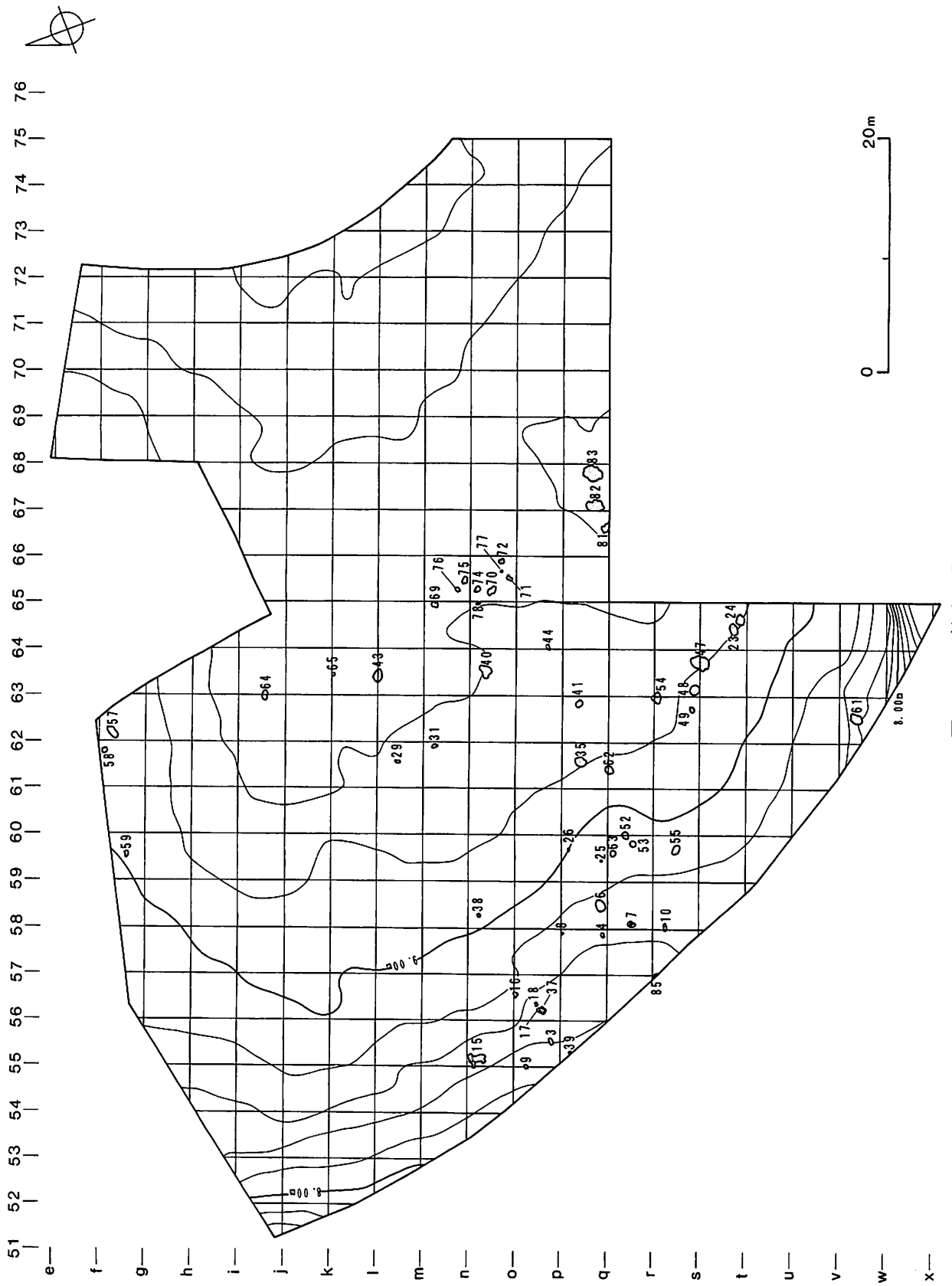


图 III-10 烧土配置

く見られたことから、フローテーション処理を行い、大量の骨片を検出した。これらについて同定を依頼したところ、すべて被熱しており、哺乳綱のもの、および20点ほどのサケ科の椎骨が確認された（第VII章5節参照）。

土層 覆土1層：暗橙色焼土、橙色焼土と、暗褐色土の混合土。大量のEn-aPを含む。覆土2層：赤褐色焼土、よく焼きしまる。ごく少量の骨片を含む。

遺物 焼土層から、Ⅲ群b類（1）、Ⅳ群c類（16）、剥片（4）、礫・礫片（1）、計22点出土している。

土器 4・5はいずれもⅣ群c類の胴部破片で、内面に炭化物が付着する。5は胎土に砂粒を含む。

時期 検出面が、F-5（建物1）とほぼ同一であることや、遺物出土状況から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期である。（柳瀬由佳）

F-8（図V-198）

位置 p-57 長軸方向 N-19° - E

規模 0.23×0.16×0.04

特徴 平面形が楕円形の、ごく小規模の焼土である。この周辺はV層下位～VI層まで耕作による攪乱を受けおり、検出面はI層除去後のVI層上面付近である。H-12HP-3およびP-188と重複し、これらより新しい。

土層 覆土1層：暗橙褐色焼土

遺物 出土していない。

時期 重複する遺構との関係と、付近の遺物出土状況などから、H-12（建物1）よりは新しい、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期か、あるいはそれ以降である。（柳瀬由佳）

F-9（図V-198 図版120-8）

位置 o-54・55 長軸方向 N-54° - E

規模 0.45×0.34×0.08

特徴 検出状況は同時に検出したF-3と同様である。検出面は盛土遺構上面または盛土遺構中である。調査中に肉眼で確認した骨片を取り上げ、同定を依頼したところ、哺乳綱のもので、被熱していることが確認された（第VII章5節参照）。

土層 覆土1層：暗橙色焼土、焼けは弱い。ごく少量の骨片を含む。

遺物 焼土層から、Ⅳ群c類（35）、剥片（3）、計38点出土している。

土器 2・3はいずれもⅣ群c類の口縁部破片である。3の突瘤は、施文後に若干つぶされる。

時期 検出面から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期である。（柳瀬由佳）

F-7（図V-199）

位置 q-58 長軸方向 N-107° - E

規模 0.50×0.23×0.07

特徴 平面形がU字状を呈する焼土である。この周辺は、V層下位～VI層まで、耕作による攪乱を受けており、焼土の検出面はI層除去後のV層最下層である。焼成後に何らかの攪乱を受けた可能性があるが、これより上位の状況が不明であるため、はっきりしない。

土層 覆土1層：褐色土。覆土2層：橙色焼土、よく焼きしまる。覆土3層：橙褐色焼土、焼けは

6 焼土

弱い。

遺物 出土していない。

時期 検出面が、F-5（建物1）・6とほぼ同一であることから、縄文時代後期後葉IV群c類の頃の可能性があるが、周辺からI群b類が出土しておりまた、検出面がV層最下層であることから、縄文時代早期後半I群b類の頃の可能性も否定できない。
(柳瀬由佳)

F-10 (図V-199)

位置 r-57・58 長軸方向 N-103° - E

規模 0.64×0.27×0.05

特徴 平面形が不整形を呈する小形の焼土である。この周辺はV層下位～VI層まで、耕作による攪乱を受けており、検出面はI層除去後のVI層上面付近である。

土層 覆土1層：暗橙褐色焼土、焼けは弱い。

遺物 出土していない。

時期 検出面がF-5（建物1）・6とほぼ同一であることから、縄文時代後期後葉IV群c類の頃の可能性があるが、周辺からI群b類が出土していることなどから、縄文時代早期後半I群b類の頃の可能性も若干あると思われる。
(柳瀬由佳)

F-15 (図V-199)

位置 n-54・55 長軸方向 N-35° - E

規模 1.38×0.52×0.07

特徴 盛土層の上面で確認した。薄い不整形の焼土で北東側に多量の炭化物が検出された。

土層 覆土1層：暗茶褐色土、多量の炭化物を含む。覆土2層：暗橙褐色土。覆土3層：暗赤褐色土。

遺物 焼土からIV群c類（4）、剥片（1）、計5点出土した。

時期 確認層位から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と考えられる。
(谷島由貴)

F-16 (図V-199)

位置 o-56 長軸方向 N-60° - E

規模 0.44×0.36×0.06

特徴 Vb層上位で確認した。平面形は三角形を呈し、凸レンズ状に焼けて変色している。

土層 覆土1層：橙褐色土。

遺物 出土していない。

時期 確認層位から縄文時代中～後期と考えられる。
(谷島由貴)

F-17 (図V-199)

位置 o-56 長軸方向 N-80° - E

規模 0.74×0.19×0.06

特徴 Vb層上位で確認した。平面形は中央部のやや狭い長方形を呈し、厚さも中央部が薄い。Vb層を挟み下にF-37が確認された。

土層 覆土1層：暗赤褐色土。

遺物 出土していない。

時期 確認層位から縄文時代中～後期と考えられる。 (谷島由貴)

F-18 (図V-199)

位置 o-56 長軸方向 N-19° - E

規模 0.32×0.17×0.07

特徴 Vb層上位で確認した。小さな焼土で、断面形はレンズ状に焼けて変色している。

土層 覆土1層：暗赤褐色土。

遺物 出土していない。

時期 確認層位から縄文時代中～後期と考えられる。 (谷島由貴)

F-23 (図V-199)

位置 s-64 長軸方向 N-104° - E

規模 1.11×0.52×0.07

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。薄く、不整形に広がる焼土で、東側がやや厚い。

土層 覆土1層：暗赤褐色土、粘性弱い。

遺物 覆土中からIV群b-4(1)、IV群c類(5)、計6点出土した。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

F-24 (図V-199)

位置 s-64 長軸方向 N-114° - E

規模 0.93×0.70×0.10

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。不整形に広がる焼土でF-23の南東側に位置する。

土層 覆土1層：暗赤褐色土、粘性弱い。

遺物 出土していない。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

F-25 (図V-199)

位置 p-59 長軸方向 N-12° - E

規模 0.21×0.27×0.03

特徴 平面形が楕円形を呈するごく小規模の焼土である。整地層中で検出した。

土層 覆土1層：赤褐色焼土、焼けは非常に弱い。

遺物 出土していない。

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。 (柳瀬由佳)

F-37 (図V-199 図版65-5)

位置 o-56 長軸方向 N-80° - E

規模 0.68×0.54×0.18

特徴 平面形が楕円形を呈する小規模の焼土である。平面上ではF-17と重複するが、検出層位が異なることからそれぞれ別の焼土であり、F-37が古いものである。盛土遺構調査後、VI層上面で黒色土

6 焼土

の落ち込みとその周囲に分布する焼土を検出した。半截したところ、焼土が凹状に形成され、その上位に黒色土が堆積したものと確認した。VI層まで掘り込んで形成されたものとする。

土層 覆土1層：黒色土、Vb層相当。ごく少量の骨片を含む。覆土2層：黄褐色土、VI層に焼土粒が多量に混入する。覆土3層：明褐色焼土、よく焼ける。VI～VII層が被熱。

遺物 直上のVb層から、IV群c類(1)、剥片(1)、計2点出土している

時期 検出層位と出土遺物から、盛土遺構の構築より以前であるが、Vb層出土の遺物から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。(柳瀬由佳)

F-26 (図V-200)

位置 p-59 長軸方向 N-112° - E

規模 0.26×0.13×0.03

特徴 平面形が楕円形を呈するごく小規模の焼土である。整地層中で検出した。

土層 覆土1層：赤褐色焼土、焼けは非常に弱い。

遺物 出土していない。

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

F-29 (図V-200)

位置 l-61 長軸方向 N-42° - E

規模 0.48×0.20×0.05

特徴 平面形が不整形を呈する、小規模の焼土である。整地1層中で検出した。

土層 覆土1層：暗赤褐色焼土、焼けは弱い。

遺物 出土していない。

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

F-31 (図V-200)

位置 m-61 長軸方向 N-2° - E

規模 0.61×0.31×0.08

特徴 平面形が不正な楕円形を呈する小規模の焼土である。整地1層中で検出した。

土層 覆土1層：暗赤褐色焼土、焼けは弱い。

遺物 出土していない。

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

F-35 (図V-200)

位置 p-61 長軸方向 N-37° - E

規模 1.05×0.81×0.07

特徴 平面形が楕円形を呈するやや規模の大きい焼土である。検出面は整地2層中で、SP-880・993・2297と重複し、これらより新しい。南側に一部後世の攪乱が及んでいる。調査中に肉眼で確認した骨片を取り上げ、同定を依頼したところ、被熱した哺乳綱のものであると確認された(第VII節5章参照)。

土層 覆土1層：暗赤褐色焼土、焼けは非常に弱い。覆土2層：暗灰褐色土、多量の焼土粒・ごく

少量の骨片を含む。

遺物 焼土層から、Ⅳ群c類が7点出土している

時期 検出面から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期である。 (柳瀬由佳)

F-38 (図V-200 図版68-6)

位置 n-58 長軸方向 N-85° - E

規模 0.36×0.28×0.07

特徴 この周辺は、Ⅷ層直上にまで及ぶ耕作による攪乱を受けており、検出面はⅠ層除去後の整地2層中である。焼土の最下層のみが残されたものと思われるが、上位の状況は不明である。

土層 覆土1層：赤褐色焼土、焼けは弱い。Ⅷ層直上の整地2層が被熱している。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期である。 (柳瀬由佳)

F-40 (図V-200)

位置 n-63 長軸方向 N-101° - E

規模 1.12×0.83×0.08

特徴 整地層調査後のⅥ層付近で検出した。不整形を呈する規模の大きい焼土である。

土層 覆土1層：明赤褐色焼土、よく焼ける。覆土2層：暗赤褐色焼土。

遺物 焼土層から、Ⅳ群c類(1)、剥片(3)、計4点出土している。

時期 検出層位などから、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の頃と思われる。 (柳瀬由佳)

F-39 (図V-201 図版68-7)

位置 o-55 長軸方向 N-22° - E

規模 0.22×0.14×0.05

特徴 平面形が不整形を呈し、分断されている焼土である。南西側は一部調査区域外にのびている。Ⅴb層最下位で検出した。周辺は、1mほどの範囲で若干くぼんでいる。近接して2つの焼土を検出し、色調が共通していることから、1ヵ所の焼土として扱った。Ⅴb層の堆積状況から、自然地形のくぼみを利用したものと思われる。

土層 覆土1層：赤黒褐色土、ややよく焼けている。他の焼土と比較して、赤色・黒色が強い。

遺物 出土していない。

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の盛土遺構構築以前のものである。 (柳瀬由佳)

F-41 (図V-201)

位置 p-62 長軸方向 N-152° - E

規模 0.62×0.46×0.07

特徴 整地層調査後のⅥ層付近で検出した。隅丸長方形を呈する小規模の焼土である。

土層 覆土1層：赤褐色焼土、焼けは弱い。覆土2層：暗褐色土、焼土粒が混入する。

遺物 焼土層から石鏃が1点出土している。

時期 検出層位などから、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の頃、あるいはそれ以前である。

(柳瀬由佳)

6 焼土

F-43 (図V-201)

位置 k・l-63 長軸方向 N-116° - E

規模 1.11×0.78×0.06

特徴 平面形が菱形を呈する、やや規模の大きい焼土である。SP-1925・1926と重複し、これらより新しい。整地層中で検出した。焼土層についてフローテーション処理を行い骨片を採集し、同定を依頼したが、細片であったため同定はできなかった。

土層 覆土1層：赤褐色焼土、ややよく焼ける。覆土2層：暗褐色土、焼土粒が混入する。覆土3層：暗赤褐色焼土、わずかに焼ける。

遺物 焼土層から、IV群c類が6点出土している。

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。 (柳瀬由佳)

F-44 (図V-201)

位置 o-63・64 長軸方向 N-84° - E

規模 0.49×0.22×0.05

特徴 平面形が不整形を呈するごく焼けの弱い焼土である。整地2層で検出した。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量の焼土粒が混入する。

遺物 出土していない。

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。 (柳瀬由佳)

F-47 (図V-201 図版68-8)

位置 r・s-63 長軸方向 N-35° - E

規模 1.71×1.17×0.11

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。不整形に広がる焼土で北東側が厚く、南西側が薄い。

土層 覆土1層：赤褐色土、粘性弱い。

遺物 出土していない。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

F-48 (図V-201 図版69-1)

位置 r-63 長軸方向 N-144° - E

規模 0.92×0.88×0.11

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。楕円形に広がる焼土で断面形はレンズ状を呈する。

土層 覆土1層：赤褐色土、粘性弱い。

遺物 出土していない。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

F-49 (図V-201 図版69-2)

位置 r-62 長軸方向 N-80° - E

規模 0.56×0.40×0.08

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。小型の焼土で中央部がやや薄い。

土層 覆土1層：暗赤褐色土、粘性弱い。
 遺物 出土していない。
 時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

F-52 (図V-202 図版69-3・図版120-9)
 位置 q-59・60 長軸方向 N-111° - E
 規模 0.59×0.59×0.14
 特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で小型の焼土である。
 土層 覆土1層：赤褐色土。覆土2層：暗赤褐色土。覆土3層：暗赤褐色土。
 遺物 焼土中からⅢ群b類が1点出土した。
 土器 1はIV群a類である。口唇断面は角形で、口唇端部には縄文が施される。表面は無文である。胎土には小礫を多く含む。
 時期 確認状況から縄文時代後期前葉IV群a類の時期と思われる。 (笠原 興)

F-53 (図V-202 図版69-4)
 位置 q-59 長軸方向 N-150° - E
 規模 0.57×0.55×0.15
 特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で断面形がレンズ状を呈する。F-52の南西側に位置する。
 土層 覆土1層：暗赤褐色土。覆土2層：赤褐色土。
 遺物 焼土中からIV群c類が1点出土した。
 時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

F-54 (図V-202 図版69-5)
 位置 q・r-62・63 長軸方向 N-103° - E
 規模 0.98×0.87×0.17
 特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、北側が厚く、南側が薄い。
 土層 覆土1層：暗赤褐色土。
 遺物 焼土中からIV群c類(1)、剥片(1)、計2点出土した。
 時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

F-55 (図V-202 図版69-6)
 位置 r-59 長軸方向 N-139° - E
 規模 0.82×0.57×0.08
 特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は楕円形で、中央部がやや薄い。
 土層 覆土1層：暗赤褐色土。
 遺物 出土していない。
 時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

6 焼土

F-57 (図V-202)

位置 f-62 長軸方向 N-66° - E

規模 1.25×0.55×0.09

特徴 整地層の精査中に、調査区北側、F-58に隣接して検出した。SP-5001によって壊されている。不整の長円形で、長軸はほぼ西-東である。

土層 覆土1層：暗赤褐色土、焼土層で少量の炭化物・骨片を含む。覆土2層：暗褐色土、整地層で、En-aPを含む。

遺物 覆土からIV群c類1点が出土している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。 (熊谷仁志)

F-58 (図V-202)

位置 f-61 長軸方向 N-113° - E

規模 0.45×0.44×0.08

特徴 整地層の精査中に、調査区北側、F-57に隣接して場所から検出した。不整の隅丸方形である。

土層 覆土1層：暗赤褐色土、焼土層で、炭化物・少量の骨片を含む。覆土2層：暗褐色土、整地層で、En-aPを含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 時期を示す遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と考えられる。 (熊谷仁志)

F-59 (図V-202)

位置 f-59 長軸方向 N-111° - E

規模 0.52×0.35×0.08

特徴 整地層の精査中に、調査区北側から検出した。不整の長円形である。

土層 覆土1層：暗赤褐色土、焼土層で少量の炭化物・骨片を含む。覆土2層：暗褐色土、整地層で、少量のEn-aPが混じる。

遺物 覆土からIV群c類(2)、剥片(1)、計3点出土している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。 (熊谷仁志)

F-61 (図V-202 図版69-7・図版120-10)

位置 v-62 長軸方向 N-45° - E

規模 1.20×0.78×0.16

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、断面形はレンズ状を呈する。IV群c類の土器片が多く出土した。

土層 覆土1層：赤褐色土。覆土2層：暗赤褐色土。

遺物 焼土中からIV群c類(33)、剥片(2)、計35点出土した。

土器 2はIV群c類の胴部破片である。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。 (笠原 興)

F-62 (図V-203 図版69-8・図版121-1)

位置 p・q-61 長軸方向 N-45° - E

規模 0.83×0.68×0.18

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、下位に粘性のやや高い暗褐色土が堆積する。

土層 覆土1層：赤褐色土。 覆土2層：暗褐色土。

遺物 焼土中からⅣ群c類(7)、剥片(1)、計8点出土した。

土器 1・2はともにⅣ群c類である。1は口唇断面が切出形で、不規則な曲線による文様が施される。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-63 (図V-203 図版70-1)

位置 q-59 長軸方向 N-115° - E

規模 0.57×0.57×0.09

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面計は楕円形を呈した小形の焼土である。

土層 覆土1層：暗赤褐色土。

遺物 焼土中からⅣ群c類(1)、剥片(1)、計2点出土した。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-64 (図V-203)

位置 i-62・63 長軸方向 N-91° - E

規模 0.85×0.48×0.11

特徴 整地層の精査中に検出した。建物17とわずかに重複し、周辺に多量の柱穴状ピットが確認されているが、明瞭に帰属する建物を特定することができなかった。不整の長円形で、長軸は北西-南東である。

土層 覆土1層：暗赤褐色土、焼土層で少量の炭化物・骨片を含む。覆土2層：暗黄褐色土：整地層で、少量のEn-aPが混じる。

遺物 焼土からⅣ群c類(1)、剥片(1)、計2点出土している。

時期 縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

F-65 (図V-203)

位置 k-63 長軸方向 N-118° - E

規模 0.20×0.20×0.7

特徴 整地層の精査中に検出した。建物17とわずかに重複し、周辺に多量の柱穴状ピットが確認されているが、明瞭に帰属する建物を特定することができなかった。円形である。

土層 覆土1層：暗赤褐色土、焼土層で少量の炭化物・骨片を含む。覆土2層：暗黄褐色土：整地層で、少量のEn-aPが混じる。

遺物 出土していない。

時期 時期を示す遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の頃と考えられる。(熊谷仁志)

6 焼土

F-69 (図V-203)

位置 m-64 長軸方向 N-26° - E

規模 0.64×0.38×0.06

特徴 平面形が不整形を呈する、小規模の焼土である。整地2層で検出した。SP-2211・1798と重複し、これらより新しい。

土層 覆土1層：明赤褐色焼土：ごく少量の骨片・炭化物を含む。覆土2層：暗褐色土：焼土粒・ごく少量の炭化物を含む。

遺物 焼土層から、IV群c類(1)、剥片(1)、計2点出土している

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

F-70 (図V-203)

位置 n-65 長軸方向 N-145° - E

規模 1.11×0.61×0.09

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、北側が厚く南側が薄い。

土層 覆土1層：暗赤色土。

遺物 焼土中からIV群c類(3)、剥片(2)、計5点出土した。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-71 (図V-203 図版121-2)

位置 n-65 長軸方向 N-70° - E

規模 0.73×0.31×0.08

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、中央部がやや薄い。

土層 覆土1層：赤褐色土

遺物 焼土中からIV群c類が4点出土した。

土器 3はIV群c類の口縁部破片。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-72 (図V-203 図版121-3)

位置 n-65 長軸方向 N-27° - E

規模 0.56×0.48×0.20

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、断面形はレンズ状を呈する。

土層 覆土1層：赤褐色土。覆土2層：暗赤褐色土。

遺物 焼土中からⅢ群b-2類が(1)、剥片(2)、計3点出土した。

土器 4はⅢ群b-2類の口縁部破片。やや外反し、口唇断面は丸形で端部に縄文が施される。胎土には少量の砂粒と繊維を含む。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-74 (図V-204)

位置 n-65 長軸方向 N-155° - E

規模 0.67×0.45×0.15

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、断面形はレンズ状を呈する。下にやや粘性の強い、褐色土が堆積する。

土層 覆土1層：赤褐色土。覆土2層：褐色土。

遺物 焼土中からⅣ群c類が(3)、剥片(2)、計5点出土した。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-75 (図V-204)

位置 m-65 長軸方向 N-134° - E

規模 0.44×0.29×0.18

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、北側が厚く南側がやや薄い。

土層 覆土1層：赤褐色土。

遺物 出土していない。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-76 (図V-204 図版121-4)

位置 m-65 長軸方向 N-90° - E

規模 0.62×0.53×0.11

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は楕円形で、断面形はレンズ状を呈する。F-75の北側に位置する。

土層 覆土1層：赤褐色土。覆土2層：橙色土。

遺物 Ⅳ群c類(2)、剥片(1)、計3点出土した。

土器 1・2はいずれもⅣ群c類の口縁部破片である。1は口唇断面は角形で、端部に沈線がめぐ

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-77 (図V-204 図版121-5)

位置 n-65 長軸方向 N-149° - E

規模 0.21×0.16×0.13

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は楕円形で、断面形はレンズ状を呈する。

土層 覆土1層：暗赤褐色土：やや粘性強い。覆土2層：暗赤褐色土。

遺物 Ⅲ群b類(1)、Ⅳ群c類(3)計4点出土した。

土器 3は弧状の沈線が施されるⅣ群c類の胴部破片である。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-78 (図V-204 図版121-6)

位置 n-64・(65) 長軸方向 -

規模 (0.43)×0.16×-

特徴 整地層中で検出した。非常に焼けの弱い焼土である。調査工程上、整地層の調査を65ラインで区切って行ったため、東半部は誤って掘り下げてしまい検出できなかった。

6 焼土

遺物 焼土層から、IV群c類(23)、剥片(5)、原石(1)、礫・礫片(2)、計31点出土している。

土器 4～7はIV群c類の口縁部破片。いずれも口唇断面は切出形である。4は浅鉢の破片と思われる、平縁に小さな突起が施される。

時期 検出層位から、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期である。(柳瀬由佳)

F-81 (図V-204)

位置 p-66 長軸方向 N-143° - E

規模 0.21×0.16×0.13

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形不整形で、断面形はレンズ状を呈する。

土層 覆土1層：暗赤褐色土：やや粘性強い。覆土2層：褐色土。

遺物 IV群c類(6)、剥片(3)計9点出土した。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-82 (図V-204)

位置 p-67 長軸方向 N-19° - E

規模 1.65×0.93×0.18

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、南側がやや厚く、北側が薄い。底面にはやや凸凹がある。

土層 覆土1層：暗赤褐色土。

遺物 IV群c類(6)、剥片(7)、礫・礫片(1)、計14点出土した。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-83 (図V-204 図版121-7)

位置 p-67 長軸方向 N-29° - E

規模 1.77×1.36×0.18

特徴 整地層の下位、Ⅷ層の上面で確認した。平面形は不整形で、やや大形の焼土である。

土層 覆土1層：暗赤褐色土。

遺物 石製品が1点出土した。

石器 8は玉で、両側からの穿孔が施されている。石質は蛇紋岩。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

F-85 (図V-204)

位置 r-56・57 長軸方向 -

規模 (0.34) × (0.08) × 0.05

特徴 西側の調査範囲の境に位置する。Vb層上面で確認した。平面形は東側のみ確認され半円形である。

土層 覆土1層：赤褐色土。

遺物 出土していない。

時期 確認層位から縄文時代中～後期と考えられる。(谷島由貴)

7 杭列 (図V-205 図版70-2)

調査区西側の段丘崖に沿ってほぼ南北に、調査区域外に続く1列の杭列が検出されている。

位置 q・r-57 長軸方向 N-178° - E

特徴 調査区西側のⅧ層の上面で、南北に伸びる小ピット列を検出した。図示した小ピットは22基で、他にもあったと思われるが周囲の柱穴群との識別が一部困難なものがある。直径はいずれも20cm前後、深さは最も深いもので約30cmである。坑底は丸みのあるものと尖りぎみのものがある。

土層

SP-1281	覆土1層：褐灰色土。	SP-1282	覆土1層：褐灰色土。
SP-1283	覆土1層：褐灰色土。	SP-1284	覆土1層：褐灰色土。
SP-1285	覆土1層：黒褐色土。	SP-1286	覆土1層：黒褐色土。
SP-1287	覆土1層：褐灰色土。	SP-1288	覆土1層：黒褐色土。
SP-1289	覆土1層：黒褐色土。	SP-1290	覆土1層：黒褐色土。
SP-1291	覆土1層：黒褐色土。	SP-1292	覆土1層：黒褐色土。
SP-1293	覆土1層：褐灰色土。	SP-1294	覆土1層：褐灰色土。
SP-1295	覆土1層：黒褐色土。	SP-1296	覆土1層：黒褐色土。
SP-1297	覆土1層：黒褐色土。	SP-1298	覆土1層：黒褐色土。
SP-1299	覆土1層：黒褐色土。	SP-1300	覆土1層：褐灰色土。
SP-1301	覆土1層：褐灰色土。	SP-1302	覆土1層：黒褐色土。

遺物 1296は覆土中から剥片(1)が出土した。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

8 溝状遺構 (図V-206 図版70-3~5・図版121-8)

調査区西側の段丘崖がやや突き出す部分に、調査区域外に続く溝状遺構が検出されている。

LZ-1 (図V-206 図版70-3~5・図版121-8)

位置 t-59・60、u-60 長軸方向 不明

特徴 調査区南西側のⅧ層の上面で、南から北西方向に伸びる溝状の土坑を検出した。北西側は調査区域外にかかり、南側はP-29に切られるために全体のプランは不明である。幅は約1.5m、深さは約12~15cmで、覆土はしまりの弱い腐植土が主体である。

土層 覆土1層：黒色土、粘性強く、しまり弱い。覆土2層：暗褐色土、En-aP少量。

遺物 覆土中からⅠ群b類(10)、Ⅱ群a類(2)、Ⅳ群b-4(3)、Ⅳ群c類(147)、石鏃(2)、剥片(19)、原石(2)、礫・礫片(9)計194点出土した。

土器 すべて覆土から出土したものである。1・2はⅠ群b類。縄文地に刺突列が加えられる。3~5はⅣ群c類。3・4は口唇断面が切出形を呈する口縁部破片である。5は注口土器の注口部である。

石器 6・7は石鏃。6は2c類で、側縁と先端部を欠損する。7はⅠd類。先端部を欠損する。

時期 確認状況から縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期と思われる。(笠原 興)

9 柱穴状ピット

9 柱穴状ピット (図V-207~215)

柱穴状ピットは、4,728基検出された。うち、ここで扱うものは主に建物との組み合わせが確認できなかった建物の小形の柱穴・壁柱穴・出入口施設である。柱穴状ピットは、検出数が多く、規模・形状が明瞭なものの一部を図示するにとどめた。その他のものについては形状・分布については付図によって、規模・覆土・出土遺物については一覧表に記載してある。このことから本文記載についても一部を省略したものもある。なお、遺物については、出来るだけ多くの出土遺物を掲載するように勤め、本文中で平面図を図示していないものも示してある。分布は、建物列に重なる。平面形は円形・長円形・不整円形等があり、規模も0.50~1m程と様々である。時期は、縄文時代後期中葉~後葉のものがほとんどである。

SP-1 (図V-207)

特徴 I層除去後のVI層で検出した。F-4に覆われている。検出面において、土器の底部の大破片が出土している(図V-217-1)。

土層 覆土1層:暗褐色土、En-aPを含む。覆土2層:暗黄褐色土、しまりない。多量のEn-aPを含む。覆土3層:暗黄褐色土、En-aP・ごく少量の炭化物を含む。

遺物 覆土よりIV群c類(6)、剥片(1)、礫・礫片(4)計12点出土した。

土器 (図V-216-1・2) IV群c類である。1は遺構の検出面で単独で出土した底部である(図V-207)。やや不規則な羽状縄文が施される。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(柳瀬由佳)

SP-33 (図V-207)

土層 覆土1層:暗褐色土、En-aPを含む。覆土2層:暗褐色土、しまりない。En-aPを含む。覆土3層:暗黄褐色土、しまり悪い。

特徴 開口部がほぼ円形を呈する、直立する柱穴状ピットである。

遺物 覆土よりIV群c類が2点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(柳瀬由佳)

SP-904 (図V-207)

特徴 断面図では確認できなかったが、完掘状況から、2ヵ所重複している可能性がある。

土層 覆土1層:暗褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層:暗灰褐色土、En-aP主体で、少量の土壌が混入する。堅くしまる。

遺物 覆土よりIV群c類(7)、剥片(2)、計9点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。(柳瀬由佳)

SP-262 (図V-207)

位置 f-57 **規模** 0.32×0.25×0.42

特徴 VIII層の清掃中に確認した。平面形は円形で、坑底は丸味をもち、中央部に構築されている。

土層 覆土1層:暗褐色土、少量のEn-aP、多量の炭化材を含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

S P-268 (図V-207)

位置 f-57 規模 $0.35 \times (0.23) \times 0.34$

特徴 Ⅷ層の清掃中に確認した。平成9年度調査範囲H地区との境から検出した。平面形・坑底は平坦で、ほぼ北西-南東に長軸をもつ長円形である。

土層 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aP、多量の炭化材を含む。

遺物 覆土からIV群c類(1)が出土している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。 (熊谷仁志)

S P-281 (図V-207)

位置 h-58 規模 $0.35 \times (0.23) \times 0.34$

特徴 Ⅷ層の清掃中に確認した。平面形・坑底はほぼ北西-南東に長軸をもつ長円形である。坑底は平坦で、南東寄りに構築されている。

土層 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、少量のEn-aP、多量の炭化材を含む。

遺物 覆土からはIV群c類(1)、剥片(1)、砥石(1)計3点が出土している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。 (熊谷仁志)

S P-285 (図V-207)

位置 f-58 規模 $0.49 \times 0.34 \times 0.63$

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形・坑底はほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形である。坑底は尖り、南西寄りに構築されている。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP、少量の炭化材を含む。覆土2層：黒色土、少量のEn-aP、多量の炭化材を含む。

遺物 覆土からはIV群c類(1)が出土している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。 (熊谷仁志)

S P-293 (図V-207)

位置 h・i-59 規模 $0.48 \times 0.37 \times 0.38$

特徴 Ⅷ層の清掃中に確認した。平面形はほぼ円形である。坑底は平坦で、南西寄りに構築されている。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aP・炭化材を含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。 (熊谷仁志)

S P-340 (図V-207)

位置 j-60 規模 $0.45 \times 0.34 \times 0.50$

特徴 Ⅷ層の清掃中に確認した。平面形・坑底はほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形である。坑底は平坦で、やや南西寄りに構築されている。

土層 覆土1層：明黄暗褐色土、多量のEn-aPと多量の炭化材を含む。

遺物 覆土からはIV群c類(8)が出土している。

9 柱穴状ピット

時期 縄文時代後期後葉のIV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

SP-345 (図V-207)

位置 i-60 規模 $0.44 \times 0.39 \times 0.57$

特徴 VIII層の清掃中に確認した。平面形・坑底はほぼ北東-南西に長軸をもつ長円形である。坑底は平坦で、ほぼ中央に構築されている。

土層 覆土1層：暗褐色土、En-aPと少量の炭化材を含む。

遺物 覆土からはIV群c類(1)が出土している。

時期 縄文時代後期後葉のIV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

SP-347 (図V-207)

位置 i-60 規模 $(0.70) \times 0.54 \times 0.71$

特徴 VII層の調査中に確認した。SP-348によって壊されている。平面形は長軸を東-西にもつ長円形である。坑底は平坦で、ほぼ中央部にある。壁は開き気味に立ち上る。

土層 覆土1層：明黄褐色土、少量の炭化物、En-aPを含む。覆土2層：明黄褐色土、En-aP・炭化物を多量に含む。

遺物 覆土からはIV群c類(15)、剥片(8)、礫・礫片(1)計24点が出土している。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃か。(熊谷仁志)

SP-348 (図V-207)

位置 i-60 規模 $0.26 \times 0.21 \times 0.08$

特徴 VII層の調査中に確認した。SP-347を壊して構築されている。平面形は円形である。坑底は丸味をもち、ほぼ中央部にある。

土層 覆土1層：明黄褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物が混じる。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃か。(熊谷仁志)

SP-349 (図V-207)

位置 h-60 規模 $0.22 \times 0.18 \times 0.38$

特徴 VIII層の清掃中に確認した。平面形は円形である。坑底は尖り、中央部にある。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃か。(熊谷仁志)

SP-354 (図V-207)

位置 h-60 規模 $0.49 \times 0.48 \times 0.47$

特徴 VIII層の清掃中に確認した。SP-372を壊して構築されている。平面形は不正円形である。坑底はほぼ北西-南東に長軸をもつ長円形である。坑底は丸味をもち、南東寄りに構築されている。

土層 覆土1層：明黄褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土からはIV群b-4類(1)、IV群c類(6)が出土している。

時期 縄文時代後期後葉のIV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

SP-372 (図V-207)

位置 h-60 規模 $0.57 \times (0.35) \times 0.48$

特徴 VIII層の清掃中に確認した。SP-354に壊されている。平面形は、ほぼ長軸を北東-南西にもつ長円形である。坑底は丸味をもち、中央に構築されている。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉のIV群c類の堂林式の頃か。(熊谷仁志)

SP-383 (図V-207)

位置 h-60 規模 $0.59 \times 0.54 \times 0.46$

特徴 VIII層の清掃中に確認した。SP-4034・4035を壊して構築されている。平面形は長軸を東-西にもつ不整形である。坑底はとがり、壁は開き気味に立ち上る。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 覆土より剥片(2)、計2点出土した。

時期 時期を示す遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃か。

(熊谷仁志)

SP-392 (図V-208)

位置 g-60 規模 $0.35 \times 0.30 \times 0.35$

特徴 VIII層の清掃中に確認した。平面形・坑底は長軸を西-東にもつ長円形である。

坑底は尖り、やや西寄りに構築されている。

土層 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土からはIV群b-4類(3)、IV群c類(18)、剥片(3)、礫・礫片(1)計25点出土した。

土器 (図V-216-20・21・22・23)

20はIV群b-4類。波頂部の破片で、突起の剥落痕が認められる。2列の刻み列と突瘤がめぐる。

21はIV群b-4類。くびれのある深鉢の破片。22はIV群c類である。内面に炭化物が厚く付着する。

23はIV群c類である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

SP-394 (図V-208)

位置 g-60 規模 $0.25 \times 0.23 \times 0.10$

特徴 VIII層の清掃中に確認した。平面形・坑底は円形である。坑底は尖り、ほぼ中央部に構築されている。

土層 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物がないため不明であるが、縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃か。

(熊谷仁志)

9 柱穴状ピット

S P - 395 (図V-208)

位置 g-60 規模 0.35×0.29×0.35

特徴 Ⅷ層の清掃中に確認した。平面形は長軸を西-東にもつ長円形である。坑底は尖り、北西側寄りに構築されている。

土層 覆土1層：暗褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土からは、Ⅳ群c類(2)、剥片(1)計3点出土した。

時期 縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

S P - 888 (図V-208)

特徴 覆土1層は柱の抜け痕、覆土2～8層は柱を立てる際の埋土と思われる。覆土2～8層は焼土と黄褐色土や灰褐色土の互層を成し、しまりはよい。

土層 覆土1層：暗褐色土、En-aP・多量の焼土粒・少量の炭化物を含む。覆土2層：暗黄褐色土、多量の焼土粒を含む。堅くしまる。覆土3層：暗黄褐色土。覆土4層：暗赤褐色土。覆土5層：暗灰褐色土、多量のローム粒を含む。覆土6層：4に同じ。覆土7層：5に同じ。覆土8層：明赤褐色焼土

遺物 覆土からは、Ⅳ群c類(16)、剥片(3)計19点出土した。

時期 縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期。(柳瀬由佳)

S P - 880・993・994 (図V-208)

特徴 3ヵ所重複している。断面図では確認できず、断定はできないが、検出状況から、880が最も新しく、次いで993、994が最も古いものと思われる。また、880がF-35に覆われていることから、3ヵ所ともF-35より古い。

土層 S P - 880 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。 S P - 993 覆土1層：暗褐色土、En-aPを含む。 S P - 994 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 880は覆土からⅣ群c類(4)、993は覆土から、Ⅳ群c類(11)、剥片(7)計18点、994は覆土からⅣ群a類(1)、Ⅳ群c類(5)、剥片(1)計7点出土した。

時期 縄文時代後期後葉Ⅳ群c類の堂林式の時期。(柳瀬由佳)

S P - 967・996 (図V-208・209)

特徴 P-160を含め、3基重複している。967はP-160に切られることを断面でも確認した。996と997の新旧は断面では確認できなかったが、検出状況から997が新しいものと思われる。

土層 S P - 967 覆土1層：暗褐色土、やや多量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、やや多量のEn-aPを含む。覆土3層：暗褐色土、しまり弱く、ボソボソ。やや多量のEn-aPを含む。：覆土4層：黒褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

土層A：暗灰褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

S P - 996 覆土1層：暗褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、しまりなく、ボソボソ。ごく少量のEn-aPを含む。

遺物 967は覆土から石鏃(1)、996は覆土から、Ⅳ群c類(11)、剥片(4)計15点出土した。

土器 S P - 996 (図V-217-17) Ⅳ群c類である。イナズマ状の沈線が施される。

石器 S P - 967 (図V-217-12) 石鏃で2a類。出土した石鏃の中で最も小形のものである。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。 (柳瀬由佳)

SP-973 (図V-208)

特徴 開口部がほぼ円形を呈する、直立する柱穴状ピットである。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。しまりなく、ボソボソ。 (柳瀬由佳)

SP-997~999 (図V-209)

特徴 3ヵ所重複しており、すべて竪穴住居跡H-25を切っている。997は建物103を構成する。999が最も新しく、997が最も古い。規模や覆土は類似している。

土層 SP-998 覆土1層：黒褐色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、大量のEn-aPを含む。覆土3層：黒褐色土、やや多量のEn-aPを含む。

SP-999 覆土1層：黒褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：黒褐色土、しまり弱く、ボロボロ。多量のEn-aPを含む。

遺物 997は覆土からⅢ群a類(1)、IV群a類(1)、IV群c類(21)、剥片(4)、石斧(2) 礫・礫片(1)計30点、999は覆土からIV群c類(12)、剥片(12)、Rフレイク(2)、原石(1) 礫・礫片(11)計38点出土した。

土器 SP-999 (図V-217-18・19) IV群c類である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の時期。 (柳瀬由佳)

SP-1065 (図V-209)

位置 f-62 規模 (0.35)×0.31×0.35

特徴 整地層の調査中に、調査区境で確認した。平面形・坑底は長軸を南-北にもつ長円形になるものと思われる。坑底は丸味をもち、北西側寄りに構築されている。

土層 覆土1層：明褐色土、少量のEn-aPを含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物が出土していないが縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃か。 (熊谷仁志)

SP-1074 (図V-209)

位置 f-62・63 規模 0.22×0.21×0.36

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形は長軸を北東-南西にもつ長円形である。

坑底は尖り、中央に構築されている。

土層 覆土1層：明褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 出土していない。

時期 時期のわかる遺物は出土していないが縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

SP-1114 (図V-209)

位置 g-62・63 規模 0.25×0.19×0.35

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形は長軸を北-南にもつ長円形である。坑底は尖り、ほぼ中央に構築されている。

9 柱穴状ピット

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物は出土していないが縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。(熊谷仁志)

SP-1193 (図V-209)

位置 h-63 規模 0.36×0.32×0.47

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形・坑底は長軸を西-東にもつ長円形である。坑底は平坦で、やや西側寄りに構築されている。

土層 覆土1層：黒色土、少量のEn-aPを含む。覆土2層：黒色土、多量のEn-aPを含む。覆土3層：明褐色土、多量のEn-aPを含む。

遺物 覆土からはIV群b-4類(2)、IV群c類(4)、剥片(1)計7点出土した。

土器 (図V-218-6) IV群b-4類である。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

SP-1811 (図V-211)

位置 h-61 規模 0.29×0.26×0.50

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形・坑底は長軸をほぼ西-東にもつ長円形である。坑底は丸味をもち、東側寄りに構築されている。

土層 覆土1層：明褐色土、多量のEn-aPと少量の炭化物を含む。

遺物 覆土からはIV群b-4類(1)、IV群c類(1)計2点出土した。

土器 (図V-219-12・13) 12はIV群b-4類。口唇断面は切出形である。13はIV群c類。底部付近の破片。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

SP-2274 (図V-212)

特徴 開口部がほぼ円形を呈する、直立する柱穴状ピットである。

土層 覆土1層：暗黄褐色土、ごく少量のEn-aPを含む。覆土2層：暗褐色土、やや多量のEn-aPを含む。覆土3層：灰褐色土、しまりない。ごく少量のEn-aPを含む。

遺物 覆土からはIV群c類(1)が点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の時期。(柳瀬由佳)

SP-2291~2294 (図V-212)

特徴 2291・2292が墓壇P-159と重複し、これより新しいことを検出面で確認した。2292~2294は3ヵ所重複している。当初、大きな土坑を想定してa-a'で半截したため、2292と2293の新旧は確認できなかった。2294は、検出面で平面形が確認できなかったことから、2292・2293より古いものと考えられる。

遺物 2292は覆土から礫・礫片(1)が点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の時期。(柳瀬由佳)

SP-3436 (図V-213)

位置 j-61 規模 0.54×0.43×0.52

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形・坑底は長軸をほぼ北-南にもつ長円形である。坑底は丸味をもち、ほぼ中央部に構築されている。

土層 覆土1層：黒色土、En-aPを少量含む。覆土2層：明黄褐色土、En-aPを多量に含む。覆土3層：黒色土、En-aPを少量含む。覆土4層：黒色土、En-aPを多量に含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物は出土していないが縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と思われる。(熊谷仁志)

SP-3437 (図V-213)

位置 j-61 規模 0.47×0.46×0.40

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形・坑底は長軸をほぼ北西-南東にもつ長円形である。坑底は丸味をもち、ほぼ中央部に構築されている。

土層 覆土1層：明黄褐色土、En-aPを少量含む。覆土2層：黄褐色土、En-aP層。覆土3層：明黄褐色土、En-aPを少量含む。覆土4層：暗褐色土。覆土5層：暗褐色土、En-aPを少量含む。覆土6層：明黄褐色土、En-aPを多量に含む。覆土7層：黄褐色土、En-aP層。

遺物 覆土からはIV群c類(6)出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。(熊谷仁志)

SP-3828 (図V-214)

特徴 開口部がほぼ円形を呈する、直立する柱穴状ピットである。

土層 覆土1層：灰褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、しまりなく、ポロポロ。多量のEn-aPを含む。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の時期。(柳瀬由佳)

SP-3857 (図V-215)

特徴 P-89と重複するが、新旧は確認できなかった。

土層 覆土1層：灰褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：暗黄褐色土、しまりなく、ポロポロ。大量のEn-aPを含む。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の時期。(柳瀬由佳)

SP-3875 (図V-215)

特徴 開口部がほぼ円形を呈する、直立する柱穴状ピットである。

土層 覆土1層：灰褐色土、多量のEn-aPを含む。しまりなく、ポロポロ。(柳瀬由佳)

SP-3911 (図V-215)

特徴 P-158と重複し、これより新しい。調査工程上、P-158を先行して調査した。覆土はEn-a起源のロームやパミス主体で、他の柱穴状ピットとは異なる。

土層 覆土1層：暗褐色土、多量のEn-aPを含む。覆土2層：褐色土、しまりなく、ボソボソ。大量のEn-aPおよびローム粒を含む。覆土3層：暗黄褐色土、ローム主体。しまりなく、ボソボソ。大量のEn-aP・少量の炭化物を含む。覆土4層：黄褐色パミス：堅くしまる。

9 柱穴状ピット

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の時期。

(柳瀬由佳)

S P-4072 (図V-215)

位置 g-61 規模 0.38×0.24×0.39

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形・坑底は、長軸を北西-南東にもつ長円形である。坑底は尖り、ほぼ中央に構築されている。

土層 覆土1層：明黄褐色土、En-aPを少量含む。覆2層：明黄褐色土、En-aPを多量に含む。

遺物 覆土からはIV群c類(5)、剥片(1)、礫・礫片(2)計8点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

S P-4124 (図V-215)

位置 f-62 規模 0.26×(0.26)×0.47

特徴 整地層の調査中に確認した。S P-1085によって壊されている。平面形・坑底は、円形になるものと考えられる。坑底は尖り、ほぼ中央に構築されている。

土層 覆土1層：明黄褐色土、En-aPを多量に含む。

遺物 遺物は出土していない。

時期 遺物が出土していないが縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃と考えられる。

(熊谷仁志)

S P-4177 (図V-215)

位置 f-59 規模 0.50×0.36×0.23

特徴 整地層の調査中に確認した。S P-1031によって壊されている。平面形は不整長円形である。坑底は尖り、北寄りに構築されている。

土層 覆土1層：黒色土、En-aPを多量に含む。覆土上部からIV群c類土器・石器等がまとまって出土した。

遺物 覆土からはIV群c類(5)、石斧(1)、たたき石(1)、石皿(1)計7点出土した。なお、有茎石鏃(1)が出土していたが、図化後の降雨のため紛失してしまった。

土器 (図V-221-18・19) IV群c類である。口唇断面は切出形が多い。覆土中から、石斧原石・石皿片・たたき石とともに出土したものである。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

S P-4138 (図V-215)

位置 f-61 規模 0.30×0.30×0.49

特徴 整地層の調査中に確認した。平面形は円形である。坑底は、長軸を西-東にもつ長円形で、平坦で、南寄りに構築されている。

土層 覆土1層：明黄褐色土、En-aPを多量に含む。

遺物 覆土からはIV群c類(1)が出土した。

土器 (図V-221-17) IV群c類である。口唇断面は切出形が多い。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

SP-4189 (図V-215)

位置 f-58 規模 0.27×0.23×0.70

特徴 VII層の調査中に確認した。平面形・坑底は、長軸を西-東にもつ長円形である。坑底は丸味をもち、南寄りに構築されている。

土層 覆土1層：明黄褐色土、En-aPを多量に含む。

遺物 覆土からはIV群a類(1)、IV群c類(1)計2点出土した。

時期 縄文時代後期後葉IV群c類の堂林式の頃。

(熊谷仁志)

その他の柱穴出土の遺物 (図V-216~221)

図V-216

SP-20 (図V-216-3) IV群b-4類。口唇断面が切出形。

SP-23 (図V-216-4・5) 4・5はIV群c類である。5はくびれのある深鉢の破片。

SP-47 (図V-216-6) IV群c類である。くびれのある深鉢の破片。

SP-70 (図V-216-7) IV群c類である。注口部で、全周に縄文が施される。

SP-88 (図V-216-8) IV群c類である。くびれのある深鉢の破片。

SP-113 (図V-216-9) IV群c類である。

SP-130 (図V-216-10) IV群c類である。波状口縁を呈する。

SP-168 (図V-216-11) IV群c類である。

SP-187 (図V-216-12) IV群c類である。

SP-234 (図V-216-13) IV群c類である。

SP-269 (図V-216-14) 石斧で、部分的に磨かれているもの。

SP-283 (図V-216-15・16) 15・16はIV群c類である。16は補修孔と思われる穴の穿孔途中のものである。

SP-296 (図V-216-17・18) 17はIV群b-4類。口唇断面は丸形で内面から連続したケズリ調整が顕著である。18はIV群c類である。

SP-388 (図V-216-19) IV群c類である。

SP-504 (図V-216-24) IV群c類である。底部付近の破片。

SP-602 (図V-216-25) IV群c類である。口縁直下に無文帯をもつ。

SP-612 (図V-216-26) IV群c類である。

図V-217

SP-624 (図V-217-1) 石皿で両面にすり痕が認められる。材質は砂岩。

SP-680 (図V-217-2) 台石として扱った。石斧素材の可能性も考えられる。表面の一部に敲打痕が認められる。材質は緑色泥岩。

SP-703 (図V-217-3) IV群c類である。

SP-800 (図V-217-4) スクレイパーで縦長剥片を素材とし、側縁部に刃部を持つ。

SP-848 (図V-217-5) 黒曜石の石鏃で、1a(2)類。白濁していることから、比熱していると思われる。

SP-853 (図V-217-6) IV群c類である。注口の破片。胎土には小礫を多く含む。文様構成から、IV群b-4類の可能性もある。

SP-858 (図V-217-7) 砥石で、表と側縁に研磨面を持つ。材質は砂岩。

9 柱穴状ピット

- S P-873 (図V-217-8) IV群c類である。
- S P-903 (図V-217-9) IV群c類である。
- S P-958 (図V-217-10) IV群c類である。弧状の沈線が施される。
- S P-964 (図V-217-11) 石斧で、基部の一部が欠損する。
- S P-981 (図V-217-13) IV群c類である。補修孔をもつ。
- S P-984 (図V-217-14) IV群b-4類。口唇断面が先細りの角形で、口唇直下に1列の刻み列が施されるが、刻みは竹管状工具による刺突に近いものである。やや下に突瘤がめぐる。
- S P-984 (図V-217-15・16) 石鏃で、15は2c類、16は2d類。
- S P-1001 (図V-217-20・21・22) 20はIV群b-4類。口唇断面が切出形で、口唇直下に2列の刻み列が施されるが、刻みは細くて斜位に施され、粗雑である。下段の刻み列に重なって突瘤も施される。21はIV群c類である。摩耗しているが、すり消しによる文様が施される。胎土には小礫を含む。IV群b-4類の可能性はある。22はIV群c類である。
- 図V-218
- S P-1031 (図V-218-1) IV群c類である。多波状口縁を呈すると思われ、波頂部の口唇端部には二重の山形沈線が施される。
- S P-1056 (図V-218-2) IV群c類である。まとめて出土したIV群c類の鉢である。緩いくびれもち、口縁には6単位の突起が施される。口唇断面は切出形。口縁部には2本一組の平行沈線と突瘤がめぐる。体部は不規則な羽状縄文地に、横環する沈線のみが施されるが、沈線は乱れがちである。くびれの上下は2本一組の平行沈線で区切られるが、縄文が施されたままで、無文帯にはならない。器表面の一部と内面の大部分に炭化物が付着している。また、炭化物に重なって、器表面では点々と、内面ではやや広範囲に、赤色顔料が付着している(口絵8-3)。
- S P-1066 (図V-218-3) IV群c類である。縦走る縄文が施される口縁部破片。
- S P-1093 (図V-218-4) IV群c類である。
- S P-1139 (図V-218-5) IV群c類である。
- S P-1223 (図V-218-7) IV群c類である。
- S P-1229 (図V-218-8) IV群c類である。
- S P-1234 (図V-218-9) つまみ付ナイフで1d類。
- S P-1262 (図V-218-10・11) IV群c類である。11の突瘤は施文後に上下につぶされる。
- S P-1274 (図V-218-12) 石鏃の2c類。先端部と茎部を欠損する。
- S P-1319 (図V-218-13) IV群b-4類である。内外に炭化物が付着する。
- S P-1328 (図V-218-14・15) IV群c類である。14は波頂部に縦の刻みが施される。
- S P-1378 (図V-218-16) I群b-1類。短縄文と組紐圧痕が施されるが、摩耗が激しい。
- S P-1405 (図V-218-17) IV群c類である。
- S P-1406 (図V-218-18) IV群c類である。突瘤は施文後に上下につぶされる。
- S P-1408 (図V-218-19) IV群c類である。平縁に突起が施され、上からの刺突が加えられる。
- S P-1414 (図V-218-20) IV群c類である。口唇断面は薄い切出形で、小波状を呈する。
- S P-1556 (図V-218-21・22) 21はIV群c類である。22は石鏃で2c類。側縁が外側に張り出す。
- S P-1618 (図V-218-23) IV群c類である。
- S P-1625 (図V-218-24・25) IV群b-4類である。24は波頂部の破片で、口唇直下に2列の刻み列がめぐるほか、波頂部では口唇にも刻み列が施される。25は底部の破片。

S P-1634 (図V-218-26) IV群c類である。

S P-1644 (図V-218-27) IV群c類である。注口の穿孔部の破片である。

図V-219

S P-1645 (図V-219-1・2) 1はドリルで3類。2は石斧で刃部と基部に敲打痕が認められる。

S P-1655 (図V-219-3~6) IV群c類。注口の破片で、同一個体である。

S P-1663 (図V-219-7) IV群c類。無文の破片で、胎土に巻き貝の痕跡が認められる。

S P-1703 (図V-219-8) IV群c類である。

S P-1769 (図V-219-9) すり石として扱った。たたき石と機能が複合するもの。材質は橄欖岩。

S P-1790 (図V-219-10) IV群b-4類。口唇断面は切出形である。2列の刻み列と突瘤がめぐる。突瘤はごく浅い。

S P-1807 (図V-219-11) IV群c類である。貼瘤が施される注口の破片。

S P-1839 (図V-219-14) IV群c類である。

S P-1841 (図V-219-15) IV群c類である。口唇断面が肥厚する角形で、わずかに外傾する。

S P-1901 (図V-219-16) IV群c類である。上げ底になる底部。

S P-1906 (図V-219-17) IV群c類である。

S P-1909 (図V-219-18) IV群b-4類。口唇断面は切出形である。2列の刻み列がめぐる。

S P-1937 (図V-219-19・20) IV群b-4類。口唇断面は切出形で、19は2列の刻み列がめぐる。

S P-2023 (図V-219-21) IV群c類である。

S P-2145 (図V-219-22) 石鏃で2a類。

S P-2072 (図V-219-23) IV群c類である。ハの字状の刻みが加えられた貼付帯が施される。小形の鉢の破片と思われる。

S P-2082 (図V-219-24) IV群c類である。

S P-2105 (図V-219-25) IV群b-4類。口唇断面は切出形である。2列の刻み列がめぐる。すり消しによる文様が施される。

S P-2147 (図V-219-26) IV群b-4類。口唇断面は切出形で、現存で4列の刻み列が施される。

S P-2164 (図V-219-27・28) IV群b-4類。

27の口唇断面は切出形である。2列の刻み列と突瘤がめぐる。内外面に部分的に炭化物が付着する。

28の突瘤は浅く、口唇端部から内面に炭化物が付着する。

S P-2192 (図V-219-29) IV群c類である。縄文施文後に突瘤が施される。突瘤は一部で突き直しされており、器表の瘤をつぶす際に付近の縄文もすり消されている。

図V-220

S P-2208 (図V-220-1) IV群c類である。やや上げ底になる底部破片である。内面に菱目状の沈線が施される。

S P-2212 (図V-220-2・3) 2はIV群c類である。3は石鏃で2d類。先端部が欠損する。

S P-2402 (図V-220-4) IV群c類である。

S P-2489 (図V-220-5・6) いずれも台石で、5の表面の一部には敲打痕が認められ、わずかに凹んでいる。材質は安山岩。6の表面はやや光沢があり、すり痕が認められる。材質は片岩と思われる。

S P-2502 (図V-220-7) IV群c類である。摩耗が激しい。

S P-2625 (図V-220-8・9) IV群c類である。内湾する鉢である。上端は口縁部に近いと思わ

9 柱穴状ピット

れる。斜行縄文地に平行沈線と弧状の沈線による文様が施される。

- S P-2631 (図V-220-10) IV群c類である。平底の破片。
- S P-2737 (図V-220-11) IV群c類である。平縁に2個一對の、刻みをもつ貼付が施される。
- S P-2835 (図V-220-12) 石斧で敲打による成形が認められる。材質は砂岩。
- S P-2842 (図V-220-13) 石鏃で2c類。
- S P-2872 (図V-220-14) 石鏃で2a類。材質は頁岩である。
- S P-2972 (図V-220-15) IV群c類である。器表に炭化物が付着する。
- S P-3155 (図V-220-16) 石鏃で2a類。
- S P-3188 (図V-220-17) 石斧で2類。端部と側縁に剥離による成形痕が認められる。
- 図V-221
- S P-3204 (図V-221-1) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-3228 (図V-221-2) 砥石で表裏に研磨面を持つ。材質は砂岩。
- S P-3236 (図V-221-3) たたき石で、2類。やや幅の広い端部に敲打痕が認められる。材質は砂岩。
- S P-3328 (図V-221-4) IV群c類である。口唇断面は切出形である。突瘤は施文後に左右に弱くつぶされる。
- S P-3606 (図V-221-5) IV群c類である。口唇断面は切出形である。波頂部の破片。
- S P-3648 (図V-221-6) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-3684 (図V-221-7) IV群c類である。口唇断面は切出形である。覆土中から単独で出土したものである。注口あるいは壺の頸部の破片である。
- S P-3713 (図V-221-8) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-3760 (図V-221-9) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-3855 (図V-221-10) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-3924 (図V-221-11) IV群c類である。口唇断面は切出形である。内面に炭化物が多く付着する。
- S P-4066 (図V-221-12) 石鏃で2a類。
- S P-4071 (図V-221-13) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-4125 (図V-221-14~16) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-4231 (図V-221-20・21) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-4347 (図V-221-22) IV群c類である。口唇断面は切出形である。
- S P-4662 (図V-221-23) IV群c類である。口唇断面は切出形である。突瘤は浅く、内外に炭化物が付着する。

第IV章 盛土遺構・整地層および包含層の調査と出土遺物

概要

この章では、2ヵ所の盛土遺構、整地層、および遺物包含層であるⅢ～Ⅴ層から出土した遺物を扱う。

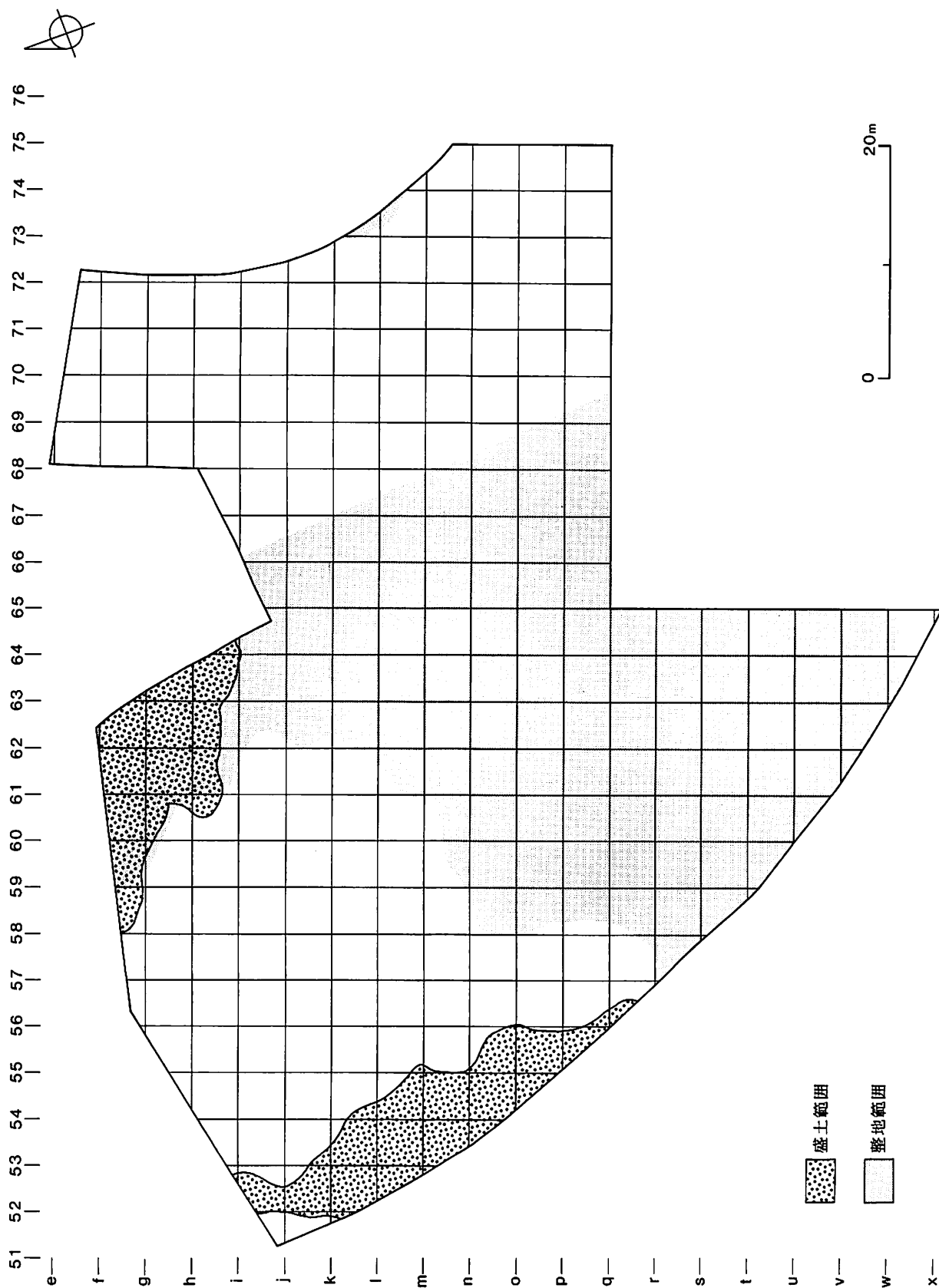
盛土遺構のうち、調査区西側に分布しているものについては、第1節「盛土遺構部分」で、また、整地層中に認められた遺物の集中域については、第2節「遺物集中L I - 1」および第3節「南側低湿部」で扱った。これら以外の整地層および包含層から出土した遺物については、一括して第4節「盛土層・整地層および包含層」で扱った。これらの性格等については、各項で詳述する。なお、分布図・集計などでは、これらを一括して行ったものがある。

盛土遺構・整地層および包含層から出土した遺物は、土器93,806点、石器23,582点、合計117,388点に上る。遺物の分布は、耕作による削平を免れた範囲にほぼ対応しているといえるが、この中でも、盛土遺構の分布する西側の調査区境界付近、斜面から低湿部にあたる調査区南角のw-64付近では、特に集中して出土している。なお、削平がⅦ～Ⅷ層まで及んでいる調査区中央付近では、Ⅰ層から調査を行っているグリッドで出土点数が極端に多い傾向が見られる。なお、各調査区の出土遺物については、時期・器種別に細分し、層位別の一覧表を示している(表14)。

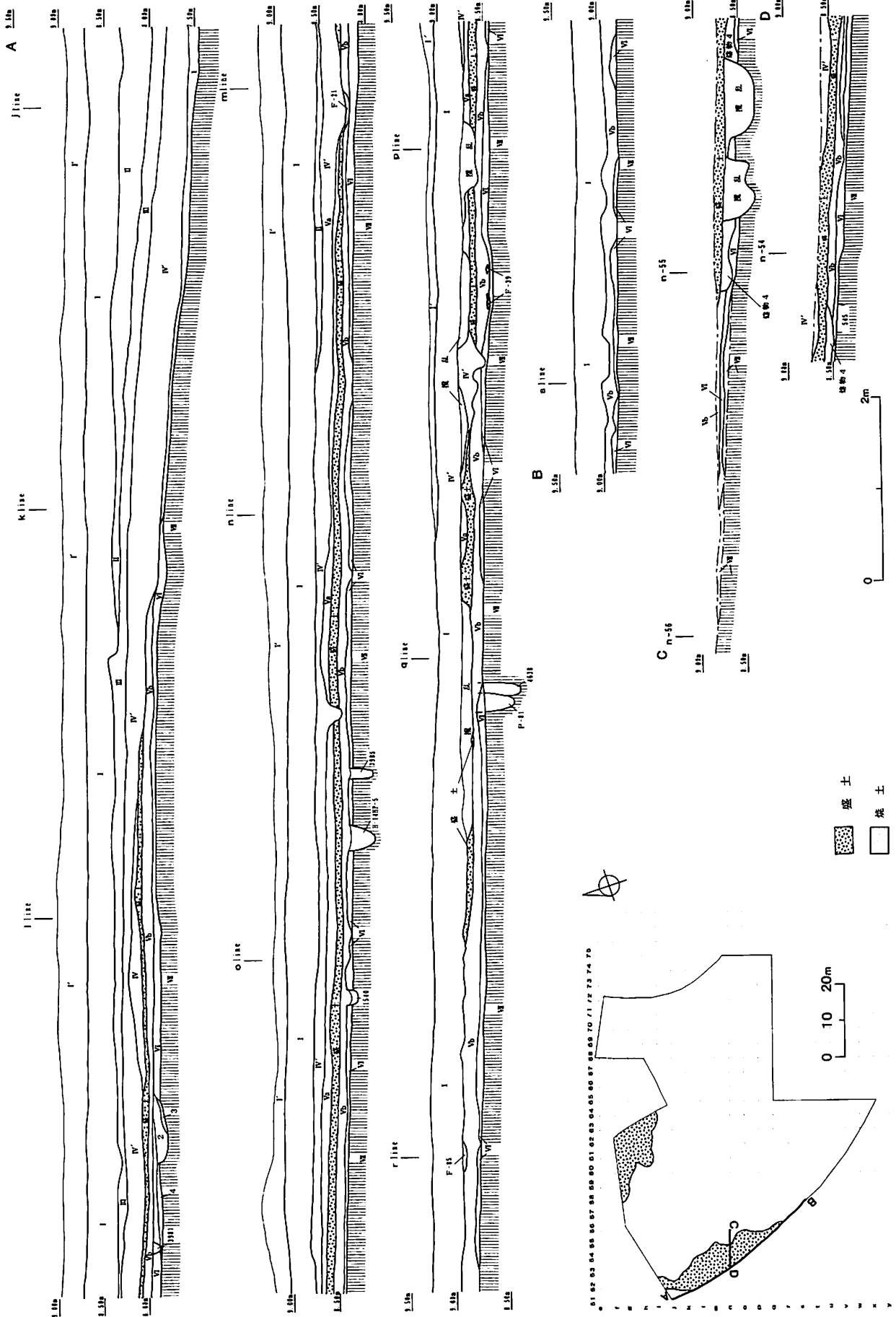
土器は、上記のとおり出土遺物の8割を占めているが、このうち、98%以上は縄文時代後期後葉のⅣ群c類である。これに対し、Ⅳ群b-4類がやや多く600点ほど出土しており、次いでⅠ群b類、Ⅲ群b類、Ⅳ群a類がそれぞれ200～300点ほど出土している。このほか、Ⅱ群a類、Ⅲ群およびⅢ群a類、Ⅳ群b-2類、Ⅴ群が、ごくわずかずつ出土している。

石器は、包含層から23,582点出土した。剥片石器・剥片類が全体の75%を占め、定型的な石器は1,830点である。このうちの246点を図示した。定型的な石器のうち石鏃、石斧、たたき石の出土割合が比較的高く、石鏃が21%、石斧が24%、たたき石が8%を占めている。石鏃はそのほとんどが有茎鏃である。また、たたき石、すり石ともに橄欖岩製の円礫を素材とするものが主体である。これらの中には、機能が複合するものが含まれている。周縁部の全周に使用痕がみられるものが多い。なお、今回の調査では旧石器時代の遺物は出土していない。

1 盛土遺構部分の調査と出土遺物



図IV-1 盛土遺構と整地の範囲



図IV-2 盛土遺構の土層

1 盛土遺構部分の調査と出土遺物

1 盛土遺構部分の調査と出土遺物 (図VI-15~20-1~129 図版131~137・138-1・2)

(1) 盛土遺構部分の調査

I層除去後の段階で、57ライン付近より東側の標高の高い部分はⅧ層まで削平を受けていたが、これより西側では、地形に沿った低い部分に包含層が比較的良好に残存していた。これをV層と判断し調査を進めたところ、全体をおおよそ10~15cmほど掘り下げた段階で、En-aPが混入し、大量の遺物を含む暗褐色土を検出した。トレンチによる土層断面も含めて観察・検討し、この付近に盛土層およびV b層が分布していることを確認した。また、これに伴い、当初V層として調査した土層は、ほぼV a層に相当するものと判断し、調査を行った。調査の結果、この盛土遺構の分布範囲については、盛土層を挟んだ層位関係が明瞭であると判断し、層位ごとの出土遺物の違いを明確にするために、V a・V b層とともにここで扱うこととした。なお、範囲については57ラインより西側とした。

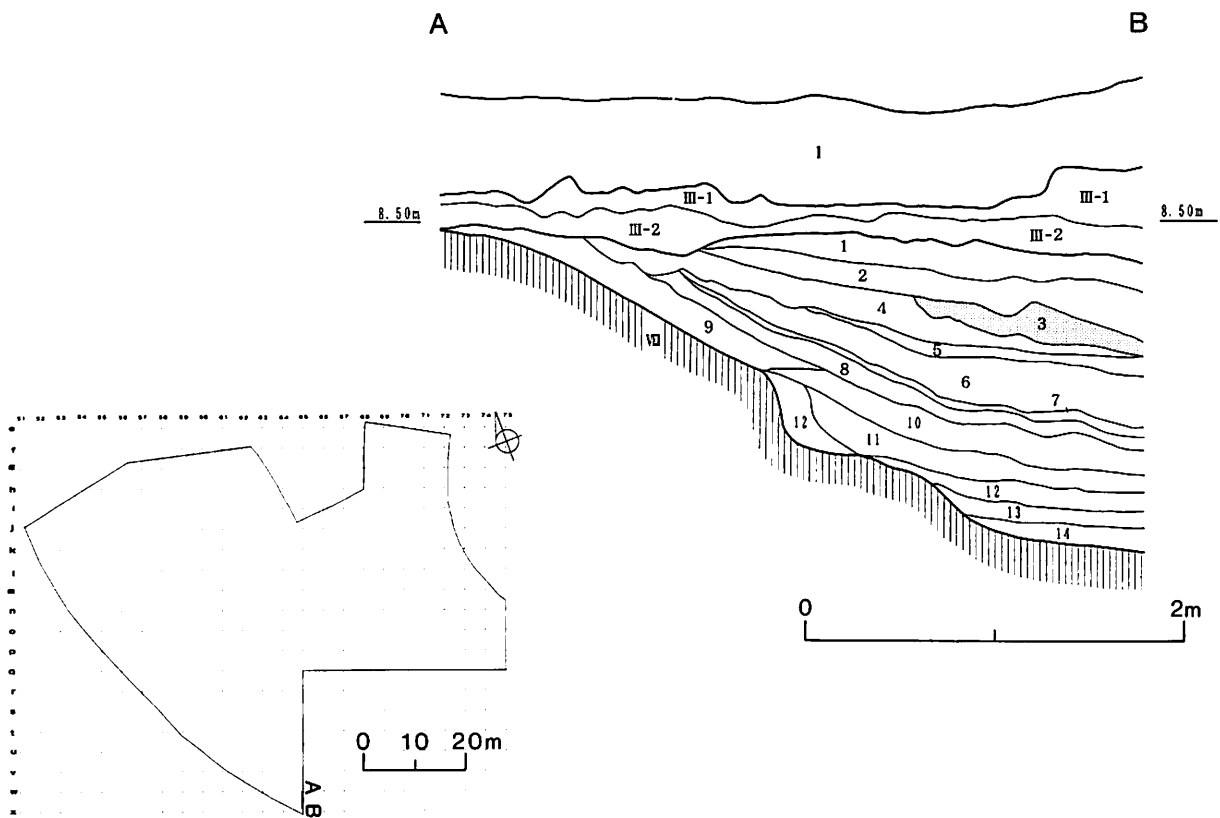
盛土遺構は、調査区の西側境界に沿うような形で、調査区の北端からrライン付近まで、最大で幅8mほどの範囲で検出された。北側は、平成9年に調査を行ったH地区の盛土遺構と連続する。調査区中央部の平坦な面は、ちょうど調査区の西側境界線と同じような曲線を描いて形成されており、西側は、緩やかな斜面になっている。盛土遺構は、この斜面がやや急傾斜になるあたりに形成されており、西側調査区域外に広がっている。東側は削平を受けているため、盛土遺構の本来の分布は検出した範囲よりも広がっていた可能性があるが、地形から判断すると、現存するものと大きな差異があった可能性は低いと思われる。また、調査区北西角の部分は急斜面となり、若干低温化していた。この急斜面には盛土層は認められず、盛土遺構の主体を占める縄文時代後期後葉の遺物を多く含み、かつIV層：Ta-cが多く混入する黒色系土が堆積していた。このことから、この土層は、盛土遺構形成およびTa-c降下後に形成された、盛土層およびV a層の二次堆積層と思われる。

盛土遺構を含む57ラインより西側の範囲からは、土器が20,000点余り、石器等が5,500点ほど出土している。層位ごとには、I層から2,796点、先述の二次堆積層を含むⅢ層及びIV層から4,062点、V a層およびV層から4,611点、盛土層から9,266点、V b層から5,124点、VI・Ⅶ層及び攪乱等から52点出土している。層位による土器と石器等の比率には大きな差異はみられない。

土器ではIV群c類が99%を占め、これ以外では、I群b類が200点ほど、IV群b-4類が150点ほどと、やや多く出土している。このほか、II群a類、Ⅲ群、IV群a類、IV群b-2類がわずかずつ出土しており、また、V群が1点のみ、盛土層から出土している。小破片のため掲載できなかったが、c類、タンネットウL式である。層位ごとでは、いずれの層でもIV群c類が大多数を占めることは共通しているが、それ以外にはやや差がみられる。V層およびV a層ではIV群c類が98%以上を占め、ほかにはIV群b-4類がわずかにみられるのみであるのに対し、盛土層およびV b層では、IV群c類が96%程度とやや低く、それ以前のもの、特にI群b類、Ⅲ群b類、IV群a類、IV群b-4類が、少数ではあるが、他よりも比率が高くなっている。特にI群b類に関しては、包含層出土のうち8割以上が盛土部分から出土している。さらにそのほとんどが盛土層及びV b層で出土しており、それぞれ出土土器に占める割合が1.6%、1.2%と、他と比較して圧倒的に多い。

石器は、5,509点出土した。石鏃・ドリル・スクレイパー・石斧・たたき石・砥石等がある。出土分布は、k-53・n-54を中心とする狭い範囲であるが、2つの分布域に分けられそうである。

また、調査中に肉眼で多数の骨片が確認できたことから、ある程度形態を保っているものについては取り上げ、同定を依頼した。その結果、すべて被熱しており、哺乳綱のものおよびヒグマ・ニホンジカ・イノシシのものが同定された(第Ⅶ章第5節参照)。イノシシは北海道には本来生息しておらず、また、本遺跡内の他の盛土遺構からも出土しており、儀礼行為などの可能性が指摘されている。



土層説明

- 1 黒色土 HUE7.5YR1.7/1 粒子細かく粘性低い。パミス多く酸化する。
- 2 黒褐色土 HUE5YR2/1 粒子細かく粘性高い。パミス多く炭化物混じる。
- 3 明赤褐色土 HUE2.5YR5/6 粒子非常に細かく粘性高い。パミス・炭化物少量混じる。*
- 4 黒褐色土 HUE5YR3/1 粒子非常に細かく粘性高い。シルト質状でパミス多く混じる
- 5 黒色土 HUE7.5YR1.7/1 粒子非常に細かく粘性高い。シルト質状で炭化物多く混じる。
- 6 黒褐色土 HUE10YR3/1 粒子細かく粘性高い。シルト質状でパミス多く、酸化する。
- 7 褐灰色土 HUE10YR3/1 粒子細かく粘性高い。シルト質状でパミスやや多く、炭化物混じる。
- 8 黒褐色土 HUE10YR3/1 粒子細かく粘性高い。シルト質状でパミス多い。
- 9 黒褐色土 HUE2.5Y3/1 粒子細かく粘性低い。砂質でパミス、酸化痕多い。
- 10 黒色土 HUE N2/ 粒子細かく粘性高い。シルト質状でパミス、酸化痕多い。
- 11 褐灰色土 HUE10YR4/1 粒子粗くしまり強い。砂質でパミス多い。
- 12 黄灰色土 HUE2.5Y4/1 粒子粗くしまり強い。砂質でパミス多い。
- 13 黒色土 HUE10YR2/1 粒子細かくしまり強い。シルト質状。
- 14 黒褐色土 HUE7.5YR3/1 粒子粗くしまり強い。シルト質状。

※明赤褐色土は、R地区の焼土 (RLF-256) に対応する (北埋調報148集)

図IV-3 南側低湿部の土層

1 盛土遺構部分の調査と出土遺物

(2) IV層出土の遺物 (図VI-15-1~7 図版131)

1) 土器 (図VI-15-1~7 図版131)

1~4はi・j・k-51から出土したもので、前述の盛土の二次堆積層に相当する。

IV群b-4類 (1・2)

1・2は、いずれも口唇断面は切出形で、突瘤はもたない。

IV群c類 (3~7)

3・4は縄文地に突瘤のみが施されるもの。3は周辺のIV・V・盛土層から同一個体と思われる破片が多数出土しているが、接合はしなかった。5・6は主に縄文のみが施されるもの。6は小形の鉢の破片と思われる。口縁部にはU字形の大きな切れ込みが4~5つほど施されるようである。7は注口の胴部破片。曲線的な沈線と沈線に添う列点文、およびすり消しによる文様が施される。器表にはわずかに赤色顔料が残る。

(3) V層出土の遺物 (図VI-15・16-8~34 図版131・132)

前述のとおり、おおよそV a層に相当するものである。

1) 土器 (図VI-15・16-8~25 図VI-50-231 図版131・132)

IV群b-4類 (8~11)

8~10は口唇直下に刻み列と突瘤がめぐるもの。口唇断面は切出形。9はV b層出土の破片と接合している。10は波頂部の破片で、3列の刻み列が口縁に添って施され、中段の刻み列に重ねて刺突列が加えられる。内面には不規則な沈線が施される。11は口唇直下に刻み列と突瘤がめぐるもの。口唇断面は内傾する角形である。

IV群c類 (12~25)

12は弧状の沈線による文様が施されるもの。13~16・19は平行沈線が施されるもの。13は緩やかな波状口縁を呈し、縄文が1段おきにすり消される。16は小波状口縁を呈するもので、波頂部の口唇端部には縦の沈線が施される。口唇断面は薄い切出形である。17・18は曲線による文様が施されるもの。17は口唇断面が薄い切出形である。18は口唇端部に、2個一対で、刻みが加えられる小さな突起が施される。盛土層出土の破片と接合している。20~22は、縄文地に突瘤のみが施されるもの。20はm-53・54、n-53・54の、主にV層と盛土層出土のものが接合した。大形の深鉢の口縁部である。内面には炭化物が厚く付着する。21は口唇断面が角形である。22の突瘤は施文後に指で左右に強くつぶされ、薄くなっている。23は縄文のみが施されるのもので、切出状の口唇端部に刻みが加えられる。81と同一個体である。24は沈線に沿う列点文が施されるもの。25は注口部。中央よりやや先端よりに段をもつ。

なお、20の内面に付着した炭化物を採取して¹⁴C年代測定を行ったところ、以下の値が得られた。

補正¹⁴C年代3940±50BP

これは、土器自体から予想される年代よりも古いものである(第V章第3節参照)。

2) 石器 (図VI-16-26~34 図版132)

26~31は石鏃。26は2 a類で側縁が内湾する。27~31は2 c類で28、29は基部を欠損する。32は両面加工石器。33、34は石斧で、34は基部を欠損している。

(4) 盛土層出土の遺物 (図VI-16~19-35~109 図版133~136)

1) 土器 (図VI-16~19-35~96 図版133~136)

IV群c類とIV群b-4類で圧倒的多数を占め、そのほか、I群b類とIII群b類が比較的多く出土している。大部分が小破片であるが、ややまとまって出土したものもあり、5個体が復原された。

I群b類 (40~45)

40・41はI群b-1類とした。40は外側へ張り出す底部破片で、短縄文が施される。41は縦の貼付帯と、斜行する組紐圧痕が施される。いずれも胎土には砂粒を多く含む。

42~45はI群b-4類。42は口唇断面は先細りする角形。縄線文、短縄文、撚糸文が施される。43・44は撚糸文が施される胴部破片。45は同じく撚糸文が施される底部付近の破片である。いずれも胎土には砂粒を含むが、少なく、きめが細かい。

III群b類 (46~48)

47・48はIII群b-2類。47は口唇に半截竹管状工具による斜めの刺突が施され、口縁部には同じく半截竹管状工具による平行沈線がめぐり、斜行縄文地に、綾絡文が施される。48は口縁部付近の破片と思われる。半截竹管状工具による斜めの刺突が加えられた横位の貼付帯をもつ。半截竹管状工具による平行沈線が複数施される。いずれも胎土には、繊維と砂粒を含む。

46はIII群b-3類である。口縁部には幅広の貼付帯をもち、2段の角棒状工具によると思われる押し引きが加えられる。体部には斜行縄文が施されるようである。胎土には砂粒や小礫を多く含む。

IV群b-4類 (49~64)

49~56は口唇直下に刻み列がめぐり、突瘤をもたない口縁部破片。口唇断面は切出形がほとんどである。49は弧状の沈線とすり消しによる文様をもつ。53は緩やかな波状口縁を呈し、口唇断面はかえし状の切出形である。55・56は無文地のもの。55は内面から口唇端部にかけて連続したケズリ調整が顕著である。57~60は口唇直下に刻み列と突瘤がめぐり、口唇断面はいずれも切出形である。59はさらに口縁部下にも1列の刻み列がめぐり、61はくびれのある深鉢の破片。62~64は注口の破片。62は口縁部で、刻み列部分に赤色顔料が付着している。

IV群c類 (35~39・65~96)

35~39はすべて主に盛土から出土したものが接合し、復原されたものである。

67~70は弧状の沈線による文様をもつもの。67~69は同一個体。小形の鉢と思われる。口唇断面は切出形で、9~10単位程度の突起をもつ。ほかにも同一個体が出土しているが、接合していない。70は胴部破片で、内面の全面と、器表面の沈線・縄文内に赤色顔料が付着する(口絵7-1)。

37・65・66・72・73は平行・並行沈線が施されるもの。37は主にm-54の盛土層からまとまって出土したものに、n-54、o-54から出土した破片が接合した。接合しない3つのまとまりからなる。多波状口縁を呈し、緩やかなくびれをもつ大形の深鉢である。底部は欠損する。口唇断面は切出形で、波頂部では薄い切出形になる。波頂部の口唇端部には縦の刻みが施される。口縁に沿って突瘤が施される。地文は斜行縄文である。くびれ部の無文帯を挟み、口縁部には口縁に沿った並行沈線が、胴部には平行沈線が施される。無文部には、方形や三角形を重ねたような浅い沈線が部分的にみられる。内面調整は丁寧で、部分的に炭化物が付着する。内外ともに、暗褐色や淡黄色を呈する。65は波頂部で、内面にも波頂部にのみ平行沈線が施される。66は口唇直下と胴部に無文帯をもつ。

35・36・74・75は、曲線による文様が施されるもの。35はn-53・54の主に盛土層から出土した。多波状口縁を呈する、くびれのある中形の深鉢である。底部際までは残存し、底部は欠損している。口唇断面は切出形で、波頂部の口唇端部には縦の刻みが施される。口縁に沿って突瘤がめぐり、地文は

1 盛土遺構部分の調査と出土遺物

不規則な羽状縄文で、口縁部および胴部上半の文様帯は平行沈線で区画され、横U字形の入れ子状の沈線の連続による文様が施される。くびれには、上下を沈線によって区画される無文帯をもつ。内面調整は比較的丁寧。内面には広範囲に、器表面にはくびれ部分と口縁部に、炭化物が薄く付着する。器表面は橙色、内面は淡黄色や黒褐色を呈する。36はn-54の主に盛土層からまとまって出土したものに、23mほど離れたq-59の整地1層から出土した破片が接合した。底部際までは残存しており、底部は欠損する。突起をもつ浅鉢である。突起は5単位で、突起の下には貫通孔が開けられる。口唇断面は概して切出形である。地文は斜行から横走ぎみの縄文で、楕円や半円モチーフの沈線による文様が施される。内面調整は丁寧である。内面および器表面の口縁部に炭化物が薄く付着する。器表面は淡黄色や黒褐色を、内面は褐色を呈する。75の口唇断面は、薄い切出形である。

71・76～80は縄文地に突瘤が施されるもの。71は小形の鉢で、口縁下部に無文帯をもつ。周囲から同一個体が多く出土しているが、接合しなかった。76は緩い波状口縁を呈し、口唇断面は角形である。78は斜行縄文がまばらに施される。79は突瘤の間隔が近い。80は切出形の口唇端部に、突瘤と同一と思われる竹管状工具による浅い刺突が施される。

81～84は縄文のみが施されるもの。81は口唇端部に刻みが施される。23と同一個体。82～84は同一個体。波状口縁を呈する深鉢である。口唇断面は切出形。斜行縄文のみが施され、底部付近は無文になる。器表面の剥落や摩耗が激しい。胎土には小礫を含む。内面には炭化物が付着する。

39は無文のもの。j-52からまとまって出土した小形の浅鉢である。口唇断面は尖りぎみである。無文で、横位の調整が施されるが粗雑である。底部は小さく、上げ底。内面には口縁から胴部中程まで炭化物が付着する。内外ともに褐色から黒褐色を呈する。

85・86は列点文が施されるもの。85は弧状の沈線と、それに沿う列点文が施される。底部付近の破片である。86は沈線に沿って列点文が多重に施されるもの。

38・87～93は注口である。38はm-53・54の主に盛土層から出土した破片が接合した。胴部のみしか残存しないが、注口である。注口部は残存しておらず、剥落痕が認められる。縄文地に、すり消しにより横J字状の文様が施される。上半部では、沈線に沿った列点文が部分的に施される。内面調整は比較的丁寧である。内外面とも淡黄色を呈する。87は平行沈線が施される頸部の破片。88は4～5単位の突起をもつ口縁部。92・93は微隆線が施されるもの。ともに、わずかに赤色顔料が付着している。胎土には白色などの砂粒を含み、焼成は悪い。文様や胎土から、東北地方からの搬入品の可能性がある。

94・95は底部破片。95は縄文が粗くすり消される。96は縄文が施された台。

2) 石器 (図VI-19-97～109 図版136)

97～101は石鏃。100・101の細部調整は周縁加工にとどまる。102・103はドリル。104はラウンドスクレイパー。105は両面加工石器。106は石斧で、ほぼ全面磨製のもの。107・108は橄欖岩製のたたき石である。109は砂岩製の石皿で、側縁部には擦り痕が認められる。

(5) V b層出土の遺物 (図IV-20-110～129 図版137～138-2)

1) 土器 (図VI-20-110～128 図版137～138-1)

I群b類 (111・112)

111は口縁部破片で、口唇断面は先細りの角形。口唇直下に縄線文、口縁部には短縄文と撚糸文が施される。112は撚糸文が施される胴部破片。

III群b-2類 (113)

113は46と同一個体である。やや外反する口縁部破片で、口唇断面は角型気味。口唇端部に半截竹管状工具による斜めの刺突が施される。胎土には砂粒と繊維を含む。

IV群 a 類 (114)

114はタブコプ式。内外面と切出形の口唇端部に縄文が施される。内外の縄文は施文後になでつけられる。胎土には小礫を多く含む。

IV群 b - 2 類 (115)

115は手稲式。突起をもつ深鉢である。摩耗が著しい。斜行縄文地に、口縁に沿った4本一組の平行沈線が施され、波頂部で弧状の垂下する沈線により結ばれる。波頂部の突起は、上面観が、輪をねじったような形状に整形されている。胎土には砂粒を多く含む。

IV群 b - 4 類 (110・116~118)

110・116~118は、いずれも口唇直下に刻み列がめぐり、突瘤はもたない。口唇断面は切出形である。110は i-52 からまとまって出土したものである。小形の、くびれのある鉢である。波頂部は欠損するが、5あるいは6単位の波状口縁を呈する。底部際まで残存するが、底は欠損する。口唇断面は切出形。地文は羽状縄文である。口唇直下とくびれに刻み列がめぐり、くびれには、刻み列と沈線により区画される無文帯をもち、口縁部および胴部から底部にかけては、それぞれ弧状の沈線を主体とする文様が施される。118は小形の鉢の口縁部破片で、くびれにも刻み列が施される。

IV群 c 類 (119~127)

119は平行沈線が施される。口唇断面は薄い切出形で、突瘤は施文後に左右につぶされる。120は曲線による文様が施されるもの。口唇断面は薄い切出形である。突瘤は施文後に強く左右につぶされる。122は、縄文地に突瘤が施されるもの。突瘤は施文後につぶされている。121は主に縄文地に、外からの貫通孔が施されるもの。口縁部下に無文帯をもつ。123は縄文のみが施されるもの。124~126は注口である。125はV b層と盛土層の破片が接合した。木葉形や水滴形の文様が施される。5~6単位の貼瘤をもつ。126は無文の注口部である。127は際まで縄文が施された底部。

128は鉢の突起部分が剥落したものであると思われる。片面にのみ、縄文と細い沈線が施される。

2) 石器 (図VI-20-129 図版138-2)

129は石斧で、部分的に磨かれている。

2 遺物集中L I - 1の調査と出土遺物 (図VI-33~35-1~29 図版138-3~図版140)

(1) 遺物集中L I - 1の調査 (図VI-33)

整地1層で検出した。分布はv-62・63、w-63にまたがる3m×2.5mほどの範囲である。

(2) 遺物集中L I - 1の出土遺物 (図VI-34・35-1~29 図版138-3~図版140)

遺物は、土器432点、石器等68点、計500点が出土した。土器はIV群c類が主体で92%、続いてIV群b-4類が7%ほどを占めている。この比率は、後述する南側低湿部と類似しており、盛土遺構や他の整地層等と比較して、IV群c類が低く、IV群b-4類が高い。このほか、II群a類、IV群a類がわずかに出土している。IV群c類では、文様構成をもつものがほとんど見られず、縄文地に刻みや突瘤が施されるのみのものがほとんどである。

1) 土器 (図VI-34・35-1~23 図版138-3~図版140)

IV群 b - 4 類 (5~11)

5~7は縄文地に刻み列がめぐり、くびれをもつもの。6は刻み列の下に無文部をもつ。刻みは押し引きに近い。口唇断面は切出形で、内面から連続するケズリ調整が顕著である。白色などの砂粒を含む。8・9は

2 遺物集中L I - 1の調査と出土遺物

口唇直下に刻み列と突瘤がめぐるもの。9は3列の刻み列と突瘤がめぐる。突瘤は、一度、現状より1cmほど下位に施された後、それを、内面の穴は粘土で埋め、器表面の瘤はつぶしたうゑに縄文を施して目立たなくした上で、新たに現状のように施している。10・11はそれぞれ注口の口縁部および頸部の破片である。

IV群c類(1~4・12~23)

12は胴部破片で、縄文地に弧状の沈線による文様が施されるもの。

1~3・16~20は縄文地に突瘤のみが施されるもの。1・3はくびれない深鉢。1は接合しない2つのまとまりからなる、大形のもの。口唇断面は切出形。LRの斜行縄文地に、口縁部に突瘤がめぐる。内面調整は丁寧。内外ともに淡黄色や黒褐色を呈する。3はL I - 1出土の破片と、L I - 1に隣接するv-62・63の整地1層およびV層から出土したものが接合した。中形の深鉢である。口唇断面は概して角形である。LRの斜行縄文地に、口縁に浅い突瘤がめぐる。内面調整は丁寧。内面の中位から下位と器表面の口縁部に、部分的に炭化物が付着する。割れ口では輪積みの痕跡が明瞭である。器表面は口縁部が暗褐色で胴部は淡黄色を、内面は暗褐色を呈する。2はくびれない小形の鉢である。底部を欠損する。口唇断面は切出形で、内面の口唇直下にとぎれとぎれの沈線がめぐる。RLの細かい斜行縄文地で、口縁部に突瘤が施される。内面調整は丁寧である。内外ともに主に橙色を呈する。同一個体の破片が、P-49の覆土から出土している(図V-167-30)。18の縄文はまばらである。19は器表面の摩耗が激しいが、斜行縄文が施されるようである。内面には炭化物が付着する。20は浅鉢の破片で、内面の口唇直下に沈線がめぐり、それに重ねて突瘤が施される。

4・13~15は主に縄文のみのももの。4は口縁が大きく内湾する、壺形の土器である。口唇断面は内傾する角形。LRの斜行縄文地で、口唇直下に沈線が1条めぐる。内外ともに淡黄色から褐色を呈する。13・14は同一個体と思われる。

21は縄文が施される底部破片。22はごく小形の無文の浅鉢である。23は部分的に縄文が施される短めの注口である。

2) 石器(図VI-35-24~28 図版140)

24~26は石鏃で、24は無茎のもの。25は右側のかえしを欠損している。26は先端部と茎部を欠損している。27・28はドリルで、28は機能部を欠損している。

3) 石製品(図VI-35-29 図版140)

29は石製品として扱った。素材は安山岩で、断面形は三角形を呈し、平坦面に3本の刻線が認められる。

3 南側低湿部の調査と出土遺物(図VI-36~41-1~95 図版141~149-1)

(1) 南側低湿部の調査(図IV-3)

ここで扱う範囲は、調査区の南端のw-63・64である。この付近は南へ向かって急激に落ち込む斜面になっており、第3層焼土を挟む(RLF-256)を第1・2・4層に大量の遺物を含む、En-aPが混入する黒色系土が厚く堆積していた。調査区にかかっていたのはごく狭い範囲であったため、全容は把握できず、便宜的に整地1層として遺物の取上を行った。しかし、この範囲の調査後、東側に隣接するR地区との境界に現れた土層断面の観察、およびR地区での調査の進行に伴い、斜面および斜面堆積がR地区へ続き、主体部はR地区およびR地区南側の調査区域外に分布していること、この範囲が整地1層とは異なる堆積状況であること、さらには斜面の最底部には低湿地が存在し、木製遺物が保存されていることが確認された。これらのことから、整地1層として調査した斜面については、整

地1層と分離する必要があるものと判断した。また、その範囲には地形的にw-63・64がほぼ相当するものと判断し、ここで扱うこととした。なお、斜面堆積の性格などについては、主体部を占めるR地区が現在整理中であることから、R地区での検討を待ちたい。

(2) 南側低湿部の出土遺物 (図VI-36~41-1~95 図版141~149-1)

南側低湿部としたw-63・64では、土器約3,100点、石器は約600点出土している。土器は破片が大きく、また、まとまって出土する傾向が顕著で、復原個体が多く得られた。一方で、出土時のまとまり以外での接合関係はほとんど認めらず、w-63・64以外との接合関係は全く認められない。

また、調査中に骨片が確認できたため、形状を保っているものについては取り上げ、同定を依頼した。その結果、哺乳綱のもの、およびニホンジカ・中型哺乳類のものが同定された(第VII章5節参照)。

1) 土器 (図VI-36~40-1~87 図版141~148)

約3,100点のうち、IV群c類が92%、IV群b-4類が6%を占める。この傾向はLI-1と類似しており、盛土遺構や他の整地層の比率と比較して、IV群c類がやや低く、IV群b-4類が高い。このほか、I群b類、II群a類、III群、IV群a類がわずかずつ出土している。また、IV群c類に含めているが、東北地方からの搬入品の可能性のあるものが4点出土している。この範囲は部分的に低湿部であったことから、層状・木根状に鉄分が付着している土器片や、摩耗して文様が判然としない土器片が多くみられた。

II群a-1類 (12・13)

12・13は網文土器の同一個体である。0段の網文が施されており、節はすり消されない。胎土には多量の繊維を含む。

III群 (14・15)

14はIII群b-1類。複節縄文が施される胴部破片である。15はIII群b-3類。角形の口唇端部と口唇直下に半截竹管状工具による押し引きが施される。口縁部には円形刺突文が施される。いずれも胎土には砂粒と繊維を含む。

IV群a類 (16~18)

16は入江式。クランク状の沈線が施される。胎土には砂粒を多く含む。17・18はタブコプ式。いずれも胎土には砂粒や小礫を多く含む。17は羽状縄文が施される底部破片。内面は剥落している。18は縄文が施される胴部破片。下半は無文で、底部付近の破片と思われる。内面には凹凸が残る。

IV群b-2類 (19~23)

19は浅鉢である。接合しない3つのまとまりからなる。ほかにも同一個体が多く出土しているが、接合しなかった。口縁はやや内湾する。口唇断面は外傾する切出形である。胴部上半に平行沈線と、それらを縦に結ぶ弧状の沈線が施される。この範囲にのみ斜行縄文が施され、口縁部および胴部下半は無文で、丁寧に磨かれている。内面も器表面同様、丁寧に磨かれている。器表面は暗褐色や黄褐色、内面は黒褐色を呈する。20・21はいずれも口唇断面は角形。19と同様に口縁部の無文帯の下位に、縄文地に平行沈線とそれを結ぶ弧状の沈線が施される。22・23は口縁部に沈線で区画された無文帯をもち、その下位に縄文のみが施されるもの。22の口唇断面は丸形で、内面から連続するケズリ調整痕が顕著である。23は口唇断面が角形気味で、波状口縁を呈する。

IV群b-4類 (1~3・24~46)

口唇断面は切出形のものが多い。

2・3・24~37は刻み列がめぐり、突瘤をもたないもの。24~27・30は弧状の沈線による文様が施されるもの。すべてすり消しを伴う。24は波頂部に、25は波底部に、縦の刻みが加えられた小さな突

3 南側低湿部の調査と出土遺物

起が施される。25の刻み列は押し引きに近い。無文部は丁寧にすり消されており、縄文部に比べやや低くなっている。26・27は浅鉢の同一個体。平縁で突起をもつ。縄文は充填される。30は口縁部にくびれをもち、壺形に近い器形と思われる。くびれには2列の刻み列がめぐる。口縁部は無文で、胴部には弧状の沈線とすり消しによる文様が施される。内面および器表面の口縁部に炭化物が付着する。28・29は口縁下部にも刻み列がめぐるもの。29は口縁部が無文帯になる。2・3・31~35は縄文地に刻み列がめぐるもの。2はくびれのない小形の鉢である。4単位の波状口縁を呈する。口唇断面は切出形で、口唇直下には口縁に沿った2列の刻み列がめぐる。口縁部には、刻み列と沈線で区画される無文帯をもち、胴から底部にはLRの斜行縄文が施される。底部は平底。内面調整は丁寧である。内外ともに暗黄褐色を呈する。3はまとまって出土した、大形の浅鉢である。底部を欠損しているため断定できないが、台がついていた可能性がある。口唇断面は切出形で、口唇直下に1列の刻み列がめぐる。体部には羽状縄文が施されるが、摩耗が激しく節は判別しがたい。内面調整は丁寧である。内外ともに淡黄色や灰色を呈する。31はくびれのある深鉢の口縁部で、くびれの上位に刻み列と沈線で区画された無文帯をもち、32は、内面の口唇直下に太い沈線が1条めぐる。34は内面に炭化物が厚く付着する。35はごく小形の鉢の破片。つくりはやや粗雑で、口唇断面は先細り、内面には凹凸が残る。36・37は無文地に刻み列がめぐるもの。37は径が小さく、注口の口縁の可能性がある。

1・38~42は口唇直下に刻み列と突瘤がめぐるもの。38は鋸歯状の沈線が施されるもの。内面には炭化物が厚く付着する。1・39・41・42は縄文地に刻み列と突瘤が施されるもの。1はくびれをもち中形の深鉢。非常に摩耗が激しく、縄文が判別しがたい部分が多い。口唇断面は切出形で、口唇直下に1列の刻み列と突瘤がめぐる。内面の口唇直下には、部分的に沈線が施される。くびれには、1列の刻み列と沈線で区画された無文帯をもち、これを挟んで、口縁には羽状縄文が、胴部には斜行縄文が施される。内面調整は丁寧で、部分的に炭化物が付着する。39の突瘤は非常に浅い。42は突瘤施文後に上下に軽くつぶされている。40は無文地に刻み列と突瘤が施されるもの。

43・44は胴部破片。刻み列が施される、くびれのある深鉢である。44は胴部下半に、間隔の広い平行沈線と、これらを横切るように垂下する波状の沈線が施される。

45・46は注口。刻み列が施され、貼瘤をもち、すり消しによる文様が施される。

なお、34の内面に付着した炭化物を採取して¹⁴C年代測定を行ったところ、以下の値が得られた。

補正¹⁴C年代3990±50BP

これは土器自体から予想される年代よりも古いものである（第VII章第3節参照）。

IV群c類（4~11・47~87）

7・9・47~53は弧状や鋸歯状の沈線による文様が施されるもの。7・9は小形の浅鉢である。7は口唇断面は切出形。斜行縄文地に、縦位の波線と直線が、それぞれ2条一組で施される。内面調整は丁寧で、部分的に炭化物が付着する。内外ともに黒褐色を呈する。9は口唇断面は切出形。無文地に、平行沈線と「く」の字状の沈線が施される。内面調整は丁寧で、底部を除く全面に炭化物が薄く付着する。器表面は黄褐色である。内面は本来は淡黄色のようだが、炭化物の付着により、黒色を呈する。47は帯縄文による入組状の文様が施される。縄文は充填されている。48は小形の浅鉢。充填による木葉文が施される。49は底部付近の破片。53は口縁部に半円状の沈線が施される。50~52は鋸歯状の沈線が施されるもの。50は波状口縁を呈するくびれのある鉢の口縁部。51は底部付近の破片で、炭化物が厚く付着する。52はくびれのある深鉢の胴部破片。

54~56・63・64は平行・並行沈線が施されるもの。56は小波状口縁を呈し、口唇断面は薄い切出形である。

4・5・57～60は、縄文地に突瘤のみが施されるもの。4はくびれの無い中形の深鉢である。底部を欠損する。口唇断面は切出形。不規則な羽状縄文地で、口縁部に突瘤がめぐる。内面調整は丁寧で、やや縦位の調整痕も見られる。器表面は主に褐色、内面は黄褐色を呈する。5はくびれの無い中形の鉢。口唇断面は切出形。体部には不規則な羽状縄文が施され、口縁部に突瘤がめぐる。内面調整は比較的丁寧である。器表面は褐色、内面は黄褐色を呈する。57は矢羽状の縄文が施される。60は口唇断面は角形で、胎土には小礫を含む。

61・62は無文地に突瘤のみが施されるもの。61は浅鉢である。

8・65～76は主に縄文のみが施されるもの。8は小形の鉢である。底部ぎわまで残存するが、底部は欠損する。口唇断面は角形。体部には、細いR Lの斜行縄文が密に施される。内面調整は丁寧である。内外ともに黄褐色を呈する。65は口縁の内外に太い沈線が1条ずつ施される。66はくびれのある深鉢で、斜位に羽状縄文が施され、くびれに2本一組の平行沈線が施される。67～70は縄文のみが施されるもの。67は小形の鉢である。68は口唇端部に、69は内面に炭化物が付着する。70はごく小形の浅鉢の破片。

71・72はハの字状の列点文が施されるもの。いずれも口縁部破片である。

10・73～78は注口あるいは壺である。10は充填による帯縄文が施され、貼瘤をもつ。文様は4単位である。注口部は残存していない。内外ともに黄褐色や暗褐色を呈する。73・74は口縁部。75～77は胴部。いずれも帯縄文や木葉文などが施される。75は注口部。76は帯縄文が施され、貼瘤をもつ。77は底部付近の破片で、注口の剥落痕が認められる。78は無文の注口。

84～87は、胎土・文様等から、搬入品と思われるもの。すべて注口の破片である。いずれも胎土には混入物が非常に少なく、器表の調整は丁寧で、磨かれている。縄文は施されていない。84～86は胴部の破片。黒色を呈し、斜位の刻みが施される。84・85は同一個体。87は口縁部で、4単位の、刻みが加えられる突起をもつ。頸部には2段の細かい斜位の刻みが、体部には微隆線が施される。淡黄色を呈する。

6・79～83は底部破片。6は大形の深鉢の胴部から底部である。やや不規則な羽状縄文が施され、底部付近は無文である。内面は底部付近では横位に、上部では縦位に調整される。胎土には小礫を少量含む。内外ともに淡黄色や灰色を呈する。82は丸底ぎみのもの。際まで縄文が施され、沈線がめぐる。83は縄文が施される台。

11は手づくねの鉢形ミニチュア土器。つくりは粗雑で、いびつである。灰白色を呈する。

2) 石器 (図VI-41-88～95 図版149)

88～90はつまみ付きナイフで、88は先端部を欠損している。90は横形。91～93は石斧。91は部分的に磨かれている。92は蛇紋岩を素材とし、擦り切り手法によって製作されたもの。93は全面磨製で、基部を欠損する。94は橄欖岩製のたたき石で、周縁部に使用痕が集中する。95は砂岩製の砥石である。

4 整地層等および包含層の調査と出土遺物 (図VI-42～56 図版149-2～図版166)

(1) 包含層調査

ここでは包含層出土の遺物として、57ラインより東側の各層から出土した遺物のうち、前項までで扱った遺物集中L I-1および南側低湿部w-63・64から出土した遺物を除いた、盛土層、整地1・2層およびV層などから出土した遺物を一括して扱う。

(2) 包含層の出土遺物 (図VI-42～56 図版-149-2～図版166)

包含層からは、土器・土製品が68,982点、石器・石製品が17,109点、計86,091点出土している。

4 整地層等および包含層の調査と出土遺物

土器では、98%以上をIV群c類が占めており、ほかには、IV群b-4類・III群b類・IV群a類がやや多く、I群b類、II群a・b類、III群およびIII群a類、IV群b-2類がわずかに出土しているが、いずれも1%にも満たない。出土する破片は、小さく断片的なものがほとんどで、まとまった出土状況は少なかった。このため、復原されたのは、わずかに3個体のみである。また、o-65の整地2層から、III群b類が185点出土している(図版74-3)。口縁からは複数個体が確認できたが、ごく小さな細片が大部分であったため、図示できたものは少ない。

石器には、石鏃・ドリル・つまみ付きナイフ・スクレイパー等の剥片石器、石斧・たたき石・すり石・砥石・石皿・台石等の礫石器等がある。

包含層の遺物出土分布図を図IV-1・2に示した。しかし、遺物の分布傾向については、今回、包含層として、先述したように盛土層、整地1・2層出土の遺物も一括して扱っていること、縄文時代の盛土・整地の形成や近年の耕作・削平による包含層の有無や残存状況が大きな影響を及ぼしていると考えられる。したがって、図示した分布図とは異なり、遺物は調査区全体に分布していたものと考えられる。

また、主に整地層では、調査中に骨片が確認できたため、形状を保っているものについては取り上げ、同定を依頼した。その結果、哺乳綱のもの、およびヒグマ・ニホンジカのもものが同定された(第七章第5節参照)。

1) 石斧素材集中(図VI-51-1~7 図版166-2)

整地2層で検出した。実測後半截し、掘り込みの検出につとめたが確認できなかった。

1~7の材質はすべて緑色泥岩で、棒状あるいは扁平な礫を素材にしている。1~3は加工のみられないもの。4は両側縁部と先端部にわずかに剥離がある。5は側縁部に敲打痕が認められる。6・7は側縁部に粗割による剥離と敲打痕が認められる。

2) 土器(図VI-42~50-1~227 図版-149-2~図版162)

I群~IV群a類 (図VI-42-4~29)

I群b類(4~9)

整地1・2層、I層から出土している。4は口縁部破片。口唇断面は肥厚する角形で、短縄文が施される。5は短縄文と斜行縄文が、7は斜行縄文と横走る縄文が施される。8は、縄端圧痕が加えられた縦位の貼付と、絡条体による組紐圧痕が施される。9は、撚糸文が施されるI群b-4類。

II群a類(10・11)

11は横走る縄文が施されるII群a-1類。整地1層から出土した。節はすり消されない。胎土には砂粒と繊維を多く含む。10は付加条縄文が施され、口唇断面の調整が粗雑であることからII群a-2類とした。胎土には小礫を含むが、繊維は含まない。II群a-1類の可能性もある。

III群(12~17)

整地1・2層およびVb層から出土した。12・13はIII群a類である。12は突起をもつ口縁部破片。口唇断面は緩やかな切出形である。口縁部には、太い縄線と平行して、連続する縄端の圧痕が施される。内面調整は丁寧。胎土には、石英などの砂粒と繊維を含む。13は結節羽状縄文が施される胴部破片。胎土には、砂粒や小礫と繊維を含む。14~17はIII群b類。14はIII群b-1類。半截竹管状工具による斜位の圧痕が施される。胎土には、白色などの砂粒と繊維を含む。15~17はIII群b-2類。いずれも胎土には砂粒を少量含む。15は外反する口縁部破片。口縁部は肥厚し、口唇断面は角形気味で、口唇端部には竹管状工具による斜めの深い刺突が施される。16も同様に口唇端部に刺突が施されるが、浅い。

IV群 a 類 (18~29)

整地1・2層、V・Vb層およびI層から出土した。18~20はタブコブ式。口唇断面は角形。胎土には砂粒や小礫を多く含み、粘土のきめが粗いためか空隙が多く、縦位にはがれやすい明瞭な層を成している。内面や口唇端部に縄文が施されるものが多い。18は細い縄文が施される。19の縄文は太く、内面には縦位に施される。20は胴部破片で、内外ともに縄文施文後になでつけられる。21~27は入江式。胎土には砂粒や赤色・白色などの小礫を多く含むが、きめがこまかく、しっかりしている。文様を構成する沈線は太い。21・22は外反する口縁部破片。21は口唇端部に縄文が、22は浅い刻みが部分的に施される。21は口縁部は無文で、胴部には縄文が施される。22は縄文地にクランク状の沈線が施される。23~27は胴部破片で、Z字状・クランク状・くの字状などの沈線が施される。25は補修孔があげられている。27は曲線による文様が施されており、部分的に、沈線に沿って幅広の凹凸のある工具による条痕が加えられている。28・29は、胎土や口唇断面の形状からIV群 a 類とした。28は口唇断面が角形きめで、口唇端部には縄文が施される。口縁部は無文地に3段の刺突列が施される。胴部には縄端圧痕あるいは縄文が施されるようである。内面には炭化物が付着する。29は胴部破片で、上位は無文地に刺突列が、その下位には斜行縄文が施される。これらと同様の破片が、土坑P-19・49から出土している。

IV群 b - 2 類 (図VI-43-30・31)

整地1・2層から出土した。いずれも、平行沈線とそれらを縦に結ぶ弧状沈線が施される。30は口唇断面が丸形で、内面から口縁の無文帯にかけて連続的なケズリ調整が見られる。31は角形の口唇端部に縄文が施される。平行沈線と弧状の沈線の組み合わせではなく、横U字状の沈線を左右交互に施すようである。

IV群 b - 4 類 (図VI-44-32~55)

深鉢・鉢・浅鉢 (32~51)

口唇断面は切出形が多いが、角形のものも見られる。鉢類には文様構成をもつものは非常に少ない。

口唇直下に刻み列が巡り、突瘤をもたないもの (32~41)

32は口唇直下に無文帯をもち、その下位に刻み列がめぐるもの。文様中には竹管状工具による刺突列が施される。口唇断面は切出形で、内面から連続的にケズリ調整が見られる。胎土には砂粒を含む。40は弧状の沈線とすり消しによる文様構成をもつもの。ごく小形の鉢の破片と思われる。33~37は縄文地に刻み列のみが施されるもの。35は内面に植物の葉の痕跡が認められる。37は口縁部に無文帯をもつ。38・39は無文地に刻み列が施されるもの。41はごく小形の鉢の破片と思われ、口唇直下ではなくやや下の口縁部に刻み列が施されるもの。

口唇直下に刻み列と突瘤がめぐるもの (42~50)

45は接合しない3つのまとまりからなる同一個体である。くびれのある深鉢で、くびれには沈線と刻み列によって区画された無文帯をもつ。48は3列の刻み列が施され、突瘤は施文後に左右につぶされる。全体につくりが粗雑である。50の刻み列は細い斜位の刻みで構成される。胴部には、ごく浅い沈線による文様が施される。

51はくびれをもつ深鉢の胴部破片。胴部下半には沈線による文様が施されるようである。

注口・壺 (52~55)

52・53は口縁部。54は肩の破片で、すり消しによる文様をもつ。55は頸部の破片で、無文地に、刻み列が加えられた貼付帯が施され、これにさらに、刻み列が加えられたドーナツ状の貼付が施される。

4 整地層等および包含層の調査と出土遺物

IV群 c 類 (図VI-42-1~3・図VI-45~50-56~227)

深鉢・鉢・浅鉢 (1~3・56~134・136~183)

弧状や鋸歯状・直線状の沈線による文様をもつもの (56・58~65・77~89)

56は帯縄文が施される。縄文は充填される。58は小形の鉢である。59は切出形の口唇端部に竹管状工具による刺突列が施される。60は内面に炭化物が厚く付着する。62は角形の口唇端部にも縄文が施される。64はごく小形の浅鉢になると思われる。63はくびれのある深鉢形のミニチュアである。65は口縁に注ぎ口をもつ鉢の、口の部分の破片である。61は弧状の並行沈線が施される。81は緩やかな波状口縁を呈する鉢の破片である。沈線に赤色顔料が付着する部分がある。突瘤としたが、貫通孔の可能性もある。83は内面のケズリ調整痕が顕著である。85は羽状縄文地に、横環する平行沈線と斜位の平行沈線が施される。87は平行沈線間に鋸歯状の沈線が加えられる。88は平行沈線間に斜位の沈線が加えられる。84は木葉文が施される底部付近の破片である。89は内面に、断面円形の棒状工具端を斜めに押しつけたような痕跡が多数認められるもの。

平行沈線が施されるもの (1・57・66~73・90~121・132)

66~73は突瘤が施されないもの。66・71は口唇端部にも縄文が施される。67は口唇直下の内外に刻み列が施される。口唇断面は尖りぎみである。68は沈線間の縄文がすり消される部分がある。72は摩擦が激しいが、羽状縄文地に平行沈線が施される。73はくびれがあり無文帯をもつもの。1・57・90~121・132は突瘤が施されるもの。90~93は無文帯をもち、波状口縁を呈するもの。91は波頂部の口唇近くに突瘤が施されるが、表面の瘤はつぶされている。57・94~97は無文帯をもち、平縁のもの。57は胴部に横環する沈線の下に、縦位の沈線で区画された無文部をもつ。内面には炭化物が付着する。94は切出形の口唇端部に断面円形の棒状工具による斜め下から刺突列が施され、口唇の先端には同じ工具による刻み列が施される。97はくびれのある鉢である。98・99は同一個体である。口縁は内湾する。100~104・108~113は、突起をもつあるいは波状口縁を呈するもの。101・102・112は2個一対の突起をもつ。103は波状口縁を呈し、くびれをもつ深鉢。111は波頂部の内面に2本の縦の刻みが施される。113は切出形の口唇端部に、突瘤と同じと思われる竹管状工具により、浅い刺突が施される。105~107・114~116は平縁のもの。107は角形の口唇端部にも縄文が施される。115は切出形の口唇端部にも縄文が施され、突瘤は施文後に軽くつぶされている。1・117~121は多波状あるいは小波状口縁を呈すると思われるもの。1はf-60・61、g-60・61の、盛土層、整地1・2層、Vb層およびI層から出土した破片が接合した。接合しない6つのまとまりからなる。破片は小さいものが多く、ほかにも同一個体と思われる破片が50点以上出土しているが、接合しなかった。底部は欠損する。くびれない、大形の深鉢である。胴部に丸みをもち、椀形に近い器形である。小波状口縁を呈し、やや角張る大きな突起を4つもつものと思われる。LRの斜行縄文地で、口縁部に平行沈線と突瘤がめぐる。大きな突起には突瘤が2段施される。また、平行沈線間に、細く短い斜位の沈線が施される部分がある。縄文の原体は、太・細2種が用いられており、図の正面では上半は太いもので、下半は細いもので施文しているが、細いもので全面に施文している部分もある。器厚は薄く、内面調整は丁寧である。内面では部分的に、器表面では口縁部に部分的に、炭化物が薄く付着する。器表面は主に淡黄色、内面は褐色を呈する。120は突起部の破片で、突瘤が2段に施される。121は口唇断面が薄い切出形で、小波状口縁を呈する。内面には炭化物が付着する。沈線は突瘤施文後に施されている。132は胴部破片。平行沈線から下は無文になる。

不規則な曲線などによる文様をもつもの (74~76・122~131・134・136・137)

小波状や多波状口縁を呈するもの、口唇断面が切出形のものが多い。75・76は同一個体。同心円状

の沈線と、それらを結ぶ沈線が施されるようである。122・123・124・129は小波状口縁である。123・124は同一個体。125は平縁で、口唇断面は丸形気味。130も小波状口縁で、表面には赤色顔料が薄く残り、その上から炭化物が付着している。131は竹管状工具による浅い刺突が施される。134・136・137は胴部破片。134は円形モチーフの沈線が施される。

縄文地に主に突瘤だけが施されるもの (138~155)

138~143は波状口を呈するもの、144~155は平縁のもの。142は内面全面に炭化物が付着している。151は切出形の口唇端部に縄文が施され、さらに突瘤と同じと思われる竹管状工具による浅い刺突が加えられる。

主に縄文のみが施されるもの (3・133・156~162・165~167)

3は、波状口縁を呈する小形の浅鉢である。n-66の整地1層から出土した。8単位程度の波状口縁を呈する。口唇断面は切出形で、波頂部では薄い切出形になる。胴下部に沈線が横環するくびれがある。これを境に口縁にはLRの斜行縄文が施され、下部は無文になる。底は、やや丸底ぎみである。内面調整は丁寧で、底部も含めて全面に炭化物が薄く付着する。133・156~162は縄文のみが施されるもの。133は緩いくびれのある深鉢の胴部下半。くびれには無文帯をもつ。156は波状口縁、157~162は平縁である。158は切出形の口唇端部に縄文が施される。161は口縁部に2本の沈線がめぐり、ごく小形の鉢と思われる。165は縄文が施される胴部破片。166は、器表面は剥落しているが、切出形の口唇端部の先端部分に、沈線で区画された縄文が施され、さらに刻み列が加えられるもの。167は小形の浅鉢で、下半部には斜行縄文が施され、口縁付近は無文になる。

無文のもの (2・163・164)

2は、s-63の整地2層からまとまって出土した中形の浅鉢。底部は欠損する。口唇断面は切出形である。無文で、内外ともに比較的丁寧な横位の調整が施される。内外ともに黄褐色を呈する。163は浅鉢。口唇断面は切出形で、2個一対の突起が加えられている。164は、口唇断面は丸みをもつ。丁寧な器面調整が加えられている。

ハの字状の列点文が施されるもの (168~179)

168・169は鉢の口縁部。口唇断面は切出形で、口唇の先端に刻み列が施される。169は突起が施され、突起の内面にも刻みが加えられる。170は片口をもつ鉢の口の部分。171~173は胴部破片。174~176はやや不規則なハの字状の列点文が施されるもの。177~179はミニチュア。178はくびれのある深鉢形で、無文帯をもつ。179は鉢形の底部。

貼瘤をもつもの (180~183)

すべて鉢である。180は小波状口縁を呈する鉢あるいは深鉢である。口縁部には貼瘤の施文後に突瘤が施される。薄い切出形を呈する口唇端部には、細い竹管状工具による刺突列が施される。地文はやや不規則な羽状縄文である。181~183は同一個体。羽状縄文地に平行沈線と数段の貼瘤が施される。口縁部には突瘤が施される。平行沈線の下は無文である。

注口・壺 (135・184~207)

184~187は口縁および頸部の破片。口縁部破片の口唇断面は切出形で、184は口唇端部に、185は口唇の先端に刻みが施される。184は刻み目にわずかに赤色顔料が残る。186はすり消しによる文様が施され、縦位の刻みが加えられる貼瘤が施される。187は内面に沈線が施される。135・188~195は胴部破片。188は充填による帯縄文が施され、剥落してはいるが、貼瘤の痕跡が認められる。135・189~195は、主に弧状の沈線による文様が施されるもの。135は内面に赤色顔料がまばらに付着する。189は胴部がやや鋭角的に張り出す。ごくわずかに赤色顔料が残る。191の胴部は無文。192は細い縄文の充

4 整地層等および包含層の調査と出土遺物

墳による文様をもつ。191・192はともに器表面に炭化物が付着している。196～204は列点文が施されるもの。196～199・201はハの字状の列点文が施される。196は口縁部、197は貼瘤をもつ頸部。198も頸部で、表面の全面に赤色顔料が厚く付着している。199は接合しない2つのまとまりからなる。胴部に段をもつ注口である。2つのくびれ部には2段のハの字の刻み列がめぐり、重ねて貼瘤が施される。202は不規則な3列ほどの列点文が沈線に沿って施される。200は頸部のくびれに、縄文が施される貼付帯をもち、貼付とその下位の沈線に沿って竹管状工具による刺突が施される。口縁部は破損しているが、上から押しつけてくぼめたような部分があり、片口であると思われる。203は沈線に沿う列点文が施され、縦の刻みと刺突が加えられる貼瘤が施される。204は斜めU字形の沈線間がすり消され、沈線に沿うように竹管状工具による浅い刺突が施される。205は無文地に刺突が加えられた貼瘤が施される。206は付け根に沈線が施された注口。207は胎土や文様から、東北地方からの搬入品と思われるもの。格子目状の沈線が施され、貼瘤をもつ。胎土には砂粒を含むが、緻密で硬質である。器表面には赤色顔料が付着しており、特に沈線内には厚く残る。

208～219は底部破片。211はやや丸底気味になる。212～214はごく小形の鉢の底部破片。いずれも上げ底である。215は底部にも縄文と沈線が施される。216はごく小さな台をもつもの。217～219は台の破片。217には縄文が施される。

爪形文をもつもの・三叉文をもつもの (220～227)

爪形文・三叉文は突瘤をあわせもつものが見られるため、IV群c類として扱った。

220～223は爪形文をもつもの。いずれも口唇断面は角形である。220は多段の爪形文と突瘤が施される口縁部破片。摩耗が激しい。221・222は口唇直下に、沈線で区画された明瞭な爪形文が施される。いずれも波状口縁である。223は爪形文が施される胴部破片。224～227は三叉文風の文様が施される同一個体。無文地に、沈線による文様と組み合わせて、三叉文風の彫り込み(?)が施される。口唇断面は角形で、外側に張り出すように突起が施される。内外ともに調整は比較的丁寧である。小形の鉢と思われる。

3) 石器 (図VI-52～56-1～83 図版163～166-2)

石鏃 (1～23 図版163-1)

294点出土した。そのほとんどが有茎鏃である。23点を図示したうち、頁岩製は2点(8・9)で、他はすべて黒曜石製である。1は三角形無茎のもの。2・3は柳葉形。4～7は2a類で4は先端部が欠損する。8は2b類で頁岩製のもの。9～21は2c類。12は先端部と茎部を欠損する。13・16は先端部を欠損する。22は2d類で茎部の作り出しが不明瞭なもの。23は2a類としたが石槍またはナイフに属するものとも思われる。

石槍 (24～26 図版163-1)

5点出土した。このうちの3点を図示した。24・25は黒曜石製で有茎のもの。26は頁岩を素材とした柳葉形のものである。

ドリル (27～33 図版163-1)

27点出土した。このうちの7点を図示した。27・28・31は黒曜石製で、27は1類、28・31は2類である。29・30・32・33は頁岩製で、33は3類の棒状のもの、他は2類である。32は先端部を欠損する。

つまみ付ナイフ (34～36 図版163-1)

9点出土した。このうちの3点を図示した。34・35は頁岩製で、34は1a類、35は1d類である。36は黒曜石製で1c類である。

スクレイパー (37~44 図版163-1)

61点出土した。このうちの8点を図示した。すべて黒曜石製である。37~41は1 a類で側縁に刃部を持つもの。42は1 b類で、下端に刃部をもち、背面には礫皮面を残す。43は1 c類。44は3類でバルブ付近に礫皮面を残す。

石核 (45~47 図版163-1)

100点出土した。このうちの3点を図示した。いずれも黒曜石製で礫皮面を残す。

石斧 (48~57 図版164-1)

302点出土した。このうちの10点を図示した。このうち140点は分類不能の破片や未成品で、32%を占める。54を除き他はすべて緑色泥岩である。48・49は部分的に磨かれたもの。50~56はほぼ全面磨製のもので54は片岩を素材にしている。57は未完成のものと思われる。

たたき石 (58~69 図版164-1)

128点出土した。このうちの12点を図示した。橄欖岩製の円礫を素材にしたものの出土割合が高く、全体の69%を占める。58~64は橄欖岩。65は泥岩で、66・67は安山岩、68・69は砂岩である。60・63は周縁部にたたき痕が見られるもの。58・59・61・62・63はほぼ表面全面にたたき痕が認められる。68・69はくぼみ石と称されるものである。

すり石 (70~76 図版165-1)

36点出土した。このうちの7点を図示した。7点とも、たたき石と機能が複合する。橄欖岩製の円礫を素材にしたものの出土割合が高く、全体の72%を占める。70~72・75は橄欖岩。73・76は緑色泥岩で、74は砂岩である。70~72・75は周縁部に使用痕が見られるもの。73・74は一面を除く表面全面に使用痕が認められる。76は石斧未成品からの転用品と考えられる。

砥石 (77・78 図版165-1)

41点出土した。このうちの2点を図示した。77は板状の砂岩を素材にし、両平坦面には交差する数状の条痕が認められる。78は断面形が四角形を呈し、四面ともに折断面にはU字状の研磨面を持つものである。

石錘 (79・80 図版165-1)

8点出土した。このうちの2点を図示した。79・80ともに砂岩で、扁平な礫を素材としている。79の片側平坦面には敲打痕が認められる。80は片側を欠損する。

石皿・台石 (81~83 図版165-1)

120点出土した。いずれも破損品が多く、擦り面等をもつものは砥石との差異が特定し難い。このうちの3点を図示した。3点とも砂岩を素材にしている。81は折断面にも凹み状の敲打痕が認められる。82は表面にたたき痕がみられ、わずかに凹みがある。83の表面には擦り痕と敲打痕が見られる。

4) 土製品など (図VI-50-228~232 図版162-1)

228は把手のようにも見えるが部位は不明である。背面は剥離しているが、腹面に太めの縄文が施される。左側面には非常に細かい縄文のようにも見える痕跡が認められる。229は円板状を呈する土製品である。I層から出土した。形態的には耳栓に類似する。全周につば状の張り出しをもち、中央部には表裏に貼付が施される。つば状の張り出しは断面形が角形で、外へやや開く。貼付は表裏で位置が若干ずれており、刺突が加えられている。背面は黒褐色土、腹面は黄褐色を呈する。調整は施されるが、貼付の張り付け部分などの調整が丁寧ではなく、一般的な耳栓と比較すると、全体的につくりが粗雑である。なお、平成9年度に調査したK地区からも、同様の土製品が出土している(第VIII章第2節参照)。230は紐状の焼成粘土塊。231は、土玉である。図の縦方向に貫通孔をもち、沈線とハの字

4 整地層等および包含層の調査と出土遺物

状などの列点文による文様が施される。232は動物の頭部を模したものの。特殊な土器の口縁付近に付属するものの可能性があるが、全容は不明である。I層から出土した。全体に逆U字形に整形される。図の右側が鼻面である。左端に耳が位置し、それより後側と、鼻の部分および左の頬付近が欠損している。耳は貼付されており、右耳は剥落している。左耳も先端が欠損する。耳には左右方向に貫通孔が開けられる。右頬の器縁には刻み列が施され、貫通孔があげられる。地文には帯縄文が施される。内面は比較的丁寧に調整される。内外ともに明黄褐色を呈する。左耳の周辺に炭化物が薄く付着している。なお、同じく平成10年度に調査したG地区の盛土遺構中から、これと非常に類似した残存状態の良いものが出土しており、現在整理作業中である（口絵8-2）。

5) 石製品（図VI-56-84~91 図版166-1）

10点出土した。このうちの8点を図示した。84~87は橄欖岩製の玉である。84は全面に研磨が施され、両面から穿孔され、孔の一部に摩耗した痕が認められる。85は玉の外周の3ヵ所にU字状の擦り痕がある。86は長軸に沿って破損したもの。残存する部位の研磨は非常に丁寧である。87は孔の内側にむかって薄く調整されている。88・89は黒曜石製の異形石器と称されるもの。90は剥片の背面側の全周と腹面側周縁の一部に加工を施している。91は泥岩を素材にした石棒と思われる。先端部には数条の交差するすり痕があり、両側縁の段差部分には縦位の数条の条痕が認められる。

一 覽 表

表1 建物一覽(1)

建物 No.	位 置	主 柱				入 口		焼土	壁 柱 穴					方位	主柱間距離					
		A	B	C	D										A-B	B-C	C-D	D-A		
1	0-57・58	H12P6	H12P3	H12P4	H12P5	H12P1	H12P2	F5	H12P9	H12P10	H12P11	H12P12	H12P13	3.14	2.76	3.18	2.81			
	P-56・57・58								H12P14	H12P15	H12P16	H12P17	H12P18							
	q-57・58								H12P19	H12P20	H12P21	H12P22	H12P23							
									H12P24	H12P25	H12P26	H12P27	H12P28							
									H12P29	H12P30	H12P31	H12P32	H12P33							
									H12P34	H12P35	H12P36	H12P37	H12P38							
									H12P39	H12P40	H12P41	H12P42	H12P43							
									H12P44	H12P45	H12P55	H12P57	H12P60							
									H12P61	H12P68	H12P69	H12P70	H12P76							
								H12P80	H12P81											
2	n-54・55・56	H5P4	H5P3	543	(H5P6)	H5P1	H5P2	F1	H5P8	H5P9	H5P10	H5P11	H5P12	75°	2.93	2.96	3.15	2.87		
	0-54・55・56				(H5P45)			F2	H5P13	H5P14	H5P16	H5P17	H5P18				3.09	2.91		
	P-55・56								H5P19	H5P20	H5P21	H5P22	H5P23							
									H5P24	H5P25	H5P26	H5P27	H5P28							
									H5P29	H5P37	H5P38	H5P41	34							
									535	536	537	539	3993							
								4639												
3	l-54	H3P4	H3P3	H3P2	H3P1	527	571	F13	505	506	507	508	528	80°	2.37	2.14	2.01	2.09		
	n-53・54・55								529	565	572	573	3976							
									3977	3980										
4	n-54	533	568	523	532	566	3987	F14	534	4396				90°	3.00	1.83	2.84	1.81		
	n-54																			
5	n-60・61・62	(2309)	968	879	882	P142	P149	F34	956	961	2243	2246	2247	75°	1.96	2.34	1.83	2.21		
	0-60・61	(2308)							2248	2251	2253	2258	2259							
									2260	2261	2262	2285	2289							
									2290	2299	2300	2303	2324							
									2326	2329	2330	3898	3902							
								3903	3939	3940	3941									
6	j-51・52	452	449	448	451	455		F20	450	453				100°	1.85	2.24	1.86	2.21		
	k-51																			
7	n-53・54	530	564	562	550	H15P1		F28	563	3983				75°	1.99	1.84	1.87	2.02		
	n-53・54																			
8	0-54・55・56	(36)	H5P34			H24P1	H24P2	H24P3	H24P4	F22	H5P39	41	544	4637	4777	85°	3.70	—	—	—
	p-55・56	(35・37)																		
9	n-54・55	H14P3	H14P4	H14P5		H14P1	H14P2	F19	531	535	3985			90°	2.85	2.02	—	—		
	0-54																			
10	j-62・63・64	P75	P113	P34	P115	H26P1	H26P2	F45						80°	5.16	4.71	5.78	4.78		
	k-62・63・64	(P76)																		
	l-63																			
11	n-63・64	P169	P242	P277	P97	2715	2716	2711	2712	F36				80°	5.47	5.77	5.74	5.75		
	0-62・63・64									F42										
	P-63																			

建物一覽 (2)

建物 No	位 置	主 柱				入 口	焼土	壁 柱 穴	方位	主柱間距離			
		A	B	C	D					A-B	B-C	C-D	D-A
12	k-62	(P187)	P90	P93	P98	H31P1 H31P2	F30		85°	5.35	5.10	5.53	5.34
	l-60・61・62・63	(P150)					F32						
	m-61・62・63						F33						
13	j-71・72	2029	2031	P135	2050	4488 4491	F80		65°	3.11	3.12	3.39	2.76
	k-71・72												
14	i-70・71・72	P129	P121	P108	P70	2097 2100	F79	2032 2033 2034 2077 2079	85°	5.89	5.66	5.62	5.94
	j-70・71・72							2089 2098 2099 4491 4492					
	k-70・71・72							4495 4496 4566 4570 4572					
								4573 4577 4581 4582					
15	i-66・67・68	P178	P53	P79	P170	2150 2151		576 586 587 594 1949	75°	4.94	5.57	5.52	5.83
	j-65・66・67・68							2162 2168 2172 2611 3736					
	k-65・66・67・68							3740 3741 3745 3746 3759					
	l-66・67							3771 4771					
16	g-60・61	P42	P41	P27	P28	H32P1 H32P2		289 290 291 292 300	80°	5.40	5.16	5.37	4.93
	h-59・60・61							337 338 1163 1164 1177					
	i-59・60・61							1189 1862 1863 3492 3501					
	j-60							3502 3530 4052 4053 4054					
								4061					
17	j-61・62・63・64	P73	P114	P46	P181	P292 2878 H34P1 H34P2		943 944 945 1061 1062	90°	5.36	5.06	4.97	5.53
	k-61・62・63・64							1919 2813 2931 2952 2963					
	l-62・63・64							2966 3000 3455 3471 3865					
								2869 3870 3880 3890 3891					
18	l-74	P265	P283	P204	P134	H29P1 H29P2		3013 3014 3017 3019 3020	85°	5.56	5.98	5.67	5.79
	m-72・73・74							3023 3024 3025 3032 3185					
	n-73・74							3192 4406 4407 4408 4409					
19	h-53・54	410	402	444	460	H7P1 H7P2		401 404 405 406 407	85°	4.68	4.13	4.44	4.26
	i-52・53・54							408 409 411 412 413					
								415 420 424 425 426					
								435 440 442 443 446					
								457 458 459 461 464					
								465 466 467 468 469					
20	i-71・72	P130	P138	P107	P69	4468 4469		2054 2063 2067 2068 4387	85°	5.02	4.65	4.71	4.55
	j-70・71・72							4485 4498 4499 4552 4553					
	k-70・71・72							4557 4595					
21	l-74	P264	P282	P131	P263	H30P1 H30P2		3007 3033 3034 3036 3037	85°	7.20	6.76	6.95	6.98
	m-72・73・74							3038 3039 3040 3046 3178					
	n-72・73・74							3179 3181 4389 4390 4391					
	o-73							4411 4418					
22	o-73・74	4430	4447	RSP124	4420	4422 4423		4443 4445 4448 4449	75°	5.14	5.26		

建物一覽 (3)

建物 No	位 置	主 柱				入 口	焼土	壁 柱 穴					方位	主柱間距離				
		A	B	C	D									A-B	B-C	C-D	D-A	
22	P-73・74・75																	
23	n-72・73・74	3191	P281	P203	3182	H28P1 H28P2		3022	3026	3029	3030	3031	80°	5.16	4.87	5.08	4.95	
	n-73・74							3184	3192	3200	4406	4407						
								4412	4413	4414	4415	4760						
24	e-68・69・70	1502	1444	1428	1413	H22P1 H22P2		H22P3	H22P4	H22P5	H22P6	H22P7	70°	4.25	3.43	4.40	3.72	
	f-69・70							H22P8	H22P9	H22P13	1425	1431						
								1432	1433	1442	1443	1452						
								1453	1471	1475	1476	1477						
								1512	1539	1540	1584	1585						
								1586	1587	4671	4672	4677						
								4678	4690	4692	4693							
25	j-54	503	3969	3966	3963	479 480 481		482	483	484	489	492	70°	3.84	3.78	3.81	4.08	
	k-53・54・55							497	498	561	3964	3965						
	l-53・54							3970	3971	3994	4775							
26	i-71・72	2103	2014	2065	2126	4467		2016	2069	2129	4470	4479	80°	3.71	2.95	3.77	3.04	
	j-71・72							4588	4591	4756								
27	i-60・61・62	1906	1861	370	1052	H17P1 H17P2		1045	1046	1047	1060	1857	85°	3.49	3.37	3.11	3.34	
	j-60・61・62							1858	1864	3464	3466	3476						
								3477	3480	3481	3493	3505						
28	i-67・68	2152	585	2154	2158	2146 4772 4773		584	2145	2153	2159		80°	2.99	3.09	2.95	3.07	
	j-67・68																	
	k-67・68																	
29	l-56・57	66	84	26	2	H4P1 H4P2		H1P20	H1P23	H1P24	H2P9	H2P10	80°	2.70	2.63	2.65	2.69	
	m-56・57							H2P13	H2P14	H2P16	H4P3	H4P5						
	n-56・57							H4P6	H4P7	H4P8	H4P9	H4P11						
								H4P12	H4P13	H4P14	H4P15	H4P16						
								H4P17	H4P18	4	5	6						
								7	16	51	52	56						
								65	78	79	80	83						
30	k-55・56	H2P8	H2P1	67	86	H1P1 H1P2		H1P3	H1P4	H1P5	H1P6	H1P7	95°	2.93	2.61	3.08	2.64	
	l-55・56							H1P8	H1P15	H1P16	H1P18	H1P21						
								H1P22	H2P3	H2P5	H2P6	H2P11						
								H2P12	H2P15	H2P17	H2P18	H2P19						
								H2P20	H2P21	H2P25	3996	3997						
31	h-55	222	241	223	220	H8P1 H8P2		218	219	221	224	225	105°	3.09	2.83	3.01	2.87	
	i-55・56							240	242									
32	f-70・71	1553	4667	1484	1583	1518 1519		1470	1471	1472	1475	1480	85°	3.02	1.97	3.06	1.92	
	g-70・71							1481	1482	1507	1508	1509						
								1510	1511	1512	1545	1555						
								1580	1581	1582	1587							

建物一覽 (4)

建物 No.	位 置	主 柱				入 口		焼土	壁 柱 穴					方位	主柱間距離				
		A	B	C	D										A-B	B-C	C-D	D-A	
33	s- 62・63	669	654	611	605	662	666		618	619	620	635	648	65°	2.29	3.07	2.57	2.72	
	t- 62								649	650	651	652	653						
										675	682	684	688	689					
										690	709	733	2470	2471					
										2474	2475	4372	4375	4379					
										610	606								
34	s- 59・60・61	767	2506	2593	750	693	694		632	729	759	762	763	80°	2.42	2.57	2.41	2.61	
	t- 59・60・61		(784)						795	2508	2511	2596	3201						
35	g- 57・58	253	256	258	254	H10P1	H10P2		251	257	280			95°	2.56	2.11	2.87	2.35	
	h- 57																		
36	j- 52・53	476	471	474	475	485			454	472	488	490	491	95°	2.21	2.15	2.14	2.28	
	k- 52・53・54								551	552	553	554	555						
									556	559	560	3954	3959						
									3973	4779									
37	l- 53・54	4640	3978	520	509	504	H16P1		499	3975	574			100°	1.50	2.17	1.59	2.17	
	m- 53・54																		
38	l- 52・53	516	496	495		H13P1			494	517	519			105°	3.32	3.25			
39	e- 68	P54	P59			1411	1412	1504	4697	H22P10	H22P12	1403	1426	1427	105°	6.17	—	—	—
	f- 68・69									1447	1448	1451	4699	4700					
	g- 68・69									4676	600								
	h- 68																		
40	e- 68	P55	P58			1420	1409			H22P11	H22P13	1424	1425	1501	95°	4.22	—	—	—
	f- 68・69									1595	1596	1597	1598	1599					
	g- 68・69									2001	2002	2003	2004	2005					
	h- 68									2006	2007	2008	2009	4674					
										4675	4685	4686	4687	4688					
									4689	4695	4696								
41	n- 62・63	P194	P92	P146	P100				F66	975	2748	2749	2750	2751	85°	6.52	5.99	6.84	5.77
	n- 62・63・64									2752	2753	2754	2755	2756					
	o- 63									2757	2758	2759	2760	2761					
										2762	2763	3609	3610	3611					
										3612	3613	3614	3620	3621					
										3622	3623	3624	3625	3626					
										3627	3631	3632	3633	3634					
										3635	3721	3826	3827	3831					
									3837	3844	3851	3936							
42	i- 65	3743	3748	4538		3744	3747		F46	2852	2860	2861	2868	2874	85°	3.44	3.28	—	—
	j- 64・65									2889	2890	2899	2905	2913					
	k- 64・65									2914	3737	3738	3739	3742					
										3749									
43	n- 59・60・61	886	898	180	2222	P186	P189							90°	4.31	4.40	4.32	4.32	
	n- 59・60																		

建物一覽 (5)

建物 No.	位 置	主 柱				入 口		焼土	壁 柱 穴			方位	主柱間距離							
		A	B	C	D								A-B	B-C	C-D	D-A				
44	a-59・60	P143	P87	P82	P83	P186	P189					80°	4.36	4.84	4.70	4.50				
	n-59・60・61																			
	o-60																			
45	h-67・68・69	595	599	592	2149	586	597					80°	4.32	4.20	4.27	4.23				
	i-68・69																			
46	f-60・61	1165	4170	P112	P31	4068	4069	4073	4132			90°	4.09	3.96	4.27	3.96				
	g-59・60・61																			
	h-59・60																			
47	e-71	1528	1533	4679	1552	1454	1455	1499	1523	1534		80°	3.20	2.29	2.78	2.63				
	f-71・72					1524														
48	l-71・72	P210	P209	P266	P287	3042	3043	3044	3045			165°	2.31	2.19	2.41	2.06				
	m-72																			
49	g-57・58	252	255			H9P1	H9P2					85°	—							
	h-57																			
50	g-60	347	339	P21	P26					F27		95°	5.31	6.23	5.69	5.86				
	h-58・59・60																			
	i-59・60																			
51	n-64・65	P214	P165	P241	P247					F73		85°	5.78	5.08	5.60	5.46				
	n-64・65・66																			
	o-64・65																			
52	i-60・61・62	P274	P48	P44	P45					F60		80°	4.65	5.26	4.75	5.27				
	j-61・62																			
53	n-65	P215	P168	P196	P151					F73		75°	4.65	4.87	4.74	5.14				
	n-64・65・66																			
	o-65																			
54	n-64・65・66	P153	P246	P243	P195					F67		85°	5.23	4.28	4.96	4.02				
	n-65・66									F68										
55	l-59	H11P4	H11P1	H11P2	H11P3					H11F1		100°	2.91	3.05	2.97	3.18				
	m-57・58・59																			
56	r-60・61	1360	1364	2532	1211					F50		135°	2.09	1.64	2.13	1.37				
57	r-59・60	797	799	1230	1226					F51		170°	1.01	1.71	1.23	1.85				
	s-59・60																			
58	k-72・73	2019	3174							F84		—	3.65	—	—	—				
	l-73																			
59	h-52	HLP461	439	431						F11	HLP413 HLP486	432	437	438						
	i-52・53									F12	447	3951								
	j-52																			
60	l-52	515	518							F21	514	3981								
	m-53																			
61	i-70	2048	2130	P139	2198						2125	2197	3002	3003	3004	120°	5.73	6.58	6.06	6.57
	j-70・71・72										3005	3006								
	k-70・71・72																			

建物一覽 (6)

建物 No.	位 置	主 柱				入 口	焼土	壁 柱 穴					方位	主柱間距離					
		A	B	C	D									A-B	B-C	C-D	D-A		
61	l-70・71																		
62	h-71・72	P137	P104	P127	P136			2035	2037	2080	2081	2085	90°	6.58	6.10	6.42	5.10		
	i-70・71・72							2086	2090	2091	2131	2143							
	j-70・71・72							4387	4440	4485	4488	4498							
	k-70・71・72							4552	4553	4558	4562	4568							
								4571	4580	4581	4649	4757							
63	i-70・71・72	P140	P110	P109	P128	2053		2040	2073	2075	2077	2133	90°	6.29	5.96	6.53	5.56		
	j-70・71・72							2134	2135	2136	2140	2141							
	k-70・71・72							4486	4557	4564	4759	2053							
64	i-70・71・72	P124	P173	P122	P180			2020	2085	2086	2090	2120	85°	7.46	6.23	7.99	6.77		
	j-70・71・72							4551	4577										
	k-71・72																		
65	i-60	1051	1063	950		3485 3478		366	367	369	923	924	—	3.04	4.53	—	—		
	j-60・61							925	926	927	928	929							
	k-60・61							930	931	932	933	934							
	l-60							936	937	938	939	940							
								941	942	943	944	945							
								946	947	948	951	991							
								1049	1050	1054	3471	3489							
								3492	3494	3495	3496	3497							
								4534											
66	n-69・70・71	3138	3116	3108	3147			3103	3104	3105	3106	3107	85°	4.12	2.95	4.79	3.25		
	o-69・70・71							3117	3118	3121	3133	3134							
	p-70							3135	3136	3142	3145								
67	i-71	4471	P172	P105	2106			2127	2128				65°	3.14	3.86	3.26	3.71		
	j-70・71・72																		
	k-71																		
68	f-71・72	P103	P101	P102				1525	1526	1527	1547	1548	—	3.57	2.53	—	—		
	g-71・72							1550	1551	1552	1557	1558							
								1559	1560	1561	1562	1563							
								1564	1565	1566	1567	1568							
								1569	1570	1571	1572	1573							
69	n-70	P231	P232	P233	P234			4761	3061	3119			95°	2.81	2.51	2.80	2.33		
	n-70																		
70	k-68・69	P174	P175	P176	P177			2176	2180	2185	2189	2190		2.35	2.64	2.48	2.56		
	l-69							4770											
71	l-69	3060	P239	3094	P256			3064	3067	3070	3092	3093	80°	2.02	2.34	2.21	2.42		
	m-68・69							3099											
72	l-68・69	P240	P179	P251	P63			2181	2182	2185	2186	2187	95°	2.74	1.88	2.61	1.78		
	m-68							2188	3070	3071	3075	3076							
								3079	3087	3088	3093								

建物一覧 (7)

建物 No.	位 置	主 柱				入 口	焼土	壁 柱 穴					方位	主柱間距離			
		A	B	C	D									A-B	B-C	C-D	D-A
73	0- 73	4437	4419	4444	4456			4418	4433	4434	4445	4446	75°	2.01	2.16	2.15	2.26
	P- 73・74							4450	4453	4454	4455						
74	0- 67・68	4205	3326	P268	3353			3251	3152	4211	4212	4348	75°	2.53	1.84	2.60	1.97
	P- 67・68																
75	i- 63・64	4134	4133	4136	4135			2863	2864	2865	2866	2880	80°	2.21	2.13	2.11	2.18
	j- 63・64							2882	2884	2887	2888	2893					
								2894	2895	2896	2931	2943					
								3565									
76	i- 56	231	235	232	226			236	211	208	227		75°	2.15	1.96	1.97	2.04
	j- 55・56																
77	t- 60・61	744	(731)	743	737			729	736	741	754	4281	85°	1.90	1.88	2.00	1.93
	u 60・61		(732)												1.98	2.15	
78	n- 57・58					P7 P8		H12P66	199	200	841	842	80°	—	—	—	—
	0- 57・58							843	844	852	854	856					
								857	2229	4606	4607						
79	m- 72・73	P201	P221	RP45									80°	6.35	—	—	—
	n- 72・73																
	0- 73・74																
80	k- 60	P91	5P2	5P3	P51								80°	5.44	5.86	5.36	5.66
	l- 58・59・60・61																
	m- 59・60・61																
	n- 59																
81	h- 70	2084	2132	2030									—	6.62	5.72	—	—
	i- 70・71・72																
	j- 70・71・72																
82	i- 72	2102	P171	P123									—	5.30	4.99	—	—
	j- 70・71・72																
	k- 71																
83	n- 60	962	2250	817	870								75°	4.74	4.75	4.76	4.82
	0- 59・60・61																
	P- 59・60																
84	m- 64・65・66	P217	P166	P245	P154								75°	4.36	4.69	4.13	4.82
	n- 65・66																
85	l- 70	P236	P238	P237	P235			3053	3054	3056	3058	3059	75°	4.29	3.37	4.23	3.27
	m- 69・70							3063	4762	4763							
	n- 70																
86	m- 67・68・69	P67	P62	P65	P66								65°	4.07	2.73	4.09	3.03
	n- 68																
87	P- 69・70	P260	3149	P262	RSP144								125°	4.74	2.77	—	—
88	P- 71・72	3161	3157	3141	RSP42			3162					75°	2.59	3.44	—	—
89	P- 57・58	31	28	29	30								90°	2.74	2.70	2.68	2.76
	q- 57・58																

建物一覽 (8)

建物 No.	位 置	主 柱				入 口	焼土	壁 柱 穴	方位	主柱間距離			
		A	B	C	D					A-B	B-C	C-D	D-A
90	k-63・64	P80	P272	P71	P116				75°	2.83	2.38	2.78	2.30
	l-63												
91	k-73	P208	P205	P206	P207				90°	2.71	2.56	2.60	2.60
	l-73												
92	m-71・72	P224	P225	P226	P227				85°	2.43	2.66	2.55	2.67
	n-71・72												
93	m-68・69	P255	P125	P252	P64				90°	2.63	2.22	2.87	2.05
	n-68												
94	m-68	P259	P254	2012	P253				100°	2.52	1.84	2.35	1.96
	n-68												
95	n-71・72	P228	P229	P230	P132				80°	1.69	2.26	2.61	2.26
	o-71												
96	m-65・66	P162	P163	P164	P216				70°	2.66	2.05	2.99	2.21
	n-66												
97	j-68	2173	2179	2163	2170				130°	2.21	2.22	2.25	2.34
	k-67・68												
98	o-60	966	875	874	865				85°	2.43	2.38	2.47	2.37
	p-60・61												
99	h-63	1888	1880	P72	P273				100°	2.23	1.98	2.30	3.14
	i-63												
100	j-64	P117	P118	P74	P78				85°	2.32	2.14	2.28	2.21
	k-64・65												
101	j-66・67	2157	588	3764	2180		2161		75°	2.43	2.25	2.26	2.42
102	i-62・63	P39	P25	P43	P37				85°	2.34	1.80	2.30	1.98
	j-62・63												
103	n-62	997	3832	3811	3807				80°	2.10	2.11	2.00	2.25
	o-62・63												
104	n-67・68	P258	4242	3314	3324				65°	2.18	1.72	2.17	1.76
	o-67・68												
105	p-55・56					P35 (P36)			100°	—	—	—	—
	q-56					(P81)							
106	e-68					H19P1 H19P2			90°	—	—	—	—
	f-68												
107	f-68					H18P1 H18P2			90°	—	—	—	—
108	e-68					H20P1 H20P2			95°	—	—	—	—
109	e-69					H21P1 H21P2			105°	—	—	—	—
110	k-56					H2P23 H2P24			100°	—	—	—	—
	l-56												

土坑・柱穴状ピット等一覧表の凡例

土坑・柱穴状ピット等の一覧表は検出した数量が多いことと、紙面の都合から略記号を使用した部分がある。

以下に一覧表の記入項目を記す。

遺構名 ①	位置 ②	規模 ③			土層 ④	重複関係 ⑤	出土遺物 ⑥	建物No. ⑦
		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)				
欠番は 非表示 例	グリッド	確認面	確認面	確認面 -底	下記 略記号表	切り合い記号 新>旧 <切られる >切る ≠不明	土器は分類記号 石器は器種名	帰属する 建物No.
6001	c・d-58・59	0.32	0.25	0.14	B1c炭少	>1652	IVc(2)	2

①遺構番号は1番から順次付しているが、表中で欠番遺構は記載していない。

②検出位置がa-11区とb-11区に跨る場合はa・b-11と表示する。

③遺構規模は確認面の大きさである。また、深さは確認面から坑底の高さの差である。

④以下に土層表記の略記号を記す。

土色	土質	En-ap	混入物			
			混入物種		量	
A 黒色	1 埴土	a 多量	炭	炭化物	多	多量
B 黒褐色	2 粘質土	b 含む	焼	焼土層	混	含む
C 暗褐色	3 ローム	c 少量	焼粒	焼土粒	少	少量含む
D 暗茶褐色	4 パミス	d 細粒状パミス	焼ブ	焼土ブロック		
E 茶褐色			骨	骨片		
F 褐色			ド	ドングリ		
G 暗灰褐色						
H 灰褐色						
I 暗黄褐色						
J 黄褐色						
K 明黄褐色						
L 灰黄褐色						
M 赤褐色						
N 暗赤褐色						
O 橙色						

⑤遺構の重複による切り合い関係は以下の記号で記し、表示行の遺構名は略している。

新>旧 新しい遺構が古い遺構を切っている。

<A 表示行の遺構がAより古い。

>B 表示行の遺構がBより新しい。

≠C 表示行の遺構とCの遺構は新旧関係が不明。

⑥出土遺物について土器は分類記号を、石器は器種を表示し、()の中に出土点数を記している。

⑦帰属する建物の番号を示す。

表4 焼土規模一覧

遺構名	位置	長径(m)	短径(m)	厚(m)	土層	重複関係	建物No	遺構名	位置	長径(m)	短径(m)	厚(m)	土層	重複関係	建物No
1	o-55	0.91	0.85	0.09	1:P1a, 2:O1		2	43	k-1-63	1.11	0.78	0.06	1:N1, 2:C1 焼粒混, 3:M1	>1975-1976	
2	o-55	1.20	0.80	0.14	1:F1 骨混, 2:O1a, 3:P1, O1		2	44	o-63-64	0.49	0.22	0.05	C1 焼粒混		
3	o-55	0.50	0.32	0.05	1:P1, 2:PHC1a			45	k-63	1.21	0.98	0.20	1:2c	>1977-1986-1987-1988-1991-1992-1993	10
4	p-57	0.41	0.23	0.05	O1	>I		46	j-64	0.92	0.86	0.16	1:DI, 2:P1	<1885	42
5	p-57	0.84	0.61	0.07	1:N1 骨多, 2:N1	<4636	1	47	r-s-63	1.71	1.17	0.11	M1	>1689	
6	p-58	1.14	0.78	0.11	1:PHC1a, 2:N1b 骨混	>31-H12P74-H12P80		48	r-63	0.92	0.88	0.11	M1	>1689	
7	q-58	0.50	0.23	0.07	1:F1, 2:P1, 3:O1			49	r-62	0.56	0.40	0.08	N1	>1636	
8	p-57	0.23	0.16	0.04	PHC1	>H12P3>P188		50	r-60-61	0.79	0.51	0.05	N1	>1357	56
9	o-54-55	0.45	0.34	0.08	O1 骨少			51	s-59	0.64	0.42	0.19	1:M1, 2:N1		57
10	r-57-58	0.64	0.27	0.05	PHC1			52	q-59-60	0.59	0.59	0.14	1:M1, 2:3-N1		
11	i-52	0.46	0.45	0.07	E1b		59	53	q-59	0.57	0.55	0.15	1:N1, 2:M1		
12	i-52	0.39	0.28	0.07	E1c		59	54	r-r-61-64	0.98	0.87	0.17	N1	>4325	
13	n-54	1.45	0.42	0.14	1:D1b 骨混, 2:N1b 骨混, 3:O1b	>P19-574-4640	3	55	r-59	0.82	0.57	0.08	N1	>1376-4257	
14	n-54	0.45	0.37	0.07	M1		4	57	f-62	1.25	0.55	0.09	1:A1, 2:N1 炭少・骨混	<5001	
15	n-55	1.38	0.52	0.07	1:F1 炭多, 2:O1, 3:M1	4898<P15<879		58	f-61	0.45	0.44	0.03	1:N1 炭・骨少, 2:C1		
16	o-56	0.44	0.36	0.06	P1	>836		59	f-59	0.52	0.35	0.08	1:N1 炭・骨混, 2:C1b		
17	o-56	0.74	0.19	0.05	M1	>F37		60	i-61	0.60	0.33	0.08	1:N1, 2:11c	>H17P1	52
18	o-56	0.32	0.17	0.07	M1	>H5P37		61	v-62	1.20	0.78	0.16	1:M1, 2:N1		
19	n-54	0.20	0.99	0.14	1:M1 骨混, 2:N1	>3986	9	62	p-q-61	0.83	0.68	0.18	1:M1, 2:C1		
20	j-52	0.78	0.54	0.08	1:DI 骨混, 2:O1		6	63	q-59	0.57	0.57	0.09	N1		
21	n-52 (0.40)	0.42	0.08	M1			60	64	i-63	0.84	0.48	0.11	1:N1 炭・骨混, 2:11c	>3548	
22	p-55	0.98	0.72	0.14	1:DI 骨混, 2:P1	>H5P44	8	65	k-63	0.20	0.20	0.07	1:N1 炭・骨混, 2:11c		
23	s-64	1.11	0.60	0.10	N1	>1728		66	n-63	0.74	0.37	0.06	M1	#3656-3697	41
24	s-64	0.93	0.70	0.10	N1	>1727		67	n-64	0.64	0.29	0.03	C1 焼粒多	>P195-2201	54
25	p-59	0.21	0.17	0.03	N1			68	n-64	0.42	0.22	0.11	1:N1: 骨少, 2:M1	>2739	54
26	p-59	0.26	0.13	0.03	N1			69	n-64	0.64	0.38	0.05	1:M1 炭少・骨混, 2:C1 炭少・骨混	>2211-2758	
27	b-60	1.52	0.45	0.08	1:N1 炭・骨混, 2:11a	>4047-4048-4049	50	70	n-65	1.11	0.61	0.09	M1	>4216	
28	n-54	0.56	0.40	—	セクションなし		7	71	n-65	0.73	0.31	0.08		>P154-P270	
29	l-61	0.48	0.20	0.05	M1c			72	n-65	0.56	0.48	0.20	1:M1, 2:N1		
30	l-62	1.10	0.47	0.10	1:N1a, 2:M1	#1367-1368, <860	12	73	n-65	1.82	0.88	0.27	1:N1, 2:F1	>4225	51-53
31	n-61	0.61	0.31	0.08	M1	#3355-4706-4707		74	n-65	0.67	0.45	0.15	1:M1, 2:F1		
32	l-62	1.04	0.89	0.16	1:N1b 骨混, 2:M1b	<3871, #3875-3876	12	75	n-65	0.44	0.29	0.18	M1		
33	l-62	1.11	0.78	0.14	1:C1 焼粒・骨混, 2:N1b, 3:M1d	>189-P148-3867	12	76	n-65	0.62	0.53	0.11	1:M1, 2:C1	>2672-2673	
34	o-61	0.98	0.56	0.01	1:O1, 2:M1a		5	77	n-65	0.21	0.16	0.13	N1	>P153-P154	
35	p-61	1.05	0.81	0.07	1:M1c, 2:C1a 焼粒・骨混	>680-993-2297		78	n-64-65 (0.43) (0.16)	—	—	—	セクションなし		
36	o-63	0.64	0.32	0.08	1:11 焼粒混, 2:O1	#1668	11	79	i-72	0.53	0.41	0.11	N1	P138-2051-4589-5005<F79<2013	15
37	o-56	0.63	0.54	0.18	1:A1 骨混, 2:J1 焼粒混, 3:N1b	<F17		80	k-71	0.30	(0.26)	0.10	N4	<1039	13
38	n-58	0.36	0.28	0.07	N1b			81	p-66	1.07	0.76	0.18	1:N1, 2:F1		
39	p-55	0.22	0.14	0.05	N1(興味を帯びる)			82	p-67	1.65	0.93	0.18	N1	>3341-3343-3344-3345-4342-4343	
40	s-63	1.12	0.83	0.08	1:N1, 2:M1	#3642-4710-4711		83	p-67	1.77	1.36	0.18	N1	>3351-3352-3353-3354	
41	p-62	0.62	0.46	0.07	1:N1, 2:C1 焼粒混			84	k-73 (0.83)	0.82	0.30		1:E1, 2:P4	#4388	58
42	o-63	0.54	0.22	0.05	M1		11	85	r-56-57 (0.34) (0.08)	0.05			N1		

表5 SP規模一覽(1)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No.
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
1	p-57	0.50	0.38	0.38	1: O1, 2: C1b, 3: I1b 炭混, 4: I1b	<F4	IVc (6)	剥(2)・礫(4)	
2	n-56	0.21	0.20	0.33	1: B1d, 2: B1a				29
3	m-n-56	0.12	0.12	0.04					
4	n-57	0.26	0.19	0.34	B1b				29
5	n-57	0.17	0.16	0.08	H1				29
6	n-57	0.17	0.16	0.10	H1b				29
7	n-57	0.16	0.13	0.06	B1b				29
8	n-57	(0.21)	0.20	0.10	G1b	≠19			
9	n-57	0.16	0.14	0.07	G1				
10	n-57	0.18	0.15	0.14	G1b				
11	n-57	0.21	0.20	0.16	G1b 炭混				
12	n-57	0.20	0.19	0.16	G1b		Ib (1)・IVc (1)	剥(2)	
13	n-56-57	0.24	0.21	0.19	1: H1, 2: H1b				
14	n-56-57	0.28	0.23	0.11	L1b				
15	n-56-57	0.42	0.34	0.18	1: H1b 炭多, 2: L1b				
16	n-56	0.22	0.22	0.10	H1b				29
17	n-56	0.22	0.19	0.10	H1b 炭混				
18	n-57	(0.14)	0.15	0.08	G1b	≠19			
19	n-57	(0.14)	0.13	0.08	G1b	≠8・18			
20	n-56	0.28	0.26	0.23	不明		IVb-4 (2)		
21	m-55	0.27	0.26	0.23	B1b		IVc (5)		
23	l-57	0.30	0.26	0.08	C1b		IVc (6)		
25	m-56	0.26	0.23	0.35	C1b 炭混		IVc (2)		29
27	k-56	0.44	0.39	0.22	B1b		IVc (2)		
28	p-58	0.68	0.67	0.24	1: G1c, 2: H1c 口粒混, 3・4: L1a 5: C1c 口粒多, 6: C1c 炭混・口粒多 7: I1c 口粒混		IIIb(2)・IVc (14)	剥(5)・礫(1)	89
29	p-57	0.48	0.43	0.78	1: C1c, 2: C1a 口粒多, 3: C1c 4: G1c 口粒多, 5: L1c 口粒混, 6: L1a		IVa (1)・IVc (1)		89
30	q-57	0.36	0.37	0.80	1: C1, 2: I1a, 3: G1a 口粒多 4: C1c 炭混・口粒混, 5: I1d, 6: G1a				89
31	p-q-58	0.50	0.48	0.80	1: G1c, 2: L1b 口粒多, 3: C1c 口粒混 4: C1c 炭混・口粒混, 5: I1b 口粒混	<F6	IVc (3)	剥(1)・礫(1)	89
33	p-55	0.45	0.45	0.22	1: C1b, 2: I1, 3: C1c		IVc (2)		
34	p-55	0.21	0.17	0.51	1: G1b, 2: H1b, 3: G1d 炭混				2
35	p-55	0.38	0.32	0.20	1: G1b, 2: L1b, 3: H1c				8
36	p-56	0.36	0.25	0.30	G1b				8
37	p-55-56	(0.45)	0.35	0.11	1・2: C1b			剥(1)・礫(2)	8
39	p-56-57	0.29	0.26	0.13	B1c		IVc (2)		
40	p-56	0.25	0.18	0.25	B1c		IVc (2)		
41	p-56	0.15	0.12	0.06	G1				8
42	p-56	0.08	0.07	0.15	G1c				
43	p-56	0.15	0.13	0.14	G1c				
44	p-56	0.10	0.08	0.12	G1c				
45	k-55	0.18	0.15	0.45	B1d				
46	l-54-55	0.22	(0.16)	0.19	C1b				
47	l-55	(0.20)	0.17	0.35	C1b	≠P1	IVc (2)		
48	k-54-55	0.42	0.20	0.06	F1d	<49			
49	k-54-55	(0.28)	0.18	0.06	F1d	>48			
50	l-57	0.13	0.11	0.50	C1b				
51	l-57	0.19	0.18	0.10	B1b				29
52	l-57	0.22	0.18	0.17	B1b		IVc (1)		29
53	l-57	0.18	0.15	0.13	C1b				
54	l-57	0.08	0.07	0.04	H1b				
55	l-57	0.48	0.43	2.10	B1b				
56	l-56	0.20	0.17	0.14	不明		IVc (1)		29
57	l-m-57	0.20	0.19	0.22	C1b 炭多				
58	m-57	0.25	0.22	0.26	C1b				
59	m-57	0.28	0.24	0.40	不明				
60	m-57-58	0.20	0.19	0.12	F1b				
61	m-56-57	0.21	0.19	0.08	H1d				
62	m-57	0.12	0.10	0.08	A1c				
63	l-m-57	0.22	0.20	0.23	C1b		IVc (1)		
64	m-57	0.26	0.19	0.09	C1b				
65	m-57	0.22	0.17	0.20	H1b 骨混			剥(1)	29
66	m-57	0.21	0.20	0.30	B1b				29
67	l-55	0.19	0.17	0.15	B1b		IVc (1)		30
68	l-55	0.13	0.10	0.07	B1a				
69	l-55	0.20	0.14	0.08	C1d		IVc (2)		
70	l-55	0.25	0.20	0.34	B1b		IVc (2)		
71	l-55	0.13	0.09	0.05	F1b			剥(1)	
72	m-56	0.18	0.15	0.06	F1b		IVc (1)		
73	m-56	0.25	0.23	0.06	B1a				
74	m-56	0.28	0.25	0.10	F1b				
75	m-56	0.39	0.32	0.32	C1a 炭混		IVc (1)		

SP規模一覧(2)

道構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
76	m-56	0.18	0.15	0.09	I1b				
77	l-55	0.23	0.15	0.05	B1b				
78	m-56	0.14	0.13	0.04	C1b				29
79	m-56	0.22	0.18	0.06	F1b				29
80	m-56	0.14	0.12	0.06	F1b		IVc (1)		29
81	m・n-56	0.23	0.20	0.13	F1d				
82	m-56	0.35	0.26	0.19	C1a 炭混		IVc (6)		
83	m・n-56	0.15	0.13	0.06	B1d				29
84	m-57	0.22	0.20	0.20	C1b				29
85	l-56	0.24	0.21	0.09	C1b		IVc (5)		
86	l-55	0.28	0.21	0.30	B1b				30
87	l-55	0.20	0.16	0.07	C1d		IVc (7)	剥(1)	
88	l-55	0.16	0.12	0.09	F1b		IVc (4)		
89	k-55	0.33	(0.30)	0.19	B1b	<H2P25			
90	l-55	0.30	0.25	0.08	C1b				
91	l-56	0.19	0.18	0.15	B1b				
92	l-55	0.23	0.20	0.25	C1b				
93	l-55	0.18	0.15	0.03	C1b	#P1			
94	l-56	0.17	0.13	0.05	C1b				
95	l-56	0.16	0.13	0.05	C1b				
97	k-56	0.22	0.19	0.16	C1b			剥(1)	
98	l-55	(0.22)	0.20	0.20	B1b	#P1	IVc (1)		
99	l-55	(0.28)	0.23	0.15	B1b	#P1			
101	m-56・57	0.18	0.16	0.17	B1b	>102			
102	m-57	0.20	(0.18)	0.12	B1b	<101・103			
103	m-57	0.24	0.20	0.38	B1b	>102		Uフレ(1)	
104	k-55	0.21	0.20	0.17	B1b				
105	k-55	0.23	0.20	0.22	B1b				
106	k-55	0.25	0.24	0.19	C1b				
107	k-55	0.26	0.19	0.29	C1a		IVc (1)		
108	k-55	0.17	0.13	0.13	F1b				
109	k-55	0.17	0.13	0.07	F1b				
110	k-55	0.13	0.12	0.07	C1b				
111	k-55	0.14	0.11	0.03	C1b				
112	k-56	0.31	0.30	0.22	B1b		IVc (1)		
113	k-56	0.35	0.30	0.23	1: H1b, 2: C1b		IVc (1)		
114	k-56	0.21	0.19	0.10	C1b			剥(1)	
115	k-56	0.19	0.16	0.12	C1d		IVc (4)		
116	n-57	0.32	0.23	0.12	H1b		IVc (4)		
117	n-56	0.16	0.14	0.08	B1				
118	n-56	0.22	0.22	0.12	C1b				29
119	n-56	0.12	0.10	0.04	C1b				29
120	n-56	0.13	0.12	0.12	B1				29
121	n-56	0.14	0.11	0.40	C1b				29
122	m-56	0.12	0.10	0.20	C1				
123	m-57	0.18	0.13	0.05	B1b				
124	l・m-58	0.15	0.12	0.06	C1b				
125	l-58	0.18	0.15	0.02	C1b				
126	m-58	0.23	0.21	0.05	C1b		IVc (1)		
127	m-58	0.20	0.13	0.04	C1b				
128	m-58	0.19	0.16	0.20	C1b		IVc (5)		
129	l-59	0.19	0.16	0.04	C1d		IVc (13)	剥(1)	
130	m-59	0.23	0.19	0.13	B1c		IVc (6)	器(1)	
131	m-59	0.13	0.12	0.02	B1				
132	m-59	0.20	0.19	0.14	B1d			剥(1)	
133	l-59	0.26	0.23	0.24	B1b		IVc (3)		
134	l-59・60	0.26	0.25	0.22	C1b				
135	l-59	0.14	0.12	0.06	B1		IVc (3)	剥(1)・器(1)	
137	l-58	0.14	0.12	0.07	H1b				
138	l-58	0.13	0.10	0.06	H1d				
139	l-58	0.12	0.11	0.06	H1d				
140	m-58	0.18	0.14	0.05	H1b				
141	m-58	0.19	0.14	0.04	C1b				
142	m-58	0.14	0.12	0.04	H1d				
143	m-58	0.10	0.07	0.06	G1				
144	m-58	0.14	0.12	0.08	H1b				
145	m-58	0.14	0.12	0.11	H1d				
146	m-57・58	0.30	0.23	0.09	F1b	>P291・147			
147	m-57・58	0.11	0.10	0.06	F1a	P291<147<146			
148	m-58	0.24	0.19	0.07	F1b				
149	m-58	0.19	0.13	0.04	F1d				
150	l-58	0.11	0.10	0.08	C1d				
151	l-59	0.24	0.22	0.14	F1b	#SP2			
152	m-59	0.10	0.09	0.03	H1d		IIa (1)		
153	l-59	0.18	0.16	0.07	C1b				

SP規模一覽(3)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
154	l-59	0.15	0.14	0.04	F1b				
155	l-59	0.22	0.20	0.12	F1b	>156			
156	l-59	0.12	0.11	0.10	C1d	<155			
157	l-59	0.28	0.24	0.11	H1b				
158	m-59	0.11	0.09	0.04	H1d				
159	m-59	0.10	0.09	0.06	F1b				
160	m-59	0.29	0.21	0.13	F1b				
161	m-59	0.14	0.13	0.04	F1d				
162	m-59	0.12	0.12	0.04	H1b				
163	m-59	0.22	0.19	0.17	H1b				
164	l-59	0.14	0.12	0.09	C1b				
165	m-59	0.31	0.22	0.13	F1b		IVc (1)		
166	m-59	0.22	0.18	0.09	F1d				
167	m-59	0.15	0.10	0.04	C1b				
168	m-59	0.18	0.15	0.22	C1b		IVc (16)	剥(8)-磯(1)	
169	m-59	0.23	0.22	0.08	F1d			磯(1)	
170	m-59	0.12	0.10	0.07	F1d				
171	m-59	0.09	0.07	0.10	F1d				
172	m-59	0.48	0.41	0.39	C1a		IVc (2)	剥(7)	
173	m-59	0.19	0.16	0.10	C1b				
174	m-59	0.20	0.16	0.07	C1c				
175	m-59-60	0.16	0.13	0.30	H1b				
176	m-59	0.21	0.13	0.13	C1d	#P51		剥(3)	
177	m-59	0.16	0.12	0.12	C1b 炭混				
178	m-59	0.22	0.18	0.11	C1b	>180	IVc (2)	斧(1)	
179	m-59	0.10	0.07	0.09	F1c				
180	m-59	0.67	0.66	0.56	1: C1a 炭多, 2: I1, 3: F1d	<178	IVc (44)	剥(4)-斧(1)	43
181	m-59-60	0.41	0.56	0.59	F1a		IVc (8)		
182	m-58	0.15	0.12	0.05	C1a				
183	m-58	0.09	0.08	0.07	F1d				
184	n-58	0.20	0.17	0.14	F1b				
185	n-58	0.14	0.13	0.06	F1b		IVc (10)	剥(1)-磯(1)	
186	n-58	0.11	0.09	0.12	F1b		IVc (1)		
187	n-58	0.25	0.23	0.22	B1b		IVc (2)	剥(1)	
188	n-58	0.20	0.16	0.10	B1b				
189	n-58	0.12	0.09	0.12	F1b				
190	n-58	0.15	0.13	0.10	C1b				
191	n-58	0.16	0.15	0.14	B1b				
192	n-58	0.24	0.18	0.22	F1b		IVc (1)		
193	n-58	0.12	0.10	0.06	F1				
194	n-58	0.22	0.17	0.23	F1a		IVc (1)		
195	n-57	0.22	0.18	0.21	A1a				
196	n-58	0.22	0.18	0.32	G1a			たたき(1)	
197	n-58	0.27	0.24	0.17	H1b	<196			
198	n-58	0.15	0.08	0.26	C1b		IVc (4)		
199	o-58	0.21	0.18	0.30	G1b		IVc (5)		78
200	o-58	0.20	0.17	0.18	G1b				78
201	j-55	0.29	0.25	0.15	A1a 炭少				
202	j-55	0.19	0.16	0.10	A1a 炭少				
203	j-55	0.30	0.30	0.22	A1a 炭少				
204	j-55	0.20	0.16	0.10	C1a		IVc (2)		
205	j-55	0.24	0.19	0.09	A1a				
206	j-55	0.45	0.14	0.06	A1c				
207	j-56	0.16	0.15	0.05	A1c				
208	j-56	0.26	0.22	0.15	A1c 炭多				76
209	j-56	0.20	0.15	0.10	A1c 炭少				
210	j-56	0.15	0.12	0.16	C1c 炭多				
211	j-55-56	0.25	0.21	0.10	1: A1a 炭多, 2: K1a 炭少				76
212	l-55	0.16	0.12	0.10	C1a				
213	l-55	0.22	0.18	0.17	A1c 炭少				
214	l-55	0.15	0.12	0.05	C1a				
215	l-55	0.15	0.19	0.03	K1a				
216	l-55	0.31	0.26	0.10	A1c 炭少	>4503			
217	l-55	0.23	0.21	0.14	A1c 炭少		IVc (2)		
218	j-55	0.16	0.15	0.05	C1a				31
219	i-55	0.25	0.22	0.04	C1a				31
220	l-55	0.25	0.22	0.21	A1a				31
221	i-55	0.34	0.33	0.12	A1a 炭多		IVc (4)		31
222	l-56	0.32	0.30	0.22	C1a 炭少			斧(1)	31
223	h-55	0.27	0.24	0.13	A1c 炭少				31
224	h-55	0.24	0.20	0.05	A1a 炭少				31
225	h-55	0.46	0.38	0.08	A1a 炭少				31
226	j-56	0.36	0.35	0.29	A1c 炭多			磯(1)	76
227	j-56	0.25	0.23	0.20	A1a				76
228	j-56	0.20	0.15	0.17	1: A1a 炭少, 2: A1, 3: J4				

SP規模一覽(4)

遺構名	位 置	規 模			土 層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
229	j-56	0.27	0.24	0.05	1: A1a, 2: C1a				
230	j-56	0.30	0.29	0.14	A1a 炭多				
231	j-56	0.40	0.35	0.32	A1c 炭多				76
232	j-56	0.34	0.30	0.37	A1a 炭多			礫(1)	76
233	j-56	0.23	0.21	0.09	A1a				
234	i-56	0.20	0.16	0.11	A1c	>235	IVc (2)	剝(4)	
235	i-56	0.49	0.42	0.36	A1c	<234	IVc (1)	剝(2)・原(1)	76
236	i-56	0.28	0.22	0.05	A1a 炭多				76
237	i-56	0.09	0.09	0.04	A1a 炭多				
238	i-56	0.20	0.19	0.07	A1a 炭少				
239	i-56	0.21	0.21	0.10	A1a 炭少		IVc (1)		
240	h-56	0.22	0.19	0.07	C1a 炭少				31
241	h-56	0.25	0.21	0.19	A1a 炭少				31
242	h-56	0.15	0.10	0.07	C1a 炭少				31
243	i-57	0.35	0.29	0.19	A1a 炭多				
244	i-57	0.14	0.11	0.05	A1a				
245	i-57	0.15	0.15	0.15	C1a				
246	i-57	0.21	0.19	0.18	C1c				
247	i-57	0.22	0.18	0.20	C1a 炭少		IVc (1)		
248	h-57	0.24	0.19	0.17	C1a 炭多		IVc (3)		
249	h-57	0.15	0.11	0.06	K1a 炭少				
250	h-57	0.18	0.16	0.08	C1a			石皿(1)	
251	h-57	0.16	0.14	0.20	C1a 炭多				35
252	h-57	0.18	0.18	0.05	C1a 炭少				49
253	h-57	0.25	0.22	0.10	C1a 炭少			ドリル(1)	35
254	h-57	0.23	0.20	0.19	C1a 炭多		IVc (2)	剝(1)・原(1)・たつき(1)	35
255	g-57	0.16	0.15	0.05	C1a 炭少				49
256	g-57	0.25	0.20	0.22	C1a 炭多		IVc (3)		35
257	g-h-57	0.18	0.17	0.06	H2				35
258	g-57	0.23	0.18	0.27	K1a 炭少				35
259	g-56	0.20	0.16	0.06	A1a 炭少				
260	g-57	0.22	0.18	0.10	A1a 炭少				
261	f-57	0.15	0.11	0.11	K1c 炭多				
262	f-57	0.32	0.25	0.42	C1c 炭多				
263	f-56	0.16	0.15	0.15	C1c 炭多				
264	f-56	0.13	0.11	0.07	C1a 炭少		IVc (1)		
265	f-56	0.13	0.09	0.15	K1a 炭少				
266	f-57	0.11	0.09	0.10	K1c				
267	f-57	0.13	0.10	0.04	C1a				
268	f-57	0.35	(0.23)	0.34	C1a 炭多		IVc (1)		
269	i-58	0.23	0.19	0.20	K1a 炭多		IVc (1)	斧(1)	
270	i-58	0.19	0.14	0.20	K1c 炭少				
271	h-58	0.10	0.09	0.09	K1a 炭多				
272	h-58	0.35	0.25	0.08	C1a 炭多				
273	h-58	0.25	0.19	0.20	K1a 炭少				
274	h-58	0.16	0.12	0.06	C1c 炭少				
275	h-58	0.41	0.24	0.11	C1a 炭少				
276	h-58	0.15	0.13	0.22	K1a 炭少				
277	g-57	0.25	0.22	0.05	未調査(不明)				
278	h-58	0.21	0.15	0.16	C1c		IVc (7)		
279	h-58	0.15	0.12	0.19	C1a				
280	i-59	0.14	0.12	0.08	C1c 炭少				35
281	h-58	0.39	0.36	0.38	1: A1c, 2: C4		IVc (1)	剝(1)・砥(1)	
282	g-59	0.13	0.10	0.04	C1a				
283	g-59	0.28	0.25	0.05	A1a		IVc (6)		
284	g-59	0.22	0.19	0.05	C1c 炭少				
285	f-58	0.49	0.34	0.63	A1c 炭多		IVc (1)		
286	h-58	0.09	0.06	0.05	C1a				
287	f-58	0.41	0.34	0.07	C1a				
288	i-59	0.14	0.14	0.09	C1c 炭少		IVc (1)		
289	i-59	0.15	0.12	0.15	K1c 炭少				16
290	i-59	0.15	0.13	0.10	K1c 炭少				16
291	i-60	0.18	0.14	—	不明			剝(1)	16
292	h-i-59	0.15	0.13	0.10	C1c 炭多				16
293	h-i-59	0.48	0.37	0.38	C1 炭多				
294	i-59	0.18	0.09	0.10	C1c 炭少				
295	i-59	0.19	0.09	0.13	C1c 炭少				
296	h-59	0.25	0.21	0.21	A1c 炭多		IVb-4 (1)		
297	h-59	0.18	0.15	0.05	C1a 炭多				
298	h-59	0.10	0.09	0.04	C1a 炭少				
299	h-59	0.15	0.13	0.05	C1a 炭少				
300	h-59	0.28	0.22	0.20	A1c 炭少				16
301	h-59	0.14	0.10	0.05	K1c 炭少				
302	h-59	0.15	0.14	0.06	K1c 炭少				
303	g-h-59	0.30	0.28	0.30	K1c 炭少				

SP規模一覽(5)

遺構名	位置	規模			土層	重複關係	出土遺物		建物№
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
304	g-59	0.27	0.23	0.32	C1c 炭多		IVc (1)		
305	g-59	0.13	0.12	0.05	C1c 炭少				
306	g-59	0.10	0.10	0.03	C1a				
307	g-59	0.17	0.14	0.09	C1a			剥(1)・礫(1)	
308	g-59	0.14	0.10	0.04	K1a				
309	g-59	0.16	0.14	0.06	K1a		IVc (2)		
310	g-59	0.17	0.14	0.05	C1a 炭少				
311	g-59	0.19	0.12	0.04	C1a 炭少				
312	g-59・60	0.20	0.15	0.11	K1c 炭少				
313	g-59	0.60	0.48	0.40	C1a 炭多				
314	g-59	0.22	0.19	0.10	C1c				
315	g-59	0.23	0.16	0.11	C1c		IVc (3)		
316	g-60	0.13	0.11	0.08	C1c				
317	g-59	0.22	0.16	0.09	A1c				
318	g-59	0.24	0.21	0.22	A1c 炭多			剥(1)	
319	g-59	0.15	0.12	0.08	C1a				
320	g-59	0.19	0.15	0.24	C1c		IVc (1)		
321	g-59	0.16	0.13	0.05	K1c				
322	g-59	0.14	0.12	0.03	A1c 炭少				
323	g-59	0.20	0.14	0.09	K1c				
324	g-59	0.12	0.10	0.05	K1c 炭少				
325	g-59	0.10	0.09	0.03	C1a				
326	g-59	0.16	0.14	0.05	K1a 炭少				
327	l-60	0.16	0.13	0.08	C1c 炭多		IVc (1)		
328	h-59	0.14	0.12	0.05	A1a				
329	l-60	0.20	0.17	0.05	A1a 炭少				
330	l-60	0.21	0.15	0.08	C1c 炭少				
331	h-60	0.20	0.17	0.10	K1c 炭少				
332	h-59・60	0.38	0.31	0.25	K1c		IVc (1)		
333	h-59	0.30	0.25	0.24	A1c 炭多		IVc (23)	剥(1)	
334	h-59	0.08	0.07	0.05	C1a				
335	h-59	0.40	0.30	0.18	C1c	>P31			
336	h-60	0.11	0.07	0.05	K1a 炭多		IVc (1)		
337	h-60	0.27	0.25	0.23	A1c 炭少		IVc (4)	剥(1)	16
338	g-60	0.29	0.22	0.28	C1c				16
339	g-60	0.53	0.51	0.60	C1c 炭少	>4058	IVc (12)	礫(1)・剥(9)・斧(1)	50
340	j-60	0.45	0.34	0.50	K1a 炭多		IVc (8)		
341	j-60	0.34	0.38	0.19	K1a				
342	l-60	0.20	0.17	0.11	K1a 炭少				
343	l-60	0.15	0.12	0.21	K1a 炭多				
344	l-60	0.14	0.13	0.10	C1a 炭少				
345	l-60	0.44	0.39	0.57	C1c 炭少		IVc (1)		
346	l-60	0.16	0.15	0.09	K1c				
347	l-60	(0.70)	(0.54)	(0.71)	l: K1c 炭少, 2: K1a 炭多	<348	IVc (15)	剥(8)・礫(1)	50
348	l-60	0.26	0.21	0.08	K1a 炭少	>347			
349	h-60	0.22	0.18	0.38	C1a				
350	h-60	0.43	0.41	0.08	K1a				
351	h-60	0.13	0.10	0.04	A1c			剥(1)	
352	h-60	0.20	0.14	0.05	A1c				
353	h-60	0.13	0.11	0.07	K1c				
354	h-60	0.49	0.48	0.47	K1c	>372	IVb-4 (1)・IVc (6)		
355	h-60	0.50	0.39	0.37	l: C1a 炭少, 2: C1c 炭少	>4040・4041	IVc (7)	礫(1)	
356	h-60	0.15	0.13	0.24	C1c			剥(1)	
357	h-60	0.20	0.16	0.10	C1c 炭少	>4513			
358	h-60	0.23	0.19	0.19	K1a 炭少				
359	h-60	0.12	0.09	0.20	K1c 炭少	>360			
360	h-60	0.11	0.10	0.07	K1c	<359			
361	h-60	0.15	0.12	0.09	C1a 炭少				
362	h-60	0.15	0.10	0.12	C1c 炭少				
363	h-60	0.11	0.10	0.06	K1c				
364	h-60	0.20	0.13	0.15	C1c				
365	j-60	0.14	0.10	0.05	A1a				
366	j-60	0.12	0.10	0.05	C1a				65
367	j-60	0.10	0.09	0.03	C1a				65
368	g-h-59	0.15	0.14	0.10	不明				
369	j-60	0.14	0.12	0.05	K1a				65
370	l-60	0.18	0.15	0.23	C1c				27
371	h-60	0.09	0.08	10.08	K1c				
372	h-60	0.57	(0.35)	0.48	C1a	<354			
373	j-62	(0.73)	(0.50)	(0.70)	不明	>P37	IVc (1)		
374	j-62	(0.30)	(0.28)	0.15	不明	>P47			
375	l-62	0.55	(0.60)	0.15	不明	>P43・376	IVc (5)	剥(1)	
376	l-62	(0.55)	(0.48)	0.15	不明	<P43・375・4540	IVc (2)		
377	h-60	0.36	0.33	0.42	C1c		IVc (1)		
378	h-60	0.25	0.20	0.13	C1a	>379			

SP規模一覧(6)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
379	h-60	0.23	0.15	0.09	C1c	<378			
380	h-60	0.29	0.18	0.06	C1a				
381	h-60	0.29	0.20	0.05	C1a				
382	h-60	0.18	0.15	0.07	C1a				
383	h-60	0.59	0.54	0.46	C1a	>4034・4035		剥(2)・礫(1)	
384	h-60	0.20	0.14	0.04	A1a				
385	h-60	0.26	0.16	0.07	C1c				
386	h-60	0.30	0.24	0.16	C1a		IVc (5)	剥(1)	
387	h-60	0.17	0.13	0.05	C1a				
388	g-60	0.35	0.30	0.35	C1c		IVc (4)	剥(1)	
389	g-60	0.27	0.24	0.25	C1c 炭多		IVc (1)		
390	g-60	0.27	0.24	0.12	C1c	>391			
391	g-60	0.20	0.14	0.05	C1a	<390			
392	g-60	0.35	0.30	0.35	A1c		IVb-4 (3)・IVc (18)	剥(3)・礫(1)	
393	g-60	0.26	0.21	0.07	C1a				
394	g-60	0.25	0.23	0.10	C1c				
395	g-60	0.35	0.29	0.35	C1c		IVc (2)	たたき(1)	
396	g-60	0.17	0.15	0.05	C1a				
397	g-60	0.27	0.19	0.06	C1a				
398	g-60	0.21	0.14	0.04	C1a				
399	g-60	0.22	0.18	0.05	C1a				
400	g-60	0.22	0.18	0.25	C1		IVc (1)		
401	h-53	0.22	0.20	0.10	B1b				19
402	h-53	0.20	0.18	0.12	B1c		IVc (3)	剥(1)	19
403	h-53	0.24	0.18	0.06	B1b				
404	h-54	0.16	0.12	0.03	B1b				19
405	i-54	0.16	0.11	0.03	B1b				19
406	h-i-53	0.27	0.19	0.09	B1c				19
407	i-53	0.30	0.24	0.16	B1c				19
408	i-53	0.20	0.16	0.04	B1b				19
409	i-53	0.20	0.19	0.04	B1b			剥(1)	19
410	i-53・54	0.26	0.26	0.12	B1b				19
411	i-54	0.14	0.12	0.03	B1b				19
412	i-54	0.24	0.22	0.10	B1b				19
413	i-54	0.30	0.28	0.16	B1b			剥(1)	19
414	i-54	0.24	0.22	0.09	B1b			剥(1)	19
415	i-54	0.30	0.26	0.18	B1b		IVc (30)		19
416	h-i-53	0.12	0.12	0.06	B1c				
417	i-53	0.18	0.16	0.05	B1b				
418	i-53	0.32	0.22	0.08	B1b				
419	i-53	0.12	0.10	0.03	B1c				
420	i-53	0.16	0.12	0.02	B1c				19
421	i-53	0.29	0.26	0.07	B1b				
422	i-53	0.14	0.10	0.08	B1c				
423	i-53	0.19	0.18	0.04	B1b				
424	i-53	0.26	0.24	0.11	B1b		IVc (5)	剥(3)	19
425	i-53	0.30	0.20	0.10	B1c				19
426	i-53	0.40	0.35	0.16	B1b				19
427	i-53	0.32	0.20	0.15	B1b				
428	i-53	0.21	0.19	0.07	B1b	>429			
429	i-53	0.24	0.21	0.09	D1b	<428			
430	i-53	0.29	0.26	0.09	D1b		IVc (2)		
431	i-53	0.21	0.20	0.59	D1b	>447			59
432	i-52	0.22	0.18	0.28	B1c				59
433	i-52	0.26	0.26	0.20	B1b		IVc (1)	剥(1)	
434	i-52	0.29	0.24	0.13	D1b				
435	i-j-52	0.24	0.23	0.14	B1c			剥(1)	19
436	i-j-52	0.46	0.35	0.48	B1b		IVc (2)	剥(3)	
437	i-52	0.37	0.26	0.10	B1b				59
438	i-52	0.23	0.21	0.23	B1b				59
439	i-52	0.26	0.25	0.48	B1b		IVc (2)		59
440	i-52	0.24	0.22	0.10	D1b				19
441	i-52	0.28	0.26	0.12	B1b				
442	i-52	0.26	0.21	0.11	B1b				19
443	i-52	0.34	0.24	0.09	D1b				19
444	i-52	0.30	0.29	0.10	B1b				19
445	i-52	(0.62)	(0.56)	0.14	B1b				
446	i-52	0.34	0.31	0.17	D1b				19
447	i-53	0.18	0.17	0.07	D1b	<431	IVc (1)		59
448	j-51	0.24	0.23	0.23	B1c		IVc (13)		6
449	j-52	0.38	0.31	0.44	B1c				6
450	j-52	0.23	0.22	0.12	D1b				6
451	k-51	0.25	0.23	0.30	B1c				6
452	j-52	0.25	0.23	0.47	C3b				6
453	j-52	0.28	0.23	0.25	C3c				6

SP規模一覧(7)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
454	j-52	0.18	0.17	0.22	C3b				36
455	j-52	0.44	0.40	0.18	B1b				
456	j-52	0.23	0.22	0.20	B1c		IVc (1)	剥(11)	6
457	j-52	0.19	0.18	0.16	D1b				19
458	j-52	0.19	0.17	0.08	B1b				19
459	j-52	0.25	0.23	0.18	B1c		IVc (1)		19
460	j-52-53	0.31	0.22	0.10	B1b				19
461	j-53	0.18	0.18	0.06	C3b				19
462	j-53	0.11	0.10	0.06	D1b				
463	j-53	0.42	0.22	0.07	D1b				
464	j-53	0.30	0.22	0.12	C3b		IVc (1)		19
465	j-53	0.40	0.36	0.12	D1b				19
466	j-53	0.30	0.25	0.11	C3b				19
467	j-53	0.24	0.23	0.08	I3				19
468	j-53	0.19	0.19	0.10	C3b				19
469	j-54	0.15	0.14	0.05	C3b				19
470	j-54	0.21	0.28	0.28	B1b				
471	j-53	0.36	0.36	0.32	B1c		IVc (1)		36
472	j-53	0.26	0.25	0.07	D1b				36
473	j-53	0.36	0.35	0.25	B1b				
474	j-k-53	0.66	0.48	0.30	B1b				36
475	k-53	0.40	0.36	0.37	B1b		IVc (7)	剥(1)	36
476	k-53	0.34	0.32	0.34	B1c				36
477	j-54	0.24	0.20	0.11	D1b		IVc (4)		
478	j-54	0.27	0.25	0.24	B1b		IVc (3)	剥(4)	
479	k-54	0.34	0.33	0.20	B1b		IVc (1)		25
480	k-54	0.24	0.22	0.21	B1b				25
481	k-54	0.62	0.30	0.36	B1b				25
482	k-54	0.27	0.27	0.26	B1b			Rフレ(1)	25
483	k-54	0.18	0.14	0.15	B1c				25
484	k-54	0.21	0.20	0.10	B1c				25
485	k-53	0.24	0.24	0.23	B1c				36
486	j-k-53	0.32	0.30	0.16	C3b				
487	k-53	0.25	0.25	0.18	B1c				
488	k-52	0.20	0.17	0.14	C3b				36
489	k-53	0.25	0.24	0.16	C3c	>4774			25
490	k-53-54	0.27	0.25	0.15	B1c				36
491	k-54	0.21	0.19	0.10	C3b				36
492	k-54	0.28	0.26	0.09	C3b				25
493	j-52	0.20	0.17	0.24	B1c				
494	l-52	0.23	0.22	0.16	B1c				38
495	l-52	0.19	0.19	0.18	B1c				38
496	l-53	0.22	0.19	1.00	C3c				38
497	l-53	0.19	0.15	0.07	B1c				25
498	l-54	0.18	0.16	0.08	B1c				25
499	l-54	0.20	0.18	0.14	D1b				37
500	l-54	0.30	0.22	0.31	B1c		IVc (1)	剥(2)	
501	l-53-54	0.22	0.20	0.33	B1c				
502	l-53	0.24	0.23	0.25	B1c				
503	l-54	0.22	0.21	0.35	B1c				25
504	l-n-54	0.21	0.18	0.08	B1c		IVc (1)		37
505	m-54	0.25	0.24	0.17	C3b				3
506	m-54	0.26	0.20	0.26	C3b				3
507	m-54	0.24	0.24	0.20	C1				3
508	m-53	0.20	0.19	0.09	C3c	>3980			3
509	m-53	0.15	0.15	0.17	B1c				37
510	m-53	0.30	0.30	0.13	C3c	>563			
511	m-53	0.24	0.22	0.10	C3b	>3984			
512	m-53	0.14	0.13	0.11	B1c				
513	m-53	0.16	0.14	0.22	B1c				
514	m-53	0.18	0.13	0.18	C3c				60
515	m-53	0.18	0.13	0.14	C3c				60
516	l-53	0.14	0.13	0.09	B1c				38
517	l-53	0.26	0.25	0.10	B1c		IVc (1)		38
518	l-52	0.15	0.14	0.17	C3c				60
519	l-52-53	0.23	0.22	0.19	C3c				38
520	l-53	0.24	0.22	0.26	C3b				37
521	m-53	0.18	0.18	0.25	B1c		IVc (2)		
522	m-54	0.18	0.16	0.36	C3c		IVc (1)		
523	m-54	0.19	0.18	0.12	C3c				4
524	m-54	0.24	0.20	0.13	C3c				
525	m-54	0.14	0.12	0.13	C3c				
526	m-54	0.29	0.21	0.07	C3b				
527	m-54	0.23	0.27	0.14	C3b	>3988			3
528	m-54	0.13	0.12	0.09	C3c				3

SP規模一覧(8)

遺構名	位 置	規 模			土 層	重複関係	出 土 遺 物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
529	n-54-55	0.14	0.13	0.12	C3c				3
530	n-54	0.24	0.21	0.12	B1b				7
531	n-54	0.19	0.18	0.20	C3c				9
532	n-54	0.24	0.21	0.13	B1b				4
533	n-54	0.40	0.31	0.35	D1b	<H14P1			4
534	n-54	0.20	0.18	0.25	B1c	>3496			4
535	n-54	0.14	0.13	0.13	I3		IVc (1)		2・9
536	n-54	0.26	0.19	0.18	I3				2
537	n-54	0.16	0.15	0.11	I3				2
538	o-54	0.15	0.12	0.11	J3				
539	o-54	0.14	0.13	0.08	I3				2
540	o-54	0.26	(0.18)	0.12	J3				
541	o-54	0.50	0.42	0.10	C1				
542	o-54	0.12	0.11	0.06	C1				
543	o-54	0.34	0.29	0.38	I3		IVc (2)		2
544	o-54	0.22	0.16	0.20	I3		IVc (2)	斧(1)	8
545	m・n-54	0.47	0.41	0.14	D1b				
546	j-52	0.23	0.22	0.12	B1c			剥(2)	19
547	j-52	0.19	0.18	0.10	D1b				
548	j-52	0.19	0.17	0.12	D1b				
549	j-53	0.38	0.31	0.10	B1b				
550	n-53	0.30	0.26	0.24	B1c				7
551	k-52	0.21	0.18	0.09	C1				36
552	k-53	0.22	0.19	0.10	C1				36
553	k-53	0.25	0.22	0.09	C1				36
554	k-53	0.18	0.17	0.09	B1c				36
555	k-53	0.19	0.17	0.09	B1c				36
556	k-53	0.25	0.23	0.12	B1c				36
557	k-53	(0.26)	0.26	0.12	B1c	>558	IVc (1)		
558	k-53	(0.20)	0.20	0.08	C1	<557			
559	k-53	0.22	0.21	0.09	C1				36
560	k-53	0.63	0.28	0.10	B1c				36
561	k-53	0.28	0.26	0.11	B1c				25
562	n-53	0.30	0.28	0.18	B1c				7
563	n-53	0.36	0.32	0.14	B1c	<510			7
564	n-54	0.21	0.19	0.23	B1c				7
565	n-54	0.22	0.21	0.25	B1c				3
566	n-54	0.34	0.24	0.12	C3b				4
568	n-54	0.16	0.15	0.08	C3b				4
569	n-54	0.26	0.21	0.20	D1b				
570	n-54	0.23	0.20	0.14	D1b				
571	n-54	0.15	0.13	0.18	D1b				3
572	n-54	0.40	0.27	0.10	D1b	>P19	IVc (7)	剥(1)	3
573	n-54	0.16	0.15	0.14	B1b				3
574	n-54	0.22	0.20	0.10	C3b	<F13			37
575	i・j-66	0.23	0.22	0.10	C3b				
576	i-66	0.24	0.18	0.24	I3				15
577	i-66	0.42	0.30	0.19	D1b		IVc (3)	剥(1)	
578	i-67	0.30	0.28	0.11	D1b		IVc (1)		
579	h-67	0.32	0.28	0.10	D1b		IVc (1)		
580	h-67	0.26	0.24	0.09	D1b	>581			
581	h-67	0.20	(0.20)	0.07	D1b	<580			
582	i-67	0.26	0.25	0.16	D1b				
583	i-67	0.25	0.24	0.10	D1b			剥(1)	
584	i-67	0.10	0.18	0.10	C3b				28
585	i-68	0.44	0.42	0.32	D1b			剥(1)	28
586	i-67	0.19	0.15	0.09	D1b		IVc (1)		15
587	i-67	0.18	0.16	0.06	C3b				15
588	j-67	0.32	0.30	0.43	D1b		IVc (2)	剥(1)	101
589	h-67	0.42	0.30	0.06	C3b				
590	h-67	0.31	0.26	0.08	C3b				
591	h-67	0.49	0.47	0.36	B1b		IVc (1)	剥(1)	
592	h-67	0.36	0.36	0.29	B1b		IVc (6)	スク(1)・剥(1)	45
593	h-68	0.40	0.39	0.20	B1b		IVc (1)		
594	i-67	0.14	0.12	0.04	D1b				15
595	i-69	0.34	0.29	0.21	B1b		IVc (1)	剥(1)・皿(1)	45
596	h-69	0.54	0.24	0.10	D1b		IVc (1)		45
597	h-69	0.54	0.24	0.09	D1b				45
598	h-68	0.40	0.35	0.37	D1b		IVc (1)		
599	h-68	0.36	0.34	0.26	D1b			剥(2)	45
600	h-68	0.20	0.20	0.06	I3				39
601	t-62	0.38	0.35	0.41	B1		IVc (3)		
602	t-62	0.33	0.26	0.42	B1		IVc (2)	皿(1)	
603	t-62	0.31	0.25	0.35	G1				

SP規模一覽(9)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
604	t-62	0.22	0.19	0.23	B1				
605	t-62	0.17	0.14	0.18	H1				33
606	t-62	0.27	0.21	0.15	H1		IVc (1)		33
607	t-62	0.13	0.11	0.15	G1				
608	t-62	0.19	0.13	0.15	H1				
609	t-62	0.16	0.13	0.12	H1				
610	t-62	0.25	0.20	0.12	G1				33
611	t-61	0.17	0.14	0.09	H1				33
612	u-62	0.18	0.12	0.11	G1		IVc (7)	羽(1)	
613	t-62	0.20	0.18	0.07	G1				
614	t-62	0.16	0.12	0.10	G1		IVc (2)		
615	t-62	0.18	0.15	0.08	G1				
616	t-62	0.16	0.14	0.05	G1				
617	s-61	0.28	0.19	0.18	G1				
618	s-61	0.22	0.17	0.08	G1				33
619	s-61	0.19	0.15	0.06	G1				33
620	s-61	0.25	0.19	0.30	I : H1, 2 : F1				33
621	s-61	0.30	0.23	0.29	H1			羽(1)-宋成(1)	
622	s-61	0.20	0.19	0.15	G1				
623	s-61	0.20	0.16	0.12	H1		IVc (3)		
624	s-61	0.22	0.18	0.20	G1			羽(2)-皿(2)	
625	s-61	0.24	0.17	0.12	G1		IVc (2)	羽(1)	
626	s-61	0.17	0.14	0.16	H1			羽(1)-環(1)	
627	s-61	0.21	0.17	0.15	G1				
628	s-61	0.18	0.14	0.08	G1				
629	s-61	0.15	0.11	0.08	G1				
630	s-61	0.35	0.31	0.28	I : F1, 2 : D1		IVc (2)		
631	s-61	0.15	0.13	0.13	B1				
632	s-61	0.22	0.18	0.30	G1		IVc (1)		
633	s-61	0.27	0.24	0.27	G1				34
634	s-61	0.21	0.20	0.18	G1				
635	s-61	0.19	0.16	0.16	G1		IVc (2)		33
636	s-61	0.18	0.17	0.12	G1				
637	s-61	0.13	0.11	0.05	G1				
638	s-61	0.22	0.18	0.09	H1				
639	s-61	0.40	0.35	0.44	I : B1, 2 : H1			羽(1)	
640	s-61	0.09	0.08	0.03	H1				
641	s-62	0.20	0.18	0.07	H1				
642	s-62	0.14	0.13	0.13	G1				
643	s-62	0.11	0.09	0.06	G1				
644	s-62	0.14	0.10	0.03	G1				
645	s-62	0.15	0.12	0.21	G1				
646	s-62	0.17	0.13	0.12	G1				
647	s-62	0.17	0.14	0.23	H1		IVc (1)		
648	s-62	0.28	0.18	0.09	H1				33
649	s-62	0.18	0.15	0.09	H1				33
650	s-62	0.19	0.15	0.14	H1				33
651	s-62	0.23	0.20	0.30	F1		IVc (4)		33
652	s-62	0.23	0.17	0.12	F1		IVc (2)	羽(1)	33
653	s-62	0.17	0.16	0.15	F1		IVc (2)		33
654	s-62	0.19	0.14	0.10	H1				33
655	s-62	0.13	0.12	0.10	H1				
656	s-62	0.16	0.14	0.11	G1				
657	s-62	0.11	0.10	0.04	G1				
658	s-62	0.12	0.09	0.04	G1				
659	t-62	0.16	0.15	0.09	H1				
660	t-62	0.15	0.14	0.23	H1				
661	s-t-62	0.22	0.17	0.09	H1				
662	s-62	0.38	0.14	0.07	G1			環(1)	33
663	s-62	0.17	0.15	0.24	H1			羽(1)	
664	s-62	0.12	0.09	0.04	G1				
665	s-62	0.10	0.07	0.04	G1				
666	s-63	0.54	0.20	0.13	G1				33
667	t-62	0.16	0.13	0.08	G1				
668	t-62	0.15	0.13	0.08	G1				
669	t-62	0.25	0.18	0.28	B1			羽(1)	33
670	t-62	0.19	0.16	0.16	B1				
671	t-63	0.19	0.17	0.14	B1				
672	t-63	0.17	0.16	0.15	B1				
673	t-63	0.20	0.17	0.10	B1				
674	t-63	0.14	0.12	0.20	B1				
675	t-63	0.11	0.09	0.07	G1				33
676	t-63	0.35	0.24	0.20	B1	>677			
677	t-63	0.19	0.14	0.12	G1	<676・678			
678	t-63	0.37	0.22	0.40	B1	>677			

SP規模一覧(10)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
679	t-64	0.13	0.12	0.14	G1		IVc (1)		
680	t-64	0.27	0.25	0.31	B1		IVc (1)	皿(1)・磯(1)	
681	t-63	0.15	0.13	0.05	G1				
682	t-63	0.21	0.16	0.09	G1				33
683	t-63	0.18	0.15	0.11	G1				
684	t-63	0.38	0.26	0.15	B1				33
685	t-63	0.20	0.19	0.13	B1				
686	t-63	0.29	0.22	0.19	B1			剥(1)	
687	t-63	0.17	0.13	0.07	G1				
688	t-63	0.19	0.16	0.13	B1				33
689	u-63	0.16	0.13	0.05	G1				33
690	u-63	0.22	0.15	0.11	B1				33
691	t-62	0.14	0.11	0.04	G1				
692	t-63	0.35	0.25	0.07	B1				
693	s-61	0.50	0.20	0.17	H1		IVc (2)	剥(1)	34
694	s-60-61	0.57	0.23	0.12	B1				34
695	t-63	0.14	0.13	0.11	G1				
696	t-63	0.13	0.12	0.04	G1				
697	t-63	0.12	0.08	0.10	G1				
698	t-63	0.16	0.11	0.03	G1				
699	t-63	0.24	0.21	0.15	G1		IVc (1)		
700	t-63	0.33	0.23	0.08	B1		IVc (1)		
701	t-63	0.15	0.12	0.05	G1				
702	t-63	0.46	0.29	0.14	B1				
703	t-64	0.35	0.22	0.19	B1		IVc (4)		
704	t-64	0.40	0.35	0.15	A1				
705	t-63	0.18	0.14	0.13	G1		IVc (1)		
706	t-63	0.17	0.14	0.06	G1				
707	s-63	0.21	0.19	0.06	G1				
708	s-63	0.24	0.21	0.33	B1				
709	s-63	0.21	0.19	0.05	G1				33
710	t-63	0.32	0.23	0.34	B1				
711	s-63	0.29	0.21	0.60	B1		IVc (1)		
712	t-63	0.23	0.16	0.06	G1				
713	t-63	0.18	0.16	0.22	B1				
714	t-63	0.24	(0.22)	0.10	G1				
715	t-63	0.23	0.20	0.22	B1		IVc (1)		
716	t-63	0.27	0.23	0.12	G1				
717	t-63	0.14	0.12	0.07	G1				
718	t-63	0.12	0.10	0.10	B1				
719	t-63	0.17	0.15	0.07	B1				
720	t-63	0.10	0.09	0.05	G1				
721	t-63	0.13	0.08	0.04	G1				
722	t-63	0.52	0.19	0.10	B1		IVc (1)		
723	s-63	0.18	0.17	0.09	G1	<724			
724	s-63	0.20	0.15	0.08	B1	>723			
725	s-63	0.22	0.20	0.15	G1			剥(2)	
726	s-63	0.19	0.16	0.08	G1				
727	s-63	0.24	0.18	0.10	G1				
728	t-61	0.11	0.09	0.06	G1				
729	t-61	0.30	0.22	0.31	B1				34・77
730	t-61	0.19	0.16	0.13	G1				
731	t-61	0.31	(0.26)	0.40	B1	<732		剥(1)・磯(1)	77
732	t-61	0.35	0.34	0.41	B1	>731			77
733	t-61	0.19	0.17	0.19	G1				33
734	t-61	0.16	0.13	0.14	G1				
735	t-61	0.22	0.18	0.09	G1				
736	t-61	0.35	0.28	0.18	B1				77
737	u-61	0.38	0.35	0.40	G1				77
738	u-61	0.22	0.17	0.07	G1				
739	u-61	0.19	0.16	0.15	B1				
740	u-61	0.22	0.15	0.05	B1				
741	u-61	0.21	0.16	0.20	G1				77
742	u-61	0.15	0.11	0.05	G1				
743	t-60	0.41	0.35	0.51	B1		IVc (1)		77
744	u-61	0.52	0.40	0.44	B1	<P11			77
745	t-61	0.18	0.13	0.09	G1				
746	t-61	0.26	0.24	0.15	A1	<P11			
747	t-60	0.19	0.16	0.19	B1				
748	t-60	0.25	0.21	0.20	B1				
749	t-60	0.25	0.19	0.09	B1				
750	t-60	0.25	0.22	0.21	B1		IVc (1)		34
751	t-60	0.25	0.23	0.32	B1				
752	s・t-60	0.12	0.10	0.04	H1				
753	t-60	0.12	0.09	0.06	H1				

SP規模一覧(11)

遺構名	位 置	規 模			土 層	重 複 関 係	出 土 遺 物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
754	t-60	0.20	0.15	0.23	B1				77
755	t-60	0.17	0.14	0.20	B1		IVc (3)		
756	t-60	0.11	0.10	0.10	G1				
757	t-59	0.13	0.10	0.05	G1				
758	t-60	0.18	0.09	0.12	G1				
759	t-59	0.17	0.14	0.11	B1		IVc (1)		34
760	t-59	0.19	0.14	0.11	B1				
761	t-59	(0.36)	0.22	0.10	B1	<LZ1			
762	t-59	0.24	0.22	0.38	B1				34
763	t-59	0.19	0.16	0.20	B1		IVc (1)		34
764	s-59	0.25	0.20	0.06	G1				
765	t-59	0.16	0.14	0.05	G1				
766	s-60	0.28	0.17	0.11	G1				
767	s-60	0.24	0.19	0.30	B1		IVc (1)		34
768	s-60	0.20	0.15	0.11	B1				
769	s-60	0.15	0.12	0.09	G1				
770	s-60	0.15	0.12	0.06	B1				
771	s-60	0.18	0.14	0.09	G1				
772	s-60	0.21	0.18	0.12	G1				
773	s-60	0.20	0.15	0.10	G1				
774	s-60	0.13	0.10	0.06	G1				
775	s-60	0.20	0.17	0.21	B1				
776	s-60	0.13	0.10	0.08	G1				
777	s-60	0.14	0.11	0.07	G1				
778	s-60	0.28	0.22	0.28	B1				
779	s-59-60	0.45	0.44	0.57	A1		IVc (5)		
780	s-60	0.19	0.16	0.37	A1				
781	s-60	0.18	0.15	0.22	B1				
782	s-60	0.14	0.12	0.10	B1				
783	s-60	0.27	0.23	0.09	B1				
784	s-60	0.38	0.35	0.49	B1		IIIb (1)-IVc (5)		34
785	s-60	0.21	0.18	0.30	B1				
786	s-60	0.15	0.12	0.06	G1				
787	s-60	0.17	0.15	0.17	G1				
788	s-60	0.26	0.21	0.18	B1			灰(1)-礫(1)	
789	s-60	0.27	0.20	0.15	G1				
790	s-60	0.29	0.26	0.48	B1				
791	s-60	0.12	0.09	0.05	B1				
792	s-60	0.15	0.13	0.07	G1				
793	s-60	0.27	0.23	0.09	G1				
794	s-60	0.37	0.34	0.12	B1				
795	s-59	0.33	0.30	0.22	A1				34
796	s-60	0.17	0.13	0.13	B1				
797	r-s-60	0.46	0.28	0.20	B1				57
798	r-60	0.15	0.14	0.25	B1				
799	r-60	0.41	0.35	0.55	B1		IVc (10)	磁(1)-剥(3)	57
800	r-60	0.53	0.32	0.55	B1		IVc (12)	ス夕(1)-剥(3)	
801	o-58	0.35	0.34	0.11	G1c			剥(1)	
802	o-58	0.40	0.36	0.43	G1b		IVc (6)		
803	o-58	0.26	0.24	0.34	G1b		IVc (1)	剥(1)	
804	o-58	0.11	0.10	0.11	F1b				
805	n-59	0.22	0.20	0.18	F1b				
806	n-59	0.24	0.22	0.23	G1a 炭少		IVc (3)		
807	n-59	0.13	0.10	0.15	G1b				
808	n-59	0.17	0.13	0.12	G1c				
809	n-59	0.11	0.10	0.05	G1c				
810	n-59	0.25	0.20	0.18	B1b				
811	n-59	0.10	0.08	0.05	F1				
812	n-59	0.15	0.12	0.10	G1b				
813	n-59	0.28	0.23	0.30	B1b		IVc (2)		
814	n-59	0.45	0.33	0.26	1 : C1a, 2 : C1		IVc (1)		
815	o-59	0.20	0.18	0.17	C1b			剥(1)	
816	o-59	0.20	0.19	0.14	C1c		IVc (2)		
817	o-59	0.55	0.47	0.69	C1b	>4644	IVc (4)		83
818	o-59	0.16	0.14	0.06	H1				
819	o-59	0.16	0.12	0.10	L1				
820	p-59	0.22	(0.18)	0.30	G1c				
821	p-59	0.09	(0.06)	0.14	H1~G1c				
823	m-59	0.29	0.27	0.40	F1a		IVc (1)	剥(5)	
824	n-57	0.11	0.10	0.04	F1d				
825	m-55	0.20	0.16	0.26	C1a				
826	m-55	(0.16)	0.02	0.30	F1a	<859			
827	m-55	0.17	0.14	0.19	C1a				
828	n-55	0.17	0.13	0.25	C1a				
829	n-55	0.15	0.14	0.20	C1	>F15			

SP規模一覧(12)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
830	n-55	0.25	0.16	0.28	C1b				
831	n-56	0.12	0.09	0.07	C1c 骨少				
832	n-56	0.11	0.10	0.13	G1				
833	n-56	0.10	0.08	0.15	G1				
834	n-56	0.09	0.08	0.12	C1c				
835	n-56	0.17	0.14	0.15	C1				
836	n-o-56	0.30	0.25	0.30	C1a	<F16	IVc (3)	剥(1)	
837	o-56	0.13	0.11	0.20	H1c				
838	o-56	0.10	0.09	0.10	H1				
839	o-56	0.20	(0.16)	0.18	C1c	<861			
840	o-56	0.19	0.16	0.16	H1b				
841	o-57	0.22	0.20	0.25	G1c				78
842	o-57	0.25	0.22	0.16	G1c				78
843	n-57	0.20	0.18	0.05	C1a				78
844	n-57	0.17	0.16	0.14	B1a				78
845	n-57	0.23	0.20	0.19	B1	#P9			
846	n-57	0.19	0.16	0.10	G1a				
847	o-57	0.16	0.15	0.10	C1		IVc (1)		
848	o-57	0.20	0.17	0.20	G1		IVc (1)	磁(1)	
849	n-57	0.22	0.18	0.29	F1c		IVc (1)	剥(1)	
850	o-57-58	0.25	0.20	0.23	B1a		IVc (1)		
851	o-58	0.23	0.21	0.14	B1a		IVc (1)		
852	o-58	0.20	0.18	0.36	C1a		IVc (2)		78
853	o-58	0.22	0.19	0.30	B1c		IVc (5)		
854	o-58	0.14	0.11	0.10	G1b				78
855	o-57	0.14	0.13	0.09	C1c				
856	o-57	0.26	0.25	0.16	G1c				78
857	o-57	0.22	0.21	0.11	G1c				78
858	o-57	0.38	0.31	0.38	B1b		IVc (2)	剥(1)・磁(1)	
859	m-55	0.16	(0.15)	0.20	C1c	>826			
860	l-62	0.18	0.15	0.29	1: G1 焼粒多, 2: M1a	>F30			
861	o-56	0.12	(0.11)	0.12	1: B1a, 2: G1a, 3: A1	>839			
862	o-58	0.33	0.28	0.26	H1c				
863	p-60	0.12	0.11	0.30	1: G1, 2: B1c				
864	p-60	0.13	0.12	0.20	G1				
865	p-60	0.46	0.40	0.69	1: G1, 2: F1, 3: G1c		IVc (4)	剥(2)・皿(1)	98
866	p-60	0.30	0.20	0.31	G1c				
867	p-60	0.18	0.15	0.34	G1c		IVc (4)		
868	p-60	0.14	0.11	0.12	G1			剥(1)・斧(1)	
869	p-60	0.15	0.13	0.20	G1				
870	p-60	0.48	0.43	0.50	C1c		IVc (13)	剥(1)	83
871	p-60	0.30	0.23	0.15	G1		IVc (1)	剥(1)	
872	p-60	0.18	0.12	0.30	1: I1, 2: B1c				
874	p-60	0.41	0.38	0.62	C1c		1b (1)・No-4 (1)・IVc (6)		98
875	o-60	0.37	0.34	0.71	C1c		IVb-4 (2)・IVc (8)	剥(1)	98
876	o-60	0.18	0.15	0.24	G1c			剥(1)	
877	o-60	0.17	0.16	0.13	G1c				
878	o-61	0.17	0.15	0.15	G1c				
879	o-60	0.34	0.25	0.44	H1a				
880	p-61	0.46	0.45	0.43	C1a	993<880<F35	IVc (4)		5
881	o-61	0.18	0.15	0.10	B1				
882	o-61	0.20	0.18	0.35	H1c		IVc (3)		5
883	n-60	0.27	0.22	0.15	G1c	>3896			
884	n-60	0.35	0.34	0.16	G1c		皿b (1)・IVc (5)	剥(1)	
885	n-60	0.14	0.13	0.10	G1 炭混				
886	n-60	0.42	0.35	0.50	1: G1b, 2: I1c, 3: C1		IVc (13)	剥(4)	43
887	n-60	0.16	0.15	0.15	G1c				
888	m-n-60	0.45	0.41	0.48	1: C1, 2: I1 3: N1とG1 口粒混の互層, 4: I1 焼粒多		IVc (16)	剥(4)	
889	m-60	0.38	0.28	0.25	B1c		IVc (2)		
890	m-n-60	0.30	0.25	0.21	G1a	>891	皿b (1)	剥(3)・未成(1)	
891	m-n-60	0.20	0.17	0.24	H1c	<890			
892	m-60	0.23	0.21	0.25	B1		IVc (1)		
893	m-60	0.20	0.18	0.20	1: G1, 2: B1c		IVc (6)	剥(1)	
894	n-60	0.25	0.21	0.45	G1a		IVc (10)	剥(1)	
896	m-60	0.29	0.21	0.10	G1c				
897	m-60	0.30	0.23	0.17	F1a				
898	m-60	0.47	0.40	0.57	G1a	>2265	IVa (1)・IVc (1)		43
899	m-60	0.35	0.26	0.17	F1a				
900	m-60	0.40	0.37	0.39	1: C1c 炭混, 2: G1 口多, 3: G1 4: H1c, 5: C1		IVc (13)	剥(2)	
901	m-60	0.21	0.18	0.10	G1c			剥(1)	
902	m-60	0.23	0.19	0.12	G1b		IVc (1)	剥(2)	
903	m-60	0.30	0.28	0.18	B1		IVc (3)	磁(1)	
904	m-60	0.52	0.40	0.55	1: C1c, 2: G1b		IVc (7)	剥(2)	

SP規模一覽 (13)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
905	m-59-60	0.31	0.19	0.27	I: G1a, 2: B1				
906	m-60	0.20	0.17	0.05	F1				
907	m-60	0.25	0.20	0.15	C1a				
908	l-m-60	0.33	0.28	0.30	I: G1a 炭混, 2: B1			たたき(1)	
909	l-60	0.27	0.25	0.17	C1b		IVc (2)	剥(1)	
910	l-60	0.27	0.20	0.10	C1d				
911	l-60	0.25	0.23	0.20	C1b				
912	l-60	0.10	0.09	0.12	C1				
913	l-60	0.10	0.09	0.05	C1				
914	l-60	0.22	0.20	0.15	F1 炭混				
915	l-60	0.16	0.14	0.03	C1				
916	l-60	0.20	0.19	0.10	F1d				
917	l-60	0.20	0.16	0.03	B1				
918	l-60	0.12	0.10	0.05	A1				
919	l-60	0.29	0.23	0.09	C1b		IVc (1)		
920	l-60	0.25	0.20	0.10	F1b 炭混		IVc (1)		
921	k-60	0.14	0.25	0.20	C1c				
922	k-60	0.22	0.12	0.05	I1b	#5P3			
923	k-60	0.22	0.20	0.25	C1b				65
924	k-60	0.15	0.11	0.05	L1				65
925	k-60	0.24	0.22	0.11	C1d				65
926	k-60	0.21	0.20	0.10	C1d				65
927	k-60	0.18	0.14	0.04	B1b				65
928	k-60	0.29	0.23	0.13	C1d				65
929	k-60	0.15	0.13	0.05	H1d				65
930	k-60	0.29	0.23	0.07	F1d				65
931	k-60	0.27	0.22	0.19	C1c				65
932	k-60	0.20	0.13	0.05	C1d				65
933	k-60	0.34	0.29	0.19	G1a 炭混	<934			65
934	k-60	0.22	(0.21)	0.14	G1a	>933			65
936	k-60	0.35	0.28	0.08	C1a				65
937	k-60	0.22	0.20	0.10	F1a 炭混				65
938	k-61	0.28	0.27	0.28	B1c		IVc (1)		65
939	k-61	0.26	0.23	0.22	C1c			剥(3)	65
940	k-61	0.39	0.36	0.77	C1a		IVc (1)	たたき(3)・皿(1)	65
941	k-61	0.17	0.15	0.12	F1b		IVc (1)		65
942	k-61	0.13	0.11	0.10	C1b				65
943	k-61	0.52	0.50	0.45	I: C1b 炭混, 2: 3: F1b, 4: J1b	>945	IVc (2)	罎(1)	17・65
944	k-61	0.31	0.20	0.20	C1a		IVc (1)		17・65
945	k-61	0.40	0.32	0.15	不明	<943			17・65
946	k-61	0.37	0.33	0.12	C1a				65
947	k-61	0.27	0.22	0.33	C1a				65
948	k-61	0.23	(0.16)	0.22	F1a				65
949	k-60	0.23	0.19	0.03	B1a 炭多				
950	k-60	0.26	0.24	0.24	F1d		IVb-4 (1)		65
951	k-61	0.23	0.20	0.16	C1a			剥(1)	65
952	o-60	0.16	0.15	0.10	C1		IVc (2)		
953	p-60	0.15	0.13	0.25	B1c				
954	o-60	0.14	0.12	0.15	B1d				
955	o-60	0.15	0.10	0.20	C1d				
956	o-60	0.18	0.16	0.14	G1b				5
957	o-60	0.29	0.28	0.18	G1b		IVc (8)		
958	o-61	0.22	0.18	0.26	F1a		IVc (3)		
959	o-61	0.40	0.37	0.48	C1a		IVc (2)	剥(2)・罎(1)	
960	o-61	0.27	0.21	0.12	I: F1c, 2: G1c		IVc (1)		
961	o-61	0.15	0.13	0.15	C1				5
962	o-61	0.44	0.35	0.45	C1b		IVc (3)	剥(1)	83
963	o-61	0.21	0.20	0.22	F1b		IVc (1)		
964	p-61	0.33	0.30	0.10	C1		IVc (1)	剥(2)・斧(1)	
965	p-61	0.33	0.28	0.13	G1b				
966	p-61	0.46	0.44	0.71	C1b 炭混		IVc (6)	剥(5)・罎(1)	98
967	n-61	0.44	(0.39)	0.48	C1a	996<967<P160		罎(1)	
968	n-61	0.40	0.36	0.36	I1a	>2318	IVc (3)	剥(1)	5
969	n-61	0.20	0.17	0.08	F1c 炭混				
970	n-61	0.22	0.21	0.10	F1c 炭混		IVc (1)		
971	n-61	0.23	0.21	0.05	B1c				
972	n-61	0.23	0.20	0.05	C1c			罎(1)	
973	n-61	0.37	0.27	0.50	I1c				
974	n-61	0.39	0.30	0.13	G1a		IVc (2)	剥(1)	
975	n-61-62	0.30	0.28	0.10	C1c		IVc (2)		41
976	p-62	0.39	0.34	0.30	I: F1c, 2: B1c		IVc (2)	剥(1)	
977	p-62	0.35	0.31	0.32	I: F1c, 2: B1c		IVc (7)		
978	p-62	0.38	0.35	0.18	G1			剥(1)・罎(1)	
979	p-62	0.40	0.35	0.35	I: 11, 2: G1c, 3: C1				
980	p-62	0.46	0.37	0.29	I: 11c, 2: C1c		IVc (1)	罎(1)	

SP規模一覧 (14)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長径(m)	短径(m)	深さ(m)			土器	石器	
981	p-63	0.50	0.49	0.48	1: F1c, 2: F1b, 3: C1d 4: B1c, 5: G1a	>982	IVc (10)	剥(2)・原(1)・礫(1)	
982	p-63	(0.28)	0.48	0.52	1: F1a, 2: I1a, 3: I1 4: C1b, 5: I1b, 6: C1a	<981			
983	p-62	0.32	0.29	0.10	C1b		IVc (1)		
984	p-62	0.54	0.42	0.62	C1b		IVc (7)・IVb-4(1)	礫(3)・剥(5)・礫(1)	
985	p-62	0.42	0.29	0.36	B1c		IVc (1)	剥(1)	
986	p-62	(0.20)	0.17	0.19	L1c				
987	o-62	0.48	0.35	0.48	1: C1c, 2: J3		IVc (1)		
988	o-62	0.21	(0.12)	0.26	G1d				
989	l-60	(0.22)	0.15	0.10	F1b	<P88			
990	l-60	0.30	0.21	0.13	B1				
991	k-61	0.33	0.19	0.07	B1		IVc (2)		65
992	m-59	0.20	0.17	0.25	C1d	≠P51			
993	p-61	(0.48)	(0.44)	0.47	C1b	<880<F35	IVc (11)	剥(7)	
994	p-61	0.38	(0.28)	0.55	C1a	<993	IVa (1)・IVc (5)	剥(1)	
996	n-61	(0.30)	0.38	0.94	1: C1c, 2: I1c	<967	IVc (11)	剥(4)	
997	o-63	0.50	(0.33)	0.51	1: A1c, 2: J4, 3: B1d	H25HF1<997<998	IIIa (1)・IVa (1)・IVc (21)	剥(4)・斧(2)・礫(1)	103
998	o-63	0.56	(0.36)	0.46	1: B1c, 2: B1a, 3: B1d	H25<997<998<999			
999	o-63	0.54	0.51	0.53	B1a	>998>H25	IVc (12)	Rフレ(2)・剥(12) 原(1)・礫(11)	
1000	n-61	0.28	0.22	0.32	G1a	>P144		剥(1)	
1001	g-60	0.26	0.20	0.20	C1		IVb-4 (1)・IVc (3)		
1002	g-60	0.46	0.32	0.34	C1c 炭多		IVc (3)		
1003	g-60	0.26	0.24	0.15	C1c				
1004	g-60	0.26	0.23	0.11	C1c	<1005			
1005	g-60	0.24	0.21	0.06	C1c	>1004	IVc (2)	剥(1)	
1006	g-59	0.27	0.21	0.08	C1c				
1007	g-59	0.28	0.19	0.05	C1c				
1008	g-59	0.15	0.13	0.06	C1c				
1009	g-59	0.27	0.21	0.10	C1c			剥(3)	
1010	f-59	0.14	0.12	0.10	K1				
1011	f-59	0.21	0.19	0.05	C1c 炭少				
1012	f-59	0.19	0.15	0.12	C1a 炭多				
1013	f-59	0.20	0.17	0.10	1:A1a 炭多, 2:C1c 炭多				
1014	f-59	0.51	0.22	0.11	C1c			礫(1)	
1015	f-59	0.31	0.25	0.15	C1c			剥(1)	
1016	f-59	0.11	0.10	0.12	C1a				
1017	f-59	0.09	0.06	0.08	C1a				
1018	f-59	0.14	0.10	0.06	C1a		IVc (1)		
1019	f-59	0.29	0.25	0.07	J1c				
1020	f-59	0.16	0.14	0.09	C1a				
1021	f-59	0.18	0.17	0.05	A1c		IVc (1)		
1022	f-59	0.15	0.13	0.06	C1a 炭多				
1023	f-59	0.17	0.12	0.12	C1c				
1024	f-59	0.22	0.15	0.04	J1a				
1025	f-59	0.20	0.18	0.18	A1c			礫(3)	
1026	f-59	0.17	0.12	0.06	C1c	<1027			
1027	f-59	0.10	0.08	0.04	C1c	>1026			
1028	f-59	0.16	0.14	0.06	C1a				
1029	f-59	0.13	0.10	0.05	J1a				
1030	f-59	0.10	0.09	0.04	C1a				
1031	f-59	0.50	0.42	0.39	C1c 炭多	<4177・4178	IVc (6)	剥(2)	
1032	f-59	0.22	0.18	0.12	A1c				
1033	f-59	0.18	0.17	0.06	C1a				
1034	f-59	0.20	0.19	0.08	C1a				
1035	f-59-60	0.26	0.20	0.09	C1c				
1036	f-60	0.19	0.14	0.04	C1a				
1037	f-60	0.19	0.15	0.05	C1c 炭多				
1038	f-60	0.20	0.17	0.02	C1a				
1039	f-60	0.15	0.12	0.03	C1a				
1040	f-60	0.15	0.11	0.06	C1a				
1041	f-59	0.17	0.15	0.13	C1a				
1042	f-60	0.15	0.14	0.05	C1a				
1043	f-60	0.12	0.09	0.05	C1a				
1044	g-59	0.33	0.29	0.25	A1a 炭多				
1045	j-61	0.25	0.24	0.05	A1a 炭多	<1046	IVc (1)		27
1046	j-60-61	0.37	0.26	0.10	A1a	>1045			27
1047	j-61	0.14	0.13	0.05	C1a 炭多				27
1048	j-61	0.30	0.27	0.10	K1c 炭多	>3484			
1049	j-61	0.32	0.27	0.24	A1c 炭多		IVc (1)		65
1050	j-61	0.49	0.40	0.47	1: A1a 炭多, 2: J4, 3: A1a 炭多		Ib (1)・IVc (21)		
1051	j-61	0.23	0.21	0.31	C1c 炭少		IVc (1)		65
1052	j-60	0.25	0.24	0.33	C1c 炭少		IVc (9)		27
1053	j-61	0.15	0.12	0.05	K1a 炭少				

S P規模一覧 (15)

遺構名	位 置	規 模			土 層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長径(m)	短径(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
1054	j-61	0.23	0.18	0.23	A1c 炭多				65
1055	i-61	0.15	0.12	0.10	K1a 炭少				
1056	i-61	0.46	0.36	0.35	C1a 炭多	>1057	IVc (17)	銅(3)	
1057	i-61	0.25	0.19	0.20	C1c 炭多	<1056	IVc (3)	銅(1)	
1058	i-60	0.15	0.14	0.05	C1c 炭少				
1059	i-60	0.20	0.16	0.14	K1a 炭少				
1060	i-60	0.20	0.18	0.19	K1c 炭少			磁(5)	27
1061	j-61-62	0.31	0.28	0.08	C1c		IVc (1)		17
1062	j-k-61	0.36	0.32	0.12	C1c	>3471		銅(2)	17・65
1063	j-60	0.26	0.22	0.30	C1c 炭少		IVc (1)		65
1064	i-62	0.57	0.47	(0.19)	不明	>P25	IVc (9)	銅(1)	
1065	f-62	(0.35)	0.31	0.35	K1c				
1066	f-62	0.30	0.26	0.35	K1a		IVc (1)		
1067	f-62	0.10	0.08	0.09	K1c				
1068	f-62	0.14	0.12	0.08	K1c				
1069	f-62	(0.17)	0.14	0.17	完掘・不明				
1070	f-62	0.20	0.17	0.23	K1a				
1071	f-62	0.75	0.37	0.23	K1a		IVc (2)	銅(1)	
1072	f-62	0.26	0.19	0.15	K1a				
1073	f-63	0.23	0.20	0.16	K1a		IVc (3)	土たぎ(1)	
1074	f-62-63	0.22	0.21	0.36	K1a				
1075	f-g-62	0.22	0.18	0.35	K1c				
1076	f-62	0.20	0.18	0.10	C1a				
1077	f-62	0.10	0.07	0.03	K1c				
1078	f-62	0.15	0.10	0.05	K1c				
1079	f-62	0.25	0.20	0.39	K1a		IVc (1)		
1080	f-61	0.16	0.14	0.06	K1c				
1081	f-61	0.18	0.15	0.04	K1c				
1082	f-61	0.20	0.18	0.05	C1c				
1083	f-61	0.35	0.28	0.11	A1a				
1084	f-62	0.25	0.21	0.09	A1c		IVc (1)		
1085	f-62	0.36	0.28	0.37	K1a	>4124	IVc (1)		
1086	f-62	0.20	0.15	0.10	不明			斧(1)	
1087	f-62	0.11	0.10	0.03	C1c				
1088	f-62	0.19	0.16	0.04	C1a				
1089	f-62	0.11	0.10	0.04	C1a				
1090	f-62	0.18	0.15	0.20	C1a				
1091	f-62	0.19	0.14	0.11	K1a				
1092	f-62	0.20	0.14	0.03	C1a				
1093	f-g-62	0.14	0.11	0.14	K1a		IVc (1)		
1094	g-62	0.21	0.16	0.10	C1a				
1095	f-62	0.19	0.17	0.04	C1a				
1096	f-62	0.13	0.10	0.05	C1a				
1097	f-g-62	0.24	0.18	0.06	C1a				
1098	g-63	0.24	0.19	0.17	K1a				
1099	g-62	0.16	0.13	0.03	C1c				
1100	g-62	0.21	0.16	0.32	K1a				
1101	g-62	0.20	0.20	0.19	K1a				
1102	g-62	0.14	0.08	0.20	K1a				
1103	g-62	0.23	0.18	0.19	K1a		IVc (1)		
1104	g-62	0.46	0.34	0.15	K1a		IVc (1)		
1105	g-62	0.25	0.20	0.20	K1a				
1106	g-63	0.45	0.31	0.06	C1a				
1107	g-62	0.24	0.17	0.12	K1a				
1108	g-62	0.19	0.15	0.06	C1a				
1109	g-62	0.21	0.17	0.22	K1a				
1110	g-62	0.25	0.23	0.22	K1a				
1111	g-63	0.10	0.08	0.04	C1a				
1112	g-63	0.10	0.09	0.03	K1a				
1113	g-62-63	0.19	0.15	0.02	C1a				
1114	g-62-63	0.25	0.19	0.35	C1a				
1115	g-63	0.19	0.15	0.03	K1a				
1116	g-62	0.12	0.09	0.03	K1a				
1117	g-62-63	0.13	0.13	0.13	C1a				
1118	g-62	0.29	0.25	0.03	C1a				
1119	g-63	0.26	0.22	0.24	C1a				
1120	g-61-62	0.18	0.15	0.23	K1a				
1121	g-61-62	0.14	0.13	0.07	C1c				
1122	g-62	0.15	0.13	0.13	K1a				
1123	g-62	0.27	0.25	0.11	K1a				
1124	g-62	0.11	0.10	0.04	K1a				
1125	g-62	0.21	0.18	0.16	C1c				
1126	g-62	0.20	0.18	0.29	C1c		IVc (2)		
1127	g-62	0.16	0.14	0.16	C1c				
1128	f-61	0.54	0.24	0.10	K1c				

SP規模一覧 (16)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
1129	f-61	0.17	0.14	0.10	C1a				
1130	f-61	0.18	0.16	0.05	C1c				
1131	f-61	0.19	0.14	0.03	K1a				
1132	f-61	0.25	0.22	0.10	K1c				
1133	f-61	0.18	0.14	0.05	K1c				
1134	f-61	0.23	0.18	0.05	K1c				
1135	f-61	0.25	0.23	0.10	K1c				
1136	f-61	0.21	0.20	0.10	K1c				
1137	f-61	0.21	0.18	0.05	C1c				
1138	f-61	0.16	0.11	0.08	K1a				
1139	f-61	0.59	0.53	0.46	K1c		IVc (6)		
1140	f-61	0.30	0.22	0.12	C1c		IVc (1)		
1141	f-61	0.16	0.12	0.04	C1a				
1142	f-61	0.20	0.18	0.04	C1a		IVc (1)		
1143	f-61	0.86	0.40	0.09	K1a	<4129			
1144	g-61	0.19	0.14	0.17	C1a		IVc (1)		
1145	g-61	0.11	0.10	0.04	C1a				
1146	g-61	0.24	0.19	0.16	C1c		IVc (1)		
1147	g-61	0.13	0.11	0.05	C1c				
1148	g-61	0.16	0.22	0.06	K1a				
1149	g-61	0.19	0.14	0.04	K1a				
1150	g-61	0.32	0.24	0.09	C1c				
1151	g-61・62	0.11	0.10	0.02	C1c				
1152	g-61	0.17	0.14	0.04	C1a				
1153	g-61	0.26	0.22	0.08	K1c				
1154	g-61	0.39	0.31	0.05	C1a		IVc (1)		
1155	g-61	0.17	0.14	0.05	K1a				
1156	g-61	0.16	0.10	0.03	K1a				
1157	g-61	0.19	0.10	0.10	K1a				
1158	g-61	0.13	0.11	0.05	K1a				
1159	g-61	0.15	0.12	0.05	K1a				
1160	g-61	0.12	0.11	0.06	K1a				
1161	g-61	0.15	0.14	0.05	C1a				
1162	g-61	0.26	0.19	0.06	C1a	>4082			
1163	g-61	0.15	0.13	0.05	K1a				16
1164	g-61	0.12	0.09	0.03	K1a				16
1165	g-60	0.57	0.50	0.71	K1a 炭少	>4074・4525	IVb-4 (1)・IVc (9)	刺(2)	46
1167	g-61	0.24	0.20	0.06	C1a				
1168	h-61	0.21	0.19	0.09	K1c				
1169	h-61	0.12	0.11	0.01	C1a				
1170	h-61	0.19	0.09	0.02	C1a				
1171	h-61	0.24	0.20	0.05	C1c				
1172	h-61	0.18	0.16	0.06	C1c				
1173	h-62	0.32	0.30	0.40	C1c		IVc (17)	スク(2)	
1174	h-62	0.20	0.16	0.09	K1a				
1175	h-61	0.14	0.06	0.06	C1a	>4010			
1176	h-61	0.18	0.14	0.06	C1c				
1177	h-61	0.17	0.15	0.02	K1a				16
1178	h-61	0.21	0.17	0.05	C1c				
1179	h-61	0.14	0.11	0.03	C1a				
1180	h-61	0.17	0.15	0.04	K1c				
1181	h-61	0.16	0.15	0.12	K1a				
1182	h-61	0.20	0.16	0.03	K1a				
1183	h-61	0.20	0.17	0.12	C1a				
1184	h-61	0.19	0.12	0.09	C1a				
1185	h-61	0.16	0.12	0.04	C1a				
1186	h-61	0.15	0.12	0.06	C1a				
1187	h-61	0.15	0.14	0.15	C1a				
1188	h-61	0.22	0.15	0.07	K1c				
1189	h-61	0.25	0.23	0.09	C1a				16
1190	h-61	0.14	0.13	0.10	K1c				
1192	h-61	0.21	0.16	0.03	C1c				
1193	h-61	0.42	0.32	0.47	1: A1c, 2: A1a, 3: K1a		IVb-4 (2)・IVc (4)	刺(1)	
1194	h-61	0.16	0.08	0.05	C1a				
1195	h-61	0.11	0.09	0.03	C1a	<1196			
1196	h-61	0.21	0.18	0.05	C1a	>1195			
1197	h-61	0.20	0.15	0.04	C1a				
1198	h-60・61	0.24	0.22	0.06	K1a				
1199	h-60	0.16	0.13	0.04	C1a				
1200	h-60	0.19	0.14	0.08	K1c				
1201	r-60	0.14	0.12	0.20	B1		IVc (1)	刺(1)	
1202	r-60	0.14	0.12	0.12	G1		IVc (1)		
1203	r-60	0.14	0.12	0.08	G1				
1204	r-60	0.20	0.19	0.05	G1				
1205	r-60	0.20	0.18	0.10	G1				

SP規模一覧 (17)

遺構名	位 置	規 模			土 層	重 複 関 係	出 土 遺 物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
1206	r-60	0.25	0.23	0.19	G1				
1207	r-60	0.25	0.20	0.08	G1				
1208	r-60	0.19	0.14	0.05	G1				
1209	r-60	0.14	0.12	0.10	G1				
1210	r-60	0.18	0.16	0.30	B1				
1211	r-60	0.29	0.18	0.51	B1				56
1212	r-60	0.26	0.21	0.13	B1		IVc (1)		
1213	r-60	0.15	0.12	0.18	B1		IVc (3)		
1214	r-60	0.19	0.08	0.20	B1				
1215	r-60	0.19	0.17	0.23	M1				
1216	r-60	0.16	0.11	0.14	G1		IVc (1)		
1217	r-60	0.15	0.10	0.11	G1				
1218	r-60	0.20	0.16	0.11	G1				
1219	r-60	0.35	0.29	0.44	B1				
1220	s-59	0.35	0.32	0.50	B1		IIa (1)-IVc (1)		
1221	s-59	0.22	0.18	0.28	B1				
1222	s-59	0.18	0.16	0.13	G1				
1223	s-59	0.22	0.18	0.30	B1		IVc (7)		
1224	s-59	0.37	0.32	0.52	B1				
1225	s-59	0.27	0.25	0.12	G1				
1226	s-59	0.37	0.29	0.58	B1		IVc (1)	皿(1)	57
1227	s-59	0.29	0.26	0.37	B1		IVc (2)		
1228	s-59	0.31	0.25	0.19	B1		IVc (6)	剥(1)	
1229	r-s-59	0.31	0.28	0.51	B1		IVc (6)		
1230	r-59	0.27	0.24	0.38	B1		IVc (1)		57
1231	r-59	0.67	0.35	0.31	B1		IVc (4)	剥(8)-原(2)-環(1)	
1232	r-59	0.21	0.18	0.14	B1				
1233	r-59	0.35	0.30	0.36	B1				
1234	r-59	0.23	0.19	0.40	B1			つまみ(1)-剥(1)	
1235	r-59	0.26	0.25	0.40	A1		IVc (1)		
1236	r-59	0.25	0.20	0.19	B1		IVc (1)		
1237	r-59	0.14	0.12	0.25	B1	<1238		剥(2)-環(1)	
1238	r-59	0.21	0.17	0.25	B1	>1237	I b(1)	環(2)	
1239	r-59	0.20	0.18	0.08	G1				
1240	r-59	0.36	0.28	0.44	B1		IVc (2)	剥(1)	
1241	r-59	0.25	0.20	0.29	B1		IVc (3)'		
1242	r-59	0.31	0.29	0.30	B1		IVc (3)		
1243	r-59	0.21	0.18	0.37	B1		IVc (2)		
1244	r-59	0.22	0.19	0.42	B1		IVc (1)		
1245	r-59	0.35	0.35	0.12	B1		IVc (3)	剥(1)	
1246	r-59	0.19	0.16	0.30	B1		IVc (4)		
1247	r-59	0.29	0.25	0.56	A1		IVc (1)	剥(1)	
1248	r-59-60	0.28	0.25	0.50	B1		IVc (3)	たたき(1)	
1249	r-59	0.18	0.15	0.15	A1				
1250	r-59	0.37	0.28	0.59	B1		IIIb (1)-IVc (4)	剥(1)	
1251	r-58	0.11	0.09	0.10	B1				
1252	r-58	0.15	0.14	0.17	G1				
1253	r-57-58	0.48	0.38	0.08	G1				
1254	r-58	0.18	0.15	0.05	G1				
1255	r-58	0.39	0.31	0.10	G1				
1256	r-58	0.21	0.18	0.14	B1		IVc (2)		
1257	r-58	0.29	0.25	0.08	B1				
1258	r-58	0.21	0.19	0.10	A1				
1259	r-58	0.28	0.24	0.23	B1			剥(1)-環(1)	
1260	r-58	0.14	0.10	0.15	A1				
1261	r-58	0.15	0.12	0.26	B1				
1262	r-58	0.27	0.30	0.34	B1	<1263	IVa (1)-IVc (9)	環(1)	
1263	r-58	0.28	0.26	0.14	A1	>1262			
1264	r-58	0.17	0.15	0.30	B1				
1265	r-58	0.42	0.39	0.10	B1		IVc (2)		
1266	r-58	0.30	0.24	0.46	B1		IVc (4)	Rフレ(1)-剥(3)-環(1)	
1267	r-58	0.13	0.12	0.26	A1				
1268	r-58	0.31	0.30	0.20	B1		IVc (2)	剥(1)	
1269	s-58	0.23	0.19	0.37	A1				
1270	s-59	0.30	0.28	0.30	A1				
1271	s-59	0.31	0.23	0.10	G1				
1272	s-58	0.18	0.17	0.15	G1		IVc (2)		
1273	s-58	0.22	0.18	0.22	B1	>1274			
1274	s-58	0.26	0.21	0.30	B1	<1273	IVc (2)	環(1)	
1275	s-59	0.19	0.15	0.12	B1				
1276	s-58	0.28	0.26	0.16	G1		IVc (1)		
1277	s-59	0.22	0.17	0.12	B1				
1278	s-58	0.35	(0.35)	0.62	I : A1, 2 : H1, 3 : B1				
1279	s-58	0.22	0.19	0.10	G1				
1280	s-58	0.20	0.17	0.14	G1				

S P規模一覽 (18)

遺構名	位 置	規 模			土 層	重複関係	出土遺物		建物No.
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
1281	q-57	0.10	0.08	0.05	G1				
1282	q-57	0.15	0.13	0.19	G1				
1283	q-57	0.10	0.08	0.18	G1				
1284	q-57	0.16	0.14	0.18	G1				
1285	q-57	0.16	0.15	0.08	B1				
1286	q-57	0.15	0.13	0.08	B1				
1287	q-57	0.16	0.12	0.12	G1				
1288	q-57	0.10	0.09	0.06	B1				
1289	q-57	0.16	0.14	0.10	B1				
1290	q-57	0.18	0.16	0.09	B1				
1291	q-57	0.16	0.11	0.10	B1				
1292	r-57	0.14	0.13	0.15	B1				
1293	r-57	0.15	0.14	0.11	G1				
1294	r-57	0.14	0.13	0.05	G1				
1295	r-57	0.18	0.16	0.10	B1				
1296	r-57	0.16	0.15	0.14	B1			剥(1)	
1297	r-57	0.18	0.15	0.07	B1				
1298	r-57	0.13	0.11	0.07	B1				
1299	r-57	0.16	0.15	0.17	G1				
1300	q-57	0.15	0.13	0.17	G1				
1301	q-57	0.19	0.16	0.30	B1				
1302	q-57	0.17	0.12	0.13	B1				
1303	q-56	0.21	0.18	0.13	A1				
1304	q-56	0.20	0.17	0.15	A1				
1305	q-56	0.18	0.14	0.12	B1		IVc (1)		
1306	q-57	0.17	0.14	0.13	B1			剥(1)	
1307	q-58	0.66	0.53	0.12	B1				
1308	q-58	0.09	0.07	0.09	B1				
1309	q-58	0.25	0.21	0.10	G1				
1310	q-58	0.25	0.20	0.06	G1		IVc (1)		
1311	q-58	0.18	0.16	0.10	B1			剥(2)	
1312	q-59	0.22	0.18	0.24	B1				
1313	q-59	0.20	0.15	0.30	A1				
1314	q-58	0.23	0.17	0.21	B1				
1315	q-58	0.19	0.14	0.15	B1				
1316	q-59	0.31	0.29	0.39	B1			剥(1)	
1317	q-59	0.23	0.21	0.14	B1				
1318	q-59	0.19	(0.10)	0.20	B1				
1319	q-59	0.22	0.17	0.30	B1		IVb-4 (1)		
1320	q-59	0.32	0.27	0.52	A1				
1321	q-59	0.29	0.18	0.14	B1	>1734	IVc (1)		
1322	q-59	0.19	0.17	0.11	B1				
1323	q-59	0.21	0.16	0.10	B1				
1324	q-59	0.35	0.30	0.43	B1		I b (3)・IVc (3)	礫(1)	
1325	q-58	0.20	0.14	0.05	B1				
1326	q-59	0.19	0.15	0.12	A1				
1327	q-58	0.02	0.15	0.24	B1				
1328	q-58	0.55	0.48	0.41	B1		IVc (12)	斧(1)・皿(2)・礫(1)	
1329	q-58	0.17	0.15	0.20	B1		IVc (1)		
1330	q-58	0.14	0.13	0.20	B1			皿(1)	
1331	q-58	0.12	0.10	0.22	B1				
1332	q-60	0.23	0.19	0.10	A1		IVc (2)		
1333	q-60	0.21	0.19	0.35	B1			剥(1)	
1334	q-60	0.15	0.12	0.15	B1				
1335	q-60	0.56	0.56	0.48	B1		II a (1)・IVc (4)	赤土(1)・剥(3)・礫(1)	
1336	q-60	0.28	0.22	0.07	G1		IVc (1)	剥(1)	
1337	q-60	0.26	0.22	0.48	B1		IVc (3)	礫(1)	
1338	q-60	0.26	0.25	0.17	B1				
1339	q-60	0.30	0.20	0.13	B1		IVc (3)	剥(1)	
1340	q-60	0.18	0.15	0.11	B1				
1341	q-60	0.15	0.14	0.20	B1				
1342	q-61	0.18	0.15	0.18	B1				
1343	q-61	0.20	0.15	0.10	B1				
1344	q-61	0.21	0.19	0.25	B1				
1345	q-61	0.15	0.08	0.08	A1			剥(1)	
1346	q-61	0.32	0.28	0.16	B1				
1347	q-61	0.26	0.22	0.13	B1				
1348	q-61	0.22	0.17	0.08	B1				
1349	q-61	0.32	0.25	0.15	B1			剥(2)・斧(1)・礫(1)	
1350	q-61	0.59	0.51	0.43	B1		IVc (2)	剥(1)・斧(1)・礫(1)	
1351	q-61	0.21	0.16	0.15	B1				
1352	q-61	0.21	0.20	0.20	B1		IVc (1)		
1353	q-61	0.29	0.20	0.13	B1		IVc (1)		
1354	q-61・62	0.29	0.21	0.13	B1		IVc (1)		
1355	r-60	0.12	0.12	0.05	G1				

SP規模一覧 (19)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長(m)	短(m)	深さ(m)			土器	石器	
1356	r-61	0.22	0.16	0.45	B1				
1357	r-61	0.17	0.14	0.25	B1	<F50			
1358	r-60	0.15	0.13	0.37	B1				
1359	r-61	0.14	0.12	0.25	I : M1, 2 : N1		IVc (1)		
1360	r-61	0.26	0.19	0.10	N1				56
1361	r-61	0.26	0.20	0.26	B1				
1362	r-61	0.19	0.14	0.32	B1		IVc (1)		
1363	r-61	0.18	0.15	0.32	B1				
1364	r-61	0.21	0.17	0.20	B1				56
1365	r-61	0.16	0.14	0.20	B1				
1366	r-61	0.25	0.20	0.14	B1		IVc (1)	剥(1)	
1367	r-61	0.22	0.17	0.45	B1		IVc (1)		
1368	r-61	0.29	0.20	0.23	B1				
1369	r-61	0.23	0.22	0.30	B1			剥(1)	
1370	r-61	0.29	0.26	0.40	B1		IVc (4)	剥(6)	
1371	r-61	0.30	0.25	0.17	B1				
1372	r-61	0.38	0.28	0.35	B1		IVc (13)	剥(2)	
1373	r-61	(0.32)	0.22	0.13	G1	<P17			
1374	s-59	0.15	0.12	0.24	B1			皿(1)	
1375	s-59	0.22	0.19	0.22	B1				
1376	r-59	0.20	0.15	0.29	B1	<F55			
1377	r-59	0.20	0.18	0.19	B1				
1378	r-59	0.47	0.33	0.28	B1		I b(2)		
1379	r-59	0.16	0.15	0.07	B1				
1380	r-59	0.18	0.15	0.10	B1				
1381	r-59	0.20	0.19	0.15	B1				
1382	q-61	0.28	0.16	0.28	B1				
1383	q-61	0.21	0.15	0.15	B1				
1384	q-61	0.23	0.16	0.15	B1				
1385	r-61	0.18	0.15	0.23	B1				
1387	q-61	0.17	0.15	0.09	G1				
1388	r-61	0.16	0.12	0.32	B1				
1389	r-62	0.19	0.17	0.09	B1				
1390	r-s-62	0.19	0.17	0.35	G1		IVc (1)		
1391	s-62	0.15	0.14	0.07	G1				
1392	r-62	0.14	0.12	0.14	G1				
1393	r-62	0.13	0.11	0.05	G1				
1394	r-62	0.13	0.10	0.11	G1				
1395	r-62	0.10	0.09	0.07	G1				
1396	r-62	0.13	0.10	0.10	G1				
1397	r-62	0.17	0.14	0.25	B1				
1398	r-62	0.15	0.13	0.13	G1				
1399	r-62	0.15	0.13	0.05	G1				
1400	r-62	0.16	0.13	0.08	B1				
1401	f-68	(0.27)	(0.26)	0.50	B1b	>F58			
1403	e-68	0.25	0.23	0.07	D1b				39
1404	f-68	0.39	0.26	0.42	L4d	<F60			
1405	f-68	(0.60)	0.55	0.65	D1b	>1500	IVc (7)		
1406	f-68	0.56	0.38	0.36	D1b		IVc (5)	剥(4)	
1407	f-68	0.44	0.41	0.54	C3b		IVc (1)	剥(8)	
1408	f-68	0.48	0.42	0.42	D1b		IVc (9)	剥(1)	
1409	f-68	0.52	(0.38)	0.22	C3b	>1410	IVc (2)	剥(2)	40
1410	f-68	0.48	(0.37)	0.64	C3b	<1409	IVc (5)	剥(3)-環(1)	
1411	f-69	0.45	0.35	0.38	C3b				39
1412	f-69	0.33	0.30	0.11	L4d				39
1413	f-69	0.44	0.38	0.54	C3b	>1505	IVc (3)		24
1414	g-68	0.60	0.52	0.68	I 3		IVc (21)	剥(4)-環(1)	
1415	f-68	0.24	0.20	0.12	C3b				
1416	f-68	0.14	0.14	0.08	C3b				
1417	f-68	0.34	0.20	0.14	C3c	>4693			
1418	f-68	0.56	0.46	0.45	I : B1b, 2 : I 3, 3 : B1b	>1419・4693	IVc (11)	剥(2)	
1419	f-68	0.43	(0.36)	0.41	C3b	<1418	IVc (2)	剥(1)-たつき(1)-環(1)	
1420	f-68	0.54	0.49	0.66	C3b		IVc (27)	剥(8)-環(3)	40
1421	f-69	0.32	0.23	0.23	不明	>1505・1506・1423			
1422	f-69	0.22	0.14	0.21	不明	>1423・1504・1505	IVc (1)		
1423	f-69	0.24	0.19	0.07	不明	>1504・1505・1506 <1421・1422			
1424	e-68	0.14	0.12	0.08	D1b				40
1425	e-68	0.11	0.10	0.08	C3b				40
1426	e-68	0.09	0.07	0.07	I 3				39
1427	e-68	0.10	0.08	0.04	D1b				39
1428	e-68	0.51	0.40	0.50	C3b		IVc (1)	環(1)	24
1429	e-68	(0.26)	0.20	0.08	C3b	>1430			
1430	e-68	(0.34)	0.22	0.13	I 3	<1429			
1431	e-68	0.27	0.18	0.09	B1c			剥(1)	24

SP規模一覽 (20)

遺構名	位置	規模			土層	重複關係	出土遺物		建物No
		長(m)	短(m)	深(m)			土器	石器	
1432	e-68	0.41	0.32	0.18	B1b				24
1433	e-68	0.25	0.21	0.08	I3c				24
1434	e-68	0.28	0.19	0.13	D1b	>1435			
1435	e-68	(0.34)	0.28	0.06	C3b	<1434		割(1)	
1436	e-68	0.18	0.16	0.08	I3				
1437	e-68	0.22	0.19	0.09	D1b				
1438	e-68	0.20	0.18	0.12	C3b				
1439	d·e-68	0.23	0.15	0.07	D1b	<1440			
1440	d·e-68	(0.24)	0.20	0.11	I3	>1439	Ivc (1)		
1441	e-69	0.27	0.22	0.08	C3c	≠H21P1			
1442	e-69	0.19	0.15	0.06	C3b				24
1443	e-69	0.21	0.17	0.06	D1b				24
1444	e-69	0.58	0.44	0.60	C1				24
1445	e-69	0.19	0.17	0.05	B1c				
1446	e-69	0.17	0.14	0.04	C3b				
1447	f-69	0.17	0.15	0.08	C3b				39
1448	f-69	0.18	0.12	0.09	C3b				39
1449	f-69	(0.28)	(0.27)	0.09	I3				
1450	f-69	0.27	0.20	0.13	I3c				
1451	f-69	0.22	0.19	0.07	B1b		Ivc (1)		39
1452	e-69	(0.21)	0.18	0.05	D1b				24
1453	e-69	(0.22)	0.16	0.06	D1b				24
1454	e-71·72	0.54	0.49	0.20	B1b				47
1455	e·f-71	0.44	0.42	0.15	B1b	>1499			47
1456	e-70	(0.19)	(0.17)	0.17	C3b				
1457	e-70	(0.32)	0.24	0.06	B1b				
1458	e-70	(0.24)	0.22	0.06	B1b				
1459	e-70	0.34	0.21	0.08	B1b				
1460	e-69	0.32	0.31	0.15	D1b		Ivc (2)	割(1)	
1461	e-70	0.22	0.18	0.17	B1c				
1462	e-70	0.22	(0.18)	0.15	B1c	<H22P1			
1463	e-70	0.24	0.18	0.07	D1b				
1464	e-71	0.29	0.22	0.42	I3c				
1465	e-70	0.18	0.16	0.10	D1b				
1466	e-70	0.20	0.19	0.06	B1c				
1467	e-70	0.33	0.28	0.13	B1c				
1468	e-70	0.28	0.24	0.12	D1b				
1469	e-70	0.34	0.28	0.10	B1c				
1470	f-70	0.24	0.18	0.06	D1b				32
1471	f-70	0.19	0.16	0.08	I3				24・32
1472	f-70	0.18	0.11	0.05	I3c				32
1473	f-70	0.30	0.27	0.09	B1b				
1474	f-70	0.57	0.42	0.12	B1c				
1475	f-70	0.31	0.26	0.10	I3c				24・32
1476	f-70	0.24	0.19	0.10	B1b				24
1477	f-70	(0.28)	0.20	0.04	B1b				24
1478	f-70	0.30	0.26	0.08	D1b				
1479	e·f-70	0.18	0.14	0.04	D1b				
1480	f-70	0.29	0.23	0.07	D1b				32
1481	f-70	0.20	0.17	0.06	B1b				32
1482	f-70	0.24	0.20	0.06	D1b				32
1483	f-70	0.31	0.24	0.07	B1c				
1484	f-70	0.36	0.32	0.09	B1c				32
1485	e-71	0.24	0.20	0.08	B1c		Ivc (2)		
1486	e-71	0.25	0.24	0.07	B1c		Ivc (1)		
1487	e-71	0.54	0.44	0.13	B1b				
1488	e-71	0.36	0.32	0.01	B1b	>1513			
1489	f-71	0.24	0.21	0.09	D1b				
1490	f-71	0.26	0.22	0.03	C3b				
1491	f-71	0.20	0.18	0.11	I3c				
1492	f-71	0.20	0.18	0.10	C3c				
1493	f-71	0.24	0.20	0.13	C3c				
1494	e-72	(0.36)	0.32	0.10	B1b	<1522			
1495	e-72	0.26	0.22	0.10	C1				
1496	f-72	0.17	0.15	0.03	C1				
1497	e-72	0.16	0.15	0.07	I3c				
1498	f-71	0.16	0.14	0.18	B1c				
1499	e·f-71	0.29	0.24	0.12	C3c	<1455		割(1)	47
1500	f-68	0.58	(0.52)	0.58	I : J3, 2 : I3c	<1405			
1501	e-68	0.31	0.25	0.36	D1b	<P59			40
1502	f-70	0.46	0.34	0.50	K3b		Ivc (1)	割(1)・破(1)	24
1503	f-70	0.25	0.16	0.04	B1b				
1504	f-69	0.34	0.31	0.40	D1b	1506<1504<1422<1423			39
1505	f-69	(0.50)	0.40	0.26	I3	<1413・1421・1423 ≠1506	Ivc (1)		

S P 規模一覽 (21)

遺構名	位置	規模			土 層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
1506	f-69	—	—	0.24	I 3c	<1413・1421・1423 <1504, ≠1505			
1507	f-70	0.18	0.16	0.06	B1b				32
1508	f-70	0.28	0.17	0.06	B1b				32
1509	f-70	0.22	0.17	0.06	B1c				32
1510	f-70	(0.21)	0.20	0.06	不明	<1511			
1511	f-70	(0.26)	0.25	0.06	不明	>1510			32
1512	f-70	0.19	0.18	0.10	I 3c				32
1513	e-f-71	0.24	0.19	0.10	B1c	<1488			
1514	e-f-71	0.12	0.10	0.04	B1c				
1515	f-71	0.18	0.16	0.08	D1b				
1516	f-71	0.24	0.20	0.08	B1b				
1517	f-71	0.18	0.16	0.08	C3b				
1518	f-71	0.56	0.16	0.20	I 3c				32
1519	f-71	0.56	0.36	0.12	I 3c				32
1521	e-72	0.24	0.21	0.11	B1c				
1522	e-72	(0.28)	(0.24)	0.34	I 3c	>1494	IVc (2)		
1523	f-72	0.30	0.27	0.05	F1a		IVc (2)		47
1524	f-71-72	0.62	0.40	0.16	B1b				47
1525	f-72	0.20	(0.19)	0.20	C3b				68
1526	f-72	0.25	0.23	0.23	C3b				68
1527	f-72	0.22	0.21	0.08	C3b				68
1528	f-71-72	0.42	0.38	0.34	B1b				47
1529	f-71	0.28	0.24	0.11	D1b				
1530	e-70-71	0.26	0.14	0.12	I 3c				
1531	e-71	0.44	(0.29)	0.41	C3b				
1532	e-71	0.20	0.18	0.08	C3c				
1533	e-71	0.31	0.25	0.12	I 3				47
1534	e-71	0.14	0.13	0.10	C3b				47
1535	e-71	0.18	0.16	0.07	C3b				
1536	f-71	0.25	0.22	0.18	C3b		IVc (2)		
1537	f-71	0.18	0.14	0.08	C3b				
1538	f-70	0.16	0.14	0.14	B1c	>1667			
1539	f-70	0.24	0.18	0.10	C3c				24
1540	f-70	0.20	0.16	0.04	D1b				24
1541	f-70	0.51	0.29	0.11	C3b				
1542	f-70	0.19	0.18	0.12	D1b				
1543	f-70	0.20	0.16	0.10	D1b				
1544	f-70	0.30	0.26	0.11	B1b				
1545	f-70	0.16	0.15	0.06	B1c				32
1546	f-70	0.77	0.38	0.12	B1b				
1547	f-71	0.30	0.29	0.12	D1b				68
1548	f-71	0.22	0.18	0.08	B1b				68
1549	f-71	0.50	0.47	0.36	C3c			原(1)	
1550	f-g-71	0.16	0.15	0.12	B1c				68
1551	g-71	0.20	0.17	0.06	B1b				68
1552	f-71	0.36	0.33	0.37	D1b		IVc (1)		47・68
1553	f-71	0.32	0.28	0.18	C3b				32
1554	f-71	0.21	0.18	0.09	B1b				
1555	g-71	0.26	0.22	0.16	B1b				32
1556	g-71	0.40	0.38	0.33	B1b		IVc (4)	磁(1)・礫(1)	68
1557	g-71	0.22	0.18	0.07	C3c				68
1558	g-71	0.19	0.14	0.08	C3c				68
1559	g-71	0.28	0.24	0.16	1: C3c, 2: C3b		IVc (2)		68
1560	g-71	0.34	0.28	0.12	D1b				68
1561	g-71	0.38	0.30	0.17	B1b				68
1562	g-71	0.22	0.17	0.07	D1b				68
1563	g-71	0.26	0.26	0.21	I 3c				68
1564	g-72	0.48	(0.33)	0.32	I 3c				68
1565	g-72	0.25	0.14	0.05	I 3c				68
1566	g-72	0.18	0.16	0.07	C3b				68
1567	g-72	0.20	0.17	0.06	B1b				68
1568	g-71	0.26	0.24	0.08	C3b				68
1569	g-71	0.23	0.24	0.08	C3b				68
1570	g-71	0.28	0.24	0.14	D1b				68
1571	h-71	0.28	0.17	0.07	D1b				68
1572	g-71	0.20	0.20	0.07	D1b				68
1573	g-71	0.20	0.16	0.06	C3b				68
1574	g-71	0.14	0.14	0.05	C3b				
1575	g-70-71	0.25	0.23	0.06	D1b				
1576	g-70-71	0.31	0.30	0.07	C3c				
1577	g-70	0.20	0.16	0.08	D1b				
1578	g-70	0.27	0.24	0.12	C3b				
1579	e-70	0.26	0.23	0.10	C3b				
1580	g-70	0.21	0.18	0.07	C3b				32

S P 規模一覽 (22)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
1581	g-70	0.20	0.18	0.07	C3b				32
1582	g-70	0.28	0.23	0.08	B1b				32
1583	g-70	0.23	0.18	0.06	D1b				32
1584	f-70	0.16	0.14	0.10	D1b				24
1585	f-70	0.18	0.23	0.06	C3b				24
1586	f-70	0.14	0.14	0.14	D1b				24
1587	f-70	0.18	0.14	0.16	B1b		IVc (1)		24・32
1588	f:g-70	0.39	0.35	0.08	B1c		IVc (1)		
1589	g-70	0.28	0.22	0.08	D1b				
1590	g-70	0.16	0.16	0.08	D1b				
1591	g-70	0.18	0.16	0.05	D1b				
1592	g-70	0.24	0.20	0.06	D1b				
1593	g-70	0.52	0.48	0.10	B1c				
1594	g-70	0.22	0.20	0.08	B1c				
1595	g-68	0.10	0.16	0.11	B1c	<1596			40
1596	g-68	0.16	0.14	0.09	D1b	>1595			40
1597	g-68	0.14	0.10	0.07	D1b				40
1598	g-68	0.16	0.12	0.05	D1b				40
1599	g-68	0.10	0.06	0.09	D1b				40
1600	g-68	0.32	0.26	0.33	B1c				
1601	r-62	0.27	0.21	0.10	B1				
1602	r-62	0.17	0.14	0.20	B1				
1603	r-62	0.19	0.18	0.27	B1		IVc (1)		
1604	r-62	0.15	0.12	0.20	B1				
1605	r-62	0.21	0.15	0.10	G1				
1606	r-62	0.18	0.14	0.10	G1				
1607	r-62	0.17	0.13	0.14	B1			剥(1)	
1608	q-62	0.26	0.19	0.16	B1				
1609	q-62	0.19	0.17	0.32	B1				
1610	q-62	0.18	0.15	0.23	B1				32
1611	q-62	0.28	0.25	0.11	B1		IVc (2)		
1612	q-62	0.13	0.12	0.11	B1		IVc (1)		
1613	q-62	0.22	0.17	0.30	B1				
1614	q-62	0.40	0.33	0.12	B1		I b (1)	剥(1)	
1615	q-62	0.67	0.63	0.12	B1		IVc (1)		
1616	q-62	0.26	0.26	0.26	B1				
1617	q-62	0.20	0.16	0.20	B1		IVb-4 (1)・IVc (1)		
1618	q-62	0.48	0.42	0.60	A1		IVc (14)	剥(1)	
1619	q-62	0.20	0.17	0.35	B1		IVb-4 (1)		
1620	q-62	0.35	0.32	0.50	A1		IVc (3)	剥(1)・環(1)	
1621	q-62	0.20	0.15	0.10	G1				
1622	q-62	0.12	0.11	0.05	G1				
1623	q-62	0.21	0.19	0.35	B1				
1624	q-62	0.18	0.15	0.05	G1				
1625	q-62	0.57	0.47	0.56	B1		IVb-4 (1)・IVc (21)	剥(1)	
1626	q-62	0.23	0.18	0.22	B1		IVc (1)		
1627	q-62	0.40	0.35	0.26	A1			剥(1)	
1628	q-62	0.18	0.12	0.20	B1			剥(1)	
1629	q-62	0.30	0.20	0.17	B1		IVc (1)		
1630	q-62	0.20	0.19	0.17	B1	<F49			
1631	q-62	0.30	0.23	0.13	A1	>2577	IVc (1)	剥(2)	
1632	r-62	0.15	0.13	0.34	B1				
1633	r-62	0.20	0.15	0.28	A1		IVc (3)	剥(3)	
1634	r-62	0.35	0.32	0.36	B1		IVc (6)	RFレ(1)・剥(6)・弁(2)	
1635	r-62	0.40	0.29	0.32	B1		IVc (2)	剥(1)	
1636	r-62	0.11	0.11	0.15	B1	<F49			
1637	r-62	0.48	0.30	0.30	A1				
1638	r-62-63	0.17	0.13	0.20	B1			剥(1)	
1639	r-63	0.16	0.15	0.06	G1	<F48			
1640	r-63	0.28	0.20	0.09	B1	>P287			
1641	r-61	0.16	0.12	0.30	B1				
1642	q-61	0.28	0.27	0.15	B1		IVc (1)		
1643	q-61	0.18	0.16	0.24	A1				
1644	q-61	0.33	0.29	0.60	B1		IVc (6)		
1645	q-62	0.55	0.41	0.45	B1		IVc (14)	ドリル(1)・剥(3)・弁(1)	
1646	p-q-62	0.20	0.13	0.06	G1			剥(1)	
1647	s-62	0.22	0.20	0.45	B1				
1648	r-62	0.18	0.15	0.20	G1				
1649	q-63	0.20	0.19	0.22	B1	<1650			
1650	q-63	0.23	0.23	0.30	A1	>1649	IVc (7)		
1651	q-63	0.20	0.18	0.14	B1				
1652	q-63	0.18	0.15	0.06	B1				
1653	q-63	0.17	0.12	0.06	B1				
1654	q-63	0.30	0.21	0.11	G1	>4286			
1655	q-63	0.26	0.21	0.30	B1		IVc (13)		

SP規模一覽 (23)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
1656	q-63	0.30	0.25	0.17	B1				
1657	q-63	0.18	0.15	0.19	B1				
1658	q-63	0.14	0.10	0.11	A1				
1659	q-63	0.29	0.23	0.16	B1				
1660	q-63	0.31	0.25	0.13	G1	>4292			
1661	q-63	0.23	0.19	0.10	B1	>4302			
1662	q-63	0.35	0.31	0.49	B1		IVc (15)	剥(5)・礫(1)	
1663	q-63	0.37	0.27	0.43	B1		IVc (4)	剥(2)	
1664	q-63	0.22	0.15	0.14	G1				
1665	q-63	0.50	0.35	0.18	B1	<4290	IVc (5)		
1666	q-63	0.24	0.20	0.31	B1				
1667	q-63	0.37	0.23	0.10	B1				
1668	q-63	0.18	0.15	0.18	B1				
1669	q-63	0.42	0.27	0.15	B1				
1670	q-63	0.20	0.20	0.10	B1				
1671	q-63	0.30	0.29	0.15	B1				
1672	r-63	0.17	0.13	0.16	B1	>4287			
1673	r-63	0.32	0.21	0.12	B1				
1674	r-63	0.39	(0.34)	0.35	B1	<1675	IVc (2)		
1675	r-63	0.30	0.26	0.15	A1	>1674	IVc (1)		
1676	r-63	0.32	0.20	0.07	B1		IVc (3)		
1677	r-63	0.18	0.15	0.20	B1		IVc (1)		
1678	r-63	0.17	0.13	0.10	B1				
1679	r-63	0.21	0.15	0.12	B1				
1680	r-63	0.24	0.23	0.11	B1				
1681	r-63	0.21	0.18	0.13	G1				
1682	r-63	0.33	0.23	0.11	G1				
1683	r-63	0.17	0.15	0.14	B1				
1684	r-63	0.15	0.13	0.15	B1	<F47			
1685	r-63	0.16	0.13	0.05	B1	<F47			
1686	r-63	0.15	0.12	0.19	B1				
1687	r-63	0.12	0.11	0.05	G1	<F47			
1688	s-63	0.23	0.18	0.17	B1	<F47			
1689	s-63	0.47	0.29	0.09	B1	<F47			
1690	s-63	0.20	0.15	0.07	G1	<F47			
1691	s-63	0.20	0.17	0.20	B1				
1692	r-64	0.40	0.33	0.15	B1				
1693	r-64	0.20	0.17	0.12	B1				
1694	r-63	0.21	0.19	0.05	B1				
1695	r-64	0.20	0.17	0.14	B1				
1696	r-64	0.50	0.32	0.10	B1				
1697	r-64	0.19	0.15	0.12	G1		IVc (1)		
1698	r-64	0.32	0.28	0.38	H1		IVc (1)		
1699	r-64	0.17	0.16	0.15	G1			剥(1)	
1700	r-64	0.21	0.15	0.20	G1				
1701	r-64	0.16	0.14	0.15	G1				
1702	r-64	0.17	0.15	0.15	G1				
1703	r-64	0.46	0.25	0.55	1 : B1, 2 : H1		IVc (1)		
1704	r-64	0.17	0.14	0.12	G1				
1705	r-64	0.19	0.15	0.19	B1				
1706	r-64	0.16	0.14	0.06	G1				
1707	r-64	0.17	0.15	0.14	B1				
1708	r-64	0.15	0.12	0.10	G1				
1709	r-s-64	0.29	0.25	0.13	B1				
1710	s-64	0.29	0.26	0.10	B1		IIIb (8)		
1711	r-64	0.16	0.14	0.09	G1		IVc (1)		
1712	r-64	0.15	0.12	0.10	H1				
1713	s-64	0.13	0.11	0.05	G1				
1714	s-64	0.15	0.12	0.20	B1				
1715	s-64	0.18	0.16	0.22	G1			剥(1)	
1716	s-64	0.20	0.15	0.14	H1			礫(1)	
1717	s-64	0.19	0.15	0.05	G1				
1718	s-64	0.19	0.16	0.20	G1				
1719	s-64	0.24	0.18	0.06	M1				
1720	s-64	0.17	0.11	0.06	B1				
1721	s-64	0.22	0.18	0.23	1 : B1, 2 : C1		IVc (2)	礫(1)	
1722	s-64	0.11	0.09	0.10	G1		IVc (1)		
1723	s-64	0.22	0.18	0.20	H1				
1724	s-64	0.23	0.18	0.04	B1				
1725	s-64	0.31	0.21	0.07	B1		IVc (1)		
1726	s-64	0.14	0.12	0.14	G1				
1727	s-64	0.13	0.10	0.06	G1	<F24			
1728	s-64	0.24	0.20	0.20	B1	<F23			
1729	s-64	0.11	0.10	0.11	G1				
1730	s-64	0.14	0.12	0.18	G1				

SP規模一覧 (24)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
1731	r-59	0.18	0.16	0.40	I: B1, 2: G1				
1732	r-59	0.19	0.15	0.25	G1				
1733	r-58・59	0.19	0.12	0.34	G1				
1734	q-59	0.16	0.14	0.40	B1	<1321			
1735	t-64	0.13	0.13	0.06	G1			剥(1)	
1736	s-64	0.20	0.18	0.50	B1				
1737	s-64	0.37	0.26	0.11	H1				
1738	s-64	0.19	0.11	0.15	G1	>P284			
1739	s-64	0.15	0.12	0.09	G1				
1740	s-64	0.13	0.10	0.14	H1				
1741	s・t-64	0.19	0.16	0.13	H1				
1742	t-64	0.25	0.23	0.04	B1				
1743	t-64	0.26	0.22	0.05	B1				
1744	t-64	0.23	0.18	0.06	B1				
1745	t-64	0.25	0.19	0.23	G1			剥(1)	
1746	t-64	0.21	0.19	0.34	B1				
1747	t-64	0.17	0.16	0.20	G1				
1748	t-64	0.35	0.32	0.20	B1	>1749			
1749	t-64	0.15	0.13	0.33	G1	<1748		剥(1)	
1750	s・t-64	0.39	0.39	0.37	B1		IVc (3)	剥(2)	
1751	t-64	0.20	(0.18)	0.50	G1	<1752			
1752	t-64・65	0.33	0.29	0.15	B1	>1751			
1753	t-64	0.23	(0.20)	0.09	D1				
1754	t-64	0.26	0.23	0.09	B1				
1755	t-64	0.25	0.21	0.33	B1		IVc (2)	剥(2)	
1756	t-64	0.25	0.23	0.44	B1			剥(1)	
1757	t-64	0.25	0.20	0.07	G1				
1758	t-64	0.20	0.15	0.08	G1				
1759	t-64	0.23	0.19	0.12	G1				
1760	t-64	0.24	0.21	0.25	G1				
1761	t-64	0.15	0.13	0.10	G1				
1762	t-64	0.15	0.12	0.15	B1				
1763	t-64	0.21	0.16	0.09	B1				
1764	t-64	0.11	0.10	0.10	G1				
1765	t-64	0.23	0.18	0.09	G1				
1766	t-64	0.22	0.16	0.15	A1		IVc (7)	剥(2)	
1767	t-64	0.21	0.17	0.13	B1				
1768	t-64	0.20	0.17	0.35	B1		IVc (1)		
1769	t-64	0.26	0.19	0.21	B1			すり(1)	
1770	t-64・65	0.33	0.29	0.33	B1		IVc (1)		
1771	t-64	0.25	0.21	0.27	B1		IVc (1)	剥(1)	
1772	u-64	0.20	0.16	0.19	B1				
1773	u-64	0.34	0.29	0.79	B1		IVc (1)		
1774	u-64	0.24	0.19	0.38	B1				
1775	u-64	0.19	0.15	0.09	G1				
1776	u-64	0.18	0.14	0.11	G1				
1777	u-64	0.24	0.17	0.10	G1				
1778	u-64	0.22	0.20	0.16	G1				
1779	u-64	0.18	0.16	0.12	L1				
1780	u-64	0.19	0.16	0.11	G1				
1781	u-64	0.20	0.15	0.20	B1				
1782	u-64	0.11	0.10	0.05	G1				
1783	u-63	0.17	0.13	0.14	G1				
1784	u-64	0.27	0.22	0.20	B1				
1785	u-64	0.16	0.15	0.09	G1				
1786	u-64	0.26	0.22	0.11	B1				
1787	u-64	0.17	0.13	0.33	B1		IVc (2)		
1788	u-64	0.15	0.13	0.08	G1				
1789	u-64	0.42	0.41	0.56	G1		IVc (8)	剥(2)・剥(3)	
1790	u-64	0.28	0.22	0.23	A1		Ib-4 (1)		
1791	u-64	0.23	0.19	0.23	B1		IVc (1)		
1792	u-64	0.42	0.33	0.72	B1		IVc (3)		
1793	u-64	0.20	0.17	0.07	G1				
1794	u-64	0.19	0.16	0.09	G1				
1795	u-64	0.15	0.13	0.10	G1				
1796	u-64	0.15	0.12	0.10	G1				
1797	u-64	0.21	0.19	0.45	B1		IVc (2)		
1798	u-64	0.11	0.10	0.12	G1				
1799	u-64	0.15	0.11	0.22	B1				
1800	u-64	0.17	0.14	0.05	G1				
1801	h-60	0.12	0.10	0.15	K1c				
1802	h-61	0.19	0.18	0.09	C1c 炭灰			剥(1)	
1803	h-61	0.09	0.08	0.04	C1c				
1804	h-61	0.10	0.07	0.04	C1c				
1805	h-61	0.12	0.08	0.05	C1c				

SP規模一覧 (25)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
1806	h-61	0.16	0.14	0.15	C1a				
1808	h-61	0.15	0.13	0.17	K1c				
1809	h-61	0.23	0.19	0.10	A1c				
1810	h-61	0.22	0.19	0.10	C1a				
1811	h-61	0.29	0.26	0.50	K1c 炭少				
1812	h-62	0.26	0.15	0.16	K1c 炭少		IVb-4 (1)・IVc (1)		
1813	h-62	0.16	0.14	0.04	A1a				
1814	h-62	0.48	0.23	0.06	A1a		IVc (1)		
1815	h-62	0.15	0.09	0.03	C1a				
1816	h-62	0.14	0.12	0.05	C1c				
1817	h-62	0.18	0.14	0.10	K1c				
1818	h-62	0.18	0.12	0.06	A1c				
1819	h-62	0.22	0.15	0.10	A1c				
1820	h-62	0.19	0.10	0.05	A1a				
1821	h-62	0.18	0.13	0.08	A1a				
1822	h-62	0.17	0.11	0.07	C1a				
1823	h-61	0.24	0.14	0.09	K1c				
1824	h-62	0.36	0.26	0.30	K1c				
1825	h-62	0.24	0.18	0.34	K1c		IVc (1)	刺(4)	
1826	h-63	0.20	0.17	0.23	K1c		IVc (1)	刺(1)	
1827	h-62	0.15	0.12	0.04	A1c				
1828	h-62	0.14	0.10	0.16	K1c				
1829	h-63	0.14	0.11	0.03	C1c				
1830	h-63	0.16	0.15	0.05	C1c				
1831	h-63	0.31	0.24	0.10	A1a				
1832	g-63	0.66	0.29	0.30	C1a 炭多		IVc (4)	刺(1)	
1833	g-63	0.21	0.15	0.03	C1a				
1834	g-63	0.18	0.11	0.05	C1c				
1835	g-63	0.12	0.10	0.03	C1c		IVc (1)		
1836	g-63	0.20	0.13	0.06	C1c				
1837	h-63	0.16	0.12	0.08	K1a				
1838	h-63	0.15	0.11	0.05	C1c 炭少				
1839	h-63	0.29	0.21	0.35	K1a		IVc (6)	刺(1)	
1840	h-63	0.13	0.12	0.10	K1a 炭少				
1841	h-63	0.23	0.13	0.10	C1a		IVb-4 (1)・IVc (3)		
1842	h-63	0.19	0.14	0.05	C1c				
1843	h-63	0.16	0.14	0.15	C1a				
1844	h-63	0.13	0.10	0.10	C1c				
1845	h-63	0.20	0.13	0.05	A1a				
1846	h-63	0.13	0.10	0.05	C1a				
1847	h-63	0.20	0.14	0.15	C1c				
1848	h-62-63	0.15	0.09	0.04	C1a				
1849	h-62	0.24	0.19	0.08	C1a				
1850	i-62	0.19	0.15	0.10	A1a				
1851	h-i-61	0.19	0.15	0.05	A1a				
1852	h-i-61	0.30	0.20	0.06	C1c				
1853	h-i-61	0.21	0.15	0.08	C1c				
1854	i-61	0.28	0.24	0.02	C1c				
1855	i-61	0.25	0.22	0.06	A1a				
1856	i-61	0.35	0.22	0.12	C1a				27
1857	i-61	0.15	0.13	0.07	K1a				27
1858	i-61	0.19	0.13	0.09	A1a				
1859	i-61	0.19	0.16	0.25	K1a		IVc (2)		
1860	i-61	0.19	0.15	0.12	C1c				27
1861	i-61	0.18	0.15	0.30	K1a				16
1862	i-61	0.23	0.18	0.05	C1c				16
1863	i-61	0.20	0.15	0.05	K1c				27
1864	i-61	0.10	0.07	0.05	K1c				
1865	i-61	0.16	0.13	0.20	K1a				
1866	i-62	0.20	0.18	0.04	K1a				
1867	i-62	0.25	0.18	0.10	K1c				
1868	i-62	0.20	0.18	0.31	C1c 炭少				
1869	h-62	0.12	0.12	0.05	C1a				
1870	i-62	0.35	0.21	0.08	C1a				
1871	h-62	0.15	0.11	0.07	K1c				
1872	h-63	0.19	0.13	0.05	K1c 炭少				
1873	h-63	0.16	0.12	0.05	K1a				
1874	h-63	0.21	0.14	0.04	K1a				
1875	h-63	0.13	0.10	0.04	K1c 炭少				
1876	h-63	0.15	0.11	0.03	C1c	>3589			
1877	h-63	0.14	0.11	0.04	C1a				
1878	h-63	0.21	0.18	0.21	K1a		IVc (1)		
1879	h-63	0.22	0.16	0.10	K1a				
1880	h-63	0.55	0.52	0.46	1: C1a, 2: K1a 炭少, 3: K1c 炭少 4: K1a	>3581・3582	IVb-4 (1)・IVc (12)	刺(1)・礫(1)	99

S P 規模一覽 (26)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
1881	h-63	0.20	0.12	0.05	K1c				
1882	h-63	0.18	0.14	0.04	C1a				
1883	h-63	0.20	0.12	0.04	C1a				
1884	l-63	0.26	0.22	0.10	C1c		IVc (1)		
1885	h-63	0.20	0.15	0.06	K1c				
1886	h-63	0.11	0.10	0.04	K1a				
1887	h-63	0.15	0.12	0.09	K1a				
1888	i-63	0.78	0.54	0.46	1: K1c 炭多, 2: K1c 炭多 3: K1a 炭多, 4: K1a 炭多		IVc (3)	剥(1)-磯(1)	99
1889	h-64	0.19	0.14	0.18	K1c				
1890	i-64	0.22	0.15	0.05	A1a				
1891	i-64	0.22	0.15	0.09	A1c 炭多				
1892	i-64	0.20	0.11	0.04	K1a				
1893	i-63	0.22	0.15	0.08	A1a		IVc (1)		
1894	i-63	0.19	0.14	0.04	A1a				
1895	i-63	0.15	0.11	0.05	A1a				
1896	i-63	0.30	0.18	0.10	A1c		IVc (1)		
1897	i-64	0.18	0.13	0.07	A1c	>1898			
1898	i-64	0.20	0.20	0.09	C1a	<1897			
1899	i-64	0.20	0.14	0.10	C1c 炭多				
1900	i-63	0.18	0.14	0.35	C1c				
1901	j-62	0.46	0.39	0.53	1: K1c, 2: K1a, 3: K1a	>P280	IVc (1)		
1902	i-61	0.17	0.12	0.14	C1a				
1903	i-61	0.17	0.14	0.15	K1a				
1904	j-61	0.53	0.41	0.20	1: K1c, 2: J1				
1905	j-61	0.15	0.14	0.21	K1c				
1906	j-61	0.25	0.20	0.28	C1c		IVc (3)		27
1907	i-61	0.25	0.16	0.11	不明				
1908	g-61	0.29	0.22	0.05	不明			剥(1)	
1909	g-61	0.36	0.29	0.31	不明		IVc (15)		
1910	l-63	0.32	0.20	0.10	不明	>P116			
1911	j-63	0.24	0.20	0.08	不明	>P113	IVc (3)		
1912	f-57	0.15	0.13	0.11	K1a				
1913	l-64	0.25	0.20	0.06	C1c 炭少	>3919			
1914	l-64	0.17	0.14	0.08	C1a				
1915	l-64	0.13	0.10	0.08	K1a				
1916	l-63	0.18	0.15	0.08	K1a	>3922	IVc (1)		
1917	l-63	0.17	0.16	0.05	C1c 炭少		IVc (1)		
1918	l-63	0.25	0.23	0.34	K1a		IVc (1)		
1919	l-63	0.33	0.29	0.08	K1c	>3920			17
1920	l-63	0.18	0.15	0.12	K1c				
1921	l-63	0.20	0.15	0.10	K1a				
1922	l-63	0.15	0.11	0.08	K1 炭少				
1923	l-63	0.23	0.15	0.27	C1c				
1924	l-63	0.25	0.21	0.20	K1a			磯(1)	
1925	k-1-63	0.18	0.15	0.04	K1	<F43			
1926	k-1-63	0.50	0.35	0.08	K1	<F43			
1927	k-62	0.19	0.13	0.05	C1a				
1928	k-62	0.18	0.16	0.14	K1a				
1929	k-62	0.17	0.14	0.15	C1a			剥(1)	
1930	k-62	0.15	0.12	0.05	K1a				
1931	k-62	0.15	0.12	0.15	C1a				
1932	k-62	0.24	0.18	0.07	K1a				
1933	k-62	0.11	0.10	0.04	K1a				
1934	k-61	0.13	0.10	0.09	K1a 炭少				
1935	l-67	0.10	0.09	0.04	K1a				
1936	l-67	0.13	0.09	0.04	K1a				
1937	l-67	0.45	0.30	0.29	C1c		IVa (1)-IVb-4 (1)-IVc (1)		
1938	l-67	0.15	0.10	0.04	K1a				
1939	l-67	0.18	0.11	0.05	K1c				
1940	l-67	0.19	0.17	0.08	K1c		IVc (2)		
1941	l-67	0.17	0.13	0.09	K1a				
1942	l-67	0.10	0.08	0.04	K1a				
1943	l-67	0.20	0.17	0.12	K1c		IVc (1)		
1944	l-67	0.12	0.09	0.20	K1c				
1945	l-67	0.07	0.06	0.05	K1c				
1946	l-67	0.15	0.12	0.11	K1c				
1947	l-67	0.16	(0.12)	0.16	K1a				
1948	l-67	(0.16)	0.14	0.19	K1a				
1949	l-67	0.13	0.09	0.05	K1a				15
1950	l-67	0.17	0.16	0.05	不明				
1951	l-67	0.24	0.18	0.13	K1a				
1952	l-67	0.25	(0.22)	0.10	C1a				
1953	l-67	0.11	0.07	0.05	K1a				
1954	l-67	0.17	0.16	0.08	K1a 炭少	>2614			

S P規模一覧 (27)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
1955	l-66	0.18	0.14	0.05	K1c				
1956	l-66	0.11	0.10	0.04	K1c				
1957	l-66	0.16	0.10	0.09	A1				
1958	l-66	0.12	0.09	0.08	K1c				
1959	l-66	0.15	0.11	0.04	K1a				
1960	l-66	0.20	0.14	0.11	K1a				
1961	l-66	0.14	0.13	0.05	K1				
1962	l-66	0.10	0.08	0.05	K1c				
1963	l-66	0.30	0.26	0.11	C1c				
1964	l-66	0.17	0.15	0.05	K1				
1965	l-66	0.17	0.14	0.10	K1a				
1966	l-66	0.20	0.19	0.16	K1a				
1967	l-66	0.18	(0.17)	0.22	K1a 炭少	>1968			
1968	l-66	0.20	0.19	0.07	K1a 炭少	<1967			
1969	l-66	0.18	0.16	0.05	K1a				
1970	l-66	0.16	0.09	0.04	K1c				
1971	l-66	0.15	0.12	0.05	K1		IVc (1)		
1972	l-66	0.20	0.18	0.32	K1c	>2610			
1973	l-66	0.09	0.08	0.06	K1				
1974	l-66	0.14	0.12	0.10	K1a	>4802			
1975	l-66	0.15	0.11	0.05	K1c	>4802			
1976	l-66	0.15	0.13	0.05	C1a				
1977	l-66	0.28	0.22	0.10	K1a				
1978	l-66	0.33	0.30	0.10	K1a		IVc (2)	羽(1)	
1979	l-66	0.15	0.13	0.10	K1a				
1980	l-66	0.20	0.15	0.11	C1	#P167			
1981	k-63	0.57	0.36	0.23	1: C1a, 2: K1a			剥(1)	
1982	j-k-63	0.18	0.12	0.03	K1a				
1983	j-k-63	0.20	0.18	0.05	C1a				
1984	k-63	0.18	0.12	0.04	C1a				
1985	j-k-63	0.23	0.15	0.06	K1a				
1986	k-63	0.30	0.23	0.30	C1c	P272<1986<P45			
1987	k-63	1.10	0.37	0.07	A1a	<P272・P45	IVa (1)		
1988	k-63	0.17	0.14	0.11	K1c	<P45			
1989	k-63	0.39	0.24	0.07	K1a		IVc (1)		
1990	k-63	0.16	0.11	0.04	K1				
1991	k-63	0.18	0.16	0.04	K1a	<P45			
1992	k-63	0.38	0.25	0.16	K1a	<P45			
1993	k-63	0.20	0.19	0.09	K1a	<P45			
1994	k-63	0.13	0.12	0.05	K1a	#1995			
1995	k-63	0.15	0.13	0.05	K1a	#1994			
1996	k-63	0.27	0.17	0.09	A1a			環(2)	
1997	k-63	0.22	0.19	0.04	C1c				
1998	k-63	0.20	0.16	0.22	K1a				
1999	k-63	0.20	0.18	0.25	K1c				
2000	k-63	0.20	0.17	0.08	K1a				
2001	g-68	0.13	0.12	0.03	C3b				40
2002	g-68	0.14	0.11	0.07	B1c				40
2003	g-68	0.16	0.14	0.18	D1b				40
2004	g-68	0.13	0.11	0.04	D1b				40
2005	g-68	0.17	0.16	0.15	D1b				40
2006	g-68	0.30	0.28	0.21	B1c		IVc (1)		40
2007	g-68	0.16	0.14	0.05	D1b				40
2008	h-68	0.21	0.19	0.06	D1b	>2009			40
2009	h-68	0.20	0.14	0.05	D1b	<2008			40
2010	h-71	0.26	0.24	0.20	B1c			皿(1)	
2011	h-71・72	0.28	0.26	0.16	B1c			剥(1)	
2012	m-68	(0.52)	(0.40)	—	不明	<P65			94
2013	i-71・72	0.38	0.36	0.16	B1c	>F79・P138・2051	IVc (2)	剥(1)	
2014	i-71	0.52	0.50	0.20	B1b		IVc (7)	剥(1)	26
2015	n-68	0.56	(0.46)	0.51	B1b	<P66			
2016	j-70・71	0.22	0.17	0.14	C3c		I b (1)・IVc (15)	剥(3)	26
2017	k-72	0.48	0.44	0.35	B1b	>2018・2026	IVc (1)		
2018	k-72	0.34	(0.31)	0.38	C3c	<2017			
2019	k-72	0.30	0.24	0.13	B1c		IVc (3)		58
2020	k-72	0.26	0.23	0.16	D1b				64
2021	j-70	(0.39)	0.33	0.33	D1b	>P126・P107	IVc (8)		
2022	k-72	0.58	0.52	0.26	D1b	>2044・2045・2124・4500	IVc (7)	たたき(1)	
2023	k-72	0.26	0.21	0.20	D1b	>2024・2025・2119・2120	IVc (7)	剥(3)	
2024	k-72	(0.45)	0.33	0.39	C3c	2119<2024<2023・2120			
2025	k-72	0.24	0.19	0.06	C3c	2120<2025<2023			
2026	k-72	(0.48)	(0.34)	0.30	B1c	<2017			
2027	j-72	0.54	(0.46)	0.16	I3c	>P124・4383		剥(2)	
2028	k-71	0.44	0.30	0.48	I3c				
2029	k-72	0.47	0.38	0.17	B1c	<2118	IVc (3)	すり(7)	13

S P 規模一覽 (28)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No.
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2030	j-72	0.80	0.25	0.54	B1c	4472・4493<2030<P137	IVc (14)	刺(6)	81
2031	j-71	0.32	0.28	0.11	C3c				13
2032	j-k-71	0.14	0.13	0.06	J3				14
2033	j-71	0.18	0.16	0.08	E1a				14
2034	j-71	0.20	0.17	0.15	B1c				14
2035	k-71	0.23	0.21	0.04	I3	>2036			62
2036	k-71	0.28	(0.26)	0.03	B1c	<2035			
2037	k-71	0.23	0.22	0.09	B1c				62
2038	k-71・72	0.25	0.23	0.05	B1b	>2039			
2039	k-71	(0.28)	0.28	0.08	D1b	F80<2039<2038			
2040	k-71・72	0.18	0.15	0.10	B1c				63
2041	k-72	0.33	0.30	0.33	B1c				
2042	k-71・72	0.56	0.48	0.30	D1b	>4498・4499	IVc (3)		
2043	k-72	0.14	0.09	0.04	D1b				
2044	k-72	0.20	(0.18)	0.11	B1b	<2022			
2045	k-72	0.22	0.18	0.18	B1c	2124<2045<2022	IVc (1)	磁(1)・刺(1)	
2046	k-72	0.20	0.16	0.03	I3				
2047	k-72	0.17	0.16	0.05	I3				
2048	k-72	0.78	0.48	0.39	C3c				61
2049	k-72	0.39	0.30	0.05	I3c				
2050	k-71・72	0.36	0.35	0.44	C3c		IVc (1)		13
2051	i-71	0.38	(0.28)	0.24	B1c	<P138・F79・2013			
2052	i-72	0.49	0.48	0.16	B1c	>2101	IVc (1)	皿(1)	
2053	i-72	0.77	0.44	0.27	1: B1b, 2: D1b	>2101・2102	IVc (8)	磁(1)・刺(3)・環(1)	63
2054	i-71	0.23	0.23	0.18	B1c				20
2055	i-71	0.44	0.35	0.50	C3c	>2056	IVc (6)	刺(1)	
2056	i-71	0.20	(0.18)	0.18	B1c	<2055			
2057	i-71	0.44	0.38	0.30	B1c	>4590			
2058	i-71	0.20	0.18	0.08	C3c				
2059	i-71	0.18	0.15	0.08	C3c				
2060	j-71	0.36	0.33	0.19	B1b				
2061	j-71	0.22	0.26	0.08	C3c				
2062	j-71	0.38	0.34	0.34	B1c		IVc (1)		
2063	j-70・71	0.17	0.16	0.04	B1b				20
2064	j-70	0.26	0.24	0.09	B1c	<P139			
2065	i-71	0.51	0.23	0.54	B1c	>4567	IVc (19)	刺(6)	26
2066	i-71	0.54	0.43	0.31	1: B1b, 2: D1b	>3001・4463・4464	IVc (3)		
2067	i-71	0.23	0.22	0.06	C3c	>4393			20
2068	i-71	0.32	0.20	0.18	B1c				20
2069	i-71	0.30	0.28	0.40	B1b	>2070	IVc (1)		26
2070	i-71	(0.31)	0.28	0.29	B1c	<2069			
2071	i-70・71	0.34	0.32	0.16	D1b			刺(1)	
2072	i-71	0.42	0.36	0.30	B1c	>4594	IVc (8)		
2073	i-71	0.25	0.19	0.08	C3b				63
2074	i-71	0.16	0.15	0.05	C3b				
2075	i-71	0.22	0.19	0.06	D1b				63
2076	i-71	0.34	0.32	0.12	C3c				
2077	i-71	0.19	0.19	0.07	I3c				63
2078	i-71	0.18	0.16	0.07	I3				
2079	i-71	0.13	0.10	0.06	B1c				14
2080	h・i-71	0.21	0.21	0.15	I3c				62
2081	i-71	0.27	0.16	0.21	D1b	>2082・2083			62
2082	i-70・71	0.46	0.42	0.47	1: B1b, 2: L4d, 3: E1a	<2081	IVc (2)	刺(1)	
2083	i-70・71	0.52	0.38	0.33	C3b	<2081	IVc (2)		
2084	h・i-70	0.62	0.50	0.32	C3b		IVc (6)	刺(2)・環(1)	81
2085	i-70	0.21	0.20	0.12	C3c				62・64
2086	i-70	0.18	0.11	0.06	I3				62・64
2087	i-70	0.21	0.20	0.08	C1			刺(1)	
2088	i-70	0.29	0.25	0.10	C3c				
2089	i-70	0.19	0.18	0.06	C3b				14
2090	i-70	0.30	0.28	0.15	C3c				62・64
2091	i-70	0.22	0.18	0.08	B1c			刺(1)	62
2092	i-70	0.42	0.28	0.06	K3b				
2093	i-70	0.18	0.16	0.03	K3b				
2094	j-72	(0.40)	(0.32)	0.39	B1b	2115<2094<P130・P140			
2095	i-71・72	0.42	(0.30)	0.13	D1b	<P173			
2096	i-72	0.21	0.19	0.20	D1b				
2097	i-72	0.36	0.29	0.50	B1b	<2098			14
2098	i-72	0.32	0.28	0.16	B1c	>2097			14
2099	i-72	0.24	0.21	0.12	D1b				14
2100	i-72	0.42	(0.34)	0.10	C1		IVc (4)		14
2101	i-72	0.62	0.46	0.51	D1b	2102・4466<2101<2052・2053		製品(1)	
2102	i-72	0.62	0.55	0.60	1: C1d, 2: L4d, 3: B1c	<2101・2053	IVc (18)	スクリ(1)・刺3・皿(1)・環(4)	82
2103	i-72	0.42	0.38	0.49	C3b	>2104	IVc (10)	刺(3)	26
2104	i-72	0.36	(0.32)	0.16	C3c	<2103			

S P 規模一覽 (29)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2105	k-71	0.40	0.38	0.24	B1c		IVb-4 (6)・IVc (7)	斧(1)・皿(7)	
2106	k-71	0.70	0.53	0.70	B1b		IVc (24)	剃(1)	67
2107	i-69	0.23	0.20	0.16	B1c				
2108	i-70	0.22	0.19	0.10	B1c				
2109	i-69	0.39	0.30	0.35	B1c		IVc (1)	斧(1)・鏃(1)	
2110	i-69	0.23	0.22	0.16	D1b		IVc (1)	剃(3)	
2111	j-69	0.36	0.30	0.17	D1b				
2112	j-69	0.23	0.23	0.17	C3c				
2113	j-69	0.24	0.20	0.10	D1b				
2114	j-69	0.22	0.18	0.21	C3c				
2115	j-72	—	—	0.25	C3b	4382<2115<P129・P130 <P140・P137・2094	IVc (3)	剃(2)	
2116	k-72	0.20	0.18	0.14	B1c			剃(1)	
2117	k-72	0.34	(0.21)	0.12	B1b	>2118	IVb-4 (1)・IVc (2)		
2118	k-72	0.25	0.20	0.08	D1b	2029<2118<2117	IVc (1)	剃(1)	
2119	k-72	(0.32)	(0.26)	0.28	D1b	<2023・2024			
2120	k-72	(0.18)	(0.16)	0.14	B1c	2024<2120<2023・2025			64
2121	k-72	0.04	0.11	0.04	C3c				
2122	k-72	0.20	0.18	0.21	C3c		IVc (1)		
2123	k-72	0.28	0.24	0.16	D1b				
2124	k-72	(0.48)	(0.40)	0.20	C3c	<2022・2045			
2125	k-72	0.24	0.19	0.05	C3b				61
2126	j-70-71	0.38	0.34	0.45	C3c		IVc (2)		26
2127	k-71	0.23	0.22	0.07	B1c				67
2128	j-71	0.24	0.19	0.05	C3c				67
2129	j-71	0.25	0.23	0.13	I 3c				26
2130	j-72	0.56	0.46	0.52	B1b	>4465・4494	IVc (10)	剃(8)・斧(1)・鏃(3)	61
2131	k-70	0.22	0.17	0.16	C3c				81
2132	j-70	0.48	0.47	0.34	I : B1c, 2 : B1b		IVc (3)		
2133	k-70	0.24	0.17	0.13	D1b				63
2134	k-70	0.16	0.13	0.06	K3b				63
2135	k-70	0.15	0.14	0.07	C3c		IVc (1)		63
2136	j-70	0.22	0.18	0.06	C3b				63
2137	j-k-70	0.26	0.20	0.19	B1c				
2138	j-70	0.20	0.19	0.12	I 3		IVc (2)	剃(2)	
2139	j-70	0.17	0.16	0.05	I 3				
2140	j-70	0.16	0.15	0.04	不明				63
2141	j-70	0.13	0.11	0.03	不明				63
2142	j-70	(0.44)	0.40	0.20	B1c	<P106・P107		剃(1)	
2143	j-70	0.17	0.16	0.05	不明				62
2144	j-70	0.14	0.13	0.05	C3b				
2145	j-68	0.18	0.18	0.18	C3c	>4794			28
2146	i-j-68	0.29	0.24	0.15	B1c		IVb-4 (1)・IVc (5)		28
2147	i-j-68	0.52	0.48	0.27	D1b		IVb-4 (1)・IVc (1)	皿(4)	
2148	i-68	0.50	0.44	0.35	B1b		IVc (2)		
2149	j-68	0.36	0.34	0.18	C3c				
2150	j-67	0.42	0.34	0.34	C3c		IVc (6)	剃(1)	15
2151	j-68	0.33	0.31	0.26	B1b		IVc (5)	剃(2)	15
2152	j-68	0.32	0.28	0.29	B1c				28
2153	j-68	0.26	0.20	0.18	B1c				28
2154	j-67	0.32	0.32	0.24	D1b		IVc (8)		28
2155	j-67	0.18	0.16	0.05	I 3				
2156	j-67	0.18	0.16	0.05	I 3				
2157	j-67	0.30	0.26	0.19	C3c				101
2158	j-67	0.35	0.31	0.16	B1c		IVc (2)	剃(1)	28
2159	j-k-67	0.35	0.35	0.30	B1c		IVb-4 (1)・IVc (13)		28
2160	j-67	0.40	0.34	0.38	B1c			剃(3)	101
2161	j-67	0.18	0.15	0.04	C3c				101
2162	j-k-68	0.22	0.21	0.15	C3c				15
2163	j-k-68	0.36	0.30	0.24	C3b		IVc (2)		97
2164	k-l-67	0.36	0.34	0.28	B1c		IVb-4 (5)・IVc (12)	皿(3)・鏃(1)	
2165	l-67	0.24	0.23	0.06	C3c				
2166	k-67-68	0.26	0.22	0.16	C3c				
2167	k-67-68	0.27	0.26	0.20	C3c		IVc (1)		
2168	k-67-68	0.40	0.31	0.13	B1c				15
2169	k-67-68	0.44	0.40	0.43	I : B1c, 2 : I 3		IVc (2)		
2170	k-67	0.32	0.27	0.24	C3b				97
2171	k-67	0.22	0.20	0.10	C3b				
2172	k-67	0.21	0.17	0.05	I 3c				15
2173	k-68	0.32	0.27	0.35	C3b				97
2174	k-68	0.32	0.26	0.20	C3b				
2175	k-68	0.32	0.29	0.36	I 3c	>P177	IVc (5)	剃(1)	
2176	k-68	0.17	0.15	0.06	B1c				70
2177	k-68	0.33	0.32	0.13	C3c				
2178	k-68	0.36	0.32	0.13	I 3c			剃(1)	

SP規模一覧 (30)

選稱名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2179	k-68	0.30	0.28	0.26	C3b				97
2180	k-68	0.28	0.24	0.11	C3b				70
2181	l-68	0.20	0.18	0.06	C1				72
2182	l-68	0.24	0.23	0.07	C3b				72
2183	l-68	0.14	0.13	0.14	B1c				
2184	l-68	0.34	(0.29)	0.15	C1	<P179			
2185	l-68	0.18	0.14	0.06	C3c				70・72
2186	l-68	0.12	0.11	0.05	I3				72
2187	l-68	0.30	0.26	0.37	B1b		IVc (1)		72
2188	l-68	0.16	0.14	0.08	C3c				72
2189	l-69	0.28	0.23	0.07	C3c				70
2190	l-69	0.16	0.14	0.04	不明				70
2191	l-69・70	0.22	0.18	0.20	D1b				
2192	l-70	0.31	0.29	0.16	不明		IVc (4)	磯(1)	
2193	k-69	0.28	0.24	0.03	B1c				
2194	k-69・70	0.32	0.27	0.17	B1c		IVc (2)		
2195	k-70	0.38	0.31	0.06	D1b				
2196	k-70	0.23	0.20	0.06	B1c				
2197	k-70	0.28	0.26	0.08	B1c				
2198	k-70	0.30	0.27	0.08	C3b				61
2199	k-70	0.11	0.10	0.03	C3c				61
2200	k-70	0.16	0.13	0.05	不明				
2201	n-64	0.26	0.23	0.32	G1c	<F67			
2202	m-64	0.15	0.12	0.10	H1c				
2203	l-64	0.17	0.16	0.19	H1 炭泥				
2204	l-64	0.31	0.29	0.46	1: B1b 炭泥, 2: I1c		IVc (2)		
2205	l-64	0.25	0.20	0.19	C1b		IVc (3)		
2206	l-64	0.25	0.22	0.08	C1b				
2207	l-64	0.30	0.25	0.13	G1b				
2208	l-64	0.18	0.17	0.24	C1b		IVc (2)	剥(1)	
2209	l-64	0.19	0.14	0.11	H1c				
2210	l-64	0.23	0.18	0.21	B1c		IVc (4)	剥(2)	
2211	m-64	0.24	0.16	0.31	C1b 炭泥	<F69			
2212	l-64	0.54	0.49	0.61	1: I1, 2: G1b 炭泥, 3: A1		IVc (13)	磯(1)・剥(1)	
2213	l-64	0.15	0.11	0.09	G1				
2214	l-64	0.14	0.12	0.10	I1				
2215	l-64	0.21	0.16	0.11	C1c		IVc (2)		
2216	l-64	0.18	0.13	0.15	C1c				
2217	l-64	0.15	0.13	0.09	C1c		IVc (2)		
2218	l-64	0.15	0.13	0.19	C1b				
2219	l-64	0.13	0.09	0.08	C1b				
2220	l-64	0.15	0.12	0.08	1: I1, 2: B1c				
2221	n-59	0.26	(0.12)	0.28	F1a	>2222			
2222	n-59	0.64	0.54	0.62	C1b	<2221	IVc (32)	剥(4)・磯(1)	43
2223	n-59	0.42	0.38	0.34	1: B1b, 2: N1b		IVc (1)	剥(2)	
2224	n・o-60	0.18	0.17	0.12	A1c				
2225	n-60	0.13	0.12	0.08	A1c				
2226	m-60	0.20	0.18	0.34	不明	≠P185			
2227	m-60	(0.24)	(0.14)	0.34	不明	<P186			
2228	o-56	0.14	(0.12)	0.10	C1				
2229	o-57	0.18	0.17	0.14	C1c				
2230	o-56	0.21	0.16	0.10	L1b				78
2231	o-56	0.14	(0.10)	0.04	L1				
2232	o-56	0.11	(0.08)	0.06	L1				
2233	n-56	0.10	(0.06)	0.05	L1				
2234	p-58	0.38	0.24	0.18	C1b				
2235	p-58	0.17	(0.16)	0.22	C1a		IVc (1)	剥(2)	
2236	o-58	0.20	0.19	0.10	G1				
2237	p-60	0.12	0.11	0.15	H1c				
2238	p-60	0.20	0.15	0.15	B1				
2239	p-60	0.17	0.15	0.21	G1d				
2240	p-60	0.18	0.14	0.13	L1				
2241	p-60	0.20	(0.18)	0.13	B1	≠2241 ≠2240	IVc (1)	剥(1)	
2242	p-60	0.20	0.17	0.12	G1 炭泥				
2243	o-60	0.15	0.13	0.09	G1			たたき(1)	
2244	o-60	0.18	0.13	0.14	G1a				5
2245	o-60	0.20	0.15	0.22	G1a				
2246	o-60	0.15	0.12	0.12	G1c				
2247	o-60	0.16	0.15	0.08	C1d				5
2248	o-60	0.16	0.15	0.10	C1d				5
2249	n・o-60	0.24	(0.14)	0.10	G1b 炭泥	≠P83			5
2250	n-60	0.30	0.29	0.42	C1a 炭泥		IVc (1)		83
2251	n-60	0.18	(0.12)	0.13	C1c	≠P83			5
2252	n-60	0.28	0.19	0.11	H1b				
2253	n-60	0.14	0.10	0.08	G1b				5

SP規模一覧 (31)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2254	n-60	0.25	0.23	0.10	L1b				
2255	n-60	0.20	0.17	0.10	G1b				
2256	n-60	0.19	0.18	0.09	G1b				
2257	n-60	0.14	0.12	0.14	G1a				
2258	n-60	0.17	0.12	0.11	G1				5
2259	n-60	0.14	0.11	0.06	L1b				5
2260	n-60	0.14	0.13	0.10	G1c				5
2261	n-60	0.15	0.11	0.08	L1c				5
2262	n-60	0.15	0.11	0.10	G1c				5
2263	m-60	0.30	0.28	0.13	L1b	≠P51			
2264	m-60	0.21	0.17	0.10	G1b				
2265	m-60	0.21	(0.15)	0.10	G1a	<898			
2266	l-m-60	0.25	0.24	0.29	l : C1b, 2 : N1d				
2267	p-q-61	0.14	0.11	0.10	H1				
2268	p-q-61	0.16	0.13	0.08	H1				
2269	p-61	0.20	0.19	0.10	G1d				
2270	p-61	0.17	0.14	0.07	H1b				
2271	p-61	0.16	0.14	0.05	H1c				
2272	p-61	0.23	0.21	0.08	H1c				
2273	p-61	0.25	0.24	0.31	C1c				
2274	p-61	0.47	0.34	0.46	l : J1c, 2 : C1a, 3 : H1c		IVc (1)		
2275	p-61	0.17	0.15	0.03	G1				
2276	p-61	0.24	0.16	0.05	C1b			剥(1)	
2277	p-61	0.12	0.10	0.21	H1b				
2278	p-61	0.17	0.12	0.06	G1b			環(1)	
2279	p-61	0.20	0.17	0.10	H1b			環(1)	
2280	p-61	0.20	0.19	0.11	G1b				
2281	p-61	0.16	0.14	0.23	C1c			Rフレ(1)-剥(1)	
2282	p-61	0.12	0.11	0.08	不明				
2283	p-61	0.18	0.13	0.07	L1c				
2284	p-61	0.25	0.26	0.30	C1c				
2285	o-61	0.10	0.09	0.03	H1				5
2286	o-61	0.17	0.16	0.20	H1d				
2287	o-61	0.14	0.13	0.11	C1				
2288	o-61	0.22	0.18	0.10	G1				
2289	o-61	0.10	(0.08)	0.10	G1				5
2290	o-61	0.20	0.17	0.12	G1c				5
2291	p-61	(0.31)	(0.24)	0.15	F1a	>>P159			
2292	o-p-61	(0.50)	(0.37)	0.45	B1c	>>P159・2293・2294		環(1)	
2293	o-61	(0.34)	(0.26)	0.34	G1d	2292<2293<2294			
2294	o-61	(0.32)	0.29	0.48	不明	<2292・2293			
2295	o-61	0.15	0.12	0.05	H1				
2296	p-61	0.24	0.20	0.08	G1b				
2297	p-61	0.24	0.17	0.23	J1a	<F35			
2298	o-61	0.20	0.16	0.09	H1				
2299	o-61	0.15	0.13	0.20	C1				5
2300	o-61	0.12	0.11	0.08	L1b				5
2301	o-61	0.17	0.14	0.15	H1b				
2302	o-61	0.21	0.17	0.10	H1b		IVc (28)	剥(1)	
2303	o-61	0.13	0.12	0.05	G1d				5
2304	o-61	0.15	0.14	0.18	H1b				
2305	o-61	0.16	0.14	0.13	G1				
2306	o-61	0.16	0.14	0.14	H1d				
2307	o-61	0.25	0.20	0.19	H1a 炭凝				
2308	o-61	0.28	0.17	0.40	H1c 骨凝				5
2309	o-61	0.29	0.25	0.35	l : H1c, 2 : H1a				5
2310	n-61	0.18	0.14	0.11	C1c				
2311	n-61	0.23	0.19	0.19	C1a				
2312	n-61	0.23	0.21	0.32	l : L1a, 2 : G1a				
2313	n-61	0.19	0.17	0.24	H1b		IVc (1)		
2314	n-61	0.17	0.12	0.10	G1b				
2315	n-61	0.17	0.14	0.15	G1				
2316	n-61	0.14	0.10	0.20	L1a				
2317	n-61	0.22	0.17	0.25	C1d				
2318	n-61	0.18	(0.12)	0.11	C1b	<968			
2319	n-61	0.12	0.08	0.06	H1b				
2320	n-61	0.13	0.08	0.07	H1				
2322	n-61	0.28	0.24	0.30	C1a		IVc (1)		
2323	n-61	0.15	0.14	0.05	F1d				
2324	n-61	0.14	0.12	0.10	C1b			剥(1)	5
2325	n-61	0.20	0.19	0.22	C1c				
2326	n-61	0.12	0.10	0.04	G1d				5
2327	n-61	0.15	0.10	0.10	H1a				
2328	n-61	0.17	0.15	0.11	H1c				
2329	n-60-61	0.17	0.13	0.70	C1c				5

S P 規模一覽 (32)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2330	n-61	0.15	0.12	0.05	F1d				5
2331	m-n-61	0.42	0.36	0.40	H1b				
2332	m-61	0.18	0.16	0.05	C1c				
2333	m-61	0.49	0.41	0.10	C1a				
2334	m-61	0.21	(0.16)	0.09	C1d	<P189			
2335	m-61	0.16	0.14	0.15	C1d				
2336	m-60-61	0.42	0.27	0.10	1: F1a, 2: C1d				
2337	m-61	0.16	(0.10)	0.16	C1c	<P189			
2338	m-61	0.25	0.13	0.12	B1a				
2339	m-61	0.17	0.14	0.05	B1d				
2340	m-61	0.20	(0.16)	0.13	H1a				
2341	m-61	0.11	(0.10)	0.10	C1c				
2342	m-61	0.20	(0.18)	0.16	G1c				
2343	m-60-61	0.18	0.13	0.05	G1				
2344	m-61	0.13	(0.10)	0.14	G1b				
2345	m-61	0.24	(0.20)	0.09	G1b				
2346	m-61	0.25	0.20	0.07	G1b				
2347	m-61	0.13	0.11	0.03	B1				
2348	m-61	0.18	0.15	0.07	B1b	<P85			
2349	m-61	0.19	0.15	0.20	H1a				
2350	m-61	0.22	0.18	0.09	B1				
2351	m-61	0.30	0.21	0.10	B1a				
2352	m-61	0.15	0.13	0.07	B1a				
2353	m-61	0.21	(0.14)	0.09	B1d				
2354	m-61	0.13	0.10	0.10	B1d	≠P31			
2355	m-61	0.19	0.12	0.15	B1d	≠P31			
2357	l-60	0.20	0.18	0.33	L1a				
2358	l-61	0.25	0.21	0.33	L1b				
2359	l-61	0.40	0.27	0.11	B1a	<P85			
2360	l-61	0.15	0.13	0.15	B1d	<P85		割(1)	
2361	l-61	0.13	0.10	0.16	B1a	<P85			
2362	l-61	0.08	0.06	0.19	B1a	<P85			
2363	l-61	0.21	0.18	0.06	B1a	<P85			
2364	l-61	0.18	0.12	0.12	B1a	<P85			
2365	l-61	0.22	0.15	0.12	C1c	<P85			
2366	l-61	0.20	0.19	0.07	B1d				
2367	l-62	0.08	0.06	0.08	B1d	≠P30			
2368	l-61	0.10	0.08	0.07	B1d	≠P30			
2369	l-61-62	0.11	(0.10)	0.16	C1a				
2370	l-61	0.18	0.16	0.40	H1a				
2371	l-61	0.19	0.16	0.10	B1d				
2372	k-61	0.13	(0.10)	0.17	G1a				
2373	k-l-61	0.30	0.26	0.22	B1d				
2374	l-61	(0.18)	0.16	0.09	B1c	>2375			
2375	l-61	(0.26)	0.29	0.18	B1a	<2374			
2376	k-61	0.17	(0.10)	0.26	C1a				
2377	l-61	0.20	0.18	0.19	C1a				
2378	l-61	0.27	0.26	0.49	C1a				
2379	l-61	0.20	0.16	0.08	B1d				
2380	l-61	0.22	0.21	0.12	B1a				
2381	l-61	0.21	0.16	0.05	B1a				
2382	l-61	0.23	0.18	0.09	B1a				
2383	l-61	0.20	0.17	0.20	B1a				
2384	l-61	0.20	0.16	0.12	G1b				
2385	l-61	0.10	0.08	0.05	G1a				
2386	l-61	0.10	0.08	0.06	L1				
2387	l-61	0.18	0.16	0.21	L1d	≠P93			
2388	l-61	0.23	0.16	0.20	C1d			割(1)	
2389	l-61	0.14	0.08	0.05	F1a				
2390	p-61	0.16	0.12	0.13	H1				
2391	p-62	0.23	0.20	0.08	C1				
2392	p-62	0.39	0.29	0.10	C1c		IVc (2)		
2393	p-62	0.25	0.20	0.11	C1c				
2394	p-62	0.22	0.18	0.26	H1a				
2395	p-62	0.28	0.21	0.20	H1b				
2396	o-62	0.20	0.19	0.18	C1c				
2397	o-62	0.40	0.36	0.45	C1c		IVc (1)		
2398	o-62	0.10	0.10	0.57	C1c	H25-3930<2398<P277			
2399	o-p-62-63	(0.22)	0.20	0.21	G1c				
2400	o-p-62	(0.20)	0.16	0.20	H1c				
2401	u-64	0.12	0.10	0.06	G1				
2402	u-64	0.25	0.21	0.26	B1		IVc (1)		
2403	u-64	0.36	0.31	0.12	B1				
2404	u-64	0.27	0.19	0.17	B1				
2405	u-64	0.15	0.12	0.10	G1				

SP規模一覧 (33)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長径(m)	短径(m)	深さ(m)			土器	石器	
2406	u-63	0.37	0.31	0.49	B1				
2407	u-63	0.23	0.17	0.10	G1				
2408	u-63	0.16	0.13	0.10	G1				
2409	u-63	0.17	0.13	0.07	G1				
2410	u-63	0.15	0.12	0.05	G1				
2411	u-63	0.18	0.15	0.20	H1				
2412	u-63	0.13	0.11	0.08	G1				
2413	u-63	0.16	0.13	0.07	G1				
2414	u-63	0.23	0.19	0.23	B1				
2415	u-63	0.30	0.18	0.14	B1				
2416	u-63	0.24	0.20	0.40	B1				
2417	u-63	0.10	0.09	0.13	B1				
2418	u-64	0.40	0.29	0.11	H1				
2419	u-63	0.15	0.12	0.09	G1				
2420	u-63	0.28	0.21	0.09	B1				
2421	u-63	0.21	0.17	0.15	B1				
2422	u-63	0.14	0.12	0.25	B1		IVc (2)		
2423	u-63	0.18	0.14	0.09	G1				
2424	u-63	0.35	0.22	0.12	G1				
2425	u-63	0.17	0.15	0.13	G1				
2426	u-63	0.19	0.13	0.07	G1				
2427	u-63	0.15	0.14	0.10	G1				
2428	u-64	0.22	0.19	0.10	B1				
2429	v-63	0.20	0.16	0.23	B1				
2430	v-64	0.21	0.20	0.16	B1				
2431	v-64	0.26	0.23	0.18	B1				
2432	v-64	0.12	0.10	0.05	B1				
2433	v-64	0.22	0.18	0.11	A1				
2434	v-64	0.23	0.18	0.10	A1				
2435	v-64	0.18	0.15	0.13	B1				
2436	v-64	0.24	0.20	0.12	B1	<2437			
2437	v-64	0.19	0.16	0.09	B1	>2436			
2438	v-64	0.22	0.16	0.14	B1				
2439	v-64	0.15	0.12	0.06	A1				
2440	v-64	0.26	0.23	0.13	B1				
2441	v-64	0.15	0.12	0.08	G1				
2442	v-64	0.18	0.16	0.08	G1				
2443	v-64	0.20	0.18	0.23	A1				
2444	v-64	0.15	0.12	0.13	B1				
2445	v-64	0.13	0.11	0.11	B1				
2446	v-64	0.29	0.20	0.24	B1				
2447	v-64	0.19	0.15	0.10	G1				
2448	v-64	0.29	0.21	0.13	B1				
2449	v-64	0.54	0.43	0.36	B1				
2450	v-63	0.23	0.19	0.48	B1				
2451	v-63	0.28	0.21	0.11	A1				
2452	v-63	0.12	0.10	0.06	G1				
2453	v-63	0.12	0.10	0.09	G1				
2454	v-63	0.16	0.15	0.22	G1				
2455	v-63	0.18	0.15	0.05	B1				
2456	v-63	0.20	0.16	0.06	B1				
2457	v-63	0.18	0.14	0.11	B1				
2458	v-63	0.13	(0.13)	0.09	G1	>2459			
2459	v-63	0.30	0.29	0.50	B1	<2458			
2460	v-63	0.20	0.15	0.12	B1				
2461	v-62	0.27	0.22	0.26	B1				
2462	v-63	0.35	0.27	0.32	B1				
2463	v-62	0.16	0.13	0.14	G1				
2464	v-63	0.22	0.16	0.11	B1				
2465	v-63	0.17	0.14	0.27	B1				
2466	v-63	0.16	0.15	0.09	A1				
2467	v-63	0.14	0.12	0.05	B1				
2468	v-62	0.14	0.11	0.10	B1				
2469	u-61	0.25	0.20	0.12	A1				
2470	u-62	0.16	0.10	0.26	B1				
2471	u-62	0.15	0.13	0.11	A1				33
2472	u-62-63	0.12	0.08	0.07	G1				33
2473	u-62	0.18	0.13	0.09	G1				
2474	u-62	0.15	0.13	0.15	B1				
2475	u-62	0.13	0.10	0.10	B1				33
2476	u-62	0.13	0.13	0.08	G1				33
2477	u-62	0.16	0.12	0.12	G1				
2478	u-62	0.18	0.14	0.30	A1				
2479	u-62	0.22	0.18	0.10	B1				
2480	u-62	0.18	0.15	0.12	B1				

SP規模一覧 (34)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長径(m)	短径(m)	深さ(m)			土器	石器	
2481	u-v-62	0.25	0.19	0.50	B1		IVc (5)	磁(3)	
2482	u-61	0.15	0.14	0.10	A1				
2483	u-61	0.17	0.13	0.27	B1				
2484	u-61	0.15	0.12	0.22	B1				
2485	u-61	0.18	0.15	0.28	B1				
2486	u-61	0.24	0.19	0.18	B1				
2487	t-64	0.16	0.15	0.19	B1		IVc (4)		
2488	r-64	0.26	0.23	0.07	A1				
2489	q-64	0.40	0.39	0.82	1: A1, 2: B1		IVc (1)	剥(1)・斧(1)・皿(2)	
2490	q-64	0.34	0.34	0.30	A1		IVc (4)		
2491	s-64	0.28	0.23	0.10	G1				
2492	s-65	0.20	0.17	0.08	G1				
2493	r-64	0.15	0.12	0.09	B1				
2494	r-64	0.26	0.19	0.08	B1				
2495	r-64	0.21	0.18	0.09	G1				
2496	r-64	0.24	0.21	0.35	B1			磁(1)	
2497	r-64	0.13	0.12	0.10	B1				
2498	r-64	0.28	0.18	0.13	B1		IVc (1)		
2499	r-64	0.20	0.16	0.16	B1		IVc (1)		
2500	r-64	0.18	0.14	0.18	B1				
2501	r-65	0.30	0.21	0.25	B1		IVc (1)	剥(1)	
2502	q-65	0.23	0.20	0.13	G1		IVc (2)		
2503	q-64	0.31	0.20	0.12	G1				
2504	q-64	0.26	0.22	0.04	B1		IVc (5)	剥(1)	
2505	s-60	0.20	0.18	0.15	B1				
2506	s-60	0.22	0.20	0.22	B1	>4813	IVc (1)	磁(1)	34
2507	s-60	0.20	0.19	0.16	B1				
2508	s-60	0.22	0.18	0.19	B1				34
2509	s-60	0.12	0.11	0.04	G1				
2510	s-60	0.20	0.18	0.15	B1				
2511	s-60	0.17	0.15	0.10	B1				34
2512	s-60	0.10	0.09	0.10	B1				
2513	s-60	0.22	0.18	0.22	B1				
2514	s-60	0.37	0.23	0.18	A1				
2515	s-60	0.15	0.13	0.10	B1				
2516	s-60	0.14	0.11	0.08	B1				
2517	r-60	0.18	0.15	0.13	B1				
2518	r-60	0.19	0.14	0.19	B1				
2519	r-60	0.20	0.17	0.18	B1				
2520	r-60	0.19	0.14	0.14	B1				
2521	r-60	0.22	2.00	0.19	B1				剥(1)
2522	r-60-61	0.43	0.31	0.55	B1		IVc (1)	剥(1)	
2523	r-60	0.13	0.10	0.10	G1				
2524	r-60	0.11	0.10	0.08	G1				
2525	r-60	0.12	0.10	0.06	G1				
2526	q-r-60	0.16	0.15	0.10	G1				
2527	r-60	0.16	0.14	0.06	G1				
2528	r-60	0.21	0.17	0.15	G1				
2529	r-60	0.13	0.10	0.05	G1				
2530	r-60	0.15	0.13	0.14	G1				
2531	r-60	0.17	0.14	0.10	B1				
2532	r-60	0.19	0.16	0.12	B1				56
2533	r-61	0.12	0.10	0.12	B1				
2534	r-61	0.24	0.20	0.30	B1				
2535	r-61	0.23	0.18	0.30	B1				
2536	r-61	0.12	0.10	0.08	G1				
2537	q-60	0.11	0.10	0.14	G1				
2538	q-60	0.10	0.07	0.15	G1				
2539	q-60	0.29	0.25	0.16	B1				
2540	q-60	0.10	0.08	0.15	B1				
2541	q-60	0.15	0.13	0.07	G1		IVc (1)	剥(2)	
2542	q-60	0.46	0.24	0.07	G1				
2543	q-60	0.16	0.15	0.11	B1				
2544	q-60	0.16	0.15	0.18	B1				
2544	q-60	0.17	0.16	0.20	B1				
2545	q-60	0.10	0.09	0.05	G1				
2546	q-60	0.25	0.23	0.15	B1				
2547	q-60	0.23	0.21	0.46	B1				
2548	q-60	0.22	0.19	0.10	G1				
2549	p-60	0.20	0.16	0.18	B1				
2550	q-60	0.12	0.10	0.13	B1				
2551	q-60	0.19	0.18	0.20	A1			たたき(1)	
2552	q-60	0.22	0.16	0.27	B1				
2553	q-60	0.19	0.14	0.22	D1				
2554	q-60	0.36	0.24	0.19	B1				

S P 規模一覽 (35)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2555	q-60	0.39	0.21	0.09	G1				
2556	q-61	0.23	0.18	0.28	G1				
2557	q-61	0.18	0.16	0.25	G1				
2558	q-61	0.31	0.23	0.15	G1			刺(1)	
2559	q-61	0.21	0.19	0.15	G1				
2560	q-61	0.32	0.23	0.09	G1				
2561	q-61	0.15	0.13	0.10	B1				
2562	q-61	0.21	0.18	0.35	G1				
2563	q-61	0.21	0.16	0.15	B1		IVc (18)		
2564	q-61	0.21	0.15	0.08	G1				
2565	q-61	0.25	0.17	0.12	G1				
2566	q-61	0.15	0.14	0.10	G1				
2567	q-61	0.20	0.15	0.45	1: B1, 2: G1		IVc (1)		
2568	q-61	0.18	0.17	0.23	G1		IVc (1)	刺(1)	
2569	q-62	0.19	0.16	0.10	G1				
2570	q-62	0.43	0.26	0.13	B1			刺(1)	
2571	q-62	0.33	0.20	0.11	B1				
2572	q-62	0.16	0.13	0.07	H1				
2573	q-62	0.18	0.15	0.12	B1				
2574	q-62	0.14	0.11	0.08	B1				
2575	q-62	0.20	0.17	0.06	B1				
2576	q-62	0.20	0.14	0.10	B1				
2577	q-62	0.19	0.16	0.20	H1	<1631	IVc (1)		
2578	q-62	0.18	0.14	0.05	H1				
2579	q-62	0.13	0.09	0.07	B1				
2580	r-61	0.22	0.14	0.07	B1				
2581	r-62	0.22	0.15	0.21	G1				
2582	r-62	0.15	0.13	0.13	G1				
2583	r-62	0.14	0.13	0.08	G1				
2584	r-62	0.11	0.09	0.04	G1				
2585	r-62	0.11	0.08	0.04	G1				
2586	r-62	0.13	0.11	0.09	H1				
2587	r-62	0.15	0.13	0.23	G1				
2588	r-62	0.16	0.14	0.09	G1				
2589	r-62	0.15	0.12	0.09	B1				
2590	r-62	0.18	0.14	0.17	B1				
2591	s-59	0.22	0.17	0.05	G1				
2592	s-59	0.26	0.15	0.05	G1				
2593	s-59	0.22	0.18	0.22	B1				34
2594	s-60	0.15	0.12	0.10	B1				
2595	s-59	0.13	0.13	0.05	B1				
2596	s-59	0.20	0.15	0.15	B1		IVc (1)		34
2597	s-59	0.16	0.15	0.34	A1				
2598	s-59	0.20	0.17	0.15	H1				
2599	s-59	0.20	0.18	0.11	B1				
2600	s-59	0.18	0.13	0.06	B1				
2601	l-66	0.47	0.42	0.22	B1c		IVc (2)	刺(1)	
2602	l-66	0.24	0.20	0.10	B1a				
2603	l-66	0.40	0.29	0.08	B1a				
2604	l-66	0.20	0.18	0.17	C1c				
2605	l-66	0.18	0.15	0.10	A1a				
2606	l-66	(0.28)	0.25	0.28	A1a	<2607			
2607	l-66	0.22	0.18	0.16	B1c	>2606			
2608	l-66	0.23	0.23	0.08	B1c			刺(1)	
2609	l-66	0.33	0.30	0.13	A1a				
2610	l-66	0.22	0.21	0.08	B1a	<1972	IVc (1)		
2611	l-66	0.23	0.21	0.08	B1c				
2612	l-66	0.23	0.19	0.14	B1a				
2613	l-67	0.17	0.16	0.13	B1a				
2614	l-67	0.17	0.16	0.13	B1c	<1954			
2615	m-67	0.30	(0.24)	0.06	A1a	<2619			
2616	m-67	0.17	0.16	0.20	不明				
2617	m-67	0.35	0.32	0.16	不明				
2618	m-67	0.20	0.20	0.09	不明				
2619	m-67	0.34	0.28	0.10	A1c	>2615	IVc (1)		
2620	m-66	0.17	0.17	0.14	B1a				
2621	m-66	0.22	0.20	0.08	B1a				
2622	m-66	0.18	0.17	0.10	B1a				
2623	m-66	0.18	0.18	0.09	B1a				
2624	m-66	0.20	0.16	0.11	B1a				
2625	m-66	0.43	0.30	0.48	B1a		IVc (9)	刺(3)	
2626	m-66	0.20	0.16	0.07	A1a				
2627	m-66	0.44	0.36	0.14	B1a				
2628	m-66	0.18	0.17	0.11	B1a				
2629	m-65	0.20	0.16	0.06	B1a				

S P 規模一覽 (36)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2630	□-66	0.15	0.13	0.10	B1a				
2631	□-67	0.54	0.51	0.44	不明		IVc (6)	剥(1)	
2632	□-66	0.16	0.16	0.06	B1a				
2633	□-66	0.32	0.20	0.17	B1a				
2634	□-66	0.21	0.18	0.07	B1a				
2635	□-65	0.26	0.16	0.13	B1a				
2636	□-65	0.28	0.22	—	不明	<P164			
2637	□-65	0.39	0.32	0.10	B1a			剥(1)	
2638	□-65	0.21	0.17	0.07	B1a	<P166			
2639	□-65	0.18	0.14	0.15	B1a	<P166			
2640	□-65	0.18	0.15	0.13	B1a				
2641	□-65	0.18	0.14	0.12	B1a				
2642	□-65	0.21	0.17	0.12	不明				
2643	□-65	0.18	0.17	0.07	不明				
2644	□-65	0.20	0.14	0.16	B1a				
2645	I-65	0.20	0.20	0.19	A1a				
2646	□-65	0.22	0.18	0.18	B1a		IVc (1)		
2647	□-65	0.28	0.22	0.12	B1a				
2648	I-65	0.20	0.15	0.13	B1a				
2649	I-65	0.20	(0.16)	0.06	B1a	<2650			
2650	I-65	0.18	0.17	0.12	B1a	>2649			
2651	I-65	0.16	0.16	0.14	B1a				
2652	I-65	0.14	0.12	0.14	B1a				
2653	I-65	0.26	0.25	0.24	A1a				
2654	I-65	0.16	0.16	0.12	B1a				
2655	I-65	0.34	0.30	0.12	B1a				
2656	I-65	0.21	0.19	0.20	B1a				
2657	I-65	0.19	0.18	0.09	B1a				
2658	I-65	0.28	0.24	0.12	B1a		IVc (1)		
2659	I-65	0.18	0.18	0.07	B1a				
2660	I-65	0.28	0.24	0.12	A1a				
2661	I-65	0.22	0.19	0.18	B1a		IVc (1)		15
2662	I-65	0.28	0.24	0.24	A1a				
2663	□-65	0.43	0.32	0.38	1: B1a, 2: A1a, 3: B1a		IVc (2)		
2664	□-65	0.18	0.16	0.12	B1a				
2665	□-65	0.21	0.19	0.10	B1a		IVc (1)		
2666	□-65	0.16	0.14	0.08	B1a				
2667	□-65	0.16	0.14	0.11	B1a				
2668	□-65	0.23	0.20	0.10	B1a		IVc (1)		
2669	□-65	0.18	0.16	0.07	A1a				
2670	□-65	0.17	0.14	0.14	B1a			剥(1)	
2671	□-65	0.23	0.21	0.20	B1a				
2672	□-65	0.21	0.19	0.32	B1a	<F76			
2673	□-65	0.17	0.16	0.18	B1a	<F76			
2674	□-65	0.15	0.13	0.12	A1a				
2675	□-65	0.18	0.17	0.11	B1a				
2676	□-65	0.12	0.12	0.06	B1a				
2677	□-65	0.23	(0.22)	0.08	B1a	<2678			
2678	□-65	0.24	0.22	0.10	B1a	>2677			
2679	□-65	0.17	0.19	0.08	B1a				
2680	□-65	0.21	0.19	0.21	B1a				
2682	□-65	0.20	0.19	0.10	B1a		IVc (6)	剥(2)	
2683	□-65	0.22	0.22	0.11	B1a				
2684	□-65	0.13	0.13	0.08	B1a				
2685	□-65	0.18	0.16	0.08	B1a				
2686	□-65	0.16	0.15	0.05	A1a				
2687	□-65	0.15	0.13	0.08	B1a				
2688	p-64	0.16	0.14	0.06	B1a				
2689	p-64	0.16	0.15	0.11	B1a				
2690	p-64	0.12	0.11	0.08	B1a		IVc (1)		
2691	p-64	0.14	0.13	0.09	B1a				
2692	p-64	0.15	0.13	0.10	B1a				
2693	p-64	0.16	0.13	0.13	A1a				
2694	p-64	0.22	0.18	0.10	B1a				
2695	p-64	0.26	0.24	0.11	A1a		IVc (3)	剥(3)	
2696	p-64	0.38	0.34	0.26	A1a		IVc (2)	剥(5)	
2697	o-64	0.31	0.31	0.33	1: B1a, 2: A1a		IVc (7)		
2698	o-64	0.15	0.13	0.07	B1a		IVc (1)		
2699	o-64	0.20	0.20	0.08	B1a				
2700	o-64	0.18	0.14	0.06	B1a				
2701	o-64	0.14	0.12	0.90	B1a				
2702	o-64	0.18	0.14	0.10	B1a				
2703	o-64	0.21	0.20	0.09	B1a				
2704	o-64	0.20	0.18	0.10	B1a				
2705	o-64	0.18	0.16	0.14	B1a				

S P 規模一覽 (37)

遺構名	位置	規模			土 層	重複關係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
2706	o-64	0.17	0.16	0.10	B1a		IVc (1)		
2707	o-64	0.18	0.13	0.10	B1a				
2708	o-64	0.17	0.17	0.09	B1a				
2709	o-64	0.18	0.18	0.15	B1a				
2710	o-64	0.13	0.12	0.07	B1a				
2711	o-64	0.54	0.45	0.16	A1a	>2712	IVc (1)		11
2712	o-64	0.32	0.28	0.23	B1a	<2711			11
2713	o-64	0.23	0.18	0.05	B1a				
2714	o-64	0.18	0.16	0.11	B1a				
2715	o-64	0.60	0.36	0.23	1: A1a, 2: B1a		IVc (10)	銅(2)	11
2716	n-64	0.23	0.21	0.12	B1a				11
2717	n-64	0.14	0.13	0.09	B1a				
2718	n-64	0.16	0.15	0.12	B1a				
2719	n-64	0.72	0.46	0.13	B1a				
2720	n-64	0.19	0.18	0.12	B1a				
2721	n-64	0.24	0.24	0.15	B1a		IVc (2)		
2722	n-64	0.16	0.14	0.07	B1a				
2723	n-64	0.18	0.16	0.10	B1a				
2724	n-64	0.22	0.22	0.27	不明				
2725	n-64	0.14	0.13	0.09	B1a				
2726	n-64	0.14	0.13	0.05	B1a				
2727	n-64	0.14	0.13	0.05	B1a				
2728	n-64	0.20	0.14	0.07	B1a				
2729	n-64	0.38	0.33	0.27	1: A1a, 2: B1a, 3: B1a		IVc (2)		
2730	n-64	0.24	0.24	0.06	B1a				
2731	n-63	0.25	0.20	0.18	B1a			銅(1)	
2732	n-64	0.14	0.13	0.16	B1a		IVc (1)		
2733	n-64	0.19	0.17	0.05	B1a			銅(2)	
2734	n-64	0.16	0.14	0.10	B1a				
2735	n-64	0.14	0.12	0.04	B1a				
2736	n-64	0.46	0.32	0.29	1: A1a, 2: B1a, 3: C1a		IVc (4)	銅(2)	
2737	n-64	0.43	0.41	0.35	1: B1a, 2: A1a, 3: B1a		IVc (5)	銅(5)	
2738	n-64	0.36	0.35	0.12	B1a				
2739	n-64	0.19	0.19	0.10	B1a	<F63			
2740	n-64	0.25	0.22	0.18	B1a			銅(1)	
2741	n-64	0.15	0.13	0.10	A1a				
2742	n-63	0.47	0.32	0.19	B1a				
2743	n-63	0.30	0.28	0.11	B1a			銅(1)	
2744	n-63	0.19	0.17	0.17	B1a				
2745	n-63	0.23	0.19	0.15	B1a				
2746	n-63	0.31	0.30	0.24	B1a		IVc (2)		
2747	n-63	0.15	0.14	0.04	B1a		IVc (1)		
2748	n-63	0.14	0.14	0.08	B1a				41
2749	n-63	0.15	0.14	0.09	B1a				41
2750	n-63	0.24	0.14	0.07	B1a				41
2751	n-63	0.13	0.12	0.08	B1a				41
2752	n-63	0.13	0.12	0.13	不明				41
2753	n-63	0.13	0.09	0.09	不明				41
2754	n-63	0.17	0.12	0.05	B1a				41
2755	n-63	0.28	0.25	0.16	B1a				41
2756	n-63	0.19	0.19	0.09	B1a				41
2757	n-63	0.14	0.14	0.10	B1a				41
2758	n-63	0.16	0.16	0.15	B1a				41
2759	n-63	0.18	0.16	0.12	B1a				41
2760	n-63	0.16	0.16	0.15	B1a				41
2761	n-63	0.23	0.22	0.12	B1a				41
2762	n-63	0.16	0.15	0.08	B1a				41
2763	n-63	0.14	0.12	0.11	B1a				41
2764	n-63	0.22	0.20	0.12	B1a				
2765	n-63	0.18	0.15	0.13	B1a				
2766	n-64	0.20	0.18	0.12	B1a				
2767	n-64	0.17	0.16	0.07	B1a				
2768	n-63	0.14	0.14	0.10	B1a				
2769	l-63	0.32	0.22	0.10	A1a				
2770	n-63	0.18	0.17	0.08	B1a				
2771	l-63	0.20	0.18	0.11	B1a				
2772	l-63	0.13	0.11	0.07	B1a				
2773	l-63	0.18	0.16	0.06	B1a				
2774	l-63	0.15	0.14	0.08	B1a				
2775	l-63	0.32	0.21	0.08	B1a				
2776	l-63	0.23	0.20	0.12	B1a				
2777	l-63	0.26	0.19	0.19	B1a				
2778	l-63	0.29	0.25	0.27	B1a				
2779	l-63	0.44	0.38	0.36	B1a	>3916・3917	IVc (8)	銅(1)	
2780	l-63	0.18	0.17	0.16	B1a				

S P規模一覽 (38)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No.
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2781	l-63	0.16	0.15	0.09	B1a				
2782	l-63	0.25	0.21	0.18	B1a				
2783	l-63	0.18	0.14	0.06	B1a				
2784	l-63	0.17	0.11	0.22	B1a				
2785	l-63	0.26	0.21	0.09	B1a				
2786	l-63	0.14	0.14	0.09	B1a				
2787	l-63	0.22	0.14	0.16	B1a				
2788	l-63	0.17	0.14	0.10	B1a				
2789	l-63	0.42	0.27	0.16	B1a		IVc (1)	刺(1)	
2790	□-64	0.28	0.25	0.09	A1a		IVc (1)		
2791	□-64	0.20	0.20	0.12	B1a		IVc (2)		
2792	□-64	0.16	0.16	0.07	B1a				
2793	□-64	0.16	0.16	0.04	C1a				
2794	□-64	0.66	0.32	0.26	B1a				
2795	□-64	0.18	0.13	0.09	B1a				
2796	□-64	0.19	0.14	0.13	B1a			刺(1)	
2797	□-64	0.24	0.21	0.03	B1a				
2798	□-64	0.24	0.20	0.13	B1a	<F69		刺(2)	
2799	□-64	0.16	0.15	0.12	B1a				
2800	□-64	0.18	0.18	0.18	B1a				
2801	k-63	0.18	0.15	0.20	K1c				
2802	k-63	0.18	0.14	0.16	K1c				
2803	k-63	0.18	0.16	0.05	K1a				
2804	k-63	0.20	0.19	0.07	K1a				
2805	k-63	0.15	0.13	0.06	K1a	<2806			
2806	k-63	0.22	0.18	0.07	K1c	>2805			
2807	k-63	0.20	0.15	0.13	K1a				
2808	k-63	0.20	0.14	0.06	K1a				
2809	k-63	0.19	0.15	0.09	K1a				
2810	k-64	0.07	0.06	0.03	K1c				
2811	k-64	(0.20)	0.13	0.15	C1c	<P80			
2812	k-64	0.13	0.12	0.08	A1		IVc (1)		
2813	k-1-63	0.37	0.35	0.28	K1a		IVc (1)		17
2814	k-1-63	0.13	0.12	0.15	K1a				
2815	l-64	0.23	0.18	0.09	K1a			刺(1)	
2816	l-64	0.18	0.10	0.07	K1a				
2817	k-1-64	0.22	0.13	0.06	K1a				
2818	k-64	0.18	0.13	0.15	K1a				
2819	l-64	0.19	0.13	0.14	K1a				
2820	k-64	0.22	0.19	0.21	K1a 炭多				
2821	k-64	0.22	0.16	0.19	K1a				
2822	k-64	0.22	0.13	0.05	C1a				
2823	k-64	0.19	0.12	0.07	K1a				
2824	k-64	0.15	0.12	0.02	K1a				
2825	k-64	0.14	0.11	0.10	C1c 炭多		IVc (1)		
2826	k-64	0.16	0.15	0.16	C1c 炭多			刺(3)	
2827	k-64	0.19	0.11	0.05	K1a				
2828	k-64	0.15	0.13	0.08	K1a				
2829	k-64	0.25	0.22	0.15	K1a				
2830	k-64	0.32	0.26	0.15	C1a		IVc (1)	たたき(1)	
2831	k-64	0.20	(0.14)	0.09	K1c		IVc (1)	刺(1)	
2832	k-64	0.30	0.20	0.06	K1a		IVc (1)		
2833	k-64	0.25	0.18	0.09	K1a				
2834	k-64	0.14	0.11	0.09	K1a				
2835	k-64	0.22	0.20	0.16	K1a		IVc (1)	斧(1)	
2836	k-64	0.12	0.11	0.14	K1a				
2837	k-64	0.08	0.07	0.07	K1a				
2838	k-64	0.17	0.12	0.08	C1a				
2839	k-64	0.20	0.12	0.10	K1				
2840	k-64	0.12	0.09	0.05	K1c				
2841	k-64	0.14	0.12	0.10	K1a 炭多				
2842	k-64	0.20	0.18	0.17	K1a 炭少		IVc (5)	鏃(1)	
2843	k-64	0.23	0.15	0.04	K1a				
2844	k-64	0.12	0.10	0.06	K1c				
2845	k-64	0.09	0.08	0.04	K1a				
2846	k-64	0.15	0.10	0.04	K1a				
2847	k-64	0.13	0.09	0.03	K1a				
2848	k-64	0.20	(0.19)	0.18	C1a	>P74		鏃(1)	
2849	k-64	0.15	0.12	0.12	C1a				
2850	k-64	0.12	0.10	0.04	C1a 炭少				
2851	k-64	0.09	0.07	0.06	C1a			刺(1)	
2852	k-64	0.28	0.26	0.34	C1a				42
2853	k-64	0.09	0.08	0.05	C1a				
2854	j-64	0.17	0.16	0.05	K1c				
2855	k-64	0.22	0.20	0.10	K1a	>2856			

SP規模一覽 (39)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
2856	k-64	0.10	0.09	0.05	K1a	<2855			
2857	j-64	0.14	0.11	0.03	C1a				
2858	j-64	0.20	0.16	0.06	K1				
2859	j-64	0.25	0.15	0.05	C1a				
2860	j-64	0.25	0.19	0.10	A1c				42
2861	j-64	0.47	0.32	0.09	C1a				42
2862	j-64	0.14	0.09	0.05	A1c				
2863	j-64	0.15	0.10	0.06	K1a				75
2864	j-64	0.15	0.10	0.09	K1a				75
2865	j-64	0.10	0.07	0.05	C1				75
2866	j-64	0.12	0.11	0.06	A1c				75
2867	j-64	0.15	0.08	0.10	K1c				
2868	j-64	0.20	0.15	0.15	K1a		IVc (2)		42
2869	j-64	0.10	0.07	0.05	K1c	<2870			
2870	j-64	0.12	0.10	0.07	K1c	>2869・2876			
2871	j-64	0.16	0.11	0.06	K1c				
2872	j-64	0.19	0.15	0.19	C1c		IVc (1)	磁(1)・剥(1)	
2873	j-64	0.21	0.17	0.10	K1a				
2874	j-64	0.22	0.15	0.09	K1c				42
2875	j-63	0.19	0.14	0.08	不明				
2876	j-64	0.15	0.12	0.11	K1c	2877<2876<2870			
2877	j-64	0.10	0.08	0.09	K1c	<2876			
2878	j-64	0.56	0.50	0.64	1: C1c, 2: K1a		IVc (11)	剥(1)	17
2879	j-64	0.09	0.06	0.04	K1a				
2880	j-64	0.18	0.15	0.06	K1a				75
2881	j-64	0.12	0.10	0.06	C1a				
2882	j-64	0.16	0.14	0.07	C1c				75
2883	j-64	0.25	0.21	0.35	A1c		IVc (1)*		
2884	j-64	0.11	0.09	0.05	K1a				75
2885	j-64	0.10	0.05	0.11	C1a	>F46			
2886	j-64	0.15	0.11	0.06	K1a				
2887	j-64	0.43	0.27	0.14	K1c				75
2888	j-64	0.31	0.21	0.10	K1a				75
2889	i-64-65	0.50	0.26	0.08	C1a 炭少				42
2890	i-64	0.28	0.22	0.13	C1a				42
2891	i-64	0.34	0.21	0.08	C1a				
2892	i-64	0.19	0.12	0.05	K1a				
2893	j-64	0.49	0.41	0.12	C1c 炭少	>2894			75
2894	j-64	0.40	(0.24)	0.05	C1a	2895<2894<2893			75
2895	j-64	0.21	0.19	0.11	C1a	<2894・2896			75
2896	j-64	0.30	0.22	0.07	K1a	>2895			75
2897	j-64	0.46	0.34	0.10	C1c	>2898			
2898	j-64	0.34	(0.22)	0.09	C1a	<2897			
2899	j-64	0.18	0.17	0.15	K1c 炭多			磁(1)	42
2900	j-64	0.09	0.08	0.04	K1a				
2901	j-64	0.27	0.25	0.08	K1c				
2902	j-64	0.16	0.14	0.05	N1				
2903	j-64	0.33	0.22	0.05	C1		IVc (1)		
2904	j-64	0.17	0.12	0.03	K1				
2905	j-64	0.35	0.30	0.09	K1a				42
2906	j-64	0.18	0.16	0.15	K1c 炭少				
2907	j-64	0.09	0.09	0.11	K1c				
2908	j-64	0.30	0.20	0.10	K1				
2909	j-64	0.36	0.23	0.17	1: C1a, 2: K1a			剥(2)	
2910	j-64	0.15	0.12	0.08	K1				
2911	j-64	0.12	0.11	0.08	K1				
2912	j-64	0.09	0.08	0.05	K1				
2913	i-j-64	0.20	0.18	0.10	A1a		IVc (1)		42
2914	i-j-64	0.25	0.22	0.10	C1c				42
2915	j-64	0.23	0.19	0.15	K1c				
2916	j-64	0.18	0.16	0.05	K1a	<2917			
2917	j-64	0.20	0.19	0.17	C1c	>2916		磁(1)	
2918	j-64	0.10	0.08	0.04	K1				
2919	j-64	0.15	0.13	0.05	K1a				
2920	j-63	0.29	0.19	0.04	K1a				
2921	j-63	0.15	(0.14)	0.06	K1a	>2922	IVc (1)		
2922	j-63	0.10	(0.08)	0.05	K1	<2921			
2923	j-63	0.20	0.17	0.10	K1				
2924	j-63	0.22	0.17	0.14	K1c		IVc (1)		
2925	j-63	0.15	(0.12)	0.10	K1	>2926		剥(1)	
2926	j-63	(0.30)	0.15	0.05	K1	<2925			
2927	j-63	0.46	0.14	0.04	K1a				
2928	j-63	0.33	0.20	0.05	C1c				
2929	j-63	0.51	(0.40)	0.19	K1c	<4550・P113			
2930	j-63	(0.35)	0.21	0.05	C1a	<P113			

SP規模一覧 (40)

遺構名	位置	規 模			土 層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
2931	j-63	0.36	0.31	0.11	K1a				17・75
2932	j-63	0.25	0.20	0.06	K1a				
2933	j-63	0.10	0.09	0.05	K1a				
2934	j-63	0.24	0.18	0.10	K1a				
2935	j-63	0.22	0.22	0.07	K1a				
2936	j-63	0.22	0.13	0.09	K1c				
2937	j-63	0.24	(0.21)	0.06	K1a	>2938			
2938	j-63	(0.23)	0.21	0.13	K1c	<2937			
2939	j-63	0.29	(0.20)	0.13	K1a	≠2940			
2940	j-63	0.33	0.30	0.12	1: K1, 2: K1a	≠2939		たたき(1)	
2941	j-63	0.20	0.16	0.05	K1a				
2942	j-63	0.25	0.18	0.06	C1a				
2943	j-63	0.25	0.21	0.18	K1c		Ivc (1)		75
2944	i-63	0.27	0.20	0.13	C1a			剥(3)	
2945	j-63	0.15	0.11	0.05	K1c				
2946	j-63	0.16	0.13	0.12	K1c 炭少	≠2947			
2947	j-63	0.26	0.21	0.12	K1c	≠2946			
2948	j-63	0.24	0.20	0.09	K1a				
2949	j-63	0.18	0.13	0.11	K1				
2950	j-63	0.16	0.12	0.05	K1c				
2951	j-63	0.23	0.20	0.14	1: K1a, 2: A4			剥(1)	
2952	j-63	0.19	0.16	0.10	K1a				17
2953	j-63	0.21	0.16	0.04	K1a				
2954	j-63	0.17	0.15	0.05	K1a				
2955	j-63	0.17	0.15	0.09	K1a				
2956	j-63	0.20	0.16	0.15	K1a				
2957	j-63	0.14	0.13	0.10	K1a				
2958	j-63	0.28	0.15	0.09	K1a				
2959	j-63	0.10	0.08	0.09	K1a				
2960	j-63	0.20	0.16	0.19	K1a				
2961	j-63	0.31	0.16	0.13	K1a				
2962	j-63	0.20	0.18	0.34	K1a		Ivc (2)		
2963	j-63	0.37	0.35	0.05	J4				17
2964	j-63	0.36	0.19	0.16	K1a				
2965	j-63	0.15	0.12	0.34	K1a				
2966	j-63	0.23	0.20	0.30	K1c 炭少				17
2967	j-63	0.35	0.22	0.15	K1a		Ivc (1)	剥(1)	
2968	j-63	0.15	0.12	0.05	K1a				
2969	j-63	0.15	(0.12)	0.05	K1a	<2970			
2970	j-63	0.14	(0.12)	0.04	K1a	>2969			
2971	j-63	0.30	0.21	0.16	A1 炭多				
2972	j-63	0.17	0.14	0.14	K1a				
2973	j-63	0.13	0.08	0.04	K1a		Ivc (9)		
2974	j-63	0.23	0.17	0.13	K1a 炭少				
2975	j-63	0.23	0.18	0.20	K1a				
2976	j-63	0.25	0.23	0.12	K1a 炭少				
2977	j-63	0.20	0.17	0.06	K1c				
2978	j-63	0.13	0.12	0.05	K1a				
2979	j-63	0.18	0.16	0.07	K1a				
2980	j-63	0.24	0.21	0.15	C1c	>2982			
2981	j-63	0.24	0.20	0.25	K1	<2981			
2982	j-63	0.15	(0.14)	0.05	C1a				
2983	j-63	0.10	0.08	0.03	K1a				
2984	j-63	0.11	0.09	0.06	K1a?				
2985	j-63	0.20	0.15	0.07	K1a				
2986	j-63	0.15	0.14	0.04	K1a				
2987	j-63	0.14	0.10	0.04	K1a				
2988	j-63	0.09	0.08	0.03	K1a				
2989	j-63	0.14	0.13	0.14	K1c				
2990	j-62	0.22	0.19	0.09	K1a				
2991	j-62	0.18	0.13	0.03	C1a				
2992	j-62	0.16	0.13	0.13	C1a				
2993	j-62	0.22	0.20	0.05	K1a				
2994	j-62	0.32	0.18	0.05	C1a	>P274・P40			
2995	j-62	0.23	0.18	0.09	C1a				
2996	i-62	0.23	0.19	0.09	C1a				
2997	j-62	0.09	0.08	0.07	K1a				
2998	j-62	0.18	0.10	0.11	K1a?	>P280			
2999	j-62	0.36	0.23	0.10	K1a	>P280			
3000	j-62	0.36	0.28	0.22	1: C1a, 2: K1a, 3: K1				17
3001	i-71	0.26	(0.24)	—	不明	4463・4464<3001<2066			
3002	k-1-71	0.26	0.23	0.05	B1c				61
3003	k-71	0.26	0.24	0.07	C3c				61
3004	k-1-71	0.24	0.22	0.36	C3c				61
3005	k-71	0.15	0.14	0.03	C3c				61

SP規模一覽 (41)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3006	k-1-71	0.16	0.15	0.03	C3c				61
3007	l-m-73	0.37	0.23	0.19	B1c	<P207			21
3008	l-73	0.52	(0.50)	0.54	B1c	<P207	IVb-4 (1)	礫(1)	
3009	l-73	0.22	0.12	0.12	C3c				
3010	l-73	0.32	0.31	0.06	D1b				
3011	j-k-70-71	(0.42)	0.41	0.20	D1b	<P70	IVc (2)		
3012	l-72	(0.30)	0.30	0.14	D1b	<P209		剥(1)	
3013	l-73	0.26	0.20	0.09	B1c	>3014			18
3014	l-73	0.21	0.19	0.07	B1b	<3013			18
3015	l-73	0.44	0.37	0.14	B1c	>3016		剥(2)	
3016	l-73	0.22	0.15	0.14	B1b	<3015			
3017	l-73	0.18	0.14	0.19	B1c	>3018-3019			18
3018	l-73	(0.24)	0.22	0.52	B1b	<3017			
3019	l-m-73	0.22	(0.14)	0.04	D1b	<3017			18
3020	l-m-73	0.14	0.14	0.04	C3c				18
3021	n-73	0.19	0.18	0.06	I3c				
3022	n-73	0.29	0.25	0.29	B1c				23
3023	n-73	0.11	0.11	0.04	C3b				18
3024	n-73	0.28	0.22	0.16	B1b		IVc (1)		18
3025	n-73	0.11	0.11	0.08	C3c				18
3026	n-73	0.18	0.13	0.03	I3				23
3027	n-73	0.17	0.13	0.06	C3b				
3028	n-73	0.28	0.22	0.11	C3b				
3029	n-73	0.18	0.17	0.08	D1b				23
3030	n-73	0.27	0.22	0.12	C3c				23
3031	n-73	0.32	0.27	0.14	B1c				23
3032	n-73	0.42	0.34	0.15	B1c		IVc (1)		18
3033	n-73	0.26	0.20	0.06	C3b				21
3034	n-73	0.28	0.27	0.03	B1b				21
3035	l-m-73	0.30	0.26	0.09	D1b				
3036	n-72	0.21	0.18	0.12	B1b	>3037			21
3037	n-72	0.26	0.22	0.10	D1b	<3036			21
3038	n-72	0.21	0.19	0.07	C3c				21
3039	n-72	0.22	0.17	0.06	D1b	>3040			21
3040	n-72	0.18	0.18	0.04	C3c	<3039			21
3041	n-72	0.27	0.25	0.12	B1b				
3042	l-72	0.24	0.24	0.06	F1a				48
3043	l-72	0.22	0.18	0.06	C3c				48
3044	n-72	0.29	0.28	0.04	不明				48
3045	l-m-73	0.34	0.24	0.04	不明			礫(1)	48
3046	n-72	0.21	0.15	0.12	B1b				21
3047	l-72	0.30	0.24	0.08	C3b				
3048	l-72	0.19	0.14	0.06	1 : C3c, 2 : I3				
3049	l-70	0.38	0.35	0.16	C3c				
3050	l-70	0.30	0.25	0.24	B1b				
3051	l-70	0.26	0.15	0.11	B1b				
3052	l-70	0.30	0.23	0.11	D1b				
3053	n-70	0.20	0.17	0.18	D1b				
3054	l-70	0.28	0.24	0.27	B1b				
3055	l-69	0.20	0.19	0.08	C3b				
3056	l-70	0.24	0.20	0.17	C3b				
3057	l-69-70	0.21	0.18	0.16	C3b				
3058	l-n-69	0.74	0.58	0.14	C3b				
3059	n-69	0.32	0.25	0.14	I3c	>3060			
3060	n-69	0.74	0.58	0.66	B1b	<3059			71
3061	n-70	0.21	0.18	0.10	D1b				69
3062	l-n-70	0.40	0.28	0.08	C3c				
3063	n-69	0.22	0.21	0.16	C3c				
3064	l-69	0.24	0.17	0.15	I3c				71
3065	l-69	0.28	0.21	0.12	B1b	>P239			
3066	l-69	(0.28)	0.26	0.16	D1b	<P239	IVc (1)		
3067	l-69	0.21	0.19	0.18	C3b				71
3068	l-69	0.24	0.23	0.20	B1c		IVc (1)		
3069	l-69	0.28	0.24	0.12	B1c				
3070	l-69	0.20	0.21	0.17	I3c		IVc (2)		71-72
3071	l-69	0.20	0.20	0.06	C3c				72
3072	l-68	0.14	0.13	0.04	I3				
3073	l-68	0.13	0.12	0.03	J3				
3074	l-68	0.14	0.13	0.05	C3c				
3075	l-m-68	0.22	0.20	0.19	I3	>3078			72
3076	l-68	0.35	0.34	0.22	I3c				72
3077	n-68	(0.45)	(0.34)	0.16	C3b	3078<3077<P125-P63			
3078	l-n-68	(0.62)	(0.45)	0.08	D1b	<3077-P125-P63-3075			
3079	l-68	0.24	0.24	0.19	D1b		IVc (2)		72
3080	l-m-67	0.18	0.14	0.10	D1b				

S P 規模一覽 (42)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3081	l-n-67	0.20	0.18	0.06	I 3c				
3082	n-67	0.18	0.14	0.07	I 3c				
3083	n-67	(0.38)	0.34	0.06	B 1b	<P252			
3084	n-67	0.23	0.20	0.10	D 1b				
3085	n-68	0.26	0.25	0.16	D 1b		IVc (2)	刺(1)	
3086	n-68	0.18	0.16	0.07	I 3				
3087	n-68	0.22	0.20	0.08	I 3				72
3088	n-68	0.26	0.24	0.12	I 3	>P62			72
3089	n-68	0.26	0.25	0.27	C 3c				
3090	n-68	0.24	0.23	0.09	D 1b		IVc (6)		
3091	n-68	0.28	0.27	0.12	C 3b				
3092	n-68	0.22	0.18	0.11	C 3c				71
3093	n-68	0.22	0.20	0.12	I 3c				71・72
3094	n-68	0.22	0.18	0.64	D 1b		IIIb (2)	磁(1)	71
3096	n-69	(0.10)	0.09	0.11	B 1c				
3097	n-69	0.21	0.20	0.21	I 3c				
3098	n-69	0.22	0.21	0.24	I 3c			原(1)	
3099	n-69	0.24	0.20	0.06	I 3c				71
3100	p-70	0.79	(0.64)	0.17	不明				
3101	n-68	0.17	0.16	0.11	D 1b				
3102	n-68	0.17	0.16	0.13	I 3				
3103	o-69	0.17	0.16	0.06	D 1b				
3104	o-69	0.18	0.17	0.04	I 3				
3105	n-69	0.20	0.19	0.08	B 1b				
3106	n-69	0.16	0.15	0.09	C 3c				
3107	n-69-70	0.18	0.18	0.13	I 3c				
3108	n-69	0.28	26.00	0.27	C 3c				66
3109	o-69	0.16	0.15	0.13	B 1b				
3110	o-70	0.20	0.18	0.12	D 1b			斧(1)	
3111	o-70	0.14	12.00	0.02	C 3c				
3112	o-70	0.12	0.10	0.02	不明				
3113	o-70	0.20	0.19	0.18	C 3b				
3114	n-70	0.15	0.13	0.04	C 3b				
3115	n-70	0.21	0.19	0.14	I 3c				
3116	n-70	0.18	0.16	0.06	I 3c				66
3117	n-70	0.20	0.18	0.09	I 3c				
3118	n-70	0.19	0.16	0.06	I 3c				
3119	n-70	0.23	0.22	0.03	B 1c				69
3120	o-70	0.13	0.10	0.02	不明				
3121	n-o-71	0.28	0.24	0.37	I 3				
3122	n-71	0.28	0.25	0.27	I : C 3b, 2 : C 3c		IVc (2)		
3123	n-71	0.24	0.24	0.08	I 3c				
3124	n-71	0.16	0.16	0.09	I 3c				
3125	o-71	0.17	0.14	0.06	C 3b				
3126	o-71	0.20	0.19	0.13	C 3b				
3127	o-71	0.19	0.18	0.06	B 1b				
3128	o-72	0.19	0.16	0.16	I 3c				
3129	o-72	0.18	0.18	0.09	D 1b				
3130	o-72	0.24	0.24	0.16	D 1b		IVc (1)	刺(1)	
3131	o-71	0.30	0.29	0.20	B 1b		IVc (2)		
3132	o-71	0.16	0.16	0.09	D 1b				
3133	o-71	0.22	0.22	0.11	C 3c				
3134	o-71	0.18	0.16	0.06	I 3	<3135	IVc (3)	刺(2)	
3135	o-71	0.17	0.14	0.08	C 3c	>3134			
3136	o-71	0.22	0.20	0.18	B 1b				
3137	o-71	0.28	0.24	0.15	B 1b		IVc (1)	刺(1)	
3138	o-70	0.26	0.22	0.20	C 3c		IVc (6)	刺(2)・たたき(1)	66
3139	o-p-71	0.23	0.21	0.20	I 3				
3140	p-71	0.24	0.22	0.27	B 1b				
3141	p-71	0.26	0.24	0.19	D 1b				88
3142	p-71	0.24	0.22	0.16	C 3c				
3143	p-71	0.20	0.18	0.16	D 1b				
3144	p-71	0.21	0.20	0.19	D 1b		IVc (1)		
3145	p-70	0.15	0.14	0.07	C 3c				
3146	p-70	0.14	0.14	0.06	C 3c				
3147	o-p-70	0.20	0.18	0.15	D 1b				66
3148	o-69	0.36	0.32	0.44	C 3c		IVc (1)		
3149	p-69	0.46	0.38	0.53	B 1b		IVc (3)	磁(1)	87
3150	p-69	0.24	0.21	0.15	I 3				
3151	p-68	0.24	0.20	0.10	I 3	>3152			
3152	p-68	(0.20)	0.12	0.08	I 3c	<3151			
3153	p-68	0.31	(0.25)	0.13	C 3b	>3154	IVc (1)	皿(1)	
3154	p-68	(0.37)	(0.30)	0.20	K 3b	3155<3154<3153			
3155	p-68	0.44	0.38	0.26	F 1a	<3154	IVc (1)	磁(1)	
3156	p-72	0.36	0.32	0.19	C 3b	>3157	IVc (2)		88

S P規模一覧 (43)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3157	p-72	0.47	0.45	0.47	F1a	<P233・3156		剥(1)	
3158	p-72	0.17	0.16	0.20	不明			剥(1)	
3159	p-72	0.32	0.30	0.15	C3b				
3160	p-72	0.18	0.14	0.06	C3c				
3161	p-72	0.38	0.34	0.53	D1b		IVc (2)		88
3162	p-72	0.20	0.17	0.07	B1b				88
3163	p-72	0.53	0.45	0.63	C3b	>4457	IVc (6)	剥(1)	
3164	p-72	0.14	0.13	0.03	C3c				
3165	p-72	0.22	0.21	0.14	C3b				
3166	p-72	0.14	0.12	0.04	I3				
3167	p-72	0.28	0.24	0.10	C3c				
3168	p-72	0.16	0.14	—	不明				
3169	p-72	0.40	0.68	0.10	C3b				
3170	o-72	0.30	0.28	0.30	D1b		IVc (1)	斧(1)	
3171	o-72	0.23	0.23	0.19	I3c		IVc (1)	剥(2)	
3172	o-72	0.16	0.12	0.07	B1b				
3173	o-72	0.26	0.24	0.23	I3c		IVc (1)		
3174	l-73	0.35	0.32	0.15	I3c				58
3175	m-72	0.17	0.14	0.04	B1b				
3176	l-72・73	0.26	0.22	0.04	C3c	<P206			
3177	m-72	0.14	0.14	0.07	D1b				
3178	m-72	0.24	0.16	0.06	C3b				21
3179	m-72	0.28	0.48	0.06	D1b				21
3180	l-71	0.12	0.10	0.10	D1b				
3181	o-72・73	0.30	0.27	0.25	B1b		IVc (18)	剥(2)	21
3182	n-73	0.52	0.45	0.51	B1b	<P134 >P133			23
3183	o-74	0.26	0.23	—	不明				
3184	m-74	0.24	0.13	0.17	D1b				23
3185	m-74	0.20	0.16	0.08	D1b				18
3186	m-74	0.22	0.21	0.22	D1b				
3187	m-74	0.27	0.22	—	不明	>H30P2			
3188	m-74	0.35	0.30	0.14	D1b			斧(1)	
3189	n-74	0.30	0.17	0.04	B1b				
3190	n-74	0.16	0.14	0.06	B1c				
3191	n-74	0.49	0.42	0.45	B1b	4441<3191<P265	IVc (4)	剥(2)	23
3192	n-74	0.25	0.23	0.12	D1b				18・23
3193	n-74・75	0.22	0.21	0.06	C3c		IVc (1)		
3194	n-74	0.19	0.18	0.03	C3c				
3195	m-74	0.26	0.22	0.08	B1b				
3196	m-73・74	0.30	0.24	0.05	B1b				
3197	m-73	0.33	0.23	0.07	C3c				
3198	n-73	0.20	0.20	0.12	C3c				
3199	n-73	0.34	0.26	0.06	C3c				
3200	m-74	0.26	0.21	0.04	B1c				23
3201	s-59	0.23	0.20	0.11	G1				34
3202	s-59	0.30	0.25	0.14	B1				
3203	s-59	0.22	0.19	0.11	B1				
3204	s-59	0.21	0.17	0.27	G1		IVc (4)		
3205	s-59	0.20	0.18	0.16	G1				
3206	s-59	0.20	0.14	0.15	L1				
3207	s-59	0.28	0.26	0.07	G1				
3208	s-59	0.21	0.20	0.05	G1				
3209	s-59	0.23	0.20	0.09	G1				
3210	s-59	0.35	0.26	0.13	B1				
3211	r-59	0.20	0.14	0.05	B1				
3212	r-59	0.22	0.18	0.15	G1				
3213	r-59	0.14	0.10	0.13	B1				
3214	r-59	0.11	0.08	0.10	G1				
3215	r-59	0.13	0.11	0.08	G1				
3216	r-59	0.23	0.16	0.28	B1				
3217	r-59	0.12	0.11	0.26	G1				
3218	r-58	0.14	0.13	0.26	B1				
3219	q-59	0.19	0.15	0.32	B1		IVc (1)		
3220	r-59	0.23	0.19	0.13	B1				
3221	r-63	0.16	0.12	0.05	B1				
3222	r-63	0.16	0.13	0.16	B1				
3223	r-63	0.17	0.13	0.12	A1				
3225	q-64	0.18	0.15	0.30	B1				
3226	q-64	0.20	0.15	0.05	G1			剥(1)	
3227	r-63	0.35	0.20	0.53	1: B1, 2: N1		IVc (1)		
3228	q-64-65	0.75	0.67	0.57	1: A1, 2: H1		IVc (1)	砥(1)	
3229	p-65	0.35	0.25	0.30	B1	<3230	IVc (3)	砥(1)	
3230	p-65	0.35	0.24	0.22	A1	>3229			
3231	p-65	0.20	0.13	0.12	A1				
3232	p-65	0.16	0.08	0.06	G1				

S P規模一覽 (44)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3233	p-65	0.23	0.15	0.05	G1				
3234	p-65	0.20	0.16	0.21	G1				
3235	p-65	0.15	0.11	0.29	B1				
3236	p-66	0.43	0.35	0.30	B1		IVc (3)	たたき(1)	
3237	p-66	0.18	0.15	0.08	B1				
3238	p-65	0.26	0.19	0.17	B1				
3239	p-65	0.16	0.12	0.12	B1				
3240	p-65	0.15	0.12	0.09	B1				
3241	p-65	0.23	0.15	0.12	A1				
3242	p-65	0.22	0.18	0.08	A1				
3243	p-66	0.17	0.15	0.05	G1				
3244	p-66	0.10	0.07	0.07	G1				
3245	p-66	0.08	0.07	0.07	G1				
3246	p-66	0.10	0.07	0.05	G1				
3247	p-66	0.18	0.16	0.15	B1				
3248	p-66	0.17	0.10	0.10	B1				
3249	p-66	0.18	0.18	0.17	A1				
3250	p-66	0.16	0.13	0.17	B1				
3251	p-66	0.25	0.17	0.20	B1	>P155			
3252	p-65	0.23	0.19	0.17	N1				
3253	p-66	0.18	(0.14)	0.21	B1	<P155			
3254	p-66	0.19	0.15	0.15	G1				
3255	p-66	0.18	0.14	0.10	G1				
3256	p-66	0.13	0.10	0.07	G1				
3257	p-66	0.11	0.10	0.09	G1				
3258	p-66	0.24	0.16	0.11	A1				
3259	p-66	0.19	0.15	0.11	B1				
3260	p-66	0.15	0.10	0.04	A1				
3261	p-66	0.14	0.11	0.09	A1				
3262	p-66	0.12	0.10	0.05	A1				
3263	p-66	0.10	0.09	0.04	A1				
3264	p-66	0.21	0.19	0.15	B1			剥(1)	
3265	p-66	0.19	0.15	0.08	B1				
3266	p-66	0.17	0.13	0.10	B1				
3267	p-66・67	0.18	0.14	0.10	B1			磁(1)	
3268	p-66	0.35	30.00	0.18	B1				
3269	p-66	0.37	0.28	0.29	A1				
3270	p-66	0.25	0.16	0.25	B1				
3271	p-66	0.20	0.16	0.15	B1				
3272	p-66	0.15	0.11	0.05	B1				
3273	p-66	0.32	0.28	0.10	G1				
3274	p-66	0.10	0.08	0.05	G1				
3275	p-66	0.18	0.16	0.07	B1				
3276	p-66	0.22	0.15	0.15	B1				
3277	p-66	0.16	0.15	0.05	A1				
3278	p-66	0.21	0.14	0.03	A1				
3279	p-66	0.26	0.10	0.13	A1				
3280	p-66	0.18	0.15	0.14	B1		IVc (1)		
3281	p-66	0.11	0.09	0.10	B1				
3282	p-66	0.17	0.13	0.17	B1				
3283	p-66	0.15	0.11	0.12	B1				
3284	p-66	0.15	0.12	0.14	B1				
3285	p-66	0.18	0.15	0.09	B1				
3286	p-66	0.15	0.10	0.12	B1				
3287	p-66	0.27	0.19	0.19	B1		IVc (2)	磁(2)・剥(1)	
3288	p-66	0.12	0.10	0.17	G1				
3289	p-66	0.35	0.25	0.23	B1		IVc (2)	剥(2)	
3290	p-66	0.14	0.14	0.09	G1				
3291	p-66	0.16	0.13	0.18	G1				
3292	p-66	0.19	0.13	0.20	G1				
3293	p-66	0.34	0.24	0.35	G1				
3293	p-66	0.35	0.23	0.35	G1				
3294	p-66	0.16	0.11	0.11	B1				
3295	p-65	0.13	0.11	0.10	G1				
3296	p-66	0.15	0.12	0.07	G1				
3297	p-66	0.10	0.09	0.06	G1				
3298	p-65	0.11	0.09	0.10	G1				
3299	p-65	0.16	0.11	0.11	G1				
3300	p-65	0.22	0.21	0.16	B1		IVc (1)	磁(1)	
3301	p-65	0.15	0.12	0.09	G1				
3302	p-65	0.16	0.13	0.25	B1				
3303	p-65	0.15	0.09	0.09	B1				
3304	p-65	0.16	0.08	0.10	B1				
3305	p-65	0.14	0.11	0.05	B1				
3306	p-65	0.21	0.15	0.11	B1				

S P規模一覧 (45)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3307	o-65	0.18	0.14	0.12	B1				
3308	o-65	0.18	0.13	0.08	G1				
3309	o-65	0.20	0.15	0.10	G1		IVc (2)		
3310	o-65	0.09	0.08	0.06	G1				
3311	o-65	0.35	0.29	0.23	B1		IVc (2)	礫(1)	
3312	o-67	0.29	0.21	0.10	B1				
3313	o-67	0.18	0.15	0.19	B1		IVc (1)		
3314	o-67	0.44	0.39	0.45	1: A4c, 2: B1		IVc (3)	剥(1)・皿(1)	104
3315	o-67	20.00	0.17	0.07	G1				
3316	o-67	0.12	0.09	0.09	G1				
3317	o-67	0.13	0.08	0.05	G1				
3318	o-67	0.15	0.10	0.10	A1				
3319	o-67	0.13	0.09	0.05	A1				
3320	o-67	20.00	0.12	0.08	A1				
3321	o-67	0.14	0.10	0.13	B1				
3322	o-67	0.22	0.14	0.10	B1				
3323	o-67	0.28	0.24	0.14	B1				
3324	o-68	0.31	0.30	0.43	1: A1a, 2: E1, 3: B1		IVc (22)	剥(1)・礫(2)	104
3325	o-68	0.23	0.18	0.14	A1				
3326	o-67-68	0.74	0.60	0.32	1: A1, 2: N1		IVc (6)		74
3327	o-67	0.25	0.19	0.12	B1				
3328	o-68	0.16	0.13	0.12	B1		IVa (1)・IVc (10)	剥(1)	
3329	o-67	0.12	0.11	0.14	B1				
3330	p-67	0.22	0.18	0.11	B1		IVc (1)		
3331	p-67	0.24	0.19	0.20	B1				
3332	p-67	0.17	0.11	0.19	B1				
3333	p-67	0.15	0.13	0.09	B1				
3334	o-67	0.15	0.09	0.10	B1				
3335	p-67	0.20	0.19	0.15	B1		IVc (1)		
3336	p-67	0.15	0.08	0.10	B1				
3337	p-67	0.30	0.20	0.10	G1				
3338	p-67	0.27	0.20	0.10	G1				
3339	p-67	0.20	0.15	0.08	B1				
3340	p-67	0.21	0.15	0.12	B1			剥(1)	
3341	p-67	0.19	0.15	0.11	B1	<F82			
3342	p-67	0.18	0.10	0.11	B1	<P218			
3343	p-67	0.14	0.09	0.10	B1	<F82			
3344	p-67	0.15	0.15	0.22	B1	<F82			
3345	p-67	0.20	0.15	0.05	G1	<F82			
3346	p-67	0.17	0.16	0.22	B1		IVc (2)		
3347	p-67	0.16	0.14	0.20	B1		IVc (2)		
3348	p-67	0.20	0.17	0.07	B1	>P293			
3349	p-67	0.22	0.20	0.23	B1				
3350	p-67	0.12	0.09	0.12	B1				
3351	p-67	0.17	0.13	0.05	A1	<F83	IVc (1)	剥(1)	
3352	p-67	0.24	0.20	0.15	G1	<F83		たたき(1)・剥(1)	
3353	p-67	0.70	0.49	0.28	1: bl, 2: N1	<F83	IVc (1)		74
3354	p-67	0.20	0.11	0.10	G1	<F83			
3355	p-67	20.00	0.15	0.15	G1				
3356	p-67	0.19	0.16	0.11	B1				
3357	n-66	0.20	0.18	0.12	B1			剥(1)	
3358	n-66	26.00	(0.18)	0.13	B1				
3359	n-66	0.15	0.14	0.08	B1				
3360	n-66	0.22	0.20	0.36	B1		IVc (1)		
3361	n-66	0.20	0.15	0.13	B1				
3362	n-66	0.20	0.16	0.16	A1			剥(1)	
3363	n-66	0.12	0.10	0.16	B1				
3364	n-66	0.16	0.14	0.08	A1				
3365	n-66	0.14	0.12	0.06	B1				
3366	n-66	0.23	0.20	0.20	B1				
3367	n-66	0.22	0.22	0.14	B1		IVc (1)		
3368	n-66	0.20	0.16	0.18	B1				
3369	n-66	0.40	0.30	0.13	B1			剥(1)	
3370	n-66	0.56	0.34	0.14	B1	>4800	IVc (1)		
3371	n-66	0.26	0.16	0.22	A1				
3372	n-66	0.24	0.22	0.13	G1				
3373	n-66	0.14	0.12	0.07	G1				
3374	n-66	0.24	0.14	0.21	B1				
3375	n-66	0.16	0.15	0.10	B1				
3376	n-66	0.19	0.16	0.13	B1				
3377	n-66	0.26	(0.22)	0.42	B1	<P217			
3378	n-66	0.34	0.22	0.06	B1		IVc (4)		
3379	n-66	0.18	0.18	0.19	B1				
3380	n-66	0.34	0.25	0.09	A1			剥(1)	
3381	n-66	0.16	0.13	0.13	A1			剥(1)	

SP 規模一覽 (46)

遺構名	位置	規模			土層	重複關係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3382	n-66	0.22	0.18	0.18	B1				
3383	n-66	0.20	0.14	0.09	B1	<P216		銅(2)	
3384	n-66	0.16	0.16	0.15	B1				
3385	n-66	0.23	(0.20)	0.11	B1				
3386	n-66	0.18	0.12	0.16	B1				
3387	n-66	0.24	0.22	0.23	B1		IVc (1)		
3388	n-66	0.20	0.17	0.23	B1				
3389	n-66	0.23	0.18	0.13	B1				
3390	n-66	0.18	0.13	0.07	G1				
3391	n-66	0.25	0.19	0.08	G1				
3392	n-66	0.25	0.20	0.11	B1				
3393	n-66	0.13	0.12	0.07	G1				
3394	n-66	0.23	0.15	0.22	B1				
3395	n-66	0.17	0.15	0.19	B1				
3396	n-66	0.23	0.20	0.15	B1				
3397	o-68	0.26	0.19	0.12	B1		IVc (1)		
3398	p-68	0.16	0.14	0.04	B1		IVc (1)		
3399	p-68	0.23	0.19	0.16	B1		IVc (1)		
3400	p-68	0.12	0.10	0.05	G1				
3401	k-64	(0.18)	0.16	0.06	K1a	3402<3401<P76			
3402	k-64	(0.15)	0.14	0.13	C1a	<3401・P76			
3403	k-64	0.23	0.20	0.15	K1a				
3404	k-64	0.25	0.16	0.10	K1a				
3405	k-64	0.20	0.18	0.21	K1a				
3406	k-64	0.14	0.13	0.06	K1a				
3407	k-64	0.15	0.12	0.05	K1a				
3408	k-64	0.21	0.15	0.14	C1a				
3409	J-64	0.26	0.17	0.17	K1a			銅(5)	
3410	J-64	0.12	0.10	0.09	K1a			銅(1)	
3411	J-63	0.16	0.15	0.11	K1a				
3412	J-63	0.19	0.15	0.10	K1a				
3413	J-63	0.19	0.15	0.10	K1a				
3414	J-63	0.26	0.21	0.09	K1a				
3415	J-62	(0.59)	0.32	0.20	A1a	<P40			
3416	J-62	0.32	0.29	0.22	C1c		I b (4)		
3417	J-62	0.13	0.12	0.10	K1c				
3418	J-62	0.15	0.12	0.09	K1				
3419	J-62	0.28	0.19	0.10	K1a				
3420	J-62	0.10	0.19	0.04	K1a				
3421	J-62	0.20	0.17	0.10	K1c				
3422	J-62	0.15	0.11	0.05	K1c				
3423	J-62	0.18	0.13	0.14	K1a				
3424	J-62	0.20	0.16	0.13	K1a				
3425	J-62	0.20	0.15	0.15	K1c				
3426	J-62	0.25	0.20	0.10	K1c 炭少				
3427	J-62	0.23	0.19	0.04	K1a				
3428	J-62	0.14	0.12	0.06	K1c				
3429	J-62	0.20	0.18	0.03	K1a?				
3430	J-62	0.33	0.15	0.12	C1c 炭少			銅(1)	
3431	J-62	0.20	0.15	0.06	K1c				
3432	J-62	0.14	0.11	0.03	K1a				
3433	J-63	0.22	0.18	0.21	K1c	>3434			
3434	J-63	(0.25)	(0.19)	0.20	K1c 炭少	<3433			
3435	J-62	0.16	0.13	0.05	K1c				
3436	J-62	0.54	0.43	0.52	1: A1c, 2: K1a, 3: A1c, 4: A1a				
3437	J-62	0.47	0.46	0.40	1: K1c, 2: J4, 3: K1c, 4: C1 5: C1c, 6: K1a, 7: J4		IVc (6)		
3438	J-62	0.15	0.12	0.03	K1c				
3439	J-62	0.20	0.17	0.12	C1c				
3440	J-62	0.12	0.08	0.08	K1				
3441	J-62	0.15	0.15	0.10	K1a				
3442	J-62	0.16	0.14	0.06	K1a				
3443	k-62	(0.22)	0.20	0.13	C1a	>P34			
3444	k-62	0.55	0.33	0.44	1: C1c, 2: J4, 3: C1c, 4: K1a		IVc (2)		
3445	J-62	0.22	0.18	0.11	K1a				
3446	J-62	0.26	0.20	0.30	C1				
3447	J-62	0.31	0.26	0.09	K1a		IVc (1)		
3448	J-62	0.14	0.09	0.02	K1a				
3449	J-62	0.40	0.31	0.19	K1a				
3450	J-62	0.25	0.20	0.16	K1a		IVc (8)		
3451	J-62	0.27	0.16	0.09	K1a				
3452	J-62	0.23	0.19	0.06	K1				
3453	J-62	0.21	0.18	0.10	K1a				
3454	J-62	0.13	0.11	0.05	K1				
3455	J-62	0.21	0.18	0.10	K1a				

SP規模一覽 (47)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3456	J-62	0.16	0.11	0.06	K1c				
3457	J-62	0.21	0.16	0.32	K1a		IVc (3)		
3458	J-62	0.41	0.24	0.13	K1c				
3459	J-62	0.32	0.18	0.05	K1c	>H33・4544		銅(1)	
3460	J-62	0.21	0.17	0.06	K1a				
3461	J-62	0.31	0.23	0.12	C1c				
3462	J-62	0.13	0.10	0.10	K1				
3463	J-62	0.17	0.14	0.05	K1a				
3464	J-61・62	0.24	0.20	0.09	K1c				27
3465	J-61	0.14	0.11	0.06	K1				
3466	J-61	0.11	0.11	0.05	C1a				27
3467	J-61	0.13	0.12	0.05	K1a				
3468	J-61・62	0.15	0.14	0.17	K1c				
3469	J-61	0.24	0.23	0.17	1: C1c, 2: C1				
3470	J-61	0.15	0.11	0.04	K1				
3471	J-61	0.20	0.15	0.18	K1c	<1062			17
3472	J-61	0.15	0.14	0.10	K1a		IVc (1)		
3473	J-61	0.17	0.15	0.11	K1				
3474	J-61	0.10	0.09	0.04	K1				
3475	J-61	0.23	0.16	0.11	K1a				
3476	J-61	0.20	0.18	0.04	K1a				27
3477	J-61	0.18	0.15	0.04	K1				27
3478	J-61	0.65	0.44	0.26	K1a	>3479	IVc (1)		
3479	J-61	0.17	0.15	0.23	K1	<3478			
3480	J-61	0.21	0.16	0.07	K1				27
3481	J-61	0.23	0.15	0.06	K1a				27
3482	J-61	0.15	0.12	0.05	K1a				
3483	J-61	0.17	0.13	0.03	K1a				
3484	J-61	0.13 (0.11)	0.05	0.05	K1a	<1048			
3485	J-61	0.59	0.33	0.16	1: K1c, 2: K1a	<3487			65
3486	J-61	0.20	0.15	0.05	C1c				
3487	J-61	0.20 (0.18)	0.20	K1c	>3485				65
3488	J-61	0.15	0.12	0.08	K1c				
3489	J-61	0.15	0.11	0.15	K1a				65
3490	J-61	0.26	0.21	0.16	C1a				
3491	J-61	0.44	0.32	0.05	K1a				
3492	J-60	0.15	0.13	0.10	K1c				16・65
3493	J-60	0.20	0.15	0.12	K1a				27
3494	J-60	0.08	0.08	0.04	C1c	≠P198			65
3495	J-60	0.15	0.12	0.07	K1c				65
3496	J-60	0.11	0.06	0.04	K1a				65
3497	J-60	0.18	0.13	0.06	K1c				65
3498	J-59	0.17	0.15	0.11	K1a				
3499	I-59	(0.55)	(0.17)	0.07	C1a	<P26			
3500	I-59	(0.46)	(0.32)	0.06	C1a	<P26			
3501	I-59	0.13	0.11	0.05	K1a 炭多				16
3502	I-60	0.21	0.16	0.15	K1a 炭少				16
3503	I-60	(0.18)	0.15	0.03	K1a	<3504			
3504	I-60	0.17	0.15	0.05	K1a	>3503			
3505	I-60	(0.20)	0.15	0.17	C1c	<P28	IVc (1)		27
3506	I-60	0.17	0.15	0.15	K1c 炭少				27
3507	I-60	0.15	0.12	0.06	K1a				27
3508	I-60	0.11	0.09	0.03	K1a				
3509	I-60	0.20	0.15	0.05	K1a				
3510	I-60	0.11	0.05	0.05	K1c				
3511	J-60	0.11	0.08	0.05	K1a				27
3512	I-61	0.18	0.14	0.15	K1				
3513	I-61	0.10	0.08	0.10	K1				
3514	I-61	(0.20)	0.15	0.08	K1a	<3515			
3515	I-61	0.17	0.15	0.05	K1a	>3514			
3516	I-61	0.16	0.11	0.05	K1a				
3517	I-61	0.26	0.22	0.15	C1				
3518	I-61	0.33	0.21	0.28	1: C1c, 2: C1a	>3519			
3519	I-61	0.26	0.21	0.44	C1a	<3518			
3520	I-61	0.56	0.49	0.32	C1c 炭少				
3521	I-61	0.23	0.16	0.05	K1a				
3522	I-J-61	0.18	0.15	0.05	K1c	<H17P1			
3523	I-J-61	0.15	0.13	0.05	K1c	<H17P1			
3524	I-61	0.16	0.15	0.05	K1	<H17P1			
3525	I-61	0.15	0.13	0.04	C1c				27
3526	I-61	0.34	0.25	0.06	C1c				27
3527	I-61	0.21	0.19	0.11	K1				
3528	h-I-61	0.13	0.15	0.04	K1c				
3529	h-61	0.24	0.16	0.04	K1c				
3530	I-61	0.18	0.13	0.14	K1c				16

S P規模一覽 (48)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3531	i-62	0.18	0.14	0.05	C1a				
3532	i-63	0.18	0.18	0.15	C1c 炭少				
3533	i-62	0.30	0.26	0.16	K1a 炭多	>P275			
3534	i-62	0.54	0.35	0.08	C1c 炭多				
3535	i-62	0.42	0.29	0.06	C1a				
3536	i-62	0.27	0.24	0.06	C1a				
3537	i-62	0.19	0.16	0.04	C1a				
3538	i-62	(0.29)	(0.29)	0.13	C1a	<P25			
3539	i-62	0.20	0.18	0.06	C1c				
3540	i-62	0.23	0.19	0.06	K1a				
3541	i-62	0.15	0.09	0.08	K1a				
3542	i-62	0.27	0.18	0.16	K1a				
3543	i-62	0.18	0.15	0.07	K1a				
3544	i-63	0.15	0.13	0.06	C1a				
3545	i-62	0.11	0.08	0.06	K1a	<3546			
3546	i-62-63	0.24	0.20	0.08	C1c	>3545			
3547	i-63	0.28	0.14	0.05	C1a				
3548	i-63	0.10	0.09	0.06	C1a	<F64			
3549	i-63	0.29	0.15	0.03	C1a				
3550	i-63	0.09	0.09	0.03	K1a				
3551	i-63	0.12	0.10	0.03	K1c				
3552	i-63	0.18	0.15	0.06	C1c				
3553	i-63	(0.27)	(0.20)	0.10	C1a	≠P50			
3554	i-63	(0.22)	(0.18)	0.08	C1a	≠P50			
3555	i-63	0.25	0.22	0.20	A1	≠P50			
3556	i-63	(0.22)	(0.07)	0.30	K1a				
3557	i-63	0.25	(0.20)	0.06	C1a	≠P50			
3558	i-63	0.27	0.21	0.15	C1a				
3559	i-63	0.31	0.27	0.06	C1a		IVc (2)	剥(2)	
3560	i-63	0.20	0.14	0.19	K1				
3561	i-63	0.10	0.09	0.03	K1a				
3562	i-63	0.34	0.15	0.05	C1c				
3563	i-64	0.31	0.25	0.05	K1a				
3564	i-64	0.28	0.22	0.05	K1a				
3565	i-64	0.25	0.23	0.07	C1c				75
3566	i-64	0.29	0.26	0.07	K1a				
3567	i-64	0.20	0.18	0.05	C1a				
3568	i-64	0.24	0.17	0.05	C1a				
3569	i-64	0.23	0.19	0.06	C1a				
3570	i-64	0.30	0.17	0.07	C1a				
3571	i-64	0.29	0.20	0.05	C1a				
3572	i-64	0.45	0.30	0.07	C1a				
3573	i-64	0.33	0.28	0.08	C1a				
3574	i-64	0.28	0.24	0.07	C1a				
3575	i-64	0.28	0.23	0.05	C1a				
3576	i-64	0.15	0.08	0.03	不明				
3577	i-64	0.26	0.16	0.07	不明				
3578	h-64	0.20	0.17	0.12	K1				
3579	h-63	0.23	0.20	0.10	K1				
3580	h-63	0.20	0.16	0.09	K1c			IVc (2)	
3581	h-63	(0.43)	(0.27)	0.59	K1	<1880			
3582	h-63	(0.32)	(0.30)	0.38	不明	<1880			
3583	h-63	(0.15)	(0.11)	0.03	K1a				
3584	h-63	(0.12)	(0.10)	0.03	C1a				
3585	h-63	0.13	0.11	0.02	K1a				
3586	h-62-63	0.18	0.15	0.05	C1a				
3587	h-63	0.24	0.18	0.07	C1a				
3588	h-63	0.15	0.13	0.05	C1a				
3589	h-63	0.18	0.12	0.05	C1c	<1877			
3590	h-63	0.27	0.22	0.09	K1a				
3591	h-63	0.22	0.14	0.03	K1				
3592	h-63	0.25	0.23	0.18	K1a				
3593	h-63	0.17	0.12	0.05	K1a				
3594	h-62	0.19	0.16	0.05	C1a				
3595	h-62	0.16	0.14	0.03	C1a				
3596	h-62	0.17	0.17	0.04	C1a				
3597	h-62	0.14	0.13	0.05	K1a				
3598	h-62	0.10	0.09	0.08	K1a				
3599	h-62	0.20	0.14	0.05	K1a				
3600	h-62	0.23	0.17	0.10	K1a				
3601	n-64	0.18	0.18	0.05	B1a				
3602	n-64	0.16	0.15	0.17	B1a				
3603	n-64	0.20	0.18	0.14	B1a				
3604	n-64	0.22	0.20	0.16	A1a	≠3605		IVc (1)	
3605	n-64	0.44	0.43	0.52	B1a	≠3604・3606			

SP規模一覽 (49)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3606	□-64	0.28	0.24	0.21	B1a	#3605	IVc (4)		
3607	□-64	0.16	0.14	0.12	B1a		IVc (1)		
3608	□-64	0.24	0.16	0.15	B1a				
3609	□-64	0.16	0.14	0.10	B1a	<3610			41
3610	□-64	0.14	0.14	0.16	B1a	>3609			41
3611	□-64	0.18	0.16	0.09	B1a				41
3612	□-64	0.17	0.17	0.12	B1a				41
3613	□-64	0.14	0.13	0.06	B1a				41
3614	□-64	0.14	0.13	0.08	B1a				41
3615	□-64	0.18	0.16	0.09	B1a				
3616	□-64	0.16	0.16	0.09	B1a				
3617	□-64	0.10	0.10	0.08	B1a				
3618	□-64	0.10	0.08	0.08	B1a				
3619	□-64	0.34	0.24	0.10	B1a				
3620	□-64	0.28	0.20	0.20	B1a				41
3621	□-64	0.18	0.17	0.12	B1a				41
3622	□-64	0.21	0.17	0.14	B1a	<3623			41
3623	□-64	0.17	0.14	0.06	B1a	>3622			41
3624	□-64	0.19	0.18	0.16	B1a				41
3625	□-64	0.20	0.16	0.07	B1a				41
3626	□-64	0.34	0.20	0.14	B1a				41
3627	□-64	0.27	0.20	0.17	B1a				41
3628	□-64	0.43	0.26	0.17	B1a				
3629	□-64	0.22	0.16	0.19	B1a				
3630	□-64	0.14	0.14	0.13	B1a				
3631	□-64	0.13	0.12	0.09	B1a				41
3632	□-64	0.24	0.15	0.10	B1a				41
3633	□-64	0.17	0.16	0.09	B1a				41
3634	□-64	0.20	0.17	0.13	B1a	>3635			41
3635	□-64	0.24	0.18	0.08	B1a	<3634			41
3636	□-64	0.26	0.24	0.14	B1a				
3637	□-63	0.20	0.16	0.12	B1a				
3638	□-63	0.25	0.24	0.15	B1a				
3639	□-63	0.20	0.19	0.19	B1a				
3640	□-63	0.21	0.20	0.11	B1a	>3650			
3641	□-63	0.20	0.17	0.08	B1a				
3642	□-63	0.20	0.20	0.13	B1a	<F40			
3643	□-63	0.19	0.16	0.10	B1a				
3644	□-63	0.21	0.18	0.04	B1a				
3645	□-63	0.18	0.16	0.09	B1a				
3646	□-64	0.19	0.17	0.06	B1a				
3647	□-64	0.29	0.23	0.40	B1a				
3648	□-64	0.34	0.26	0.08	A1a		IVc (1)		
3649	□-64	0.22	0.20	0.06	B1a				
3650	□-63	0.22	0.22	0.23	B1a	<3640			
3651	□-62	0.40	0.33	0.29	A1a	>P198	IVc (1)		
3652	□-64	0.24	0.22	0.11	A1a		IVc (6)		
3653	□-64	0.15	0.14	0.40	A1a				
3654	□-64	0.15	0.13	0.30	B1a				
3655	□-64	0.46	0.45	0.27	B1a		IVc (1)		
3656	□-64	0.14	0.14	0.80	B1a				
3657	□-64	0.14	0.15	0.60	B1a				
3658	□-64	0.18	0.16	0.40	B1a				
3659	□-63	0.56	0.46	0.38	1: A1a, 2: C1a, 3: B1c, 4: B1a		IVc (3)		
3660	□-63	0.18	0.15	0.15	B1a	>4815			
3661	□-63	0.14	0.13	0.70	B1a				
3662	□-63	0.23	0.20	0.29	B1a				
3663	□-63	0.18	0.16	0.09	B1a				
3664	□-63	0.23	0.22	0.12	B1a	<P97			
3665	□-63	0.14	0.12	0.06	B1a				
3666	□-63	0.17	0.16	0.12	B1a				
3667	□-63	0.30	0.24	0.14	B1a				
3668	□-63	0.40	0.35	0.42	B1a		IVc (3)		
3669	□-63	0.18	0.16	0.22	B1a				
3670	□-63	0.44	0.26	0.12	B1a				
3671	□-63	0.22	0.22	0.09	B1a				
3672	□-64	0.20	0.20	0.09	B1a				
3673	□-63	0.25	0.20	0.08	B1a				
3674	□-63	0.18	0.16	0.05	B1a				
3675	□-63	0.13	0.12	0.13	B1a				
3676	□-63	0.21	0.21	0.14	B1a				
3677	□-63	0.11	0.10	0.07	B1a				
3678	□-63	0.22	0.22	0.18	B1a				
3679	□-63	0.27	0.22	0.15	B1a	<3680			
3680	□-63	0.22	0.18	0.11	B1a	>3679			

S P 規模一覧 (50)

遺構名	位置	規模			土 層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
3681	o-63	0.18	0.16	0.06	B1a				
3682	o-63	0.29	0.25	0.18	B1a				
3683	o-63	0.22	0.20	0.13	B1a				
3684	o-63	0.28	0.21	0.15	B1a	<3783	IVc (1)		
3685	o-64	0.24	0.22	0.07	B1a				
3686	o-63	0.42	0.39	0.11	B1a	<F36			
3687	o-63	0.36	0.33	0.31	B1a		IVc (1)		
3688	o-63	0.30	0.22	0.08	B1a	>H25			
3689	o-63	0.22	0.19	0.09	B1a		IVc (1)		
3690	o-63	0.22	0.20	0.15	B1a				
3691	o-63	0.18	0.15	0.14	B1a				
3692	o-64	0.54	0.48	0.45	不明	>P246	IVc (7)		
3693	o-64	0.24	0.24	0.16	B1a				
3694	o-63	0.26	0.23	0.20	B1a		IVc (1)		
3695	o-63	0.19	0.18	0.18	B1a		IVc (1)		
3696	n-63	0.20	0.19	0.10	B1a	<F66			
3697	n-63	0.21	0.20	0.16	B1a	<F66			
3698	n-63	0.17	0.18	0.12	B1a				
3699	n-63	0.19	0.18	0.14	B1a				
3700	n-63	0.17	0.15	0.04	B1a				
3701	n-63	0.23	0.20	0.15	B1a		IVc (1)		
3702	n-63	0.20	0.20	0.13	B1a				
3703	n-63	0.28	0.24	0.11	B1a				
3704	n-63	0.31	0.22	0.09	B1a				
3705	n-63	0.12	0.12	0.13	B1a				
3706	n-63	0.18	0.14	0.09	B1a				
3707	n-63	0.44	0.40	0.38	B1a	>H25	IVc (4)		
3708	n-63	0.17	0.14	0.07	B1a				
3709	n-62	0.26	0.22	0.30	B1a				
3710	n-62	0.32	0.18	0.12	B1a				
3711	n-63	0.21	0.19	0.10	B1a				
3712	n-62	0.17	0.16	0.18	B1a				
3713	n-62	0.46	0.39	0.22	B1a		IVc (7)	測(1)	
3714	n-63	0.23	0.21	0.18	B1a		IVc (1)		
3715	n-63	0.18	0.17	0.13	B1a				
3716	o-64	0.16	0.13	0.04	B1a				
3717	o-64	0.13	0.12	0.04	B1a				
3718	n-64	0.14	0.14	0.06	B1a				
3720	n-65	0.34	0.30	0.07	B1a				
3721	n-64	0.20	0.18	0.08	B1a				41
3722	l-64	0.31	0.28	0.18	A1a				
3723	l-64	0.20	0.19	0.09	B1a				
3724	l-65	0.20	0.19	0.20	B1a				
3725	l-65	0.18	0.18	0.14	B1a				
3726	l-65	0.20	0.20	0.09	B1a				
3727	l-65	0.21	0.19	0.12	B1a				
3728	l-65	0.22	0.19	0.12	B1a				
3729	l-64	0.32	0.31	0.28	B1a				
3730	l-65	0.20	0.19	0.18	B1a				
3731	k-65	0.24	0.24	0.26	B1a				
3732	k-65	0.16	0.15	0.13	B1a				
3733	k-66	0.28	0.25	0.14	B1a				
3734	k-65	0.12	0.12	0.05	B1a	<P117			
3735	k-65	0.32	0.28	0.16	B1a				
3736	k-65	0.24	0.20	0.10	B1a				15
3737	k-65	0.25	0.22	0.10	B1a				42
3738	j-65	0.36	0.31	0.51	B1a				42
3739	j-65	0.30	0.25	0.22	A1a			測(1)	42
3740	j-65	0.20	0.19	0.09	B1a				15
3741	j-65	0.17	0.16	0.07	B1a				15
3742	j-65	0.24	0.20	0.08	B1a				42
3743	j-65	0.41	0.37	0.60	1: A1a, 2: B1a, 3: C1a			たたき(1)	42
3744	j-65	0.30	0.27	0.24	B1a				42
3745	j-65	0.26	0.22	0.29	B1a				15
3746	j-65	0.21	0.17	0.08	B1a				15
3747	l-65	0.30	3.27	0.43	B1a				42
3748	l-65	0.30	0.23	0.42	B1a				42
3749	l-65	0.30	0.28	0.22	A1a				42
3750	l-65	0.13	0.13	0.09	B1a				
3751	l-65	0.14	0.13	0.06	B1a				
3752	l-65	0.14	0.14	0.11	B1a			測(2)	
3753	l-65	0.26	0.21	0.19	B1a				
3754	l-65	0.34	0.33	0.40	B1a				
3755	l-66	0.14	0.12	0.10	A1a				
3756	l-66	0.20	0.15	0.07	B1a				

SP規模一覧 (51)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3757	l-66	0.33	0.29	0.11	B1a		IVc (1)	剥(5)	
3758	l-66	0.32	0.27	0.24	B1a				
3759	l-66	0.23	0.22	0.09	B1a				15
3760	j-66	0.23	0.22	0.23	B1a		IVc (8)	剥(1)	
3761	j-66	0.22	0.21	0.16	B1a		IVc (1)		
3762	j-66	0.27	0.26	0.16	B1a				
3763	j-66	0.16	0.14	0.07	B1a				
3764	j-66	0.28	0.25	0.41	B1a		IVc (2)		101
3765	j-66	0.20	0.19	0.12	B1a				
3766	k-66	0.36	0.26	0.16	B1a				
3767	k-66	0.27	0.23	0.10	B1a				
3768	k-66	0.22	0.21	0.11	B1a				
3769	k-66	0.20	0.19	0.14	B1a				
3770	k-66	0.32	0.30	0.32	B1a		IVc (9)		
3771	k-66	0.20	0.18	0.17	B1a		IVc (1)		15
3772	k-66	0.22	0.21	0.19	B1a		IVc (2)		
3773	l-65	0.16	0.13	0.11	B1a				
3774	l-65	0.20	0.15	0.06	B1a				
3775	l-65	0.14	0.14	0.05	B1a				
3776	m-65	0.15	0.13	0.11	B1a				
3777	m-65	0.12	0.12	0.04	B1a	<P165			
3778	l-65	0.20	0.16	0.07	B1a				
3779	l-65	0.16	0.13	0.04	B1a				
3780	m-65	0.24	0.15	0.12	B1a				
3781	m-65	0.19	0.18	0.08	B1a				
3782	o-63	0.31	0.30	0.15	B1a	>H25	IVc (2)	剥(3)	
3783	o-63	0.16	0.14	0.04	B1a	>3684			
3784	n-64	0.24	0.16	0.04	B1a	<3683			
3785	m-64	0.25	0.16	0.28	B1a	<P244			
3786	k-66	0.14	0.13	0.05	B1a				
3787	k-66	0.20	0.16	0.10	B1a				
3788	l-66	0.18	0.14	0.23	B1a				
3789	l-66	0.16	0.12	0.16	A1a			剥(2)	
3790	o-65	0.17	0.14	0.05	B1a	<P247			
3791	o-65	0.19	0.19	0.08	B1a	<P247			
3792	o-65	0.20	0.20	0.08	B1a				
3793	o-65	0.20	0.16	0.07	B1a				
3794	m-64	0.20	0.18	0.08	B1a				
3795	m-64	0.16	0.16	0.10	B1a				
3801	m-61	0.17	0.14	0.37	C1c	<P158			
3802	m-62	0.22	0.19	0.18	C1c	>P190			
3803	m-61・62	0.28	0.26	0.15	C1c	>P190			
3804	m-61	0.22	0.16	0.18	C1a	<P158			
3805	m-61	0.24	0.16	0.05	C1d	<P158			
3806	o-62	0.14	(0.02)	0.07	G1				
3807	o-62	0.45	0.36	0.38	C1a		IVc (9)	剥(3)・たたき(1)・礫(1)	103
3808	o-62	0.27	0.17	0.19	H1a			剥(1)	
3809	o-62	0.32	(0.12)	0.27	1 : B1c, 2 : 11b, 3 : G1	<P277	1b (1)		
3810	o-62	0.23	0.18	0.37	L1a				
3811	o-62	0.40	0.34	0.40	1 : B1c, 2 : G1a		IVc (1)	剥(2)	103
3812	o-62	0.22	0.20	0.17	L1d			たたき(1)	
3813	o-62	0.35	0.27	0.28	B1a		IVc (1)	剥(1)	
3814	o-62	0.18	0.17	0.18	G1	>H25			
3815	n-62	0.18	0.15	0.15	G1c				
3816	n-62	0.14	0.12	0.20	H1c				
3817	n-62	0.35	(0.12)	0.40	G1a	≠P146			
3818	n-62	0.27	0.24	0.07	F1c				
3819	n-62	0.32	0.22	0.35	F1c				
3820	n-62	0.18	0.13	0.13	F1c		IVc (7)	礫(1)・剥(2)	
3821	n-62	0.17	0.12	0.10	G1d			剥(9)・斧(1)	
3822	n-62	0.26	0.23	0.36	C1c	<3823, ≠P146			
3823	n-62	0.21	(0.18)	0.25	1 : 1, 2 : G1a	>3822			
3824	n-62	0.19	0.18	0.09	L1a				
3825	n-62	0.08	0.07	0.12	C1				
3826	n-62	0.08	0.07	0.09	C1a				41
3827	n-62	0.10	0.09	0.07	L1d				41
3828	n-62	0.31	0.24	0.60	1 : H1a, 2 : 11a				
3829	n-62	0.21	0.19	0.23	C1a				
3830	n-62	0.07	(0.06)	0.06	G1a				
3831	n-62	0.20	0.19	0.20	C1a		IIIb (1)・IVc (5)		41
3832	n-62	0.40	0.35	0.28	1 : C1a, 2 : H1b	>H25			103
3833	o-62	0.24	0.22	0.20	C1b	>H25	IVc (2)		
3834	o-62	0.21	0.19	0.09	B1a	>H25			
3835	n-63	0.17	0.16	0.12	C1d	>H25		礫(1)	
3836	m-62	0.29	0.24	0.11	C1a				

SP規模一覽 (52)

遺構名	位置	規模			土 層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
3837	n-62	0.19	0.17	0.14	C1a				41
3838	n-62	0.13	0.10	0.11	H1d 炭泥		IVc (1)		
3839	n-62	0.20	0.16	0.10	G1a		IVc (2)	剝(3)・礫(1)	
3840	n-62	0.25	(0.18)	0.20	B1c		IVc (1)		
3841	m-62	0.25	0.20	0.15	G1a				
3842	m-62	0.33	0.26	0.19	G1c				
3843	m-62	0.50	0.44	0.22	1: C1a, 2: J4, 3: C1c	>3836, ≠3844	IVc (2)		
3844	m-62	0.15	0.15	0.15	C1a	≠3843			41
3845	m-62	0.37	0.31	0.13	G1a				
3846	m-62	0.25	0.21	0.12	G1c				
3847	m-62	0.26	0.25	0.18	C1a				
3848	m-62	0.36	0.34	0.23	B1a		IVc (1)		
3849	m-62	0.29	0.25	0.13	B1a				
3850	m-62	0.28	0.22	0.11	I1c				
3851	m-62	0.11	0.10	0.07	C1c				41
3852	m-62	0.20	0.18	0.09	G1c		IVc (1)		
3853	m-62	0.40	0.33	0.26	I1a				
3854	m-62	0.22	0.18	0.06	B1c				
3855	m-62	0.29	0.25	0.26	C1a		IVc (2)		
3856	m-62	0.16	0.15	0.10	G1a		IVc (2)		
3857	l-m-62	0.29	0.28	0.58	1: G1a, 2: I1a	<F33, ≠P89			
3858	l-62	0.16	0.11	0.09	G1c	≠P89	IVc (2)		
3859	l-62	0.15	0.12	0.09	G1				
3860	l-62	0.13	0.12	0.15	H1d 炭泥				
3861	l-62	0.19	0.14	0.10	L1				
3862	l-62	0.24	0.19	0.08	B1a				
3863	l-62	0.20	0.09	0.08	I1a 炭泥				
3864	l-62	0.16	0.09	0.05	F1a				
3865	l-62	0.45	0.25	0.14	I1a 炭泥				17
3866	l-62	0.13	0.12	0.09	I1d 炭泥				
3867	l-62	0.16	0.12	0.04	G1				
3868	l-62	0.19	0.16	0.20	G1a		IVc (2)	剝(1)	
3869	l-62	0.18	0.14	0.05	L1a				
3870	l-62	0.22	0.18	0.05	B1				17
3871	l-62	0.27	0.15	0.13	C1c	>F32			
3872	l-62	0.13	0.12	0.08	C1a				
3873	l-62	0.20	0.17	0.22	1: H1a, 2: C1	<P148			
3874	l-62	0.19	0.16	0.15	G1a	<P148			
3875	l-62	0.20	0.19	0.52	H1a	≠F32			
3876	l-62	0.21	0.16	0.10	G1d	≠F32			
3877	l-62	0.29	0.22	0.25	C1a				
3878	l-62	0.09	0.06	0.08	C1c				
3879	l-62	0.11	0.10	0.16	C1d				
3880	l-62	0.47	0.32	0.32	C1a	≠3881		剝(1)	17
3881	l-62	0.15	0.09	0.12	C1a	≠3880			
3882	l-62	0.17	0.14	0.20	C1a				
3883	l-62	0.12	0.09	0.15	F1a				
3884	l-62	0.18	0.14	0.20	G1a		IVc (3)		
3885	l-62	0.12	0.12	0.10	H1a				
3886	l-62	0.17	0.15	0.06	L1a				
3887	l-62	0.16	0.14	0.19	B1a				
3888	k-l-62	0.10	0.09	0.03	L1				
3889	k-62	0.22	0.14	0.15	H1a				
3890	k-61	0.34	0.20	0.18	G1a 炭泥			剝(2)	17
3891	k-61	0.45	0.23	0.19	H1a				17
3892	k-61	0.18	0.13	0.08	I1a				
3893	k-61	0.15	0.11	0.08	H1d				
3894	k-61	0.16	0.13	0.08	G1d				
3895	l-61	0.35	0.30	0.25	C1d			剝(2)	
3896	n-60	0.12	0.10	0.06	C1	<883			
3897	o-60	0.13	0.10	0.10	I1c				
3898	o-60	0.17	0.13	0.13	H1d				5
3899	p-60	0.15	0.12	0.13	G1c				
3900	p-60	0.11	0.10	0.17	L1				
3901	o-61	0.14	0.12	0.08	G1				
3902	o-61	0.14	0.13	0.07	G1				5
3903	o-61	0.13	0.11	0.10	C1				5
3904	p-60	0.33	0.32	0.21	1: I1, 2: G1d				
3905	p-61	0.15	0.13	0.18	不明				
3906	m-61	0.11	0.10	0.04	B1				
3907	m-61	0.13	0.09	0.09	B1c	>3908			
3908	m-61	0.25	0.22	0.23	B1a	<3907			
3909	m-61	0.17	0.12	0.08	B1c				
3910	m-61	0.25	(0.17)	0.20	C1a	≠P158			

S P 規模一覧 (53)

遺構名	位置	規模			土 層	重視関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
3911	m-61	(0.42)	0.34	0.80	1: C1a, 2: F1a 口粒多, 3: I1a 炭泥 4: E4	<P158			
3912	l-63	0.14	(0.12)	0.09	L1c	<P116			
3913	l-63	0.15	(0.14)	0.03	L1c	<P116			
3914	l-63	0.22	(0.20)	0.12	L1a				
3915	l-63	0.16	0.13	0.13	G1a				
3916	l-63	0.19	0.16	0.09	G1a	<2779			
3917	l-63	0.14	(0.10)	0.15	G1c	<2779			
3918	l-63	0.17	0.12	0.06	H1c				
3919	l-63-64	0.27	0.26	0.14	C1c	<1913		刺(2)	
3920	l-63	0.21	0.19	0.18	L1d	<1919			
3921	l-63	0.15	0.11	0.20	I1c				
3922	l-63	0.16	0.13	0.08	G1c	<1916			
3923	l-64	0.22	0.18	0.08	H1c				
3924	l-64	0.34	0.25	0.38	1: H1a, 2: C1d		IVc (2)	たたき(1)	
3925	l-64	0.33	0.23	0.14	L1a				
3926	l-64	0.16	0.13	0.09	L1d				
3927	l-64	0.19	0.15	0.05	H1d				
3928	l-63	(0.25)	0.17	0.20	L1a 炭泥				
3929	l-63	0.19	0.14	0.07	H1a				
3930	o-62	0.20	(0.12)	0.13	C1a	<2398			
3931	m-62	0.24	0.22	0.09	B1c				
3932	m-62	0.23	0.20	0.10	B1c				
3933	m-62	0.19	0.12	0.08	B1a				
3934	l-62	0.21	0.14	0.27	F1a	≠P148			
3935	l-63	0.15	0.14	0.16	C1c				
3936	m-62	0.15	0.09	0.18	B1a	<3843			41
3937	l-61-62	0.21	0.20	0.11	A1a				
3938	o-62	0.10	0.08	0.12	G1d				
3939	o-61	0.12	0.10	0.10	L1c				5
3940	o-61	0.16	0.14	0.09	G1c				5
3941	o-61	0.10	0.09	0.04	G1c				5
3942	n-62	0.15	0.11	0.05	L1d				
3943	n-61	0.15	0.12	0.05	L1a 口粒多				
3944	n-62	0.08	0.07	0.04	C1d				
3945	n-62	0.09	0.07	0.03	G1b				
3946	n-62	0.21	0.16	0.15	H1a				
3947	p-62	0.25	0.20	0.15	C1a				
3948	o-62	0.17	0.14	0.07	L1c				
3949	m-63	0.13	(0.12)	0.12	H1a	≠P198			
3950	l-61	0.14	0.10	0.10	G1c				
3951	i-52	0.19	0.18	0.07	B1c				59
3952	i-52	0.18	0.17	0.10	D1b				
3953	i-52	0.21	0.19	0.07	I3				19
3954	j-52-53	0.24	0.22	0.06	D1b				36
3955	j-53	0.12	0.10	0.04	C3b				
3956	k-52	0.24	0.21	0.14	J3				
3957	k-52	0.25	0.19	0.11	I3c				
3958	k-52	0.26	0.08	0.12	I3c				
3959	k-52	0.26	0.22	0.10	B1c				36
3960	k-52	0.23	0.20	0.16	D1b				
3961	k-52	0.25	0.20	0.11	C3c				
3962	k-52	0.28	0.28	0.13	I3c				
3963	k-53	0.16	0.15	0.10	B1b				25
3964	j-54	0.10	0.10	0.04	B1c				25
3965	j-54	0.15	0.13	0.08	B1c				25
3966	j-54	0.20	0.19	0.18	B1b				25
3967	j-k-54	0.16	0.12	0.04	I3				
3968	j-k-54	0.58	0.24	0.32	B1b				
3969	k-55	0.20	0.16	0.10	B1c				17-25
3970	k-54	0.50	0.39	0.10	D1b				25
3971	l-54	0.24	0.48	0.10	D1b				25
3972	k-54	0.18	0.14	0.07	D1b				
3973	k-54	0.16	0.14	0.07	B1b				36
3974	l-54	0.22	0.16	0.10	I3				
3975	l-53	0.18	0.17	0.08	I3				
3976	l-54	0.22	0.16	0.07	D1b				3
3977	l-54	0.16	0.14	0.09	C3b				3
3978	l-54	0.11	0.09	0.12	C3b				37
3979	l-53	0.23	0.16	0.01	I3c				
3980	m-53	0.14	0.12	0.10	I3c	<508			3
3981	l-52	0.14	(0.13)	0.10	B1c				60
3983	m-53	0.12	0.11	0.07	I3c				7
3984	m-53	0.22	0.22	0.16	B1c	<511			
3985	n-53	0.15	(0.13)	0.14	B1c				9

S P 規模一覽 (54)

遺構名	位置	規模			土層	重複關係	出土遺物		建物No.
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
3986	n-54	0.16	0.13	0.08	I3	<F19			
3987	n-54	0.21	0.16	0.13	C3c				4
3988	n-54	0.18	0.17	0.07	I3	<527			3
3990	n-55	0.16	0.14	0.11	D1b				
3991	n-55	0.19	0.14	0.21	B1c				
3992	n-55	0.27	0.20	0.14	I3c				
3993	n-55	0.16	0.14	0.13	C3c				2
3994	j-54	0.11	0.10	0.02	D1b				25
3995	j-54	0.10	0.06	0.03	D1b				
3996	k-55	0.12	0.12	0.05	B1c	<H2P6			30
3997	k-56	0.14	0.14	0.05	I3c				30
3998	l-56	0.27	0.23	0.08	C3b				
3999	l-56	0.10	0.10	0.04	D1b				
4000	n-57	0.31	0.26	0.21	C3c	<4601			
4001	h-62	0.10	0.09	0.05	K1a				
4002	h-61	0.25	0.23	0.10	K1a				
4003	h-61	0.19	0.14	0.05	K1a				
4004	h-61	0.28	0.23	0.05	K1a				
4005	h-61	0.20	0.16	0.06	K1a				
4006	h-62	0.14	0.13	0.04	K1a				
4007	h-62	0.19	0.16	0.09	K1				
4008	h-62	0.20	0.19	0.05	K1a				
4009	h-62	0.16	0.11	0.16	C1a				
4010	h-61	0.19	0.17	0.02	K1a	<1175			
4011	h-61	0.15	0.13	0.03	K1a				
4012	h-61	0.13	0.08	0.04	C1a				
4013	h-61	0.11	0.08	0.04	K1a				
4014	h-61	0.34	0.22	0.12	K1a				
4015	h-61	0.21	0.18	0.05	C1a				
4016	h-61	0.16	0.10	0.04	K1a				
4017	h-61	0.15	0.14	0.05	C1a				
4018	h-61	0.13	0.10	0.04	K1a				
4019	h-61	0.14	0.13	0.06	K1a				
4020	h-61	0.14	0.14	0.16	K1a				
4021	h-61	0.32	0.18	0.19	1: C1a 炭少, 2: K1a		IVc (2)		
4022	h-61	0.14	0.09	0.10	K1				
4023	h-61	0.09	0.07	0.06	K1c				
4024	h-61	0.25	0.13	0.03	K1c				
4025	h-61	0.20	0.15	0.02	K1c				
4026	g-61	0.28	0.11	0.05	C1a				
4027	m-64	0.17	0.16	0.04	不明				
4028	j-63	0.28	0.23	0.42	C1a	<P276			
4029	h-60	0.09	0.08	0.04	K1c				
4030	h-60	0.17	0.10	0.02	C1a				
4031	h-60	0.20	0.16	0.05	K1a				
4033	h-60	0.12	0.10	0.07	C1c				
4034	h-60	(0.15)	(0.15)	0.09	K1a	<383			
4035	h-60	(0.20)	(0.15)	0.09	K1a	<383			
4036	h-60	0.25	0.20	0.15	K1a				
4037	h-60	0.23	0.19	0.10	C1c		IVc (1)		
4038	h-60	0.40	0.24	0.10	K1a				
4039	h-60	0.12	0.10	0.15	K1a				
4040	h-60	(0.21)	(0.17)	0.10	K1a	<355			
4041	h-60	0.25	(0.24)	0.20	C1a	<355			
4042	h-60	0.20	0.16	0.06	K1a			礫(1)	
4043	h-60	0.29	0.14	0.06	K1				
4044	h-60	0.14	0.14	0.08	K1a				
4045	h-60	0.19	0.15	0.07	K1a				
4046	h-60	0.20	0.18	0.06	K1a				
4047	h-60	0.21	0.15	0.05	K1a	<F27			
4048	h-60	0.27	0.18	0.05	1: C1a, 2: K1a	<F27			
4049	h-60	0.31	0.29	0.19	C1c	<F27	IVc (7)	礫(2)	
4050	h-60	0.23	0.22	0.09	C1a 炭多	>4051			
4051	h-60	0.25	0.18	0.05	C1a	<4050			
4052	h-59	0.17	0.14	0.06	C1c	4053<4052<4054			16
4053	h-59	0.30	0.27	0.15	C1a	<4052			16
4054	h-59	0.23	0.17	0.06	究明・不明	>4052・4053			16
4055	g-59	0.07	0.05	0.04	J4				
4056	g-59	0.29	0.22	0.12	K1a				
4057	g-59	0.16	0.14	0.11	K1a 炭少				
4058	g-60	0.14	(0.10)	0.07	K1a	<339			
4059	g-60	0.22	0.19	0.08	K1c		IVc (2)		
4061	g-60	0.18	0.12	0.05	C1a				16
4063	g-60	0.10	0.08	0.03	K1				
4064	g-60-61	0.17	0.15	0.10	K1a				

SP規模一覧 (55)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4065	g-61	0.14	0.10	0.03	K1a				
4066	g-60	(0.60)	0.35	0.15	K1	≠P49	IVc (12)	磁(1)・剥(9)	
4067	g-60	0.16	0.12	0.04	K1				
4068	g-60	0.36	0.28	0.29	1: K1c, 2: K1a	>4069	IVc (10)	剥(2)	46
4069	g-60	0.50	0.34	0.41	1: C1a, 2: K1c	<4068	IVc (3)	剥(1)	46
4070	g-60-61	0.18	0.15	0.18	C1c			斧(1)	
4071	g-60	0.14	0.11	0.31	C1c		IVc (15)	剥(1)・礫(1)	
4072	g-61	0.38	0.24	0.39	K1c		IVc (5)	剥(1)・礫(2)	
4073	g-61	0.43	0.40	0.52	K1a	<4132			
4074	g-60	(0.26)	0.13	0.04	K1	<1165	IVb-4 (1)・IVc (17)	フリル(1)・剥(25)	46
4075	g-61	0.10	0.09	0.10	K1a	<4077			
4076	g-61	0.14	0.11	0.06	K1a				
4077	g-61	0.14	0.09	0.15	K1a	>4075			
4078	g-61	0.15	0.10	0.06	K1a				
4079	g-61	0.21	0.15	0.07	K1a		IVc (1)		
4080	g-61	0.20	0.19	0.10	K1a				
4081	g-61	0.24	0.13	0.03	K1				
4082	g-61	0.15	0.13	0.04	C1a	<1162			
4083	g-61	0.15	0.13	0.04	K1a				
4084	g-61	0.31	0.23	0.05	K1a				
4085	g-61	0.15	0.11	0.09	K1a				
4086	g-61	0.13	0.10	0.04	K1a				
4087	g-61	0.13	0.09	0.15	K1a				
4088	g-61	0.08	0.08	0.02	C1a				
4089	g-61	0.07	0.06	0.03	C1a				
4090	g-61	0.20	0.14	0.07	K1a				
4091	g-61	0.15	0.09	0.07	C1c				
4092	g-61	0.35	0.26	0.10	A1a				
4093	g-61	0.45	0.23	0.17	A1a		IVc (1)		
4094	g-61	0.16	0.14	0.12	K1a				
4096	g-61	0.22	0.18	0.08	A1a 炭多		IVc (1)		
4097	g-61	0.25	0.19	0.07	A1				
4098	g-61	0.19	0.14	0.23	K1a				
4099	g-61	0.22	0.09	0.07	K1a				
4100	g-61	0.26	0.17	0.04	K1a				
4101	g-61	0.18	0.11	0.04	K1a	<4102			
4102	g-61	0.15	0.14	0.06	C1a	>4101			
4103	g-61	0.30	0.26	0.05	C1a			剥(2)	
4104	g-61	0.24	0.20	0.10	C1				
4105	g-61	0.16	0.11	0.03	K1a				
4106	g-61	0.19	0.11	0.04	K1a				
4107	g-60-61	0.36	0.23	0.10	C1a				
4108	g-61	0.23	0.18	0.35	K1a				
4109	g-61	0.15	0.11	0.12	K1a				
4110	g-61	0.14	0.10	0.03	K1a				
4111	g-61	0.22	0.18	0.17	K1a		IVc (1)		
4112	g-61	0.26	0.20	0.07	K1a				
4113	g-61	0.19	0.16	0.03	K1a				
4114	f-g-61	0.15	0.14	0.05	K1a			斧(1)	
4115	f-61	0.10	0.07	0.02	K1a				
4116	f-61	0.15	0.11	0.09	K1a				
4117	f-60	(0.40)	0.25	0.15	K1a	>4118, ≠P49			
4118	f-60	(0.32)	(0.20)	0.10	K1a	<4117, ≠P49			
4119	f-60	0.21	0.15	0.30	K1a				
4120	f-60	0.22	0.16	0.09	K1a				
4121	g-62	0.21	0.15	0.25	K1a				
4122	g-62-63	0.29	0.18	0.06	K1a				
4123	g-62-63	0.17	0.12	0.05	K1a				
4124	f-62	0.26	(0.26)	0.47	K1a	<1085			
4125	f-62	0.49	0.45	0.84	A1a		IVc (20)	礫(1)	
4126	f-62	0.10	0.10	0.02	K1a				
4127	f-61-62	0.24	0.16	0.05	K1a				
4128	f-62	0.15	0.11	0.08	不明				
4129	f-61	0.35	0.30	0.10	K1a	>1143			
4130	f-62	0.13	0.09	0.04	K1a				
4131	f-61	0.20	0.18	0.05	K1c				
4132	g-61	0.34	0.30	0.50	1-2: K1a	>4073		剥(4)・礫(1)	46
4133	i-64	0.36	0.31	0.34	1: A1a 炭多, 2: C1a 炭少		IVc (2)		75
4134	j-64	0.50	0.36	0.40	1: A1a 炭多, 2: C1a 炭少		IVb-4 (1)・IVc (12)	礫(3)	75
4135	j-64	0.45	0.34	0.36	1: A1a 炭多, 2: C1a 炭少		IVc (6)	礫(1)	75
4136	j-63	—	—	—	切り取り				75
4137	i-64	0.50	0.42	0.25	不明	≠4530			
4138	f-61	0.30	0.30	0.49	K1a		IVc (1)		
4139	f-61	0.16	0.12	0.05	K1c				
4140	f-61	0.14	0.14	0.09	K1c				

SP規模一覧 (56)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4141	f-61	0.17	0.14	0.07	K1c	#4142			
4142	f-61	0.18	0.15	0.10	K1c	#4141			
4143	f-61	0.14	0.10	0.05	K1a				
4144	f-61	0.19	0.17	0.04	K1c				
4145	f-61	0.19	0.13	0.04	K1a				
4146	f-61	0.22	0.18	0.10	K1c				
4147	f-61	0.14	0.11	0.04	K1c				
4148	f-61	0.22	0.16	0.10	C1a				
4149	f-61	0.24	0.16	0.07	C1a				
4150	f-61	0.19	0.17	0.11	C1a				
4152	f-60	0.25	0.21	0.35	K1c				
4153	f-60	0.20	0.17	0.12	C1 炭多				たたき(1)
4154	f-60	0.41	0.22	0.12	C1c, K1c				
4155	f-60	0.20	0.10	0.06	C1a	<4156, #P49			
4156	f-60	0.35	0.21	0.17	C1a	>4155, #P49			
4157	f-60	0.26	0.20	0.18	C1a		IVc (3)		剥(1)
4158	f-60	0.25	0.18	0.02	C1a				
4159	f-60	0.21	0.16	0.09	C1a				
4160	f-60	0.19	0.11	0.04	C1a				
4161	f-60	0.22	0.12	0.03	K1a				
4162	f-60	0.12	0.09	0.02	K1a				
4163	f-60	0.16	0.11	0.05	K1a				
4164	f-60	0.17	0.10	0.03	K1a				
4165	f-60	0.16	0.11	0.04	K1a				
4166	f-60	0.17	0.11	0.09	C1c				
4167	f-60	0.34	0.19	0.14	C1c				礫(1)
4168	f-60	0.20	0.13	0.07	K1a				
4169	f-60	0.30	0.28	0.18	C1a				
4170	f-60	0.62	(0.42)	0.45	C1c	#P49	IVc (8)		斧(1) 46
4171	f-60	0.21	0.17	0.09	K1a				
4172	f-60	0.20	0.17	0.14	C1c 炭少				
4173	f-60	0.18	0.16	0.03	C1c				
4174	f-60	0.21	0.16	0.07	K1c				
4175	f-60	0.15	0.11	0.05	K1a	>4176			
4176	f-60	0.24	0.14	0.10	K1a	<4175			
4177	f-59	0.50	0.36	0.23	C1c	<1031	IVc (5)		斧(1)・たたき(1)・皿(1)
4178	f-59	0.29	0.14	0.06	K1c	<1031			
4179	f-59	0.15	0.13	0.08	K1c				
4180	g-59	0.22	(0.14)	0.08	A1a	<P112			
4181	f・g-59	0.14	0.13	0.04	K1a				
4182	g-58	0.17	0.14	0.10	K1a				
4183	f-58	0.25	0.18	0.09	K1a				
4184	f-58	0.25	0.22	0.09	K1c		IVc (1)		
4186	g-58	0.14	0.08	0.05	K1a				
4187	f-58	0.37	0.17	0.07	K1a				
4188	f-58	0.09	0.11	0.10	K1c				
4189	f-58	0.27	0.23	0.70	K1a		IVa (1)・IVc (1)		
4190	f-58-59	0.25	0.21	0.05	K1a				
4191	f-58-59	0.32	0.20	0.05	K1a				
4192	f-58	0.25	0.19	0.06	K1a				
4193	f-58	0.30	0.18	0.04	K1a				
4194	f-58	0.21	0.19	0.19	C1c				
4195	f-58	0.11	0.10	0.04	K1a				
4196	f-58	0.21	0.17	0.09	C1c				
4197	f-58	0.20	0.15	0.09	C1c				
4198	f-58	0.34	0.26	0.42	K1a				
4199	f-58	0.16	0.11	0.04	K1a				
4200	f-58	0.20	0.16	0.09	K1a				
4201	p-68	20.00	0.15	0.15	B1		IVc (2)		剥(1)
4202	p-68	0.15	0.11	0.14	B1				
4203	p-68	0.15	0.12	0.15	G1				
4204	p-68	0.21	0.14	0.10	B1				
4205	p-68	0.61	0.48	0.44	1: B1, 2: A1, 3: D1		IVc (6)		74
4206	p-68	0.15	0.11	0.10	G1				
4207	p-68	0.47	0.23	0.13	B1				
4208	p-68	0.15	0.10	0.13	B1				
4209	p-68	0.26	0.23	0.12	B1				剥(2)
4210	p-68	0.32	0.21	0.09	B1				剥(1)
4211	p-68	0.25	0.16	0.08	B1				
4212	p-68	0.23	0.19	0.25	B1		IVc (3)		
4213	p-68	0.35	0.28	0.19	A1	4231<4213<4351	IVc (36)		剥(25)・礫(2)
4214	n-65	0.16	0.12	0.10	M1				
4215	n-65	0.19	0.09	0.07	M1	>P152			
4216	n-65	0.20	0.17	0.06	A1				
4217	n-65	0.27	0.19	0.09	G1				

SP規模一覧 (57)

遺構名	位 置	規 模			土 層	重複関係	出 土 遺 物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土 器	石 器	
4218	n-65	0.17	0.11	0.04	H1				
4219	n-65	0.21	0.17	0.14	B1				
4220	n-65	0.24	0.20	0.17	B1		IVc (1)		
4221	n-65	0.21	0.17	0.13	H1				
4222	n-65	0.18	0.18	0.25	B1				
4223	n-65	0.11	0.08	0.08	G1				
4224	n-65	0.32	0.20	0.14	B1				
4225	n-65	0.18	0.17	0.09	N1	<F73			
4226	n-65	0.23	0.18	0.07	A1				
4227	n-65	0.17	0.15	0.09	B1				
4228	n-65	0.18	0.12	0.08	G1				
4229	n-65	0.15	0.13	0.06	B1				
4230	n-65	0.33	0.23	0.08	B1				
4231	p-68	0.72	0.58	0.74	1: B1, 2: N1	<4213, 4348	IVc (1)	剥(7)	
4232	p-68	0.70	0.48	0.50	B1	>4346	IVb-4 (1)・IVc (5)	剥(8)・斧(1)・環(2)	
4233	p-65	0.17	0.13	0.06	B1				
4234	p-65	0.13	0.10	0.09	G1				
4235	p-65	0.13	0.10	0.05	G1				
4236	p-65	0.12	0.10	0.05	G1				
4237	p-65	0.14	0.07	0.10	G1				
4238	p-66	0.16	0.15	0.20	G1	>P212			
4239	o-66	0.19	0.15	0.05	B1				
4240	p-66-67	0.16	0.13	0.05	G1				
4241	o-68	0.21	0.15	0.10	B1		IVc (3)	剥(1)・環(4)	
4242	n-68	0.24	0.19	0.39	1: A1, 2: B1		IVc (6)		
4244	s-60	0.08	0.07	0.13	B1				
4245	s-60	0.09	0.07	0.08	G1				
4246	s-60	0.10	0.07	0.08	G1		IVc (1)		
4248	s-60	0.22	0.19	0.24	G1				
4249	s-60	0.21	0.14	0.15	B1		IVb-4 (2)・IVc (1)		
4250	s-60	0.21	0.15	0.15	B1				
4251	s-60	0.19	0.14	0.09	B1				
4252	s-60	0.10	0.08	0.20	B1				
4253	s-60	0.10	0.09	0.18	B1				
4254	s-60	0.13	0.11	0.12	B1				
4256	r-59	0.21	0.17	0.16	B1				
4257	r-59	0.35	0.28	0.20	B1	<F55			
4258	r-59	0.24	0.19	0.10	A1				
4259	r-60	0.17	0.14	0.06	B1				
4260	r-60	0.17	0.10	0.12	B1				
4261	q-60	0.35	0.18	0.15	A1				
4262	q-60	0.25	0.18	0.11	A1				
4263	q-61	0.21	0.17	0.18	B1				
4264	q-62	0.20	0.18	0.20	B1			つまみ(1)・剥(2)	
4265	q-62	0.26	0.23	0.14	B1				
4266	q-62	0.22	0.18	0.18	A1				
4267	q-r-62	0.22	0.17	0.20	A1				
4268	r-61	0.18	0.17	0.13	A1		IVb-4 (2)・IVc (1)		
4269	s-62	0.10	0.07	0.08	A1				
4270	s-62	0.11	0.08	0.07	B1				
4271	v-62	0.23	0.21	0.13	B1				
4272	l-59	0.13	0.11	0.07	B1	<Z-1			
4273	l-60	0.28	0.20	0.40	A1				
4274	l-60	0.15	0.12	0.10	A1				
4275	u-60	0.14	0.09	0.25	B1				
4276	u-60	0.16	0.15	0.16	B1				
4277	u-60	0.25	0.19	0.41	B1				
4278	l-60	0.17	0.15	0.11	B1				
4279	l-60	0.19	0.14	0.18	B1				
4280	u-60	0.15	0.13	0.07	G1				
4281	u-60	0.22	0.18	0.24	A1				77
4282	u-60	0.10	0.09	0.07	B1				
4283	q-62	0.24	0.21	0.14	B1				
4284	q-62	0.29	0.26	0.34	B1				
4285	q-63	0.16	0.10	0.10	G1				
4286	q-63	0.22	0.18	0.18	B1	<1654			
4287	r-63	0.18	0.15	0.21	B1	<1671			
4288	q-63	0.31	0.28	0.43	B1		IVc (2)		
4289	q-63	0.14	0.10	0.13	B1				
4290	q-63	0.32	0.23	0.17	B1	>1665			
4291	q-63	0.18	0.14	0.15	B1				
4292	q-63	0.40	0.29	0.35	A1	<1659		剥(1)	
4293	q-63	0.28	0.19	0.08	A1				
4294	q-63	0.39	0.28	0.30	A1		IVc (16)		
4296	q-63	0.42	0.36	0.37	B1		IVc (2)		

S P 規模一覧 (58)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4297	q-63	0.23	0.17	0.15	B1		IVc (1)		
4298	q-63	0.29	0.20	20.00	A1				
4299	r-63	0.13	0.12	0.10	G1				
4300	q-63	0.23	0.17	0.08	B1				
4301	q-63	0.22	0.18	0.19	A1				
4302	q-63	0.23	0.15	0.14	B1	<1660			
4303	q-64	0.45	0.21	0.10	B1	>P285			
4304	q-64	0.23	0.18	0.17	B1				
4305	q-64	0.16	0.15	0.08	G1				
4306	q-64	0.22	0.17	0.35	G1				
4307	q-64	0.20	0.18	0.25	B1				
4308	q-64	0.33	0.21	0.34	B1		IVc (1)		
4309	r-64	0.13	0.13	0.08	G1				
4310	q-64	0.16	0.14	0.09	G1				
4311	r-64	0.19	0.14	0.15	B1				
4312	r-64	0.14	0.12	0.08	B1			剥(1)	
4313	r-64	0.20	0.18	0.25	B1				
4314	r-64	0.28	0.14	0.11	G1				
4315	r-64	0.18	0.15	0.15	G1				
4316	r-64	0.22	0.16	0.22	B1				
4317	r-64	0.23	0.18	0.07	B1				
4318	r-64	0.38	0.23	0.15	B1				
4319	r-64	0.21	0.16	0.13	B1				
4320	r-64	0.16	0.14	0.09	G1		IVc (8)		
4321	r-64	0.22	0.17	0.14	G1				
4322	r-63	0.16	0.11	0.09	G1	<P33			
4323	r-63	0.19	0.15	0.22	B1				
4324	r-63	0.10	0.09	0.10	B1				
4325	r-62	0.17	0.11	0.11	G1	<F54			
4326	q-63	0.29	0.23	0.36	B1		IVc (1)		
4327	q-63	0.19	0.15	0.10	B1				
4328	q-63	0.27	0.23	0.15	B1				
4329	r-62	0.11	0.09	0.16	B1				
4330	r-62	0.10	0.09	0.05	B1				
4331	r-63	0.25	0.15	0.16	B1				
4332	r-63	0.13	0.10	0.08	G1				
4333	q-66	0.18	0.15	0.07	G1			剥(1)	
4334	n-66	0.19	0.15	0.22	B1				
4337	p-66	0.12	(0.12)	0.17	B1				
4338	p-66	0.18	0.15	0.12	B1				
4339	p-66	0.40	(0.37)	0.38	A1	<4340			
4340	p-66	0.47	0.42	0.71	B1	>4339	IVc (4)	剥(2)・環(1)	
4341	q-65	0.46	0.42	0.43	B1		IVc (8)	剥(2)・環(2)	
4342	p-67	0.17	0.15	0.11	B1	<F82			
4343	p-67	0.17	0.14	0.14	B1	<F82			
4344	p-67	0.15	0.13	0.10	B1				
4345	p-68	0.30	(0.29)	0.25	B1				
4346	p-68	0.40	(0.18)	0.47	B1	<4232		剥(2)	
4347	p-68	0.36	0.32	0.67	B1	>4349	IVc (28)	環(1)・剥(22)	
4348	p-68	0.29	0.27	0.39	A1	>4231	IVc (13)	ドリル(1)・剥(12)	
4349	p-68	0.19	(0.10)	0.66	B1	<4347		剥(1)	
4350	p-68	0.37	0.26	0.50	B1		IVc (2)	剥(2)・環(1)	
4351	p-68	0.18	0.16	0.25	G1	>4213			
4352	p-68	0.18	0.17	0.15	G1				
4353	s-64	0.17	0.15	0.09	G1		IVc (1)		
4354	s-64	0.14	0.11	0.17	B1				
4355	s-64	0.14	0.12	0.13	B1				
4356	s-64	0.20	0.17	0.07	B1		IVc (1)		
4357	s-64	0.22	0.18	0.21	B1				
4358	l-64	0.15	0.13	0.16	B1				
4359	l-64	0.16	0.15	0.40	B1		IVc (3)	剥(1)	
4360	l-64	0.19	0.15	0.40	B1				
4362	s-63	0.20	0.20	0.30	B1				
4363	s-63	0.20	0.18	0.32	B1				
4364	s-62・63	0.17	0.16	0.13	A1				
4365	s-62	0.16	0.12	0.11	B1				
4366	s-62	0.12	0.10	0.14	B1				
4367	l-62	0.18	0.14	0.12	B1				
4368	l-62	0.15	0.14	0.28	B1				
4369	l-62	0.13	0.10	0.10	B1				
4370	l-62	0.15	0.12	0.20	B1				
4371	u-62	0.22	0.20	0.10	B1				
4372	u-62	0.19	0.15	0.23	B1				
4373	u-62	0.24	0.15	0.15	B1				33
4374	v-62	0.20	0.17	0.12	A1				

SP規模一覧 (59)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4375	t-61	0.22	0.20	0.25	B1				33
4376	t-60	0.25	0.22	0.13	B1				
4377	t-59	0.20	0.16	0.15	B1				
4378	s-63	0.22	0.19	0.22	A1				
4379	t-63	0.20	0.17	0.25	B1				33
4381	j-72	0.16	0.12	0.04	I3c				
4382	j-72	0.20	(0.16)	0.06	I3c				
4383	j-72	0.46	(0.24)	0.06	I3c	<P124・2027			
4384	i-72	0.16	(0.12)	0.14	C3b	<P124・4385			
4385	j-72	0.40	(0.40)	0.14	B1c	4384<4385<P124			
4386	k-72	0.13	0.13	0.10	B1c				
4387	k-71	0.13	0.11	0.06	C3c				20・62
4388	k-73	0.17	0.15	0.16	I3c	#F84			
4389	l-73-74	0.13	0.14	0.12	B1c				21
4390	l-73-74	0.18	0.16	0.10	B1c				21
4391	l-73	0.26	0.20	0.08	D1b				21
4392	m-73	0.24	0.15	0.08	D1b	<4655			
4393	i-71	0.22	(0.16)	0.04	不明	<2067			
4394	l-j-72	0.22	0.17	0.07	D1b	<4680			
4395	l-j-72	0.14	0.13	0.04	I3c	<4680			
4396	n-54	0.17	0.12	0.12	B1c	<534	IVc (1)	たたき(1)	4
4397	k-55	0.22	0.22	—	不明				
4401	n-74	0.16	0.15	0.08	C3b				
4402	n-74	0.20	0.17	0.12	B1c				
4403	n-73-74	0.18	0.17	0.04	B1c				
4404	n-73	0.34	0.32	0.06	C3c				
4405	n-73	0.21	0.19	0.04	C3c				
4406	n-74	0.30	0.22	0.11	B1c				18・23
4407	n-74	0.16	0.14	0.06	B1c				18・23
4408	n-74	0.32	0.47	0.09	D1b				18
4409	n-74	0.18	0.16	0.03	B1c				18
4410	n-74	0.56	0.36	0.52	B1b		Ib (2)	剥(1)	
4411	o-74	0.27	0.26	0.04	B1b				21
4412	n-73	0.22	0.20	0.09	I3c				23
4413	n-73	0.28	0.26	0.15	B1b	>4414			23
4414	n-73	0.30	(0.25)	0.11	D1b	<4413			23
4415	n-73	0.24	0.22	0.16	B1b				23
4416	o-73	0.24	0.22	0.08	C3c	>4417			
4417	o-73	0.22	(0.18)	0.12	C3b	<4416			
4418	o-73	0.24	0.18	0.10	C3c				21・73
4419	o-73	0.43	0.42	0.30	D1b			斧(1)	73
4420	o-74	0.38	0.35	0.80	C3b		IVc (1)		22
4421	o-74	0.17	0.14	0.18	C3b				
4422	o-p-74	0.58	0.20	0.12	B1b				22
4423	p-74	0.58	0.21	0.08	C3b				22
4424	p-74	0.16	0.14	0.01	C3b				
4425	p-74	0.46	0.38	0.57	B1c	>4426			
4426	p-74	0.38	(0.30)	0.56	F1a	<4425			
4427	p-74	0.48	0.22	0.10	I3				
4428	p-74	0.24	0.22	0.22	I3				
4429	p-74	0.41	0.39	0.57	C3c		IVc (6)		
4430	p-74-75	0.36	0.20	0.68	B1b				22
4431	p-74	0.22	0.18	0.09	D1b		IVc (1)		
4432	p-74	0.18	0.17	0.05	B1c				
4433	p-74	0.34	0.30	0.10	B1b				73
4434	p-74	0.22	0.24	0.12	I3				73
4435	p-73-74	0.30	0.28	0.24	I3				
4436	p-73	0.31	0.30	0.56	B1c				
4437	p-74	0.58	0.52	0.26	B1b				73
4438	p-74	0.22	0.22	0.08	I3c				
4439	p-73	0.23	0.21	0.22	I3c				
4440	k-70	0.12	0.10	0.04	I3				62
4441	n-74	(0.56)	(0.52)	0.31	B1b	<P265・3191			
4442	o-73	0.36	0.32	0.13	C3b				
4443	o-73	0.30	0.26	0.24	C3b				22
4444	p-73	0.38	0.36	0.20	B1c				73
4445	p-73	0.22	0.21	0.24	I3				22・73
4446	p-73	0.22	0.19	0.14	I3				73
4447	p-73	0.38	0.37	0.46	B1b				22
4448	p-73	0.18	0.16	0.08	D1b	>4449			22
4449	p-73	0.36	0.34	0.03	B1b	<4448	IVc (2)		22
4450	p-73	0.34	0.26	0.12	C3b		IVc (2)		73
4451	p-73	0.38	0.33	0.54	C3b		IVc (2)		
4452	p-73	0.24	0.24	0.16	C3b				62
4453	p-73	0.29	0.26	0.10	C3b				73

SP規模一覽 (60)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4454	p-73	0.23	0.18	0.08	B1c	>4455			73
4455	p-73	0.29	(0.17)	0.04	D1b	<4454			73
4456	p-73	0.37	0.36	0.22	B1c		IVc (1)	刺(1)・礫(1)	73
4457	p-72	0.36	(0.28)	0.29	I3	<3163			
4458	k-73	0.20	0.16	0.16	D1b				
4459	k-72-73	0.34	0.33	0.54	B1c		IVa (1)	刺(1)・礫(1)	
4460	k-72-73	0.32	0.27	0.15	I3c				
4461	k-73	0.54	0.27	0.10	C3b				
4462	k-72	0.20	0.19	0.14	I3c				
4463	i-71	0.37	(0.26)	0.33	B1c	4464<4463<2066-3001			
4464	i-71	0.32	(0.24)	0.07	D1b	<2066-3001-4463	IVc (1)	刺(1)	
4465	j-72	(0.65)	0.58	0.36	D1b	>4494・4680・4681・4682 <2130	IVc (2)	刺(3)	
4466	i-j-72	0.38	0.30	0.10	C3c	<2101			
4467	j-72	0.26	0.24	0.08	C3c				26
4468	j-72	0.60	0.45	0.16	1: C3b, 2: D1b		IVc (5)		20
4469	j-72	0.43	0.28	0.12	D1b		IVc (1)		20
4470	j-72	0.20	0.16	5.00	C3c				26
4471	j-72	0.48	0.36	0.24	D1b		IVc (2)	刺(1)	67
4472	j-72	0.46	(0.32)	0.16	D1b	<P137・2030			
4473	i-72	0.28	0.27	0.15	C3b				
4474	i-j-72	0.18	0.15	0.13	C3b				
4475	j-71	0.14	0.10	0.06	C3c				
4476	j-71	(0.18)	0.15	0.08	C3c	>4477			
4477	j-71	0.16	0.13	0.06	C3c	<4476			
4478	j-71	0.19	0.14	0.04	I3c				
4479	j-72	0.23	0.15	0.04	不明				26
4480	j-k-72	0.18	0.16	0.14	C3c				
4481	k-72	0.17	0.14	0.13	B1b				
4482	k-72	0.18	0.16	0.06	C3b				
4483	k-72	0.25	0.16	0.08	C3c	>4484			
4484	k-72	0.18	0.16	0.05	C3b	<4483	IVc (1)		
4485	k-72	0.16	0.14	0.10	C3b				20・62
4486	k-72	0.12	0.18	0.17	B1c				63
4487	k-72	0.22	0.20	0.07	B1c				
4488	j-k-72	0.23	0.22	0.05	C3b				13・62
4489	j-72	0.26	0.20	0.03	C3b				
4490	j-71-72	0.16	0.11	0.04	I3c				
4491	j-71-72	0.22	0.19	0.05	B1c				13・14
4492	j-72	0.16	0.12	0.05	D1b				14
4493	j-72	0.03	(0.24)	0.21	B1b	<2030			
4494	j-72	(0.38)	0.32	0.38	B1c	4681<4494<2130・4465	IVc (5)・土製(1)	刺(2)・礫(1)	
4495	k-71	(0.15)	0.14	0.05	I3c	≠4496			14
4496	k-71	0.18	0.16	0.07	I3c	≠4495			14
4497	j-71	0.22	0.18	0.08	I3c				
4498	k-72	0.14	(0.14)	0.14	C3b	<2042			20・62
4499	k-71-72	(0.20)	0.20	0.10	C3b	<2042			20
4500	k-72	(0.26)	(0.20)	0.09	I3c	<2022			
4501	h-58	0.19	0.13	0.05	K1a				
4502	h-57	0.15	0.12	0.03	K1a				
4503	i-55	0.56	0.50	0.30	K1a	<216			
4505	f-63	0.22	(0.16)	0.10	K1a				
4506	g-63	0.15	(0.14)	0.15	K1a			刺(1)	
4507	h-63	0.14	0.12	0.11	K1a				
4508	h-63	0.25	0.16	0.05	K1a				
4509	g-63	0.20	0.14	0.04	K1a				
4510	h-63	0.22	0.14	0.05	K1a				
4511	h-63	0.20	0.16	0.05	K1a				
4512	i-63	0.16	0.14	0.06	K1a				
4513	h-60	0.17	0.13	0.07	K1a	<357			
4514	h-59	0.17	0.13	0.02	K1a				
4515	h-60	0.15	0.09	0.06	K1a	<P41			
4516	h-60	0.20	0.16	0.32	K1a	<P41			
4517	h-60	0.25	0.18	0.11	K1c	<P41			
4518	g-60	0.16	0.13	0.07	K1a				
4519	j-62	0.34	0.21	0.10	K1c	>H33・4520・4544		刺(4)	
4520	j-62	0.48	0.36	0.13	K1a 炭少	H33<4520<4519・4521			
4521	j-62	0.19	0.15	0.20	K1c	>H33・4520			
4522	j-62	0.22	(0.19)	0.12	1: C1a, 2: K1a	>P40・P274			
4523	j-62	(0.25)	(0.17)	0.09	C1a	4547<4523<P40			
4524	j-62	(0.15)	(0.10)	0.10	不明	<P47			
4525	g-61	0.10	(0.09)	0.09	K1a	<1165			
4526	g-61	0.25	0.18	0.05	K1a				
4527	g-58	0.09	0.06	0.05	K1a				
4528	h-63	(0.82)	0.40	0.07	不明	<P271			

S P規模一覧 (61)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4529	h-63	(0.26)	(0.25)	0.39	不明	<P271			
4530	j-64	0.46	0.46	0.56	不明	≠4137			
4531	j-61	0.18	0.14	0.11	不明				
4532	j-61	0.17	0.12	0.04	不明				
4533	j-61	0.14	0.11	0.17	不明				
4534	k-61	0.14	0.10	0.05	不明				65
4535	k-61	0.10	0.10	0.02	不明				
4536	k-61	0.13	0.10	0.06	不明				
4537	j-62	0.15	0.11	0.10	不明				
4538	j-64	0.45	0.39	0.31	B1a				42
4539	j-64	0.22	0.18	0.11	不明				
4540	i-62	0.20	0.20	0.03	不明	>376			
4541	j-62	0.25	0.15	0.10	不明	>H33			
4542	j-62	0.22	0.15	0.08	不明				
4543	j-62	0.35	0.16	0.04	不明	>			
4544	j-62	0.25	0.20	0.07	不明	H33<4544<3459・4519			
4545	j-62	0.15	0.09	0.08	不明				
4546	j-61	0.15	0.11	0.04	不明				
4547	j-62	0.21	0.17	0.35	不明	<4523			
4548	j-62	0.21	0.14	0.05	不明				
4549	j-62	0.16	0.15	0.14	不明				
4550	j-63	0.26	0.20	0.16	不明				
4551	k-71	0.16	0.16	0.05	C3b				64
4552	k-71	0.12	0.10	0.05	D1b				20・62
4553	k-71	0.21	0.18	0.09	D1b				20・62
4554	k-71	0.16	0.15	0.07	C3c				
4555	k-71	0.14	0.13	0.04	C3c				
4556	k-71	0.14	0.13	0.08	C3c				
4557	k-71	0.20	0.14	0.09	D1b				20・63
4558	k-71	0.25	0.22	0.05	I3c				62
4559	k-71	0.28	0.22	0.05	C3b				
4560	k-71	(0.30)	(0.23)	0.08	I3c	<P180			
4561	i-70	0.18	0.13	0.04	C3c				
4562	j-70	0.19	0.15	0.07	C3c				62
4563	i-70・71	0.21	0.15	0.06	B1c				
4564	i-70	0.14	0.14	0.10	B1c				63
4565	i-70	0.50	0.23	0.10	I:C3b, 2:C1				
4566	i-70	0.14	0.12	0.07	I3				14
4567	i-71	0.22	(0.21)	0.06	C1	<2065			62
4568	i-70	0.14	0.14	0.04	C3c				
4569	i-71	0.17	0.17	0.08	C3c				
4570	i-71	0.16	0.13	0.07	C3c				14
4571	i-71	0.20	0.16	0.08	C3b				62
4572	i-71	0.16	0.14	0.08	C3c				14
4573	i-71	0.22	0.20	0.11	I3c				14
4574	i-71	0.24	0.21	0.18	I3c				
4575	i-71	0.23	0.19	0.17	C3c			スク(1)	
4576	i-71	0.19	0.16	0.22	C3c				
4577	h-71	0.24	0.22	0.13	I3				14・64
4578	h-71	0.20	0.18	0.08	C3c	>4579	Ivc (1)		
4579	h-71	0.12	0.11	0.04	C3c	<4578			
4580	h-72	0.20	0.18	0.08	D1b				62
4581	i-72	0.20	0.15	0.18	F1d				62
4582	i-72	0.18	0.17	0.08	I3				14
4583	i-72	0.23	0.18	0.08	I3c				
4584	i-72	0.14	0.14	0.09	C3c				
4585	i-71・72	0.22	0.32	0.09	C3c				
4586	i-71	(0.42)	0.26	0.10	I3c	<P110			
4587	i-71	(0.20)	0.18	0.09	C1	<P110			
4588	i-71	0.24	0.22	0.10	C3c	<P138			26
4589	i-72	0.35	(0.24)	0.10	I3	<F79-5005			
4590	i-71	0.42	0.37	0.29	B1b	<P138・2057			
4591	i-71	0.18	0.12	0.04	C3b				26
4592	i-71	(0.42)	(0.28)	0.12	B1c			網(1)	
4593	i-71	(0.30)	(0.22)	0.11	B1b	<P110			
4594	i-71	0.31	(0.23)	0.10	C3b				
4595	i-71	0.18	0.17	0.06	C3b				20
4596	i-70	0.18	0.15	0.08	C3c				
4597	h-70	0.24	0.23	0.05	I3				
4598	h-69	0.34	0.28	0.31	C3b				
4599	a-74	(0.42)	(0.38)	0.10	D1b	<P281			
4600	i-74	(0.46)	(0.41)	0.16	C3b	<P282			
4601	a-57	0.28	0.26	0.12	C3b	>4000			
4602	a-57	0.26	0.22	0.13	C3c				
4603	a-56	0.20	0.15	0.08	C3c				

S P 規模一覽 (62)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		建物No.
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4606	o-57	0.26	0.25	0.14	B1c				78
4607	o-57	0.20	0.19	0.13	B1c				78
4608	n-58	0.12	0.10	0.05	D1b				
4609	n-58	0.20	0.16	0.11	B1b				
4610	n-58	0.16	0.16	0.17	B1b				
4611	n-n-58	0.34	0.24	0.12	I 3	>4641			
4612	n-58	0.23	0.23	0.08	D1b	>4645			
4613	n-59	0.19	0.19	0.18	C3b				
4614	n-59	0.19	0.17	0.06	C3b				
4615	n-59	0.14	0.10	0.06	C3b				
4616	n-59	0.22	0.22	0.16	B1b				
4617	n-59	0.16	0.15	0.06	B1b				
4618	n-59	0.26	0.25	0.12	B1b				
4619	n-59	0.16	0.12	0.09	D1b				
4620	n-59	0.18	0.18	0.08	B1b				
4621	n-59	0.18	0.17	0.04	D1b				
4622	n-59	0.21	0.20	0.09	D1b				
4625	n-59	0.27	0.25	0.09	C3c				
4626	n-59	0.20	0.19	0.04	B1b				
4627	n-59	0.20	0.16	0.07	C3c				
4628	n-59	0.22	0.12	0.13	B1c				
4629	n-59	0.24	0.23	0.16	C3c				
4630	o-59	0.14	0.13	0.19	C3c				
4631	o-59	0.26	0.25	0.11	I 3c				
4632	o-59	0.14	0.16	0.08	C3c				
4633	o-58	0.20	0.19	0.12	C3c				
4634	n-58	0.16	0.15	0.17	C3c				
4635	o-58	0.23	0.20	0.13	C3c				
4636	p-57	0.24	0.23	0.40	C3c	>F5			
4637	p-56	0.12	0.11	5.00	C3c				8
4638	q-56	0.18	0.10	0.26	C3c	<P81			
4639	p-55	0.13	0.12	0.11	B1c		IVc (1)		2
4640	n-54	0.22	0.18	0.16	C3c	<F13			37
4641	n-58	0.22	0.18	0.22	B1c	<4611			
4642	n-59	0.22	0.13	0.06	D1b				
4643	n-59	0.18	0.18	0.04	D1b				
4644	o-59	0.35	(0.28)	0.11	B1c	<817			
4645	n-59	0.19	0.17	9.00	C3c	<4612			
4646	b-i-70-71	0.18	0.18	0.08	I 3c				
4647	j-72	0.42	(0.35)	0.12	B1b		IVc (1)	剥(1)	
4648	j-72	(0.30)	0.25	0.15	D1b	<P129			
4649	j-72	0.28	(0.20)	0.06	D1b	<P129			62
4650	j-72	(0.32)	0.26	0.09	D1b				
4651	k-71-72	0.63	0.55	0.40	J 3				
4652	l-72	0.41	0.36	0.17	J 3				
4653	n-73	0.24	0.21	0.08	C3c				
4654	n-73	0.32	0.30	0.20	C3c				
4655	n-73	(0.70)	(0.58)	0.12	B1b	4392<4655<P201・P202			
4656	n-73	0.33	0.26	0.11	C3b	<P201			
4657	n-73	(0.24)	(0.22)	0.09	B1b	<P201			
4658	n-73	0.36	0.32	0.14	D1b	<P201			
4659	n-73	(0.34)	(0.28)	0.12	D1b	4660<4659・P202			
4660	n-73	0.38	(0.35)	0.10	D1b	<P202・4659			
4661	e-71	0.34	0.31	0.36	C3c				
4662	e-71	0.28	0.26	0.36	C3c		IVc (2)		
4663	e-71	0.24	0.22	0.11	C3c				
4664	f-72	0.28	0.26	0.15	D1b				
4665	f-71	0.22	0.24	0.12	D1b				
4666	f-71	0.20	0.17	0.08	I 3c				
4667	f-70	0.27	0.22	0.10	C3c	<1538			32
4668	e-70	0.26	0.26	0.14	C3c				
4669	f-g-70	0.41	0.39	0.48	B1b				
4670	g-70	0.24	0.19	0.08	C3c				
4671	g-70	0.22	0.21	0.16	D1b				
4672	g-69-70	0.23	0.19	0.15	D1b		IVc (1)		24
4673	f-68	0.48	0.41	0.42	D1b		IVc (3)	剥(3)	24
4674	g-68	0.16	0.14	0.07	C3b				40
4675	g-68	0.18	0.17	0.24	C3b				40
4676	g-h-68	0.20	0.16	0.07	I 3c		IVc (1)		39
4677	g-69	0.18	0.17	0.11	C3c				24
4678	g-69	0.14	0.13	0.04	C3c				24
4679	f-71	0.28	0.28	0.32	I 3c				47
4680	i-j-72	0.54	(0.40)	0.10	C3b	>4394・4395 <4465・4681・4682			

S P 規模一覽 (63)

遺構名	位置	規模			土層	重複関係	出土遺物		遺物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4681	j-72	0.50	(0.32)	0.09	B1b	>4680 <4494・4682・4465			
4682	j-72	(0.24)	(0.18)	0.18	不明	4681<4682<4465			
4683	g-68	0.14	0.12	0.06	不明				
4684	g-68	0.18	0.18	0.20	不明				
4685	g-68	0.14	0.13	0.08	不明				40
4686	g-68	0.12	0.11	0.05	不明				40
4687	g-68	0.15	0.13	0.13	不明				40
4688	g-68	0.18	0.17	0.12	不明				40
4689	g-68	0.13	0.11	0.08	不明				40
4690	g-68	0.14	0.12	0.10	不明				24
4691	g-68	(0.20)	(0.20)	0.05	不明	<P54・P55			
4692	f-68	0.14	0.13	0.07	不明				24
4693	f-68	0.20	(0.17)	0.08	不明	<1417・1418			24
4694	f-68	0.16	0.11	0.19	不明				
4695	f-69	0.22	0.18	0.16	不明				40
4696	f-69	0.17	0.16	0.16	不明				40
4697	f-69	0.25	0.23	0.09	不明				39
4698	f-69	0.18	0.15	0.12	不明				
4699	f-69	0.14	0.12	0.04	不明				39
4700	g-69	0.18	0.14	0.11	不明				39
4701	k-61	0.13	0.12	0.06	L1a				
4702	l-61	0.14	0.10	0.09	C1c				
4703	l-61	0.12	0.08	0.05	B1				
4704	l-62	0.09	0.08	0.03	G1				
4705	m-62	0.22	0.19	0.11	C1a	>P84			
4706	m-61	0.32	0.28	0.21	F1a	<F31	IVc (2)	磁(1)	
4707	m-61	0.17	0.14	0.11	B1a	<F31			
4708	m-61・62	0.16	0.14	0.10	H1a				
4709	m・n-61	0.24	0.19	0.07	C1d				
4710	n-63	0.16	0.14	0.13	F1d	≠F40	IVc (1)		
4711	n-63	0.09	0.08	0.05	F1d	≠F40			
4712	n-63	0.15	0.11	0.13	L1d				
4713	n-63	0.12	0.08	0.05	L1d				
4714	p・q-62	0.28	0.23	0.19	L1a				
4715	m-64	0.15	0.11	0.12	G1				
4716	l-64	0.21	0.19	0.23	G1a 炭混				
4717	l-64	0.24	0.20	0.15	C1c				
4718	l-63	0.20	0.16	0.10	C1c				17
4719	l-63	0.20	0.18	0.07	H1c				
4720	l-61	0.17	0.15	0.10	B1b		IVc (1)		
4751	h-70	0.18	0.15	0.04	不明				
4752	h-70	0.22	0.20	0.06	不明				
4753	i-70	0.14	0.13	0.04	不明				
4754	i-70	0.16	0.15	0.03	不明				
4755	i-70	0.20	0.18	0.04	不明				
4756	l-70	0.09	0.09	0.05	不明				26
4757	h-71	0.20	0.18	0.08	不明				62
4758	j-71	0.38	0.32	0.14	不明			銅(1)	
4759	j-70	0.14	0.13	0.10	不明				63
4760	n-73	0.15	0.15	0.02	不明				23
4761	m-70	0.21	0.19	0.17	不明		IVc (2)		69
4762	m-70	0.16	0.14	0.11	不明				85
4763	m-69	0.23	0.19	0.17	不明				85
4764	m-68	0.25	0.23	0.18	不明				
4765	m-68	0.20	0.18	0.11	不明				
4766	n-69	0.21	0.18	0.13	不明				
4767	n-69	0.16	0.13	0.05	不明				
4768	n-69	0.20	0.18	0.04	不明				
4769	m-67	0.14	0.17	0.06	不明				
4770	k-68	18.00	0.16	0.10	不明				70
4771	j-68	0.20	0.15	0.23	不明				15
4772	i-68	0.34	0.20	0.09	不明				28
4773	i-68	0.22	0.20	0.07	不明				28
4774	k-53	0.21	0.20	0.06	不明				
4775	k-53	0.24	0.20	0.09	不明	<489			25
4777	o-55	0.27	0.25	0.16	不明				8
4778	o-55	0.26	0.25	0.25	不明				
4779	j-53	0.21	0.21	0.09	不明				36
4780	n-56	0.19	0.15	0.14	不明				29
4790	h-70	0.73	0.60	—	不明				
4791	h-70	0.61	0.57	—	不明				
4792	g-71・72	0.52	0.46	—	不明				
4793	k-70	0.85	0.81	—	不明				
4794	j-68	0.48	0.38	—	不明	<2145			

S P 規模一覽 (64)

遺構名	位置	規模			土層	重複關係	出土遺物		建物No
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)			土器	石器	
4795	n-72	0.54	0.44	—	不明				
4796	n-69・70	0.40	0.36	—	不明				
4797	m-69・70	0.31	0.26	—	不明				
4798	o-68	0.60	0.58	—	不明				
4799	o-68	0.35	0.35	—	不明				
4800	n-66	0.44	0.38	—	不明	<3370			
4801	n-68	0.38	0.35	—	不明				
4802	l-66	0.57	0.50	—	不明	<1974・1975			
4803	k-66	0.37	0.31	—	不明				
4804	k-66	0.48	0.33	—	不明				
4805	p-59	0.68	0.61	—	不明				
4806	p-58	0.63	0.60	—	不明	<H12P60			
4807	n-57	0.36	0.33	—	不明				
4808	n-55	1.02	1.01	—	不明	<F15			
4809	l-58	0.60	0.56	—	不明				
4809	l-58	0.60	0.53	—	不明				
4810	k-59	0.49	0.49	—	不明				
4811	n-61	(0.52)	(0.52)	—	不明	<P91			
4812	n-60	0.76	0.62	—	不明				
4813	s-60	0.58	0.49	—	不明	<2505			
4815	p-63	0.60	0.51	—	不明	>3650			
5000	i-j-62	—	—	—	不明	>P39			
5001	f-62	(0.64)	0.50	0.07	不明	>F57			
5002	l-62	0.45	0.35	0.07	不明	>P275			
5003	n-61	0.22	0.20	0.38	不明	>P149			
5004	n-60	0.14	0.14	0.20	C1a				
5005	i-71・72	0.53	(0.50)	0.40	不明	4589<5005<P138<P79			

表6 出土遺物一覧

層位	土器										石器										土製品	土製品	合計															
	I		II		III		IV		V		剥		片		石		器		礫					石		器		小計										
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b				a	b	a	b											
	15	24	6	2	5	11	252	1	197	7506	1	344	9	3	3	3	3	3	3	3				3	3	3	3	3	3									
遺構																																						
住居跡																																						
土坑等																																						
焼土																																						
溝状遺構																																						
柱穴状ピット																																						
小計	67	11	2	6	167	268	1	258	1111	16	11897	81	5	12	5	12	5	12	5	12	3	18	2	5	2411	58	107	59	14	11	124	615	3542	7	4	15450		
包含層																																						
盛土遺構部分	195	11		11	80	62	12	150	19874	1	20396	79		12		15	4																					
LI																																						
南側低湿部																																						
包含層部分	31	20		26	264	122	5	260	68237		68965	294	5	27	9	61	8																					
表層等	4	1									894	1																										
小計	231	38		48	851	212	36	632	92257	1	93806	384	6	41	14	81	13																					
フロアーション											187	1																										
合計	298	49	2	54	1518	480	37	890	103560	2	105890	466	11	54	19	93	13	3	61	15	141	19911	283	551	213	57	76	8	281	3	5854	28113	31	17	134051			

(7)

遺構名	部位	土器													石器											土製品	石製品	合計								
		I				II				III					IV				V				不明						小計							
		a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	c	a	b	a	b	c	a	b	c	不明				小計	不明						
P-96	覆土計														2	9							5						1			7			18	
P-97	覆土計														2	9																		7		18
P-97	覆土1	1															75																			96
P-98	覆土計																75																			97
P-98	覆土1					2									7																					16
P-99	覆土計																15																			26
P-99	覆土1					2									22																					42
P-100	覆土計																63																			78
P-100	坑底計							1							1																					1
P-101	覆土計																64																			79
P-102	覆土計																2																			9
P-103	覆土計																2																			9
P-104	覆土計																14																			14
P-105	覆土計																9																			9
P-106	覆土計																23																			23
P-107	覆土計																13																			16
P-108	覆土計																13																			16
P-109	覆土計																41																			54
P-110	覆土計																9																			18
P-110	覆土1																1																			1
P-110	覆土計																51																			73
P-110	覆土1																18																			21
P-110	覆土計																18																			21
P-110	覆土1																22																			23
P-110	覆土計																5																			6
P-110	覆土1																27																			29
P-110	覆土計																																			1
P-110	覆土1																																			1
P-110	覆土計																10																			11
P-110	覆土1																10																			11
P-110	覆土計																5																			5
P-110	覆土1																5																			5
P-110	覆土計																7																			8
P-110	覆土1																7																			8
P-110	覆土計																																			9
P-110	覆土1																																			9

遺構名	層位	土										器										石										土製品	石製品	合計		
		I		II		III		IV		V		不明		小計		剥		片		石		器		石		薬		石		器					小計	
		b	a	b	a	b	a	b-2	b-4	c				石織	石織ドリル	つばみ付 スクレイパー	石 製 器	石 製 器 完成品	Rフレイク	Uフレイク	石核	剥片	原石	石斧	たまたま石	すり石	砥石	石鑿	石 台 石	皿 加工 の 石	器 の 磨 片					
P-220	覆土															4																				4
	覆土上																3																			3
	計																7																		7	
P-221	覆土															60																			60	
	計															60																			60	
P-222	覆土															1																			1	
	覆土1															6																			6	
	計															7																			7	
P-223	覆土															2																			2	
	覆土1															1																			1	
	計															3																			3	
P-224	覆土															1																			1	
	計															1																			1	
P-225	覆土															1																			1	
	覆土1																																			
	計															1																			1	
P-226	覆土															8																			8	
	計															8																			8	
P-228	覆土1																																			
	計																																			
P-229	覆土															8																			8	
	計															8																			8	
P-230	覆土															5																			5	
	覆土1																																			
	計															5																			5	
P-233	覆土															1																			1	
	計															1																			1	
P-236	覆土															1																			1	
	計															1																			1	
P-237	覆土															7																			7	
	計															7																			7	
P-239	覆土															8																			8	
	計															8																			8	
P-241	覆土															22																			22	
	覆土1															47																		47		
	計															69																		69		
P-242	覆土															31																			31	
	覆土1															5																		5		
	計															36																		36		

遺構名	局位	土器																石器										土製 品	石製 品	合計												
		I II III IV V 不明												剥片				片石				石器				礫石																
		b	a	b	a	b	a	b	a	b-2	b-4	c	小計	石鑑	石給	石給	石給	ドット	付	付	付	付	付	石製	石製	石製	石製				石製	石製	石製	石製								
P-243	覆土											119																											27		146	
	覆土1										47																													9		56
	計										166																													36		202
P-244	覆土										5																												1		6	
	覆土1										8																												1		9	
	計										13																												2		15	
P-245	覆土										4			2																									2		8	
	計										6			2																									2		8	
P-246	覆土										4																												7		15	
	覆土1										4																												13		17	
	計										12																												20		32	
P-247	覆土										115		1																									1		129		
	覆土2										1																											4		5		
	計										116																											17		134		
P-250	覆土										2																													2		
	計										2																													2		
P-252	覆土											1	12																										1		14	
	計										13																											1		14		
P-253	覆土										13		13																									1		14		
	計										13																											1		14		
P-254	覆土																																					1		1		
	計																																					1		1		
P-255	覆土1															14																						5		19		
	計										14					14																						5		19		
P-258	覆土																																					1		1		
	計																																					1		1		
P-259	覆土														1	5																						2		8		
	計										6				1	5																						2		8		
P-260	覆土																																					1		1		
	計																																					1		1		
P-261	覆土															6																						3		9		
	覆土1										4				4																							3		4		
	計										10				10																						3		13			
P-262	覆土1															1																								1		
	計															1																							1			
P-263	覆土															4																						1		5		
	計															4																						1		5		
P-264	覆土																9																					9		9		
	計															9																						9		9		

調査区	層位	土						石						石器						土製品	石製品	合計																											
		I	II	III	IV		V	剥片	片	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器				石器	石器	石器	石器																							
n-53	I 層						4															1																	5										
	IV 層						113					7																										11	124										
	V 層				1		247					22											1															9	282										
	V 層中										7																											6	13										
	V 層下										4																											4	4										
	M 層	20	1					240				2	13																						5	27	290												
	V b 層	4						137				12																										1	14	156									
計	24	1					741				3	65																								26	104	874											
n-54	I 層						593																																9	93	696								
	IV 層						348				2	33																											20	58	408								
	V 層	3					892				2	51																											11	75	973								
	V 層中											61																											6	67	67								
	M 層	57	1				1097				4	113																											19	149	1320								
	V b 層	17	1				253				8	30																											5	35	314								
	計	77	2				3186				4	23	3																										70	477	3771								
n-55	V 層	1					487				2	61																													13	77	568						
	V 層中									1																															6	16	18						
	V 層下										2	10																												5	27	27							
	M 層*																																								20	71	526						
	V b 層	2					32				1	31																													2	9	45						
	VII 層						3																																		1	4							
	計	3					987				4	15	3																												46	201	1188						
n-56	I 層	1					1																																					2	4	4			
	IV 層																																												1	1			
	V 層						21					4																															5	26					
	V 層下																																											1	1	1			
	M 層						5					1																																1	8				
	SEI 層						17																																				1	1	18				
	V b 層						8																																				1	9	9				
計	1					56				1	53																															3	11	67					
o-54	I 層						9																																								9	9	
	IV 層						130																																							17	150		
	V 層	1					462																																					6	50	519			
	M 層	8					655																																								20	117	798
	V b 層	11	1				72																																								8	45	135
	計	20	2				1328																																								34	229	1611

※→旧SE-1層を含む

表14 包含層出土遺物一覽(1)

調査区	層位	土								石器								石器	合計									
		I	II	III	IV		不明	小計	石 楕	石 片	石 器	礫	石				石 製 品			土 製 品	合計							
b	a	b	a	b	a	b-2							b-4	c	V	石楕		石楕	石楕			石楕	石楕	石楕	石楕	石楕	石楕	石楕
e-69	SE2層							1															1				1	
	計							1																				1
e-70	SE1層																											1
	SE2層							2																				2
	計							2																				4
e-71	SE1層			1				16																				2
	SE2層	1						61																				11
	計	1		1				77																				13
e-72	SE2層							15																				4
	V層							1																				2
	V層							16																				2
f-58	V層							6																				2
	M層							6																				2
	計							6																				4
f-59	I層							16																				1
	V層							7																				1
	M層							4																				5
	SE2層	1						27																				9
	計	1						54																				16
f-60	I層							240																				20
	M層							258																				29
	SE2層							104																				15
	計							602																				64
f-61	M層							841																				78
	SE1層							12																				1
	SE2層							112																				6
	計							965																				85
f-62	I層																											5
	M層						2	105																				24
	SE1層							4																				1
	SE2層							1																				6
	計						2	110																				29
f-63	M層																											8
	SE1層							1																				1
	SE2層							1																				1
	計							37																				4
f-68	SE1層							1																				1
	SE2層							1																				1
	計							37																				7
f-69	I層							37																				7
	計							37																				7

調査区	層位	土器												石器												土製品	石製品	合計		
		I				II				III				IV				V				不明								
		a		b		a		b		a		b		a		b		a		b		a		b					c	
		小計	計	小計	計	小計	計	小計	計	小計	計	小計	計	小計	計	小計	計	小計	計	小計	計	小計	計	小計	計					
k-58	I 層																								2	4				
	計																								2	4				
k-60	I 層																								1	54				
	計																								9	54				
k-61	I 層																								1	84				
	SE1層																								26	1				
	SE2層																								1	1				
	計																								26	86				
k-62	I 層																									44	106			
	SE1層																								53	6				
	SE2層																								5	5				
	計																								61	117				
k-63	I 層																									68	351			
	SE1層																								7	3				
	SE2層																								4	3				
	不明計																								75	11				
k-64	I 層																									11	29			
	SE1層																								22	26				
	SE2層																								81	88				
	計																								119	203				
k-65	SE1層																									13	419			
	SE2層																									2	103			
	計																								15	94				
	計																								8	25				
k-66	SE1層																									8	197			
	SE2層																									8	12			
	表探																								1	10				
	計																								17	23				
k-69	I 層																									1	1			
	計																									1	1			
k-70	I 層																										1	1		
	計																										1	1		
k-71	I 層																										1	1		
	SE2層																										1	1		
	計																										4	4		
	計																										1	2		
k-72	SE1層																										1	6		
	SE2層																										15	9		
	計																									16	18			
	計																										41	60		

調査区	層位	土										器										石製品	石製品	合計										
		I		II		III		IV		V		不明		剥片		片		石		器					石		礫		石		器		小計	
		a	b	a	b	a	b	a	b-2	b-4	c	小計	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明				不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
l-66	I 層								1	116																			35			152		
	SE1層								1	291																			15			337		
	SE2層								1	148																			6			171		
	計								3	555																			36			660		
l-67	SE1層								5																							5		
	SE2層								18																							20		
	計								23																							25		
l-68	SE2層								3																							5		
	計								3																							5		
	SE1層								135																							166		
l-69	I 層									135																						166		
	計									135																						166		
	I 層								3																							5		
l-70	I 層								3																							5		
	計								3																							5		
	SE2層								5																							5		
l-71	SE2層								5																							5		
	計								5																							5		
	I 層								100																							121		
l-72	I 層								1	99																						11		
	SE1層								7																							11		
	SE2層								4																							5		
l-73	SE1層								1	110																						137		
	SE2層								1	12																						18		
	計								1	50																						59		
m-57	I 層								19																							24		
	V 層								4																							5		
	計								23																							29		
m-58	I 層								118																							145		
	V 層								20																							23		
	SE2層								4																							4		
m-59	I 層								142																							172		
	V 層								166																							225		
	SE1層								20																							25		
計	SE2層								7																							13		
	計								2																							3		
	計								195																							266		

(13)

調査区	層位	土 器													石 器										土製品	石製品	合計									
		I b	I a	II b	II a	III b	III a	IV			不明	小計	石 器																							
								b-2	b-4	c			石楎	石楎ドリル	つまみ付 モヤシ	スクレイ ハン	断面加工 片	石器 未出品	R7-7 ノコギリ	石核	剥片	原石	石斧	たたまり 石				中石	磁石	石鏡	石 呂 石	加工の おひげ	鏡 片	小計		
o-67	I 層											2	103																	7	20		125			
	SE1層												107																	3	31		138			
	SE2層												51																	9	112		163			
	計											2	261																19	163		426				
o-68	I 層												1																				1			
	SE1層												36																					11		47
	SE2層												4																					4		8
	計												41																					15		56
o-70	I 層			2									65			1																		10		8
	SE1層			2									65			1																		10		8
	SE2層												98																					19	1	8
	計												103																					21	2	121
o-73	I 層												7																							2
	SE1層												5																							2
	SE2層												103																							2
	計												7																							2
o-74	SE2層												7																							2
	計												7																							2
	I 層												16																							2
	計												16																							2
p-57	I 層												71																					8		1
	V 層										1		41																					5		1
	M 層												12																					2		2
	SE1層												56																					11		2
	SE2層												2																							2
	不明																																			3
	計												179																					26		3
	計												121																					18		6
p-58	I 層												121																							5
	V 層												122																					21		8
	V 層下												6																					31		31
	M 層												60																					1		1
	SE1層												14																					13		2
	SE2層												321																					83	1	18
計												324																					1		110	

(15)

調査区	層位	土						器						石						土製品	石製品	合計			
		I	II	III	IV	V	不明	小計	石蝕	石槍ドクリル	つまみ付 スクリュー ドライバー	剥片	石核	剥片	原石	石斧	たたき石	打石	砥石				石錘	石臼	石
		b	a	b	a	b	c																		
p-67	I 層						8																		8
	SE1層						785																		785
	SE2層						247																		247
計							1040																		1040
p-68	I 層						5																		5
	SE1層						99																		99
	SE2層						122																		122
計							226																		226
p-69	I 層						2																		2
	計						2																		2
p-72	SE2層						1																		1
	計						1																		1
q-57	I 層						3																		3
	V 層						22																		22
	M 層						21																		21
	SE2層						46																		46
q-58	I 層						986																		986
	V 層						149																		149
	SE1層						279																		279
	SE2層						34																		34
	VI 層						1																		1
	計						1461																		1461
q-59	I 層						111																		111
	V 層						95																		95
	SE1層						466																		466
	SE2層						97																		97
	VI 層						1																		1
	計						770																		770
q-60	I 層						1831																		1831
	V 層						241																		241
	M 層						51																		51
	SE1層						473																		473
	SE2層						53																		53
	計						2637																		2637
合計	土製品																								1
	石製品																								1
	小計																								1750
	石																								1195
	器																								176
	石																								335
	器																								42
	石																								54
	器																								1195
	石																								176
	器																								335
	石																								42
器																								54	
石																								1750	
器																								120	
石																								120	
器																								112	
石																								575	
器																								155	
石																								1	
器																								963	
石																								2212	
器																								264	
石																								57	
器																								68	
石																								3225	
器																								1	
石																								1	
器																								68	
石																								68	
器																								68	
石																								68	

調査区	層位	土				器		石											石製品	合計																																	
		I	II	III	IV		V	不明	剥			器				礎					石	器	小計																														
					a	b			a	b	a	b	a	b	a	b	a	b						a	b	a	b	a	b																								
																														a	b-4	c	石楨	石楨・ドリル	つまみ付 コブタイプ	スクレイパー	石 器	何面加工	石 器	Rフレイク	Uフレイク	石核	剝片	原石	石斧	たたき石	すり石	砥石	石磨	石臼	加山石 あかぬき	器	磨片
b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b																									
b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b																									
q-61	V層									87																					12					99																	
	M層									352																									356																		
	SE1層		1							513																		4							688																		
	SE2層									73			1																						80																		
	風倒木 計								8																										12																		
	計								1033																										1215																		
q-62	I層									263				1																					373																		
	SE1層									304				1																					374																		
	SE2層	2		1						21																									33																		
	計	2		1						586																									780																		
q-63	I層									150																									204																		
	SE1層							3		75																									94																		
	SE2層									58																									76																		
	計							3		281																									374																		
q-64	I層									224																									280																		
	SE1層							3		70																									100																		
	SE2層									22																									31																		
	不明 計							2		2																									2																		
	計							5		316																									413																		
q-65	SE1層									14																									14																		
	SE2層									38																									38																		
	計									52																									52																		
q-66	I層									2																									2																		
	SE2層									4																									4																		
	計									6																									6																		
q-67	SE2層									1																									1																		
	計									1																									1																		
q-69	I層									53																									54																		
	計									53																									54																		
q-71	I層									2																									2																		
	計									2																									2																		
r-57	I層									44																									64																		
	V層								2	30																									40																		
	M層									13																									14																		
	SE1層									18																									19																		
	SE2層									4																									6																		
	攪乱 計							1		109																									144																		
	計							1		112																									144																		

(17)

調査区	層位	七							器										土製品	石製品	合計																			
		I	II	III	IV		V		不		小計	器					石					礫		原	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石
r-58	I 層						2	650						4	1																									
	V 層						1	150																39												18	62	213		
	M 層							62																6												3	10	73		
	SE1層						3	197																56												9	70	273		
	SE2層							17																8												6	15	33		
	攪乱						1	69															21												21		91			
	計							1145															264												53	340	1497			
r-59	I 層						2	843															117												14	143	991			
	V 層							69															7												3	13	82			
	M 層							14															4												1	5	19			
	SE1層						2	226															34												7	43	277			
	SE2層							37															13												1	16	53			
	計							1189															175												26	220	1422			
r-60	I 層						1	715															64												1	130	850			
	V 層							4																													4			
	SE1層							115															8												2	10	126			
	SE2層							20															3												3	3	24			
		計							854															75												57	143	1004		
r-61	I 層							264															33												27	63	327			
	V 層							658															92												40	141	804			
	SE1層							20															8												1	10	30			
	SE2層							21															4												1	5	26			
		攪乱							1																													1		
	計							964															137												68	219	1188			
r-62	I 層							346															48												60	115	463			
	SE1層							24															4												1	6	31			
	SE2層							2															1												1	1	3			
		計							372															53												61	122	497		
r-63	I 層							468															63												20	91	561			
	SE1層							27															2												1	6	33			
	SE2層							20															3												5	5	26			
		計							515															68												21	102	620		
r-64	I 層							280															35												15	56	339			
	SE1層							8																													8			
	SE2層							23															16												2	19	42			
		表 探							3																													3		
	計							314															51												17	75	392			

調査区	層位	土												石器												石器										石製品	合計
		I			II			III			IV			V			不明			石器	礫			石				石器	小計								
		a		b	a		b	a	b	b-2		b-4	c		V	不明	石器	石器	石器		石器	石器	石器	石器	石器	石器	石器										
		b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b																a	b	a	b	a	b		
s-58	I 層			1	1	1	3	1	7	1334	1						1		100					1			8	114	1	1108							
	V 層			2	2		2		162									25		1				1			10	36		202							
	M 層								7																				7		7						
	SE1層			1	1		2		169							1		15		1							8	25		197							
	SE2層								7									5		1							1	7		14							
	Vb層								1									145		3				1			27	182	1	1529							
	計									1346								1910		11				1			69	431		2341							
s-59	I 層							5	1905							5	2																				
	V 層								167									12		1							6	19		186							
	SE1層								184									39									5	45		231							
	SE2層								17									5		1							2	9		27							
	計								2273									2281		12				1			82	504		2785							
	I 層							4	526								1		99		2							23	133		663						
V 層								2									1		1								1	3		3							
SE1層								5									2		2								2	7		7							
SE2層								3									3		2								1	3		6							
計								4	536								540		3								24	139		679							
s-61	I 層								241								1		50		2							19	69		310						
	SE1層								5									3		3								5	10		10						
	SE2層								1									2		2								1	3		3						
	計								247									247		2								20	77		324						
s-62	I 層							1	182									1		33		2						34	76		259						
	SE1層								2									8		8								8	10		10						
	SE2層								1									5		5								5	5		5						
	計								184									185		2								34	89		274						
s-63	I 層								400									44		3		1						49	102		502						
	SE1層								18									6		6								6	24		24						
	SE2層								38									4		4		1						3	9		47						
	計								456									54		1		3						52	117		573						
	I 層								376									25		1		1						21	49		426						
SE1層								31									3		3								3	34		34							
SE2層								18									4		4		1							6	24		24						
計								425									426		2		1							21	58		484						
t-58	SE1層								1									2		1									2		2						
	計								1									2		1									2		2						

(19)

調査区	層位	土										器										石製品	土製品	合計														
		I	II	III	IV				V	不明	小計	石鏡	石棒	ドリル	つまみ付 ナイフ	スクレイ パー	両面加工 石器	石器 半成品	Rフレイト Uフレイト	石核	石斧				たばこ すり	石底	石錐	石台	石瓦	加工品 ある器	片	器	片	小計				
					a	b	a	b																											a	b	c	a
t-59	I 層							3	1816								3				3	184	2	9					1					22	228			
	V 層							1	158													24											12	37				
	M 層								2																							1	1					
	SE2層								14													2											2	2				
t-60	表採								19													1																
	計								2009													3	211	2	9	1							35	269				
	I 層								2216													8	331	10	4	2						145	510	1	1	2733		
	V 層								7													1																
t-61	SE1層								5																													
	SE2層								34													4											2	13				
	表採								24													4																
	攪乱								24													1																
t-62	計								2310													8	348	12	4	3						148	535	1	1	2853		
	I 層								805													4																
	SE1層								45													1																
	SE2層								22													5																
t-63	計								869													3	122	2	3	1						98	231			1103		
	I 層								337													3	40	2	1	1						24	71			411		
	SE1層								21													8															35	
	SE2層								4													4															9	
t-64	計								362													3	52	2	1	1						26	85			455		
	I 層								586													3	67	1	3							52	130			718		
	SE1層								30													5															35	
	SE2層								38													10		2														50
u-59	計								654													3	82	1	5							52	147			803		
	I 層								382													53	3		1							38	95			477		
	SE1層								51													7															59	
	SE2層								1													1															3	
u-60	計								434													60	4		1							38	105			539		
	I 層								13													5															18	
	計								13													5															18	
	I 層								831													67	2	2	1							31	106			938		
u-61	SE2層								8													1																11
	計								839													68	2	2	1							32	108			949		
	I 層								1466													2	176	2	4	3	2					56	258			1726		
	SE1層								19													9															30	
u-61	SE2層								7																													7
	計								1492													2	185	2	4	3	2					56	269			1763		

表16 フロートテーションによる出土遺物一覧

遺構名	層位	土器											石器											土製品	石製品	合計		
		I b	I a	II b	II a	III b	III a	IV			V 不明	小計	石片					石器					小計					
								a	b	c			石楯	ドリル	つぎみ付 タナイフ	スクレイパー	凹部加工 石器	石器 半成品	Rワーク	Uワーク	石核	剥片					原石	石斧
P-1	覆土3(焼土)									25					65											65		90
P-45	覆土5									2					2												3	5
	計									27					67											68	95	
P-85	坑底焼土														3											3	3	
P-113	焼土														117											117	117	
	焼土														117											117	117	
F-2	焼土														2											2	2	
	焼土									74					201											201	275	
F-4	焼土									74					201											201	275	
F-5	焼土														15											15	15	
F-6	焼土									1					66											66	67	
F-13	焼土									36					66											66	67	
F-15	焼土									36					77											77	113	
F-19	焼土									10					77											77	113	
F-20	焼土									10					114											114	124	
F-22	焼土									10					114											114	124	
F-43	焼土									5					25											25	30	
F-45	焼土									5					25											25	30	
F-65	焼土									1					44											44	46	
SP-1	覆土									1					44											44	46	
4133	覆土									1					7											7	27	
SP-4134	覆土									1					7											7	27	
4135	覆土									1					7											7	27	
4136	覆土									1					1											1	9	
合計	計									187					987											989	1177	

表17 遺構出土掲載土器一覧（1）

図番号	建物	遺構・グッド	遺物No.	位	点数(合計)	分類	同一個体	備考	
V-3-1	2	H-23	25	埴土2	1	1	IIIb-2	H-23(1)	
			12	埴土	1	1			
			11	埴土	1	1			
V-5-1	2	H-25	9	床面直上	1	1	IIIb-2		
			10	床面直上	2	2			
			11	床面直上	2	2			
			12	床面直上	1	1			
			15	床面直上	3	3			
			16	床面直上	2	2			
			O-65	67	SE2	2		2	
			68	SE2	2	15			
V-10-1	1	H-12HP-5	6	埴土1	1	1	IVb-4		
			5	埴土1	1	1			
			1	埴土1	1	1			
			H-12HP-19	1	埴土1	1		1	
			H-12HP-26	2	埴土	1		1	
			H-12HP-27	2	埴土1	1		1	
			H-12HP-32	1	埴土	1		1	
			H-12HP-47	2	埴土1	1		1	
			1	埴土1	1	1		I b	
			H-12HP-58	1	埴土1	1		1	IVb-4
			1	埴土1	1	1		IVc	
V-12-1	2	F-1	13	埴土1	1	1	IVb-4		
			6	埴土	1	1		焼成粘土塊	
V-14-1	3	H-3HP-1	5	埴土2	1	1	I b-4		
			H-3HP-4	1	埴土2	1		1	IVc
V-17-1	5	P-149	572	埴土	1	1	IVc		
			2	埴土	1	1		IVc	
V-20-1	8	F-22	2	埴土	3	3	IVc		
			2	埴土	3	3		IVc	
V-21-1	9	H-14HP-1	3	埴土1	5	5	IVc		
V-22-1	10	H-26HP-1	1	埴土	1	1	IVc	図V22-3 図V22-2	
			4	埴土	1	1			
			1	埴土	2	2			
			P-113	29	埴土2	1			1
			13	埴土1	1	1			
			12	埴土1	1	1			
			9	埴土	1	1			
			15	埴土	1	1			
			8	埴土	1	1			
			8	埴土	2	2			
			2	埴土	1	1			
V-24-17	10	P-156	1	埴土	1	1	IVc	P-156HP-34に統合 図V-17-11に6掲載	
			2	埴土	1	1			
			3	埴土	1	1			
			4	埴土	1	1			
			5	埴土	1	1			
V-26-1	11	P-97	P-77	1	埴土3	1	IVc	図V-22-16 図V-22-15	
			P-90	3	埴土2	2			
			P-182	2	埴土1	15			
			I-62	110	SE2	2			25
			P-34	29	埴土2	1			1
			31	埴土2	1	1			
			31	埴土2	1	1			
			23	埴土5	1	1			
			29	埴土2	1	1			
			25	埴土5	1	1			
			29	埴土2	1	1			
34	埴土3	2	2						
V-28-1	12	P-90	8	埴土1	1	1	IVc	図V-22-16 図V-22-15	
			4	埴土3	1	1			
			2	埴土1	1	1			
			P-93	7	埴土	1			1
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	6	6			
			4	埴土	4	4			
			8	埴土1	1	1			
			4	埴土3	1	1			
V-28-1	12	P-93	2	埴土1	1	1	IVc	図V-22-16 図V-22-15	
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	1	1			
			7	埴土	2	2			
			7	埴土	1	1			
			8	埴土	1	1			
			7	埴土	2	2			
			8	埴土	1	1			
			11	埴土	1	1			

図番号	建物	遺構・グッド	遺物No.	位	点数(合計)	分類	同一個体	備考						
V-28-17	18	P-150	1	埴土	1	1	IVc	図V-39-1-15-20						
			1	埴土	1	1								
			1	埴土	1	1								
			F-30	1	埴土	2			2					
			F-32	1	埴土	1			1					
			F-33	1	埴土	1			1					
			4	埴土	1	1								
			4	埴土	3	3								
			14	P-70	1	埴土			5	5				
			1	埴土	2	2								
			1	埴土	1	1								
			8	埴土	1	1								
			1	埴土	1	1								
			1	埴土	1	1								
			P-108	1	埴土	1			1					
			1	埴土	1	1								
			P-121	3	埴土	1			1					
			8	埴土	1	1								
3	埴土	1	1											
5	埴土	1	1											
V-34-1	15	P-53	1	埴土	1	1	IVc	図V-39-1-15-20						
			1	埴土	1	1								
			1	埴土	1	1								
			1	埴土	1	1								
			1	埴土	1	1								
			P-79	14	埴土1	1			1					
			10	埴土1	1	1								
			14	埴土1	1	1								
			14	埴土1	1	1								
			P-170	6	埴土	1			1					
			P-178	3	埴土	1			1					
			V-35-1	16	P-41	4			埴土	1	1	IVc	図V-39-1-15-20	
						5			埴土	1	1			
			V-39-1	17	H-34	1			埴土	1	1	IVc	図V-39-1-15-20	
						1			埴土	1	1			
						P-73			3	埴土	1			1
						3			埴土	1	1			
						3			埴土	1	1			
						3			埴土	1	1			
						3			埴土	1	1			
3	埴土	1				1								
3	埴土	1				1								
3	埴土	1				1								
3	埴土	1				1								
3	埴土2	1				1								
3	埴土	1				1								
P-114	3	埴土				1	1							
14	埴土1	1	1											
8	埴土	1	1											
5	埴土	1	1											
5	埴土	1	1											
5	埴土	2	2											
5	埴土	1	1											
F-62	87	I	1	1										
V-41-1	18	P-204	7	埴土	1	1	IVb-4	図V-39-1-9-15						
			6	埴土	1	1								
			2	埴土	1	1								
			2	埴土	1	1								
			2	埴土	1	1								
			H-7HP-1	2	埴土	2			2					
			2	埴土	1	1								
			H-7HP-2	3	埴土1	1			1					
			415	3	埴土1	2			2					
			6	埴土	1	1								
			4	埴土	1	1								
			6	埴土	1	1								
6	埴土	1	1											
2	埴土1	3	3											
V-44-1	20	P-69	6	埴土	1	1	IVc	図V-42-4						
			3	埴土	1	1								
			6	埴土	1	1								
			6	埴土	1	1								
			6	埴土	1	1								
			6	埴土	1	1								
			8	埴土	1	1								
			8	埴土	1	1								
V-46-1	21	H-30HP-1	1	埴土	1	1	IVc	図V-42-5						
			P-131	1	埴土	1			1					
			P-282	2	埴土	2			2					
			1	埴土	1	1								
			7	SE1	6	6								
P-112	1	埴土	1	8										

(6)

図番号	建物	遺構・グリッド	遺物No.	位	点数	合計	分類	同一団体	備考
V-203-4		F-72	1	焼土	1	1	IVb-2		
V-204-1		F-76	2	焼土	1	1	IVc		
2			2	焼土	1	1	IVc		
3		F-77	1	焼土	1	1	IVc		
4		F-78	5	焼土	1	1	IVc		
5			5	焼土	1	1	IVc		
6			5	焼土	1	1	IVc		
7			1	焼土	3	3	IVc		
V-206-1		LZ-1	119	焼土	1	1	I b		
2			116	焼土	2	2	I b		
3			12	焼土	1	1	IVc		
4			81	焼土	1	1	IVc		
5			82	焼土	1	1	IVc		
V-216-1			2	焼土	1	1	IVc		
2			3	焼土	1	1	IVc		
3			20	1	1	1	IVb-4		
4			2	焼土	1	1	IVc		
4		23	2	焼土	1	1	IVc		
5			1	焼土	1	1	IVc		
6			47	1	1	1	IVc		
7			70	2	1	1	IVc		
8			88	1	2	2	IVc		
9			113	1	1	1	IVc		
10			130	1	1	1	IVc		
11			168	1	1	1	IVc		
12			187	1	1	1	IVc		
13			234	2	2	2	IVc		
15			283	1	1	1	IVc		
16				1	1	1	IVc		
17			296	1	1	1	IVb-4		
18			349	5	1	1	IVc		
19			388	2	1	1	IVc		
20			392	1	1	1	IVb-4		
21				1	1	1	IVb-4		
22				7	2	3			
23				8	1	1	IVc		
24				8	1	1	IVc		
25			504	1	1	1	IVc		
26			602	2	1	1	IVc		
26			612	3	1	1	IVc		
V-217-3			703	2	1	1	IVc		
6				3	1	1	IVc		
6			853	1	1	1	IVc		
8			873	2	2	2	IVc		
9			903	2	2	2	IVc		
10			958	1	2	1	IVc		
13			981	1	1	1	IVc		
14			984	8	1	1	IVb-4		
17			996	5	1	1	IVc		
18			999	3	1	1	IVc		
19				5	1	1	IVc		
20			1001	1	1	1	IVb-4		
21				2	1	1	IVc		
22				2	1	1	IVc		
V-218-1			1031	5	5	5	IVc		
2			1056	3	16	16	IVc		
3			1056	1	1	1	IVc		
4			1093	1	1	1	IVc		
5			1139	1	1	1	IVc		
6			1193	5	1	1	IVb-4		
7			1223	1	2	2	IVc		
8			1229	2	2	2	IVc		
10			1262	1	1	1	IVc		
11				4	1	1	IVc		
13			1319	1	1	1	IVb-4		
14			1328	2	1	1	IVc		
15				5	1	1	IVc		
16			1378	1	2	2	I b-1		
17			1405	1	1	1	IVc		
18			1406	2	1	1	IVc		
19			1408	2	1	1	IVc		
20			1414	4	1	1	IVc		
21			1556	2	2	2	IVc		
23				3	1	3			
23			1618	3	2	2	IVc		
24			1625	1	1	1	IVb-4		
25				1	2	2	IVc		
26			1634	5	1	1	IVc		
27			1644	1	3	3	IVc		
V-219-3			1655	1	1	1	IVc	1644 (3)	
4				1	1	1	IVc		
5				2	1	1	IVc		
6				1	1	1	IVc		
7			1663	3	1	1	IVc		
8			1703	1	1	1	IVc		
10			1790	1	1	1	IVb-4		
11			1807	3	2	2	IVc		
12			1811	2	1	1	IVb-4		
13				1	1	1	IVc		
14			1839	1	1	1	IVc		
15			1841	1	1	1	IVc		
16			1901	1	1	1	IVc		

図番号	建物	遺構・グリッド	遺物No.	位	点数	合計	分類	同一団体	備考
V-219-17			1906	1	1	1	IVc		
18			1909	2	1	1	IVb-4		
19			1937	2	1	1	IVb-4		
20				1	1	1	IVc		
21			2023	2	1	1	IVc		
23			2072	1	1	1	IVc		
24			2082	2	1	1	IVc		
25			2105	3	2	2	IVb-4		
26			2147	1	1	1	IVb-4		
27			2164	1	3	3	IVb-4		
28				3	2	5			
29				3	2	2	IVc		
V-220-1			2192	1	4	4	IVc		
2			2208	2	1	1	IVc		
4			2212	1	1	1	IVc		
7			2402	1	1	1	IVc		
8			2502	1	1	1	IVc		
9			2625	5	1	1	IVc		
10				2	4	4	IVc		
11			2631	1	2	2	IVc		
15			2737	1	1	1	IVc		
V-221-1			2972	2	2	2	IVc		
4			3204	1	1	1	IVc		
5			3328	1	1	1	IVc		
6			3606	1	1	1	IVc		
7			3648	1	1	1	IVc		
8			3684	1	1	1	IVc		
9			3713	3	1	1	IVc		
10			3750	1	2	2	IVc		
11			3855	2	1	1	IVc		
13			3924	1	1	1	IVc		
14			4071	3	1	1	IVc		
15			4125	2	1	1	IVc		
16				3	1	1	IVc		
17				3	1	1	IVc		
18			4138	1	1	1	IVc		
19			4177	1	1	1	IVc		
20			4177	7	1	1	IVc		
21			4231	1	1	1	IVc		
22			4341	3	1	1	IVc		
23			4347	2	1	1	IVc		
23			4662	1	1	1	IVc		

表18 盛土遺構出土掲載土器一覽(1)

図番号	グリッド	遺物№	位	点数	合計	分類	同一個体	備考
VI-15-1	2	f-51	34	IV	1	IVb-4		
		i-51	67	IV	1			
3		71	IV	1	2	IVb-4		
		80	IV	1				
		84	IV	1				
		90	IV	1				
		95	盛土	1				
		95	盛土	1				
4	k-51	5	IV	1	1	IVc		
5		f-52	15	IV	1	2	IVc	
		k-52	460	Vb	1			
6		48	IV	1	1	IVc		
7	n-54	1214	IV	1	1	IVc		
8	f-52	11	V	1	1	IVb-4		
9		n-54	451	V	1	2	IVb-4	
		1196	Vb	1				
10	n-55	455	V	1	1	IVb-4		
11	f-52	38	V	1	1	IVb-4		
12		n-54	269	V	1	2	IVc	
		1214	IV	1				
13	n-53	47	V	1	1	IVc		
14	n-54	361	V	1	1	IVc		
15		385	V	1	1	IVc		
16		370	V	1	1	IVc		
17		228	V	1	1	IVc		
18		384	V	1	2	IVc	n-54 盛土(2)	
		655	盛土	1				
19	n-55	8	V	3	13	IVc		
		55	V	1				
		56	V	1				
		57	V	1				
		59	V	1				
		60	V	1				
		455	V	4				
		194	盛土	1				
		210	盛土	1				
		846	盛土	1				
		883	Vb	1				
		902	盛土	1				
		n-53	21	V			1	
46	V	1						
98	盛土	1						
99	盛土	1						
136	盛土	1						
n-54	347	V	1					
460	V	1						
463	V	1						
723	盛土	1						
762	盛土	1						
1029	盛土	1						
1131	盛土	1						
1237	盛土	1						
1287	盛土	1						
VI-16-21	P-55	22	V	1	3	IVc		
		270	Vb	2				
22	n-54	319	V	1	1	IVc		
23		388	V	1	1	IVc	VI-18-80 n-54 VI (1) n-54 I (2) n-54 V(1)	
		288	V	1				
24		59	V	1	1	IVc		
25	n-53	2	V	1	27	IVc	n-54 盛土(2)	
		49	V	1				
		90	V	1				
		93	盛土	1				
		94	盛土	1				
		138	盛土	1				
		241	盛土	1				
		n-54	449	V			7	
		717	盛土	12				
		726	盛土	1				
		n-54	373	V			1	
		374	盛土	1				
		695	盛土	1				
		696	盛土	1				
		698	盛土	3				
		701	盛土	2				
997	盛土	1						
q-59	160	SEI	1	11				

図番号	グリッド	遺物№	位	点数	合計	分類	同一個体	備考
VI-17-37	m-54	698	盛土	1	64	IVc	m-55 盛土(2)	
		824	盛土	1				
		285	V	1				
		315	V	1				
		1200	I	1				
		4	V	3				
		110	V	1				
		112	盛土	1				
		314	盛土	16				
		428	盛土	1				
		472	盛土	22				
		698	盛土	1				
		824	盛土	3				
		696	盛土	2				
		825	盛土	2				
		46	盛土	1				
		49	盛土	1				
		678	盛土	1				
		697	盛土	1				
46	盛土	1						
60	V	1						
n-54	963	盛土	1					
o-54	102	V	1					
38	m-53	638	盛土	1	12	IVc	m-54 盛土(5)	
		639	盛土	1				
		638	盛土	1				
		757	盛土	1				
		759	盛土	1				
		760	盛土	1				
		880	Vb	1				
		m-54	423	盛土			2	
		424	盛土	1				
		428	盛土	1				
429	盛土	1						
m-54	785	Vb	1					
39	j-52	21	盛土	1	9	IVc	m-54 I (1)	
		22	盛土	1				
		23	盛土	1				
		24	盛土	6				
		510	盛土	1				
		35	盛土	1				
40	o-55	510	盛土	1	2	I b-1		
		35	盛土	1				
41	q-56	35	盛土	1	1	I b-1		
42	j-52	98	盛土	1	1	I b-4		
43	o-54	349	盛土	1	1	I b-4		
44	n-54	1265	盛土	1	1	I b-4	k-51 (1) j-52 (4) n-53 (17) n-56 (1) k-52 (2) m-53 (2) n-54 (62) p-51 (1) k-53 (2) m-54 (5) n-55 (3)	
45	o-55	598	盛土	2	2	I b-4		
46	j-52	186	盛土	1	1	III b-3		
47	m-54	598	盛土	1	2	III b-2	図VI-20-112	
		631	盛土	1				
48	m-53	831	盛土	1	1	III b-2	m-54 盛土(1)	
49	l-52	56	盛土	1	3	IVb-4		
		256	盛土	1				
50	j-52	270	Vb	1	1			
51	j-52	142	盛土	1	1	IVb-4		
		29	盛土	1				
52	n-55	326	盛土	1	1	IVb-4		
53	n-54	1142	盛土	1	1	IVb-4		
54	j-51	135	盛土	1	1	IVb-4		
55	n-56	30	盛土	1	1	IVb-4		
56	o-55	472	盛土	1	1	IVb-4		
57	m-54	1049	盛土	1	1	IVb-4		
58	n-55	230	盛土	1	1	IVb-4		
		1054	盛土	1				
60		1133	盛土	1	1	IVb-4		
61	k-52	476	盛土	1	1	IVb-4		
62	o-55	579	盛土	1	1	IVc		
63	n-53	207	盛土	1	1	IVb-4		
64	n-55	126	盛土	1	1	IVb-4		
65	o-55	173	盛土	1	1	IVc		
66	o-54	268	盛土	1	1	IVc		
67	k-52	279	盛土	1	6	IVc	k-52 Vb (2) k-52 盛土(3) k-52 IV (4) l-52 盛土(4) l-52 IV (1)	
		489	盛土	1				
		611	Vb	1				
		825	盛土	1				
		l-52	77	IV			1	
		132	Vb	1				
		417	Vb	1				
604	盛土	1						
68	k-52	614	盛土	1	6	IVc	k-52 Vb (5) k-52 盛土(3) k-52 IV (4) l-52 盛土(1) l-52 IV (1)	
		611	Vb	1				
		493	盛土	1				
		l-52	202	盛土			1	
		182	IV	1				
		409	Vb	1				
		599	IV	1				
69	k-52	511	Vb	2	7	IVc	k-52 Vb (5) k-52 盛土(3) k-52 IV (4) l-52 盛土(1) l-52 IV (1)	
		604	盛土	1				
		188	盛土	1				

(2)

図番号	出土時期	層位	分類	細分類	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考
V-191-2	P34	4	硬土1	石斧	緑色泥岩	6.40×2.95×1.20	10.00	
204-8	F33	1		玉	蛇紋岩	1.39×1.30×1.00	1.99	
216-6	12-1	14	硬土	石鏃	黒曜石	(7.90)×1.40×0.45	1.65	
7	13		硬土	石鏃	黒曜石	(1.75)×0.95×0.24	0.30	
216-14	219	2	硬土1	石斧	緑色泥岩	10.30×2.60×1.30	32.00	
217-1	624	3	硬土	石且	砂岩	17.55×11.50×3.10	690.00	
2	640	2	硬土	台石	緑色泥岩	22.00×11.20×6.50	2510.00	
4	680	2	硬土	刀/片	1a 黒曜石	4.40×2.30×1.20	9.40	
5	680	1	硬土1	石鏃	1a-1 黒曜石	2.35×1.70×0.54	1.63	22-2015
7	150	3	硬土	砥石	砂岩	7.15×3.77×0.10	11.20	
11	164	1	硬土	石斧	3? 片岩	10.10×3.00×1.60	19.50	
12	167	1	硬土	石鏃	2a 黒曜石	(1.27)×0.90×0.32	0.32	
15	164	2	硬土1	石鏃	2c 黒曜石	2.95×1.50×0.45	1.20	
16		7	硬土	石鏃	2c 黒曜石	3.00×1.30×0.61	3.70	
217-9	1234	2	硬土	刀/片	1d 黒曜石	5.30×2.20×0.67	6.70	
12	1274	3	硬土1	石鏃	2c 黒曜石	(1.45)×(1.47)×0.39	0.49	
21	1556	1	硬土1	石鏃	2c 黒曜石	2.40×1.47×0.45	1.90	
219-1	1645	4	硬土	ドリル	4 黒曜石	3.40×1.81×0.50	1.70	
2		5	硬土	石斧	3 緑色泥岩	(9.25)×4.10×2.20	140.00	
9	1769	1	硬土	すり石	3 片岩	5.15×5.55×2.23	136.00	
21	2145	1	硬土	石鏃	2a 黒曜石	2.60×1.54×0.24	0.77	
219-3	2112	3	硬土	石鏃	2d 黒曜石	3.00×2.10×0.65	3.44	
5	2489	4	硬土	石台	安山岩	11.34×11.34×0.90	174.00	鉄製
6		5	硬土	石台	片岩?	20.65×16.97×12.56	7400.00	
12	2035	2	硬土	石斧	2 砂岩	10.00×3.90×1.75	90.00	
13	2042	1	硬土	石鏃	2c 黒曜石	3.00×1.50×0.45	1.00	
14	2072	2	硬土	石鏃	2a 頁岩	3.60×2.10×0.40	1.60	
16	3155	1	硬土	石鏃	2a 黒曜石	3.35×1.60×0.52	1.96	
17	3189	1	硬土	石斧	2 緑色泥岩	4.45×3.40×0.90	26.00	
211-2	3228	1		砥石	砂岩	13.00×8.10×3.60	350.00	
3	3234	3		たたき石	2 砂岩	13.70×1.60×2.40	172.00	
16	4066	2	硬土	石鏃	2a 黒曜石	3.20×1.80×0.52	1.60	

表25 南側低湿部出土掲載土器一覧

図番号	出土時期	層位	分類	細分類	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考
VI-41-40	v-63	73	SE1	刀/片	1c 黒曜石	(5.31)×1.90×0.65	7.96	
89	v-64	160	SE1	刀/片	1c 頁岩	7.47×2.94×0.70	15.45	
90	v-64	116	SE1	刀/片	2 黒曜石	5.13×4.97×0.61	12.04	
91	v-64	175	SE1	石斧	3 緑色泥岩	6.49×1.84×0.76	13.26	石のみ
92	v-64	179	SE1	石斧	1 蛇紋岩	9.77×5.99×3.20	270.00	
93	v-64	205	SE1	石斧	4 緑色泥岩	(12.75)×4.40×2.74	350.00	
94	v-63	32	SE1	たたき石	3 片岩	5.10×5.55×4.00	203.20	
95	v-63	74	SE1	砥石	-	(1.50)×(1.40)×2.10	156.23	底面×2

表23 盛土遺構出土掲載石器一覧

図番号	出土時期	層位	分類	細分類	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	
VI-16-25	n-54	31	V	石鏃	2a 黒曜石	2.27×1.44×0.33	0.56		
27	n-53	35	V	石鏃	2c 黒曜石	2.26×1.44×0.56	1.09		
28	n-54	336	V	石鏃	2c 黒曜石	2.15×1.50×0.47	1.41		
29	l-55	19	V	石鏃	2c 黒曜石	2.95×1.33×0.36	1.00		
30	n-54	413	V	石鏃	2c 黒曜石	2.20×1.24×0.42	0.97		
31	n-54	153	V	石鏃	2c 黒曜石	3.62×1.64×0.37	1.66		
32	n-54	24	V	細丸	-	3.42×2.44×1.02	6.90		
33	n-55	63	V	石斧	3 片岩	12.90×3.50×1.10	76.02		
34	n-54	71	V	石斧	4? 緑色泥岩	(7.70)×5.17×2.52	152.41		
19-37	l-54	87	M	石鏃	2a 頁岩	3.10×1.70×0.59	1.81		
98	n-55	313	M	石鏃	2c 黒曜石	1.80×1.10×0.34	0.30		
99	n-53	227	M	石鏃	2c 黒曜石	2.90×1.40×0.50	1.20		
100	n-53	76	M	石鏃	2c 黒曜石	2.30×1.10×0.20	0.50		
101	n-54	360	M	石鏃	2c 黒曜石	2.70×1.60×0.50	1.30		
102	n-55	235	M	ドリル	2 黒曜石	4.57×2.21×0.89	5.30		
103	j-52	409	M	ドリル	2 黒曜石	2.81×2.13×0.63	2.78		
104	n-53	130	M	刀/片	3 黒曜石	2.67×2.11×0.75	5.16		
105	j-55	107	M	細丸	-	3.40×2.89×0.65	3.93		
106	n-54	300	M	石斧	4 緑色泥岩	5.50×3.20×1.20	62.00		
107	j-52	156	M	たたき石	3 片岩	4.55×5.77×4.20	176.90		
108	n-52	10	M	たたき石	3 片岩	5.30×4.53×4.60	189.30		
109	j-55	200	M	石且	-	砂岩	4.42×11.20×1.60	165.44	
20-125	l-52	197	V4	石斧	3 緑色泥岩	(6.40)×3.10×0.90	24.00		

表24 LI-1出土掲載土器一覧

図番号	出土時期	層位	分類	細分類	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	
VI-33-24	LI-1	140	SE1	石鏃	1a-1 黒曜石	2.10×(1.27)×0.25	0.45		
25	LI-1	126	SE1	石鏃	2c 黒曜石	2.20×(1.37)×0.36	0.55		
26	LI-1	36	SE1	石鏃	2c 黒曜石	(2.50)×1.23×0.45	0.80		
27	LI-1	90	SE1	ドリル	2 頁岩	2.95×1.80×0.65	3.55		
28	LI-1	104	SE1	ドリル	2 頁岩	(2.40)×2.22×0.54	2.44	機能部欠損	
29	LI-1	160	SE1	石製品	-	安山岩	3.16×2.45×1.61	0.51	

表26 石斧素材集中

図番号	出土時期	層位	分類	細分類	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考
VI-51-1	j-63	5	SE2	石斧原材	8 緑色泥岩	5.96×1.83×0.84	14.00	
2	j-63	1	SE2	石斧原材	8 緑色泥岩	4.00×3.00×1.42	70.62	
3	j-63	3	SE2	石斧原材	8 緑色泥岩	10.22×2.52×1.90	64.06	
4	j-63	2	SE2	石斧原材	8 緑色泥岩	5.64×2.26×1.45	20.22	
5	j-63	4	SE2	石斧原材	8 緑色泥岩	12.07×2.67×2.23	159.60	
6	j-63	6	SE2	石斧原材	8 緑色泥岩	4.00×4.97×1.57	90.71	
7	j-63	7	SE2	石斧原材	8 緑色泥岩	1.80×4.49×1.74	107.40	

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第152集

千歳市

キウス4遺跡(7)

Q地区

—北海道横断自動車道(千歳～夕張)埋蔵文化財発掘調査報告書—
第1分冊 本文編

平成13年3月30日 発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238

印刷 株式会社キサツ
札幌市中央区南21条西10丁目
TEL 011-531-2111 FAX 011-512-3555
